

科目名	学問へのステップⅠ	
担当者	人間関係学部教員・法学部教員	
科目情報	基礎科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	大学で「学ぶ」ために必要な9つの力（聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く・表現する・伝える・考える）と、漢字検定準2級レベルの漢字運用能力を、身につける。
	到達目標	1. 上記の9つの力とは何かが理解でき、おおよそ運用できるようになる。 2. レポートがワープロで作成できるようになる。 3. 前期末漢字テスト（100点）で、90点以上とれる。 （上記内容のうち、2については「インターネット演習」で具体的に学ぶ。）
授業計画	(1) 履修全般についての指導、学問へのステップⅠ・Ⅱの授業についての説明 (2) スタディ・スキルズとは (3) ノート・テイキング (4) " (5) " (6) リーディングの基本スキル (7) " (8) より深いリーディングのために (9) " (10) 大学図書館における情報収集 (11) " (12) アカデミック・ライティングの基本スキル (13) " (14) " (15) 総まとめ *漢検問題集の宿題の答え合わせも行う（5回）。	
自学自習	事前学習	・テキストを前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業後に課題を出すので、次の時間までに済ませておくこと。
使用教材・参考文献	【教】学習技術研究会編著『知へのステップ（第3版）』2011年 くろしお出版 ISBN：9784874245101 【教】日日本漢字能力検定協会『漢検 10日間のできる練習問題 準2級 改訂版』2012年 ISBN：9784890962501	
成績評価方法と基準	<方法>漢字一斉テスト（30点）、知へのステップ（70点=授業参加貢献度<30点>+宿題<10点>+期末共通レポート<30点>） <基準>上記評価方法により60%以上達成した者を合格とする。	
備考	原則として4回以上欠席すると不合格とする。	

科目名	学問へのステップⅡ	
担当者	人間関係学部教員・法学部教員	
科目情報	基礎科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	大学で「学ぶ」ために必要な9つの力（聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く・表現する・伝える・考える）と、漢字検定準2級レベルの漢字運用能力を、身につける。
	到達目標	1. 上記の9つの力について理解でき、運用できるようになる。 2. わかりやすいレポートがワープロで作成できるようになる。 3. プレゼンテーションができるようになる。 4. 後期末漢字一斉テスト（100点）で、80点以上とれる。 （上記内容のうち2については「インターネット演習」で具体的に学ぶ。）
授業計画	(1) 後期履修指導、効果的なアカデミック・ライティング (2) " (3) 読解・要約→意見を述べる (4) " (5) プレゼンテーションの基本スキル (6) " (7) わかりやすいプレゼンテーションのために (8) " (9) プレゼンテーションのための準備・個別指導 (10) 各学生によるプレゼンテーション (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ * 漢検問題集の宿題の答え合わせも行う（5回）。	
自学自習	事前学習	・テキストを前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業後に課題を出すので、次の時間までに済ませておくこと。
使用教材・参考文献	【教】学習技術研究会編著『知へのステップ（第3版）』2011年 くろしお出版 ISBN：9784874245101 【教】日本漢字能力検定協会 『漢検 10日間のできる練習問題 準2級 改訂版』2012年 ISBN：9784890962501	
成績評価方法と基準	<方法>漢字一斉テスト（30点）、知へのステップ（70点=授業参加貢献度<20点>+宿題<10点>+プレゼンテーション（20点）+期末共通レポート<20点>） <基準>上記評価方法により60%以上達成した者を合格とする。	
備考	原則として4回以上欠席すると不合格とする。	

科目名	インターネット演習(人・法)	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi	
科目情報	基礎科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	大学4年間、卒業後に必要とされるコンピュータの基本操作と、インターネットの利活用について説明する。ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションのためのソフトウェアに関する基礎的事項も扱う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの概念と基本的な操作ができるようになる。 ・電子メールのしくみと基本的な操作ができるようになる。 ・Webブラウザを使った情報検索ができるようになる。 ・ネット上のその他のサービスを利活用できるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義についての紹介、基本の用語と操作 (2) かな漢字変換と文字入力 (3) 書類の保存と読み込み、ファイル管理 (4) WWWとインターネット (5) 情報の検索1 (6) 情報の検索2 (7) ワードプロセッサの基本操作、情報の加工 (8) 電子メールの基本操作 (9) 電子メールの応用操作 (10) 電子メールの活用 (11) 表計算ソフトの基本操作1、情報の蓄積 (12) 表計算ソフトの基本操作2、情報の加工／分析 (13) プレゼンテーションソフトの基本操作、情報の発信 (14) ホームページの作成 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題を必ずやること。
使用教材・参考文献	<p>【教】適宜ハンドアウトを利用すると共に、年度に応じた教科書を提示する。</p> <p>【参】参考文献は適宜紹介する。</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> レポートの作成等に必要となる各種ソフトウェアの基本操作が理解できているかを合否判断の基準とする。</p> <p><方法> 受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。</p>	
備考	<p>編転入の学生、2年生以上は「再(未)履修クラス」で受講すること。</p> <p>教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。</p>	

科目名	インターネット演習 (法)	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	基礎科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	コンピュータリテラシ教育の一環として、大学での教育研究においてコンピュータを活用していくために必要な基礎的な知識や技能を学ぶ。情報の収集・加工や、ワードプロセッサや電子メールを使つてのレポート及びプレゼンテーション資料作成のスキルを習得する。また情報モラルに関するルールや用語について学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Web 検索において効率よく情報を検索し、必要な情報を選別できるようになる。 ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いて、レポートや論文を作成したり、プレゼンテーション資料を作成したりすることができるようになる。 情報モラルに関する用語の意味や、問題に直面したときにどのように行動するべきかについて説明できるようになる。
授業計画	<p>【1】 (1) ガイダンス、強いパスワードとパスワード管理 (2) インターネット、検索エンジンと情報検索(論理式)、情報モラル(1) (3) ファイルの拡張子、ドメイン制約・ファイル形式検索、情報モラル(2) (4) ショートカットキー・プリンタと用紙、情報モラル(3) (5) 電子メールの利用、情報モラル(4)</p> <p>【2】 (6) Wordによるレポート(1)作成と印刷、情報モラル(5) (7) Wordによるレポート(2)図の挿入・校正・レビュー (8) PowerPointによるプレゼン資料(1)作成・コンテンツ挿入・構成 (9) PowerPointによるプレゼン資料(2)共通デザイン・特殊効果 (10) Excelの基本(1)表の作成・参照方式・関数・グラフ・Word連携 (11) Excelの基本(2)シート間参照・書式</p> <p>【3】 (12) プレゼンテーション資料の作成方法 (13) プレゼンテーション資料の作成(1) 資料検索 (14) プレゼンテーション資料の作成(2) (15) 総まとめ</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 「使用教材・参考文献」を必要に応じて読む。 意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 小テストや課題を用いて復習する。 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。
使用教材・参考文献	<p>【教】 富士通エフ・オー・エム株式会社『学生に役立つ Word & Excel & PowerPoint — Microsoft Word 2010 / Microsoft Excel 2010 / Microsoft PowerPoint 2010 対応』(FKT1011)FOM出版, 2010年, ISBN9784893118806 [¥1,890]</p> <p>【教】 大橋真也・森夏節・立田ルミほか『ひと目でわかる最新情報モラル 第2版』日経BP社, 2011年, ISBN97848202295073 [¥500]</p> <p>【教】 別途、授業中に配布するプリント小冊子を使用する。</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉最終試験(60%), 最終課題(40%)の累積で評価する。欠席1回につき5点を減点する。</p> <p>〈基準〉すべての小テスト(満点)とすべての課題の提出を単位取得の条件とする。</p>	
備考	<p>指定されたクラスで受講すること。教科書は2冊とも必要。</p> <p>小テストと最終試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。</p>	

科目名	総合教養講座Ⅰ	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	基礎科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	読替科目：平成23・24年度入学生「総合教養講座」	
科目概要	授業内容	就職試験や公務員採用試験等において求められる一般的な教養を身につけ、広い視野と合理的な思考力を養う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域に係る歴史や政治経済の基礎知識を習得する。 ・日本の歴史について基礎的な流れを理解する。
授業計画	(1) はじめに (2) 世界の諸地域① (3) 世界の諸地域② (4) 世界の諸地域③ (5) 日本の近現代史① (6) 日本の近現代史② (7) 日本の近現代史③ (8) 日本の近現代史④ (9) 現代社会の諸相① (10) 現代社会の諸相② (11) 日本の文化史① (12) 日本の文化史② (13) 日本の文化史③ (14) 日本の文化史④ (15) 鹿児島と日本	
自学自習	事前学習	新聞やニュース番組を毎日みる。
	事後学習	既受講内容について復習する。
使用教材・参考文献	【教】オリジナルテキストを使用する。 【参】随時紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準>世界の諸地域に係る歴史や政治経済について基礎的に理解ができているとともに日本の歴史についての基礎的な流れを理解している。 <方法>授業参加度55点 定期試験45点	
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	総合教養講座Ⅱ	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	基礎科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	平成23年度以降の入学生にのみ遡及適用	
科目概要	授業内容	就職試験や公務員採用試験等において求められる一般的な教養を身につけ、広い視野と合理的な思考力を養う。
	到達目標	日本および世界の政治・経済活動についての基礎的な知識を習得する。
授業計画	(1) はじめに (2) 日本国憲法と基本的人権 (3) 世界の政治 (4) 日本の政治① (5) 日本の政治② (6) 世界の経済① (7) 世界の経済② (8) 日本の経済① (9) 日本の経済② (10) 日本の経済③ (11) 現代社会の諸相① (12) 現代社会の諸相② (13) 日本の経済活動と世界① (14) 日本の経済活動と世界② (15) 日本の経済活動と世界③	
自学自習	事前学習	新聞やニュース番組を毎日みる。
	事後学習	既受講内容について復習する。
使用教材・参考文献	【教】 オリジナルテキストを使用する。 【参】 随時紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 日本および世界の政治・経済活動についての基礎的な知識を習得している。 <方法> 授業参加度55点 定期試験45点	
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	哲学	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	哲学入門の講義である。世界や自分について、哲学的な問いを投げかけ、その答えに向かって思索をめぐらせる。
	到達目標	哲学的なテキストを丁寧に読む力を身につける。 テキストや講義を通じて、自ら考える力を身につける。 哲学的な問いとそれに対する答えを自分の言葉で表現できる。
授業計画	(1) 意識・実在・他者① (2) 意識・実在・他者② (3) 記憶と過去① (4) 記憶と過去② (5) 時の流れ① (6) 時の流れ② (7) 私的体験 (8) 経験と知① (9) 経験と知② (10) 規範の生成 (11) 意味のありか① (12) 意味のありか② (13) 行為と意志 (14) 自由 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・数回毎に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】野矢茂樹 『哲学の謎』 講談社 1995 (ISBN4-06-149286-1) 【参】永井均 『翔太と猫のインサイトの夏休み』 ナカニシヤ出版 1995 (ISBN4-88848-289-6) 【参】永井均 『マンガは哲学する』 現代岩波文庫2009 (ISBN978-4-00-603183-1)	
成績評価方法と基準	<基準>課題について、少なくとも自分の言葉で自分の考えを書かなければ不合格です。 <方法>読書レポート20点、期末試験80点。	
備考	・読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	現代の倫理	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	現代の倫理問題はさまざまであるが、本講義ではとくに「生命倫理」の問題に焦点を当てて検討する。最初にアメリカで「バイオエシックス」と呼ばれる学問が成立した事情とその思想的意義を解説し、その後で、具体的な諸問題を取り扱う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命倫理学」という学問分野について理解する。 ・現代における生命倫理の諸問題を認識する。 ・その諸問題について、自分の考えを表明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「生命倫理学」とは？ (2) 生命倫理学（バイオエシックス）の成立 (3) 生命倫理学の基本原則 (4) 尊厳死（1） (5) 尊厳死（2） (6) 安楽死 (7) 安楽死 (8) 人工妊娠中絶 (9) 生殖補助医療技術の利用（1） (10) 生殖補助医療技術の利用（2） (11) 出生前診断（1） (12) 出生前診断（2） (13) 脳死と臓器移植 (14) 脳死と臓器移植 (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配付資料やビデオ教材に対する感想文等の提出を求められることがある。
使用教材・参考文献	<p>【教】 玉井真理子・大谷いづみ編『はじめて出会う生命倫理』有斐閣（ISBN978-4-641-12420-2）</p> <p>【参】 中山愈編『現代の思想的課題』弘文堂（ISBN4-335-15041-5） 今井道夫『生命倫理学』産業図書（ISBN4-7828-0206-4）</p>	
成績評価方法と基準	基本的に期末テストによる。	
備考	定期試験日までに読書レポートを提出していない学生は、試験を受けることができない。	

科目名	東洋思想	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	儒家思想についての講義。孔子、孟子、荀子を探り上げ、儒家の基本的特徴と、三者の差異及びその原因について講じる。
	到達目標	儒家思想の基本的特徴を理解する。 思想を体系的に把握する方法を学ぶ。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 封建制の構造と弱点 (3) 孔子の生涯と思想 (4) 孟子の生涯とその時代 (5) 政治観：「仁政」 (6) 法家思想と商君の改革 (7) 尚古の歴史観：「一治一乱」 (8) 性善説とその目的 (9) 荀子の生涯とその時代 (10) 性悪説とその目的 (11) 秦に対する評価と社会への視線 (12) 「天人之分」の内実 (13) 三才（天・地・人）の関係とそれを統べるもの (14) 漢代の儒家：儒家一尊の実態 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】赤塚忠編『思想史』中国文化叢書 3 大修館書店 1967 年 【参】赤塚忠編『思想概論』中国文化叢書 2 大修館書店 1968 年 【参】近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987 年	
成績評価方法と基準	<基準>儒家思想の基本的特徴と、孔子、孟子、荀子の思想の差異及びその原因を理解できていれば合格とする。 <方法>筆記試験 60% 出席態度 40%	
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	日本の歴史	
担当者	糸尾 達哉 / TORAO, Tatsuya	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	古代～近世の日本について、高校までの「日本史」では取り上げないいくつかのテーマを、学説・史料・資料を紹介しながら、考えていきます。高校の「日本史」未修者でも受講可です。
	到達目標	日本の国家の成立に関心をもち、前近代の罪刑・性愛・習俗についての観念と現代との関係を説明できること。さまざまな史料・資料に親しみ、歴史学的な思考ができるようになること。
授業計画	(1) 騎馬民族征服説Ⅰ (2) 騎馬民族征服説Ⅱ (3) 継体・欽明朝の内乱Ⅰ (4) 継体・欽明朝の内乱Ⅱ (5) 古代の罪と罰Ⅰ (6) 古代の罪と罰Ⅱ (7) 古代の罪と罰Ⅲ (8) 中世の悪口 (9) 中世の絵巻物を読むⅠ (10) 中世の絵巻物を読むⅡ (11) 中世の絵巻物を読むⅢ (12) 近世における主君押込 (13) 古代・中世・近世の古文書を読むⅠ (14) 古代・中世・近世の古文書を読むⅡ (15) 古代・中世・近世の古文書を読むⅢ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・受講後、毎回内容等を整理する。 ・質問等はいつでも受け付ける。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】参考書は講義中に必要に応じて知らせる。	
成績評価方法と基準	<基準>講義の内容が理解された場合を合格とする。 <方法>受講態度30%、試験70%	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	アジアの歴史	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	唐代後半の政治史。唐帝国の崩壊の過程を、制度と出来事との相互関係として解説する。
	到達目標	唐代後半の政治史を理解する。 中国の君主政治の基本的な仕組みを把握する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国史の基礎知識 (2) 玄宗期の節度使と傭兵 (3) 安史の乱の経過 (4) 安史の乱の遺産 (5) 国家財政 ー塩税と羨余 (6) 白居易 ーある士大夫の官歴 (7) 軍人 1 ー節度使 (8) 軍人 2 ー傭兵 (9) 宦官 1 (10) 宦官 2 (11) 徳宗と建中の変 (12) 憲宗の功績と限界 (13) 大運河 ー帝国の生命線 (14) 三大反乱と自壊する帝国 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に取り上げた事件がどのような「仕組みと繋がり」に依っているかを再確認すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	<基準>授業で採り上げた主要な史実を「仕組みとつながり」の観点で説明できれば合格とする。 <方法>筆記試験 60% 出席態度 40%	
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	中国の文化	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	中国文化は日本文化に大きな影響を与えてきた。伝統的な慣習や祭りには、特に中国文化の影響が残っている。本講義では、陰陽五行思想と易経の概略を学び、中国と日本の暦や年中行事・風俗の実態とその裏に潜む歴史的由来を理解する。
	到達目標	(1) 十干と十二支を書き六十干支の読み方の由来を説明できる (2) 陰陽思想と五行思想の概略を説明できるようになる。 (3) 伝統的易占いを理解し、実際に占筮してみる。 (4) 正月の行事、端午の節句、風水などの由来と実態を知る。
授業計画	(1) オリエンテーション：授業の進め方についての説明。教材配布 (2) 殷代の暦 十干と十二支 さつま暦の構成 (3) 陰陽五行思想と陰陽家 (4) 易経の思想 太極と陰陽二元，八卦・六十四卦 (5) 八卦・十干・十二支とその象徴・時刻・方角など (6) 易経の構成 経(本文)と伝(注釈) 卦の構造 記憶してほしい術語 (7) 易占いの仕方 本筮法についての解説 (8) 同上 (9) 中国の年中行事 正月 日本の初詣と恵方参り (10) 同上 爆竹と門飾り 節分の由来 (11) 同上 (12) 楚の屈原と端午の節句 粽(ちまき)と竜船競漕 (13) 風水とその歴史 (14) 同上 (15) 同上 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義中に感じた疑問点について調べる。 ・十干や十二支・八卦等の用語については記憶すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを使用する。	
成績評価方法と基準	授業中の小テスト：50点 レポート：50点 欠席1回につき3点減点。 ただし、出席が全授業回数の3分の2に達しないと失格になります。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	ヨーロッパの歴史	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	近代において国際社会の規範を形成したヨーロッパの近現代史を概観する。
	到達目標	近代において世界の諸地域に大きな影響を与えたヨーロッパの近現代史を理解することで、現代社会について歴史的背景を踏まえたうえで自分なりに考えることができるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「文明国」とは？—近代ヨーロッパと日本 (2) ヨーロッパとは何か？ (3) 近代世界システムの出現と奴隷貿易 (4) 環大西洋革命 (1) —産業革命 (5) 環大西洋革命 (2) —アメリカ合衆国の誕生とフランス革命 (6) 国民国家とは何か？ (7) 諸帝国の動揺—オーストリア帝国とオスマン帝国 (8) 帝国主義の時代 (9) 「西洋の没落」？—第一次世界大戦 (10) ロシア革命とソ連の誕生 (11) 危機の二十年—戦間期のヨーロッパ (12) 第二次世界大戦とヨーロッパの分断 (13) 脱植民地化とヨーロッパ (14) ヨーロッパ統合への道 (15) 現代のヨーロッパの課題—多文化化と移民 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に配布したプリントを見直して、しっかり復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを使用する。</p> <p>【参】授業中にその都度紹介する。</p>	
成績評価方法と基準	試験を実施する。ヨーロッパの近現代史に関する基本的な事項が理解できているかを評価基準とする。試験60%、受講態度40%とし、受講態度には時折実施する小テストの結果を勘案する。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	ことばの科学	
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	私たちは日々「ことば」を使って生活している。にもかかわらず、「ことば」について説明することは難しい。「ことば」を研究するとはどういうことだろうか。ある時は、「ことば」の歴史をさぐり、ある時は、「ことば」の持つ本質（音声・意味・文法）を求め、またある時は、「ことば」と社会との関係を考えながら、「ことば」について学ぶことをめざす。
	到達目標	1. 「ことば」とは何か、「日本語」とは何かを考えることができる。 2. 日本語の特徴、日本語表現の特徴について理解している。 3. 「ことば」に関する様々な問題に気付くことができ、その問題について考えをまとめることができる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 日本語の音声の仕組み (3) 日本語の表記の成り立ち① (4) 日本語の表記の成り立ち② (5) 漢字の移入 (6) 日本語の語彙① (7) 日本語の語彙② (8) 日本語の語彙③ (9) 日本語の文法の不思議① (10) 日本語の文法の不思議② (11) 日本語の文法の不思議③ (12) 日本語と方言 (13) 日本語と社会関係① (14) 日本語と社会関係② (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】金田一春彦『日本語』〈上〉〈下〉岩波新書、1988年、ISBN 4004300029 【参】大野晋『日本語練習帳』岩波新書、1999年、ISBN 4004305969	
成績評価方法と基準	<基準>日本語の特徴、日本語表現の特徴について理解できており、また、「ことば」に関する様々な問題に気付き、その問題について考えをまとめることができているならば、合格とする。 <方法>テスト70%、受講態度30%	
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	日本の文学	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	日本近代文学史における名作を鑑賞する。作家の略歴を解説し、実際に作品を読む。
	到達目標	近代文学の代表作品を知り、実際に読むことで文学的教養を身につける。
授業計画	(1) ガイダンス 読書の意味を考える (2) 「文学」のジャンルとスタイル (3) 樋口一葉の生涯 (4) 樋口一葉「たけくらべ」を読む (5) 夏目漱石の生涯 (6) 夏目漱石「坊っちゃん」を読む (7) 芥川龍之介の生涯 (8) 芥川龍之介の「羅生門」他を読む (9) 島崎藤村の生涯（自然主義について） (10) 島崎藤村「千曲川のスケッチ」を読む (11) 志賀直哉の生涯（白樺派について） (12) 志賀直哉「清兵衛と瓢箪」他を読む (13) 太宰治の生涯（無頼派について） (14) 太宰治「富嶽百景」を読む (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・ 指定された作品は文庫本で事前に用意すること。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	各授業終了時にコメントを記入し、提出。
使用教材・参考文献	【教】 指定された文庫本。その他、プリントを配布する。 【参】 授業中に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	〈基準〉 文学に対する理解、関心が深められれば合格とする。 〈方法〉 学期末レポート60%、受講態度30%、授業終了時のコメント10% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	異文化コミュニケーション	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	グローバル化に伴い国内外において文化背景の異なる人たちとの対面コミュニケーションが増えてきている。日本人が異文化の人たちとコミュニケーションをするとき遭遇しやすい問題点を、日本人のコミュニケーション行動の特殊性から概説する。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化コミュニケーションを構成する項目が理解できるようになる。 2. 文化差により生じる言語・非言語コミュニケーションの違いが理解できるようになる。 3. コミュニケーションの失敗の積み重ねにより生じるカルチャー・ショックの諸相が理解できるようになる。 4. 上記1～3について外国人にインタビューしその実態が分析できるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 国内・海外における日本人の異文化コミュニケーションの現状と問題点 (2) 異文化コミュニケーションの背景 (3) 同上 (4) 異文化コミュニケーションの領域 (5) 同上 (6) 文化とコミュニケーション (7) 同上 (8) 非言語コミュニケーション (9) 同上 (10) 言語と文化的認識 (11) 同上 (12) カルチャー・ショック (13) 同上 (14) 異文化コミュニケーション実体験 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」の該当章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を確実に理解するために、再度「使用教材」や「配付資料」を読み返すこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション』1997年 丸善ライブラリー</p> <p>【参】 西田ひろ子編『異文化間コミュニケーション入門』2000年 創元社</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法> 読書レポート (15点) 毎回課すコメント (1点×15回=15点)</p> <p>前期末レポート (70点)</p> <p><基準> 上記評価方法によりいずれをも60%以上達成した者を合格とする。</p>	
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	隼人学	
担当者	◎岩橋 恵子 / 近藤 諭 / 小山 正俊 / 永里 紘二	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	現地研修は、スクールバス・ツアーになります。	
科目概要	授業内容	隼人地域において守られ育まれてきた自然・社会・文化を、多角的かつ実践的な視点で知識を得るとともに考察します。今年度は、嘉例川・牧園・福山・垂水地区の地域産業に焦点をあてます（尚、ここでいう隼人地域とは、平和で豊かな文化を育んでいた「隼人」と呼ばれる人々が暮らしていた南九州全体をさす広い意味で用います）。
	到達目標	身近な地域遺産を学ぶことで、地域そのもののもつ豊かさに気づくことができるようになる。 地域と産業の結びつきを理解できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 隼人学を学ぶにあたって (2) 地域や風土に根付いた食と農 (3) 農的生活から考える生活文化様式 (4) 合鴨農法は革命的農法 (5) 観光とまちづくり (6) 新しい観光の動向と可能性 (7) 現地研修（嘉例川・牧園） (8) 地域の恵みが持つポテンシャル（福山）1 (9) 地域の恵みが持つポテンシャル（福山）2 (10) 地域の恵みが持つポテンシャル（福山）3 (11) 親から子へ継承する起業 (12) 桜島の水が創り出す起業 (13) 地域産業～未来へ向かって～ (14) 現地研修（福山・垂水） (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	<p>【教】志學館大学生涯学習センター『農的生活のすすめ』南方新社、2007年 同 『地域が創る産業・産業が創る地域』（予定）南方新社2013年</p> <p>【参】志學館大学生涯学習センター・隼人町教育委員会編『隼人学―地域遺産を未来につなぐ―』南方新社、2004年</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準>地域のもつ多様な豊かさと可能性を活かして創り出す産業のあり方への視座を獲得し表現できる。</p> <p><方法>授業中に課す小レポート40点、期末試験 60点</p>	
備考	<p>受講人数を50名に制限する。</p> <p>教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味する。詳細は、初回の授業で説明する。</p>	

科目名	韓国 の 言語と文化	
担当者	有松しづよ / ARIMATSU, Shizuyo 入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	◎本授業は6泊7日の韓国文化研修旅行を含みます。	
科目概要	授業内容	(1) 韓国ソウルおよび釜山の視察旅行 (2) 韓国の伝統文化体験 (3) 韓国の大学生との交流
	到達目標	(1) 簡単な韓国語でコミュニケーションができるようになる。 (2) 韓国の歴史・文化・言語に対する理解を深める。 (3) 韓国の大学生と交流することにより、積極的に他国の人々と関わろうとする姿勢を身につける。
授業計画	<p>(1) 事前指導 日時：平成25年7月～8月に3回実施 内容：韓国での生活に必要な会話練習、韓国の歴史・文化・習慣</p> <p>(2) 文化研修旅行 日時：平成25年8月22日～28日（6泊7日）予定 場所：韓国ソウル市・釜山市 内容：ソウル・釜山の視察、韓国の伝統文化体験、韓国の大学生との交流</p> <p>(3) 発表・レポート 帰国後、研修を通して得た成果を、パワーポイントで発表し、レポートにまとめて提出する。</p>	
自学自習	事前学習	・ソウルおよび釜山の観光地等について調べる。
	事後学習	・帰国後、研修の成果を発表、報告する。
使用教材・参考文献	<p>【教】 使用しない。配布するプリントを使用する。</p> <p>【参】 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年</p> <p>【参】 CASIO電子辞書（7600シリーズ）</p>	
成績評価方法と基準	事前指導での積極性(10点)、文化研修での積極性(60点)、発表・レポート(30点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。	
備考	<p>(1) 参加費用は約7～8万円程度になる予定（新幹線、高速船、KTX、宿泊費、海外旅行保険、伝統文化体験費用、入場料、現地での交通費等）</p> <p>(2) 韓国語が全くできない学生も参加できます。</p> <p>(3) 出発前の事前指導には必ず参加すること。</p> <p>(4) 教員が指示する『読書』課題の遂行を成績評価に加味する。</p> <p>(5) 旅行経路：鹿児島→博多→釜山(2泊)→ソウル(4泊)→釜山→博多→鹿児島</p> <p>(6) 詳細は有松研究室(1334号)または入佐研究室(1306号)まで。</p>	

科目名	実践日本語講座	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	教養科目 1 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
科目概要	授業内容	さまざまな文表表現について学習したうえで、卒業論文や就職時に求められる文章表現の基礎を習得する。
	到達目標	多様な文章表現のなかから目的に応じた表現方法を選択し、文章やプレゼンテーションにて発表する。
授業計画	(1) オリエンテーション（授業の概要と進め方、成績評価について） (2) 現代日本語の歴史および話し言葉と書き言葉について (3) エントリーシートにおける文章表現 (4) 新聞を読んで自分の考えを文章で表現する。 (5) (3)で作成した文章の講評 (6) 映像を観て自分の考えを文章で表現する。 (7) (5)で作成した文章の講評 (8) 口頭発表の方法 - ① (9) 口頭発表の方法 - ② (10) 社会の諸現象について問題の所在と解決方法を考え、小論文にまとめる。 (11) (10)をプレゼンテーションとして構成する。 (12) プレゼンテーションによる発表 - ① (13) プレゼンテーションの講評 - ① (14) プレゼンテーションによる発表 - ② (15) プレゼンテーションの講評 - ②	
自学自習	事前学習	授業前日の新聞を読んでおく。
	事後学習	既受講内容について復讐する
使用教材・参考文献	【教】 授業時にプリントを配布する。 【参】 随時紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 多様な文章表現の存在を自覚し、目的に応じた的確に使い分けられることができる。 <方法> 授業参加度 55点 定期試験45点	
備考	履修者が定員（30名）を超えた場合は、抽選により履修者を決定する。 毎授業時に課題提出を求める。	

科目名	現代の社会	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	私たちが生きている現代社会は、どのように形成され、どんな到達点にあり、どんな課題を抱えているのだろうか。授業では、このことを現代日本における労働・貧困・福祉国家・新自由主義・生活等と若者の関連という切り口で考える。知っているようで知らない現代社会の仕組みがわかる科目である。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 近代から現代への社会の転換について、基礎的な知識を持つ。 「労働と生活」に現れた日本社会の特徴について理解できる。 大学教育を受ける者としての常識的教養である現代社会のキーワードについて、基本的理解と説明ができる。 数値データの表を読み取り、その背後にある社会事象を推測し、それを論理的な文章に表現できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 授業の進め方とイントロダクションー現代社会の特徴を捉える 労働ー雇用の多様化と劣化 貧困ー雇用と社会保障の劣化による格差の固定化 生活ー「豊かさ」の広がり一方で諸「難民」の発生 家族ー「標準的家族」から「多様な家族」へ 男性の労働・女性の労働ー「平等」感の浸透と「実態」のギャップ 「大人になる基準」の変化と「現代社会で大人になるとは」 前半のまとめ 資本主義ー現代社会の基本的構造として 福祉国家ー資本主義のもとでの福祉・生活重視の政治の行方 新自由主義ー市場原理主義と規制緩和の行方 後半のまとめ グローバリゼーションー多国籍企業と国内経済の利害不一致が拡大する メディアの読み方・メディアとの付き合い方 総まとめ 	
自学自習	事前学習	授業までに、テキストの該当章を読んでおき、出てきた意味の分からない用語は、辞書等で調べておくこと。
	事後学習	毎回、新聞の「労働」「社会保障」に関連する記事に目を通しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 中西新太郎・蓑輪明子編『キーワードで読む現代日本社会』旬報社, 2012年 (1365円)。ISBN 9784845112609	
成績評価方法と基準	<p><方法> 定期筆記試験75%、①新聞記事提出課題10%、②読書レポート課題15%。 <基準> 科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。</p>	
備考	<p>次の2課題の遂行を求める。 ①雇用・社会保障関連の新聞記事を切り抜き、毎回コメントをつけて提出する。 ②定期筆記試験日までに読書レポートを提出していること（作成要領等は授業で指示する）。</p>	

科目名	現代社会の病理	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	教養科目 2 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	現代社会は変化の中で様々な問題があらわれている。講義では、そのような「社会の病」を扱う視点と、表面的な現象の背後にある社会・文化構造的な原因に目を向けることで、出来事の裏側を探ることのできるような思考を鍛えることを目指します。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・何が「病理現象」とされるかについての相対的な視点が身につく。 ・報道などで扱われる出来事の裏側の社会的な背景に目を向けて考えることができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会病理という用語の意味するところ (2) 構成的視点で作られる「社会病理」 (3) 社会病理学における諸理論 (1) コントロール理論、分化的学習理論 (4) 社会病理学における諸理論 (2) ソーシャル・ボンド理論 (5) 社会病理学における諸理論 (3) ラベリング論 (6) 犯罪統計の見方 (1) (7) 犯罪統計の見方 (2) (8) 犯罪統計の見方 (3) (9) 「青少年問題」としての社会病理現象 (10) 社会問題構築論の立場から考える「有害マンガ」問題 (11) 現代社会の世帯構造の変化に見る諸問題 1 (12) 現代社会の世帯構造の変化に見る諸問題 2 (13) 現代社会における自殺の背景 (14) ホームレス増加の背景 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布される資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	Moodleでの課題を遂行することが復習になります。
使用教材・参考文献	<p>【教】特に指定しない。講義中で配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。</p> <p>【参】 鮎川潤 『少年犯罪』 平凡社新書 2001年 ISBN4-582-85080-4</p> <p>【参】 矢島・丸・山本編 『よくわかる犯罪社会学入門』 学陽書房 2004年 ISBN4-313-34008-4</p>	
成績評価方法と基準	授業で扱った「病理現象」の背景についての理解度を評価基準とし、筆記試験70%講義中で指定する文章読解課題10%、Moodle上で課題提出20%の割合で評価を決定します。	
備考	読書レポート（文章読解課題）の内容を成績評価の対象とする。	

科目名	日本国憲法	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 憲法の概念及び意義 ② 日本国憲法の制定過程における問題点 ③ 日本国憲法の主な内容（主要な憲法判例の解説を含む）
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 憲法（constitution）の意味について理解する ② 日本国憲法の制定過程について理解する ③ 日本国憲法の主な内容について知識を深める（特に主要な憲法判例を知る）
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) この講義の概要説明 (2) 規範と事実 (3) 「憲法」（constitution）とはなにか (4) 立憲主義と法の支配 (5) 西洋における近代的憲法の成立 (6) 近代的憲法の日本における受容（大日本帝国憲法の意義） (7) 日本国憲法の制定過程 (8) マッカーサー草案 (9) 統治機構総論 (10) 国会・内閣・裁判所 (11) 国民の基本権総論 (12) 自由権的基本権 (13) 社会権的基本権 (14) 日本国憲法に関する重要な判例 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や配布したプリントを前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします。詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	<p>【教】三好・鈴木・長谷川『テキストブック憲法』（嵯峨野書院、2012年）</p> <p>【参】講義時間中に紹介・説明する。</p>	
成績評価方法と基準	<p>試験、講義時間中に行う小テスト、提出物等を総合的に勘案して評価する。大卒程度公務員試験の教養試験レベルの内容理解に達しているかどうかを評価の基準とする。評価方法及び評価基準の詳細は、講義において説明する。</p>	
備考	<p>小学校から高等学校までに習得した憲法に関する基礎知識を前提に講義を行うので、受講者は復習しておくこと。</p> <p>教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。</p>	

科目名	現代社会と法	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	法律の基本的事項を講義します。
	到達目標	法律の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 刑法の基礎1 (2) 刑法の基礎2 (3) 刑事訴訟法の基礎1 (4) 刑事訴訟法の基礎2 (5) 不法行為法の基礎1 (6) 不法行為法の基礎2 (7) 契約法の基礎1 (8) 契約法の基礎2 (9) 民事訴訟法の基礎 (10) 家族法の基礎1 (11) 家族法の基礎2 (12) 統治機構の基礎1 (13) 統治機構の基礎2 (14) 基本的人権の基礎1 (15) 基本的人権の基礎2	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト及び期末試験の準備のために復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫『はじめての法律学（第3版）』有斐閣 2010年 ISBN 4641124256	
成績評価方法と基準	<基準>法律の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>小テスト（8点×5回）＋読書レポート（10点）＋期末試験（50点）で評価します。	
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とします。	

科目名	現代社会と政治	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	日本の政治と一口に言っても、政治家と官僚の関係、内閣と与党の関係、衆議院と参議院の関係、無党派層の出現と投票行動の変化など、さまざまな論点があります。講義では、日本の政治に関するこれまでの研究を参照しつつ、日本の政治をめぐる問題点を考えていきます。社会科学をはじめて学ぶ学生にも理解できるよう、できるだけ分かりやすい講義を心がけます。
	到達目標	よくテレビなどで「もっと分かりやすい政治をしてほしい」と言う人を見かけます。しかし米国のリンドブロムは著書で、民主制では政治家の数が多く、この複雑性は特定の支配者に責任を負わせることを困難にすると指摘しています。彼によれば、民主的な社会では政治はそもそも分かりにくいものようです。現代の政治は複雑であることを理解した上で、粘り強く考えていけるようになるのが、講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 政策による選挙は可能か?① (3) 政策による選挙は可能か?② (4) 政党と無党派層 (5) 日本の選挙制度① (6) 日本の選挙制度② (7) 政党の理論① (8) 政党の理論② (9) 日本の政党① (10) 日本の政党② (11) マスコミと政治① (12) マスコミと政治② (13) 小さな政府、大きな政府① (14) 小さな政府、大きな政府② (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	講義中に指示する課題図書を読んでください。
使用教材・参考文献	【教】堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年 【参】北山俊哉、真淵勝、久米郁男『はじめて出会う政治学』有斐閣、2003年 伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め』有斐閣、1996年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めていません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。なお、本講義は、共通教育科目における「読書の必修化」の対象科目です。講義の受講に加え、課題図書の読了が単位取得の条件になります。詳細については、講義中に適宜指示いたします。	

科目名	現代社会と経済	
担当者	永里 紘二 / NAGASATO, Koji	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	現代経済社会が抱えている諸問題を経済学的視点から分析します。
	到達目標	日本経済新聞の記事を理解し、次にどんなことが起きるのか予測できる力を養います。
授業計画	<p>I 日本経済と世界経済</p> <p>(1) 為替の話</p> <p>(2) 経済と為替の話</p> <p>(3) EU危機と連鎖の話</p> <p>II 日本経済の話</p> <p>(4) 景気の話</p> <p>(5) 物価の話</p> <p>(6) 商売と貿易の話</p> <p>III 経済と企業の話</p> <p>(7) 株と株式の話</p> <p>(8) 企業の海外展開の話</p> <p>(9) 中間テスト</p> <p>IV 経済と国の話</p> <p>(10) 景気対策の話</p> <p>(11) 政府の仕事の話</p> <p>(12) 国の借金と税金の話経済の未来</p> <p>V 経済と投資の話</p> <p>(13) 投資の話</p> <p>(14) 日本の選挙制度</p> <p>(15) 株式投資の話</p>	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】小暮太一 『やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社	
成績評価方法と基準	読書レポート20点 中間試験20点期末試験60点とします。	
備考	「教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。」	

科目名	現代の世界と歴史	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	現代世界を形作ってきた第二次世界大戦後から現在までの世界史を概観する。
	到達目標	現代世界で起こっている出来事の歴史的背景について大まかに説明できるようになる。
授業計画	(1) 20世紀とはどんな時代だったかー「短い20世紀」 (2) 冷戦への序章ー第二次世界大戦 (3) パクス・アメリカナの時代ー戦後国際秩序構想と核兵器 (4) ヨーロッパ分断とドイツ問題 (5) パレスチナ問題の起源ーアラブ世界とイスラエル (6) 東アジアの冷戦 (1) ー中華人民共和国と台湾問題 (7) 東アジアの冷戦 (2) ー朝鮮戦争の衝撃 (8) アジアの脱植民地化と第三世界 (9) スターリン批判と平和共存路線 (10) キューバ危機とベルリンの壁 (11) 植民地支配が残したものー「アフリカの年」とその後 (12) 「地すべり」ーベトナム戦争から新冷戦へ (13) ヨーロッパ統合への道 (14) 「歴史の終わり？」ー冷戦の終結 (15) 地域紛争と「文明の衝突？」ー冷戦後の世界	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業中に紹介された参考文献を読むこと。時折小テストを実施するので、授業ごとに重要事項の復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを使用する。 【参】田中明彦・中西寛編『新国際政治経済の基礎知識』有斐閣 2004年 ISBN 4641183023、ほか、授業中に適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	試験を実施する。現代史に関する基本的な事項と現代社会への影響を理解できているかを評価基準とする。試験60%、受講態度40%とし、受講態度には時折実施する小テストの結果を勘案する。	
備考	教員が指定する期日までに読書レポートを提出していない学生は試験を受けることができない。詳細は初回授業で説明する。	

科目名	国際社会と人権	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	教養科目 2 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	21世紀の国際社会が緊密になればなるほど、国際社会の法である国際法の重要性は増大するでしょう。国際法の重要性に少しでも気付いて下さい。
	到達目標	現代においては、国内社会の他に国際社会も存在することが理解できる。国際問題の理解が容易になる。
授業計画	(1) 国際法の基礎知識 (2) 国連憲章 (3) 植民地人民の自決権 (4) 国民の自決権 (5) 植民地独立としてのナミビア問題 (6) 植民地独立としての東チモール問題 (7) 植民地独立としての西パプア問題 (8) 植民地分裂としての太平洋諸島問題 (9) 国民による政府変更としての南アフリカ問題 (10) 国家合併としてのザンジバル・タンガニーカ問題 (11) 分離独立としてのビアフラ問題 (12) 自決権の主体 (13) 自決権と自衛権 (14) 自決権の歴史的役割 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 中野進『国際法上の自決権[増訂新版](普及版)』信山社 2006年 443407735X	
成績評価方法と基準	<方法>テスト (80%)、レポートなど (20%) <基準>出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	生涯教育	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	「学ぶ」ということの意味を考えながら、生涯教育・生涯学習の内容・方法・環境・問題について解説する。そして、生涯教育・生涯学習の観点から、これまでにはどのような状態だったか、これからの人生をどう歩むのか、自分自身を見つめ直していく。
	到達目標	①生涯教育・生涯学習に関する基礎知識を身に付ける。 ②豊かな人生とはどのようなものか、大学生はどのような時期か、社会を逞しく生き抜くにはどのような力が必要か等、生涯における人間形成と自己について考える習慣をつける。
授業計画	(1) 学ぶということ (2) 生涯学習の概念と生涯教育の捉え方 (3) 生涯の各時期における学習課題 (4) 生涯設計と大学生活 (5) おとなの学びと学習方法 (6) 学習成果の評価と活用 (7) 生涯学習社会における学校・家庭・職場・地域 (8) 社会教育・生涯学習政策の歴史的展開 (9) 生涯学習の施設 (10) 生涯学習の団体と人的支援 (11) 生涯学習の現代的課題 (12) 生涯学習論と学習権 (13) 世界の生涯学習 (14) 生涯学習のネットワーク (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・参考文献と毎回のレジュメをもとに、生涯学習社会において自分はどのように過ごしていくのか考察しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリントを配布する。 【参】関口礼子他著『新しい時代の生涯学習』有斐閣 2002年 堀薫夫・三輪健二編著『生涯学習と自己実現』放送大学教育振興会 2006年 ほか、適宜、紹介します。	
成績評価方法と基準	毎時、積極的にコメントを記入して、自分で考え実践する姿勢を示し、定期試験で基礎知識の習得を確認できた場合に合格とする。(出席態度45%、コメント15%、テスト40%)	
備考	将来の進路選択の際には、自己を分析して内面を高めようとする習慣がないと苦勞するが、あれば円滑に進む。そこで、その足がかりとするために、どの時間も有効に使って、真剣に前向きに自分と向き合ってほしい。 『読書』課題は、それを踏まえた問題を筆記テストの一部に出題する。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	開発教育	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	地球社会における支配・従属関係や不公平や叫ばれて久しい。本授業では、なぜこのような問題（一般に「南北問題」といわれる）が起こるのか、それは私たちの生活とどのように関わりがあるのか、問題を解決するために私たちに何ができるのかを考える。
	到達目標	世界の南北問題の現状とその原因を理解する。 私たちの生活と地球上の問題とのつながりを理解する。
授業計画	(1) 南北格差と貧困問題 (2) 貧しさとは何か、豊かさとは何か (3) バナナはなぜ安いか (1) (4) 同 (2) (5) 公正な貿易「フェアトレード」 (6) なぜ世界には多くの子どもが働いているのか (1) (7) 同 (2) (8) 原子力発電問題をグローバルに見てみると (9) 世界のエネルギー開発 (10) 開発とは何かー経済開発から持続可能な開発へー (11) 国際開発援助ーODA (12) 青年海外協力隊 (13) 国際開発「援助」から、「協力」「共同」へーNGO (14) 開発教育の歴史と意義 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】適宜、プリントを配布する。また視聴覚教材も多く用いる。 【参】田中治彦『開発教育』学文社、2008年 開発教育協会年報『開発教育』他、授業中に紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 南北格差の現状とその原因を理解しまとめることができる。 問題解決のための自分なりの見解を表現することができる。 <方法> 授業中に課す小レポート20点、読書レポート20点、最終試験60点	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味する。詳細は、授業の中で説明する。	

科目名	高齢者と社会	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	教養科目 2 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	教養科目「受講生参加科目」	
科目概要	授業内容	「受講生参加科目」であり、グループワークを行う。 ①高齢者人口の絶対的な多さが政治・経済・社会・文化に及ぼすインパクトを押さえる。②高齢社会に「老いる」ことの高齢者にとっての意味や、「誰でもその生き方を模索し、老いや死を迎える」ことを考える。③真の豊かさ、生き甲斐、優しさとは何かを自らの問題として考え、社会人として高齢者を理解し、その社会に寄与することのできる態度を考える。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者問題を通して日本社会の構造を理解できる。 ・日本の「高齢社会から超高齢社会へ」の状況について、大学生らしい説明ができる。 ・高齢者問題が学生にも身近な問題であることの説明ができる。 ・グループワークによる調査研究・討議・アクション・発表のおもしろさ・有効性を感じ取れること。
授業計画	(1) イントロダクション—急増する高齢人口・急速に進む人口高齢化 (2) 何が高齢社会化を可能にしたか—高齢社会への道のりとその背景 (3) 高齢社会は豊かな社会か？ 貧しい社会か？ (4) 高齢社会の文化的特徴 —「若さと生の賛美」から「生」の意味を問い直す文化へ (5) 「高齢者」とはどのような人か—「老化」とは・「老い」とは (6) 「私」の行方—認知症高齢者のこころ (7) 社会構造と高齢者 —拡大する健康・経済・社会関係の格差、女性問題としての高齢者問題 (8) 高齢者の生活状況—居住形態・家族関係・経済状況・就労状況等 (9) 高齢者の消費文化の諸相 (10) 女性問題としての高齢者の格差と貧困 (11) グループワークによる高齢者問題の調査研究と発表 (12) // (13) // (14) 高齢者問題の「当事者組織」の活動が社会を動かす (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	毎回、新聞・TVでの高齢者関連のニュースに目を通しておくこと。
	事後学習	毎回、授業冒頭に前回授業の復習小クイズを行うので、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【参】大井玄『「痴呆老人」は何を見ているか』新潮新書, 2008年。 結城康博『介護—現場からの検証』岩波新書, 2008年。 河島修『高齢者の現代史』明石書店, 2001年	
成績評価方法と基準	<方法> 定期筆記試験75%、①新聞記事切抜提出課題10%、②授業中のグループワーク遂行課題15%。 <基準> 科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。	
備考	次の3課題の遂行を求める。 ①高齢者に関連する新聞記事を、毎回コメントをつけて提出する。 ②受講生参加科目として、全員が小班に別れてグループワークを行う。 ③定期筆記試験日までに読書レポートを提出していること（提出を試験受験の条件とする）。	

科目名	障害者と福祉	
担当者	佐々木 美智子 / SASAKI, Michiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	国連の「障害者権利条約」批准に向けて、「障害者基本法」「障害者総合支援法」について「障害者差別禁止法」も審議されている今日、障がいのある人々と共同して権利を保障する福祉のあり方を、各領域とライフ・ステージを通して総合的に学ぶ。
	到達目標	学習者は、障がいのある人々の尊厳と権利がうちたてられてきた歴史と現状、それがすべての人々の権利保障と深く関連していることを毎回のテーマごとに理解し、各自の問題意識を深めてレポートにまとめる。
授業計画	(1) 「障害」「障害児」「障害者」とは？ (2) この子らを世の光に一発達保障の水源 (3) 障がいのある人々はどう生きてきたか？—「重症心身障害児」 (4) 障がいのある人々はどう生きてきたか？—「精神障害者」 (5) 乳幼児期の発達保障 (6) 学齢期の発達保障 (7) 青年・成人期の「自立」と生活・労働の保障 (8) 東日本大震災と障がいのある人々 (9) 国連「障害者権利条約」 (10) 「障害者自立支援法」 (11) 改正「障害者基本法」 (12) 「障害者総合支援法」 (13) 当事者から学ぶ (14) グループワーク (15) まとめと終講レポート提出	
自学自習	事前学習	・テキストは各自前もって目を通しておくこと。 ・読み合わせの分担者は準備しておくこと。
	事後学習	・毎回提供する補足資料を読了し、参考文献にあたること。 ・返却した感想文は見直しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】前半「糸賀一雄の最後の講義」 後半「資料集 完全参加をめざして」 【参】田中昌人「障害のある人々と創る人間教育」大月書店	
成績評価方法と基準	平常点を重視し、終講レポートと合わせて総合評価する。授業態度（20点）、提出物（30点）、終講レポート（50点）。	
備考	*使用教材の読み合わせや要約発表、新聞記事学習等、読書力向上をめざす。 *毎回ビデオを視聴し、受講感想文を提出していただく。感想文は後で返却する。 *双方向の積極的な授業参加を期待する。	

科目名	新聞で読み解く現代	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	就職活動では新聞記事について問われることが多々ある。そこでは単なる知識が問われているのではなく、社会の出来事について、どのように考え、どのように表現するかが問われている。先ず、活字媒体の新聞を楽しく読み、記事内容を理解する。時事用語の解説や、現役の新聞社員による講義も交える
	到達目標	新聞記事を通して地域社会の出来事に興味を持てる。 新聞記事に出ている基本的な用語を理解できる。 新聞記事の内容を自分で調べて概要を記述し、第三者に説明できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション 講義の進め方 (2) 新聞の構成 <u>南日本新聞社</u> (3) 新聞を楽しく読む <u>南日本新聞社</u> (4) 記事を要約する (5) 発表 (6) <u>南日本新聞社員の講話</u> ～事件は現場で起こっている (7) 新聞記事から描かれる現在の社会制度 <u>南日本新聞社</u> (8) 自分でテーマを探して要約する (9) 発表 (10) <u>南日本新聞社員の講話</u> ～現場から社会を見る (11) 地域経済と住民との関わり <u>南日本新聞社</u> (12) 記事を要約する (13) 発表 (14) プレゼンテーション (15) プレゼンテーション	
自学自習	事前学習	・新聞を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	「南日本新聞」を主として教材とする。適宜全国紙（日経新聞等）も取り上げる。	
成績評価方法と基準	<基準>新聞記事から題材を選択して、第三者に説明できるものを合格とする <方法>レポートの内容80%、受講態度20%	
備考	就職活動に適した内容なので3年生も履修して欲しい。 読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	数学の世界	
担当者	近藤 正男 / KONDO, Masao	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	線形代数学は連立一次方程式の解法に代表されるように、社会の諸分野における数理的考察の基礎をなすものである。本講義では線形代数学の理論とその応用について講ずる。
	到達目標	「ベクトル」、「行列」、「行列式」の扱いに習熟し、その応用として連立一次方程式の解法を学ぶとともに、その中から線形代数学の理論的基礎を学び取ることを目標とする。
授業計画	(1) 多元量としてのベクトルと行列 (2) 多元量としてのベクトルと行列 (3) 多元量としてのベクトルと行列 (4) 行列と一次変換・座標変換 (5) 行列と一次変換・座標変換 (6) 連立一次方程式と行列式 (7) 連立一次方程式と行列式 (8) 連立一次方程式と行列 (9) 連立一次方程式と行列 (10) 連立一次方程式と行列 (11) 行列の標準化と固有値 (12) 行列の標準化と固有値 (13) 行列の標準化と固有値 (14) 線形計画法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「教科書」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・2または3回おきに、レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 矢野健太郎・田代嘉宏「社会科学者のための基礎数学（改訂版）」 裳華房，1993年 ISBN 4-7853-1081-2	
成績評価方法と基準	＜方法＞小テスト・レポート（40点） 期末試験（60点）	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	確率と統計の基礎	
担当者	近藤 正男 / KONDO, Masao	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	自然現象や社会現象の実態を解明するために、観察・実験・調査が行われる。その結果得られる資料を統計的に処理する必要に迫られる場合が少なくない。また、社会が複雑さの度を増し、人間の自然認識が深まるにつれて、自分達をとりまく膨大な情報・資料を分析し、合理的な判断をするためにも事物を統計的に観る目が要求されるであろう。統計学はそのための理論と応用を研究する学問である。本講はその初歩的解説を行うものである。
	到達目標	基本的なデータ処理ができるようになる。 分布の基本的な特性値の意味を理解する。 確率に関する基本的な概念や法則を理解する。 確率変数と基本的な確率分布を理解する。 統計モデルと統計的推定・検定の概念を理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) データの整理（母集団と標本，データの種類・尺度・形式） (2) データの整理（分布の特性値（代表値， 散布度）） (3) データの整理（分布の特性値（形状）， 標準化） (4) データの整理（相関係数， 回帰直線） (5) 確率（確率の定義， 条件付確率） (6) 確率変数と確率分布（確率変数， 確率分布） (7) 確率変数と確率分布（離散型確率変数の分布） (8) 確率変数と確率分布（連続型確率変数の分布） (9) 母集団と標本（標本平均の分布） (10) 母集団と標本（正規母集団から導かれる標本分布） (11) 統計的推定・検定（点推定， 区間推定， 検定） (12) 統計的推定・検定（比率の推定・検定） (13) 統計的推定・検定（平均， 分散の推定・検定） (14) 統計的推定・検定（適合度の検定， 独立性の検定） (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	・「教科書」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】 稲垣宣生・山根芳知・吉田光雄著「統計学入門」 裳華房， 1992年 ISBN 4-7853-1075-8	
成績評価方法と基準	＜方法＞小テスト・レポート（40点） 期末試験（60点）	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	科学史	
担当者	八田 明夫 / HATTA, Akio	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員科目 / 選択	
科目概要	授業内容	物質の本質についての物質観，物体の運動やエネルギーについての運動観、生命の歴史についての生命観，地球環境の変遷や宇宙の進化についての地球・宇宙観に関する科学の歴史を学ぶ。
	到達目標	物質観，運動観，生命観，地球・宇宙観に関して，自分なりの説明ができるようになること。
授業計画	(1) 物質を人はどう捉えてきたか(1)古代のバビロニア・エジプト (2) 物質を人はどう捉えてきたか(2)ギリシア・アテナイ・ローマ (3) 物質を人はどう捉えてきたか(3)錬金術から化学革命へ (4) 運動を人はどう捉えてきたか(1)運動と変化の区別 (5) 運動を人はどう捉えてきたか(2)インペトウス (6) 運動を人はどう捉えてきたか(3)ニュートン力学・相対性理論・量子論 (7) 生物・進化を人はどう捉えてきたか(1)アリストテレスの生命観 (8) 生物・進化を人はどう捉えてきたか(2)血液循環学説、生体の構造と機能 (9) 生物・進化を人はどう捉えてきたか(3)細胞説、発生学、個体発生の研究 (10) 生物・進化を人はどう捉えてきたか(4)種の進化、現代生物学 (11) 宇宙を人はどう捉えてきたか(1)コペルニクス以前の宇宙体系 (12) 宇宙を人はどう捉えてきたか(2)現在の宇宙観 (13) 地球を人はどう捉えてきたか(1)丸い地球は早くから知られていた (14) 地球を人はどう捉えてきたか(2)地球の形から内部構造まで (15) 地球を人はどう捉えてきたか(3)ガリレオの黒点観察から現代まで、太陽活動の変動の把握・太陽活動の変動、宇宙線量の変動と気候変動の関係	
自学自習	事前学習	「科学の歴史に関する文献」を読んでおくこと。
	事後学習	新しく学んだ事項に関して、他の文献等ではどのように記述されているか学習すること。
使用教材・参考文献	【参】メイスン「科学の歴史」(上・下)、 アイザック・アシモフ「科学と発見の年表」など。	
成績評価方法と基準	出席態度、小テストと試験で評価する。 3分の2以上の出席をすること。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	人間と進化	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	人間の社会、文化の様々な面に実はヒトの生物学的特徴が反映されている。本講義ではヒトの進化について見ながら人間（現代人）に共通する生物学的特徴について考察する。また、講義を通して進歩的なイメージでとらえられがちな「進化」現象の本来の意味についても知ってもらいたい。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間（現代人）の生物学的側面の特徴について知る。 ・「進化」のメカニズムについて理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「進化」の意味 (2) ヒトとは (3) 霊長類の多様性① (4) 霊長類の多様性② (5) 霊長類の多様性③ (6) 進化の理論、進化の過程で起こってきたこと (7) 霊長類の進化 (8) ヒト化（ホミニゼーション）の理論 (9) ヒトの進化 (10) 脳の進化について (11) 現代人の変異の進化的背景 (12) 心理・行動の進化的背景① (13) 心理・行動の進化的背景② (14) 現代人のライフサイクルからみた人間性の本質 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること ・何回かおきに復習用の課題を課す
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は使用しない。授業中資料を配付する。</p> <p>【参】A. Zihlman 著 木村邦彦監訳『カラースケッチ ヒトの進化』廣川書店 1987年 長谷川寿一・長谷川真理子『進化と人間行動』東京大学出版会 2000年 馬場悠男編『別冊日経サイエンス 人間性の進化』日経サイエンス社 2005年</p>	
成績評価方法と基準	上記到達目標に関わる期末テストにおいて60点以上とった者を合格とする。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、授業中に説明する。	

科目名	生物の多様性	
担当者	横峯 孝昭 / YOKOMINE, Takaaki	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員科目 / 選択	
科目概要	授業内容	地球上に生命が誕生してから三十数億年。進化しながら現在200万以上に種分化している。あらゆる生物種。それによって成り立っている生態系さらに生物が過去から未来へと伝える遺伝子として今わせた概念としての生物多様性を理解していきたい。
	到達目標	生物の多様性を分類学的・生物地理学のおよび生態学的に学習することにより、種が千差万別でありながらも相互依存関係にあることを理解できるようになる。
授業計画	(1) 鹿児島特有の生物について（絶滅という概念から） (2) 種と生物① (3) 種と生物② (4) 種と生物③ (5) 生物と無生物の違い (6) 生物の特徴を決めるもの① (7) 生物の特徴を決めるもの② (8) 生物の特徴を決めるもの③ (9) 生物の分類① (10) 生物の分類② (11) 生物の分類③ (12) 生物と生物の相互作用① (13) 生物と生物の相互作用② (14) 生物と非生物の関係 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	中学校までに学んだ理科の内容（生物）について一般教養としての知識を見直すこと。
	事後学習	ノート＝教科書となるので、前回のノートを1回は見直すこと。ノートの書き方等自ら考えること。
使用教材・参考文献	【参】伊藤嘉昭著「生態学と社会」1994年 東海大学出版会 ISBN9784486012726 【参】栗太子郎著「多様性生物学入門」1997年 東海大学出版会 ISBN9784486014027	
成績評価方法と基準	<基準>暗記ではなく、そのしくみや関係が理解できたものは合格とする。 <方法>終了試験により評価する。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味する。詳細は、講義中に説明する。	

科目名	脳科学	
担当者	山口 勝機 / YAMAGUCHI, Katsunori	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	脳の構造、情報伝達の仕組み、大脳皮質、記憶と本能などについて学ぶ。
	到達目標	脳の構造を知ることにより、情報の伝わり方、大脳皮質にある働きまた記憶や本能などの働きが大脳のどこの部位と関係しているかについて理解を深める。
授業計画	(1) 脳とは何か (2) 脳のエネルギー源 (3) 脳は細胞でできている (4) 神経細胞と臨界期 (5) 大脳皮質の働き (6) 交叉支配の原則 (7) 左半球の働き (8) 右半球の働き (9) 意欲と前頭連合野 (10) 大脳辺縁系の働き (11) 海馬と記憶 (12) ワーキングメモリー (13) 扁桃核と感情 (14) 視床下部と本能行動 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容に関連する図書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】福永篤志 『脳のしくみ』 2008年 ナツメ社	
成績評価方法と基準	筆記試験により判定する。大脳の基本的な働きが理解できたものは合格とする。	
備考	定期試験日までに読書レポートを提出していない学生は、試験を受けることができない。	

科目名	こころの世界	
担当者	石井 利文 / ISHII, Toshifumi	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	こころとは何か、心理学とは何かをわかりやすい身近な日常生活に沿って学び、こころの世界を探訪する。心理学においては人間のみならず動物もその対象とするが、本講義では主として人間のこころについて考える。
	到達目標	1. こころについての基礎的な知識が得られる。 2. 心理学に関する基礎的な知識が得られる。
授業計画	(1) こころの世界を探る (2) こころとからだの発達 ① (3) こころとからだの発達 ② (4) 私らしさの形成 ① (5) 私らしさの形成 ② (6) こころをとらえる ① (7) こころをとらえる ② (8) 人をかりたてるもの ① (9) 人をかりたてるもの ② (10) 学ぶことのしくみ ① (11) 学ぶことのしくみ ② (12) 学ぶことのしくみ ③ (13) わかることと考えること (14) 人と人との結びつき (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】山崎 晃・浜崎隆司(編著)『新・はじめて学ぶこころの世界』北大路書房 2006年 ISBN 4-7628-2528-X	
成績評価方法と基準	〈基準〉こころについての基礎的な知識を得たものを合格とする。 〈方法〉受講態度(30点)と期末レポート(70点)で評価する。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行が成績評価を受けるための前提となる。詳細は初回の授業で説明する。	

科目名	こころの健康	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	現代（今）という時代ほど、「こころとは」「こころが傷つくとは」といった問いについて、向かい合い考えていくことが求められている時代はないと思います。本講義では、人との関わりの中で傷ついたり癒されていく「こころ」の「しくみ」や「やりくり（マネージメント）」について、ワーク（体験）を取り入れながら理解を深めていきます。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「こころ」について、主に臨床心理学的観点から、その「しくみ」や「ストレス」について学ぶ。 ・ 「こころ」と「身体」の関連について学ぶ。 ・ ストレスについてライフサイクルとの関連から学ぶ。 ・ 心理テストを用いて、自分の「こころ」眺める体験をする。 ・ ストレスマネージメントを体験的に学ぶ。
授業計画	(1) 「こころ」というものの存在について体験的学習 (2) 臨床心理学的観点から「こころ」の構造や機能について学ぶ (3) 意識－前意識－無意識，コンプレックスについての学習 ① (4) 意識－前意識－無意識，コンプレックスについての学習 ② (5) 「こころ」と「身体」との関連について学習 ① 抑圧 (6) 「こころ」と「身体」との関連について学習 ② ヒステリー (7) 「こころ」と「身体」との関連について学習 ③ 心身症 (8) 現代社会とストレス (9) ライフサイクルとストレス (10) 大学生というライフサイクルの時期とそれ以降の発達課題 (11) ストレスマネージメントのための自分理解 ① タイプA (12) ストレスマネージメントのための自分理解 ② エゴグラム (13) 自律訓練法の体験的学習 (14) 「うつ」「心的外傷」についての対処方法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。
使用教材 参考文献	【教】 特定の教科書は使用せず、随時参考資料を配布する。 【参】 北山修『心の消化と排出』創元社 1999	
成績評価方法 と基準	<基準> 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。「こころ」の健康に関して、講義の到達目標の5項目の理解修得が達成されたものを合格とする。 <方法> 受講態度（40%）総括レポート（60%）	
備考		

科目名	環境と法	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	現代社会において早急な解決を求められている問題の一つが環境問題である。本講義では、環境問題に対して法的側面からのアプローチを行い、その理解を進める。DVD等の機器を適宜使用する予定である。
	到達目標	本講義を通じて環境問題と法との関係を指摘できる。
授業計画	(1) 環境と法を学ぶためのオリエンテーション (2) 近代市民社会 (3) 環境権 (4) 新しい人権 (5) 人類の繁栄 (6) 繁栄の限界 (7) 化石燃料の消費 (8) 食糧問題 (9) 経済成長の限界 (10) 資源枯渇 (11) 大気汚染 (12) 熱帯林の消失 (13) 京都議定書 (14) 国連気候変動枠組み条約 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】竹下賢『第3版・入門法学』晃洋書房 2009年	
成績評価方法と基準	<基準>環境問題と法との関係が理解できたものは合格とする。 <方法>受講態度(30%)、レポート(70%)	
備考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方などの説明)を行うので、必ず出席する。 教科書・ノートを事前に準備する。ルーズリーフは不可。 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	自然環境のしくみ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	教養科目「受講生参加科目」 / 学芸員科目 / 選択	
科目概要	授業内容	①地球の構造, ②地形の形成, ③気候と気象の三つのテーマについて, これらの仕組みを地学的アプローチから見ると共に, 人間の生活に与える影響についてお話しします。
	到達目標	①自然環境形成の仕組みについて論述できることと②自然環境と人間生活の関係について論述できることの二点を目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地球を描く (3) 大地の形成 (1) —プレートテクトニクス (4) 大地の形成 (2) —地球の構造 (5) 地球の変化と気候変化 (6) 日本列島の形成 (7) 地形営力 (8) 火山とその地形 (9) 断層と褶曲 (10) 外力による地形形成 (11) 地形営力と災害 (12) 気候と気象 (1) —大気循環の基礎 (13) 気候と気象 (2) —地球の運動と大気の循環 (14) 気候と気象 (3) —水の循環 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみる。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】鎌田浩毅『地学のツボ』ちくまプリマー新書, 2009年。	
成績評価方法と基準	<基準>到達目標に従って自分の言葉でまとめることができることを基準とします。 <方法>試験50%, 読書レポート30%, 受講態度20%で評価します。	
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とします。読書課題については授業中に指示します。	

科目名	スポーツと現代社会	
担当者	羽生 節子 / HABU, Setsuko	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期または後期 / 講義・演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	健やかな生き方を求め、趣味・健康管理としてのスポーツが幅広く行われるようになり、自治体、民間を問わず施設やクラブづくりが盛んだ。授業では、これらの変化に関するテーマをグループごとに決め、学内外で実践を重ねて考察し発表する。
	到達目標	健康管理としてのスポーツを学び、高齢化、核家族化社会でのスポーツの移り変わりを理解する。 公営、市営を問わず増加するスポーツ施設を調査することによって、その背景、環境の変化を学ぶ。
授業計画	(1) ガイダンス (2) スポーツ概論 (Ⅰ) (3) スポーツ概論 (Ⅱ) (4) グループの編成：ワークシート、探求地図を用いてテーマを探す (5) グループ別ディスカッション：テーマ設定 (6) テーマ決定：課題、問題意識を示す (7) 研究方法 (例 ウォーキングの実践) アンケート作成 (8) 研究内容計画作成 (9) 学内の施設 (体育館、図書館等) において実践 (10) 中間発表・討論 (11) レポートの書き方、指導案作成、アンケート集計 (12) プレゼンテーションの仕方、資料準備 (13) 発表 (14) 発表 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	テーマに関連する資料や情報収集。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	テーマに基づいた実践等。発表、提出物の作成他。
使用教材・参考文献	【教】 使用しない。最初の授業時プリントを配布する。 【参】 授業中にその都度紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 発表・討議への参加とレポート提出を合格とし、いずれか欠くと不合格。 <方法> 出席態度 (60%) 発表・討議 (20%) 学期末レポート提出 (20%) など総合的に評価する。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	スポーツと現代社会	
担当者	倉津 怜也 / KURATSU, Ryoya	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義・演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	我が国の現代社会における特性を把握し、それによって起こる様々な疾病について知識を深め、正しい運動処方やストレス軽減としてのスポーツ活動が健康増進にどのような効果があるのか学習を行う。さらに、グループごとに問題となっているテーマに焦点をあて、予防法や改善策等の発表を行う。
	到達目標	自分自身の身体や目的に応じた運動種目や強度を選択できるだけでなく、心身の健康増進におけるスポーツ活動の関連性について理解する。 討議に積極的に参加し、班員と協力して問題の探求にあたり、自班のテーマだけでなく他班のテーマについても理解し、互いの情報を共有できる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 疾病 (I) (3) 疾病 (II) (4) スポーツ医学 (5) スポーツ医学 (6) グループ別ディスカッション (班でテーマを考える) (7) 発表 (8) 運動生理学 (I) (9) 運動生理学 (II) (10) 運動処方 (11) ストレス (12) ストレス (13) グループ別ディスカッション (班でテーマを考える) (14) 発表 (15) 学期末テスト	
自学自習	事前学習	・テーマに関連する資料や情報収集。
	事後学習	・発表、学期末テスト対策
使用教材・参考文献	【教】 使用しない。授業時の最初にプリントを配布する。 【参】 授業中に紹介を行う。	
成績評価方法と基準	〈基準〉 発表・討議への参加とテストの点数を総合的に評価する。 〈方法〉 出席態度 (30%) 発表・討議 (20%) 学期末テスト (50%)	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	スポーツと現代社会	
担当者	松尾 美穂子 / MATSUO, Mihoko	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	健康志向の高まりの中、食と運動の両面に着目されているものの、なかなか日常の中で実践されていない状況、また間違っただイエット情報の氾濫や軽んじられた食環境が現状である。 運動生理学・栄養学を中心に理論的に学ぶとともに、グループワークを伴った身近なウォーキングの実践と調理体験を通して、健康づくり、生活習慣の見直し等をしていく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動生理学・栄養学についての基礎知識を得る。 ・学外ウォーキングを取り入れ、コースの下見・オリエンテーリングのマップ作り・本番実施などのグループワークを行う。 ・栄養学を踏まえた調理体験を重ねて、栄養バランスのとれた食生活に対する関心や意識をより高める。
授業計画	(1) ガイダンス (2) グループ分け・運動生理学Ⅰ (3) 運動生理学Ⅱ (4) 運動生理学Ⅲ (5) 学外ウォーキングⅠ (6) マップ作り (7) 学外ウォーキングⅡ (8) 運動生理学Ⅳ (9) 運動生理学Ⅴ (10) 栄養学Ⅰ (11) 栄養学Ⅱ (12) 栄養学Ⅲ (13) 栄養学Ⅳ (14) 栄養学Ⅴ・調理体験レポート① (15) 総まとめ・調理体験レポート②	
自学自習	事前学習	第2回、第10回配布の冊子を前もって読んでおくこと
	事後学習	ほぼ毎回の授業時小レポート作成と相互評価，調理体験，他
使用教材・参考文献	【教】使用しない。 講義中に配布する冊子やプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	終了試験の評価を主とし、提出物、グループ評価、出席を含めた受講態度なども加えて総合的に評価する。 評価の配分割合は、終了試験80%、提出物10%、グループ点10%とする。	
備考	第2回はグループ分けを行うので、特に欠席しないように努めること。 「読書」は成績評価を受けるための前提とし、講義の中で説明をする。	

科目名	スポーツ&エクササイズA	
担当者	羽生 節子 / HABU, Setsuko 松尾 美穂子 / MATSUO, Mihoko	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 実技 / 1単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で体を動かす機会が少なくなった今日、自ら進んで積極的にスポーツ活動に参加することによって、基礎体力や運動技術の向上、運動の楽しさ、明るい人間関係、仲間づくりなどを体得し、心身の健康維持・増進を図る。 バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、テニスなどから一種目を選択し、リーダーを中心としたグループで活動していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を通じてリーダーを養成し、1人1役制で全員が運営に関わり責任を果たす。 各スポーツのルールを理解、練習方法の工夫、技術の習得を図る。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 種目選択、グループ編成、役割分担 (3) 手さぐり期・年間計画づくり ※準備運動から基礎練習への流れづくり (4) 手さぐり期 (5) 手さぐり期 (6) 手さぐり期 (7) 充実期・年間計画の見直し ※応用練習から簡易ゲームへの移行 (8) 充実期 (9) 充実期 (10) 充実期 (11) 仕上げ期 ※ゲーム中心 (12) 仕上げ期 (13) 仕上げ期 (14) 仕上げ期 ※(3)～(15)は各グループで個別に計画を立てる。計画と実践について毎時間チェックし修正を加えていく。 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	選択した種目の基本技術、ルール、ゲームの進め方などについて学習しておくこと。
	事後学習	スポーツ全般に関心を持ち、各メディアを見聞き広く情報を得ること。
使用教材・参考文献	【教】・【参】使用しない	
成績評価方法と基準	<基準>・出席態度を重視するため、体調が悪いときは見学または活動補助などの形で出席すること。 ・個人の実技評価はしない。 <方法>・出席態度80%、グループ点20%	
備考	・第2回目は、種目選択およびグループ編成のため、極力欠席しないよう努めること。 ・教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	スポーツ&エクササイズB	
担当者	羽生 節子 / HABU, Setsuko 倉津 怜也 / KURATSU, Ryoya	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 実技 / 1単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で体を動かす機会が少なくなった今日、自ら進んで積極的にスポーツ活動に参加することによって、基礎体力や運動技術の向上、運動の楽しさ、明るい人間関係、仲間づくりなどを体得し、心身の健康維持・増進を図る。 バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、テニスなどから一種目を選択し、リーダーを中心としたグループで活動していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を通じてリーダーを養成し、1人一役制で全員が運営に関わり責任を果たす。 各スポーツのルールを理解、練習方法の工夫、技術の習得を図る。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 種目選択、グループ編成、役割分担 (3) 手さぐり期・年間計画づくり ※準備運動から基礎練習への流れづくり (4) 手さぐり期 (5) 手さぐり期 (6) 手さぐり期 (7) 充実期・年間計画の見直し ※応用練習から簡易ゲームへの移行 (8) 充実期 (9) 充実期 (10) 充実期 (11) 仕上げ期 ※ゲーム中心 (12) 仕上げ期 (13) 仕上げ期 (14) 仕上げ期 ※(3)～(15)は各グループで個別に計画を立てる。計画 (15) 総まとめ と実践について毎時間チェックし修正を加えていく。	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 選択した種目の基本技術、ルール、ゲームの進め方などについて学習しておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ全般に関心を持ち、各メディアを見聞し広く情報を得ること。
使用教材・参考文献	【教】・【参】 使用しない	
成績評価方法と基準	<基準>・出席態度を重視するため、体調が悪いときは見学または活動補助などの形で出席すること。 ・個人の実技評価はしない。 <方法>・出席態度80%、グループ点20%	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 第1回目は、種目選択およびグループ編成のため、極力欠席しないよう努めること。 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。 	

科目名	メディアと情報伝達	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi 近藤 諭 / KONDOU, Satoru	
科目情報	教養科目 4 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	教養科目「受講生参加科目」 / 司書資格科目 / 選択	
科目概要	授業内容	メディアの発展とそれに伴うコミュニケーションへの影響についての理解を通じて、コミュニケーションや情報伝達がどのように変化してきたのかを学ぶ。 授業内でグループを組み、ディスカッション、問題発見・解決法の提示などといったアクティブ・ラーニングを実施する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 音、声、ことば、文字・記号、印刷技術、写真技術、通信技術などが、コミュニケーションを円滑にするために発展し、結果として社会制度の変革につながってきたことが理解できる。 更に、インターネットに代表される新しいメディアが、これまで以上に社会制度を変革し、私たちの生活や思考を変えていくことについて、事例を通して考えることが出来る。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) メディアとは何か：音、声、ことば、文字、印刷技術(本／雑誌／新聞) (3) 有線通信技術と文字・音声メディア(電信／電話) (4) 無線通信技術と音声・映像メディア(ラジオ／テレビ／映画) (5) 無線通信技術と遠隔コミュニケーション(無線機／携帯電話) (6) インターネット関連技術とデータベース・情報検索 (7) インターネット関連技術と双方向メディア (8) コミュニケーションの不確実性(他者と自己) (9) コミュニケーションの成立を支える要素(状況について) (10) コミュニケーションの変化 (11) グループワーク(1) (12) グループワーク(2) (13) グループワーク(3) (14) グループワーク(4) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> グループで課題が出された時は、授業時間以外でも打ち合わせしてグループでの課題学習に取り組むこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で出てきた用語や、他グループの報告内容の分からないところを、各自で復習して理解を完全にしよう努めること。
使用教材・参考文献	【教】適宜ハンドアウトを用いる	
成績評価方法と基準	<基準>「種々のメディアの特性や、それが果たした役割を理解できているか。これからの新しいメディアを利用する上で、注意を払う点、コミュニケーションに対する変化についての理解度合い」を合否判断の基準とする。 <方法> 受講態度20%、グループ学習成果40%、個人別課題の提出20%、レポート20%	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。 グループ学習を柱とする授業のため受講人数を80人までとする。	

科目名	情報技術論	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	教養科目 4 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	単にパソコンの操作ができる・パソコンを使ってデータの処理ができるといったレベル以上の、職業人として必要とされる情報通信技術の基礎知識を学ぶ。また、図書館における情報技術活用の現状や、ウェブページの構成・評価、個人情報の流出やウェブサイトの改ざんを防ぐための最低限の必要な知識といったネットワークに関わるサービスに携わる際の前提となる最低限の用語や概念について扱う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術に関する基礎的な用語や概念を説明できる。 ・コンピュータやネットワークを安全に利用するための方法を説明できる。 ・図書館における情報技術の活用の現状や最新技術について説明できる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 2進数, 5大装置, 演算装置と主記憶装置 (3) 補助記憶装置と入出力装置 (4) ソフトウェア, 文字コード (5) ファイル管理, マルチメディア, デジタルとアナログ (6) 電子資料の管理技術, デジタルアーカイブ (7) コンピュータのシステム構成 (8) コンピュータネットワーク (9) 通信サービス, WWWの仕組み, 検索エンジンの仕組み, 電子メール (10) アクセシビリティとユーザビリティ (11) 情報通信技術とセキュリティ, 暗号と電子署名 (12) データベースの仕組み (13) 図書館における情報技術活用の現状, 図書館業務システムの仕組み (14) 最新の情報技術と図書館 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を必要に応じて読む。 ・意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや「使用教材・参考文献」を用いて復習する。
使用教材・参考文献	【教】きたみりゅうじ『キタミ式イラストIT塾 ITパスポート 平成25年度 CBT対応』技術評論社, 2012年, ISBN9784774154367 [¥1,974] 【参】大串夏身『これからの図書館・増補版: 21世紀・知恵創造の基盤組織』青弓社, 2011年, ISBN9784787200471 [¥2,100]	
成績評価方法と基準	〈方法〉小テストおよび小課題 (40%), 最終試験・レポート (60%) の累積で評価する。 〈基準〉すべての小テストおよび小課題への合格と, 最終試験・レポートの合格 (60%以上の得点) を単位取得の条件とする。	
備考	小テストと最終試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	文書と数値の処理	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi	
科目情報	教養科目 4 群 / 選択 / 前期または後期 / 演習 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションの各分野のソフトウェアの利用方法を中心に講義を行う。もちろん、操作を覚えるだけでは「使える」ことにはならないので、活用のために“情報を上手に表現する技術”について演習を重ねる。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロを使った文書作成ができるようになる。 ・表計算ソフトを使った情報の蓄積、加工、分析ができるようになる。 ・プレゼンソフトを利用して発表ができるようになる。 ・複数のソフトを組み合わせた情報処理ができるようになる
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義についての紹介、コンピュータの基本操作のおさらい (2) ワープロ1(基本操作) (3) ワープロ2(基本操作) (4) ワープロ3(応用操作) (5) ワープロ4(応用操作) (6) 表計算ソフト1(基本操作) (7) 表計算ソフト2(基本操作) (8) 表計算ソフト3(応用操作) (9) 表計算ソフト4(応用操作) (10) 表計算ソフト5(応用操作) (11) プレゼンテーション・ソフト1(基本操作) (12) プレゼンテーション・ソフト2(応用操作) (13) 各種ソフトを組み合わせた情報処理1 (14) 各種ソフトを組み合わせた情報処理2 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題を必ずやること。
使用教材・参考文献	<p>【教】講義時に提示する。</p> <p>【参】参考文献は適宜紹介する。</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 「手順を覚えるのではなく、なぜその処理を用いるのかを理解した上でソフトウェアを活用できているか」を合否判断の基準とする。</p> <p><方法> 受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。</p>	
備考	<p>インターネット演習の単位を修得済みであることが履修登録の条件である。(前期クラスは、1年生の受講は許可しない)</p> <p>教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。</p>	

科目名	情報整理学	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	教養科目 4 群 / 選択 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。これらは、自由記述式の質問紙法、口頭による自由回答法の回答の分析をはじめ、企画、会議、プレゼン、人材育成、情報収集と分析など様々な場面での応用が可能である。
	到達目標	マインドマッピングや、グループワークによるブレインストーミング、親和図法等によって、情報を整理し視覚化するとともに新たな発想ができるようになることを目指す。
授業計画	<p>【1】 (1) ガイダンス、マインドマップの作成 (2) マインドマッピングとは、XMindの使い方 [課題1] (3) マインドマップの作成 [課題2]</p> <p>【2】 (4) ブレインストーミングとは [課題3] (5) グループによるブレインストーミング [課題4] (6) 親和図法とは、IdeaFragment2の使い方、紙切れ作り (7) 紙切れ集め、表札づくり、空間配置 (8) 空間配置、関係線の描画、A型図解化の完成 [課題5] (9) B型文章化 [課題6]</p> <p>【3】 (10) グループによるブレインストーミング [課題7] (11) 紙切れ作り、紙切れ集め (12) 紙切れ集め、表札づくり、空間配置 (13) 空間配置、関係線の描画、A型図解化の完成 [課題8] (14) B型文章化 [課題9] (15) 総まとめ</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を必要に応じて読む。 ・意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。 ・小テストや配付資料を用いて復習する。
使用教材・参考文献	<p>【教】 授業中に配布するプリント小冊子を使用する。 加えて、コンピュータ (XMind, IdeaFragment2) を使用する。</p> <p>【参】 トニー ブザン・バリー ブザン (著), 神田昌典 (翻訳) 『ザ・マインドマップー脳の力を強化する思考技術』ダイヤモンド社, 2005年, ISBN9784478760994</p> <p>【参】 星野匡 『発想法入門』日本経済新聞社, 1989年, ISBN9784532014025</p> <p>【参】 川喜田二郎 『続・発想法』中公新書, 1970年, ISBN9784121002105</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉小テスト・課題1 (5*2), 課題2 (10%), 課題3 (5%), 課題4 (5%), 課題5 (20%), 課題6 (5%), 課題7 (5%), 課題8 (30%), 課題9 (10%) の累積で評価する。1回の欠席につき5点を減点する。</p> <p>〈基準〉すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。</p>	
備考	指定文献を読書していないと解答できない課題を課す。	

科目名	インターネット応用演習	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi	
科目情報	教養科目 4 群 / 選択 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	インターネットの特徴は、従来のメディアに比べて非常に低いコストで、個人が情報を発信できることである。本講義では、インターネットを使った情報収集だけではなく、情報の発信、それによる新しい形のコミュニケーションについて解説する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットについて簡単に説明できるようになる。 ・テキスト、静止画、動画、音声の加工ができるようになる。 ・ホームページが作成できるようになる。 ・Wiki、Blog、SNSを活用し、情報発信ができるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義についての紹介、コンピュータの基本操作のおさらい (2) インターネットとWWW。ホームページ作成1 (HTML基礎) (3) ホームページ作成2 (HTML応用) (4) Twitterによるコミュニケーション1 (5) Twitterによるコミュニケーション2 (6) Wikiの作成1 (利用/項目作成) (7) Wikiの作成2 (項目作成/公開) (8) Blogの作成1 (基本) (9) Blogの作成2 (活用) (10) Webサービスの活用 (SNS作成/活用) (11) Webサービスの活用 (スケジュール管理の活用) (12) ホームページ作成・応用1 (CSSとXHTML) (13) ホームページ作成・応用2 (各種データの加工) (14) ホームページ作成・応用3 (課題ページ作成と公開) (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題を、(基本的に)次の回までに必ずやること。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は使用しない。適宜ハンドアウトを利用する。</p> <p>【参】参考文献は適宜紹介する。</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 「与えられた課題をただやるのではなく、その課題がより効果的にみえる解決の手段・方法を選択して利用できているか、それに付随する項目は無いか考え、その追加等ができていないか」を合否判断の基準とする。</p> <p><方法> 受講態度 (30%)、課題 (30%)、試験・レポート (40%) による。</p>	
備考	インターネット演習の単位を修得済みであることが履修登録の条件である。教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	キャリア開発入門	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	本科目は、【志學館大学におけるキャリア教育の入門・基礎編】である。キャリア開発とは何か、キャリアデザインとは何かを理解しながら、自立・自律に向けて自己と社会とのバランス感覚を磨く。そのために、ワークブックを用いて、講義と実践的な作業を取り混ぜて進めていく。
	到達目標	①キャリア開発の基礎知識を身に付け、情報を知る。 ②自己と社会について理解を深める。 ③行動力を発揮し、学んだことを大学生活・社会生活において活用する。 ④上記により、就業力と生涯開発力の基礎を身に付ける。
授業計画	(1) キャリア開発のコツ — オリエンテーション (2) 「就職」とは何か — 学生から職業人へ (3) 雇用・労働環境と社会が求める人材像 (4) 教養・一般常識はあるか (5) キャリアマップとポートフォリオ (6) 自分を表現して分析しよう① (7) 自分を表現して分析しよう② (8) 自分を表現して分析しよう③ (9) 業界・職種・企業研究入門 (10) キャリア開発の諸理論① (11) キャリア開発の諸理論② (12) 職場におけるキャリア開発 (13) コミュニケーション技法とマナー (14) 志學館大学におけるアイデンティティ形成 — 創設者・満田ユイ先生にみるキャリア開発術 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ワークブックを用いた作業を進めていくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリントとワークブックを配布する。 【参】適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	積極的に授業に参加し、課題・レポートに適切に表現できたときに合格とする。(出席態度50%、課題・レポート50%)	
備考	『読書』課題は、レポート課題の一部に取り入れる。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	キャリア概論	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	今後の進路を探索・選択し、生涯を通じた就業力を身に付けるために、講義や外部講師による進路講演会等によって勤労観・人生観を明確化する。また、様々な学習形式を取り入れ、「自己」に対して多角的にアプローチしていく。
	到達目標	①進路探索・キャリアデザインに関する知識・技能を習得する。 ②自分の将来について考え、勤労観・人生観を高め、感想文として表現する。 ③一般常識の有無を自覚して自学自習し、テストで8割以上の点数を取る。
授業計画	(1) オリエンテーション/「今」からやるべきこと (2) 進路選択のための基礎知識 (3) 自分史とこれからの大学生活 (4) 進路講演会 (外部講師) (5) グループ・ディスカッションのススメ (6) 進路講演会 (外部講師) (7) SPI試験の概要と対策 (8) キャリア開発の理論と実践 (9) 進路講演会 (外部講師) (10) 社会分析とマスメディア (11) 自己分析とは (12) 進路講演会 (外部講師) (13) 卒業生のキャリア開発 (14) 一般常識テスト (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の内容をふまえて自己の大学生活プランを見つめなおすこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定する。プリントを配布する。 【参】適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	進路講演等に対する感想文 (35%)、出席態度 (50%)、一般常識テスト (15%) により評価する。	
備考	企業への就職に限らず、すべての進路に関わる内容なので、2年生はできるだけ履修することを期待する。なお、授業の順番は変わることがある。 『読書』課題は、授業内容の一部として取り入れる。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	キャリアデザイン	
担当者	◎志賀 玲子 / SHIGA, Reiko 野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	「キャリア概論」を実践面で発展させた内容である。コミュニケーション力を磨くために、ワークシート、ゲーム等を活用し、頭の中を整理したうえで、グループ・ディスカッションに取り組み、人生・社会・仕事について自分の考えを明確にする。3・4年生や外部講師等の講演によって就業観も磨く。そして、自己分析・自己理解を深め、キャリアデザインを進める。
	到達目標	①自己分析を進めて言語化することで、自己形成にとって経験がいかに重要であるかを知る。 ②講義や講演から動機づけを得て、希望する職業や職場の研究を積極的に進め、各自必要な対策を練り、キャリアデザインに取り組む。 ③SPIテストで8割以上の点数を取る。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 3年生によるインターンシップ報告会 (3) 自己分析① (4) 新聞の読み方と情報収集 (5) 業界研究① (6) 自己分析② (7) 業界研究② (8) 自己分析③ (9) 内定者報告会 (10) 社会人の心構えとビジネスマナーの基礎 (11) グループ・ディスカッション① (12) グループ・ディスカッション② (13) グループ・ディスカッション③ (14) グループ・ディスカッション④ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業内容を踏まえて、自己のキャリアデザインを具体的に進めていくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリントを配布する。 【参】適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	出席態度・コメント（60%）、レポート（20%）、SPI テスト（20%）により評価する。	
備考	自己分析・自己理解とコミュニケーション力・発信力は、企業への就職に限らずすべての進路に関わるので、2年生の履修を期待する。なお、外部講師の関係で、授業の順番は変わることがある。 『読書』課題については、レポートのテーマの一部に取り入れる。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	キャリア開発演習Ⅰ	
担当者	◎志賀 玲子 / 野上 真 / 末吉 剛士	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	キャリア開発の実践的で具体的な技能に焦点を当て、地域において有為な人材として活躍するための知識・感覚を磨く演習を行う。インターンシップ事業を実施している外部団体と連携し、座学だけではなくディスカッション・グループワーク・個人ワークも取り入れながらわかりやすく進める。そして、明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組む姿勢や、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力、勤労観・職業観を身に付け、社会人・職業人として自立することを促す。
	到達目標	①視点を増やす（長期的視点、社会的視点、公益の視点など）。 ②論理的に考えることができる。 ③自分の考えをわかりやすく伝えることができ、傾聴することができる。 ④高い意欲で自ら「気づき」を生みだせる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 自己分析（自分の価値観を知る） (3) 自己分析（自分の強みを知る） (4) 社会分析（社会に必要な人材像を知る） (5) 社会人基礎力①（ビジネスマナー、ビジネスマインド） (6) 社会人基礎力②（コミュニケーション） (7) 社会人基礎力③（論理的思考） (8) 社会人基礎力④（基本ITスキル） (9) 社会人基礎力⑤（プレゼンテーション） (10) 社会人基礎力⑥（面接演習） (11) } (12) } キャリアデザイン (13) } (14) } (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・紹介される資料やホームページ等を読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業で学んだことを大学生生活において積極的に実践すること。
使用教材・参考文献	【教】最初の授業で紹介する。 【参】必要に応じて紹介する。	
成績評価方法と基準	授業参加態度（60%）と個人ワーク（40%）による。	
備考	・就職活動や卒業前に「やっておけばよかった」と悔やむことが多い内容なので、積極的な受講を期待する。【初心者でも楽しく学べる】内容である。 ・「キャリア開発演習Ⅱ」と連動する内容であり、併せて履修すると学習効果が一段と高まるため、両方の履修をおすすめする。（義務ではない。） ・『読書』課題については、成績評価の一部に反映させる。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	キャリア開発演習Ⅱ	
担当者	末吉 剛士 / SUEYOSHI, Koji	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 実習・演習 / 4単位 / 2年次	
	任意NPOマチトピラとの提携事業	
科目概要	授業内容	外部団体との連携により、「実践型インターンシップ」（徹底した研修でキャリア開発の技法を習得し、他大学学生とも仲間作りをしながら、企業・NPO・団体等において実践的な就業体験を行うこと）に参加して実社会に触れることにより、学習意欲を向上させるとともに、「社会の中の自己」の理解を深める。
	到達目標	①リスクマネジメントをしたうえで就業体験をする。 ②企業実習を通して、実社会に触れる。 ③勤労観・職業観を身に付ける。 ④主体性・実行力を養う。 ⑤柔軟性・規律性を学ぶ。 ⑥実習後の振り返りにより、今後の行動を再計画する。
授業計画	(1) オリエンテーション (16) 〃 (2) 事前研修（コンプライアンス、情報リテラシー、目標設定） (17) 〃 (18) 各受け入れ先企業・NPO・団体等にて実習 (3) 〃 (4) 各受け入れ先企業・NPO・団体等にて実習 (19) 〃 (5) 〃 (20) 〃 (6) 〃 (21) 〃 (7) 〃 (22) 〃 (8) 〃 (23) 〃 (9) 〃 (24) 〃 (10) 〃 (25) 〃 (11) 〃 (26) 事後研修（目標に対する振り返り、大学生活への活かし方） (12) 中間研修（状況確認、課題把握、改善策としてのアクションプラン策定） (27) 〃 (13) 〃 (28) 事後報告会 (14) 〃 (29) 〃 (15) 〃 (30) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・新聞等によって社会情報を収集しておくこと。 ・実習や研修で学んだことを次の日程までに確認しておくこと。
	事後学習	・実習や研修で何を学んだか、日報を作成すること。
使用教材・参考文献	【教】最初の授業で紹介する。 【参】必要に応じて紹介する。	
成績評価方法と基準	実習・研修中の参加態度（70%）とプレゼンテーション（30%）	
備考	できるだけ「キャリア開発演習Ⅰ」と併せて履修することを期待する。2年生でも履修できる貴重な就業体験であり、濃密な内容である。『読書』課題については、詳細を初回の授業で説明する。実習・研修を進めるための素材の1つとして、参加態度の評価に加味する。	

科目名	インターンシップ	
担当者	◎小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi 野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	企業や官公庁における就業体験（5日～12日程度）によって、自分の職業選択のための準備をする。あるいは、この機会を有効活用して、選びたい進路とはあえて別の分野の現場を体験し、視野を広げてもらう。また、そのための事前・事後指導に力点を置く。
	到達目標	①企業研究のやり方を学び、業種・職種等を知る。 ②ビジネスマナーの基礎を身に付ける。 ③自己分析を進め、履歴書を的確に書けるようになる。 ④就業体験を通して、就業意欲を高める。
授業計画	(1) オリエンテーション、志望企業調査 (2) 自己分析と履歴書の書き方 (3) 企業・業界研究 (4) マッチング (5) ビジネスマナーの基礎 (6) " (7) 決定者への事前指導と必要書類の提出 (8) インターンシップ実施、教職員の実習先訪問、事後指導、報告書提出 (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) 事後報告会（10月） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	まとめとしてのレポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリントやMoodleを使う。 【参】適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	必要に応じて課されるタスク（20%）をこなし、就業体験（40%）をし、事後報告会での報告（40%）を行えば合格とする。なお、成績は「後期」の成績原簿に記入されるので、注意されたい。	
備考	部活や講座等で時間割どおりに来られない学生についても、別途サポートするので、第1回のオリエンテーションに参加すること。配当年次は3年生であるが、本年度より2年生も履修可能としているので留意の事。 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	かごしま教養プログラム	
担当者	本学教員の他、県内12の大学・短大等教員	
科目情報	かごしま教養科目 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	「かごしまフィールドスクール」とセットで受講すること。	
科目概要	授業内容	グローバルな視点から地域の個性化・活性化を考える2泊3日の集中授業。鹿児島を素材にして、講義、グループ学習、討論、発表を行い、切磋琢磨しながら学ぶ。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義で提示される鹿児島独自の文化・自然・社会・産業などの統一テーマを理解し、問題点を整理できる。 2) 統一テーマに関連する問題点をグループで討論し、まとめて発表できる。 3) 統一テーマに関するグループの結論をレポートにまとめることができる。
授業計画	<p>8月下旬に3日間の集中学習を行う予定。 日程・内容等が決まり次第、別紙を配布する。</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・内容等に関連する文献等を読み、紹介した場所等の検分を安全に配慮した上で行うこと。
使用教材・参考文献	【教】なし 【参】資料を配付する	
成績評価方法と基準	① 討論・発表60%、② レポート40% で評価する。 上記の評価方法により、60点以上に達したものを合格とする。	
備考	受講条件 1. 「学問へのステップⅠ」「学問へのステップⅡ」のいずれかを履修中または履修済みであること。 2. 「かごしまフィールドスクール」とセットで受講すること。	

科目名	かごしまフィールドスクール	
担当者	本学教員の他、県内12の大学・短大等教員	
科目情報	かごしま教養科目 / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 1年次	
	「かごしま教養プログラム」とセットで受講すること。	
科目概要	授業内容	鹿児島を舞台とした自主的な体験学習。対象地域の特徴、暮らし、住民意識などを実践的に学習し、地域を活性化していくための方策をグローバルな視点で考察する。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 調査地区の実地視察や関係者との交流を通して地区の特徴を把握し、テーマに関する調査をする。 2) 地区の活性化の可能性・展望を探り、グループで改善策を討論する。その結果を地元の人達に発表する。 3) 実地調査、討論、発表で得られた成果をまとめたレポートを作成する。
授業計画	8月下旬に「かごしま教養プログラム」に続いて、2泊3日のフィールドワークを行う予定。日程・内容等が決まり次第、別紙を配布する。	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・内容等に関連する文献等を読み、紹介した場所等の検分を安全に配慮した上で行うこと。
使用教材・参考文献	【教】 なし 【参】 資料を配付する	
成績評価方法と基準	① 討論・発表60%、②レポート40%で評価する。 上記の評価方法により、60点以上に達したものを合格とする。	
備考	受講条件 1. 「学問へのステップⅠ」「学問へのステップⅡ」のいずれかを履修中または履修済みであること。 2. 「かごしま教養プログラム」とセットで受講すること。	

科目名	日本事情 I	
担当者	田中 利砂子 / TANAKA, Risako	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	聴解能力を養成しながら、自国や他国との比較の視点から日本の社会・生活に関する理解を深める。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自国と他国との比較の視点から、日本の社会や生活について理解を深める。 2. 聴解能力を高める。 3. 語彙力・文法力を高める。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の説明 社会・生活1 (2) 社会・生活1 (3) タスク1 (4) 社会・生活2 (5) 社会・生活2 (6) タスク2 (7) 社会・生活3 (8) 社会・生活3 (9) タスク3 (10) 社会・生活4 (11) 社会・生活4 (12) タスク4 (13) 社会・生活5 (14) 社会・生活5 (15) タスク5 	
自学自習	事前学習	・日々のニュースや出来事に関心を持って接しておくこと。
	事後学習	・2回おきに、小テストと発表（または小レポート）を課す。
使用教材・参考文献	【教】 使用しない。プリントを配布する。	
成績評価方法と基準	<p><評価方法> 読書レポート（10点×2＝20点）、小テスト（15点）、発表・小レポート（15点）、期末試験（50点）</p> <p><基準> 上記の評価方法により、合計が60点以上の者を合格とする。ただし、5回以上欠席した者は不合格とする。</p>	
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人学生は受講できない。 2. 読書レポートの内容を成績評価の対象とする。 	

科目名	日本事情Ⅱ	
担当者	田中 利砂子 / TANAKA, Risako	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	聴解能力を養成しながら、自国や他国との比較の視点から日本の社会・生活について理解を深める。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自国や他国との比較の視点から、日本の社会・生活について理解できるようになる。 2. 聴解能力を高める。 3. 文法力と語彙力を高める。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の説明 社会・生活6 (2) 社会・生活6 (3) タスク1 (4) 社会・生活7 (5) 社会・生活7 (6) タスク2 (7) 社会・生活8 (8) 社会・生活8 (9) タスク3 (10) 社会・生活9 (11) 社会・生活9 (12) タスク4 (13) 社会・生活10 (14) 社会・生活10 (15) タスク5 	
自学自習	事前学習	・日々のニュースや出来事に関心を持って接しておくこと。
	事後学習	・2回おきに、小テストと発表（または小レポート）を課す。
使用教材・参考文献	【教】使用しない。プリントを配付する。	
成績評価方法と基準	<p><評価方法> 読書レポート(10点×2=20点)、小テスト(15点)、発表・小レポート(15点)、期末試験(50点)</p> <p><基準> 上記の評価方法により、合計が60点以上の者を合格とする。ただし、5回以上欠席した者は不合格とする。</p>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人学生は受講できない。 ・読書レポートの内容を成績評価の対象とする。 	

科目名	日本事情Ⅲ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	(1) 日本の文化・社会に関する情報を理解する (グラフ) (2) 日本の文化・社会に関する情報を理解する (読み物) (3) 他国と比較しながら自分や自国について発表する。
	到達目標	(1) グラフの情報を理解し、説明できる。 (2) トピックに関連した読み物を読んで、内容が理解できる。 (3) 新出語彙および文型の意味と用法がわかる。 (4) トピックに関連したディスカッションに参加できる。 (5) 自分や自国について日本と比較しながら説明できる。
授業計画	(1) 食文化 (2) 〃 (3) 〃 (4) 〃 (5) 仕事 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 生活習慣と宗教 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) ジェンダー (14) 〃 (15) 〃	
自学自習	事前学習	・新出語彙・文型を辞書等で調べておくこと。 ・作文課題を毎回提出すること。
	事後学習	・添削された作文を見直し、訂正して再提出すること。
使用教材・参考文献	【教】安藤節子他『改訂版トピックによる日本語総合演習上級』スリーエーネットワーク 2010年 ※教科書は共同購入予定	
成績評価方法と基準	授業での積極性(10点)、作文課題(40点)、期末試験(50点)で評価する。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とする。	
備考	・日本人学生は受講できない。 ・教員が指示する『読書』課題の遂行を成績評価に加味する。	

科目名	日本事情IV	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	日本の社会などについて述べた読解教材・聴解教材を使って、レポートを作成する練習と聴解力を高める練習を行う。
	到達目標	1. 日本社会等について、自国や他国との比較の視点から理解する。 2. 学習したことを論理的にまとめ、発表する能力（口頭発表およびレポート）を高める。
授業計画	(1) はじめに (2) 日本経済と伝統行事 (3) 自国事情との比較研究発表 (4) 日本経済と基幹産業 (5) 自国事情との比較研究発表 (6) 日本経済と冠婚葬祭経済 (7) 自国事情との比較研究発表 (8) 日本経済と祭り (9) 自国事情との比較研究発表 (10) 日本の環境問題 (12) 自国事情との比較研究発表 (13) 鹿児島事情と外国人の暮らし (14) 「鹿児島の不思議」について小ドキュメンタリー作成および発表 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で得た知識をもとに日本に対する理解を深める。
使用教材・参考文献	オリジナルテキストを使用	
成績評価方法と基準	<評価方法> 読書レポート (10点)、宿題 (30点)、小テスト (20点)、期末試験 (40点) <基準> 上記評価方法により合計が60点以上に達した者を合格とする。ただし、4回以上欠席した者は不合格とする。	
備考	1. 日本人学生は受講できない。 2. 定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	日本語 I	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	日本語能力試験N2レベル以上の教材を用い、大学での勉学に必要な聞く力・話す力を養成するための練習を行う。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語での発表を正確に聞けるようになる。 2. 語彙力・文法力を高め、必要なものは使用できるようになる。 3. ひとりでまとまった内容が論理的に発表できるようになる。 4. 発表のテクニックを学び、話の内容を予測する能力を養う。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業説明・日本語実力試験 (2) ウォーミングアップ（メモを取る練習・構成の確認） (3) ウォーミングアップ（構成の確認） (4) 第1課 (5) 第1課 (6) 第1課 (7) 第2課 (8) 第2課 (9) 第2課 (10) 第3課 (11) 第3課 (12) 第3課 (13) 第4課 (14) 第4課 (15) 第48AB2 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」の該当課を事前に読み聴きしておくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の後半部分で口頭発表を課す。
使用教材・参考文献	【教】 犬飼康弘『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』2007年 スリーエーネットワーク	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>クラスでの発表（40点）、宿題（10点）、期末試験（50点）</p> <p><基準>上記評価方法により合計が60点以上に達した者を合格とする。5回以上欠席した者は不合格とする。</p>	
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人学生は受講できない。 2. 教科書を購入しなければ受講できない。 	

科目名	日本語Ⅱ	
担当者	田中 利砂子 / TANAKA, Risako	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	日本語能力試験N2レベル以上の教材を用い、大学での勉学に必要な聞く力・話す力を養成するための練習を行う。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語での発表を正確に聞けるようになる。 2. 語彙力・文法力を高め、必要なものは使用できるようになる。 3. ひとりでまとまった内容が論理的に発表できるようになる。 4. 発表のテクニックを学び、話の内容を予測する能力を養う。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の説明・第5課 (2) 第5課 (3) 第5課 (4) 第5課 (5) 第6課 (6) 第6課 (7) 第6課 (8) 課題Ⅰ (9) 課題Ⅰ (10) 課題Ⅰ (11) 課題Ⅰ (12) 課題Ⅱ (13) 課題Ⅱ (14) 課題Ⅱ (15) 課題Ⅱ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」の該当課を事前に読み聴きしておくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の後半部分で口頭発表を課す。
使用教材・参考文献	【教】 犬飼康弘『アカデミック・スキルを身につける 聴解・発表ワークブック』2007年 スリーエーネットワーク	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>クラスでの発表（40点）、宿題（10点）、期末試験（50点）</p> <p><基準>上記の評価方法により、合計が60点以上の者を合格とする。ただし、5回以上欠席した者は不合格とする。</p>	
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人学生は受講できない。 2. 教科書を購入しなければ受講できない。 	

科目名	日本語Ⅲ	
担当者	十島 真理 / TOSHIMA, Mari	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	大学生活のなかで必要な日本語能力のうち、特に必要なレポートの書き方を練習する。
	到達目標	1. レポートが、できるだけ正確な日本語で論理的に書けるようになる。 2. レポートなどによく使用される文型や語彙が使用できるようになる。
授業計画	(1) 授業説明、実力試験（作文） (2) レポートに使われる文体 (3) 同上 (4) 文の基本 (5) 同上 (6) 同上 (7) 句読点の打ち方 (8) 各種記号の使い方、段落 (9) 引用のしかた (10) 同上 (11) 仕組みの説明をする (12) 同上 (13) 歴史的経過の説明をする (14) 同上 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだことを理解し、実践するよう努力する。
使用教材・参考文献	【教】二通信子ほか『改訂版 留学生のための論理的文章の書き方』 2003年スリーエーネットワーク	
成績評価方法と基準	<評価方法> テスト60% 授業参加態度40%、 （小テスト20点、期末試験40点 宿題30点、受講態度10点） <基準>レポートが、できるだけ正確な日本語で論理的に書け、よく使用される文型や語彙が使用できることが達成されたものは合格とする。 上記評価方法により合計が60点以上に達した者を合格とする。 4回以上欠席した者は不合格とする。	
備考	1. 日本人学生は受講できない。 2. 教科書を購入しなければ受講できない。なお、教科書は共同購入する。	

科目名	日本語Ⅳ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	(1) 社会的に賛否両論のあるテーマと関連した文章の読解 (2) 自分自身の経験および意見の発表 (3) 自分自身の立場を決めて討論
	到達目標	(1) テーマと関連した文章を読んで、内容が理解できる。 (2) 新出語彙および文型の意味と使用方法がわかる。 (3) 自分自身の経験および意見を適切に発表できる。 (4) 立場を決めて討論に参加できる。
授業計画	(1) 早期英語教育 (読解・文型・語彙) (2) " (発表) (3) " (討論) (4) 死刑制度 (読解・文型・語彙) (5) " (発表) (6) " (討論) (7) 日本にカジノは必要か (読解・文型・語彙) (8) " (発表) (9) " (討論) (10) 体罰 (読解・文型・語彙) (11) " (発表) (12) " (討論) (13) ネット依存症 (読解・文型・語彙) (14) " (発表) (15) " (討論)	
自学自習	事前学習	・新出語彙・文型を辞書等で調べておくこと。 ・作文課題を毎回提出すること。
	事後学習	・添削された作文を見直し、訂正して再提出すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを使用する。	
成績評価方法と基準	授業での積極性(10点)、作文課題(40点)、期末試験(50点)で評価する。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とする。	
備考	・日本人学生は受講できない。 ・授業で扱うテーマは受講生のニーズに合わせて変更することもある。	

科目名	大学英語へのステップ I	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	英文の基本構造に留意しながら毎時間自由英作文、簡単な英字新聞記事講読に取り組み、又、日常会話表現も学びます。
	到達目標	英語の基本構造を理解し、基礎的な英語で読み、書きができるようにする。
授業計画	(1) 英語の基本構造とその必要性 (2) Composition, newspaper article & everyday conversation. (3) Composition, newspaper article & everyday conversation. (3) Composition, newspaper article & everyday conversation. (4) Composition, newspaper article & everyday conversation. (5) Composition, newspaper article & everyday conversation. (6) Composition, newspaper article & everyday conversation. (7) Composition, newspaper article & everyday conversation. (8) Composition, newspaper article & everyday conversation. (9) Composition, newspaper article & everyday conversation. (10) Composition, newspaper article & everyday conversation. (11) Composition, newspaper article & everyday conversation. (12) Composition, newspaper article & everyday conversation. (13) Composition, newspaper article & everyday conversation. (14) Composition, newspaper article & everyday conversation. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	毎回課題として出される自由英作文を完成し、タイプアップしておく。
	事後学習	英字新聞、自由英作文をとおして習った単語や、表現を復習し整理する。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成プリント。 【参】 BBC Online News	
成績評価方法と基準	<基準> 英語の基本構造を習得し、英語で簡単な日常会話や自己表現ができるようになったものは合格とする。 <評価> 授業中の発表、コンツリビューション50%、終了試験50%。	
備考		

科目名	大学英語へのステップ I	
担当者	藏本 真衣 / KURAMOTO, Mai	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	歌詞、詩、児童文学作品、英字新聞やエッセイを精読し、様々な英語表現を学ぶ。また、基本的な文法、英語のことわざ、カタカナ英語、日常英会話等も扱う。
	到達目標	英語独自の表現を学ぶことで、文化・思想の相違を理解する。英語の面白さと利便性を知ること为目标とする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 詩① / 文法: be 動詞・一般動詞（現在） (3) 詩① / 文法: 一般動詞（過去） (4) 英字新聞・エッセイ / 文法: 進行形 / 小テスト (5) 歌詞① / 文法: 未来形 (6) 歌詞① / 文法: 助動詞 (7) 英字新聞・エッセイ / 文法: 名詞・冠詞 / 小テスト (8) 児童文学作品 / 文法: 代名詞 (9) 児童文学作品 / 文法: 前置詞 (10) 英字新聞・エッセイ / 文法: 形容詞・副詞 / 小テスト (11) 詩② / 文法: 比較I (12) 詩② / 文法: 比較II (13) 歌詞② / 文法: 命令文 (14) 歌詞② / 文法: 感嘆文 (15) 総まとめ ※平成24年度、使用歌詞と詩: Smile (Nat King Cole), I Want It That Way (Backstreet Boys), The Farmer and the Queen (Shel Silverstein) 等。	
自学自習	事前学習	使用教材、参考文献を事前に予習しておくこと。 意味の分からない用語は事前に辞書で調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を振り返り、配布物、ノートを整理すること。 小テストと提出物の準備。
使用教材・参考文献	【教】教科書は指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	<基準>英語独自の表現を学ぶことで、文化・思想の相違を理解した者を合格とする。 <方法>授業参加度40% 小テスト15% 提出物15% 最終テスト30%	
備考	本授業は英語を基礎から少しでも理解したいと前向きに取り組む姿勢を期待する。毎回、英和・和英辞書を持参すること。授業と評価方法の詳細については、初回の授業で説明する。	

科目名	大学英語へのステップⅡ	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	英語の利便性、面白さ、魅力、または基本的構造を、再度考えてみるための授業、そしてそれらの実践をおこなう。
	到達目標	英語発音について学び、具体的に音が出せるようになる。 英語発音について学び、具体的に英語音を聞き分ける。 8品詞、5文型を学び、丁寧に英文を読めるようになる。 8品詞、5文型を学び、正確に英文を書けるようになる。
授業計画	(1) be 動詞 (2) 一般動詞（現在） (3) 一般動詞（過去） (4) 進行形 (5) 未来形 (6) 助動詞 (7) 名詞・冠詞 (8) 代名詞 (9) 前置詞 (10) 形容詞・副詞 (11) 比較 (12) 命令文・感嘆文 (13) 接続詞 (14) 不定詞 (15) 受動態	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	3つの英文課題を毎週提出。
使用教材・参考文献	【教】 佐藤哲三，愛甲ゆかり，新藤照夫 『English Primer 大学生の英語入門』 南雲堂 2006年 ISBN4-523-17463-6	
成績評価方法と基準	Class Participation 50%, Final 50%	
備考	本演習は、単に優しい英語の授業を提供するものではありません。真剣に、もう一度基本からしっかりと英語にとり組み、使える喜びを得たいという人のみを歓迎します。	

科目名	大学英語へのステップ II	
担当者	藏本 真衣 / KURAMOTO, Mai	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	「国際人」になる為にはまず、自国のこと、自分自身のことを知る所から始まる。この授業では外国の方にどのように日本文化、日本人について伝えるか考える。また、英文法の基礎、英字新聞、物語、日常英会話、カタカナ英語、イディオム等を扱う。
	到達目標	日本文化、日本人を再認識し、英語で外国の方に日本について説明できるようになる。また、英語に関心を持ってもらうことを目標とする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 日本文化① / 文法: 接続詞(I) (3) 日本文化① / 文法: 不定詞(I)・動名詞 (4) 日本文化① / 文法: 受動態 (5) 英字新聞・物語 / 文法: 現在完了形 / 小テスト (6) 日本文化② / 文法: 接続詞(II) (7) 日本文化② / 文法: 5つの基本句型 (8) 日本文化② / 文法: 各種疑問文 (9) 英字新聞・物語 / 文法: 不定詞(II) / 小テスト (10) 日本文化③ / 文法: It の特別用法 (11) 日本文化③ / 文法: 分詞・動名詞 (12) 日本文化③ / 文法: 関係代名詞 (13) 英字新聞・物語 / 文法: 関係副詞 / 小テスト (14) 英字新聞・物語 / 総まとめ (15) 総まとめ ※平成24年度のテーマ: お弁当、折り紙、落語、お正月等	
自学自習	事前学習	使用教材、参考文献を事前に予習しておくこと。 意味の分らない用語は事前に辞書で調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を振り返り、配布物、ノートを整理すること。 小テストと提出物の準備。
使用教材・参考文献	【教】教科書は指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	<基準> 日本文化を英語で表現できるものは合格とします。 <方法> 受講態度40% 提出物15% 小テスト15% 終了試験30%	
備考	本授業は英語を基礎から少しでも理解したいと前向きに取り組む姿勢を期待する。毎回、英和・和英辞書を持参すること。授業と評価方法の詳細については、初回の授業で説明する。	

科目名	英語 I (人関A)	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	外国語 (英語) / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	Reading, speaking, having fun with English through games and activities. リーディング、スピーキング、また英語を使ったゲームをして楽しむ。
	到達目標	To encourage students to enjoy studying English and inspire students to consider international issues. 学生に国際問題を考え、また英語を学ぶことの楽しさを知ってもらう。
授業計画	(1) Teacher introduction. Country, culture, hobbies, music. (2) Campus treasure hunt. (3) Phonemic chart / tongue twisters. (4) Crossword / song (5) Newspaper game (6) DVD and film review test. (7) Mid-semester review test. (8) BBC.COM (9) DVD and film review test. (10) DVD and film review test. (11) Interview I. (12) Reading comprehension. (13) Listening practice. (14) Interview II (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 ・ Inside English - Maggs - Macmillan Languagehouse ・ Identity - Shaules - Oxford University Press ・ Reading Pass 1 - Bennett - Nan'un-do	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツリビューション50% 試験50%	
備考	授業の最初に毎回リスニングのテストを行います。	

科目名	英語 I (人関B)	
担当者	スコット・バーンズ / Scott Burns	
科目情報	外国語 (英語) / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	ゲームや会話を通じ、自分自身を表現する演習を行なう
	到達目標	英語表現の上達と使える英語を習得し、外国人に臆することなく話せるようになることを目標とする
授業計画	(1) 自己紹介 (学生、講師) (2) Treasure Hunt (3) Talkopoly Game (4) Talk a Lot 2 第2課 (5) Talk a Lot 2 第2課 (6) Talk a Lot 2 第3課 (7) Talk a Lot 2 第3課 小テスト (8) Talk a Lot 2 第4課 (9) Talk a Lot 2 第4課 (10) Talk a Lot 2 第5課 (11) Talk a Lot 2 第5課 小テスト (12) 復習1 (13) 復習2 (14) 復習3 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。
使用教材・参考文献	【教】Talk a Lot 2	
成績評価方法と基準	出席率授業への取り組み試験	
備考	臆することなく、楽しく英語を学びましょう。	

科目名	英語 I (人関C)	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	外国語 (英語) / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	本科目では、コンピュータ教室を利用して実践的な英語力を養成する。CALLシステムを利用してリスニングやスピーキングの訓練を行う。また、ワープロソフトを使ったライティングやネットを利用したリーディングの訓練を行う。
	到達目標	実践的な英語力を習得する。 リスニングやスピーキングの能力を高める。 リーディングやライティングの実践力を高める。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) リスニング (1) (3) リスニング (2) (4) リスニング (3) (5) リスニング (4) (6) スピーキング (1) (7) スピーキング (2) (8) スピーキング (3) (9) リーディング (1) (10) リーディング (2) (11) リーディング (3) (12) ライティング (1) (13) ライティング (2) (14) ライティング (3) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容についてのクイズを行う。
使用教材・参考文献	【教】プリント配布 【参】英語の辞書など	
成績評価方法と基準	<基準> 課題を通じて実践的な英語力を習得した者は合格とする。 <方法> 課題等80%、授業態度20%	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ USBメモリーを持ってくること。 ・ メールやMoodleのパスワードを持ってくること。 	

科目名	英語 I (人関D)	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	外国語 (英語) / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	大きい声で、人の前で英語を話す授業です。毎週、5, 6行の英会話文を暗記し、その実演をします。
	到達目標	日本語音と英語音との微妙な差異に違いについて学び、その違いが自分で音として出せるようになる。
授業計画	(1) 出会ったときのあいさつ (2) 聞き返す (3) 相づちを打つ (4) おわびを言う/謝罪する (5) 確認する/念を押す (6) 予定・都合をたずねる (7) アウトドア (8) 希望を言う (9) 仕事 (10) 飲み物などをすすめる (11) 趣味 (12) 食べ物/グルメ (13) スポーツ (14) 映画 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	英語音に関する聴き取りの課題を毎週おこなう。
使用教材・参考文献	【教】リードくみ子、ウィリアム・リード 『そのまま使える日常英会話』 日本文芸社 2008年 ISBN978-4-537-20654-8	
成績評価方法と基準	日・英語の微妙な音の違いを自分で音として出せることを合格とする。 Dialogue 25%, Extension 25%, Homework 25%, Final 25%	
備考	毎回の出席を心掛けてください。	

科目名	英語 I (法A)	
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko	
科目情報	外国語 (英語) / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	King Arthur and the Knights of the Round Table を精読する。
	到達目標	テープを聴いて英語に慣れ、音読を通して、発音にも留意して、英語が好きになるように導く。知らなかった単語を次回のショートテストで定着できるようにする。やさしい英文で書かれているので、文法の説明がなくても内容が把握できる。英語への自信をもたせ、英語の理解にとどまることなく、異文化への興味を湧かせ、世界への目をより大きく開かせたい。感動的な文章は暗記してもらいます。
授業計画	(1) 作品の紹介 (2) Chapter 1 Arthur and Merlin (3) " " (4) Chapter 2 The Round Table (5) Chapter 3 The Sword, Excalibur (6) " " (7) Chapter 4 Morgan le Fay (8) " " (9) Chapter 5 Vivien And Merlin (10) Chapter 6 Sir Meligrance (11) " " (12) Chapter 7 Sir Tristram (13) " " (14) Chapter 8 The Grail (15) Chapter 9 King Arthur Dies	
自学自習	事前学習	・意味のわからない単語は辞書で事前に調べておくこと。
	事後学習	その日に出てきた知らなかった単語を確実に覚え、次回のショートテストに備える。
使用教材・参考文献	【教】 Penguin Readers: King Arthur and the Knights of the Round Table	
成績評価方法と基準	授業態度 (予習が出来ているか、暗記は完全か、ショートテスト点数は?) 期末考査 など総合的に評価する。	
備考		

科目名	英語 I (法B)	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	外国語 (英語) / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	大きい声で、人の前で英語を話す授業です。毎週、5, 6行の英会話文を暗記し、その実演をします。
	到達目標	日本語音と英語音との微妙な差異に違いについて学び、その違いが自分で音として出せるようになる。
授業計画	(1) 名前や出身地を聞く No. 5 (2) 依頼する No. 9 (3) 誘う No. 10 (4) お祝いを言う No. 11 (5) 上手に断る No. 20 (6) 四季 No. 23 (7) 程度の表現 No. 26 (8) バスに乗る No. 32 (9) 値段を聞く No. 36 (10) 電話を受ける No. 48 (11) 店の場所を聞く No. 51 (12) 劇場・映画館 No. 58 (13) 天候について No. 61 (14) 学校について No. 63 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	英語音に関する聴き取りの課題を毎週おこなう。
使用教材・参考文献	【教】 古藤晃 『CDで覚えるはじめての日常英会話』 西東社 2007年 ISBN978-4-7916-1257-4	
成績評価方法と基準	日・英語の微妙な音の違いを自分で音として出せることを合格とする。 Dialogue 25%, Extension 25%, Homework 25%, Final 25%	
備考	毎回の出席を心掛けてください。	

科目名	英語 I (法C)	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	外国語 (英語) / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	Reading, speaking, having fun with English through games and activities. リーディング、スピーキング、また英語を使ったゲームをして楽しむ。
	到達目標	To encourage students to enjoy studying English and inspire students to consider international issues. 学生に国際問題を考え、また英語を学ぶことの楽しさを知ってもらう。
授業計画	(1) Teacher introduction. Country, culture, hobbies, music. (2) Campus treasure hunt. (3) Phonemic chart / tongue twisters. (4) Crossword / song. (5) Newspaper game. (6) MR BODY. (7) Mid-semester review test. (8) BBC.COM. (9) DVD and film review test. (10) DVD and film review test. (11) Frequency / places. (12) Reading comprehension. (13) DVD and film review test. (14) DVD and film review test. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 ・ World Link - Stempleski - Thomson ・ Encounters - Ichiyama - Nan'un-do ・ Check Your English - Best - Nan'un-do ・ Getting into English - Cronin - Nan'un-do	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツレビューション50% 試験50%	
備考	授業の最初に毎回リスニングのテストを行います。	

科目名	英語Ⅱ（人関A）	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	大きい声で、人の前で英語を話す授業です。毎週、5，6行の英会話文を暗記し、その実演をします。
	到達目標	日本語音と英語音との微妙な差異に違いについて学び、その違いが自分で音として出せるようになる。
授業計画	(1) 別れ際のあいさつ (2) 趣味 (3) スポーツ (4) 音楽 (5) コンピュータ/インターネット (6) 訪問する (7) パーティ (8) 電話 (9) 道をたずねる (10) レストラン (11) ショッピング (12) 訪問する (13) 食べ物/グルメ (14) 車 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	英語音に関する聴き取りの課題を毎週おこなう。
使用教材・参考文献	【教】リードくみ子、ウィリアム・リード 『そのまま使える日常英会話』 日本文芸社 2008年 ISBN978-4-537-20654-8	
成績評価方法と基準	日・英語の微妙な音の違いを自分で音として出せることを合格とする。 Dialogue 25%, Extension 25%, Homework 25%, Final 25%	
備考	毎回の出席を心掛けてください。	

科目名	英語Ⅱ（人関B）	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	本科目では、コンピュータ教室を利用して実践的な英語力を養成する。CALLシステムを利用してリスニングやスピーキングの訓練を行う。また、ワープロソフトを使ったライティングやネットを利用したリーディングの訓練を行う。
	到達目標	実践的な英語力を習得する。 リスニングやスピーキングの能力を高める。 リーディングやライティングの実践力を高める。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) リスニング (1) (3) リスニング (2) (4) リスニング (3) (5) リスニング (4) (6) スピーキング (1) (7) スピーキング (2) (8) スピーキング (3) (9) リーディング (1) (10) リーディング (2) (11) リーディング (3) (12) ライティング (1) (13) ライティング (2) (14) ライティング (3) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容についてのクイズを行う。
使用教材・ 参考文献	【教】プリント配布 【参】英語の辞書など	
成績評価方法 と基準	<基準> 課題を通じて実践的な英語力を習得した者は合格とする。 <方法> 課題等80%、授業態度20%	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ USBメモリーを持ってくること。 ・ メールやMoodleのパスワードを持ってくること。 	

科目名	英語Ⅱ（人関C）	
担当者	スコット・バーンズ / Scott Burns	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	ゲームや会話を通じ、自分自身を表現する演習を行なう
	到達目標	英語表現の上達と使える英語を習得し、外国人に臆することなく話せるようになることを目標とする
授業計画	(1) 自己紹介（学生、講師） (2) Treasure Hunt (3) Talkopoly Game (4) Talk a Lot 1 第6課 (5) Talk a Lot 1 第6課 (6) Talk a Lot 1 第7課 (7) Talk a Lot 1 第7課 小テスト (8) Talk a Lot 1 第8課 (9) Talk a Lot 1 第8課 (10) Talk a Lot 1 第9課 (11) Talk a Lot 1 第9課 小テスト (12) 復習1 (13) 復習2 (14) 復習3 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。
使用教材・参考文献	【教】Talk a Lot 1	
成績評価方法と基準	出席率授業への取り組み試験	
備考	臆することなく、楽しく英語を学びましょう。	

科目名	英語Ⅱ（人関D）	
担当者	マーカス シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	Reading, speaking, having fun with English through games and activities. リーディング、スピーキング、また英語を使ったゲームをして楽しむ。
	到達目標	To encourage students to enjoy studying English and inspire the feeling of global citizenship. 学生に国際問題を考え、また英語を学ぶことの楽しさを知ってもらう。
授業計画	(1) Teacher introduction. Country, culture, hobbies, music. (2) Campus treasure hunt. (3) Halloween. (4) Interview I. (5) DVD and film review test. (6) DVD and film review test. (7) Mid-semester review test. (8) Interview II. (9) DVD and film review test. (10) DVD and film review test. (11) Christmas. (12) Haiku. (13) Listening practice. (14) Exam preview test. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】・Talk topic - McLean - EFL Press ・Moving on with English - Bray - Nan'un-do ・Inside English - Maggs - Macmillan Languagehouse	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツリビューション50% 試験50%	
備考	授業の最初に毎回リスニングのテストを行います。	

科目名	英語Ⅱ（法A）	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	本科目では、コンピュータ教室を利用して実践的な英語力を養成する。CALLシステムを利用してリスニングやスピーキングの訓練を行う。また、ワープロソフトを使ったライティングやネットを利用したリーディングの訓練を行う。
	到達目標	実践的な英語力を習得する。 リスニングやスピーキングの能力を高める。 リーディングやライティングの実践力を高める。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) リスニング (1) (3) リスニング (2) (4) リスニング (3) (5) リスニング (4) (6) スピーキング (1) (7) スピーキング (2) (8) スピーキング (3) (9) リーディング (1) (10) リーディング (2) (11) リーディング (3) (12) ライティング (1) (13) ライティング (2) (14) ライティング (3) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容についてのクイズを行う。
使用教材・ 参考文献	【教】プリント配布 【参】英語の辞書など	
成績評価方法 と基準	<基準> 課題を通じて実践的な英語力を習得した者は合格とする。 <方法> 課題等80%、授業態度20%	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ USBメモリーを持ってくること。 ・ メールやMoodleのパスワードを持ってくること。 	

科目名	英語Ⅱ（法B）	
担当者	マーカス シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	Reading, speaking, having fun with English through games and activities. リーディング、スピーキング、また英語を使ったゲームをして楽しむ。
	到達目標	To encourage students to enjoy studying English and inspire the feeling of global citizenship. 学生に国際問題を考え、また英語を学ぶことの楽しさを知ってもらう。
授業計画	(1) Teacher introduction. Country, culture, hobbies, music. (2) Campus treasure hunt. (3) Halloween. (4) Reading comprehension. (5) Interview I (6) BBC.COM II. (7) Mid-semester review test. (8) Interview II. (9) Memory test. (10) DVD and film review test (11) Christmas. (12) Haiku. (13) DVD and film review test. (14) Exam preview test. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】担当者作成資料 【参】・World Link - Stempleski - Thomson ・Encounters - Ichiyama - Nan'un-do ・Check Your English - Best - Nan'un-do ・Getting into English - Cronin - Nan'un-do	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツリビューション50% 試験50%	
備考	授業の最初に毎回リスニングのテストを行います。	

科目名	英語Ⅱ（法C）	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	大きい声で、人の前で英語を話す授業です。毎週、5, 6行の英会話文を暗記し、その実演をします。
	到達目標	日本語音と英語音との微妙な差異に違いについて学び、その違いが自分で音として出せるようになる。
授業計画	(1) 品物を選ぶ No. 35 (2) おすすめの店を聞く No. 39 (3) 電話をかける No. 46 (4) 利用方法を聞く No. 52 (5) 家族について No. 62 (6) 食べ物や飲み物の好み No. 65 (7) スポーツについて No. 68 (8) 音楽や芸術 No. 73 (9) 招待を受ける No. 80 (10) 料理や飲み物をすすめる No. 90 (11) お見舞い No. 95 (12) 慰める No. 12 (13) 感情の表現 No. 13 (14) 質問する No. 15 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	英語音に関する聴き取りの課題を毎週おこなう。
使用教材・参考文献	【教】 古藤晃 『CDで覚えるはじめての日常英会話』 西東社 2007年 ISBN978-4-7916-1257-4	
成績評価方法と基準	日・英語の微妙な音の違いを自分で音として出せることを合格とする。 Dialogue 25%, Extension 25%, Homework 25%, Final 25%	
備考	毎回の出席を心掛けてください。	

科目名	英語A (TOEIC I)	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	外国語 (英語) / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目では、実際にTOEICの練習問題を解きながら、TOEICの解き方のポイントや重要な文法、語句について学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのレベルに合わせてTOEICの得点を高める。 TOEICの出題パターンを理解し、最良の問題の解き方を習得する。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) Unit 1 Eating Out、文法 (動詞) (3) Unit 2 Travel、文法 (動詞の時制(1)) (4) Unit 3 Amusement、文法 (動詞の時制(2)) (5) Unit 4 Meeting、文法 (代名詞) (6) Unit 5 Personnel、文法 (不定詞) (7) Unit 6 Shopping、文法 (動名詞) (8) Unit 7 Advertisement、文法 (冠詞、名詞(1)) (9) Unit 8 Daily Life、文法 (冠詞、名詞(2)) (10) Unit 9 Office Work、文法 (仮定法) (11) Unit 10 Business、文法 (分詞) (12) Unit 11 Traffic、文法 (関係詞) (13) Unit 12 Finance and Banking、文法 (接続詞) (14) Unit 13 Media、文法 (前置詞) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容についてのクイズを行う。
使用教材・参考文献	【教】北尾泰幸ほか 『Step-up Skills for the TOEIC Test (いま始めよう TOEICテスト-CD付-)』 朝日出版社 2010年 【参】英語の辞書	
成績評価方法と基準	<基準> TOEICの出題パターンを理解し、最良の問題の解き方を習得した者は合格とする。 <方法> 期末試験50%、受講態度20%、課題ほか30%	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 予習、復習をしっかりとすること。 辞書を毎回必ず持ってくること。 	

科目名	英語B (TOEIC II)	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	外国語 (英語) / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目では、実際にTOEICの練習問題を解きながら、TOEICの解き方のポイントや重要な文法、語句について学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのレベルに合わせてTOEICの得点を高める。 TOEICの出題パターンを理解し、最良の問題の解き方を習得する。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) Unit 1 Eating Out[文の構造] (3) Unit 2 Amusement[名詞I：名詞・代名詞] (4) Unit 3 Daily Life[名詞II：可算／不可算名詞] (5) Unit 4 Directions[形容詞・副詞] (6) Unit 5 Travel[動詞・助動詞] (7) Unit 6 Advertising[時制] (8) Unit 7 Personnel[イディオムI] (9) Unit 8 Purchases[一致] (10) Unit 9 Office Work[分詞・動名詞・不定詞] (11) Unit 10 Employment[関係詞] (12) Unit 11 Business[接続詞・前置詞] (13) Unit 12 Finance & Banking[特殊構文] (14) Unit 13 Health & Welfare[比較] (15) Unit 14 Computers & The Internet[仮定法]	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容についてのクイズを行う。
使用教材・参考文献	【教】西田晴美ほか 『Power Charge for the TOEIC Test (TOEICテストパワーアップ総合講座)』 金星堂 2010年 【参】英語の辞書	
成績評価方法と基準	<基準> TOEICの出題パターンを理解し、最良の問題の解き方を習得した者は合格とする。 <方法> 期末試験50%、受講態度20%、課題ほか30%	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 予習、復習をしっかりとすること。 辞書を毎回必ず持ってくること。 	

科目名	英語C（ビジネス英語I）	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目では、ビジネスで使われる英語を学習する。オフィスで交わされる会話や、ビジネス文書を題材にして、基本的な用語、言い回し、スタイルなどを学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスで使われる基本的な用語、言い回しを使えるようになる。 ・ ビジネス文書の基本的なスタイルを学び、書けるようになる。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) Lesson 1 Job Hunting (3) Lesson 2 The First Day (4) Lesson 3 Writing Email (5) Lesson 4 Greeting a Visitor (6) Lesson 5 Explaining a Corporate Profile (7) Lesson 6 Deciding on a Date for a Meeting (8) Lesson 7 Attending a Meeting (9) Lesson 8 Dealing with Complaints (10) Lesson 9 Getting Ready for an Overseas Business Trip (11) Lesson 10 Gathering Information for a Presentation (12) Lesson 11 Writing a Presentation Draft (13) Lesson 12 Traveling Abroad for the First Time (14) Lesson 13 Giving a Presentation (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容についてのクイズを行う。
使用教材・参考文献	【教】 岡本真由美・中邑光男 『Make It in Business（ビジネス英語はじめの一步）』 センテージ ラーニング株式会社 2010年 【参】 英語の辞書	
成績評価方法と基準	<基準> ビジネスで使われる英語の基本的な用語、言い回し、スタイルを使えるようになった者は合格とする。 <方法> 期末試験50%、受講態度20%、課題ほか30%	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習、復習をしっかりとすること。 ・ 辞書を毎回必ず持ってくること。 	

科目名	英語D（ビジネス英語Ⅱ）	
担当者	藏本 真衣 / KURAMOTO, Mai	
科目情報	外国語（英語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	テキスト及び担当者が実際にやり取りしてきた多くの実例文をもとにビジネスレター、Eメール、お礼・苦情・推薦等社交の手紙、CV（履歴書）の書き方を学びます。
	到達目標	基礎的なビジネスレター、Eメール、社交文、履歴書等が英語で書けるようになる。
授業計画	(1) Social letters and Business letter (2) Letters of Thanks, Application, and Recommendation I (3) Letters of Thanks, Application, and Recommendation II (4) Passing on Information (5) Making a Request, Expressing Thanks (6) Establishing a Business relationship I (7) Establishing a Business relationship II (8) Purchasing Products I (9) Purchasing Products II (10) Making an Enquiry (11) Selling Products I (12) Selling Products II (13) Asking for a Price Reduction Demanding Payment (14) Negotiating Delivery Date Notification of Change of Personnel (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	返却された訂正、アドバイス付き提出課題を熟読し、英語力を高める。
使用教材・参考文献	【教】松崎久純 『英文ビジネスレター&Eメールの正しい書き方』 研究社、2004年 【参】Sumiyuki Sakasegawa, <i>A Companion to Practical English</i> . Seizansha, 2000年	
成績評価方法と基準	<基準>基本的な英文ビジネスレターが書けるようになったものは合格とする。 <評価>アサインメント60%、終了試験40%。	
備考		

科目名	ドイツ語Ⅰ	
担当者	山原 芳樹 / YAMAHARA, Yoshiki	
科目情報	外国語（ドイツ語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	文字と綴り・発音の原則を学習した後に、自然なドイツ語の発音ができるまで練習を重ねる。そのあとで、文法を学ぶ上で最も基本的な事項である「動詞の現在人称変化」と「名詞の格変化」を扱う。並行して、ドイツ語圏の人々の暮らしや文化についての映像や資料を紹介する。
	到達目標	1) ドイツ語の母音および子音に関する発音原則を理解し、単語や文章をきちんと音読できる。2) 日常の挨拶や簡単な会話ができるようになる。3) 簡単な自己紹介ができるようになる。
授業計画	(1) ヨーロッパ各国とドイツ語圏、EU加盟国 (2) 文字、つづりと発音、注意すべき母音と子音の発音 (1) (3) 注意すべき母音と子音の発音 (2)、世界の言語 (4) 挨拶、曜日名、月名、数詞：発音練習 (5) 人称代名詞と動詞の現在形 (1)：現在人称変化 (6) 人称代名詞と動詞の現在形 (2)：同上 (7) 人称代名詞と動詞の現在形 (3)：同上 (8) 文章の構造：語順、否定文、 (9) 表現練習：自己紹介(出身地) (10) 読解練習：ミュンヘン (11) 名詞の性と定冠詞・不定冠詞 (12) 名詞の格変化：定冠詞、不定冠詞 (13) 格の用法、疑問代名詞 (14) 表現練習：自己紹介(職業と専攻名、趣味) (15) 読解練習：ザルツブルク、総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】『ブーメラン』小野寿美子・中川明博・西巻丈児著、2013年、朝日出版社（ISBN978-4-255-25360-2 C1084） 【参】独和辞典（必ず用意すること、備考参考）	
成績評価方法と基準	<基準>ドイツ語で簡単な自己紹介ができ、期末試験で60点以上を取得した者は合格とする。 <方法>受講態度20%、小テスト20%、期末試験60%。	
備考	・『新アポロン独和辞典』（同学社）、『新アクセス独和辞典』、三修社、『新クラウン独和辞典』（三省堂）等、見出し語数が5万以上のものが望ましい。	

科目名	ドイツ語Ⅱ	
担当者	山原 芳樹 / YAMAHARA, Yoshiki	
科目情報	外国語（ドイツ語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	前期に引き続いて定冠詞（類）および不定冠詞（類）の格変化を学習するとともに、あらたに前置詞の格支配についても学習し、その幅広い用法に理解を深める。また動詞関係では、不規則な現在人称変化とともに命令形を学ぶ。
	到達目標	1) 代表的な不規則動詞の現在人称変化を言うことができる。2) 定冠詞（類）および不定冠詞（類）のついた名詞の格変化形を言うことができる。3) 前置詞を用いて場所や方法等を表現できる。4) 人称代名詞の3格・4格の使い方が分かる。
授業計画	(1) 第3課 不規則動詞の現在人称変化 (1) (2) 不規則動詞の現在人称変化 (2) (3) 命令形、名詞の複数形 (4) 数詞、非人称のes (5) 練習問題：時刻の表現、買い物（野菜と果物） (6) 読解練習：ウィーン市街で (7) 第4課 定冠詞類、不定冠詞類 (8) 否定表現、家族紹介、身につけるもの (9) 表現練習：ハンブルクで買い物 (10) 読解練習：家族のプロフィール (11) 第5課 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形 (12) 人称代名詞の3格と4格、疑問代名詞 (13) 単語練習：街の施設と建物 (14) 表現練習：バーゼルで道を尋ねる (15) 読解練習：スイスの産業都市、「ドイツ語II」の総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】『ブーメラン』小野寿美子・中川明博・西巻丈児著、2013年、朝日出版社（ISBN978-4-255-25360-2 C1084） 【参】独和辞典（必ず用意すること、前期の備考を参考）	
成績評価方法と基準	<基準> ドイツ語で簡単な家族紹介ができる。また道を尋ねたり、買い物をしたりする表現を使うことができる。 <方法> 受講態度20%、小テスト20%、期末試験60%	
備考	・ドイツ語Iを履修したことを前提にして授業を進める。	

科目名	ドイツ語Ⅲ	
担当者	山原 芳樹 / YAMAHARA, Yoshiki	
科目情報	外国語（ドイツ語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	動詞関係では、分離動詞を学んで、表現内容の幅を広げるとともに、動詞三基本形を参考にしながら、現在完了形の用法を理解する。名詞関係では、定冠詞（類）および不定冠詞（類）の変化形の原則を学習する。また、二つ以上の文が結びつく場合のルールを学ぶ。
	到達目標	1) 代表的な分離動詞を用いて作文ができる。2) 定冠詞（類）および不定冠詞（類）のついた名詞の格変化形を記すことができる。3) 過去分詞を調べて、現在完了形で報告文を書くことができる。4) 主文と副文の構造を説明できる。
授業計画	(1) 第7課 「ドイツのパン」 パン屋さんで (2) 分離動詞 (1) 仕組み (3) 分離動詞 (2) 意味と使い方 (4) 会話練習：「～が開く、閉まる」 (5) 読解練習：ドイツの朝食スタイル (6) 第8課「サッカー」私の好きなスポーツ (7) 所有冠詞の使い方 (8) 会話練習：家族紹介、好きな色 (9) 従属接続詞と副文 (10) 長文読解：ワールドカップ1954 (11) 第9課 「ベルリン」壁は1989年に崩壊した (12) 現在完了形の作り方と用法、sein支配 (13) sein支配動詞の過去分詞 (14) 会話練習：「～は、いつ、どこで生まれたのか」 (15) 読解練習「イーストギャラリー」、「ドイツ語III」総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】『ドイツ・サラダ』保坂良子著、2011年、朝日出版社（ISBN978-4-255-25333-6 C1084） 【参】独和辞典	
成績評価方法と基準	<基準>ドイツ語で簡単な家族紹介ができる。また長文の構造を分析し、辞書を用いながら、内容の概略を説明することができる。 <方法>受講態度20%、小テスト20%、期末試験%。	
備考	・ドイツ語Ⅱを履修したことを前提に授業を進める。	

科目名	ドイツ語Ⅳ	
担当者	山原 芳樹 / YAMAHARA, Yoshiki	
科目情報	外国語（ドイツ語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	現在完了形の作り方と用法を習得し、これらの形を会話や作文で使用する力を高める。さらに、重要な前置詞についてその意味と用法を理解し、具体的な場面における運用力を養う。
	到達目標	1)3基本形の作り方を理解し、重要なものを暗記する。 2)現在完了形を会話や作文の中で運用できる。 3)3格支配、4格支配の前置詞を使うことができる。 4)3・4格支配の前置詞の意味と用法を理解する。 5)長文を構造分析し、辞書を用いて大意を述べることができる。
授業計画	(1) 第10課「文化の多様性」私はケバブを食べた (2) 現在完了形、haben支配の動詞 (3) 動詞の3基本形（不定詞-過去基本形-過去分詞） (4) 会話練習：現在完了形 (5) 読解練習：履歴書の読み方 (6) 第11課「クリスマス」プレゼントはどこ？ (7) 前置詞、格支配と用法 (8) 3・4格支配の前置詞 (9) 会話練習「どこにありますか」「どこに行きますか」 (10) 読解練習「クリスマスの歌」 (11) 第12課「環境問題」瓶はどこに捨てる？ (12) 3格支配の前置詞、4格支配の前置詞 (13) 会話練習「どこに置くのか」「どこに入るのか」 (14) 読解練習「ハガキの読み方と書き方」 (15) 「ドイツ語Ⅳ」総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】『ドイツ・サラダ』保坂良子著、2011年、朝日出版社（ISBN978-4-255-25333-6 C1084） 【参】独和辞典	
授業前の準備学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
成績評価方法と基準	<基準> ドイツ語で簡単な履歴書が書ける。また長文の構造を分析し、辞書を用いながら、内容の概略を説明することができる。 <方法> 受講態度20%、小テスト20%、期末試験%。	
備考	・ドイツ語Ⅲを履修したことを前提に授業を進める。	

科目名	フランス語 I	
担当者	飯田 伸二 / IIDA, Shinji	
科目情報	外国語（フランス語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	フランス語の初心者向けの授業です。 フランス語の発音や、文法の基礎を学びながら自己紹介の仕方を学びます。
	到達目標	フランス語の発音の基礎を身につける。 フランス語の文法の基礎を理解する。 簡単な自己紹介ができる。
授業計画	(1) 自分, 相手, 第三者の名前 (2) 自分, 相手, 第三者の国籍, 出身地, 数字 (1~10) (3) 数字 (11~60), 国籍, 住んでいるところ (4) 国籍, 住んでいるところ (続き), 値段 (5) 職業, 言語 (6) 職業, 言語 (続き), 数字 (61~1000) (7) 数字 (続き), 電話番号 (8) 名前, 国籍, 年来, 職業, 話す言語, 住んでいる町 (まとめ) (9) 好き嫌い (10) 数字 (1001~10000), 年号 (11) 文法のまとめ (12) 月曜から, 日曜までの生活, 動詞の活用 (13) 月曜から, 日曜までの生活, 動詞の活用 (続き) (14) 起きてから寝るまで (15) 起きてから寝るまで (続き)	
自学自習	事前学習	特に必要ありません。時間があれば、教科書をながめて、次回はどんなことを学ぶのか思い浮かべてみてください。
	事後学習	1) 教科書, ノートを読み返して下さい。 2) 新出単語は暗記しましょう。動詞の活用も覚えましょう。
使用教材・参考文献	【教】『フランス語2020』(白水社)	
成績評価方法と基準	<基準> 基礎的な文法知識を理解し, コミュニケーションに活かせる。 <方法> 筆記試験 (100%)	
備考		

科目名	フランス語Ⅱ	
担当者	飯田 伸二 / IIDA, Shinji	
科目情報	外国語（フランス語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	フランス語を半年学習した受講生向けの授業です。 フランス語の発音や、文法の基礎を学びながら、1週間、1日の生活を話すことを学びます。
	到達目標	フランス語の発音を身につける。 フランス語の文法の基礎を修得する。 1週間、1日の生活を話す。
授業計画	(1) 前期の復習，前期試験の講評 (2) 月曜から日曜まで，動詞の活用 (3) 起きてから寝るまで (4) 起きてから寝るまで（続き） (5) すること，しないこと (6) すること，しないこと（続き） (7) すでにしたこと，週末にしたこと (8) すでにしたこと，週末にしたこと（続き） (9) 文法のまとめ (10) したこと，あったこと (11) したこと，あったこと（続き） (12) あのころは… (13) あのころは…（続き） (14) 場所と思い出 (15) 場所と思い出（続き）	
自学自習	事前学習	特に必要ありません。時間があれば，教科書をながめて，次回はどんなことを学ぶのか思い浮かべてみてください。
	事後学習	1) 教科書，ノートを読み返して下さい。 2) 新出単語は暗記しましょう。動詞の活用も覚えましょう。
使用教材・参考文献	【教】『フランス語2020』（白水社）	
成績評価方法と基準	<基準>基礎的な文法知識を理解し，コミュニケーションに活かせる。 <方法>筆記試験（100%）	
備考	すでに半年間フランス語を学習した受講生を対象とした授業です。 授業計画は前期に開講される「フランス語I」の進度次第で若干変更される可能性があります。	

科目名	フランス語Ⅲ	
担当者	飯田 伸二 / IIDA, Shinji	
科目情報	外国語（フランス語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	会話と音読を中心とした授業です。 1年生の復習をしながら、自己紹介の仕方、1週間の予定の言い方を学びます。
	到達目標	フランス語の発音の基礎を身につける。 フランス語の文法の基礎を理解する。 簡単な自己紹介ができる。1週間の予定が言える。
授業計画	(1) 自分について述べる1, 買い物をする1, 数字1~20など (2) あいさつする, 人称代名詞1など (3) 自分について述べる2, 名詞, 形容詞の性と数など1 (4) 自分について述べる3, 形容詞の性と数2など (5) 自分について述べる3, 形容詞の性と数2など（続き） (6) 評価する1, 評価の形容詞 (7) 評価する1, 評価の形容詞（続き） (8) 注文する, 買い物をする2, 冠詞など (9) 注文する, 買い物をする2, 冠詞など（続き） (10) どこかへ行く, 冠詞の縮約 (11) どこかへ行く, 冠詞の縮約（続き） (12) 物や人を描写する, 疑問文の作り方 (13) 物や人を描写する, 疑問文の作り方（続き） (14) 物や人を描写する, 疑問文の作り方（続き） (15) まとめ	
自学自習	事前学習	特に必要ありません。時間があれば、教科書をながめて、次回はどんなことを学ぶのか思い浮かべてみてください。
	事後学習	1) 教科書, ノートを読み返して下さい。 2) 新出単語は暗記しましょう。動詞の活用も覚えましょう。
使用教材・参考文献	【教】『ディアローグ（改訂版）』（第三書房）	
成績評価方法と基準	<基準> 基礎的な文法知識を理解し, コミュニケーションに活かせる。 <方法> 筆記試験（100%）	
備考	すでに1年間フランス語を学習した受講生を対象とした授業です。	

科目名	フランス語Ⅳ	
担当者	飯田 伸二 / IIDA, Shinji	
科目情報	外国語（フランス語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	会話を中心とした授業です。
	到達目標	過去にしたことについて話すことができる。 好き嫌いが言える。 欲しい物が言える。
授業計画	(1) 買い物をする3, 中性代名詞など (2) 買い物をする3, 中性代名詞など（続き） (3) 自分について述べる4, 直接／関節目的語など (4) 自分について述べる4, 直接／関節目的語など（続き） (5) 提案する／承諾する／拒否する, 命令文など (6) 提案する／承諾する／拒否する, 命令文など（続き） (7) 提案する／承諾する／拒否する, 命令文など（続き） (8) 電話する, 情報を求める, 代名動詞 (9) 電話する, 情報を求める, 代名動詞（続き） (10) 電話する, 情報を求める, 代名動詞（続き） (11) 過去の物語／できごとの展開を話す, 複合過去など (12) 過去の物語／できごとの展開を話す, 複合過去など（続き） (13) 物語の展開, 背景説明, 半過去など (14) 物語の展開, 背景説明, 半過去など（続き） (15) 物語の展開, 背景説明, 半過去など（続き）	
自学自習	事前学習	特に必要ありません。時間があれば, 例文を聞き, NHKラジオ・テレビのフランス語講座を視聴して下さい
	事後学習	課題はきちんとこなして下さい。短時間で結構です, 教科書, ノートを読み返して下さい。
使用教材・参考文献	【教】『ディアローク』（第三書房）	
成績評価方法と基準	<基準>過去, 未来について秩序だった受け答えができる。 <方法>筆記試験（100%）	
備考	すでに1年半フランス語を学習した受講生を対象とした授業です。 授業計画は前期に開講される「フランス語III」の進度次第で若干変更される可能性があります。	

科目名	中国語Ⅰ	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	この授業は中国語を初めて学ぶ人が対象です。 中国語の発音と基本的文法、日常の挨拶言葉、短い文の読解、簡単な作文を学びます。
	到達目標	1, 4種の声調と半3声、声調変化の規則を理解し、声母と韻母を正確に発音し、自分の名前を中国語で紹介できるようになる。 2, 簡単な挨拶、1～10の数字と「是」（～である）と「有」（もっている）の構文を肯定、否定、疑問の形で言えるようになる。
授業計画	(1) 4つの声調とその声調には意味があるということ。単母音と声調の練習 (2) 単母音・複母音と声調の練習。挨拶の言葉。主語と述語だけの短文 (3) 声母の発音練習。無気音と有気音、摩擦音、捲舌音、新しい単語と文 (4) 鼻音（-n, -ngを伴う音）の練習。1～10の数字の発音。新しい単語と文 (5) 第1課 人称代名詞と自己紹介 「私は～と申します。」という表現 (6) 同上 発音・朗読の練習と練習問題 (7) 第2課 「是～」（～です）の表現と「～吗?」（～か）と疑問詞疑問文 (8) 同上 発音・朗読の練習と練習問題 (9) 第3課 目的語のある表現（～を～する）と形容詞述語文 (10) 同上 「こそあど」言葉と「～的」（～の）表現と「的」の省略 (11) 同上 形容詞述語文。発音の矯正と朗読の練習 練習問題 (12) 第4課 「想」（～したい）と形容詞述語文 (13) 第5課 「有」（もっている）数の言い方（11～9999億）家族の呼び方 (14) 同上 比較の言い方 家族の呼び方 量詞の用法（1人などの言い方） (15) 練習問題 想まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおく。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておく。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ文法と新出単語を復習して記憶する。 ・テキストの本文を何度も読み、書き写す。
使用教材・参考文献	【教】相原茂 陳淑梅 飯田敦子『日中いぶこみ広場』 朝日出版社 2011年	
成績評価方法と基準	発音:30点 筆記試験:70点 欠席1回につき3点減点。出席が3分の2に満たない場合、失格となります。教科書を持たずに受講することが続いた場合、単位の認定はとても困難になります。	
備考	声調を含む発音は、1音節語が発音できるようになれば、それでマスターできたというものではありません。複音節語の各音節を正確に流暢に発音できるようになるまでが第1段階です。	

科目名	中国語Ⅰ	
担当者	張 紹好 / CYO, Syoyo	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	この授業は中国語を初めて学ぶ人が対象です。 中国語の発音と基本的文法、日常の挨拶言葉、短い文の読解、簡単な作文を学びます。
	到達目標	1, 4種の声調と半3声、声調変化の規則を理解し、声母と韻母を正確に発音し、自分の名前を中国語で紹介できるようになる。 2, 簡単な挨拶、1～10の数字と「是」（～である）と「有」（もっている）の構文を肯定、否定、疑問の形で言えるようになる。
授業計画	(1) 4つの声調とその声調には意味があるということ。単母音と声調の練習 (2) 単母音・複母音と声調の練習。挨拶の言葉。主語と述語だけの短文 (3) 声母の発音練習。無気音と有気音、摩擦音、捲舌音、新しい単語と文 (4) 鼻音（-n, -ngを伴う音）の練習。1～10の数字の発音。新しい単語と文 (5) 第1課 人称代名詞と自己紹介 「私は～と申します。」という表現 (6) 同上 発音・朗読の練習と練習問題 (7) 第2課 「是～」（～です）の表現と「～吗?」（～か）と疑問詞疑問文 (8) 同上 発音・朗読の練習と練習問題 (9) 第3課 目的語のある表現（～を～する）と形容詞述語文 (10) 同上 「こそあど」言葉と「～的」（～の）表現と「的」の省略 (11) 同上 形容詞述語文。発音の矯正と朗読の練習 練習問題 (12) 第4課 「想」（～したい）と形容詞述語文 (13) 第5課 「有」（もっている）数の言い方（11～9999億）家族の呼び方 (14) 同上 比較の言い方 家族の呼び方 量詞の用法（1人などの言い方） (15) 練習問題 想まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおく。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておく。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ文法と新出単語を復習して記憶する。 ・テキストの本文を何度も読み、書き写す。
使用教材・参考文献	【教】相原茂 陳淑梅 飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 2011年	
成績評価方法と基準	発音:30点 筆記試験:70点 欠席1回につき3点減点。出席が3分の2に満たない場合、失格となります。教科書を持たずに受講することが続いた場合、単位の認定はとても困難になります。	
備考	声調を含む発音は、1音節語が発音できるようになれば、それでマスターできたというものではありません。複音節語の各音節を正確に流暢に発音できるようになるまでが第1段階です。	

科目名	中国語Ⅱ	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	中国語Ⅰで学んだ発音をさらに正確なものとし、語彙を増やし、新しい文法と表現を学びます。簡単な文章を読んで書く練習もします。
	到達目標	(1) 経験の表現 数詞を使った表現(年月日・曜日・時刻等)「～するのが好き」の表現を理解し言うことができる。 (2) 助動詞「要」「能」等の助動詞を使うことができる。 (3) 「在～」「从～到～」と結果補語の表現を使うことができる
授業計画	(1) オリエンテーション 前期の復習 第6課、本文の朗読と新しい単語 (2) 第6課 朗読、経験の表現 「～するのが好き」 助動詞「要」 (3) 同上 数詞を使った表現 練習問題 (4) 第7課 朗読と新しい単語 年月日、曜日、時刻の言い方 (5) 同上 文末の「了」 状況変化の表現 (6) 同上 練習問題 (7) 第8課 朗読と新しい単語 時間量の言い方 量詞の用法 (8) 同上 「～から」と「～へ」の表現 (9) 同上 朗読 練習問題 (10) 第9課 朗読と新しい単語 「～にある」の表現 (11) 同上 「～しているところだ」 進行の表現 (12) 同上 朗読 練習問題 (13) 第10課 朗読と新しい単語 可能の表現 「能」 (14) 同上 結果補語 動作の結果まで含めた言い方 (15) 同上 練習問題 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・文法を復習し、新出単語を記憶する。 ・テキストの本文を何度も朗読し、書き写す。
使用教材・参考文献	【教】相原茂 陳淑梅 飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 2011年	
成績評価方法と基準	発音:10点 筆記試験:90点 欠席1回につき3点減点。出席が3分の2に満たない場合、失格となります。教科書を揃えずに受講し続けた場合単位は認定できません。	
備考	中国語Ⅰを履修したか、履修したものと同等の力があると認められない場合は、受講できません。	

科目名	中国語Ⅱ	
担当者	張 紹好 / CYO, Syoyo	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	中国語Ⅰで学んだ発音をさらに正確なものとし、語彙を増やし、新しい文法と表現を学びます。簡単な文章を読んで書く練習もします。
	到達目標	(1) 経験の表現 数詞を使った表現(年月日・曜日・時刻等)「～するのが好き」の表現を理解し言うことができる。 (2) 助動詞「要」「能」等の助動詞を使うことができる。 (3) 「在～」「从～到～」と結果補語の表現を使うことができる
授業計画	(1) オリエンテーション 前期の復習 第6課、本文の朗読と新しい単語 (2) 第6課 朗読、経験の表現 「～するのが好き」 助動詞「要」 (3) 同上 数詞を使った表現 練習問題 (4) 第7課 朗読と新しい単語 年月日、曜日、時刻の言い方 (5) 同上 文末の「了」 状況変化の表現 (6) 同上 練習問題 (7) 第8課 朗読と新しい単語 時間量の言い方 量詞の用法 (8) 同上 「～から」と「～へ」の表現 (9) 同上 朗読 練習問題 (10) 第9課 朗読と新しい単語 「～にある」の表現 (11) 同上 「～しているところだ」 進行の表現 (12) 同上 朗読 練習問題 (13) 第10課 朗読と新しい単語 可能の表現 「能」 (14) 同上 結果補語 動作の結果まで含めた言い方 (15) 同上 練習問題 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・文法を復習し、新出単語を記憶する。 ・テキストの本文を何度も朗読し、書き写す。
使用教材・参考文献	【教】相原茂 陳淑梅 飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 2011年	
成績評価方法と基準	発音:10点 筆記試験:90点 欠席1回につき3点減点。出席が3分の2に満たない場合、失格となります。教科書を揃えずに受講し続けた場合単位は認定できません。	
備考	中国語Ⅰを履修したか、履修したものと同等の力があると認められない場合は、受講できません。	

科目名	中国語Ⅲ	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	中国語Ⅰ・中国語Ⅱで学んだことを基礎として、更に語彙を増やし、新しい文法と表現を学びます。簡単な文章を読んで書く練習もします。
	到達目標	(1) “跟”, “和”, “給”などの介詞や“会”、“应该”、“敢”などの助動詞を使えるようになる。 (2) 結果補語・様態補語を理解し使えるようになる。 (3) “把”を使う処置文を理解し使えるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション 第10課までの復習 第11課本文の朗読と訳 (2) 第11課 本文朗読 新出単語の解説 「～できる」 (3) 同上 復習 二重目的語をとる動詞 様態補語 練習問題 (4) 第12課 本文朗読 単語の解説 方向補語 動詞の重ね型 (5) 同上 復習 本文朗読 もうひとつの「～できる」 (6) 同上 復習 練習問題 (7) 第13課 本文朗読 単語の解説 「～ねばならない」・「もし～ならば」 (8) 同上 疑問詞の不定用法 助動詞のまとめ (9) 同上 復習 練習問題 (10) 第14課 本文朗読 単語の解説 可能補語の表現 (11) 同上 金銭の言い方、値段の聞き方 「～を～する」処置の形 (12) 同上 復習 練習問題 (13) 第15課 本文朗読 単語の解説 「AそれともB」選択疑問文 (14) 同上 「～に～させる」使役の表現 (15) 同上 練習問題 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・文法を復習し、新出単語を記憶する。 ・テキストの本文を何度も朗読して、書き写す。
使用教材・参考文献	【教】相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 2011年	
成績評価方法と基準	発音:10点 筆記試験:90点 欠席1回につき3点減点。 出席が3分の2に満たない場合、失格となります。	
備考	中国語Ⅰと中国語Ⅱを受講して合格したか、またはそれと同等の力があると認められる人が受講できます。	

科目名	中国語Ⅳ	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	外国語（中国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	中国語Ⅰ・中国語Ⅱ・中国語Ⅲで学んだことを基礎として、短編の文章を読んでいきます。身の周りのことを平易に述べた文章をそのまま応用して自分のことを紹介し、練習問題では、CDを聞いて聞く力を伸ばします。
	到達目標	(1) 300字程度の文で自己紹介ができるようになる。 (2) 大学の地理的位置と学生生活を説明できるようになる。 (3) 趣味について言えるようになる。 (4) 起床から登校、授業・就寝までを説明できるようになる。
授業計画	(1) 第15課までの復習 本文の朗読 発音矯正 ミニ会話 (2) 第16課 本文の朗読 受身の表現 禁止の表現 (3) 同上 朗読 発音矯正 前置詞のまとめ (4) 童話「アヒルの子 泳ぎをまなぶ」を読む 朗読と翻訳 作文練習 (5) 同上 朗読と翻訳 発音の矯正 作文練習 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同上 (9) 同上 (11) 魯迅『故郷』を読む 朗読と翻訳 作文練習 (12) 同上 (13) 同上 (14) 同上 (15) 同上 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・文法を復習し、新出単語を記憶する。 ・テキストの本文を朗読し、書き写して、暗記する。
使用教材・参考文献	【教】相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 2011年 金近『小鴨子学游水』、魯迅『故郷』	
成績評価方法と基準	発音：10点 筆記試験：90点 欠席1回につき3点減点。 出席が3分の2に満たない場合、失格となります。	
備考	中国語Ⅰ・中国語Ⅱ・中国語Ⅲを履修したか、またはそれと同等の力のある者が受講できます。	

科目名	韓国語 I	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	この授業は韓国語を初めて学習する人が対象です。韓国語の文字（ハングル）と発音から学習します。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。映像資料等を用いて韓国文化の紹介もする予定です。
	到達目標	(1) 韓国語の文字と発音を正確に習得する。 (2) 自己紹介ができる。 (3) 身の回りの物や人について表現できる。 (4) 予定について表現できる。 (5) 習慣について表現できる。
授業計画	(1) 韓国語の文字と発音（母音・子音） (2) 韓国語の文字と発音（子音・パッチム） (3) 韓国語の文字と発音（単語）、韓国語の挨拶 (4) 日本人の名前のハングル表記・自己紹介 (5) 職業・国籍について話す (6) 身の回りの物の名称を韓国語で表現する。 (7) 身の回りの物の持ち主について表現する (8) 相手の名前を尋ねる (9) 自分の持ち物について話す (10) 家族について話す (11) 家や学校がどこにあるかについて話す (12) 物や人の位置関係を話す (13) 予定について話す (14) 習慣について話す (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・確認（前回の授業内容を確認） ・予習（当日の授業内容に目を通しておく）
	事後学習	・復習（対話文の音読練習および暗記）、宿題 ・小テストを学期中に3回実施
使用教材・参考文献	【教】入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語STEP1』 白帝社 2002年 【参】入佐信宏 『書き込み式 美しいハングル練習帳』 白帝社 2008年 【参】CASIO電子辞書（韓国語 7600シリーズ）	
成績評価方法と基準	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。	
備考	韓国語海外語学研修（教養科目1群「韓国の言語と文化」）の参加希望者で、韓国語を習ったことがない者は必ず履修すること。	

科目名	韓国語 I	
担当者	金 孝珍 / Kim Hyojin	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	この授業は韓国語を初めて学習する人が対象です。韓国語の文字（ハングル）と発音から学習します。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。映像資料等を用いて韓国文化の紹介もする予定です。
	到達目標	(1) 韓国語の文字と発音を正確に習得する。 (2) 自己紹介ができる。 (3) 身の回りの物や人について表現できる。 (4) 予定について表現できる。 (5) 習慣について表現できる。
授業計画	(1) 韓国語の文字と発音（母音・子音） (2) 韓国語の文字と発音（子音・パッチム） (3) 韓国語の文字と発音（単語）、韓国語の挨拶 (4) 日本人の名前のハングル表記・自己紹介 (5) 職業・国籍について話す (6) 身の回りの物の名称を韓国語で表現する。 (7) 身の回りの物の持ち主について表現する (8) 相手の名前を尋ねる (9) 自分の持ち物について話す (10) 家族について話す (11) 家や学校がどこにあるかについて話す (12) 物や人の位置関係を話す (13) 予定について話す (14) 習慣について話す (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・確認（前回の授業内容を確認） ・予習（当日の授業内容に目を通しておく）
	事後学習	・復習（対話文の音読練習および暗記）、宿題 ・小テストを学期中に3回実施
使用教材・参考文献	【教】入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 【参】入佐信宏 『書き込み式 美しいハングル練習帳』白帝社 2008年 【参】CASIO電子辞書（韓国語 7600シリーズ）	
成績評価方法と基準	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。上記評価方法により、合計が60以上に到達した者を合格とします。	
備考	韓国語海外語学研修（教養科目1群「韓国の言語と文化」）の参加希望者で、韓国語を習ったことがない者は必ず履修すること。	

科目名	韓国語Ⅱ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	この授業は「韓国語Ⅰ」の履修者または韓国語を3ヶ月程度学習した人が対象です。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。映像資料等を用いて韓国文化の紹介もする予定です。
	到達目標	(1) うちとけた場で使う丁寧な文体（へヨ体）が使える。 (2) 趣味・日付・電話番号・時間・個数・値段が表現できる。 (3) 予定や習慣について話せる。 (4) 人や物の姿や性質、自分の感じていることが表現できる。 (5) 店や食堂で買い物をしたり、注文したりできる。
授業計画	(1) 趣味や職業について話す (2) 月日を表現する (3) 自分の持ち物や家族について話す (4) 電話番号を表現する (5) 数を数える・時間を表現する (6) 予定や習慣について話す (7) // (8) 授業時間・営業時間等を表現する (9) 人や物の姿や性質を表現する (10) 自分の感じていることを表現する (11) 移動の手段・所要時間を表現する (12) 値段を尋ねる・値段を言う (13) 個数を言って注文する (14) 食堂での会話 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・確認（前回の授業内容を確認） ・予習（当日の授業内容に目を通しておく）
	事後学習	・復習（対話文の音読練習および暗記）&宿題 ・小テストを学期中に3回実施
使用教材・参考文献	【教】入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 【参】CASIO電子辞書（韓国語 7600シリーズ）	
成績評価方法と基準	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。	
備考	韓国語海外語学研修（教養科目1群「韓国の言語と文化」）の参加希望者で、韓国語を習ったことがない者は必ず履修すること。	

科目名	韓国語Ⅱ	
担当者	金 孝珍 / Kim Hyojin	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	この授業は「韓国語Ⅰ」の履修者または韓国語を3ヶ月程度学習した人が対象です。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。映像資料等を用いて韓国文化の紹介もする予定です。
	到達目標	(1) うちとけた場で使う丁寧な文体（へヨ体）が使える。 (2) 趣味・日付・電話番号・時間・個数・値段が表現できる。 (3) 予定や習慣について話せる。 (4) 人や物の姿や性質、自分の感じていることが表現できる。 (5) 店や食堂で買い物をしたり、注文したりできる。
授業計画	(1) 趣味や職業について話す (2) 月日を表現する (3) 自分の持ち物や家族について話す (4) 電話番号を表現する (5) 数を数える・時間を表現する (6) 予定や習慣について話す (7) // (8) 授業時間・営業時間等を表現する (9) 人や物の姿や性質を表現する (10) 自分の感じていることを表現する (11) 移動の手段・所要時間を表現する (12) 値段を尋ねる・値段を言う (13) 個数を言って注文する (14) 食堂での会話 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・確認（前回の授業内容を確認） ・予習（当日の授業内容に目を通しておく）
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・復習（対話文の音読練習および暗記）&宿題 ・小テストを学期中に3回実施
使用教材・参考文献	【教】入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 【参】CASIO電子辞書（韓国語 7600シリーズ）	
成績評価方法と基準	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。	
備考	韓国語海外語学研修（教養科目1群「韓国の言語と文化」）の参加希望者で、韓国語を習ったことがない者は必ず履修すること。	

科目名	韓国語Ⅲ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	この授業は「韓国語Ⅱ」の履修者または韓国語を6ヶ月程度学習した人が対象です。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。
	到達目標	(1) 過去の行動や感じたことについて表現できる。 (2) 勧誘表現が使用できる。 (3) 意志や願望が表現できる。 (4) 指示や依頼をすることができる。 (5) 能力や好み表現できる。
授業計画	(1) 過去（今朝、昨日、先週末）の行動について表現する (2) // (3) 過去の状態、過去に感じたことを表現する (4) // (5) 相手を誘う時の表現 (6) 移動の目的を表す表現 (7) 誘いかけの表現 (8) 意志を表現する。 (9) 願望を表現する。 (10) 相手に指示する。 (11) 丁寧に依頼する。 (12) 能力の有無を表現する。 (13) 感嘆の意を表す。 (14) 同意を求める。 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認（前回の授業内容を確認） ・ 予習（当日の授業内容に目を通しておく）
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復習（対話文の音読練習および暗記）＆宿題 ・ 小テストを学期中に3回実施
使用教材・参考文献	【教】 入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語STEP1』 白帝社 2002年 【参】 CASIO電子辞書（韓国語 7600シリーズ）	
成績評価方法と基準	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。	
備考		

科目名	韓国語Ⅳ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国語（韓国語） / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	この授業は「韓国語Ⅲ」の履修者または韓国語を9ヶ月程度学習した人が対象です。授業では、韓国語の文法および表現等について説明した後、音読練習・対話練習・作文練習をします。
	到達目標	(1) 適切な文法・表現を用いて自分の意見や気持ちを表すことができる。 (2) 敬語を正しく用いることができる。 (3) 鹿児島について韓国語で紹介できる。
授業計画	(1) 複数の事柄を並べて表現する。 (2) 原因・理由を表現する。 (3) 逆接表現を用いて話す。 (4) 複数の動作を行われる順序に述べる。 (5) 敬語を適切に用いて話す。 (6) 丁寧に表現する語尾 (7) 特別敬語を用いて話す。 (8) 形容詞の連体形 (9) " (10) 能力や可能なことを表現する。 (11) 仮定条件を用いて話す。 (12) 試みや経験を表現する。 (13) 許可や禁止を表現する。 (14) 意志を表現する。 (15) 誘いかけ・呼びかけの表現	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・確認（前回の授業内容を確認） ・予習（当日の授業内容に目を通しておく）
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・復習（対話文の音読練習および暗記）&宿題 ・小テストを学期中に3回実施
使用教材・参考文献	【教】入佐信宏・金炫辰 『よくわかる韓国語STEP2』白帝社 2008年 【参】CASIO電子辞書（7600シリーズ）	
成績評価方法と基準	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。	
備考		

科目名	臨床人間学	
担当者	野添 新一 / NOZOE, Shin'ichi	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	科学技術の進歩は私どもの生活や生き方を急変させて、現況では人間本来の適応力をも上回っているようである。それらのもたらす功罪、脳科学の発達、ストレス病、行動障害、病む人間関係に見られる問題など現代社会に特有な課題を取り上げる。
	到達目標	生老病死の問題は日常的にはあまり話題とはならないが、誰にとっても予想外の形で直面させられ避けることはできない。この講義を通して、自らの生き方、自己あるいは他との係わり合いの重要性と、様々な人間に見られる問題を通して人間理解を深める。
授業計画	(1) なぜ「臨床人間学」を学ぶ必要があるか？ (2) 脳についての新しい知見 (3) ストレスとは (4) 心の病(1)-うつ病 (5) 心の病(2)-不安性障害 (6) 心身症 (7) 嗜癖-そのメカニズムと実態 (8) 出生前診断-その功罪、倫理上の問題 (9) 痛みの人間学 (10) 摂食障害-その原因と背景について (11) 生活習慣病-高齢化社会との絡み (12) 老い (13) 自殺 (14) 死生学-安楽死、尊厳死など (15) アルツハイマー病(認知症)	
自学自習	事前学習	・各テーマについて予備知識を得ておくこと
	事後学習	配布資料から、自分の興味や関心を広げて欲しい。
使用教材・参考文献	【教】講義毎にプリントを配布する。 【参】生・老・病・死を考える15章、実践・臨床人間学入門(庄司進一著)朝日新聞社；参考になるが少しレベルが高い。	
成績評価方法と基準	講義の中から、試験を実施する。 採点は80点、レポート20点	
備考		

科目名	心理学概論	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	「こころの科学」といわれる心理学が成立した過程や、心理学がなにを目的として、どんな問題を解決しようとしているのかを、心理学のさまざまな研究領域を通して紹介する。
	到達目標	心理学のさまざまな領域について、必要な基礎知識を得ることと、人間の行動やこころについての研究方法を理解する。心理学史上における主要な研究者やその研究について概要を述べることができる。
授業計画	(1) 心理学とは何か：心を科学する、現代心理学の流れ (2) 感覚と知覚：感覚（感覚閾、刺激と感覚の関係、……） (3) 感覚と知覚：知覚（知覚の体制化、錯視、運動の知覚、……） (4) 行動のメカニズム：生理学的基礎、生得的な行動、習得された行動 (5) 記憶：記憶と情報処理、記憶のメカニズム (6) 記憶：日常生活からみた記憶、記憶の病理（PTSD、……） (7) 感情：感情の理論、感情と脳 (8) 発達：発達心理学の主要理論、発達心理学の研究法 (9) 発達：認知的発達（ピアジェの発達理論） (10) 社会性の発達：（愛着の機能と発達、対人関係の発達、道徳性の発達） (11) 社会：社会心理学における自己、社会的認知と態度 (12) 社会：対人関係と对人的影響、集団心理 (13) 個人差：パーソナリティ、知能、心理アセスメント (14) 心の障害と支援：心の支援の在り方 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・適宜、授業の初めに前回の授業内容を振り返る。
使用教材・参考文献	【教】吉崎一人他編著『心理学概説』ナカニシヤ出版、2010年。 【参】授業中に適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準>心理学の基礎的な専門用語や、著名な心理学者の研究について、概要を説明できる。 <方法>試験(80点)と授業への参加度(20点)。	
備考		

科目名	心理学実験Ⅰ	
担当者	◎片平 / 神菌 / 木下 / 白井 / 野上	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 後期 / 実験 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	心理学においてこれまで蓄積されてきた心理学的理論や法則、モデル等を実験を通じて実際に体験しながら、基本的な実験、調査、観察、計量の仕方を学ぶ。
	到達目標	実験を通じて、種々の心理事象について関心を深めると共に、心理学の基礎知識を習得する。 また実際の実験遂行、データ処理の仕方、レポート（論文）の書き方など、科学的研究活動に必要な初歩的技能を獲得する。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション (2) Ⅰ. 知覚心理学分野 (3) " (4) Ⅱ. 社会心理学分野 (5) " (6) まとめ (7) Ⅲ. 行動研究の基礎 (8) " (9) Ⅳ. 学習心理学分野 (10) " (11) まとめ (12) Ⅴ. 認知心理学分野 (13) " (14) まとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションで配布する資料をよく読んでおくこと。 ・不明な用語は関連する書籍等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野・領域ごとにレポート課題を課す。 ・必要な事項は関連する書籍等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	毎回の実験に参加し、その都度レポート課題を提出することが単位認定の最低条件である。最終成績は、各回を担当する教員がそれぞれ独立に評価したものの合算による。	
備考	1年生の受講は認めない。1限目と2限目の両方共受講すること。再履修クラスもこれに準拠するが、子細は別途指示する。	

科目名	心理学実験Ⅱ	
担当者	神菌 紀幸 / ◎木下 昌也 / 白井 祐浩 / 野上 真 / 松田 君彦 /	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 前期 / 実験 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	心理学実験Ⅰに引き続き、心理学的理論や法則、モデル等を実験を通じて実際に体験しながら、基本的な実験、調査、観察、計量の仕方を学ぶ。
	到達目標	実験を通じて、種々の心理事象について関心を深めると共に、心理学の幅広い基礎知識を習得する。 また実際の実験遂行、データ処理の仕方、レポート（論文）の書き方など、科学的研究活動に必要な技能を獲得する。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション (2) Ⅰ. 知覚心理学分野 (3) " " (4) Ⅱ. 社会心理学分野 (5) " " (6) まとめ (7) Ⅲ. 行動研究の基礎 (8) " " (9) Ⅳ. 認知心理学分野 (10) " " (11) まとめ (12) Ⅴ. 学習心理学分野 (13) " " (14) まとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションで配布する資料をよく読んでおくこと。 ・不明な用語は関連する書籍等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野・領域ごとにレポート課題を課す。 ・必要な事項は関連する書籍等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	毎回の実験に参加し、その都度レポート課題を提出することが単位認定の最低条件である。最終成績は、各回を担当する教員がそれぞれ独立に評価したものの合算による。	
備考	2年生以下の受講は認めない。1限目と2限目の両方共受講すること。	

科目名	心理検査法 I	
担当者	◎石井利文/飯干紀代子/石井佳世/大島英世/白井祐浩/松本宏明/山喜高秀	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	心理検査法 I では、心理検査の基礎として、質問紙法や投影法、知能検査等の中で最も頻用されている検査の特徴や実施方法、解釈について学ぶ。なお、オリエンテーションと心理アセスメント概説の講義の後、3回目以降は2つの組に分かれ、並行して進めていく。組分けと各組の実習スケジュールは、第1回目のオリエンテーション時に配布する。
	到達目標	各心理検査の特徴や実施方法、解釈についての基礎的な知識を得ることができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心理アセスメント概説 (3) クレペリン (4) TEG-II (5) WAIS-III ① (6) WAIS-III ② (7) WAIS-III ③ (8) WAIS-III ④ (9) バウム・テスト (10) Y-G性格検査 (11) MMPI ① (12) MMPI ② (13) 長谷川式認知症スケール (14) SCT (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・各検査法について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】各心理検査用具およびマニュアルを使用し、必要に応じてレジメを配布する。	
成績評価方法と基準	<基準> 各心理検査の特徴や実施方法、解釈について理解しているものを合格とする。 <方法> 心理検査ごとにレポートを提出する。受講態度 (30点) と各検査のレポート (70点) で評価する。授業に出席せずにレポートを提出した場合は評価の対象としない。	
備考	実習の性質上、遅刻者は不利益を被ることになり、また他の受講生の迷惑になるため、遅刻は厳に慎むこと。	

科目名	心理検査法Ⅱ	
担当者	◎石井利文/飯干紀代子/石井佳世/大島英世/白井祐浩/松本宏明/山喜高秀	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 後期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	心理検査法Ⅱは、病院臨床でよく用いられている投影法を中心に計画されている。各検査の特徴及び実施方法、解釈の基本を学ぶ。
	到達目標	各心理検査の特徴や実施方法、解釈についての基礎的な知識を得ることができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) P-Fスタディ ① (3) P-Fスタディ ② (4) P-Fスタディ ③ (5) 新版S-M社会生活能力検査 (6) 三宅式記銘力検査、WCST (7) コラージュ (8) ベンダー・ゲシュタルト・テスト (9) 遠城寺式発達検査 (10) ロールシャッハ・テスト ① (11) ロールシャッハ・テスト ② (12) ロールシャッハ・テスト ③ (13) ロールシャッハ・テスト ④ (14) ロールシャッハ・テスト ⑤ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・各検査法について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】各心理検査用具およびマニュアルを使用し、必要に応じてレジメを配布する。	
成績評価方法と基準	<基準> 各心理検査の特徴や実施方法、解釈について理解しているものを合格とする。 <方法> 心理検査ごとにレポートを提出する。受講態度（30点）と各検査のレポート（70点）で評価する。授業に出席せずにレポートを提出した場合は評価の対象としない。	
備考	受講前提科目：心理検査法Ⅰ 実習の性質上、遅刻者は不利益を被ることになり、また他の受講生の迷惑になるため、遅刻は厳に慎むこと。	

科目名	心理学測定法	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari 鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	心理臨床<基礎> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、心理測定の論理およびそこで得られるデータの意味や処理のしかたについて講義する。また、隔週で講義で習ったことについて復習しつつ、コンピュータソフト上でのデータ処理の演習もおこなう。
	到達目標	基本統計量、実験計画に関わる言葉の意味及び統計的検定の手続きについて説明できるようになる。また、コンピュータ上で統計処理ができるようになる。加えて、統計学の思考法によって心理測定で生じうる問題に対応できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心理測定の問題点/データの種類 (3) 復習と演習 (4) 代表値と散布度 (5) 復習と演習 (6) 相関/クロス表 (7) 復習と演習 (8) 推測統計・実験計画の基礎 (9) 復習と演習 (10) 統計的検定の実際 (11) 復習と演習 (12) 要因配置と分散分析 (13) 復習と演習 (14) 日常の中の非合理的思考 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習について教科書、ノート、プリント、ムードル上の課題等で振り返っておくこと。
	事後学習	・当回の学習について教科書、ノート、プリント等で振り返ること。また、授業時間内に課題が終わらなかつたものは翌週までに終わらせておくこと。
使用教材・参考文献	【教】吉田寿夫『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房 1998年	
成績評価方法と基準	授業中に課す課題(50%)および期末テスト・レポート(50%)により、上記目標に到達しているかどうかを判断し、評価する。	
備考	初回到説明する授業スケジュールについて注意すること	

科目名	心理学研究法	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	現代の心理学においては、測定されたデータによって法則や理論を帰納することと、これら法則・理論からの予測をデータによって実証することの循環によって、生体行動を体系的に理解しようとする。この授業では、このような心理学的研究を行うための方法や原理を理解・習得することを目的とする。
	到達目標	心理学的研究の基本的方法について学び、その理解を深めると共に、測定されたデータの解析方法について把握する。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション (2) 心理学研究の論理とそのプロセス 実証のロジック (3) 研究の種類 実験的研究と相関的研究 (4) 実証のためのプロセスと考え方 (5) 実験的研究法 独立変数の操作 (6) 剰余変数の統制 統制の原理と必要性 (7) 従属変数の測定 測定の信頼性と妥当性 (8) 得られたデータの解釈と記述 主効果と交互作用効果の考え方 (9) 分散分析法 (10) 相関的研究法とその方法論 (11) 多変量解析の基礎 回帰モデルの考え方 (12) 重回帰分析の適用法 (13) 因子分析 (14) リサーチ・リテラシー データを読み取る力 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・心理学の研究方法について関連する資料や書籍に目を通して おき、意味のわからない用語は調べておくこと。
	事後学習	・参考資料等で必要な事柄についての理解を補っておくこと。
使用教材・ 参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】高野陽太郎・岡隆 編『心理学研究法』有斐閣アルマ2004年 ISBN 4-641-12214-8	
成績評価方法 と基準	種々の心理学的研究法についての知識を持ち、それらについて論述でき、データ解析方法について理解を得ていることを合格の目安とする。筆記試験を課す。[授業への取り組み(受講態度など)40% / 筆記試験 60%]	
備考	「心理学測定法」を履修済みであることを前提に授業は行う。	

科目名	学習心理学 I	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	古典的条件づけ及びオペラント条件づけを中心とした学習の過程について講義する。各テーマにおいて多くは動物実験の話から始めるが、最終的にはヒト（子どもも含む）の学習について見ていく。さらに学習心理学の視点から子どもの行動及び心の発達についても考察する。
	到達目標	オペラント学習及び古典的条件づけを中心とした学習のメカニズムを理解する。
授業計画	(1)学習とは (2)心理学史の中の学習心理学 (3)学習心理学の流れ (4)古典的条件づけ：パブロフの実験から (5)古典的条件づけ：嫌悪条件づけ (6)古典的条件づけ：古典的条件づけの諸問題 (7)オペラント条件づけ：オペラント条件づけの基礎 (8)オペラント条件づけ：部分強化と強化スケジュール (9)オペラント条件づけ：強化とは (10)オペラント条件づけ：応用行動分析 (11)学習と発達 (12)社会的学習 (13)技能の学習 (14)学習理論の応用：行動療法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること ・何回かおきに復習用の課題を課す
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。授業中資料を配付する。 【参】J. E. メイザー『メイザーの学習心理学』二瓶社 1996 ISBN4-931199-43-7 佐藤方哉『行動理論への招待』大修館書店 1976年 ISBN4-469-21056-0	
成績評価方法と基準	<方法> 期末テスト <基準> オペラント条件づけ及び古典的条件づけについて理解していること及びそれらについてヒトの学習として説明できること	
備考		

科目名	臨床心理学Ⅰ	
担当者	松本 宏明 / MATSUMOTO, Hiroaki	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	臨床心理学の基礎理論を学ぶ。それをもとに不登校や引きこもり，知的障害や自閉症などの発達障害，神経症や心身症，人格障害，精神病などのさまざまな精神疾患について説明する。それらに対する心理療法的対応についても論考する。
	到達目標	精神病理的の症状や問題行動について学び，その発生メカニズムを理解する。その理解にもとづいてカウンセリングや心理療法的対応の基礎を身につける。
授業計画	(1) 臨床心理学とは (2) カウンセリング/ 心理療法/臨床心理学 (3) 臨床心理学の構造 (4) 臨床心理学の歴史 (5) アセスメントとは何か (6) データの収集技法（面接法・観察法） (7) データの収集技法（検査法Ⅰ） (8) データの収集技法（検査法Ⅱ） (9) 異常心理学Ⅰ (10) 異常心理学Ⅱ (11) ライフサイクルと心理的問題Ⅰ (12) ライフサイクルと心理的問題Ⅱ (13) 発達過程で生じる障害や問題Ⅰ (14) 発達過程で生じる障害や問題Ⅱ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義の内容を自分なりにまとめる、余裕があれば参考文献にあたってみること。
使用教材・参考文献	【教】 下山晴彦編著『よくわかる臨床心理学（改訂新版）』ミネルヴァ書房 2009。補足資料は講義中に随時配布する。	
成績評価方法と基準	臨床心理学の基礎知識が身につく、精神病理的諸症状や問題行動への心理的対応が理解できたものは合格とする。 評価の方法は試験70%、受講態度30%で行う。	
備考		

科目名	社会心理学 I	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会の中で生起する個々人の行動について研究する学問である。本講義では社会心理学の主たる研究領域について概観し、その学問的意義について解説する。
	到達目標	社会心理学で扱われる様々な研究領域・各種研究トピックについて学び、学問的特色を理解する。 さらにこれらを通じて、社会心理学の基本的知識を習得する。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション 社会心理学とは何か (2) 社会心理学の研究方法及その研究対象 (3) 社会的行動の基礎—個人レベルで捉えた社会行動 …①内的要因 (4) // …②社会的動機, 社会的促進・社会的手抜き (5) // …③他者理解, 自己開示 (6) 相互作用と集団過程—小集団レベルでの相互作用過程 …①態度変容 (7) // …②対人魅力 (8) // …③攻撃行動 (9) // …④援助行動 (10) // …⑤非言語的コミュニケーション (11) 社会と個人の相互作用—マクロレベルでの社会行動 …①群衆行動 (12) // …②集団とは何か (13) // …③マスコミと世論 (14) // …④流言と情報伝達プロセス (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・社会心理学の基本的概念や用語について、関連する資料や書籍に目を通し、理解しておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は関連する資料等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	社会心理学全般に渡る基礎的知識とその理解を得ていることを合格の目安とする。そのため講義への出席や受講態度を重視する。筆記試験もしくはレポートを課す。[授業への取り組み 50% / 筆記試験 (レポート) 50%]	
備考	講義中、数回の研究調査・実験への参加依頼を行う可能性がある。これらを拒否することによる成績評価上の不利益はない。	

科目名	教育心理学 I	
担当者	石井 佳世 / ISHII, Kayo	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では児童・生徒理解のための、教育に対する心理学的アプローチについて学び、生徒指導の理論及び方法を学ぶことを目的とする。学習や動機付けなど教育心理学の基礎的な知見を概説し、それを実際の教育現場でどのように活かしていくかを共に考えたい。
	到達目標	教育心理学に関する基礎的な知識を習得する。 また、それを実際の教育現場へ活かす視点を獲得する。
授業計画	(1) オリエンテーション 教育心理学とは (2) 学習のメカニズム① (3) 学習のメカニズム② (4) 学習のメカニズム③ (5) 学習のメカニズム④ (6) 動機付け① (7) 動機付け② (8) 動機付け③ (9) 児童・生徒の評価① (10) 児童・生徒の評価② (11) 発達障害① (12) 発達障害② (13) 学級経営① (14) 学級経営② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配付されたプリント、ノートを読み、復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。プリントを配付する。 【参】講義中適宜紹介する	
成績評価方法と基準	〈方法〉受講態度・コメントカード（40%）、試験（60%）によって総合的に判断する。 〈基準〉教育心理学に関する基礎的な知識を有し、実践への応用について考えられたものは合格とする。	
備考		

科目名	発達心理学 I	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	子どもの心身の発達過程とその諸要因について講義する。
	到達目標	発達の原理及びヒトの発達の特徴について理解する。
授業計画	(1) 発達とは (2) 遺伝と環境 (3) パーソナリティの遺伝① (4) パーソナリティの遺伝② (5) 初期経験と臨界期 (6) 初期経験としての親子関係について (7) ヒトの発達の特徴 (8) 発達の様相と時期の区分 (9) 新生児のできること (10) 発達段階説 (11) 行動発達①：幼児期 (12) 行動発達②：児童期 (13) 行動発達③：青年期 (14) 年齢間比較の方法と問題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること ・何回かおきに復習用の課題を課す
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。授業中資料を配付する。 【参】矢野喜夫・落合正行『発達心理学への招待』サイエンス社 1991年 岡野恒也（編）『比較発達心理学』ソフィア 1992年 中谷勝哉『行動誌入門』ナカニシヤ出版 1997年	
成績評価方法と基準	上記到達目標に関わる期末テストにおいて60点以上とった者を合格とする。	
備考		

科目名	産業組織心理学 I	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講では、産業組織心理学の基礎理論、特にモチベーション、リーダーシップ、職場のコミュニケーションに関する理論について解説する。あわせて、組織やチームの一員として効果的に振る舞うための留意点について、体験学習を通して考察する。
	到達目標	組織の一員として円滑な人間関係を築き、業績を向上させることに関わる心理プロセス、行動の特色について理解する。このことを通じ、将来、社会人として仕事に取り組むための心構えや自信をつちかう。
授業計画	(1) 産業組織心理学の特色と歴史 (2) ワーク・モチベーション① (欲求とモチベーション) (3) ワーク・モチベーション② (報酬とモチベーション) (4) ワーク・モチベーション③ (目標設定とモチベーション) (5) 目標設定トレーニング (6) リーダーシップ① (リーダー行動の特色) (7) リーダーシップ② (状況に応じたリーダー行動) (8) リーダーシップ③ (リーダーに対する部下の働きかけ) (9) リーダーシップ・トレーニング (10) 職場のコミュニケーション① (報告・連絡・相談) (11) 職場のコミュニケーション② (会議の技術) (12) チームワーク (13) 葛藤解決トレーニング (14) ケースワーク① (15) ケースワーク②	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくと理解の助けになります。
	事後学習	適宜「おすすめの本」を紹介しますので読んでください。
使用教材・参考文献	【参】山口裕幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717	
成績評価方法と基準	本講で解説した産業組織心理学の基礎理論の理解を評価する。(出席態度45%, 試験55%)	
備考		

科目名	学習心理学Ⅱ	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期/ 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	前半は応用行動分析について、後半は言語行動をテーマに取り上げ学習心理学の視点から講義する。いずれの話題にも子ども（障害児を含む）の学習過程の内容を含む。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応用行動分析の基礎を理解すること ・ 言語の生物学的心理学的基盤およびその学習、発達過程について理解すること
授業計画	(1)オリエンテーション (2)行動分析学について (3)応用行動分析① (4)応用行動分析② (5)応用行動分析③ (6)応用行動分析④ (7)応用行動分析⑤ (8)応用行動分析⑥ (9)言語行動① (10)言語行動② (11)言語行動③ (12)言語行動④ (13)言語行動⑤ (14)言語行動⑥ (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・ 前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・ 当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。授業中資料を配付する。 【参】P.A. アルバート&A.C. トルートマン『初めての応用行動分析』二瓶社 1992年 ISBN 4-931199-15-1 日本行動分析学会編『ことばと行動』ブレーン出版 2001年 ISBN 4-89242-675-X 佐藤方哉『行動理論への招待』大修館書店 1976年 ISBN4-469-21056-0	
成績評価方法と基準	期末テストにより上記目標に到達しているかどうかを判定する。	
備考	「学習心理学Ⅰ」の内容についてすでに習得済みであることを前提に講義をおこなう。	

科目名	行動生理学	
担当者	山口 勝機 / YAMAGUCHI, Katsunori	
科目情報	心理臨床<基礎> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成22年度以前入学生「行動生理学Ⅰ」	
科目概要	授業内容	大脳皮質の運動機能、感覚機能、連合機能についてまた言語、記憶、生体のリズム、睡眠について学びながら、脳と心の関係について理解を深める。
	到達目標	大脳の働きについて学び、その機能局在を理解する。左右大脳半球の働きの違いについて学び、その違いが分離脳の研究に基づいていることを理解する。
授業計画	(1) 脳研究の歴史 (2) ニュ - ロンの働き - 1 - (3) ニュ - ロンの働き - 2 - (4) 脳の進化と発達 (5) 大脳皮質の働き - 運動と感覚 - (6) 大脳皮質の働き - 連合野 - (7) 大脳皮質の働き - 言語 - (8) 大脳皮質の働き - 言語 - (9) 左右大脳半球の働き - 動物の分離脳を中心に - (10) 左右大脳半球の働き - ヒトの分離脳を中心に - (11) 脳と記憶 - 1 - (12) 脳と記憶 - 2 - (13) 生体リズム - 視交叉上核 - (14) 睡眠 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容に関連する図書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】講義の時にプリントを配布する。 【参】松澤大樹編著 『目でみる脳とこころ』 NHK出版 2003年	
成績評価方法と基準	筆記試験により判定する。大脳皮質や左右大脳半球の基本的な働きについての理解が達成されたものは合格とする。	
備考		

科目名	認知心理学	
担当者	横山 春彦 / YOKOYAMA, Haruhiko	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	認知とはいかなる活動であり、なぜそうした機能が進化したか。心理学の研究対象であり、ヒトや動物の本質である行動という観点から、認知という機能について考察する。
	到達目標	授業内容がつかみやすいよう、毎回1つのキーワードをめぐって講義を行う。そのキーワードの意味する内容および、それが示唆するものについて適切な理解を得ることが目標である。
授業計画	(1) 行動…心理学の研究対象について (2) 反射…生得的な行動のしくみ① (3) 条件反射…生得的な行動のしくみ② (4) DVD視聴（盲導犬「チャンピィ」） (5) オペラント条件づけ…意図的な行動の法則 (6) 記憶…行動を変えるしくみ (7) 視覚…行動の手がかりとなるもの① (8) 色覚…行動の手がかりとなるもの② (9) 幾何学的錯視…行動の手がかりとなるもの③ (10) 感覚…行動の手がかりとなるもの④ (11) 恒常性…行動の手がかりとなるもの⑤ (12) 恒常性…行動の手がかりとなるもの⑥ (13) 視覚認知障害Ⅰ (14) 視覚認知障害Ⅱ (15) プレゼンテーションについて *諸事情により講義内容の前後することがあります。	
自学自習	事前学習	・シラバスに示されたキーワードにつき、事前にその概要を調べ、理解しておくことが望ましい。
	事後学習	・授業で提示されたキーワードにつき、その具体例や関連事項等について調べておくことが望ましい。
使用教材・参考文献	授業はパワーポイントで進める。 【教】テキストは使用せず、必要に応じて資料の配布を行う。 【参】参考図書などについても適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	授業態度等（30点）及び期末試験の成績（70点）により総合的に評価する。	
備考		

科目名	家族心理学	
担当者	片平 眞理 / KATAHIRA, Mari	
科目情報	心理臨床・心理学 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	家族ライフサイクルの各段階における発達課題や、家族の抱える、児童虐待、不登校、家庭内暴力、非行、夫婦間葛藤などの心理的問題と家族療法について解説する。
	到達目標	家族をシステムとしてみる視点を学ぶ。 家族ライフサイクルと発達課題を学ぶことで、各段階で生じやすい心理的問題とその援助法を理解する。
授業計画	(1) 家族心理学とは (2) 家族システム理論 (3) 家族の構造 (4) 家族の心理過程 (5) 家族の心理過程 (6) 家族のライフサイクルと発達課題 (7) 家族のライフサイクルと発達課題 (8) 児童虐待と家族 (9) 子どもの不登校と家族 (10) 子どもの家庭内暴力 (11) 子どもの非行と家族 (12) 夫婦間暴力と家族 (13) 中年期・老年期夫婦の心理的危機 (14) 家族への心理臨床的援助 (15) 家族への心理臨床的援助	
自学自習	事前学習	使用教材・参考文献を前もって読んでおくこと。
	事後学習	授業中に理解できなかった箇所について、参考文献で調べる。 授業中に紹介された課題図書を読む。
使用教材・参考文献	【教】教科書は用いない。講義中にプリントを配布する。 【参】中釜洋子他『家族心理学－家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣 2008年 ISBN978-4-641-18367-4 岡田隆介『子どもの心の発達とつまずきPart2』東京法令出版 1994年 ISBN4-8090-6073-X C3037 団士郎『不登校の解法』文藝新書 2012年 ISBN4-16-660085-0-C0237	
成績評価方法と基準	<基準>直線的因果律と、円環的因果律について説明できる。家族ライフサイクルと各段階における発達課題、および心理的問題について理解できる。 <方法>試験 80点と授業中の小レポート 20点。	
備考		

科目名	行動生理学演習	
担当者	山口 勝機 / YAMAGUCHI, Katsunori	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	身体的、精神的ストレスに対し脳は内分泌系や自律神経のストレス経路で対応している。この経路に対するセロトニン神経系の活性化がストレス克服において重要であることをみていく
	到達目標	様々なストレスに対処するためには、リズム運動によりセロトニン神経の活性化をはかるのが最も効果的である。このリズム運動とセロトニン神経の活性化の関係について理解を深める
授業計画	<p>ストレスはすべて「脳」が感じている</p> <p>(1) 心と体では、ストレスの「経路」がちがう？</p> <p>(2) 人間の二大ストレスは「依存症」と「逆恨み」</p> <p>(3) 「脳の発達」がストレスの始まりだった</p> <p>人生の質を決定づける「三つの脳」</p> <p>(4) 「学習脳」－快感を操る「ドーパミン神経」</p> <p>(5) 「仕事脳」－危機管理センター「ノルアドレナリン神経」</p> <p>(6) 「共感脳」－脳の指揮者「セロトニン神経」</p> <p>一日五分でできるセロトニンとレーニング</p> <p>(7) 脳を動かす「クールな覚醒」</p> <p>(8) なぜセロトニン不足はうつ病を招くのか</p> <p>(9) 「できる人」はセロトニン神経の達人だった</p> <p>どうして涙を流すとスッキリするのか</p> <p>(10) ストレスは「涙」の力で解消できる</p> <p>(11) 「情動の涙」には「スイッチング効果」が表れる</p> <p>(12) 涙によってストレスが解消するメカニズム</p> <p>最大の癒しは共感脳が与えてくれる</p> <p>(13) 人との触れあいが、トラウマ、うつ、ひきこもりの心を癒す</p> <p>(14) すべては脳でつながっている</p> <p>(15) 総まとめ</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容に関連する図書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】有田秀穂著『脳からストレスを消す技術』サンマーク出版、2010	
成績評価方法と基準	分担部分の発表およびレポートの提出により評価する。	
備考		

科目名	学習心理学演習	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	「別冊日経サイエンス」の心理学、神経科学にかかわる特集号の論文について毎回1～2編ずつ発表してもらう。
	到達目標	心理学、神経科学の最先端の研究に興味を持てるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 発表と解説、討論 (3) 発表と解説、討論 (4) 発表と解説、討論 (5) 発表と解説、討論 (6) 発表と解説、討論 (7) 発表と解説、討論 (8) 発表と解説、討論 (9) 発表と解説、討論 (10) 発表と解説、討論 (11) 発表と解説、討論 (12) 発表と解説、討論 (13) 発表と解説、討論 (14) 発表と解説、討論 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・自分の発表の回までに論文を読み、発表の準備をしておくこと
	事後学習	・他の人の発表について自分の発表と関連づけられないか検討すること
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。 【参】必要に応じ、授業中紹介する。	
成績評価方法と基準	授業中の発表（35%）と毎回の発表に対するコメント（65%）により評価する。授業に出てこない者は上記到達目標に達しなかったとみなして不合格とする。	
備考	内容がやや難しいので受講者においては心理学や脳科学の基本的なところをすでに習っていることが望ましい。	

科目名	認知心理学演習	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	認知心理学に関連した著名な理論や研究について、毎回数編ずつ発表してもらう。
	到達目標	認知心理学的アプローチについて理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 発表と解説、討論 (3) 発表と解説、討論 (4) 発表と解説、討論 (5) 発表と解説、討論 (6) 発表と解説、討論 (7) 発表と解説、討論 (8) 発表と解説、討論 (9) 発表と解説、討論 (10) 発表と解説、討論 (11) 発表と解説、討論 (12) 発表と解説、討論 (13) 発表と解説、討論 (14) 発表と解説、討論 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各テーマ発表終了時に、小レポートを提出する。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。 【参】必要に応じ、授業中に紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準>上記到達目標が達成されたものは合格とします。 <方法>授業中の発表(35%)、毎回の発表に対するコメント(65%)により評価する。3回以上欠席したものは、不合格とする。	
備考		

科目名	心理学特講	
担当者	山口 勝機 / YAMAGUCHI, Katsunori	
科目情報	心理臨床<心理学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	脳と行動の関係を明らかにする研究方法について学ぶ。また本能行動や情動行動の発現に重要な大脳辺縁系には快不快の感情、怒り、闘争、食べる飲むなど様々な働きがあることについて学ぶ。
	到達目標	本能行動の研究方法について学び、それらの研究方法を用いて大脳辺縁系の扁桃核視床下部の働きがどのように解明されていたかということや、これらの脳部位が心の働きに深くかかわっていることを理解する。
授業計画	(1) 脳と行動の研究方法 (2) 大脳辺縁系 (3) 海馬・扁桃核・視床下部への入出力系 (4) 海馬と行動 (5) 扁桃核と行動 -1- (6) 扁桃核と行動 -2- (7) 扁桃核と行動 -3- (8) 視床下部と行動 -1- (9) 視床下部と行動 -2- (10) 脳とストレス -1- (11) 脳とストレス -2- (12) 脳とストレス -3- (13) 脳の性分化 -1- (14) 脳の性分化 -2- (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容に関連する図書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】講義のときにプリントを配布する。	
成績評価方法と基準	本能行動やじょうじょう情動行動に大脳辺縁系の海馬・扁桃核・視床下部がどのようにかかわっているかについて理解が達成されたものは合格とする。その方法は筆記試験により判定する。	
備考		

科目名	教育学概論	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	教育の思想・理論・内容・方法・制度・歴史・現状など、教育学全般について概説する。また、各自が自分に引きつけて振り返り、考えやすいようにするため、随時、身近あるいは時事的な問題・話題を取り上げて論じる。
	到達目標	①教育に関する基礎知識を身に付け、教育学の領域と特徴について大まかにつかみ、視野を広げる。 ②自分自身の学習を援助する（自己教育）という客観的な視点を持ち、生活の様々な場面で実践できるようになる。
授業計画	(1) 教育とは何か ―教育の本質と目的― (2) 教育の思想 ―子ども観・教育観― (3) 人間の発達と学習 (4) 教育の制度と行政 (5) 学校教育 (6) 教育の内容① (7) 教育の内容② (8) 教育の方法① (9) 教育の方法② (10) 教師の仕事と教職論 (11) 大学生の教育環境 (12) 生涯学習社会と教育 (13) 教育の現代的課題 (14) 教育改革の動向 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レジュメと参考文献をもとに、基礎的な用語や考え方の理解を確実にしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリントを配布する。 【参】木村元・小玉重夫・船橋一男著『教育学をつかむ』有斐閣 2009年 篠田弘編著『資料でみる教育学』福村出版 2007年 このほか、適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	積極的にコメント欄に記入するなどして、自分で考え実践する姿勢を示し、定期試験で基礎知識の習得を確認できた場合に合格とする。（出席態度45%、コメント15%、テスト40%）	
備考		

科目名	学校臨床論	
担当者	◎神菌 紀幸 / 石井 佳世 / 松田 君彦	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、今日の学校教育における諸問題について考える上での基本的な理論や考え方を学び、様々な視点を持つ心理学的な知見をもとに、その克服の方途を考えていく。 また、生徒指導の理論及び方法について学ぶ。
	到達目標	現代の学校教育における様々な課題を教育臨床心理学的立場から考えることが出来ること。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション (2) I. 組織としての学校と学校教育 ① (3) // ② (4) // ③ (5) // ④ (6) II. 現代の学校における教育臨床的の諸課題 ① (7) // ② (8) // ③ (9) // ④ (10) III. 学校のあり方と学校臨床の展望 ① (11) // ② (12) // ③ (13) // ④ (14) // ⑤ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義中に理解が不十分であった事柄については、関連する図書や資料等にあたり、補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は「到達目標」の通り。本講義は3名の教員によるオムニバス形式で行われ、最終評価は各教員による評価得点を合算したものによる。	
備考		

科目名	教育哲学	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目は、教育という営みの本質的意味を問い様々な教育観（教育思想）を概観することによって、「教育とは何か」という本質的問いについて考えていきます。
	到達目標	(1) 教育哲学的解釈について理解を深める。 (2) 現代教育に影響を与えてきた諸学説について理解する。 (3) 現代教育に関わる諸問題について哲学的視座から考える態度を養う。
授業計画	(1) I. 教育哲学の本質～教育哲学とは何か～ 1) 教育哲学の成立 (2) 2) 教育の哲学的解釈 (3) 3) 教育の哲学的特質 (4) II. 教育哲学観（教育思想）の諸類型 1) 伝達（「教」）を重視する教育観 ①クリーク (5) " ②デュルケーム (6) 2) 助成（「育」）を重視する教育観 ③ルソー (7) " ④ペスタロッチ (8) " ⑤フレーベル (9) " ⑥エレン・ケイ (10) " ⑦デュエイ (11) 3) 実存思想に基づく教育観 ⑧ボルノー (12) III. 教育哲学の展開～臨床教育学へのアプローチ～ " ①教育的価値論への追求 (13) " ②教育的認識論への追求 (14) " ③教育的関係論への追求 (15) IV. 現代教育における教育哲学の課題と臨床教育学への関わり	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や提示した参考文献に目を通し授業への理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布します。 【参】・関川悦雄 他著 『教育思想のルーツを求めて』 啓明出版 2001年 ISBN 9784874480281 ・沼野一男 他著 『教育の原理』 学文社 2002年 ISBN 9784762002335 ・文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ISBN 9784827814613 ・文部科学省 『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009年 ISBN 9784827814781	
成績評価方法と基準	<基準>教育哲学に関わる基礎的知識を習得し、これらの知見に基づいて現代教育に対して自分の考えを述べることを合格の基準とします。 <方法>最終試験（60%）、小レポート（30%）、受講態度（20%）を目安に評価します。	
備考		

科目名	教育史	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋の近代教育思想史を学ぶことで、今日の教育に関する基本的な考え方の源流について理解できるようになる。 ・ 近世及び近現代の日本の教育史を学ぶことで、日本の教育の形成過程を理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができるようになる。
授業計画	(1) はじめに (2) 西洋の近代教育思想 (1) ー ルソー, コンドルセー (3) 西洋の近代教育思想 (2) ー ペスタロッチ, ヘルバルトー (4) 西洋の近代教育思想 (3) ー フレーベル, オーエンー (5) 西洋の近代教育思想 (4) ー デューイ, モンテッソーリー (6) 近世以前の教育史 (7) 明治時代の教育 (1) ー 近代教育の開始ー (8) 明治時代の教育 (2) ー 近代教育制度の確立ー (9) 大正時代の教育と大正新教育運動 (10) 昭和戦前期の教育と戦時下の教育 (11) 戦後の教育 (1) ー 戦後教育改革 (12) 戦後の教育 (2) ー 1950年代以降の教育ー (13) 教育慣行の歴史 - 学校行事 (14) 教育慣行の歴史 - 制服 (15) 近現代日本の教育と鹿児島	
自学自習	事前学習	参考文献を読んでおく。
	事後学習	既受講内容について復讐する
使用教材・参考文献	【教】 講義中に教材プリントを配布する 【参】 勝山吉章編著『西洋の教育の歴史を知るー子どもと教師と学校を見つめて』 あいり出版 2011年 ISBN9784901903479 ほか	
成績評価方法と基準	<基準> 今日の教育に関する基本的な考え方の源流や、日本の教育の形成過程について理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができること <方法> 授業参加度 55点 定期試験45点	
備考		

科目名	教育メディア論	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	<p>教職に関する科目（教育課程および指導法に関する科目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法および技術（情報機器及び教材の活用を含む） <p>教育では様々なメディアが活用されている。本授業では、紙メディアによる独学を支援する教材の作成を通じて、学習を支援するための設計や方略を学ぶ。これらは、コンピュータ等をはじめとしたメディアを教育で活用するための基礎となる。</p>
	到達目標	<p>独学を支援するための教材を作成できるようになることを目指す。そのためには、明確な目標の設定やテスト、教授方略を用いた教材の設計ができなければならない。また、作成教材に形成的評価を実施し、よりよい教材にするために改善策を提案できるようになる。</p>
授業計画	<p>【1】 (1) ガイダンス、独学教材について (2) 教材のアイデアの具体化 (3) 教材作成のシステム的手順 (4) 前提条件や目標の明確化 (5) テストの作成 (6) 教材企画書の作成 [課題1]</p> <p>【2】 (7) 相互評価・改訂版の作成 (8) 教材の構造を分析 (9) 学習支援方法の決定 (10) 教材の作成 (11) 相互評価・改訂 [課題2]</p> <p>【3】 (12) 形成的評価 (13) 教材の改善 (14) 教材作成報告書 [課題3] (15) 総まとめ</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を必要に応じて読む。 ・意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。 ・小テストや「使用教材・参考文献」を用いて復習する。
使用教材・参考文献	<p>【教】 鈴木克明『教材設計マニュアル—独学を支援するために』北大路書房, 2002年, ISBN9784762822445 [¥2, 310]</p> <p>【参】 R. M. ガニェ・W. W. ウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー (著), 鈴木克明・岩崎信 (監訳)『インストラクショナルデザインの原理』北大路書房, 2007年, ISBN9784762825736</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法> 小テスト・フォーラムへの投稿 (20%), 課題1 (20%), 課題2 (30%), 課題3 (30%) の累積で評価する。</p> <p><基準> すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。</p>	
備考	<p>教育実習を希望する者は、事前に本科目の履修が必要。 学芸員資格取得者は、平成23年度入学生以前の学生のみ必修。</p>	

科目名	教育工学	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	教職に関する科目（教育課程および指導法に関する科目） ・教育の方法および技術（情報機器及び教材の活用を含む） 授業を行うために必要な教育の方法やメディアの活用，授業の構成方法，評価，魅力ある授業などについて教育工学の視点から扱う。
	到達目標	教育工学（インストラクショナルデザイン）の考え方や手法を学び，授業をまとめ，デザインすることができるようになることを目指す。
授業計画	(1) ガイダンス，よりよい授業をめざして (2) インストラクショナルデザインとは何か (3) 学習目標を明確にする ―授業の構想を考える (4) 学力とは何か ―多様な学力の見方・考え方 (5) 何を教えるのか ―教材研究の方法 (6) どう教えるのか ―学習指導案の書き方 (7) 学習指導と評価(1) ―目標・指導・評価の一体化 (8) 学習指導と評価(2) ―目標に応じた評価 (9) 魅力ある授業をつくる(1) ―教師の振る舞い (10) 魅力ある授業をつくる(2) ―学習意欲を高める (11) 魅力ある授業をつくる(3) ―学習者の協同と活動 (12) 魅力ある授業をつくる(4) ―ICTの活用と情報モラル (13) 授業を分析してみよう (14) 研究授業・模擬授業から学び合うために (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を必要に応じて読む。 ・意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	・小テストや「使用教材・参考文献」を用いて復習する。 ・授業で学習したことを活かし，課題の完成度を高める。 ・他の学習者のフォーラムへの投稿に返信する。
使用教材・参考文献	【教】稲垣忠・鈴木克明『授業設計マニュアル―教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房，2011年，ISBN9784762827501 [¥2,310] 【参】赤堀侃司『教育工学への招待 教育の問題解決の方法論』ジャストシステム，2002年，ISBN9784883092352 【参】鈴木克明『教材設計マニュアル―独学を支援するために』北大路書房，2002年，ISBN9784762822445 【参】R. M. ガニエ・W. W. ウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー（著），鈴木克明・岩崎信（監訳）『インストラクショナルデザインの原理』北大路書房，2007年，ISBN9784762825736	
成績評価方法と基準	<方法> 小テスト・小課題（フォーラムへの投稿を含む）（60%），課題（40%）の累積で評価する。 <基準> すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。	
備考		

科目名	教育心理学Ⅱ	
担当者	石井 佳世 / ISHII, Kayo	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	近年、教育の現場において、不登校やいじめなど児童・生徒の心の問題が課題となっている。本講義では、特に臨床心理学の立場から、学校現場における教育相談・進路指導の理論及びの方法について概説する。特に、学級崩壊やいじめなど、実際に教育現場で起きている問題について取り上げ、具体的な対応について考える。
	到達目標	教育相談・進路指導の理論と実際について学ぶ。教育現場で起きている心の問題について、個人や集団への関わり等を習得する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 教育相談の実際（教育相談の進め方） (3) 教育相談の理論① (4) 教育相談の理論② (5) 教育相談の実際 (6) 思春期・青年期によくみられる精神疾患① (7) 思春期・青年期によくみられる精神疾患② (8) 思春期・青年期によくみられる精神疾患③ (9) 思春期・青年期によくみられる精神疾患④ (10) 不登校① (11) 不登校② (12) 児童虐待 (13) 進路指導 (14) 緊急支援 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配付プリントやノートを読み、復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。プリントを配付する。 【参】講義中、適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	〈方法〉受講態度・コメントカード（40%）、試験（60%）によって総合的に判断する。 〈基準〉教育相談に関する知識や技術を習得したものは合格とする。	
備考		

科目名	学校臨床論演習	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成22年度以前入学生「教育方法論演習」	
科目概要	授業内容	本科目は、適応支援の指導法として一役を担う音楽療法の手法を用いた教育方法について考えていきます。また、特別なニーズのある子どものコミュニケーション方法について、音楽療法の手法を用いた実践的展開を通して検討していきます。
	到達目標	(1) 教育方法の一試論となる音楽療法の意義について理解する。(2) 教育方法の一役を担う音楽療法の実践的展開を通して、適応支援への指導法について理解を深める。 (3) 特別なニーズのある子どものコミュニケーション方法について、音楽療法の視点から考察することができる。
授業計画	(1) 適応支援の指導法としての音楽療法の意義・目的 (2) 音楽療法の概念と定義 (3) 音楽療法の作用 (4) 音楽療法の原理 (5) 音楽療法のアセスメント（評価） (6) 適応支援における音楽療法の活用法① (7) " 音楽療法の活用法② (8) " 音楽療法の活用法③ (9) " 音楽療法の活用法④ (10) 適応支援における音楽療法の実践的展開① (11) " 音楽療法の実践的展開② (12) " 音楽療法の実践的展開③ (13) " 音楽療法の実践的展開④ (14) " 音楽療法の実践的展開⑤ (15) 適応支援における音楽療法の展望と課題	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・自らの経験と講義内容を踏まえ心を育む指導の在り方について省察し理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】村井靖児著 『音楽療法の基礎』 音楽之友社 1995年 ISBN 4276122880 中島恵子・山下恵子著 『Co-Musictherapy ～音と人をつなぐ～』 春秋社 2002年 ISBN 4393934679	
成績評価方法と基準	<基準> 適応支援の指導法を担う音楽療法の意義について習得し、音楽療法の実践的展開を通して、特別なニーズのある子どものコミュニケーションの在り方について考察することができることを合格の基準とします。 <方法> 最終レポート(50%)、小レポート(25%)、演習発表態度(25%)を目安に評価します。	
備考		

科目名	教育心理学演習	
担当者	石井 佳世 / ISHII, Kayo	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	グループごとにテーマを設定し、国内外の教育心理学の論文を購読する。資料作成、発表、ディスカッションを通じて、教育心理学に対する理解を深める。
	到達目標	教育心理学に対する理解を深め、説明できる。また、教育心理学研究の現状や課題、研究法について知る。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) グループ分け・教育心理学研究の読み方 (3) グループごとにテーマ設定をする (4) グループによる発表、ディスカッション (5) グループによる発表、ディスカッション (6) グループによる発表、ディスカッション (7) グループによる発表、ディスカッション (8) グループによる発表、ディスカッション (9) グループによる発表、ディスカッション (10) グループによる発表、ディスカッション (11) グループによる発表、ディスカッション (12) グループによる発表、ディスカッション (13) グループによる発表、ディスカッション (14) グループによる発表、ディスカッション (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レジュメを読み、復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。 【参】授業中に紹介する。	
成績評価方法と基準	<方法>ディスカッションへの参加等授業への参加態度 (40%)、発表内容 (60%) に基づき、総合的に評価する。 <基準>教育心理学研究における現状や課題など理解し、他者に説明できたものは合格とする。	
備考		

科目名	教育臨床実習	
担当者	石井 佳世 / 鈴木 雄清 / 野浪 俊子 / ◎松田 君彦	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	発達障害のある子どもの特徴，教育場面における集団編成や指導形態の在り方とその方法について学ぶ。発達障害児や家族への支援やその補助方法について，デイキャンプにおける野外活動等の企画立案や実習を通じて体験する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害のある子どもの特徴や教育方法の在り方について説明できるようになる。 ・発達障害のある子どもに対する心理教育的支援指導の補助ができるようになる。
授業計画	<p>(1)オリエンテーション</p> <p>【1】(2)発達障害のある子どもの特徴と教育（講義）・保険の手続き (3)発達障害のある子どもへの集団編成・指導形態の在り方と方法（調査） (4)発達障害のある子どもへの集団編成・指導形態の在り方と方法（発表）</p> <p>【2】(5)デイキャンプの企画立案(1) (6)デイキャンプの企画立案(2) (7)デイキャンプ企画の妥当性の検証（専門家のアドバイス） (8)デイキャンプ企画の改訂・企画書作成 (9)プレ実習の準備</p> <p>【3】(10) [プレ実習] プレ実習の振り返り (11)プレ実習を踏まえたデイキャンプ企画の改訂 (12)本実習の準備(1) (13)本実習の準備(2)</p> <p>【4】(14) [本実習] 本実習の振り返り (15) 実習全体の振り返りと総まとめ</p>	
自学自習	事前学習	・発達障害のある子どもの特徴や教育に関する情報を収集し，まとめる。
	事後学習	・デイキャンプを企画立案し，実施に必要な問題や準備に取り組む。 ・実習後の振り返りをレポートにまとめる。
使用教材・参考文献	<p>【教】 教科書は特に指定しない。必要な資料は授業中に配布する。</p> <p>【参】 授業中に適宜紹介する。</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法> 事前調査と発表（20%），活動の企画と実習への参画（60%），省察レポート（20%）の累積で評価する。</p> <p><基準> 原則として，事前学習の実施，活動計画と実習への参画，省察レポートの提出を単位取得の条件とする。</p>	
備考	<p>学生教育研究賠償責任保険への加入が必要である。詳細は授業中に説明する。休日を利用して，学外での野外活動を含む実習を実施する。</p>	

科目名	医学一般	
担当者	野添 新一 / NOZOE, Shin'ichi	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	医療・福祉領域の仕事に従事する予定、あるいは自分の健康増進・維持に努めたい人にとって必要な基本的医学知識が習得できるよう配慮する。現代的医学・医療の問題も含める。
	到達目標	人間の解剖・生理・発達の基本を学ぶ。また医学医療技術の発展を知り、最近の疾病構造の変化による疾患の予防、治療、リハビリを通して、単に疾病を知るのではなく病む人間の理解ができ、ヘルプできるようになることを目指す。
授業計画	(1) 人体の構造・機能、各器官と機能 (2) 成長・発達と老化 (3) 精神と身体の変化 (4) 心身機能と身体構造の概要 (5) 健康観 (6) 医療倫理 (7) 国際生活機能分類（ICF）の基礎的考え方と概要 (8) 現代社会と疾病：先天性疾患 (9) がん (10) 生活習慣病（1） (11) 生活習慣病（2） (12) 高齢者と疾患 (13) 感染症 (14) 精神・神経疾患 (15) 障害の概要	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	常識的な医学知識，医学用語は繰り返し学習して自分のものにするのが大切。
使用教材・参考文献	【教】医学一般 I（人体の構造と機能および疾病）ヘルス出版 平行して臨床上の問題もプリントして呈示する。	
成績評価方法と基準	試験を行うが 受講態度も重視する。	
備考	医療・福祉関係を目指す人の受講を勧める	

科目名	医療心理臨床学	
担当者	大島 英世 / OHSHIMA, Eisei	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本講義では、医療領域における臨床心理士の役割と心理療法の技法である臨床動作法について体験的に学びます。実際に実技体験をすることを通して、心理臨床家の態度やクライアントとの関わり方について学びます。
	到達目標	1. 医療領域における心理療法や臨床心理士のあり方を理解することができる。 2. 臨床動作法の理論や援助法、心理的な効果について理解することができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 心理療法について (3) 医療における臨床心理士の役割 (4) 臨床動作法を学ぶ 姿勢をみる1 (5) 臨床動作法を学ぶ 姿勢をみる2 (6) 臨床動作法を学ぶ 姿勢をみる3 (7) 臨床動作法を学ぶ ひとりでの体験1 (8) 臨床動作法を学ぶ ひとりでの体験2 (9) 臨床動作法を学ぶ 援助体験1 (10) 臨床動作法を学ぶ 援助体験2 (11) 臨床動作法を学ぶ 援助体験3 (12) いろいろな課題 体験1 (13) いろいろな課題 体験2 (14) いろいろな課題 体験3 (15) 総まとめ・成長を振り返る	
自学自習	事前学習	・日頃からからだの調子について関心をもっておくこと ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の復習、課題学習をすること
使用教材・参考文献	【教】授業中にプリントを配布、資料提示します 【参】鶴 光代著『臨床動作法への招待』金剛出版 2007年 成瀬悟策著 ブルーバックス 『姿勢のふしぎ』講談社 1998年 その他、適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	【基準】医療領域における臨床心理士の役割や臨床動作法の立場における理論や援助について理解した者を合格とする。 【方法】受講態度：40%、試験：60%	
備考	定員40名。からだを動かします。軽い運動ができるような服装で受講することが望ましい。	

科目名	精神保健	
担当者	大島 英世 / OHSHIMA, Eisei	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	こころの健康を中心として、生涯発達の視点からライフサイクルにおける精神保健について学びます。特に、子どものこころの健康や発達について学びます。
	到達目標	1. 精神保健の意義を理解することができる 2. 精神保健における子どものこころの健康の問題について理解することができる
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 精神保健とは (3) 成長・発達と精神保健 (4) 子どもの生活環境と精神保健 (5) 乳児期の精神保健 (6) 幼児期の精神保健 (7) 児童期の精神保健 (8) 青年期以降の精神保健 (9) 成人期・老年期の精神保健 (10) 障害のある子どもの精神保健 (11) 子どもの問題行動と対応について (12) 児童虐待の問題について (13) 子どもと家族を支える (14) 親の精神保健を支える (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を購入し、前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・使用教材の復習をすること
使用教材・参考文献	【教】宮本信也・小野里美帆編著 『シードブック 保育にいかす精神保健』 【参】適宜紹介する	
成績評価方法と基準	【基準】精神保健とこころの健康問題について理解した者を合格とする。 【方法】出席・受講態度：40%、試験 60%	
備考		

科目名	精神医学	
担当者	◎林岳宏 / 石塚貴周 / 浦田結嘉 / 小城卓郎 / 佐々木なつき / 塩川奈理 / 下洋央 / 瀬戸下玄郎 / 高取由紀子 / 出口晃子 / 寺崎茜 / 富安陽子 / 深川裕子 / 福田恭哉 / 前田冬海	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本講では精神医学の臨床を学ぶとともに、それをもとにさまざまな精神障害への対応を論考する。
	到達目標	精神保健福祉士、臨床心理士に必要な精神医学の知識を教授することを主眼とするが、広く一般教養としてメンタルヘルスの理解を深める。
授業計画	(1) 精神医学の概念 (林) (2) 精神医学の症状 (福田) (3) 統合失調症Ⅰ (瀬戸下/富安) (4) 統合失調症Ⅱと妄想性障害 (瀬戸下/富安) (5) 気分障害 (塩川) (6) 神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害 (小城) (7) 症状性および器質性精神障害 (浦田) (8) 認知症 (石塚) (9) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (前田) (10) 精神依存物質およびてんかん (出口) (11) 人格および行動の障害 (下) (12) 精神遅滞および心理発達の障害 (佐々木) (13) 緩和ケア (寺崎) (14) 精神保健福祉法 (深川) (15) 司法精神医学 (高取)	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	関連する領域を図書館で調べる。
使用教材・参考文献	プリントの配布、パワーポイントの使用 【参】現代臨床精神医学 金原出版	
成績評価方法と基準	レポート	
備考		

科目名	精神保健福祉援助技術総論	
担当者	大津 敬 / OHTSU, Takashi	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	精神障害者の障害特性について学び、生活支援のための基本的視点、必要とされる技術を学び理解を深める。又、精神保健福祉士が行うソーシャルワークの目的や価値について基本的な視点を学習する。講義形式を基本としながら演習・ビデオ学習等取り入れる
	到達目標	精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助活動について理解する。ソーシャルワーカーは精神障害のある人の生活にどのように関わるべきか、基本となる「価値」を踏まえた上で精神保健福祉領域における専門的援助技術の体系について理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション・精神保健福祉とは何か (2) 精神障害（者）の理解（統合失調症） (3) 精神障害（者）の理解（うつ・アルコール） (4) わが国の精神保健福祉の変遷① (5) わが国の精神保健福祉の変遷② (6) 専門的援助技術の体系 (7) 精神保健福祉活動の目的と価値・倫理 (8) 精神保健福祉活動の方法と過程 (9) 精神保健福祉援助技術の実際① (10) 精神保健福祉援助技術の実際② (11) 精神保健福祉援助技術の視点（関係作りの要素） (12) 精神保健福祉援助技術の視点（自己を活用する技術） (13) 精神保健福祉援助技術の視点（医学モデルと社会モデル） (14) 精神障害者の地域生活支援 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「参考文献」を前もって読んでおくことが望ましい。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の内容について考察し、その意義を明確にする。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。必要に応じて講義時にプリントを配布する。</p> <p>【参】改訂第3版 精神保健福祉援助技術総論 へるす出版 ISBN4-89269-525-4 ケースワークの原則 -援助関係を形成する技法- 誠信書房 ISBN4-414-60404-4</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準>精神障害の障害特性や福祉援助における対人サービスの視点を理解できている者は合格とする。</p> <p><方法>試験70%、受講態度30%で総合的に判断する。</p>	
備考		

科目名	生命倫理学	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	生命倫理学の諸問題について、より具体的な状況で生じる問題と、それへの対応について考える。特に医療臨床における倫理的考察の可能性を探る。
	到達目標	医療倫理における諸場面において、倫理的問題を指摘できる。
授業計画	(1) 生命倫理学を学ぶためのオリエンテーション (2) 人間の尊厳 (3) バイオ・エシックス (4) 生命倫理学の成立 (5) アメリカにおけるバイオ・エシックス (6) 日本における生命倫理学 (7) 医療における倫理問題 (8) 生命の誕生を巡る問題 (9) 生殖補助医療 (10) 中絶胎児の医療への利用 (11) 生命の終焉を巡る問題 (12) 脳死・尊厳死・安楽死 (13) 病名告知 (14) がん告知 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】丸山マサ美・編『医療倫理学・第2版』中央法規出版 2009年	
成績評価方法と基準	<基準>医療問題と倫理との関係が理解できたものは合格とする。 <方法>小テスト (20%)、受講態度(30%)、レポート(50%)	
備考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方などの説明)を行うので、必ず出席する。 教科書・ノートを事前に準備する。ルーズリーフは不可。	

科目名	人格心理学	
担当者	石井 利文 / ISHII, Toshifumi	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	<p>広く社会一般において性格や人格という用語が頻用されているが、そもそも性格や人格とはいったい何なのであろうか。その人の性格のために他者や社会が悩むことがあり、また自分の性格のためにその人自身が悩む場合もある。本講義ではこのような諸相を有する性格の定義や問題行動との関係等に関して学ぶ。なお、人格心理学やパーソナリティ心理学、性格心理学等において扱われる内容はほぼ同じものである。</p>
	到達目標	性格や人格に関する基礎的な知識が得られる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 性格の定義 (2) 性格の諸理論 ① (3) 性格の諸理論 ② (4) 性格理解の方法 (5) 性格の類型論 ① (6) 性格の類型論 ② (7) 性格の発達 (8) 家族関係と性格 (9) 人間関係と性格 (10) コミュニケーションに現れる性格 (11) 適性とは何か (12) 問題行動と性格 (13) 性格の正常・異常 ① (14) 性格の正常・異常 ② (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>・【教】 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待[改訂版]—自分を知り他者を理解するために—新心理学ライブラリ=9』サイエンス社 2003年 ISBN 4-7819-1044-0</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉性格や人格に関する基礎的な知識を得たものを合格とする。 〈方法〉受講態度（30点）と期末レポート（70点）で評価する。</p>	
備考		

科目名	臨床心理学Ⅱ	
担当者	片平眞理 /KATAHIRA Mari	
科目情報	心理臨床・医療臨床 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	心理療法に関する基礎的な知識や技法について学ぶ。 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法について学び、システム論による学校臨床という視点を理解する。
	到達目標	各種の心理療法の特徴、及び共通点について理解する。 学校における児童生徒への支援についての理論と方法を学び、理解する。
授業計画	(1) I 臨床心理学の実践活動 (2) II 心理療法 1) クライアント中心療法 (3) 2) 精神分析的心理療法 (4) 3) 行動療法 (5) 4) 認知行動療法 (6) 5) 家族療法 (7) ナラティブ・セラピー (8) 6) 森田療法・内観療法 (9) (2)～(9)のいずれかの授業中に心理療法に関連する課題を提示しレポートを課す。当該の週に計画された内容は翌週に講義する。 (10) III システム論からみた学校臨床 1) システムとしての学校 (11) 2) 教育相談・連携 (12) 3) 子どもの「問題」と援助 (13) 4) 子どもの「問題」と援助 (14) 5) 危機介入 (15) IV 社会的専門性	
自学自習	事前学習	参考文献を読み、分からない用語を調べておく。
	事後学習	授業で用いた教材を読み返し、疑問点を整理する。
使用教材・参考文献	【教】 下山晴彦編『よくわかる臨床心理学[改訂新版]』ミネルヴァ書房 2009年 ISBN 978-4-623-05435-0 【参】 吉川悟編『システム論からみた学校臨床』金剛出版 1999年 ISBN4-7724-0624-7 大河原美以『怒りをコントロールできない子の理解と援助』金子書房 2004年 ISBN4-7608-2161-9	
成績評価方法と基準	<基準> 各種の心理療法の特徴を理解し、また学校現場における臨床活動を学校システムという視点で捉えることができれば合格とする。 <方法> 授業中のレポート (30点)、終了試験 (70点)。	
備考		

科目名	医療心理臨床学演習	
担当者	大島 英世 / OHSHIMA, Eisei	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本講義では、実践力を養うために、心理面接の技法や集団療法について、体験を通して学びます。聴く、表現する、自分をみつめる、相手に関心に向けるなど、心理面接場面だけでなく、日常的なコミュニケーションに必要な技術を体験します。
	到達目標	1. 援助技法を実践することができ、人とコミュニケーションをとることができるようになる。 2. 実技演習を通して、心理的援助者の立場と有効な体験について理解し、実践することができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 臨床心理面接の基本態度と基本技法 (3) 「訊くこと」と「聴くこと」演習1 (4) コミュニケーション 演習2 (5) アサーショントレーニング (6) アサーショントレーニング 演習1 (7) アサーショントレーニング 演習2 (8) SST (9) SST 演習1 (10) SST 演習2 (11) 臨床動作法 (12) 臨床動作法 演習1 (13) 臨床動作法 演習2 (14) ストレスマネジメント 演習1 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・テーマについて学習しておくこと ・日常的にコミュニケーションに関心を持っておくこと ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと
	事後学習	・使用教材の復習・体験の振り返りをすること
使用教材・参考文献	【教】授業中にプリントを配布します。 【参】成瀬悟策著 ブルーバックス 『姿勢のふしぎ』講談社 1998年 平木典子著 『アサーショントレーニング』 日本・精神技術研究所1993年 その他、適宜紹介する	
成績評価方法と基準	【基準】心理面接の技法や集団療法の技法について体験・実践できた者を合格とする。 【方法】出席・受講態度：40%、試験60%	
備考	臨床動作法では、軽い運動ができる程度の動きやすい服装で参加すること	

科目名	臨床心理学演習	
担当者	松本 宏明 / MATSUMOTO, Hiroaki	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	臨床心理学の論文を読み、論文の形態、研究の方法を理解する。 論文を読む事により、最近の研究内容の知見を得る。
	到達目標	論文の検索の仕方を知り、最近の研究内容を知る。 論文を読む事で論文の形態を理解する。 臨床心理学の研究の方法を学ぶ。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 論文1 (3) 論文2 (4) 論文3 (5) 論文4 (6) 論文5 (7) 論文6 (8) 論文7 (9) 論文8 (10) 論文9 (11) 論文10 (12) 論文11 (13) 論文12 (14) 論文13 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習した論文の論旨をまとめておくこと。
使用教材・参考文献	【参】津川律子、遠藤裕乃著『初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル（第2版）』金剛出版 2011	
成績評価方法と基準	<基準> 臨床心理学の研究方法を理解できた者は合格とし、理解できていない者は不合格とする。 <方法> 受講態度20%、論文の発表60%、論文に対する討論参加20%	
備考	出席を大前提とするが、やむを得ず欠席する場合は届けをする事。	

科目名	医療臨床実習	
担当者	◎野添 新一 / 石井 利文 / 大島 英世 / 松本 宏明	
科目情報	心理臨床<医療臨床> / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	医療分野において患者中心の医療を実現するためには、患者に対する十分な心のケアが必要不可欠であり、現在、精神科や心療内科を中心に、産科、小児科においても心理臨床家の活躍する場が増加している。本実習は、「臨床人間学」や「医療心理臨床学」等の講義で身につけた知識を実践に活かすことを目的として、心理士が活躍しているいくつかの医療機関等において見学実習や参加実習を行い、各機関における心理臨床的援助の対象者に対する理解を深め、心理士の役割、他職種職員との連携の重要性について学ぶ。
	到達目標	1. 各施設に関する基礎的な知識を得られる。 2. 実践を通し、各施設における心理士の役割や他職種職員との連携についての知識が得られる。
授業計画	(1) 講義 ① 精神科病院について (野添) (2) 講義 ② 少年鑑別所について (石井) (3) 講義 ③ デイ・ケア施設について (大島) (4) 講義 ④ ホスピスについて (松本) (5) 講義 ⑤ 児童福祉施設について (山喜) (6) 講義 ⑥ 介護保険関連施設について (飯干) (7) 少年鑑別所における実習 (7月) (8) 少年鑑別所における実習についてのレポート作成、発表用原稿指導 (9) 精神科病院における実習 (夏休み中) (10) 精神科病院における実習についてのレポート作成、発表用原稿指導 (11) デイ・ケア施設における実習 (夏休み中) (12) デイ・ケア施設における実習についてのレポート作成、発表用原稿指導 (13) ホスピスにおける実習 (夏休み中) (14) ホスピスにおける実習についてのレポート作成、発表用原稿指導 (15) 総まとめ (発表会)	
自学自習	事前学習	・各施設の役割について下調べをしておくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要に応じてレジメを配布する。	
成績評価方法と基準	〈基準〉各施設でのレポート (60点) と発表 (40点) で評価する。各施設における実習を欠席した場合は採点の対象とならない。また、発表会を欠席した場合も採点の対象とならない。	
備考	・講義①～⑥は福祉臨床実習と合同で行う。 ・発表会は10月初旬～中旬頃に開催する。	

科目名	社会福祉学 I	
担当者	久永 繁夫 / HISANAGA, Shigeo	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	今日、社会福祉は国民生活に欠くことのできない施策である。社会福祉の理念と歴史や貧困・児童・老人・障害者等の対する福祉制度の概要、社会福祉を担う専門職制度、変化の激しい社会福祉の動向などについて講義する。
	到達目標	① 社会福祉の歴史等を学び、その必要性や理念を理解する。 ② 各分野の社会福祉制度を学び、その利用手続き等を理解し他人からの相談に応じることのできる基礎知識を身につける。 ③ 社会福祉の動向を知ることにより、社会の動きを深く理解することができる。
授業計画	(1) 社会福祉を学ぶ意義 (2) 社会福祉の概念、意義、目的 (3) 社会福祉の歴史（戦後日本の社会福祉の歴史） (4) 社会福祉の歴史（イギリスの社会福祉の展開） (5) 貧困問題と社会福祉①（社会保険による生活保障） (6) 貧困問題と社会福祉②（公的扶助による生活保障） (7) 児童問題と社会福祉①（子ども家庭福祉） (8) 児童問題と社会福祉②（児童福祉法・児童虐待防止法） (9) 高齢者問題社会福祉①（高齢者福祉の法律と実施体系） (10) 高齢者問題社会福祉②（介護保険制度と介護問題） (11) 障害者問題と社会福祉①（障害の概念と障害者福祉） (12) 障害者問題と社会福祉②（障害者福祉の法律と実施体系） (13) 社会福祉の仕事と専門職制度 (14) 社会福祉の動向と課題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用テキストを前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・法令等は六法全書等を活用して、確認すること。 ・社会福祉制度は、毎年改正等が行われるので、新聞等に目を通すこと。
使用教材・参考文献	【教】 山形文治・岡田忠克編 「よくわかる社会福祉」 ミネルヴァ書房 2011年 第8版 【参】 F・P・バイスティック著 尾崎新・福田俊子等訳『新訳改訂版ケースワークの原則』誠信書房 1996年	
成績評価方法と基準	〈基準〉 〈方法〉 試験（70点）、小テスト（30点）	
備考	社会福祉の動向を知るために新聞記事等を使用する。	

科目名	社会福祉学Ⅱ	
担当者	久永 繁夫 / HISANAGA, Shigeo	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	社会福祉の実践について欠くことのできない社会福祉援助技術の基礎的な知識と技術について講義する。個別援助技術、集団援助技術、ケアマネジメントの技術について、ビデオ等を使用して、具体的な事例を通して援助技術の基本を学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会福祉援助技術について、その基礎知識を理解する。 ② 社会福祉制度と援助技術を関連づけることができる。 ③ 援助技術を身につけて、個別相談や集団援助を行なえる基本的姿勢を身につけることができる。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 援助技術を学ぶ意義 (2) 個別援助技術の歴史 (3) 個別援助技術の構造 (4) 個別援助技術の基本原理 (5) 個別援助技術の展開過程① (6) 個別援助技術の展開過程② (7) 集団援助技術の構造と機能 (8) 集団援助技術の基本原理 (9) 集団援助技術の展開過程① (10) 集団援助技術の展開過程② (11) ケアマネジメントとは (12) ケアマネジメントの展開過程① (13) ケアマネジメントの展開過程② (14) 社会福祉援助技術の実際 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「参考文献」等を初回の講義時に紹介する。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・私的人間関係での相談にも活用できる技術であるので、心がけてみること。
使用教材・参考文献	<p>【教】講義に配布する。</p> <p>【参】F・P・バイスティク著 尾崎新・福田俊子等訳『新訳改訂版ケースワークの原則』誠信書房 1996年</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉</p> <p>〈方法〉最終レポート 70点、小レポート30点</p>	
備考		

科目名	社会保障論	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、医療保険法について判例を紹介しつつ講義します。
	到達目標	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、医療保険法の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 公的扶助法1 (2) 公的扶助法2 (3) 公的扶助法3 (4) 社会福祉法1 (児童福祉法) (5) 社会福祉法2 (児童福祉法) (6) 社会福祉法3 (障害者福祉法) (7) 社会福祉法4 (高齢者福祉法)、介護保険法1 (8) 介護保険法2 (9) 社会福祉法5 (10) 社会福祉法6 (11) 医療保険法1 (12) 医療保険法2 (13) 医療保険法3 (14) 医療保険法4 (15) 医療保険法5	
自学自習	事前学習	・教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・小テスト及び期末試験の準備のために復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】加藤智章・菊池馨実・倉田聡・前田雅子『社会保障法（第5版）』有斐閣 2013年 予価2520円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、医療保険法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>小テスト（10点×5回）＋期末試験（50点）で評価します。	
備考	後期開講の「社会政策」では、年金保険法、労災保険法、雇用保険法、社会手当法を講義します。	

科目名	障害者福祉論	
担当者	清原 浩 / KIYOHARA, Hiroshi	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	障害者が置かれている現実、夢、希望をある福祉施設とそこに通う障害者を通して明らかにします。また、福祉施設や地域福祉でのサポートのあり方を明らかにします。そのことを通して、受講生自身の生き方も振り返ることができるようにします。臨床福祉論といった角度からの授業になります。
	到達目標	「障害者福祉の現実がわかる」 「障害者の方々の夢、希望がわかる」 「障害者へのサポートのあり方がわかる」 「障害者の生き方がわかって、自分の生き方にも示唆が与えられる」
授業計画	(1) 「私と障害者」/VTR「自立へはばたく」 (2) 「ある福祉法人の理念」/VTR「響きあう父と子」 (3) 「ある福祉法人のあゆみ」/VTR「青空が見たい」 (4) 「ある福祉法人のめざすもの」/VTR「ゆきちゃん、ひろちゃん、がんばれ、がんばれ」 (5) 「夢のまち」構想とは/VTR「13年目のゴール」 (6) 「自治とは」/VTR「姉と兄に見守られて」 (7) 「自立とは」/VTR「新しい自分を探して」 (8) 「福祉文化とは」/VTR「ママ、太陽が見たい(1)」 (9) 「発達とは」/VTR「ママ、太陽が見たい(2)」 (10) 「労働とは」/VTR「はまなすの家」 (11) 「生活とは」/VTR「海君が笑った」 (12) 「サービスとは」/VTR「奇形ザルは警告する」 (13) 「市民運動と福祉」/VTR「二人の島旅」 (14) 「障害児療育の輪を広げる運動」/VTR「自立に向かうアメリカの障害者」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教科書の講義された部分の再読、再確認をすること。 ・視聴したビデオの内容の再度の想起、確認をすること。
使用教材・参考文献	【教】清原浩・黒川久美・中村隆司編著『「協同と協同」が拓く障害者の福祉』（2001）クリエイツかもがわ	
成績評価方法と基準	<基準>障害者へのサポートのあり方を理解できた場合を合格とします。 <方法>筆記試験。（試験80%、出席態度20%）	
備考	なし	

科目名	地域福祉論	
担当者	十島 真理 / TOSHIMA, Mari	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	地域福祉の理念と内容について、地域の関わりを理解するとともに住民の役割について考える。福祉関係法や各制度の手続、内容等についても学びながら、利用者主体、自立支援、ノーマライゼーションといった福祉の理念と現実を考える。
	到達目標	福祉全般（高齢者福祉、障害者福祉の現状を中心に）について理解し、地域福祉の概念、理念、サービスの実施主体等について学び、今後の課題について理解する。
授業計画	(1) 地域福祉とは：地域福祉の概念 (2) コミュニティの理解：地域福祉の基盤としてのコミュニティ (3) 日本における地域福祉の歴史 (4) 地域福祉の主体と対象 (5) 地域福祉の方法論 (6) 地域福祉と社会福祉協議会 (7) 地域福祉と権利擁護 (8) 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (9) 地域福祉とボランティア、NPO (10) 地域での生活を支える地域福祉サービスの実際 (11) 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (12) 地域福祉の財源 (13) 地域福祉と介護保険 (14) 地域福祉の実践例 (15) これからの地域福祉の在り方 まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだことを理解し、実践するよう努力する。
使用教材・参考文献	【教】『地域福祉の今を学ぶ 理論・実践・スキル』 妻鹿ふみ子編著 ミネルヴァ書房	
成績評価方法と基準	<評価方法>テスト60% 授業参加態度40%、 （小テスト20点、期末試験40点 宿題30点、受講態度10点） <基準>地域福祉の概念、理念、サービスの実施主体等を理解し講義の目的を達成されたものは合格とする。上記評価方法により合計が60点以上に達した者を合格とする。4回以上欠席した者は不合格とする。	
備考	1. 教科書を購入しなければ受講できない。なお、教科書は共同購入する。 2. 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	発達心理学Ⅱ	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	人間の誕生前後から死に至るまでの生涯を対象とした、発達に関する基礎的理論や捉え方を紹介する。また、さまざまな時期における対人関係が、生涯を通しての心の発達にどのような影響を及ぼすかを考える。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間の心理的発達に関する基本的な概念や理論について理解する。 人間は『関係的存在』であり、関係の質が発達を左右することを理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 発達心理学とは：発達の捉え方（遺伝か環境か、…） 発達研究法：横断的研究と縦断的研究、他 発達の生物学的基礎：ポルトマンの研究 ヒトにおける親子関係の特徴 胎児期・乳児期の発達：身近な人との出会い 幼児期の人間関係：親との関係、仲間関係、…… 乳幼児期の心理臨床的問題：愛着障害、…… 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に） 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に） 児童期の発達：仲間関係の発達過程（児童期の出会いと別れ） 青年期の発達：自分探しの旅、青年期の友だちとの出会いと別れ 児童期・青年期の心理臨床的問題：ギャング・エイジの喪失、… 成人期の発達：大人としての社会的責任 中年期・老年期の発達と問題 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、授業の初めに前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	<p>【教】 浜崎隆司・田村隆宏編著『やさしく学ぶ発達心理学』、ナカニシヤ出版、2011年。</p> <p>【参】 授業中に、適宜紹介する。</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 上記の到達目標が達成されたものを合格とする。</p> <p><方法> 試験(80%)、授業への参加度(20%)</p>	
備考		

科目名	福祉心理臨床学	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	福祉の現場では、臨床心理学と社会福祉学とは密接不可分に結びついている。福祉職従事者にとって、臨床心理学の知識および技法は必須である。本講では社会福祉に特化した臨床心理学を講じることによって、新しい総合的な学問領域の学習を行う。
	到達目標	社会福祉と心理臨床の理論的・技術的接点を理解することによって、新しい視点から福祉現場におけるヒューマン・サービスを実践することができるようになる。
授業計画	(1) 福祉心理臨床学とは (2) 社会福祉と臨床心理のコラボレーション (3) 社会福祉の基本理念 (4) 自己決定の心理 (5) 臨床心理学概説1 (6) 臨床心理学概説2 (7) 子どもの福祉と心理臨床1 (8) 子どもの福祉と心理臨床2 (9) 障害者の福祉と心理臨床1 (10) 障害者の福祉と心理臨床2 (11) 高齢者の福祉と心理臨床1 (12) 高齢者の福祉と心理臨床2 (13) 家族の福祉と心理臨床1 (14) 家族の福祉と心理臨床2 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	使用教材・参考文献を前もって読んでおくこと
	事後学習	数回おきにレポートを提出
使用教材・参考文献	【教】十島雍蔵（編）『福祉心理臨床学』ナカニシヤ出版 2004	
成績評価方法と基準	終了試験70%、受講態度15%、出席態度15%	
備考		

科目名	発達障害心理学	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	教育現場において、近年大きな問題であり課題となっている“発達に偏りや遅れを持つ子どもたち（発達障害児）”をどう理解し援助していくかということについて、「特殊教育」から「特別支援教育」への転換に至った経緯とその現状を概観しながら考えていく。あわせて、具体的に（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害など主な発達障害について学習していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「特殊教育」から「特別支援教育」への転換について学ぶ。 ・ 発達障害の概論について学ぶ。 ・ 主な発達障害（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害（4）AD/HD（5）情緒障害などについて学ぶ。 発達障害児、者への支援について学ぶ。
授業計画	(1) 「発達障害者支援法」、「特殊から特別支援への変遷」について学ぶ。 (2) 発達障害についての概論の学習。 (3) 知的障害（MR） (4) 広汎性発達障害（PDD）① (5) 広汎性発達障害（PDD）② (6) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）① (7) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）② (8) 学習障害① (9) 学習障害② (10) 情緒発達障害①不登校 (11) 情緒発達障害②行為障害 (12) 児童虐待① (13) 児童虐待② (14) 治療と援助について (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。
使用教材 参考文献	【教】 田中千穂子ら『発達障害の心理臨床』有斐閣アルマ 2005 【参】 山喜高秀『社会福祉援助技術』創元社 2004 文部科学省 : 学習指導要領	
成績評価方法 と基準	<基準>「発達障害心理学」に関して、講義の到達目標の4項目の理解修得が達成されたものを合格とする。 <方法>受講態度（40%）総括レポート（60%）	
備考		

科目名	福祉コミュニティ論	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	無前提に「良いこと」とされている「福祉ボランティア」活動を様々な角度から科学する。ボランティアやNPOの活動に見られる政府・市場・市民の分担・協同と拮抗、現代社会における市民による福祉提供の位置づけ、「援助」の行為を考察する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における福祉ボランティアの存在意味を理解できる。 ・「援助－被援助」関係の社会的特性と普遍性を理解できる。 ・NPOとNPO法人制度について基本的で正確な知識を獲得する。 ・日常生活の中に福祉ニーズをキャッチする感覚を理解できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 科目オリエンテーション/「福祉」の3つの源流について (2) 社会における「福祉」提供の仕組みから見たボランティア (3) 市民福祉活動登場の歴史から見たボランティア (4) 量的・質の実態から見たボランティア (5) 社会構造の反映としてのボランティア (6) 行為論から見たボランティア (7) 人はなぜボランティアをするのか (8) 援助論から見たボランティア－パターナリズムと「自立」賞賛の狭間で (9) 福祉ボランティア活動の多様性 (10) ノーマライゼーションから見たボランティア (11) ボランティア活動の組織化とNPO法人制度の活用 (12) NPO法人活動の課題とボランティア (13) 学校でのボランティア学習を科学する (14) ワークショップ－オリジナルなボランティア学習を組み立てる (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	新聞・TVでのボランティアやNPOのニュースに目を通しておくこと。
	事後学習	毎回、授業冒頭に前回授業の復習小クイズを行うので、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】 使用しない。</p> <p>【参】 山岡義典編『NPO実践講座2－人を活かす組織とは』ぎょうせい2002年 三本松政之・朝倉美江編『福祉ボランティア論』有斐閣、2007年 岡本榮一他編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会、2006年</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法> 単位レポート75% / ①新聞記事切抜課題10% / ②アクションペーパー課題15%</p> <p><基準> レポートの内容・水準が到達目標に到達しているかどうかを重視する。</p>	
備考	<p>①毎回、ボランティアやNPO関連の新聞記事コピーにコメントを記して提出すること。</p> <p>②自身のボランティア活動やボランティア・イベント等への参加のアクション・レポートを提出すること。その他、授業の進行に応じて作業課題を提示する。</p>	

科目名	高齢者心理学	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	人間は生涯にわたって発達し続ける。ライフサイクルの最終ステージである老年期にも発達課題がある。講義では、知的機能、自我の発達における加齢の影響について概観し、高齢者の社会的・心理的適応とストレスの問題を考える。グループワークやディスカッションを行い、積極的・自主的な学習を励行する。
	到達目標	高齢者の心理について、生涯発達心理学的視点、および社会的・心理的適応の視点等、多角的な見方ができるようになる。
授業計画	(1) 生涯発達心理学 (2) 高齢者とライフサイクル (3) 高齢者の身体的特性（高齢者疑似体験） (4) 高齢者の心理的特性 (5) 高齢者に多い疾患や症状（認知症、うつ） (6) 高齢者の死生観 (7) サクセスフルエイジング (8) 臨床心理的評価 (9) 脳機能と画像診断 (10) 神経心理的評価 (11) 高齢者への支援①（回想法・RO法） (12) " ②（メモリーブック） (13) " ③（ " ） (14) " ④（コミュニケーション） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	数回おきに発表あるいはレポート提出を行う
使用教材・参考文献	【参】 飯干紀代子著『今日から実践-認知症の人とのコミュニケーション』中央法規出版 2011 【参】 三村将・他著『高次脳機能障害マエストロシリーズ②画像の見かた・使い方』医歯薬出版 2007	
成績評価方法と基準	終了試験 70%、受講態度 15%、出席態度 15%	
備考		

科目名	福祉心理臨床学演習	
担当者	飯干 紀代子 / IIBOSHI, Kiyoko	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	受講者数は10名以内。対象者は福祉臨床コースの学生	
科目概要	授業内容	福祉の三本柱である、児童、障害者、高齢者福祉に関する文献を講読し、臨床心理と神経心理の視点を交えた相互ディスカッションを行う。
	到達目標	社会福祉の実践における臨床心理学的および神経心理学的理論と技法の有用性、両領域のコラボレーションの重要性を理解する。
授業計画	(1) 概説 (2) 文献検索方法① (3) " ② (4) 文献整理・レジюме作成方法 (5) プレゼンテーション方法 (6) 児童福祉と臨床・神経心理学に関連した文献の講読 (7) " (8) 障害者福祉と臨床・神経心理学に関連した文献の講読 (9) " (10) " (11) 高齢者福祉と臨床・神経心理学に関連した文献の講読 (12) " (13) " (14) " (15) 総論まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	数回おきに発表やレポート提出を行う
使用教材・参考文献	【参】白井利明・他著『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房 2008 必要な文献は、演習中に随時配布、あるいは個人で検索して収集する	
成績評価方法と基準	レポート・発表内容60%、受講態度20%、出席態度20%出席点と学習態度	
備考		

科目名	発達心理学演習	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	発達心理学の個別領域（近接領域も場合によっては含む）から、学生自身が興味あるテーマを選択し、文献収集、資料作成、口頭発表、ディスカッションを行うことによって、発達に関する多面的な理解を深めていく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 発達心理学の個別領域（近接領域も場合によっては含む）について関心を持つ。 関心を持ったテーマについての文献収集、資料作成の方法を学ぶ。 自分で作成した資料の口頭発表を行う。 他者の発表をもとにディスカッションを行う。
授業計画	(1) 発達心理学の個別領域（近接領域も場合によっては含む）の概説 (2) 文献収集、資料作成についての学習 (3) 毎回2～3名ずつの口頭発表とディスカッション (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) 「子どもの発達臨床」をテーマにした研究の進め方① (14) 「子どもの発達臨床」をテーマにした研究の進め方② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。
使用教材 参考文献	【教】 特定の教科書は使用せず、随時参考資料を配布する。 【参】 『心をはぐくむⅢ』 全国情緒障害児短期治療施設協議会（2002）	
成績評価方法 と基準	<基準> 「発達心理学」に関して、講義の到達目標の4項目の理解修得が達成されたものを合格とする。 <方法> 受講態度（40%）総括レポート（60%）	
備考		

科目名	福祉臨床実習	
担当者	山喜 高秀 / 飯干紀代子	
科目情報	心理臨床<福祉臨床> / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	児童や障害者、および高齢者のウェルビーイングとQOLの向上を図るため、今日、社会福祉の分野において、臨床心理学の知識と技術に対する要請が非常に強くなってきている。本実習では、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉の現場における臨床心理学の役割について体験学習を行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉の現場について、事前に学習する。 ・ 福祉施設現場への実習における留意点について学ぶ。 ・ 福祉施設の見学実習（見学とレクチャー）。 実習記録のまとめかたを学習する。
授業計画	(1) 講義 ① 精神科病院について（野添） (2) 講義 ② 少年鑑別所について（石井） (3) 講義 ③ デイ・ケア施設について（大島） (4) 講義 ④ ホスピスについて（松本） (5) 講義 ⑤ 児童福祉施設について（山喜） (6) 講義 ⑥ 介護保険関連施設について（飯干） (7) 実習記録の作成についての学習 ① (8) 実習記録の作成についての学習 ② (9) 実習記録の作成 (10) // (11) // (12) // (13) 障害者福祉施設見学実習のまとめ (14) 児童福祉施設見学実習のまとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を今後の進路選択に役立てること。
使用教材 参考文献	【教】特定の教科書は使用せず、随時参考資料を配布する。	
成績評価方法 と基準	<基準>「福祉臨床実習」に関して、講義の到達目標の4項目の理解修得が達成されたものを合格とする。 <方法>講義出席、施設見学、実習記録を全て行うことが評価の前提条件。 受講態度（20%）、施設見学の態度（50%）、実習記録の内容（30%）	
備考		

科目名	産業組織心理学Ⅱ	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講では、産業組織心理学の基礎理論、特に若年者の就業行動、組織における人事、安全衛生、また、消費者の心理に関する理論について解説する。あわせて、本講で解説された理論を体験的に理解するための実習に取り組む。
	到達目標	個人が能動的にキャリアを発達させ、職場に適応することに関わる心理プロセス、行動の特色、そして、組織に顧客として関わる消費者の心理について理解する。このことを通じ、将来、社会人として仕事に取り組むための心構えや自信をつちかう。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 組織を取り巻く問題と産業組織心理学の関わり (2) 組織に入るとのこと① (採用選考のプロセス) (3) 組織に入るとのこと② (就活生の意識と行動) (4) 人事評価 (上司から見た部下・部下から見た上司) (5) 仕事と学習 (自分の価値を高めるために) (6) セルフコーチング (ディベート実習) (7) 職場の安全衛生① (職場における反社会的行動) (8) 職場の安全衛生② (職場における事故防止) (9) 職場の安全衛生③ (職場におけるストレスの特色) (10) 職場の安全衛生④ (職場におけるストレスへの対処) (11) 消費者の心理① (購買意思決定) (12) 消費者の心理② (ブランド選択) (13) 消費者の心理③ (広告の技法) (14) 消費者の心理④ (広告の作成過程) (15) 広告作成実習 (CMシナリオ作成) 	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくと理解の助けになります。
	事後学習	適宜「おすすめの本」を紹介しますので読んでください。
使用教材・参考文献	【参】 山口裕幸・金井篤子編 『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717	
成績評価方法と基準	本講で解説した産業組織心理学の基礎理論の理解を評価する。(出席態度45%, 試験55%)	
備考		

科目名	社会心理学Ⅱ	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	社会心理学とは、人間の社会的行動に関する心理学的法則を明らかにしようとする学問である。本講義は、社会心理学Ⅰを踏まえ、社会心理学の各研究領域での基本的事項についてさらに専門的に解説する。
	到達目標	社会心理学の基本的事項を学び、理解することで、人の社会的行動に対する社会心理学的視座を得る。 社会心理学における基本的事項やキーワードについて、学問的背景についての理解を深めながら、論述できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション：社会心理学の特色 (2) 社会心理学の主たる研究方法と研究対象 (3) 自己（セルフ） 自己概念、自己評価、複雑性と適応 (4) 自己呈示 対人コミュニケーション、動機づけ (5) 対人葛藤 葛藤解決の方略 (6) ジェンダー 性役割の社会化 (7) 態度変容 社会的態度、認知的一貫性、説得的コミュニケーション (8) 対人認知 印象形成、対人記憶、プロセスモデル、個人差 (9) 社会的認知 感情と社会的認知、ステレオタイプの認知 (10) 社会的推論 帰属理論、推論のエラーとバイアス (11) 社会的公正 (12) 対人魅力 関係の成立と維持と崩壊 (13) グループ・ダイナミクス 他者存在の影響、社会的ジレンマ (14) 文化と人間 個人主義と集団主義、異文化適応 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・社会心理学の基本的概念や用語について、関連する資料や書籍に目を通し、理解しておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は関連する資料等で各自調べ、補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	社会心理学的観点から種々の社会的行動について、論述できることを合格の目安とする。筆記試験もしくはレポートを課す。 [授業への取り組み 50% / 筆記試験（レポート）50%]	
備考	講義中、数回の研究調査・実験への参加依頼を行う可能性がある。これらを拒否することによる成績評価上の不利益はない。	

科目名	健康心理学（メンタルヘルス）	
担当者	白井 祐浩 / SHIRAI, Masahiro	
科目情報	心理臨床＜社会・産業＞ / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	心が健康に及ぼす影響について、多面的に紹介をする。また、実践やビデオを通して、心の健康を保つための方法を体験してもらいます。
	到達目標	心が健康に及ぼす影響について理解を深めると共に、リラクゼーションなどの体験を通して、心の健康を保つための方法を学ぶ。
授業計画	<p>(1) オリエンテーション ～心をいかにして捉えるか～</p> <p>(2) ストレス ～このストレス社会を生き抜くために～</p> <p>(3) ストレスマネジメント ～ストレス解消の方法～</p> <p>(4) 神経症 ～悩みの果てに～</p> <p>(5) うつ病 ～心の風邪～</p> <p>(6) 統合失調症 ～違う世界を生きる～</p> <p>(7) 精神疾患と偏見 ～精神疾患のスティグマからの解放～</p> <p>(8) べてるの家 ～治らない・治さない治療～</p> <p>(9) 当事者研究 ～自分で自分を知る～</p> <p>(10) 精神医学と心理療法 ～カウンセラーと精神科医はどう違うのか～</p> <p>(11) 精神分析・力動的心理療法 ～無意識を探る～</p> <p>(12) 来談者中心療法 ～話の聴き方～</p> <p>(13) いろいろな心理療法 ～多様な心へのアプローチ～</p> <p>(14) 困った時の相談機関 ～悩みを一人で抱えないために～</p> <p>(15) 学生からのテーマ</p>	
自学自習	事前学習	好奇心を持って参加してください。
	事後学習	講義で話したことについて、自分なりに考えてみてください。
使用教材・参考文献	【教】・【参】 適宜資料を紹介します。	
成績評価方法と基準	<p>＜基準＞心と健康の関係について理解できた者は合格とし、理解できていない者は不合格とします。</p> <p>＜方法＞試験100%</p>	
備考	内容については、受講者の反応や進み具合によって適宜変更する可能性があります。	

科目名	コミュニケーション論（共生社会形成論Ⅴ）	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「共生社会形成論Ⅴ」	
科目概要	授業内容	本講義は、日常生活における対面的なコミュニケーションに焦点をあてた社会学の視点を中心にして、コミュニケーションを成り立たせている仕組みについて考察を進める。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを成立させる構造について目を向けるための、応用的な視点が獲得できる。 ・社会で経験する（これまでしてきた）コミュニケーションについて、反省的に考察することができる。
授業計画	(1) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (1) (2) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (2) (3) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (3) (4) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (4) (5) 「動機」のコミュニケーション上の構成 (6) 対面的コミュニケーションにおける状況：物理構成面 (1) (7) 対面的コミュニケーションにおける状況：物理的構成面 (2) (8) 対面的コミュニケーションにおける状況：認識的構成面 (1) (9) 対面的コミュニケーションにおける状況：認識的構成面 (2) (10) ダブルバインドというコミュニケーション (1) (11) ダブルバインドというコミュニケーション (2) (12) 三者関係のコミュニケーション：夏目漱石『こころ』から (1) (13) 三者関係のコミュニケーション：夏目漱石『こころ』から (2) (14) 現代サービス産業における「感情」を媒介としたコミュニケーション (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布される資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付された資料の語句の意味が分からない時はそのままにせず、主体的に調べて理解しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中で配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】E. ゴフマン『行為と演技』 誠信書房 1974年 ISBN 4414518016ほか	
成績評価方法と基準	自分の経験を基にして、授業で扱った視点の内面化が一定程度できていると認められれば合格とする。評価はレポートでおこなう。授業中で不定期に課題提出を求める。レポート60%、課題40%の割合で評価を行う。レポートに関しては、配付資料や参考書の文章を「写した」ような内容は認めない。	
備考		

科目名	情報社会論（共生社会形成論VI）	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「共生社会形成論VI」	
科目概要	授業内容	本講義は、大量の情報を基盤として支えられる情報化社会について考えるための論点の提示を目的とする。特に、ブロードバンド化による社会構造、生活の変化、デジタル・ディバイド、メディア使用をめぐる個人の変化、メディア・リテラシーなどに焦点を当てて考察する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの普及がもたらした社会の変化について知ることができる。 ・個人、人間関係、地域の領域における情報化の影響についての視点を身につけることができる。
授業計画	(1) 情報化社会の論点について (2) 統計情報から見る情報化の進展 (1) (3) 統計情報から見る情報化の進展 (2) (4) 統計情報に見るデジタル・ディバイド (1) (5) 統計情報に見るデジタル・ディバイド (2) (6) 情報化社会のリスク：サイバー犯罪について (7) メディア使用と個人の変容 (1) (8) メディア使用と個人の変容 (2) (9) メディア使用と個人の変容 (3) (10) メディア・リテラシー (1) 学問的背景 (11) メディア・リテラシー (2) 学問的背景 (12) CMで考えるメディア・リテラシー (13) 情報化と若者 (1) (14) 情報化と若者 (2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布された資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付資料が多いので、授業後に再度読み直しておくこと
使用教材・参考文献	【教】特に指定しない。講義中で配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】木村忠正 『デジタルディバイドとは何か』 岩波書店 2001年 4-0000-02717-4 岡田朋之 松田美佐編 『ケータイ学入門』 有斐閣選書 2002年 4-641-28070-3	
成績評価方法と基準	情報化の流れが及ぼす社会的影響について一定の理解度があると認められれば合格とする。レポート60%、授業中で不定期に課す課題提出40%の割合で評価する。	
備考		

科目名	社会調査法 I	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	複雑な社会現象を捉えるための手段として様々な分野で重要性を増している社会調査についての <u>基本的事項</u> を学ぶ。専門的なくつかの社会調査科目を学ぶための、第一歩目の科目である。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の有効性と限界、社会調査に求められる「科学性」を理解できる。 ・身近な社会調査である国勢調査・世論調査について基本的事項を確実に理解し、説明できる。 ・基本型である統計的調査・記述的調査について説明できる。 ・調査者に求められる倫理について、確実に理解できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会調査とは何か、社会調査の真の目的・関心は何か (2) 社会調査の歴史—人口統計と社会問題の調査・調査技術の高度化・多様化 (3) 社会調査の実例①—国勢調査・官庁統計 (4) インターネットで「政府統計の総合窓口」を覗いてみる (5) 統計データを加工すると、何が見える？ (6) 社会調査の実例②—世論調査 (7) 社会調査の実例③—マーケティング・リサーチ (8) 社会調査の種類①その1—量的調査・統計的調査 (9) 社会調査の種類①その2—統計的調査の具体的調査方法 (10) 社会調査の種類②その1—質的調査・記述的調査 (11) 社会調査の種類②その2—質的調査の実例 (12) 社会調査の種類②その3—質的調査で分かること・分からないこと (13) 量的調査と質的調査の比較—技法としての有効性と限界を認識する (14) 社会調査と調査者の倫理 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	教科書の指示部分を読んでおくこと。
	事後学習	不定期に授業内容の復習小クイズをするので、確実に復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】大谷信介 『社会調査へのアプローチ—論理と方法 (第2版)』 ミネルヴァ書房、2004年。社会調査法Ⅱでも使用する教科書である。</p> <p>【参】宮内泰介 『自分で調べる技術—市民のための調査入門』 岩波書店、2004年</p> <p>谷岡一郎 『「社会調査」のウソ』 文春新書、2000年</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法>レポート等の課題遂行15%・定期筆記試験85%</p> <p><基準>科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。</p>	
備考	社会調査教育の基礎的科目であり、「社会調査士資格」取得のための必修科目の一つでもある。	

科目名	社会調査法Ⅱ	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	安易な調査が多いが、社会調査の正しい知識と技法を習得しておかないと、有効有益な調査にすることは困難である。「社会調査法Ⅰ」の発展科目として、量的調査の方法による調査の設計と企画、問題意識を調査票の形に仕上げるまでの原理と技法を学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全数調査・標本調査それぞれの意義と目的を説明できる。 ・「誤差」ということを理解し、標本誤差の原理を確実に理解できる。 ・誤差の計算ができ、計算結果の意味を説明できる。 ・調査問題から調査票作成までの過程を調査の理論にそって理解し、調査票を作成できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 量的調査における「してはいけない調査」「失敗した調査」 (2) 調査目的と調査方法の決定 (3) 母集団と標本 (4) 全数調査と標本調査 (5) サンプリングの考え方とその方法 (6) 誤差—非標本誤差と標本誤差 (7) 標本誤差の原理と計算 (8) 必要な標本数の考え方と計算 (9) 様々な調査技法のどれを採用するか (10) 仮説検証型調査における調査問題の設定から調査項目へのプロセス (11) 概念の操作化・仮説構成、変数の指標化、尺度 (12) 質問文・回答選択肢の作り方とチェックポイント (13) 質問文・回答選択肢を作ってみる (14) 調査票の構成 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	教科書の指示部分を読んでおくこと。
	事後学習	復習を兼ねて、毎回、次回提出の課題を提示する。
使用教材・参考文献	<p>【教】大谷信介他『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』ミネルヴァ書房、2004年。社会調査法Ⅰでも使用する教科書である。</p> <p>【参】原純輔・海野道郎『社会調査演習第2版』東京大学出版会、2004年 社会調査士資格認定機構編『社会と調査』第1号、有斐閣、2008年</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法> 課題の提出20%・定期筆記試験80%</p> <p><基準> 科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。</p>	
備考	<p>「社会調査士資格」取得のための必修科目でもある。</p> <p>受講者は、前期科目「社会調査法Ⅰ」を受講済み（単位習得は問わない）であること。</p>	

科目名	産業組織心理学演習	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	リーダーシップに関する専門論文に親しむとともに、映像作品に見られるリーダーシップについてのディスカッションを通じ、リーダーシップについての理論的知識を深める。
	到達目標	リーダーシップについての理論的知識を、現実の問題解決に応用できる活きた知識に昇華させることを目指す。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義（リーダーシップの発生とリーダー行動の効果） (2) 映像作品「椿三十郎」（主演・三船敏郎）の観賞 (3) ディスカッション，理論解説 (4) 専門誌論文の要約発表① (5) 映像作品「陽はまた昇る」（主演・西田敏行）の観賞 (6) ディスカッション，理論解説 (7) 専門誌論文の要約発表② (8) 専門誌論文の要約発表③ (9) 講義（リーダーを取り巻く状況とリーダー行動の効果） (10) 映像作品「突入せよ・あさま山荘事件」（主演・役所広司）の観賞 (11) ディスカッション，理論解説 (12) 専門誌論文の要約発表④ (13) 映像作品「生きる」（主演・松本幸四郎）の観賞 (14) ディスカッション，理論解説 (15) 専門誌論文の要約発表⑤ 	
自学自習	事前学習	「参考文献」のリーダーシップに関するパートを前もって読んでおくとう理解の助けになります。
	事後学習	適宜「おすすめの本」を紹介しますので読んでください。
使用教材・参考文献	【参】山口裕幸・金井篤子編 『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717	
成績評価方法と基準	ディスカッションへの主体的な参加と，専門誌論文の要約発表を評価する。（ディスカッションへの参加50%，専門誌論文の要約発表50%）	
備考	映像作品を見る回に参加しなければ，次の回のディスカッションに参加できません。そのため，2回分の欠席扱いとなりますのでご注意ください。	

科目名	社会心理学演習	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	主として、社会心理学関連領域の研究論文を演習形式で講読する。数名のグループで発表用の資料（レジメ等）を作成し、発表を行う中で、心理学の研究知見や理論、研究方法等の理解を深める。
	到達目標	社会心理学関連領域の研究論文を読みこなし、他者に分かりやすく「説明する」ことが出来るようになること。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション/グループ分け (2) 講読論文の決定と発表 発表の仕方についての解説 (3) 演習日 (4) 演習/発表 ① (5) 演習/発表 ② (6) 演習/発表 ③ (7) 演習/発表 ④ (8) 演習/発表 ⑤ (9) 演習/発表 ⑥ (10) 演習/発表 ⑦ (11) 演習/発表 ⑧ (12) 演習/発表 ⑨ (13) 演習/発表 ⑩ (14) 演習/発表 ⑪ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・社会心理学の基本的概念や用語について、関連する資料や書籍に目を通し、意味のわからない用語は調べておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は関連する書籍等でよく調べ補って置くこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	研究論文を読み深め、理解し、説明資料を準備し、分かりやすく説明できることを合格の目安とする。評価に際しては、授業への積極的な取り組み、受講態度を重視する。最終試験は課さない。 [授業への取り組み（受講態度など）50% / 演習50%]	
備考	初回授業時にグループ分けを行う。	

科目名	社会調査統計	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	<p>社会調査を実施する能力を養成するための、官庁統計や社会統計として取り上げられることの多い基本的な項目・変数の学習、フィールドワーク論文が読めるための基本的知識の習得を目標にする。</p> <p>単純集計、度数分布、代表値、クロス集計といった記述統計データに関する結果の算出や数値の解釈を学習する。さらに、媒介関係や擬似相関、因果関係と相関関係といった、仮説検証手段で陥りやすい誤りについて習熟する。定量的変数の分析方法については、用いられることの多いt検定や分散分析、相関係数、重回帰分析の使用法ならびに使用上の注意点などをコンピュータを用いて実践的に習得する。</p> <p>単に頭で統計解析の手法を理解するだけでなく、データを用いて、「何を知りたいのか」ということを念頭に置きデータのタイプによってどのような分析方法が有効なのかを自ら選択し活用できるように繰り返し実践させる。また、統計のみに頼らない社会的現実の理解の方法として、観察法やインタビュー記録を参照して、質的なデータ分析の方法も学ぶ。統計解析パッケージにはSPSSを使用する。</p>
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・SPSS統計パッケージを利用して、自分で定量的データの分析ができる。 ・社会調査のための変数設定や加工、分析結果の読解ができる。
授業計画	<p>(1) 授業の目的：社会調査についての、各種報告書を用いた概要説明</p> <p>(2) 社会調査で扱うデータの種類(1)変数の性質質的(名義)変数と量的(数的)変数</p> <p>(3) 社会調査で扱うデータの種類(2)フェイスシートの構成(性別・年齢・居住形態、就業形態など)</p> <p>(4) 社会調査で用いられるデータ集計 データの数量化(度数分布、代表値(平均、中央値、標準偏差の意味))</p> <p>(5) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(1)クロス集計とカイ2乗分析 残差の見方</p> <p>(6) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(2)多重クロス集計とエラボレーション(1)</p> <p>(7) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(3)多重クロス集計とエラボレーション(2) コレスポネンシ分析</p> <p>(8) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(1)T検定と分散分析</p> <p>(9) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(2)相関係数</p> <p>(10) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(3)回帰分析、重回帰分析 1</p> <p>(11) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(4)回帰分析、重回帰分析 2</p> <p>(12) 社会調査のレファレンスとされる統計の種類 国勢調査、人口動態統計、学校基本調査、労働力調査、就業構造基本調査などの「指定統計」の種類と内容の理解</p> <p>(13) 47都道府県の姿を知ろう 国勢調査データを用いて、これまで習った手法で日本のデモグラフィックな動向の加工・分析を行う。</p> <p>(14) 47都道府県の姿を知ろう 統計から見える産業・就業構造の国勢調査データを用いて、これまで習った統計手法で加工・分析を行う。</p> <p>(15) 統計に頼らないリアリティ フィールドワーク論文の読み方 ドキュメント分析の方法</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「参考文献」を前もって読んでよくと理解しやすくなります。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・Moodle の課題を遂行すること。また、SPSS の操作は授業時間外にコンピュータ室で練習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】特に使用しない。授業中でハンドアウトを配布する。</p> <p>【参】内藤統也(監修)、秋川卓也(著)『文系のための SPSS 超入門』プレアデス出版 4-7687-0863-3 岸 学(著)『SPSS によるやさしい統計学』オーム社 4-274-06620-7</p>	
成績評価方法と基準	<p>授業で扱った変数の種類に応じた分析や検定方法を選択して、SPSSの出力結果が意味するところを解釈できると認められれば合格とします。</p> <p>試験70%、受講態度20%、演習中に出される課題遂行10%</p>	
備考	<p>コンピュータ教室を使用するため、受講者が30名を超えると、5時間目にクラス増設することもある。</p>	

科目名	社会調査実習	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	実習を通して、調査の企画から報告書の作成までの「社会調査の全過程」をひととおり体験的に学習する。2013年度は、JR鹿児島中央駅そばの商店街「一番街」をフィールドにして、「再開発ビル建設計画が進行する中での地権者や店舗業者の再開発への期待と不安」をテーマに、受講生グループで調査する予定である。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調査という課題に即した実行力・計画力が身に付く。 ・「調査論の原理を現実条件や実践に応用」の考え方ができる。 ・「説得力」を意識したデータの分析と表現ができる。 ・社会的な事柄への問題関心を高め、問題関心を集中させた調査報告書が書ける。 ・グループでの調査活動に主体的に参加し、それを通して、人間関係形成力やコミュニケーション力が身に付く。
授業計画	<p><前期セメスター></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーションによる調査テーマと実習の進め方の確認 (2) 調査問題についての学習（講義と演習によるグループ研究） (3) // (4) // (5) 現地観察 (6) 調査設計（仮説の検討・調査対象と調査方法の検討） (7) 調査項目の検討 (8) 質問文・回答選択肢の検討と決定 (9) // (10) インタビューとインタビュー・ノート作成の練習 (11) ワーディングのチェック・調査票の検討・実査の準備作業 (12) 実査1 (13) 実査2 (14) 実査3 (15) インタビューの集約と総括 	<p><夏季集中期></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 実査後の処理1（回収調査票の点検・エディティング） (2) 実査後の処理2（ナンバリング他） (3) データ入力作業と度数分布表の作成 (4) データクリーニング・ロジックチェック (5) 調査結果の分析1（基本項目によるクロス集計とエラボレーション） (6) 調査結果の分析2（カイ二乗検定） (7) 調査結果の分析3（データによる仮説検証） (8) 調査結果の分析4（他に必要な分析手法の検討） (9) 分析結果の意味と見方1 (10) 分析結果の意味と見方2 (11) 分析結果の図表による表現と見せ方 (12) インタビュー情報の活用と記述の仕方 (13) 問題関心に焦点を当てた分析と報告書の作成1 (14) 分析・報告書の作成2 (15) 仮説検証となるような記述方法の学習
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	時間中でできなかった分析や報告書作成のための知識収集を怠らないこと。
使用教材・参考文献	【教】大谷信介他 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 ミネルヴァ書房、2004年。また、必要に応じて、プリントを配布する。	
成績評価方法と基準	評価方法：実習への主体的な参加状況20%・最終の調査報告レポート80% 評価基準：問題関心の明晰性、分析とデータによる説得、その表現を含む「調査報告」としての最低水準に達していないものは不合格とする。	
備考	「社会調査士」資格取得のための必修科目である。	

科目名	社会産業実習	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki 野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	現代社会に遍在する「広告」や「CM」を社会的影響方略の一端として捉え、これらを分析・検討することを通じて、効果的な「プレゼンテーション」について体験的に理解・学習する機会を設ける。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの日常生活や社会，さらには企業活動について，心理学的な視点で考えることが出来る。 ・グループ活動を通じて行われる各種タスクにメンバーと協力しながら，積極的に取り組むことが出来る。 ・課題遂行に必要なコンピュータやAV機器の扱いやこれに伴う各種処理技術の獲得と向上。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション/グループ分け (2) 【タスク1】CM分析/グループ毎に演習準備/資料作成 (3) // (4) // (5) 演習形式でグループ毎に発表 (6) // (7) // (8) // (9) 【タスク2】作品制作 (10) // (11) // (12) // (13) // (14) 作品の発表/作品の相互レビュー (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・関連しそうな書籍や資料等に適宜目を通しておくこと。 ・不明な用語等あれば，各種資料にあたり調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ内の協力作業を怠らないこと。 ・各種タスク遂行のための資料収集を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	評価基準:授業への取組と授業計画に示した複数のタスクをクリアすることを合格の基準とする。 評価方法:複数の教員が独立して評価する。また受講生による相互評価も取り入れる場合もある。	
備考	初回授業時にグループ分けを行う。	

科目名	心理臨床的援助演習	
担当者	◎山喜 高秀 / 片平 眞理 / 野浪 俊子 / 大島英世 / 小迎 和代	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	集中講義	
科目概要	授業内容	心理臨床的援助は、教育、医療、福祉など、様々な現場でその必要性が年々高まってきている。特に近年は、これまで広く知られている心理療法に加え、音楽療法をはじめとした芸術療法や動物介在療法、さらにはピア・ヘルピングなど応用的心理援助技法が注目されてきている。本授業では、心理臨床の現場で実際行われ、その効果も実証されている、こういった諸技法について、体験的に学習する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアヘルパーについて、その理論とスキルを体験的に学ぶ。 ・ 動物介在療法（アニマルセラピー）について、その理論とスキルを体験的に学ぶ。 ・ 音楽療法について、その理論とスキルを体験的に学ぶ。
授業計画	(1) ピアヘルパーのためのカウンセリング概論 (2) 構成的エンカウンター (3) カウンセリング理論 (4) カウンセリングの言語的技法とロールプレイ (5) カウンセリングの非言語的技法とロールプレイ (6) 青年期の課題とピアヘルパーの留意点 (7) 動物介在療法（アニマルセラピー）の理論 ① (8) 動物介在療法（アニマルセラピー）の理論 ② (9) 動物介在療法（アニマルセラピー）の体験的学習 ① (10) 動物介在療法（アニマルセラピー）の体験的学習 ② (11) 音楽療法の理論 ① (12) 音楽療法の理論 ② (13) 音楽療法の体験的学習 ① (14) 音楽療法の体験的学習 ② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を今後の学生生活や進路選択に役立てること。
使用教材 参考文献	【教】『ピアヘルパーハンドブック』日本教育カウンセラー協会 図書文化	
成績評価方法 と基準	<基準>心理臨床的援助に関して、講義の到達目標の3項目の理解修得が達成されたものを合格とする。 <方法>受講態度（40%）総括レポート（60%）	
備考		

科目名	哲学概論	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、古代から近代に至る西洋の哲学史を概観する。自ら「哲学する」ことは、ともすれば独りよがりになるものである。哲学史を学び、適切なテーマと適切な考え方を先人から学ぶことで、哲学の全体像をつかんでもらいたい。
	到達目標	西洋哲学の歴史について一定の知識をもつ。 哲学の基本的問題を理解する。 哲学のテキストを理解し、その筋道を追体験できる。
授業計画	(1) 哲学するための哲学史 (2) 古代ギリシアの自然哲学 (3) ソクラテス (4) プラトン (5) アリストテレス (6) ストア派とエピクロス (7) デカルト (8) スピノザ (9) ロック (10) バークリ (11) ヒューム (12) カント (13) 現代の哲学（1） (14) 現代の哲学（2） (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・数回毎に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』NHK出版1997 (ISBN4-14-08331-2 C0097) 【参】岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書2003 (ISBN4-00-500441-5) 【参】岩田靖夫『いま哲学とはなにか』岩波新書2008 (ISBN978-4-00-431137-9)	
成績評価方法と基準	<基準>講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがあります。 <方法>期末試験による。	
備考		

科目名	倫理学概論	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	倫理学の基本的な問題を、現代社会の状況にも照らし合わせながら考えてみたい。功利主義とカントの倫理学を基本に据えながら、生命倫理や環境倫理まで考察を広げるつもりである。
	到達目標	功利主義の基本的な考え方を理解する。 カント倫理学の基本的な考え方を理解する。 倫理学の諸問題について、自ら考え、表現することができる。
授業計画	(1) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか① (2) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか② (3) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか① (4) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか② (5) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか① (6) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか② (7) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか① (8) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか② (9) どうすれば幸福の計算ができるか① (10) どうすれば幸福の計算ができるか② (11) 判断能力の判断は誰がするか① (12) 判断能力の判断は誰がするか② (13) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか① (14) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか② (15) まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・数回毎に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】加藤尚武『現代倫理学入門』講談社1997 (ISBN4-06-159267-X)	
成績評価方法と基準	<基準> 講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがある。 <方法> 期末試験による。	
備考		

科目名	社会学概論	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	社会学は、普段は意識しない「日常性」の中に、人と人のつながり、個人と社会の関係、個人と集団の関係、社会秩序など人間社会を形づくっているものを探る学問である。講義では、医療・福祉・教育など人と人が関わりあう活動領域で有効かつ必要な、社会的なものを見方を取り上げ、考えてもらう。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事柄について、個人的なことと社会との結びつきを認識できる。 ・「日常生活の自明性」を再考する発想ができる。 ・前近代から近・現代社会への変化のすう勢を理解できる。 ・数値データを読み取り、その背後にある社会事象を推測し、それを適切に、説得力をもって言語表現できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) イントロダクションー社会学への招待 (2) 社会現象としての「わたし」意識 (3) 自己理解・他者理解としての「役割」現象 (4) 集団一人と人のつながりの多層性 (5) 近現代社会における集団と個人 (6) 高度発達した官僚制組織と脱官僚制化の動向 (7) 職業社会学1ー現代社会における職業労働の特質ー (8) 職業社会学2ー職業の多様性・働き方の多様性ー (9) 職業社会学3ー現代社会の特徴的職業：ヒューマンサービス職ー (10) 家族社会学1ー社会の変化と連動する家族の変化ー (11) 家族社会学2ー多様化する家族の意識、家族のかたちー (12) 現代日本の「格差社会」化と家族関係、労働関係 (13) 「格差（拡大）による貧困化社会」の現代日本1 (14) 「格差（拡大）による貧困化社会」の現代日本2 (15) 総まとめー何が「社会」を秩序立てているのか 	
自学自習	事前学習	意味の分からない用語、指示する用語は事前に調べておくこと。
	事後学習	毎回、授業冒頭に前回授業の復習小クイズを行うので、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【参】 野村一夫『社会学の作法・初級編』文化書房博文社、1999年 飯田哲也編『基礎社会学講義』学文社、2002年 長谷川公一他編『社会学』有斐閣、2007年</p>	
成績評価方法と基準	<方法> 定期筆記試験70% / 課題レポート20% / ワークシート10% <基準> 科目の到達目標を重視する。到達していない者は不合格となる。	
備考	表データを読んだのレポートを課す。レポートは添削して返却するので、受講生は必ず再提出すること。	

科目名	生涯学習概論Ⅰ	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員・司書・社会教育主事資格科目 / 必修(法定科目名「生涯学習概論」)	
科目概要	授業内容	現代はあらゆる活動が知識や情報が直接的な基盤となる知識社会であるといわれている。そうした時代に生きる私たちは、学校などでの一時期の学習だけでなく、生涯にわたる学習が不可欠となっている。そうした視点から、今日に生きるための学習のあり方をともに考える。
	到達目標	現代における教育・学習の意味を理解する。 生涯にわたる教育・学習の仕組みとその意味を知る。 自らの生涯学習のイメージをつかむ。
授業計画	(1) 「学び」の意味と生涯学習 (2) 生涯学習の歴史 (3) 学校と生涯学習 (4) 地方自治体と生涯学習・社会教育 (5) 生涯学習・社会教育と法 (6) 生涯学習・社会教育施設 (7) 生涯学習・社会教育の内容と方法 (8) 生涯学習・社会教育実践の諸相—NPO・ボランティア活動 (9) " —まちづくりと生涯学習 (10) " —女性の生活の変化と生涯学習 (11) " —子育て・青少年教育と生涯学習 (12) " —高齢者と生涯学習 (13) " —情報化と生涯学習 (14) " —グローバル化と生涯学習 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】 適宜プリントを配布する。 【参】 田中雅文ほか『テキスト生涯学習』学文社 2008年／『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012年／『月刊社会教育』国土社	
成績評価方法と基準	<基準> 現代における生涯学習の意味を理解し、社会における生涯学習のあり方と自らの生涯学習の見通しをたてることができる。 <方法> 授業中に課す小レポート30点、期末試験70点	
備考		

科目名	ジェンダー論	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：法ビジネス「生涯開発論VI」	
科目概要	授業内容	「ジェンダー」とは、私たちの性差意識が社会的文化的に作られていることを重視する考え方であり、①生物学的差異に過剰な意味づけをして、性別二分化で説明してしまう「思考の癖」を見直そうとすること、②1人1人を取り巻く日常の現実の、個別具体的な状況や行為の中に、性差別や人権侵害を見だし、その解決策を探ろうとすることである。講義では、学校・家族・恋人や就職・職場など日常生活に素材を取って、受講生の討論を促す。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーの観点から社会の具体的な現状について認識できる。 ・日常の社会事象に性差別を認識でき、性差別を解消するための知識や意欲を獲得する。 ・自分の意見を表現し、他者とディベートし、多様な意見・多様な価値観を承認し合うことの重要性を実感できる。
授業計画	(1) イントロダクションー 男女の差異と「ジェンダー」の発見 (2) 生物学的性差 (sex)・社会的文化的な性差の通念 (gender) (3) 「ジェンダー」の社会化ー家族・学校と「男女の特性」教育 (4) 現代日本の「ジェンダー問題」1ー「差別差別」と言い立てすぎなのか？ (5) 現代日本の「ジェンダー問題」2 ー「男女平等」と「性別役割分担」の到達点 (6) 現代日本の「ジェンダー問題」3ー男性の「生きづらさ」の社会現象 (7) データが示す職場における男女平等・男女差別の現段階 (8) 職場における「男の仕事」「女の仕事」ー間接差別・直接差別 (9) 職場での性差別に、人々はどのように対応してきたか (10) 女性就労の「M字型曲線」は問題か？問題ない？ (11) 日本の究極のジェンダー問題ー子育て・仕事をめぐる男女と社会の関係 (12) 国際社会から見た「日本のジェンダー問題」 (13) ワークショップー「セクハラ・DVはなぜ許せない」と説明するか (14) ワークショップ「女性が生きやすい社会は男性も生きやすい」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	新聞・TVでのジェンダーに関わるニュースに目を通しておくこと。
	事後学習	ワークショップは毎回授業のテーマを参考にするので、事後学習で深めておくこと。
使用教材・参考文献	【参】伊藤公雄他『男性学・女性学』有斐閣, 2002年 国連「女子差別撤廃条約」, 1979年 熊沢誠『女性労働と企業社会』岩波新書, 2000年 沼崎一郎『なぜ男は暴力を選ぶのか』かもがわ出版, 2002年	
成績評価方法と基準	<方法>単位レポート80%、授業中の小レポート10点、授業参加点10% <基準>「ジェンダー」の理解状況、自分のジェンダー意識の批判的自己分析ができるかどうか、及び授業テーマへの真摯な態度と積極的な参加を重視。	
備考	授業中の小レポートで受講生自身の経験や意見・自己分析等を書いてもらい、それを授業の「教材」にして展開する。受講生の積極的な参加を求める。	

科目名	人権論	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	東洋と西洋とでは、人権概念が異なると言われることもあるが、本当であろうか。この講義においては、日本を含むアジアにおける人権問題を具体的に検討したい。
	到達目標	現代においては、国内社会における人権問題の他に国際社会における人権問題も存在することが理解できる。国内外の人権問題の理解が容易になる。
授業計画	(1) 人権に関する基礎知識 (2) 近代における人権 (3) 現代における人権 (4) 明治憲法下の臣民の権利及び義務 (5) 日本国憲法下の国民の権利及び義務 (6) ビルマ（ミャンマー）における人権問題(1) (7) " (2) (8) " (3) (9) 東チモールにおける人権問題(1) (10) " (2) (11) " (3) (12) 西パプアにおける人権問題(1) (13) " (2) (14) " (3) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 中野進『アジアと自決権』信山社 2008年 4-434-12141-8	
成績評価方法と基準	<方法>テスト（80%）、レポートなど（20%） <基準>出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	法学概論	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『法令遵守』と言われることがありますが、卒業後の社会人の常識として、「法学的思考方法」即ち「法学的ものの考え方」をしっかりと身に付けて下さい。
	到達目標	リーガルマインドの正体が理解できる。
授業計画	(1) 法とは何か (2) 法学的思考方法 (3) 国内法の法源 (4) 近代における社会正義の内容 (5) 現代における社会正義の内容 (6) 2つの事例を通じて社会正義の実現について考える (7) 明治憲法 (8) 日本国憲法の制定過程 (9) 国連憲章の精神と日本国憲法 (10) 国民主権主義 (11) 基本的人権尊重主義 (12) 恒久平和主義 (13) 国際社会と法 (14) 日本の領土問題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 吉川仁編『法学入門』嵯峨野書院 2009年 4-7823-0377-7 【参】 中野進『2割司法(完結版)』近代文芸社 2004年 4-7733-7123-4	
成績評価方法と基準	<方法>テスト (80%)、レポートなど (20%) <基準>出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	政治学概論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	/ 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	近代の政治思想から現代政治学までを概観します。近代や現代の思想家や政治学者たちが、政治をどう捉え、どう論じてきたのかを学び、今日の政治を考えていく上での糸口をつかんでください。
	到達目標	政治学には様々な研究分野がありますが、講義ではまず社会契約論など近代の政治思想を概観し、続いて米国政治学を中心に説明していきます。それぞれの内容を把握し、幅広い政治学の見取り図が描けるようになることが、この講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 近代の政治思想① (マキャベリ『君主論』) (3) 近代の政治思想② (ボダンの主権論) (4) 近代の政治思想③ (ホッブス『リバイアサン』) (5) 近代の政治思想④ (ロックとルソー) (6) 近代の政治思想⑤ (権力分立論ほか) (7) 現代の政治学① (米国政治学の系譜) (8) 現代の政治学② (メリアム、ラズウェルほか) (9) 現代の政治学③ (ベントレーほか) (10) 現代の政治学④ (政治システム論) (11) 現代の政治学⑤ (ラズウェルのエリート論ほか) (12) 現代の政治学⑥ (パワー・エリート論ほか) (13) 現代の政治学⑦ (権力関係説) (14) 現代の政治学⑧ (多元主義とその批判) (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年 【参】 堀江湛、岡沢憲英編『現代政治学 (第2版)』法学書院、2002年 岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

科目名	教育社会学	
担当者	江坂 正己 / ESAKA, Masaki	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「教育社会学Ⅰ」	
科目概要	授業内容	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について講ずる。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を<社会化>の視点から理解する。 ・<社会化>にかかわる様々な社会集団の役割について理解する。 ・子どもの発達を現代的な社会状況と関連づけて把握できるようになる。 ・子どもの問題行動を把握しその社会的性格を理解できるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) はじめに (2) 子どもの発達と社会化 (3) 家族集団と子どもの社会化 (4) 仲間集団と子どもの社会化 (5) 近隣集団と子どもの社会化 (6) 学校集団と子どもの社会化 (7) 中間まとめ (8) 少子化と子育て支援 (9) 学歴社会の変貌 (10) マス・コミュニケーションと社会化環境 (11) ニューメディアと子ども (12) 非行の現在 (13) 児童虐待 (14) 不登校・ひきこもり (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に、毎回、小コメントの提出を課す。 ・授業計画の適当な節目に、テーマを与えた小レポートを課す。
使用教材・参考文献	<p>【教】 住田・高島編著『子どもの発達社会学 教育社会学入門』北樹出版 2011年</p> <p>【参】 久富・長谷川編『教育社会学』学文社 2008年</p> <p>岩永・稲垣『新版 教育社会学』放送大学教育振興会 2007年</p> <p>A. H. ハルゼー他編／住田正樹他編訳『教育社会学 第三のソリューション』九州大学出版会 2005年</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準>到達目標に沿って総合的に判断し一定の水準に達していれば合格。</p> <p><方法>学期末終了試験70% 受講態度15% 小レポート等15%</p>	
備考		

科目名	比較教育概論	
担当者	田口 康明 / TAGUCHI, Yasuaki	
科目情報	心理臨床<教育臨床> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	比較教育学は、日本とは異なる国や地域の教育制度や教育事情にふれることによって、その国や地域の理解に努めるとともに、翻って日本の教育に特質を明らかにするものである。そこでこの講義は、比較教育学と何かについて、諸外国の教育事情について紹介し、日本の教育との違いを検討する。
	到達目標	1) 比較教育学の歴史を理解する。近代の国民国家の成立との関連にいて把握する。2) 欧米など日本が模倣・吸収した国々の教育について理解する。3) 隣国であるアジア諸国の教育について理解する。4) 国際機関の教育政策について理解する。
授業計画	(1) ガイダンスーこの授業の目的・進め方等 (2) 比較教育学の歴史①近代国家成立前 (3) " ②近代国家成立後 (4) " ③ポストモダン状況 (5) 欧米の教育とその受容① 明治期の受容 (6) " ② 大正期の受容 (7) " ③ 昭和期と戦後教育の受容 (8) " ④ 現代の受容 (9) 欧米の教育制度の特質 ①ドイツ・フランス (10) " ②イギリス・アメリカ (11) アジア諸国の教育 ①中国・韓国 (12) " ②タイ・マレーシア等 (13) 国際機関の教育政策 ①EU統合と教育 (14) " ②OECDの教育政策 (15) まとめ・最終到達度評価	
自学自習	事前学習	・前回までの内容を必ず確認しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・毎回の授業内容を箇条書きでよいからまとめておくこと。提出を求める場合がある。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中で配布するプリントを用いる。 【参】授業において指示する	
成績評価方法と基準	小テスト（2回を予定）40%、最終到達度評価（テスト）60%。	
備考	講義形式の授業であるが、時々、意見を求める。	

科目名	特殊研究Ⅰ	
担当者	心理臨床学科教員	
科目情報	心理臨床<特殊研究> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	卒業論文の作成に向けて、主に研究の方法論を学び、興味関心を絞り込み、当該領域における問題意識を焦点化することを目的とする。またデータ収集を行うにあたっての倫理観を養う。
	到達目標	卒業論文で扱うテーマを絞り込み、当該領域における研究知見を整理し、研究を行うにあたっての問題意識を明確化できること。研究を行う上での厳粛適正な倫理観を持つこと。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 1. 興味・関心領域の絞り込み (3) " (4) " (5) 2. 「問題」の提出：問題意識を研究可能な形（問い）で示す (6) " (7) " (8) " (9) 3. 研究法の習得：文献収集の方法、論文講読と要約の仕方を学ぶ (10) " (11) " (12) " (13) 4. 研究計画の作成 (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は、関連する資料や書籍等にあたり、丹念に調べ、理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	卒業論文で取り組むテーマを絞り込み、先行研究をレビューし、問題意識を明確化すると共に、それらを研究可能な「問い」の形で提示できることが合格の目安となる。授業への取り組みや成果を総合的に評価する。	
備考	2年生以下の受講は認めない。	

科目名	特殊研究Ⅱ	
担当者	心理臨床学科教員	
科目情報	心理臨床<特殊研究> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	特殊研究Ⅰを踏まえて、卒業論文の作成に向けて、研究計画を立案し、研究材料の作成、計画の実行、データの収集を行う。
	到達目標	研究計画を作成し、データの収集を行うこと。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 1. 先行研究の詳細なレビュー (3) " " (4) 2. 研究計画の立案 (5) " " (6) 3. 研究材料の作成 (7) " " (8) 4. パイロットスタディ（予備調査）の実施 (9) " " (10) 5. 研究計画・研究材料の修正 (11) " " (12) 6. 研究計画の実行/データの収集 (13) " " (14) " " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は、関連する資料や書籍等にあたり、丹念に調べ、理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	研究計画を作成し、計画を実行し、データを収集することを合格の目安とする。授業への取り組みや成果を総合的に評価する。	
備考	3年生以下の受講は認めない。	

科目名	特殊研究Ⅲ	
担当者	心理臨床学科教員	
科目情報	心理臨床<特殊研究> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	特殊研究Ⅰ及びⅡを踏まえて、収集したデータの集計方法、処理の仕方や具体的解析の方法について学び、実行する。また研究成果の発表（プレゼンテーション）を行う。
	到達目標	収集したデータを整理し、適切な処理を行い、研究の結論を導くこと。また研究成果を分かりやすく、他者にプレゼンテーション出来ること。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 1. 収集したデータの整理、処理の方法を学ぶ (3) " (4) " (5) 2. データの解釈と再分析 (6) " (7) " (8) 3. 結果を整理し、研究知見をまとめる (9) " (10) 4. 先行研究を踏まえ、得られた結果について考察する (11) " (12) 5. プレゼンテーションの準備をする (13) " (14) " (15) 総まとめ（プレゼンテーションの実施）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は、関連する資料や書籍等にあたり、丹念に調べ、理解を補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	データを整理し、適切な処理を行い、そこで得られた知見をまとめ上げ、明解なプレゼンテーションが行えることを合格の条件とする。授業への取り組みや成果を総合的に評価する。	
備考	3年生以下の受講は認めない。	

科目名	日本語日本文学入門	
担当者	◎新内 康子 / 嶋田 直哉 / 安本 真弓	
科目情報	人間文化<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	A. (嶋田) 文学作品の読み方について概説する。中学校・高等学校国語教科書でなじみの深い漱石と鷗外について再読を試みる。 B. (安本) 日本語の歴史、および言語の変化に関する問題を取り上げることで、日本語研究に関する基礎的事項を概説する。 C. (新内) 外国人が使用した日本語の誤用を通して、日本人が言語形成期に自然習得した現代日本語の諸規則を考える。
	到達目標	A. (嶋田) 論理的に文学作品を読むことができるようになる。 B. (安本) 日本語の歴史、および言語の変化に対して興味を持ち、言語を研究するための視点や問題点を考える姿勢を身につける。 C. (新内) ことばに対して興味関心が持て、現代日本語の諸規則について考える姿勢を身につける。
授業計画	(1) ガイダンス 文学作品を読むための準備 (2) 日本近代文学史概観 (3) 夏目漱石の生涯と作品 (4) 夏目漱石「坊っちゃん」を読む (5) 森鷗外の生涯と作品 (6) 森鷗外「舞姫」を読む (7) 漢字にめぐりあう ー奈良時代ー (8) 文章をこころみる ー平安時代ー (9) うつりゆく古代語 ー鎌倉・室町時代ー (10) 近代語のいぶき ー江戸時代ー (11) 言文一致をもとめる ー明治時代以降ー (12) 日本語の歴史と言語の変化 (13) 日本語教育の現状。外国人の誤用から考える日本語の諸規則① (14) 外国人の誤用から考える日本語の諸規則② (15) 外国人の誤用から考える日本語の諸規則③	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】A: 各自授業の対象となる文庫本を用意。詳しくは初回の授業で説明する。 B: 使用しない。プリントを配付する。 C: 使用しない。プリントを配付する。 【参】A, C: 授業時に適宜指示する。 B: 山口仲美(2006)『日本語の歴史』岩波新書、ISBN4004310180	
成績評価方法と基準	<基準> A: 文学作品を論理的に読むことができれば合格とする。 B: 日本語の歴史、および言語の変化について理解を深め、その問題点を見出し、考える姿勢を身につけることができれば合格とする。 C: 現代日本語への理解を深め、ある日本語現象の特徴を見出し、まとめることができれば合格とする。 <方法> A: レポート50%、受講態度50% B: テスト60%、受講態度40% C: レポート60%、授業中課題40%	
備考	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> A,B,C すべての課題(レポート、テスト等)を行わなければ、評価 </div>	

科目名	英語英米文化入門	
担当者	◎酒瀬川 純行 / 入江 公啓 / マーカス・シオボールド / 蒲地 賢一郎	
科目情報	人間文化<基礎> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	英米の歴史と文化、文学、英語の歴史等の視点に加えて、実践的な英語教育の必要性まで、多岐にわたり総合的に学習する。英語英米文化コース科目群で学習できること、卒業研究のテーマなど、今後の研究に必要な事項も学ぶ。
	到達目標	世界の急速な一体化が進む中で、国際語としての英語を実践的に学ぶことと、英米文化を理解することの重要性は益々高まっている。これまでの狭い意味での英語・英米文学という立場から抜け出し、広い文化的視点に立って言語や文化を分析する姿勢、能力をもつようになることが目標である。
授業計画	(1) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(1) (酒瀬川) (2) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(2) (酒瀬川) (3) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(3) (酒瀬川) (4) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(4) (酒瀬川) (5) 英語教育(1) (入江) (6) 英語教育(2) (入江) (7) 英語教育(3) (入江) (8) 英語教育(4) (入江) (9) cross-cultural communication (1) (シオボールド) (10) cross-cultural communication (2) (シオボールド) (11) cross-cultural communication (3) (シオボールド) (12) cross-cultural communication (4) (シオボールド) (13) 英語学(1) (蒲地) (14) 英語学(2) (蒲地) (15) 英語学(3) (蒲地)	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	4回ごとにテストを行う。
使用教材・参考文献	【教】各教員が指示する。 【参】各教員が指示する。	
成績評価方法と基準	<基準>各教員が基準を示す。 <方法>各教員がレポートや出席等により評価し、それを総合して最終的な評価を行う。	
備考		

科目名	歴史地理入門	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi 宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	(前半) 歴史学という学問の特性と分野的広がりについて概観し、歴史を学ぶ上で不可欠な基礎的事項について説明する。 (後半) 「地理的知識」とはいかなるものか、それに地理学がどのようにアプローチしてきたかを説明する。
	到達目標	「歴史とは何か」という問題に対して自分なりに答えられるようになる。 地理学の流れを把握し、地理学とはどのような学問か説明できるようになる。
授業計画	(1) 歴史とは何か (2) 歴史学の歴史 (1) —近代歴史学の成立 (3) 歴史学の歴史 (2) —マルクス主義歴史学と時代区分論 (4) 歴史学の歴史 (3) —アナール学派と社会史 (5) 歴史の手法—史資料と批判的検討 (6) 様々な歴史学 (7) 歴史学の新しい潮流 (8) 歴史を学ぶ意味 (9) 地理学とは何か (10) 地図と歴史 (1) —地理的知識の拡大と地図 (11) 地図と歴史 (2) —地理的知識の精緻化 (12) 地理的知識とは (13) 近代地理学史 (1) —近代地理学の成立 (14) 近代地理学史 (2) —新しい地理学へ (15) 現代の地理学	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業で紹介された参考文献を読むこと。 ・博物館や史跡・名勝等を訪ね、現地で考えること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。 【参】E. H. カー『歴史とは何か』岩波新書、1962年。 【参】P. クラヴァル『新しい地理学』文庫クセジュ、1984年。	
成績評価方法と基準	歴史分野と地理分野それぞれのレポートと受講態度による。レポート80%(歴史40%+地理40%)、受講態度20%が目安。	
備考		

科目名	卒業研究Ⅰ	
担当者	人間文化学科教員	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。
使用教材・参考文献	【教】ゼミ担当教員の指示による	
成績評価方法と基準	<方法>ゼミ担当教員の評価方法による。 <基準>60%以上クリアできれば合格とする。	
備考		

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	人間文化学科教員	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。
	到達目標	卒業論文を完成させる。
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。
使用教材・参考文献	【教】ゼミ担当教員の指示による	
成績評価方法と基準	<方法>ゼミ担当教員の評価方法による。 <基準>60%以上クリアできれば合格とする。	
備考		

科目名	生涯学習概論Ⅰ	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員・司書・社会教育主事資格科目 / 必修 (法定科目名「生涯学習概論」)	
科目概要	授業内容	現代はあらゆる活動が知識や情報が直接的な基盤となる知識社会であるといわれている。そうした時代に生きる私たちは、学校などでの一時期の学習だけでなく、生涯にわたる学習が不可欠となっている。そうした視点から、今日に生きるための学習のあり方をもとに考える。
	到達目標	現代における教育・学習の意味を理解する。 生涯にわたる教育・学習の仕組みとその意味を知る。 自らの生涯学習のイメージをつかむ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「学び」の意味と生涯学習 (2) 生涯学習の歴史 (3) 学校と生涯学習 (4) 地方自治体と生涯学習・社会教育 (5) 生涯学習・社会教育と法 (6) 生涯学習・社会教育施設 (7) 生涯学習・社会教育の内容と方法 (8) 生涯学習・社会教育実践の諸相—NPO・ボランティア活動 (9) " —まちづくりと生涯学習 (10) " —女性の生活の変化と生涯学習 (11) " —子育て・青少年教育と生涯学習 (12) " —高齢者と生涯学習 (13) " —情報化と生涯学習 (14) " —グローバル化と生涯学習 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	<p>【教】 適宜プリントを配布する。</p> <p>【参】 田中雅文ほか『テキスト生涯学習』学文社 2008年／『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012年／『月刊社会教育』国土社</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 現代における生涯学習の意味を理解し、社会における生涯学習のあり方と自らの生涯学習の見通しをたてることができる。</p> <p><方法> 授業中に課す小レポート30点、期末試験70点</p>	
備考		

科目名	生涯学習概論Ⅱ	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	社会教育主事資格科目/必修	
科目概要	授業内容	世界において生涯学習が組織化されてきた過程と今日までの展開についての歴史的な理解を得ることによって、これからの生涯学習のあり方を国際的視野にたって考える。
	到達目標	国際的・歴史的視点から、生涯学習の今日的到達点と課題を理解し、これからのあり方を展望する。
授業計画	(1) 近代生涯学習の誕生とその理念 (2) 社会問題の発生と生涯教育の組織化 (3) 成人教育制度と国家的整備 (4) 日本の社会教育制度の誕生とその性格 (5) 労働の変化と成人教育 (6) 成人教育の国際化とユネスコの誕生 (7) ユネスコ生涯学習論の誕生と課題 (8) 南北問題と生涯学習の転換 (9) 学習権宣言と識字教育 (10) 21世紀の鍵=成人の学習 (11) 学習の4本柱 (12) 持続可能な開発のための教育 (13) 実現可能な未来のために生きることと学ぶこと：成人学習の力 (14) 国際的視野からみた日本の生涯学習の課題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】適宜プリントを配布する 【参】ユネスコ『持続可能な未来のための学習』有斐閣 2005年 社会教育推進全国協議会 『社会教育・生涯学習ハンドブック』2011年	
成績評価方法と基準	<基準>国際的・歴史的視点にたって今日の生涯学習のあり方を論じることができる。 <方法>授業中に課す小レポート20点、プレゼンテーション30点、期末試験50点	
備考		

科目名	地域教育論	
担当者	東川 隆太郎 / KAWAHIGASHI, Ryutaro	
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	鹿児島地域における生涯学習・観光・まちづくりの現状や課題、またはそれらの活動のこれからを実践事例等から学ぶことを目的とする。
	到達目標	地域で活動すること・地域で学ぶことを、実践研究や鹿児島らしいテーマから具体的に学習することで、地域教育やまちづくり活動に必要な手法やノウハウを理解する。
授業計画	<p>(1) 「地域づくり・教育」ってなんだろう(地域教育総論)</p> <p>(2) 地域の公民館で活動する～講座開催の計画立案～※</p> <p>(3) 地域へのまなざし～マイヘリテージの取組・世間遺産～</p> <p>(4) 地域へのまなざし～フィールドワーク(大学周辺まち歩き)</p> <p>(5) 地域へのまなざし～公衆浴場という地域コミュニティ～</p> <p>(6) 「考現学」で学内を見つめる *</p> <p>(7) 地域の「農」を魅せる・活かす～グリーン・ツーリズムの取組～</p> <p>(8) 世界遺産へ向けた動き～九州・山口の近代化産業遺産群～</p> <p>(9) 鹿児島の離島の魅力から地域を考える</p> <p>(10) 薩摩剣士隼人は地域づくりをめざす</p> <p>(11) 地域へのまなざし～フィールドワーク(郡元墓地まち歩き)</p> <p>(12) ジオパークにおけるまちづくり効果</p> <p>(13) 幕末・明治維新を観光に活用する～明治維新150年に向けて</p> <p>(14) まちあるき観光ガイドの現状と課題</p> <p>(15) 総まとめ *</p> <p style="text-align: right;">*でレポート提出</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島のNPO活動や地域づくり活動に積極的に参加すること。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントまたはパンフレットを用いる。</p> <p>【参】南日本新聞隔週火曜日連載「続世間遺産」</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準>授業内容を参考にしたそれぞれのレポートにおいて、オリジナリティーのある表現または創造ができたものを合格とする。</p> <p><方法>3回のレポート提出60%、毎回の授業後提出の感想レポート40%</p>	
備考		

科目名	社会教育計画論 I	
担当者	松下 尚明 / MATSUSHITA, Naoaki	
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	集中講義	
科目概要	授業内容	生涯学習時代に地域で展開されている学習活動・実践活動等の具体的様相並びにそれを支える論理を学び、望ましい社会教育計画立案の視点と方法を修得する。
	到達目標	① 「社会教育」の問題意識はどのように発生するか理解する。 ② 現場の社会教育が当面している課題を理解する。 ③ 社会教育計画立案の望ましい視点と方法を理解する。 ④ テキスト熟読により、講義と現場とを関係づけられる。 ⑤ 小論文作成により、社会教育的発想による表現ができる。
授業計画	(1) 社会教育計画の問題意識 (2) 社会教育主事のベテランとプロ (3) テキスト熟読[まえがき・第1章1節]・質疑応答・討論 (4) 地域子ども会育成に関する小論文①作成 (5) 地域社会の学び・学校の学び・地域の教育力 (6) 戦前における西志布志実業補習学校の実験 (7) テキスト熟読[第1章2節]・質疑応答・討論 (8) 青少年長期宿泊学習に関する小論文②作成 (9) PTAにおける組織論と計画論 (10) 男女共同参画社会の実現と社会教育 - 福沢諭吉の女性論を中心に (11) テキスト熟読[第1章3節]・質疑応答・討論 (12) 青少年読書活動に関する小論文③作成 (13) 地域変動に対応するコミュニティ計画 (14) 社会教育における広報・公聴 (15) テキスト熟読[第2章・第3章2節・あとがき]・質疑応答・討論 ●課題 子育てに関する小論文④作成	
自学自習	事前学習	・「使用教材(テキスト)の指定章節を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・翌日には、書き上げた小論文を提出すること。
使用教材・参考文献	【教】 松下 尚明 『子育ての周辺』 2012年 鹿児島学術文化出版 [ISBN978-4-902709-16-2] 【参】 そのつど、コピーにて紹介する。	
成績評価方法と基準	<方法> 試験 (40%) 受講態度 (20%)、小論文 (20%) とします。 <基準> 小論文4本提出を最低基準とします。	
備考	① 毎時間の講義内容に対する評価表を提出してもらう。 ② 講義内容に対する批判・意見表明を大歓迎する。	

科目名	社会教育計画論Ⅱ	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	社会教育主事資格科目/必修	
科目概要	授業内容	社会教育計画の理論をふまえ、全国の優れた社会教育計画とその実践を考察・分析する。 社会教育施設見学、社会教育実践の聞き取り、志學館大学生涯学習センターの公開講座の運営参加などを通して、社会教育計画の実際を理解する。
	到達目標	社会教育計画づくりのための基礎力を形成する。 社会教育計画案を実際に策定・評価できる力量を習得する。
授業計画	(1) 社会教育計画とは (2) 社会教育主事の役割 (3) 学習者の理解 (4) 社会教育調査とその活用 (5) 社会教育事業計画① (6) 社会教育事業計画② (7) 社会教育事業計画事例の考察・分析 (8) 社会教育事業への体験的運営参加 (9) 社会教育施設計画① (10) 同 ② (11) 社会教育施設現地研修① (12) 社会教育施設現地研修② (13) 社会教育の評価 (14) 社会教育計画事例の考察・分析 (15) 総まとめ *展開順序は入れ替わることがあります。	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】 適宜プリントを配布する。 【参】 『月刊社会教育』国土社、『社会教育』全日本社会教育連合会、『月刊公民館』第一法規、社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所2011年。『公民館のデザイン』エイデル研究所2010年。『社会教育計画の基礎』学文社2012年。	
成績評価方法と基準	<基準> 社会教育計画の意義を理解し、実際に社会教育計画が作成できる。 <方法> レポート報告20点、社会教育計画案作成40点、期末テスト40点	
備考	社会教育施設現地研修の交通費は自己負担とする。	

科目名	社会教育演習	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	社会教育主事資格科目 / 選択必修	
科目概要	授業内容	持続可能な社会づくりに向けた教育・社会教育のあり方およびその役割を考察する。そのための授業展開としては、指定文献・資料の輪読および現地事例調査を基にした報告・議論を中心に行う。調査対象は、受講生の関心に応じて決定する。
	到達目標	持続可能な社会づくりとそのための教育（ESD）の意味と今日的意義を理解する。 地域の社会教育実践を持続可能な社会づくりの視点から理解し、自らの関わり方を考えることができる。
授業計画	(1) 持続可能な社会と持続可能な開発のための教育（ESD） (2) ESDにみる新しい教育論 (3) ESDと生涯学習 (4) ESDと学校教育 (5) ESDと人材育成 (6) 環境教育とESD (7) 地域再生とESD (8) 観光とESD (9) 企業とESD (10) 海外におけるESD (11) ESDの10年の調査研究① (12) ESDの10年の調査研究② (13) ESD実践の現地調査研修① (14) ESD実践の現地調査研修② (15) まとめ－ESDの課題－ *授業展開は入れ替わることがあります。	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】『持続可能な開発のための教育の理論と実践』 ミネルヴァ書 2012年。 その他、プリントを適宜配布する。 【参】『持続可能な開発のための教育（ESD）をつくる－地域でひらく未来の教育－』 ミネルヴァ書房 2011年。持続可能な開発のための教育10年推進会議編『希望への学びあい』 2009年 その他、授業中に紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準>持続可能な社会づくりと教育・社会教育の関係の基本的理解をふまえて、これからの社会教育のあり方への自らの見解を表現できる。 <方法>文献・資料を考察したレポート報告30%、調査報告レポート30% 終了レポート 40%	
備考	現地調査の交通費等は自己負担とする。	

科目名	社会教育実習	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
	社会教育主事資格科目 / 選択必修	
科目概要	授業内容	教育委員会生涯学習課及び社会教育施設において実習を行う。実習にあたっては、事前授業において社会教育主事の役割を中心に社会教育制度の仕組みとその意義を理解する。事後授業においては、実習の反省とまとめを各自の発表のもとに行う。
	到達目標	実習を通して、住民の学習・文化・スポーツ活動を支援する社会教育主事の仕事の基本と役割を理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 社会教育・生涯学習の歴史と社会教育主事 (3) 社会教育制度の仕組み (4) 社会教育主事の仕事とその役割 (5) 社会教育実習の計画 (6) 社会教育実習 (7) 同 (8) 同 (9) 同 (10) 同 (11) 同 (12) 同 (13) 社会教育実習のふりかえり (1) (14) 同 (2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】伊藤俊夫編著『新しい時代を創る社会教育』全日本社会教育連合会、2008年 【参】社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』2005年 鈴木真理他『社会教育の核心』全日本社会教育連合会、2010年	
成績評価方法と基準	<基準> 社会教育実習に積極的に取り組み、かつ実習についての内容・考察を適切に記録できること。ただし、実習事前・事後授業への出席が大前提であり、出席不良の場合実習そのものが認められない。 <方法> 社会教育実習 80点、実習事前・事後の発表 20点。	
備考	実習先への交通費などは自己負担とする。	

科目名	法学概論	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『法令遵守』と言われることがありますが、卒業後の社会人の常識として、「法学的思考方法」即ち「法学的ものの考え方」をしっかりと身に付けて下さい。
	到達目標	リーガルマインドの正体が理解できる。
授業計画	(1) 法とは何か (2) 法学的思考方法 (3) 国内法の法源 (4) 近代における社会正義の内容 (5) 現代における社会正義の内容 (6) 2つの事例を通じて社会正義の実現について考える (7) 明治憲法 (8) 日本国憲法の制定過程 (9) 国連憲章の精神と日本国憲法 (10) 国民主権主義 (11) 基本的人権尊重主義 (12) 恒久平和主義 (13) 国際社会と法 (14) 日本の領土問題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 吉川仁編『法学入門』嵯峨野書院 2009年 4-7823-0377-7 【参】 中野進『2割司法(完結版)』近代文芸社 2004年 4-7733-7123-4	
成績評価方法と基準	<方法>テスト (80%)、レポートなど (20%) <基準>出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	政治学概論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	/ 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	近代の政治思想から現代政治学までを概観します。近代や現代の思想家や政治学者たちが、政治をどう捉え、どう論じてきたのかを学び、今日の政治を考えていく上での糸口をつかんでください。
	到達目標	政治学には様々な研究分野がありますが、講義ではまず社会契約論など近代の政治思想を概観し、続いて米国政治学を中心に説明していきます。それぞれの内容を把握し、幅広い政治学の見取り図が描けるようになることが、この講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 近代の政治思想① (マキャベリ『君主論』) (3) 近代の政治思想② (ボダンの主権論) (4) 近代の政治思想③ (ホッブス『リバイアサン』) (5) 近代の政治思想④ (ロックとルソー) (6) 近代の政治思想⑤ (権力分立論ほか) (7) 現代の政治学① (米国政治学の系譜) (8) 現代の政治学② (メリアム、ラズウェルほか) (9) 現代の政治学③ (ベントレーほか) (10) 現代の政治学④ (政治システム論) (11) 現代の政治学⑤ (ラズウェルのエリート論ほか) (12) 現代の政治学⑥ (パワー・エリート論ほか) (13) 現代の政治学⑦ (権力関係説) (14) 現代の政治学⑧ (多元主義とその批判) (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年 【参】 堀江湛、岡沢憲英編『現代政治学 (第2版)』法学書院、2002年 岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

科目名	人権論	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	東洋と西洋とでは、人権概念が異なると言われることもあるが、本当であろうか。この講義においては、日本を含むアジアにおける人権問題を具体的に検討したい。
	到達目標	現代においては、国内社会における人権問題の他に国際社会における人権問題も存在することが理解できる。国内外の人権問題の理解が容易になる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none">(1) 人権に関する基礎知識(2) 近代における人権(3) 現代における人権(4) 明治憲法下の臣民の権利及び義務(5) 日本国憲法下の国民の権利及び義務(6) ビルマ（ミャンマー）における人権問題(1)(7) " (2)(8) " (3)(9) 東チモールにおける人権問題(1)(10) " (2)(11) " (3)(12) 西パプアにおける人権問題(1)(13) " (2)(14) " (3)(15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none">・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none">・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 中野進『アジアと自決権』信山社 2008年 4-434-12141-8	
成績評価方法と基準	<方法>テスト (80%)、レポートなど (20%) <基準>出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	社会学概論	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	社会学は、普段は意識しない「日常性」の中に、人と人のつながり、個人と社会の関係、個人と集団の関係、社会秩序など人間社会を形づくっているものを探る学問である。講義では、医療・福祉・教育など人と人が関わりあう活動領域で有効かつ必要な、社会的なものを見方を取り上げ、考えてもらう。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な事柄について、個人的なことと社会との結びつきを認識できる。 ・ 「日常生活の自明性」を再考する発想ができる。 ・ 前近代から近・現代社会への変化のすう勢を理解できる。 ・ 数値データを読み取り、その背後にある社会事象を推測し、それを適切に、説得力をもって言語表現できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) イントロダクションー社会学への招待 (2) 社会現象としての「わたし」意識 (3) 自己理解・他者理解としての「役割」現象 (4) 集団一人と人のつながりの多層性 (5) 近現代社会における集団と個人 (6) 高度発達した官僚制組織と脱官僚制化の動向 (7) 職業社会学1ー現代社会における職業労働の特質ー (8) 職業社会学2ー職業の多様性・働き方の多様性ー (9) 職業社会学3ー現代社会の特徴的職業：ヒューマンサービス職ー (10) 家族社会学1ー社会の変化と連動する家族の変化ー (11) 家族社会学2ー多様化する家族の意識、家族のかたちー (12) 現代日本の「格差社会」化と家族関係、労働関係 (13) 「格差（拡大）による貧困化社会」の現代日本1 (14) 「格差（拡大）による貧困化社会」の現代日本2 (15) 総まとめー何が「社会」を秩序立てているのか 	
自学自習	事前学習	意味の分からない用語、指示する用語は事前に調べておくこと。
	事後学習	毎回、授業冒頭に前回授業の復習小クイズを行うので、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【参】 野村一夫『社会学の作法・初級編』文化書房博文社、1999年 飯田哲也編『基礎社会学講義』学文社、2002年 長谷川公一他編『社会学』有斐閣、2007年</p>	
成績評価方法と基準	<方法> 定期筆記試験70% / 課題レポート20% / ワークシート10% <基準> 科目の到達目標を重視する。到達していない者は不合格となる。	
備考	表データを読んだのレポートを課す。レポートは添削して返却するので、受講生は必ず再提出すること。	

科目名	社会調査法Ⅰ	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	複雑な社会現象を捉えるための手段として様々な分野で重要性を増している社会調査についての <u>基本的事項</u> を学ぶ。専門的なくつかの社会調査科目を学ぶための、第一歩目の科目である。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の有効性と限界、社会調査に求められる「科学性」を理解できる。 ・身近な社会調査である国勢調査・世論調査について基本的事項を確実に理解し、説明できる。 ・基本型である統計的調査・記述的調査について説明できる。 ・調査者に求められる倫理について、確実に理解できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会調査とは何か、社会調査の真の目的・関心は何か (2) 社会調査の歴史—人口統計と社会問題の調査・調査技術の高度化・多様化 (3) 社会調査の実例①—国勢調査・官庁統計 (4) インターネットで「政府統計の総合窓口」を覗いてみる (5) 統計データを加工すると、何が見える？ (6) 社会調査の実例②—世論調査 (7) 社会調査の実例③—マーケティング・リサーチ (8) 社会調査の種類①その1—量的調査・統計的調査 (9) 社会調査の種類①その2—統計的調査の具体的調査方法 (10) 社会調査の種類②その1—質的調査・記述的調査 (11) 社会調査の種類②その2—質的調査の実例 (12) 社会調査の種類②その3—質的調査で分かること・分からないこと (13) 量的調査と質的調査の比較—技法としての有効性と限界を認識する (14) 社会調査と調査者の倫理 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	教科書の指示部分を読んでおくこと。
	事後学習	不定期に授業内容の復習小クイズをするので、確実に復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】大谷信介 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 ミネルヴァ書房、2004年。社会調査法Ⅱでも使用する教科書である。</p> <p>【参】宮内泰介 『自分で調べる技術—市民のための調査入門』 岩波書店、2004年</p> <p>谷岡一郎 『「社会調査」のウソ』 文春新書、2000年</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法>レポート等の課題遂行15%・定期筆記試験85%</p> <p><基準>科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。</p>	
備考	社会調査教育の基礎的科目であり、「社会調査士資格」取得のための必修科目の1つでもある。	

科目名	倫理学概論	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	倫理学の基本的な問題を、現代社会の状況にも照らし合わせながら考えてみたい。功利主義とカントの倫理学を基本に据えながら、生命倫理や環境倫理まで考察を広げるつもりである。
	到達目標	功利主義の基本的な考え方を理解する。 カント倫理学の基本的な考え方を理解する。 倫理学の諸問題について、自ら考え、表現することができる。
授業計画	(1) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか① (2) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか② (3) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか① (4) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか② (5) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか① (6) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか② (7) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか① (8) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか② (9) どうすれば幸福の計算ができるか① (10) どうすれば幸福の計算ができるか② (11) 判断能力の判断は誰がするか① (12) 判断能力の判断は誰がするか② (13) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか① (14) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか② (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・数回毎に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】加藤尚武『現代倫理学入門』講談社1997 (ISBN4-06-159267-X)	
成績評価方法と基準	<基準> 講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがある。 <方法> 期末試験による。	
備考		

科目名	哲学概論	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	心理臨床<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、古代から近代に至る西洋の哲学史を概観する。自ら「哲学する」ことは、ともすれば独りよがりになるものである。哲学史を学び、適切なテーマと適切な考え方を先人から学ぶことで、哲学の全体像をつかんでもらいたい。
	到達目標	西洋哲学の歴史について一定の知識をもつ。 哲学の基本的問題を理解する。 哲学のテキストを理解し、その筋道を追体験できる。
授業計画	(1) 哲学するための哲学史 (2) 古代ギリシアの自然哲学 (3) ソクラテス (4) プラトン (5) アリストテレス (6) ストア派とエピクロス (7) デカルト (8) スピノザ (9) ロック (10) バークリ (11) ヒューム (12) カント (13) 現代の哲学（1） (14) 現代の哲学（2） (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・数回毎に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』NHK出版1997 (ISBN4-14-08331-2 C0097) 【参】岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書2003 (ISBN4-00-500441-5) 【参】岩田靖夫『いま哲学とはなにか』岩波新書2008 (ISBN978-4-00-431137-9)	
成績評価方法と基準	<基準>講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがあります。 <方法>期末試験による。	
備考		

科目名	日本語学の基礎 I	
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	言葉は変化するものであり、その変化の結果、古代の日本語は現在の姿になった。では、日本語はどのように変化してきたのだろうか。また、なぜ変化したのだろうか。ここでは、日本語の歴史の概要を把握したうえで、日本語の歴史をとらえるための視点について解説する。
	到達目標	1. 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。 2. 日本語の歴史、および言語の変化に関する問題点に気付くことができ、その問題について考える姿勢を身につける。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 奈良時代の資料 (3) 奈良時代の音韻・語彙・文体・文法 (4) 平安時代の文字・音韻 (5) 平安時代の語彙・文体・文法 (6) 鎌倉時代の文字・音韻 (7) 鎌倉時代の語彙・文体 (8) 鎌倉時代の文法 (9) 室町時代の文字・音韻・語彙・文体 (10) 室町時代の文法 (11) 江戸時代前期の文字・音韻・文法・待遇表現 (12) 江戸時代後期の文字・音韻・文法・待遇表現 (13) 明治時代以後の文字・音韻 (14) 明治時代以後の語彙・文体・文法 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】近藤泰弘他『新訂日本語の歴史』放送大学振興会、2005年、ISBN 4595305474 【参】山口仲美『日本語の歴史』岩波新書、2006年、ISBN 4004310180	
成績評価方法と基準	<基準>日本語の文字・音韻・語彙・文体・文法について、基礎的なことが理解できていれば、合格とする。 <方法>テスト50%、小課題30%、受講態度20%	
備考		

科目名	日本語学の基礎Ⅱ	
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	日本語はどのように形成されてきたのであろうか。この授業では、まず、日本語の変遷の諸相を把握するための方法について、必要な資料や調査法、考え方などを解説する。そのうえで、文献調査とその分析方法について実践し、文献による日本語史研究の方法を身につける。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語史研究にかかわる文献資料についての知識を得る。 2. 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。 3. 調査にもとづいて報告し、議論をおこなうことができるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 日本語史研究の方法① (3) 日本語史研究の方法② (4) 日本語史研究の方法③ (5) 演習発表① (6) 演習発表② (7) 演習発表③ (8) 演習発表④ (9) 演習発表⑤ (10) 演習発表⑥ (11) 演習発表⑦ (12) 演習発表⑧ (13) 演習発表⑨ (14) 演習発表⑩ (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	<p><基準> 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができ、また、その調査結果を報告・議論することができれば、合格とする。</p> <p><方法> 演習発表40%、レポート30%、受講態度30% ただし、演習発表を行わなかった場合は、その時点で不可とする。</p>	
備考		

科目名	日本語の音声	
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	音声（声）とは何だろうか？音声はどのように作られているのだろうか？「か」や「さ」には「が」「ざ」といった濁音があるが、「あ」や「ま」などにはなぜ濁音がないのだろうか？発声や発音のしくみについて理解を深めていく。
	到達目標	1. 発声や発音の仕組みについて理解する。 2. 標準的な現代日本語の音声における母音・子音・アクセントなどの特徴を理解する。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 音声と音声学 (3) 子音① (4) 子音② (5) 子音③ (6) 母音 (7) 現代共通日本語の音声① (8) 現代共通日本語の音声② (9) 音節とモーラ (10) アクセント① (11) アクセント② (12) イントネーションとプロミネンス (13) リズムとポーズ (14) 音素と音素論 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】沖森卓也『日本語概説』朝倉書店、2010年、ISBN 4254515235 【参】斎藤純男『日本語音声学入門 改訂版』三省堂、2006年、ISBN 4385345880 【参】松崎寛・河野俊之『よくわかる音声』（CD付）アルク、1998年、ISBN 4872349415	
成績評価方法と基準	<基準>発声・発音のしくみや、日本語の音声における子音・母音・アクセントなどの基礎的なことが習得できている、また、現代共通日本語の音声の特徴などが理解できていれば、合格とする。 <方法>テスト50%、小課題30%、受講態度20%	
備考	教科書は、「日本語の文法」と同じものを使用する。	

科目名	日本語の文法	
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	ことばの規則とは何だろうか? 「私は行く」と「私が行く」は同じだろうか? 「は」と「が」の違いとは何だろうか? 少し立ち止まって考えてみると、疑問に思うことがたくさんある。このような日本語文法の疑問に注目しながら、日本語の文法についての理解を深めていく。
	到達目標	1. 日本語の文法について理解を深める。 2. 文法理論および文法概念について理解する。 3. 日本語を客観的に見つけ、文法規則を見出す姿勢を身につける。 4. 現代日本語の文法の様々な問題に気付くことができ、その問題について考えをまとめることができる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 形態論① (3) 形態論② (4) 文の構造と文法カテゴリー (5) 主題と主語 (6) ボイス① (7) ボイス② (8) 自動詞と他動詞 (9) テンス (10) アスペクト (11) モダリティ (12) 複文 (13) 「のだ」 (14) 言葉のバリエーション (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】 沖森卓也『日本語概説』朝倉書店、2010年、ISBN 4254515235 【参】 庵功雄『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える—』スリーエーネットワーク、2001年、ISBN 4883191788 【参】 加藤重広『日本語文法入門ハンドブック』研究社、2006年、ISBN 432738450X	
成績評価方法と基準	<基準> 日本語の文法や文法理論について、基礎的なことが理解できており、また、現代日本語文法の様々な問題点に気付き、その問題について考えをまとめることができれば、合格とする。 <方法> テスト50%、小課題30%、受講態度20%	
備考	教科書は、「日本語の音声」と同じものを使用する。	

科目名	日本語の表現	
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	言葉で「表現」することによって、私たちは自己を表現し、他者やこの世界の出来事を理解している。だが、「表現」の仕方には多くの方法がある。そこで、身の回りにあふれている日本語の表現方法を探り、実際の表現方法の特徴を見出す分析力を養うことをめざす。また、実際に表現活動を行い、表現力を磨いていく。
	到達目標	1. 手紙やビジネス文書など、実用文が書けるようになる。 2. 様々な文章表現の特徴を理解し、自己表現の手だての一つとして会得することができるようになる。 3. 様々な音声表現の特徴を理解し、実践できるようになる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 文章を書く上での基本的ルール (3) 小論文・レポートの書き方① (4) 小論文・レポートの書き方② (5) 小論文・レポートの書き方③ (6) 小論文・レポートの書き方④ (7) 手紙の書き方① (8) 手紙の書き方② (9) ビジネス文書の書き方① (10) ビジネス文書の書き方② (11) ビジネス文書の書き方③ (12) 敬語表現① (13) 敬語表現② (14) ビジネス会話 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】長谷川泉『国語表現ハンドブック 新訂版』明治書院、2000年、ISBN 4625200040 【参】大本泉他編『日本語表現—演習と発展— 改訂版』明治書院、2011年、ISBN 4625704081	
成績評価方法と基準	<基準>文章表現の特徴を理解し、実用文・小論文などを書くことができ、また、音声表現の特徴を理解・実践できれば、合格とする。 <方法>各種レポート90%、受講態度10% ただし、レポート類をすべて提出することを単位取得の条件とする。	
備考		

科目名	日本語と社会	
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	私たちが日常生活で使用する言葉は様々であるが、すべて社会とのつながりを持っている。そこで、社会生活において言葉がどのように使われているのか、具体的な人間の行動とのかかわりの中で、日本語と社会との関係を考えていくことにする。
	到達目標	1. 社会言語学の意義を知り、言語を研究する姿勢を身につける。 2. 日本語の仕組みや、日本語と社会の関係について考えをまとめることができる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 社会言語学とは (3) 属性とことば① (4) 属性とことば② (5) 言語行動 (6) 言語生活 (7) 言語接触① (8) 言語接触② (9) 言語変化① (10) 言語変化② (11) 言語変化③ (12) 言語意識 (13) 言語習得 (14) 言語計画 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】真田信治他『社会言語学』おうふう、1992年、ISBN 4273026023 【参】岡本佐智子『日本語教育能力検定試験に合格するための社会言語学10』アルク、2008年、ISBN 4757414978	
成績評価方法と基準	<基準>社会言語学の意義、内容が理解できていれば、合格とする。 <方法>テスト50%、小課題30%、受講態度20%	
備考		

科目名	日本文学史 I	
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	日本の古代から中世までの文学（古典）の流れを概観する。各時代の主要な作品を1つずつ取り上げて解説し、原文の一部を書写、音読、鑑賞しながら、文学の特質やジャンルについて理解を深める。
	到達目標	1) 上代・中古・中世・近世・近代という時代区分を知る。 2) 主要な作品の成立時期・作者・内容を理解する。 3) 主要な作品の原文を正しく読み、書ける。
授業計画	(1) 時代区分とジャンルについて (2) 古事記 (3) 万葉集 (4) 竹取物語 (5) 古今和歌集 (6) 蜻蛉日記 (7) 枕草子 (8) 源氏物語 (9) 和泉式部日記 (10) 大鏡 (11) 今昔物語集 (12) 新古今和歌集 (13) 平家物語 (14) ビデオ「平安貴族の生活」視聴 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読み、授業で取り上げられる作品の概略を理解しておく。
	事後学習	・授業で出た原文の音読をし、暗唱できるようになる。 ・授業で出た作品の感想をまとめる。
使用教材・参考文献	【教】プリントを配布する 【参】小山弘志編『日本文学新史』至文堂 1990年 【参】岩波講座『日本文学史』岩波書店 1995年	
成績評価方法と基準	<基準> 主要な作品の時代区分・作者・内容を理解し、原文を正しく音読、書写出来れば合格とする。 <方法> テスト (70%)、提出物 (20%)、受講態度 (10%)	
備考		

科目名	日本文学史Ⅱ	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	テキストを参照しながら近代日本文学史を概説する。各時代の代表的な作家、作品、思潮を解説する。
	到達目標	近代日本文学史の流れを理解し、代表的な作家、作品を知る。
授業計画	(1) ガイダンス 「近代／日本／文学／史」を考える (2) 近世文学と近代文学 (3) 硯友社の文学 (4) 日清戦争と文学 (5) 自然主義の文学 (6) 反自然主義の文学 (7) 耽美派の文学 (8) 白樺派の文学 (9) 私小説と心境小説 (10) 詩歌の近代 (11) プロレタリア文学 (12) モダニズム文学と文芸復興 (13) 戦時下の文学 (14) 戦後の文学 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。
使用教材・参考文献	【教】三好行雄編『近代日本文学史』有斐閣 1975 ISBN4-641-09795-X 【参】年表の会編『近代文学年表』双文社出版 1993 ISBN4-88164-031-3	
成績評価方法と基準	<基準> 近代日本文学史に対する理解、関心が深められれば合格とする。 <方法> レポート60%、受講態度30%、コメントシート10% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。	
備考		

科目名	古代文学講読 I	
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『伊勢物語』を演習形式で読む。簡潔な文章と和歌から成る原文を丁寧に読み解くことにより、人間の愛情の種々相をいかに描いているか、作品の魅力はどこにあるかを探る。
	到達目標	1) 原文を声に出して正しく読める。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて各段の内容を理解し、説明できる。
授業計画	(1) 概説 (時代背景・歌物語・成立・作者・在原業平) (2) 〃 (書名・伝本・内容と構成)、担当段と日程の調整 (3) 初段 初冠 (演習モデル)、参考文献紹介 (4) 第5段 関守 (以下、受講者が一段ずつ担当し発表、質疑応答) (5) 第6段 芥川 (6) 第9段 東下り (7) 〃 (補遺) (8) 第23段 筒井筒 (9) 〃 (補遺) (10) 第24段 梓弓 (11) 第63段 つくも髪 (12) 第69段 狩の使 (13) 〃 (補遺) (14) 第84段 長岡の母 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・原文を前もって読んでおく。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておく。
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。
使用教材・参考文献	【教】 松尾聡・永井和子校注『伊勢物語』笠間書院 1999年 【参】 新編日本古典文学全集『伊勢物語他』小学館 1994年 【参】 新潮日本古典集成『伊勢物語』新潮社 1976年	
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 <方法> レポート (50%)、演習 (40%)、受講態度 (10%)	
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

科目名	古代文学講読Ⅱ	
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『百首一首』を演習形式で読む。和歌1首1首を丁寧に読み解くことにより、古代の人々の四季や恋・死・旅などに対する表現と精神の特質を知る。
	到達目標	1) 和歌を声に出して正しく読める。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて和歌の内容を理解し、説明できる。 4) 和歌文学の基本的な知識を身につける。
授業計画	(1) 概説（和歌の基礎知識と秀歌撰について） (2) 『百首一首』の撰者・成立・内容 (3) 1番天智天皇（演習モデル）、参考文献紹介、担当段と日程の調整 (4) 演習（受講者が好きな歌を1首ずつ担当し発表、質疑応答） (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 『百首一首』カルタ大会 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストを前もって読んでおく。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておく。
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・授業で出た歌を暗唱する。
使用教材・参考文献	【教】 島津忠夫『新版百首一首』角川ソフィア文庫 1999年 【参】 井上宗雄『百首一首を楽しくよむ』笠間書院 2003年 【参】 谷知子編『百首一首（全）』角川ソフィア文庫 2010年	
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 <方法> レポート（50%）、演習（40%）、受講態度（10%）	
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

科目名	中世文学講読Ⅰ	
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『方丈記』を演習形式で読む。洗練された格調高い文体を味わいつつ、五大災厄、数寄の精神と仏道、庵居の機微をめぐる長明の思想を読みとり、中世草庵文学の特質を知る。
	到達目標	1) 『方丈記』を受講者全員で最後まで読み通す。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて内容を理解し、説明できる。
授業計画	(1) 概説 (時代背景・随筆・鴨長明) (2) 〃 (成立・書名・内容・伝本)、担当段と日程の調整 (3) 『発心集』『無名抄』、大福光寺本方丈記 (複製) (4) ゆく河のながれ (演習モデル)、参考文献紹介 (5) 安元の大火/治承の辻風 (以下、受講者が担当し発表、質疑応答) (6) 福原への遷都 (7) 養和の飢饉 (8) 元暦の大地震/すべて世の中ありにくく (9) あられぬ世を念じすぐしつつ/末葉の宿り (10) 日野山の奥にあとをかくして/春は藤波を見る (11) もし、うららかなれば/もし、夜、静かなれば (12) 仮の庵もややふるさととなりて/手の奴、足の乗物 (13) 三界はただ心ひとつ/静かなる暁 (14) 補遺 (演習予備回) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・原文を前もって読んでおく。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておく。
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。
使用教材・参考文献	【教】浅見和彦編『カラー版方丈記・伊勢記』おうふう 2001年 【参】梁瀬一雄『方丈記全注釈』角川書店 1971年 【参】新編日本古典文学全集『方丈記他』小学館 1995年	
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 <方法> レポート (50%)、演習 (40%)、受講態度 (10%)	
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

科目名	中世文学講読Ⅱ	
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『徒然草』を演習形式で読む。『徒然草』に描かれた兼好の美意識・教養・趣味・思想・説話を自分なりに味読・鑑賞する。また、変体仮名を読むことに挑戦し、古典を原典から読む醍醐味を味わう。古写本の知識を得る。
	到達目標	1) 手引きを使って変体仮名が読めるようになる。 2) 本文校訂ということを知る。 3) 参考文献を用いて各段の内容を理解し、自分なりの解釈と意見を述べられる。
授業計画	(1) 文字の歴史・仮名について、変体仮名の読解練習① (2) 概説（時代背景・随筆・兼好・書名）、変体仮名の読解練習② (3) 〃（成立・内容・伝本・古注釈書・正徹本）、担当段と日程の調整 (4) つれづれなるままに（演習モデル）、参考文献紹介 (5) 変体仮名の読解練習③ (6) 演習（以下、受講者が好きな段を担当し発表、質疑応答） (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10) 変体仮名の読解練習④、パロディの作成 (11) 演習、パロディの発表と講評 (12) 演習 (13) 演習 (14) 補遺、仮名テスト (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・毎回、宿題として出された変体仮名を手引を用いて翻字してくる。
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。
使用教材・参考文献	【教】 稲田利徳編『校注徒然草』和泉書院 1987年 【参】 安良岡康作『徒然草全注釈上・下』角川書店 1967年 【参】 新編日本古典文学全集『徒然草他』小学館 1995年	
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、変体仮名が読めるようになれば合格とする。 <方法> 演習（50%）、仮名テスト（40%）、受講態度（10%）	
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

科目名	近世文学講読Ⅰ	
担当者	亀井 森 / KAMEI, Shin	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	日本の代表的な怪談である上田秋成の『雨月物語』の中から「蛇性の姪（じゃせいのいん）」を取りあげ、古典の奥深さに触れる。
	到達目標	江戸時代の版本を読解できるようにくずし字を練習し、古典和歌や中国との関わりにも視野を広げ、広く国文学と国語に関心を持つようになる。
授業計画	<p>本講義では版本だけでなく、活字、まんがやその他のメディアを利用して『雨月物語』が描こうとした世界を理解したいと考えている。 適宜小テストを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス・基礎の確認 (2) くずし字とはなにか。 (3) 江戸時代について (4) 上田秋成について (5) 「蛇性の姪」読解 (6) 「蛇性の姪」読解 (7) 「蛇性の姪」読解 (8) 「蛇性の姪」読解 (9) 「蛇性の姪」読解 (10) 「蛇性の姪」読解 (11) 「蛇性の姪」読解 (12) 「蛇性の姪」読解 (13) 「蛇性の姪」読解 (14) 「蛇性の姪」読解 (15) 授業の総括 	
自学自習	事前学習	使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】プリントを適宜配布する。 【参】上田秋成『雨月物語』（鶴月洋訳注、角川ソフィア文庫、平成18年、ISBN978-4-04-401102-4）</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉下記評価方法によって60%以上を合格とする。 〈方法〉レポート・小テスト（20%）、受講態度（30%）、最終試験（50%）</p>	
備考		

科目名	近世文学講読Ⅱ	
担当者	亀井 森 / KAMEI, Shin	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	日本の代表的な怪談である上田秋成の『雨月物語』の中から「吉備津の釜」をとりあげ、古典の奥深さに触れる。
	到達目標	江戸時代の版本を読解できるようにくずし字を練習し、古典和歌や中国との関わりにも視野を広げ、広く国文学と国語に関心を持つようになる。
授業計画	<p>本講義では版本だけでなく、活字、まんがやその他のメディアを利用して『雨月物語』が描こうとした世界を理解したいと考えている。 適宜小テストを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス・基礎の確認 (2) くずし字とはなにか。 (3) 江戸時代について (4) 上田秋成について (5) 「吉備津の釜」読解 (6) 「吉備津の釜」読解 (7) 「吉備津の釜」読解 (8) 「吉備津の釜」読解 (9) 「吉備津の釜」読解 (10) 「吉備津の釜」読解 (11) 「吉備津の釜」読解 (12) 「吉備津の釜」読解 (13) 「吉備津の釜」読解 (14) 「吉備津の釜」読解 (15) 授業の総括 	
自学自習	事前学習	使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】プリントを適宜配布する。 【参】上田秋成『雨月物語』（鶴月洋訳注、角川ソフィア文庫、平成18年、ISBN978-4-04-401102-4）</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉 下記評価方法によって60%以上を合格とする。 〈方法〉 レポート・小テスト（20%）、受講態度（30%）、最終試験（50%）</p>	
備考		

科目名	近代文学講読Ⅰ	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	「都市」をテーマにした代表的な短編小説を講読し、近代文学の読み方、発表の方法の基本を養う。
	到達目標	小説作品についての調査、発表の方法の基礎が理解できるようになる。
授業計画	(1) ガイダンス 発表の方法・分担 (2) 泉鏡花「夜行巡查」 (3) 田山花袋「少女病」 (4) 国木田独歩「窮死」 (5) 谷崎潤一郎「秘密」 (6) 志賀直哉「小僧の神様」 (7) 芥川龍之介「舞踏会」 (8) 梶井基次郎「檸檬」 (9) 横光利一「街の底」 (10) 中野重治「交番前」 (11) 堀辰雄「水族館」 (12) 江戸川乱歩「目羅博士」 (13) 織田作之助「木の都」 (14) 三島由紀夫「橋づくし」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・議論の対象となる作品は事前に必ず読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	発表者は次の授業時の司会、及び議論の口火を切る質問をするので準備すること。
使用教材・参考文献	【教】 東郷克美他編『近代小説【都市】を読む』（双文社出版）ISBN488164 【参】 授業時に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	<基準> 作品を読む初歩的な方法が身についたと確認できれば合格とする。 <方法> 発表40%、レポート30%、受講態度30% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。	
備考		

科目名	近代文学講読Ⅱ	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	「異界」をテーマにした代表的な短編小説を講読し、近代文学の読み方、発表の方法の基本を養う。
	到達目標	小説作品についての調査、発表の方法の基礎が理解できるようになる。
授業計画	(1) ガイダンス 発表の方法・分担 (2) 泉鏡花「龍潭譚」 (3) 永井荷風「狐」 (4) 佐藤春夫「西班牙犬の家」 (5) 芥川龍之介「奉教人の死」 (6) 谷崎潤一郎「母を恋ふる記」 (7) 梶井基次郎「Kの昇天」 (8) 夢野久作「瓶詰の地獄」 (9) 太宰治「魚服記」 (10) 萩原朔太郎「猫町」 (11) 岡本かの子「川」 (12) 井伏鱒二「へんろう宿」 (13) 中島敦「狐憑」 (14) 川端康成「水月」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・議論の対象となる作品は事前に必ず読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	発表者は次の授業時の司会、及び議論の口火を切る質問をするので準備すること。
使用教材・参考文献	【教】 東郷克美他編『近代小説【異界】を読む』（双文社出版）ISBN978488 【参】 授業時に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	<基準> 作品を読む初歩的な方法が身についたと確認できれば合格とする。 <方法> 発表40%、レポート30%、受講態度30% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。	
備考		

科目名	中国文学概説Ⅰ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	古代から六朝時代までの中国文学史。但し中国の伝統的な意味での「文学」を、その担い手「士大夫」の活動という視点で講じる。
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 「文学」とは何か (3) 士大夫と中国の伝統的書籍分類体系 (4) 『詩経』について (5) 儒家思想と文学との関係 1 (6) 漢代の賦 1 司馬相如「上林賦」を読む (7) 漢代の賦 2 揚雄 (8) 漢代の詩と五言詩の起源 (9) 三国時代の詩 1 (10) 三国時代の詩 2 (11) 「三国時代における文学の独立」 (12) 儒家思想と文学との関係 2 (13) 『文選』と「文」 (14) 『詩品』と『文心雕竜』 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】鈴木修次編『文学史』中国文化叢書 5 大修館書店 1967 年 【参】鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書 4 大修館書店 1968 年 【参】近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987 年	
成績評価方法と基準	<基準>授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 <方法>筆記試験 60% 出席態度 40%	
備考		

科目名	中国文学概説Ⅱ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	中国文学概説Ⅰで採りあげられなかった中国古典の重要なジャンルについての講義。
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 楚辞と屈原 1 (3) 楚辞と屈原 2 (4) 司馬遷と『史記』 (5) 正史の形式 (6) 『史記』司馬相如列伝を読む (7) 中国の叙事詩 1 (8) 中国の叙事詩 2 (9) 娯楽としての悲哀 (10) 中国の小説 1 「小説」とは何か (11) 中国の小説 2 志怪小説と志人小説 (12) 士大夫と詩 1 阮籍 (13) 士大夫と詩 2 陶淵明 (14) 士大夫と詩 3 顧炎武「詩は必ずしも人々皆作るにあらず」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】鈴木修次編『文学史』中国文化叢書 5 大修館書店 1967 年 【参】鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書 4 大修館書店 1968 年 【参】近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987 年	
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 <方法> 筆記試験 60% 出席態度 40%	
備考		

科目名	中国文学講読（詩） I	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	唐詩の演習。Iでは『唐詩選』所収の初唐、盛唐の詩を採り上げる。担当者は一回につき絶句一篇を担当し、原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。
	到達目標	漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 詩を表現技巧と構成に基づいて解釈し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。
授業計画	(1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の見本 (3) 演習 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】小川環樹編『唐代の詩人』大修館書店 1975年 【参】植木久行編『唐詩の風土』研文出版 1983年 【参】野口一雄『漢詩歳時記』講談社 1995年	
成績評価方法と基準	<基準>演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。 <方法>演習 60% 出席態度 40%	
備考		

科目名	中国文学講読（詩）Ⅱ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	唐詩の演習。Ⅱでは中唐、晩唐の詩を適宜採り上げる。担当者は一回につき絶句一篇を担当し、原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。
	到達目標	漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 詩を表現技巧と構成に基づいて解釈し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。
授業計画	(1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の見本 (3) 演習 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】小川環樹編 『唐代の詩人』 大修館書店 1975年 【参】植木久行編 『唐詩の風土』 研文出版 1983年 【参】野口一雄 『漢詩歳時記』 講談社 1995年	
成績評価方法と基準	<基準>演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。 <方法>演習 60% 出席態度 40%	
備考		

科目名	中国文学講読（散文）Ⅱ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<国文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	唐代伝奇小説の演習。担当者は指定された範囲の原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。
	到達目標	漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 古典を読解し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。
授業計画	(1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の見本 (3) 演習 (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】月刊 『しにか97/3 中国古典小説入門Ⅰ』 大修館書店 1997年 【参】月刊 『しにか97/10 中国古典小説入門Ⅰ』 大修館書店 1997年 【参】『幻想文学44 中国幻想小説必携』 アトリエOCTA 1995年	
成績評価方法と基準	<基準>演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。 <方法>演習60% 出席40%	
備考		

科目名	中世文学特講	
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko	
科目情報	人間文化<国文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	『平家物語』を取り上げる。12世紀後半の歴史的背景と軍記物語としての『平家物語』の特色を講義する。その後、著名な段を取り上げて演習形式で読んでいく。
	到達目標	1) 軍記独特の口調を理解して、力強く読める。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて内容を理解し、説明できる。 4) 史実と文学の関係について自分なりの見解を出せる。
授業計画	(1) 概説（軍記物語・保元の乱・平治の乱） (2) 〃 （源平の争乱） (3) 〃 （成立・作者・異本・読み本・語り本） (4) 〃 （内容と構成・文体・主題） (5) ビデオ視聴、参考文献紹介、担当段と日程の調整 (6) 祇園精舎（演習モデル）、平家琵琶を聞く (7) 殿上の闊討（以下、受講者が担当し発表、質疑応答） (8) 忠度都落 (9) 木曾最期 (10) 敦盛最期 (11) 那須与一 (12) 先帝身投 (13) 能登殿最期 (14) 補遺（演習予備日） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・取り上げる段を声に出して読めるようにしておく。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておく。 ・疑問点を整理して質問できるようにしておく。
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・作品に関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。
使用教材・参考文献	【教】プリントを配布する。 【参】新編日本古典文学全集『平家物語上・下』小学館 1994年 【参】板坂耀子『平家物語あらすじで楽しむ源平の戦い』中公新書 2005	
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 <方法> レポート（50点）、演習（40点）、受講態度（10点）	
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

科目名	近世文学特講	
担当者	丹羽 謙治 / NIWA, Ken'ji	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	近世における「地獄もの」草子の展開について
	到達目標	日本近世文学における地獄・極楽についてのイメージを理解する。 滑稽本の表現について理解を深める。
授業計画	(1) 導入（日本近世文化の基盤と背景について） (2) 『義経地獄破り』について（1） (3) 『義経地獄破り』について（2） (4) 『義経地獄破り』について（3） (5) 『義経地獄破り』について（4） (6) 『義経地獄破り』について（5） (7) 『小夜嵐』について（1） (8) 『小夜嵐』について（2） (9) 『小夜嵐』について（3） (10) 『根無草』について（1） (11) 『根無草』について（2） (12) 『根無草』について（3） (13) 『夢中夢』について（1） (14) 『夢中夢』について（2） (15) 『夢中夢』について（3）	
自学自習	事前学習	配布プリントを事前に読んでおく。
	事後学習	配布プリントを熟読し、関連参考文献を読む。
使用教材・参考文献	【教】特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】小峯和明他編『義経地獄破り』2005年 勉誠出版 978-4585003144	
成績評価方法と基準	期末テスト（80%）、小レポート（20%）	
備考		

科目名	近代文学特講Ⅰ	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	永井荷風の代表作品を物語構造と時代背景の両面から読む。「あめりか物語」や「瀬東綺譚」などを中心に幅広い時期の作品を対象とする。
	到達目標	永井荷風の生涯と作品の概要を知り、関心を深めることができる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 永井荷風の生涯と作品 (3) 「あめりか物語」とその時代 その1 (4) 「あめりか物語」とその時代 その2 (5) 「ふらんす物語」とその時代 その1 (6) 「ふらんす物語」とその時代 その2 (7) 「すみだ川」とその時代 その1 (8) 「すみだ川」とその時代 その2 (9) 「腕くらべ」とその時代 その1 (10) 「腕くらべ」とその時代 その2 (11) 「つゆのあとさき」とその時代 その1 (12) 「つゆのあとさき」とその時代 その2 (13) 「瀬東綺譚」とその時代 その1 (14) 「瀬東綺譚」とその時代 その2 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・指定された文庫本は事前に入手し授業時までには読むこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。
使用教材・参考文献	【教】永井荷風の諸作品の文庫本。詳細は初回授業時に指示する。 【参】授業時に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	<基準> 永井荷風に対する理解、関心が深められれば合格とする。 <方法> レポート60%、受講態度30%、コメントシート10% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。	
備考		

科目名	近代文学特講Ⅱ	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	舞台映像を実際に観ながら「演劇」について多角的に検証する。
	到達目標	「演劇」を楽しむのはもちろんのこと、劇作家の思考＝試行を理解する。
授業計画	(1) ガイダンス 「演劇」とは何か？ (2) 「パフォーマンス」と「演劇」 (3) ミュージカルの世界 その1 世界のミュージカル (4) ミュージカルの世界 その2 日本のミュージカル (5) ミュージカルの世界 その3 宝塚歌劇 (6) オペラの世界 その1 イタリア・オペラ (7) オペラの世界 その2 ドイツ・オペラ (8) オペラの世界 その3 その他のオペラ (9) プッチーニ「蝶々夫人」を考える その1 演出 (10) プッチーニ「蝶々夫人」を考える その2 翻訳 (11) プッチーニ「蝶々夫人」を考える その3 比喩 (12) 現代演劇を考える その1 野田秀樹の劇作方法 (13) 現代演劇を考える その2 現代演劇最前線 (14) 現代演劇を考える その3 三谷幸喜とコメディ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	受講までに実際に演劇作品を劇場や公共ホール、あるいは映像で観ておくことが望ましい。
	事後学習	各授業終了時にコメントシートを記入し提出。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】扇田昭彦『日本の現代演劇』（岩波新書）ISBN-10: 4004303729	
成績評価方法と基準	<基準> 演劇に対する理解、関心が深められれば合格とする。 <方法> 学期末レポート60%、受講態度30%、コメントシート10% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。	
備考		

科目名	日本語教育の基礎 I	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	日本語を第一言語としない人たちに日本語を指導するために日本語教師として必要な基礎知識を日本語教育の各領域に分けて概説する。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母語の学習と外国語学習とを比較しながら、日本語教育の特色が理解できるようになる。 2. 外国語教授法にはどのようなものがあるか具体的に知るとともに、各教授法の長所と短所が理解できるようになる。 3. 17世紀から今日までの日本語教育史の概略が理解できる。 4. 教科書分析の視点を理解し、それに基づき教科書分析ができるようになる。 5. 日本語学習者の音声学習上・文字学習上の問題点とその指導法が理解できるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 日本語教育の現状と課題 (2) 日本語教育の特色 (3) 母語の学習と外国語学習 (4) 同上 (5) 外国語教授法のいろいろ (6) 同上 (7) 同上 (8) 日本語教育の歴史 (9) 同上 (10) 同上 (11) 日本語教育のレベル別目標 (12) 日本語教育用教科書について (13) 日本語の音声とその指導 (14) 同上 (15) 同上 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」の該当章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・期末試験で高得点が取れるよう毎授業後十分に復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】石田敏子『改訂新版 日本語教授法』1995年 大修館書店</p> <p>【参】日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』1990年 大修館書店</p> <p>【参】日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』2005年 大修館書店</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法>音声小テスト (20点) 教科書分析レポート (30点) 前期末試験 (50点)</p> <p><基準>上記評価方法により合計が60点に達した者を合格とする。</p>	
備考	授業回数のおよそ1/3以上欠席した場合、不合格とする。	

科目名	日本語教育の基礎Ⅱ	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	「日本語教育の基礎Ⅰ」に引き続き、日本語を第一言語としない人たちに日本語を指導するために日本語教師として必要な基礎知識を日本語教育の各領域に分けて概説する。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の文字・語彙・文法に関する指導項目が把握でき、それらの指導法も理解できるようになる。 2. カリキュラムをたてる際の留意点が理解できるようになる 3. 四技能（聴く・話す・読む・書く）の学習上の問題点が把握でき、それらの効果的な指導法も理解できるようになる。 4. 各視聴覚教材の特徴がわかり、それらの効果的な使用法も理解できるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 日本語の文字とその指導 (2) 日本語の語彙とその指導 (3) 同上 (4) 日本語の文法とその教育 (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) ドリルの種類とその練習法 (9) カリキュラムのたて方 (10) 聴解における学習者の問題点とその指導法 (11) 話すことにおける学習者の問題点とその指導法 (12) 読解における学習者の問題点とその指導法 (13) 書くことにおける学習者の問題点とその指導法 (14) 視聴覚教材の特徴とその使用法 (15) 同上 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」の該当章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・期末試験で高得点が取れるよう毎授業後十分に復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】石田敏子『改訂新版 日本語教授法』1995年 大修館書店</p> <p>【参】日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』1990年 大修館書店</p> <p>【参】日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』2005年 大修館書店</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法>日本語教育用文法用語小テスト（30点）後期末試験（70点）</p> <p><基準>上記評価方法により合計が60点に達した者を合格とする。</p>	
備考	授業回数のおよそ1/3以上欠席した場合、不合格とする。	

科目名	日本語教授法Ⅰ	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	コースデザインとは何か、日本語教授法に関する理論などを講義し、その後日本語初級レベル（日本語能力試験N5～N3相当）の指導法を実際に体験する。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースデザインの概要が理解できるようになる。 2. 初級文型とは何かのわかり、文の特徴に合わせた文型練習が既習の日本語だけで手際よく行えるようになる。 3. 初級学習者向けにフォリナートークができるようになる。 4. 初級指導のために適切な教材教具が使用できるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) コースデザインの概要（講義） (2) 同上（講義） (3) 同上（講義） (4) 導入のための教室活動（講義） (5) 文法練習の種類と具体的なやり方—オーディオリンガル法・TPR・CLL—（講義） (6) 初級文型の導入と文型練習の模擬授業（演習） (7) 同上（演習） (8) 同上（演習） (9) 新出語彙の教え方、本文（会話文）の教え方（講義） (10) コミュニカティブアプローチに基づくコミュニケーション活動の教材の作り方および指導のやり方（講義） (11) 新出語彙・文型練習・本文・コミュニケーション活動の模擬授業（演習） (12) 同上（演習） (13) 同上（演習） (14) 同上（演習） (15) 同上（演習） 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材と配付プリント」の該当箇所を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習・期末試験に備え、学習した内容を確実に理解しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』『同左 翻訳・文法解説』『同左 教え方の手引き』スリーエーネットワーク 1998年</p> <p>【参】『日本語教授法ワークショップ』凡人社 1996年</p> <p>【参】田中望『日本語教育の方法—コースデザインの実際—』大修館 1988年</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法>発言等の積極性（10点）、ニーズ調査表作成（20点）、宿題（10点）、演習（30点）前期末試験（30点）</p> <p><基準>上記評価方法により合計が60点に達した者を合格とする。ただし、各人2回の演習のうち1回でも無断欠席した者は、合格としない。</p>	
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4回以上欠席した場合は不合格とする。なお、2回の遅刻で1回分の欠席とする。 2. 演習の際には、個別指導を事前に授業時間外に行う。 	

科目名	日本語教授法Ⅱ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	(1) 中級レベルの教材および内容 (2) 中級レベルの文型の意味と指導法 (3) 中級レベルの教案の作り方 (4) 中級レベルの模擬授業
	到達目標	(1) 初級と中上級レベルの教材、指導法の違いがわかる。 (2) 中級文型の意味・作り方・指導法がわかる。 (3) 中級の教案を作ることができる。 (4) 中級のテキストを用いて適切に教えることができる。
授業計画	(1) 中上級レベルの日本語教育（講義） (2) // (3) // (4) 中級レベルの教案の作り方と指導法（講義） (5) // (6) 『みんなの日本語中級Ⅱ 本冊』13課（予定）の模擬授業（演習） (7) // (8) // (9) // (10) // (11) 『みんなの日本語中級Ⅱ 本冊』14課（予定）の模擬授業（演習） (12) // (13) // (14) // (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・担当する文型について複数の文型辞典で調べること。 ・教案を作成し、模擬授業の前に事前指導を受けること。
	事後学習	・模擬授業の問題点を把握し、次回の授業で改善すること。
使用教材・参考文献	【教】スリーエネットワーク『みんなの日本語中級Ⅱ 本冊』スリーエネットワーク 2012年 スリーエネットワーク『みんなの日本語中級Ⅱ 教え方の手引き』スリーエネットワーク 2013年 【参】庵功雄ほか『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエネットワーク 2001年 【参】グループ・ジャマシ『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版 1998年	
成績評価方法と基準	授業での積極性(10点)、演習(50点)、期末試験(40点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。	
備考	・今年度「日本語教育実習」（後期科目）を受講する者は必ず受講すること。 ・4回以上欠席したものは不合格とする。（遅刻2回を欠席1回とする）	

科目名	対照言語学	
担当者	◎新内 康子 / 入佐 信宏 / 谷口 明夫	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	日本語を第二言語とする人達に日本語を指導するのに不可欠な対照言語学的視点を指導者として持つために、対照言語学とは何か、を講義し、日本語と英語の対照、日本語と韓国語の対照、日本語と中国語の対照、をそれぞれ行う。
	到達目標	1. 対照言語学とは何かを学び、対照言語学と第二言語習得との関連性が理解できるようになる。 2. 日本語と英語とを比較対照し、英語母語話者の誤用原因の一部が理解できるようになる。 3. 日本語と韓国語とを比較対照し、韓国語母語話者の誤用原因の一部が理解できるようになる。 4. 日本語と中国語とを比較対照し、中国語母語話者の誤用原因の一部が理解できるようになる。
授業計画	(1) 日本語教育と対照言語学、対照言語学とは (新内) (2) 対照言語学とアメリカ構造言語学・中間言語理論・第二言語習得 (新内) (3) 同上 (新内) (4) 母語の語族・系統の違いによる日本語学習者の日本語習得傾向 (新内) (5) 日本語と英語との比較対照 (新内) (6) 同上 (新内) (7) 同上 (新内) (8) 同上 (新内) (9) 日本語と韓国語との比較対照 (入佐) (10) 同上 (入佐) (11) 同上 (入佐) (12) 日本語と中国語との比較対照 (谷口) (13) 同上 (谷口) (14) 同上 (谷口) (15) 総まとめ (新内)	
自学自習	事前学習	・配布プリント・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	各回の授業内容が定着するよう復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】迫田久美子『日本語教育に生かす第二言語習得研究』2002年 アルク 水谷信子『実例で学ぶ誤用分析の方法』1994年 アルク 張麟声『日本語教育のための誤用分析-中国語母語話者の母語干渉20例-』2001年 スリーエーネットワーク	
成績評価方法と基準	<方法>前期末試験 (85点)、受講態度 (15点) <基準>上記評価方法により合計が60点以上に達成した者を合格とする。	
備考	西暦奇数年開講	

科目名	日本語教育学演習	
担当者	◎新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko 入佐信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	4年次における卒業論文作成のための基礎能力が身につけられるよう、日本語教育学の日本語教育史・第二言語習得・社会言語学・対照言語学・類義表現の領域に関する問題と論点を知り、それらの問題解決の方法論について考える。
	到達目標	1. 上記の領域に関する論点と分析方法がわかるようになる。 2. 論文の作成方法がわかるようになる。 3. 卒業論文のテーマが見つげ出せる。
授業計画	(1) 日本語教育史の先行研究について (講義) <新内> (2) 第二言語習得の先行研究について (講義) <新内> (3) 対照言語学の先行研究について (講義) <新内> (4) (1)(2)(3)に関する発表 <新内> (5) 同上 <新内> (6) 同上 <新内> (7) 同上 <新内> (8) 社会言語学の先行研究について (講義) <入佐> (9) 対照言語学の先行研究について (講義) <入佐> (10) 類義表現の先行研究について (講義) <入佐> (11) (8)(9)(10)に関する発表 <入佐> (12) 同上 <入佐> (13) 同上 <入佐> (14) 同上 <入佐> (15) 総まとめ <新内・入佐>	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・発表に備え興味のある文献等をできるかぎり多く読むこと。
	事後学習	・発表したこと等以外にも多くの文献を読み、卒業論文のテーマを探し出すこと。
使用教材・参考文献	【教】プリント 【参】関正昭『日本語教育史研究序説』1997年 スリーエーネットワーク 【参】多和田眞一郎編『講座・日本語教育学第6巻言語の体系と構造』2006年 スリーエーネットワーク	
成績評価方法と基準	<方法>授業における積極性 (20点)、発表 (30点)、レポート (30点)、卒業論文計画書 (20点) <基準>上記評価方法により合計が60点に達した者を合格とする。	
備考	日本語教育関連のテーマで卒業論文を書く予定の学生は、3年次後期で受講すること。	

科目名	日本語教育実習	
担当者	◎新内康子 / SHIN' UCHI, Koko 入佐信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	日本語の初級と中級の教材研究、教案作成、授業観察、教育実習を行う。
	到達目標	1. 日本語初級レベル用の教材研究の視点が持てるようになるとともに、教案を作成しそれに基づき効果的に教えられるようになる。 2. 日本語中級レベル用の教材研究の視点が持てるようになるとともに、教案を作成しそれに基づき効果的に教えられるようになる。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 実習に関する全容説明 (新内・入佐) (2) 授業の実際 (新内・入佐) (3) 初級授業と初級教案作成法 (新内・入佐) (4) 中級授業と中級教案作成法 (入佐・新内) (5) 1回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (6) 2回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (7) 3回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (8) 4回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (9) 実習準備 (新内・入佐) (10) 実習準備 (新内・入佐) (11) 1回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (12) 2回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (13) 3回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (14) 4回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (15) 総まとめ (新内・入佐) 	<p>授業観察: 県内の日本語教育機関で実施されている授業を2回観察する。日程等は別途指示する。</p> <p>初級実習: 11月26日-12月17日 毎週火曜日(18:00-20:30) 場所: 本学 対象: 鹿児島県内在住外国人</p> <p>中級実習: 11月29日-12月20日 毎週金曜日(16:20-17:50) 場所: 本学 対象: 本学交換留学生</p>
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を前もって十分行うこと。 ・教案作成を行う際には十分検討すること。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・録画された各実習生の授業DVDを観察して、授業のフィードバックを行い、次の授業改善に努めること。
使用教材・参考文献	<p>【教】『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』『同左 翻訳文法解説』『同左 教え方の手引き』1998年 スリーエーネットワーク</p> <p>【教】『みんなの日本語中級Ⅱ本冊』『同左 教え方の手引き』2012年 スリーエーネットワーク</p>	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>授業観察レポート(10点)、教育実習(70点)、ふりかえり表(10点)、最終レポート(10点)</p> <p><基準>上記評価方法により合計が60点以上に達した者を合格とする。</p>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 1. 時間割上の授業、授業観察、教育実習で2回以上欠席した者は不合格とする。また、遅刻2回につき1回の欠席とする。 2. 実習費: 6,000円納めなければならない。 3. 実習希望者が13名以上の場合、3年生を対象に選考を行う。 	

科目名	書道（書写）	
担当者	伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	実技をとおして教育書道、実用書道、芸術書道の接点と相違点を探る。
	到達目標	書道は、学校生活及び社会生活に必要な基礎的な教養であり、文字を正しく整えて書くことに重点が置かれる。高校や一般の芸術書道となると学習方法並びに学習指導は、表現（書くこと）鑑賞（見ること）と理論（考えること）の三位一体でなされるが、この授業では学習者が教育・実用・芸術書道の接点と相違を理解することにより書写能力を高め表現のための感性を磨くことを目標にしたい。
授業計画	(1) 漢字の学習 篆書を書く (2) 漢字の学習 隸書を書く (3) 漢字の学習 楷書を書く (4) 漢字の学習 行書を書く (5) 漢字の学習 草書を書く (6) 仮名の学習 平仮名の単体 (7) 仮名の学習 連綿の方法 (8) 仮名の学習 変体仮名の学習 (9) 仮名の学習 俳句を書く (10) 仮名の学習 短歌を書く (11) 落款と印 (12) 漢字仮名交じりの書 身近な言葉を書く (13) 漢字仮名交じりの書 近代詩文を書く (14) 手紙・年賀状・暑中見舞い・のし袋の書き方など (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・前回までの提出作品の確認と整理を行う。 ・前半に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】野口白汀ほか12名 『書Ⅰ』『書Ⅱ』教育図書2008年 【参】魚住和晃・萩信雄編『書学挙要』藝文書院2001年	
成績評価方法と基準	出席状況と提出作品、簡単なレポート、受講態度。 (作品70%、レポート10%、出席態度20%)	
備考	適宜手本や資料プリントを配布する。	

科目名	書道史	
担当者	伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	書の歴史を時代別に区分し、古典を解説しながらその書道史の流れを捉える。
	到達目標	三千余年にわたる書の伝統と歴史は、書写文字の簡略化と美化の連続であったといえる。日本に伝わった漢字を受容し和様化と仮名を完成した日本人の感性など書の魅力は尽きない。中国と日本の書の歴史を豊富な古典の資料を解説しながら、時代区分を越えて展開されてきた大きな書道の流れを学習者が把握できるように授業を進めたい。
授業計画	(1) 中国書道史 文字の起源と甲骨文字 (2) 中国書道史 金文と周代の書法 (3) 中国書道史 秦代の文字の統一と隷書への変化へ (4) 中国書道史 漢代の隷書と用筆美 (5) 中国書道史 草書・行書・楷書の萌芽 (6) 中国書道史 六朝の書と書聖 (7) 中国書道史 隋・唐の楷書 (8) 中国書道史 個性と開放の宗代 (9) 中国書道史 元・明・清の書法とその流れ (10) 中国書道史 帖学と碑学 (11) 日本書道史 漢字の伝来 (12) 日本書道史 奈良時代の書法と写経 (13) 日本書道史 平安時代と仮名の完成 (14) 日本書道史 その後の書道史と今後の書道 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに前回の授業内容の確認を行う。 ・前半に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 鈴木翠軒・伊東参州共著『新設 和漢書道史』日本習字普及協会1996年 【参】 藤原鶴来『和漢書道史』二玄社1927年	
成績評価方法と基準	出席状況、レポート、受講態度など (レポート70%、出席・受講態度30%)	
備考	適宜補充プリントを配布する。	

科目名	スピーキング・スキルズⅠ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	Reading English manga, group work, discussion, developing strategies of communication. 英語の漫画を読み、グループで話し合い、会話の方法を学ぶ。
	到達目標	Help students improve their speaking skills and gain confidence in a relaxed atmosphere. Help students maintain a conversation, give opinions and descriptions. リラックスし環境の中で会話の能力を高めて自信を持てるようにする。学生が継続して意見を持ちその説明をできるようにする。
授業計画	(1) Phonetics and phonemics. (2) Intonation. (3) Skit read through and performance. (4) Skit read through and performance. (4) New words and old words. (5) Eiken STEP test presentations. (6) Discussion topics. Group work and presentations. (7) " (8) Interaction with native speakers using SKYPE. (9) " (10) Interview practice. (11) Discussion topics. Group work and presentations. (12) " (13) Eiken STEP test presentations. (14) Restaurant scenario. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】・Chatterbox - Widows - Nan'un-do ・iTALK - Fuller - Macmillan Language House ・Topic talk, Issues - McLean - EFL Press	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツリビューション50% 面接試験 50%	
備考		

科目名	スピーキング・スキルズⅡ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	Reading English manga, group work, interactive speaking games, songs and video. 英語の漫画を読み、グループで話し合い、会話の方法を学ぶ、ビデオ、曲。
	到達目標	Help students improve their speaking skills and gain confidence in a relaxed atmosphere. Help students maintain a conversation and give opinions and descriptions. リラックスし環境の中で会話の能力を高めて自信を持てるようにする。学生が継続して意見を持ちその説明をできるようにする。
授業計画	(1) Phonetics and phonemics (2) Singing and reading songs. Rhythm and intonation focus. (3) Short speech preparation. (4) Conversation building. (5) // (6) Discussion topics. Group work with presentations. (7) // (8) Interaction with native speakers using SKYPE. (9) // (10) Video and review speeches. (11) // (12) Discussion topics. Group work with presentations. (13) Skit read through and performance. (14) Skit read through and performance. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】・ Chatterbox - Widdows - Nan'un-do ・ iTALK - Fuller - Macmillan Languagehouse ・ Topic talk, Issues - McLean - EFL Press	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツレビューション50% 面接試験50%	
備考		

科目名	リスニング・スキルズⅠ	
担当者	スコット・バーンズ / Scott Burns	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	海外のテレビ番組やテーマ別に作成されたテキストの中から会話を聴き取る演習を行なう
	到達目標	海外の様々なテレビ番組中の会話の内容を理解できるように、リスニング力を高めることを目標とする
授業計画	(1) 自己紹介 (学生、講師) (2) 学生投票第1位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 1 (3) 学生投票第2位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 2 (4) 学生投票第3位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 3 小テスト (5) 学生投票第4位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 4 (6) 学生投票第5位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 5 (7) 学生投票第6位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 6 小テスト (8) 学生投票第7位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 7 (9) 学生投票第8位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 8 (10) 学生投票第9位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 9 小テスト (11) 学生投票第10位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 10 (12) 復習1 (13) 復習2 (14) 復習3 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。
使用教材・参考文献	【教】 Tactics for Listening	
成績評価方法と基準	出席率授業への取り組み試験	
備考	テキストで履修する課は、学生の投票によって決められるミニ劇を行う予定ですので、一緒に英語を楽しみましょう。	

科目名	リスニング・スキルズⅡ	
担当者	スコット・バーンズ / Scott Burns	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	海外の映画やテーマ別に作成されたテキストの中から会話を聴き取る演習を行なう
	到達目標	海外の様々な映画の会話の内容を理解できるようにリスニング力を高めることを目標とする
授業計画	(1) 自己紹介 (学生、講師) (2) 学生投票第1位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 11 (3) 学生投票第2位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 12 (4) 学生投票第3位の課の演習 “小テスト (5) 学生投票第4位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 13 (6) 学生投票第5位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 14 (7) 学生投票第6位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 15 小テスト (8) 学生投票第7位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 16 (9) 学生投票第8位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 17 (10) 学生投票第9位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 18 小テスト (11) 学生投票第10位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 19 (12) 復習1 (13) 復習2 (14) 復習3 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。
使用教材・参考文献	【教】 Impact Listening	
成績評価方法と基準	出席率授業への取り組み試験	
備考	テキストで履修する課は、学生の投票によって決められる	

科目名	リーディング・スキルズⅠ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期/ 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	Reading selected books and texts. 配布する本および配布資料を読む。
	到達目標	Improve the way students read and understand texts. Raise their confidence and ability when interacting with the English written word. テキストを読み理解する能力を高める。英文による情報に対する自信と能力を高めることを目標とする。
授業計画	(1) Reading test and evaluation. (2) Choosing book 1 and private reading. (3) In class reading and analysis of various texts (international culture riddles, teachers original poems, short stories and songs). (4) One to one reading. Book 1 report interview. (5) In class reading and analysis of various texts. (6) Private reading. Book 1 report interview. (7) Hand in book 1 report. Choose book 2. Private reading. (8) In class reading and analysis of various texts. (9) One to one reading. Book 2 report interview. (10) In class reading and analysis of various texts. (11) Private reading. Book 2 report interview. (12) In class reading and analysis of various texts. (13) Private reading. Book 2 report final interview. (14) Hand in book report 2. Final changes. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週選んだ本を読んでおくこと。
使用教材・参考文献	【教】担当者作成資料 【参】・Reading Advantage 1 - Malarcher - Thomson ・Just Kidding - Miller - Nan'un-do ・Culture Riddles - Shaules - Nan'un-do ・Reading Pass 1 - Bennett - Nan'un-do	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツレビューション50% 面接試験 レポート50%	
備考		

科目名	リーディング・スキルズⅡ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	Reading selected books and texts. 配布する本および配布資料を読む。
	到達目標	Improve the way students read and understand texts. To raise their confidence and ability when interacting with the English written word. テキストを読み理解する能力を高める。英文による情報に対する自信と能力を高めることを目標とする。
授業計画	(1) Reading test and evaluation. (2) Choosing book 1 and private reading. (3) In class reading and analysis of various texts (international culture riddles, teachers original poems, short stories and songs). (4) One to one reading. Book 1 report interview. (5) In class reading and analysis of various texts. (6) Private reading. Book 1 report interview. (7) Hand in book 1 report. Choose book 2. Private reading. (8) In class reading and analysis of various texts. (9) One to one reading. Book 2 report interview. (10) In class reading and analysis of various texts. (11) Private reading. Book 2 report interview. (12) In class reading and analysis of various texts. (13) Private reading. Book 2 report final interview. (14) Hand in book report 2. Final changes. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週選んだ本を読んでおくこと。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 ・ Reading Advantage 1 - Malarcher - Thomson ・ Just Kidding - Miller - Nan'un-do ・ Culture Riddles - Shaules - Nan'un-do ・ Reading Pass 1 - Bennett - Nan'un-do	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツレビューション50% 面接試験 レポート50%	
備考		

科目名	ライティング・スキルズⅠ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	Writing practice. 英文を書く練習をする。
	到達目標	To improve students ability to communicate through writing whilst developing a personal writing style. 各自が自身の文章能力を高めることによって、コミュニケーション能力おも高めることを目的とする。
授業計画	(1) Genre identification. Keywords. (2) " (3) Create an online group to answer emails every week. (4) Translation I. (5) " (6) Describing events portrayed in various pictures. (7) " (8) Writing exercises from the internet. (9) Writing exercises from the internet. (10) Sentence order. (11) English emails to the teacher. (12) " (13) Six-word story. (14) Haiku I. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週日記を書いておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】・Way to Effective Writing - Elwood - Nan'un-do ・Within your reach - Cliffe - Nan'un-do ・Basic Writing - Reid - Prentice Hall Regents ・Composition Practice - Blanton - Thomson	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツリビューション50% 面接試験 日記 50%	
備考		

科目名	ライティング・スキルズⅡ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	Writing practice. 英文を書く練習をする。
	到達目標	To improve students ability to communicate through writing whilst developing a personal writing voice and style. 各自が自身の文章能力を高めることによって、コミュニケーション能力おも高めることを目的とする。
授業計画	(1) The key story. (2) Writing exercises from the internet. (3) Haiku II. (4) Group story writing. (5) " (6) Translation II. (7) " (8) Describing events portrayed in various pictures. (9) " (10) Frequency. Tense focus. (11) " (12) Write a genre story. (13) " (14) Writing exercises from the internet. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週日記を読んでおくこと。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】・Composition Practice - Blanton - Thomson ・Within your reach - Cliffe - Nan'un-do ・Way to effective writing - Elwood - Nan'un-do ・Basic Writing - Reid - Prentice Hall Regent	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツリビューション50% 面接試験 日記 50%	
備考		

科目名	カレント・イングリッシュ	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	毎時間国内外の情勢について質疑応答した後、1) BBCニュースを聴き、スクリプトを作成提出、2) 英字新聞記事を読み、語彙、構造を理解した上でサマリーを作成提出する。
	到達目標	国内外の時事問題に関するBBC放送、新聞英語の語彙、構造に親しみ、時事問題等について英語で理解、表現できるようになる。
授業計画	(1) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (2) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (3) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (4) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (5) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (6) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (7) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (8) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (9) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (10) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (11) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (12) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (13) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (14) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・課題記事の英文サマリーを作成する。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で習った単語、表現を整理、マスターする。
使用教材・参考文献	【教】BBC News, The Guardian Weekly 酒瀬川純行 <i>A Companion to Practical English</i> . 青山社 2000年	
成績評価方法と基準	<基準>BBC News 及び英字新聞記事が凡そ理解できるようになったものは合格とします。 <方法>毎時間毎のコンツリビューション、課題提出70%、終了試験30%	
備考		

科目名	オーラル・インタプリテーション	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	ディベロップメントスキルズと隔年で開講	
科目概要	授業内容	通訳の形態、心得、テクニックを理解し、鹿児島の名所旧跡、文化、特産物等を英語でどう表現するか研究し、併せてスピーチ、会議英語等の基本を習得する。毎時間逐次通訳の練習を行う。
	到達目標	簡潔な表現、用語等を駆使し具体的状況（地元の歴史、観光案内、会議、講演等）に応じて基礎レベルの逐次通訳ができるようになる。
授業計画	(1) What is oral interpretation? (2) Useful expressions and techniques (3) Introduction of Kagoshima (4) Sakurajima & Ibusuki (5) Kirishima Shrine & Kagoshima Shrine (6) Samurai estates and Buddhist altars (7) Yakushima & Oshima Pongee Fabric (8) Ohara Festival & Hanyabushi (9) Speech & Conference (10) Speech & Conference (11) History of Kagoshima (12) History of Kagoshima (13) Special products of Kagoshima (14) Special products of Kagoshima (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で学んだ語彙、表現を整理し、マスターする。
使用教材・参考文献	【教】講義中に配布する鹿児島県の歴史に関する担当者作成ハンドアウト（英文）、その他のプリント 【参】酒瀬川純行 <i>A Companion to Practical English</i> . 青山社 2000年	
成績評価方法と基準	<基準>通訳のスキルを基本的に理解し、鹿児島の名所旧跡、文化、特産物等を簡単な英語で表現できるようになったものは合格とします。 <方法>毎時間毎のプレゼンテーション50%、終了試験50%	
備考		

科目名	英語の音声	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	我々日本人が発する英語の音を、ネイティブ・スピーカーの音にできる限り近づける練習をします。
	到達目標	英語の母音、子音を日本語の母音、子音と比較しながら相違点を認識し、自分で発音ができるようになる。
授業計画	(1) [p]-[b] [t]-[d] (2) [k]-[g] [f]-[v] (3) [θ]-[ð] [s]-[z] (4) [ʃ]-[ʒ]- [h] (5) [tʃ]-[dʒ] [r]-[l] (6) [m]-[n]-[ŋ] [w]-[ɹ] (7) [i]-[ɪ] [e]-[ɛ] (8) [ɔ]-[ɑ] (9) [u]-[ʊ] (10) [ɔ]-[ou] [u]-[u] (11) [r]-[r]-[r] (12) double consonants (13) pitch - stress (14) intonation (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	Listeningに関する課題を毎週ある。
使用教材・参考文献	【教】 タケイ・E・サカエ, リーピン・リザーズ 『La La La English 2』 創元社 2004年 ISBN4-422-81080-4	
成績評価方法と基準	日・英語の微妙な音の違いを自分で音として出せることを合格とする。 Class Participation 50%, Homework 25%, Final 25%	
備考	毎回の出席を心掛けてください。	

科目名	英語の文法 I	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。
	到達目標	8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。
授業計画	(1) 文の構造と要素 (2) 文の種類 (3) 動詞 (4) 時制 (5) 助動詞 (6) 動詞の態 (7) to-不定詞 (8) 原形不定詞 (9) 分詞 (10) 動名詞 (11) 関係代名詞 (12) 関係副詞 (13) 比較級 (14) 最上級 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。
使用教材・参考文献	【教】河上道生 監修, 丸井晃二郎 著 『ORBIT 総合英語』山口書店 1996年 ISBN4-8411-1387-8	
成績評価方法と基準	8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものを合格とする。 Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%	
備考	毎週の出席を心掛けてください。	

科目名	英語の文法Ⅱ	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。
	到達目標	8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。
授業計画	(1) 不定詞 (2) 分詞 (3) 時制 (4) 進行形 (5) 完了形 (6) 態 (7) 仮定法 (8) 比較構文 (9) 否定 (10) 数量詞 (11) 法助動詞 (12) 副詞 (13) 代名詞 (14) 関係詞 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。
使用教材・参考文献	【教】プリントを使用。	
成績評価方法と基準	8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものを合格とする。 Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%	
備考	毎週の出席を心掛けてください。	

科目名	英語学概論	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	言語学、そして英語学入門としての授業をおこなう。具体的に言語現象（語、語句、文）を観察、分析する。
	到達目標	英語学の中に存在する、各分野について学び、それらの区別ができるようになる。
授業計画	(1) 統語論(1) (2) 統語論(2) (3) 統語論(3) (4) 形態論(1) (5) 形態論(2) (6) 形態論(3) (7) 音韻論(1) (8) 音韻論(2) (9) 音韻論(3) (10) 意味論(1) (11) 意味論(2) (12) 意味論(3) (13) 語用論(1) (14) 語用論(2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	数種の言語データの分析を毎週課す。
使用教材・参考文献	【教】中島平三著『ファンダメンタル英語学 改訂版』ISBN978-4-89476-575-7 【参】ジョージ・ユール著 今井邦彦・中島平三 訳『現代言語学20章』	
成績評価方法と基準	与えられた言語（の文）に対して、言語学的な観察、分析ができるようになったものを合格とする。 Class Participation 50%, Final 50%	
備考	毎週の出席を心掛けてください。	

科目名	英語学演習	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	言語学、そして英語学入門としての授業をおこなう。具体的に言語現象（語、語句、文）を観察、分析する。
	到達目標	英語学の中に存在する、各分野について学び、それらの区別ができるようになる。
授業計画	(1) 言語の歴史(1) (2) 言語の歴史(2) (3) 言語の歴史(3) (4) 言語と個人差(1) (5) 言語と個人差(2) (6) 言語と個人差(3) (7) 言語の習得(1) (8) 言語の習得(2) (9) 言語の習得(3) (10) 言語と文化(1) (11) 言語と文化(2) (12) 言語と文化(3) (13) 言語と脳(1) (14) 言語と脳(2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	Reading assignmentsを毎週課す。
使用教材・参考文献	【教】プリントを使用する。 【参】ジョージ・ユール著 今井邦彦・中島平三 訳『現代言語学20章』	
成績評価方法と基準	与えられた言語（の文）に対して、言語学的な観察、分析ができるようになったものを合格とする。 Class Participation 50%, Final 50%	
備考	毎週の出席を心掛けてください。	

科目名	児童英語	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	Gain experience creating and practicing games and activities to enable learning through play. クラスでゲームを考え、そのゲームを実行し、そのゲームを通じて学ぶ。
	到達目標	Provide children with the tools to make words themselves through spelling, reading, writing and speaking. 子供たちが、読み書きを自発的にする能力を提供できるようにすることを目的とする。
授業計画	(1) Teach phonetics and phonemics. (2) The importance of props. (3) Sentence making. (4) Music in the classroom. (5) Verb changing for simple past and present. Teach a 5 minute activity. (6) Analyze various text books for children. (7) Word-picture recognition. Paper-rock-scissors. (8) Teach a ten minute class to peers. (9) Using video. (10) Creating games and activities. (11) Using the internet as a resource. (12) Using digital media as a resource. (13) English through art. Teach a fifteen minute class to peers. (14) Review picture books. (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 ・ こども英語相談室 - Pearson Education Japan ・ Let's Go - Nakata - Oxford University Press ・ Up and Away - Crowther - Oxford University Press	
成績評価方法と基準	授業中の発表、コンツリビューション50% 試験 project 50%	
備考		

科目名	英米文学概論 I	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	19世紀前半のアメリカン・ルネッサンスを中心に、作家や文化的背景を紹介し、作品の抜粋をできる限り原文で読む。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。
	到達目標	19世紀のアメリカの資本主義の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。
授業計画	(1) クール 1-1 : アメリカ資本主義の起源と大衆文化—演劇とサーカス (2) クール 1-2 : アメリカ資本主義の起源と大衆文化—ヒーローの登場 (3) クール 1-3 : アメリカ資本主義の起源と大衆文化—『アラモ』を見る (4) クール 2-1 : エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品① (5) クール 2-2 : エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品② (6) クール 2-3 : エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品③ — 『アッシャー家の崩壊』を見る (7) クール 3-1 : ナサニエル・ホーソンの文学① (8) クール 3-2 : ナサニエル・ホーソンの文学② (9) クール 3-3 : ナサニエル・ホーソンの文学③ — 『スカーレット・レター』を見る (10) クール 4-1 : メルヴィルと『白鯨』① (11) クール 4-2 : メルヴィルと『白鯨』② (12) クール 4-3 : メルヴィルと『白鯨』③ (13) クール 4-4 : メルヴィルと『白鯨』④— 『白鯨』を見る (14) 質疑 (15) 総括	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。
使用教材・参考文献	【教】・【参】 プリント、ビデオ	
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 <方法> 筆記試験80%、発言20%。	
備考		

科目名	英米文学概論Ⅱ	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	ロスト・ジェネレーションのアメリカ文学作品と作家を概観すると共に、英語力を徹底強化する。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。
	到達目標	20世紀のアメリカの消費社会の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。
授業計画	(1) クール1-1: 世紀末から大戦期のアメリカ (2) クール1-2: 戦後(1920-)のアメリカ社会 (3) クール1-3: 『キング kong』を見る (4) クール2-1: フィッツジェラルドの生い立ち (5) クール2-2: 『グレート・ギャツビー』を見る (6) クール2-3: 『グレート・ギャツビー』分析 (7) クール3-1: アーネスト・ヘミングウェイの青少年時代 (8) クール3-2: ヨーロッパでの生活と『武器よさらば』 (9) クール3-3: スペイン内乱と『誰がために鐘は鳴る』 (10) クール3-4: 『老人と海』を見る (11) クール4-1: 1929年の大恐慌とその後 (12) クール4-2: スタインベックとカリフォルニア (13) クール4-3: 『怒りの葡萄』を見る (14) 質疑 (15) 総括	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。
使用教材・参考文献	プリント、ビデオ	
成績評価方法と基準	<基準>授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 <方法>筆記試験80%、発言20%。	
備考		

科目名	英米文学講読 I	
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	<i>Anne of Green Gables</i> written by L. M. Montgomery を精読する
	到達目標	最初は難しいが、そこを突き抜けると易しく読めるようになるのでその突破術を身につけながら、世界中の読者を魅了した英文学の作品を一緒に楽しみましょう。
授業計画	(1) L. M. Montgomeryの時代と作品の説明 (2) Mrs. Rachel Lynde Is Surprised (3) Matthew Cuthbert Is Surprised (4) Marilla Cuthbert Is Surprised (5) Morning at Green Gables (6) Anne' s History (7) Marilla Makes Up Her Mind (8) Anne Says Her Prayers (9) Anne' s Bringing-up Is Begun (10)Mrs. Rachel Lynde Is Properly Horrified (11)Anne' s Apology (12)Anne' s Impressions of Sunday-School (13)A Solemn Vow and Promise (14)The Delights of Anticipation (15)Anne' s Confession	
自学自習	事前学習	意味のわからない単語は辞書で事前に調べておくこと。
	事後学習	その日理解できなかった文章や内容を明確にし、次回質問するように準備する。
使用教材・参考文献	【教】 <i>Anne of Green Gables</i> by L. M. Montgomery	
成績評価方法と基準	平常点 出席点 期末考査 を総合的に評価します。	
備考		

科目名	英米文学講読Ⅱ	
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	Anne of Green Gables by L. M. Montgomery を精読する。
	到達目標	前期に引き続き、後半を読み, Anneの生き方、Prince Edward Island の魅力をまとめてレポートする。
授業計画	(1) Vanity and Vexation of Spirit (2) An Unfortunate Lily Maid (3) An Epoch in Anne' s Life (4) " (5) The Queen' s Class Is Organized (6) " (7) Where the Brook and River Meet (8) The Pass List Is Out (9) The Hotel Concert (10) Queen' s Girl (11) Winter at Queen' s (12) The Glory and the Dream (13) The Reaper Whose Name is Death (14) The Bend in the Road (15) レポートの作成 発表 合評	
自学自習	事前学習	分からない単語は前もって調べておく。
	事後学習	理解できなかった文章、内容は次回質問できるように準備しておく。
使用教材・参考文献	【教】 <i>Anne of Green Gables</i> by L. M. Montgomery	
成績評価方法と基準	平常点 出席点 レポートを総合して評価する	
備考		

科目名	英米文学研究 I	
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	19世紀のアメリカの女流詩人Emily Dickinson の詩をゆっくりと読み、解説の楽しさを味わい、深い内容を通して、形而上の世界へと皆さんを招待いたします。
	到達目標	毎回1～2篇の詩を読み、暗唱する。
授業計画	(1) success is counted sweetest Exultation is the going (2) I never hear the word “escape” One dignity delays for all-- (3) To hang our head-ostensibly- For each extatic instant (4) To fight aloud, is very brave- Bring me the sunset in a cup (5) A <i>Wounded Deer</i> -leaps highest If I shouldn’ t be alive (6) I shall know why-when Time is over- Safe in their Alabaster Chambers- (7) I like a look of Agony “Hope” is the thing with feathers- (8) I felt a Funeral, in my Brain Of Bronze-and Blaze- (9) The Soul selects her own Society- The Soul’ s Superior instants (10) The nearest Dream recedes-unrealized- Before I got my eye put out (11) I know that He exists After great pain, a formal feeling comes-- (12) I had no time to Hate This World is not Conclusion (13) It was not Death, for I stood up I’ ve seen a Dying Eye (14) Renunciation-is a piercing Virtue- Remorse-is Memory-awake (15) Through the strait pass of suffering The Poets light but lamps	
自学自習	事前学習	・意味のわからない単語は辞書で事前に調べておくこと。
	事後学習	理解できなかった行や内容を次回質問できるように、準備しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 The Poems of Emily Dickinson ディキンソン詩選 新倉俊一解説注釈 研究社小英文叢書	
成績評価方法と基準	期末考査 平常点 出席点 を総合して評価する	
備考		

科目名	英国の歴史 I	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	古代ビーカー族からケルト族の定住、ローマ軍の支配を経て、アングロサクソン、バイキング、ノルマンの侵入と王朝樹立に至る過程を、王室並びに社会に焦点を当ててその変遷を考察する。又毎時間重用事象に関する受講生数名によるプレゼンテーションを課し、BBCニュース、The Guardian Weeklyの記事により最新の英国情報も提供する。
	到達目標	古代から11世紀のノルマン王朝成立までの歴史の流れについてその概要を学び、主立った国王、事件、事象について学び、理解する。
授業計画	(1) What is history? What is the UK? (2) The Beakers and Stonehenge (3) The Celts (4) The Celts and Romans (5) " (6) " (7) The Anglo-Saxons (8) " (9) " (10) " (11) The Vikings (12) " (13) The Normans (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読み、関連事項を調べておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で学んだことを理解、整理し、関連用語等をマスターする。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成英文資料。 【参】 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008年 森護 『英国王室史事典』 大修館書店 1994年。	
成績評価方法と基準	<基準>各王朝の時代背景、主な事象等について理解したものは合格とする。 <評価>プレゼンテーション30%、終了試験70%。	
備考		

科目名	英国の歴史Ⅱ	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	プランタジネット王朝から、チューダー、スチュアート、ハノーバーを経て現在のウィンザー王朝にいたるまでを王室並びに社会に焦点を当ててその変遷を考察する。又毎時間重用事象に関する受講生数名によるプレゼンテーションを課し、BBCニュース、The Guardian Weeklyの記事等により最新の英国情報も提供する。
	到達目標	プランタジネット王朝から現在のウィンザー王朝までの歴史の流れについてその概要を学び、主立った国王、マグナ・カルタ、宗教改革、名誉革命、農・産業革命等の重要な出来事について学び、理解する。
授業計画	(1) House of Plantagenet (2) " (3) " (4) " (5) House of Tudor (6) " (7) " (8) " (9) House of Stuart (10) " (11) House of Hanover (12) " (13) " (14) House of Windsor (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読み、関連事項を調べておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で学んだことを理解、整理し、関連用語等をマスターする。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成英文資料。 【参】 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008年 森護『英国王室史事典』大修館書店 1994年。	
成績評価方法と基準	<基準> 各王朝の時代背景、主な事象等について理解したものは合格とする。 <評価> プレゼンテーション30%、終了試験70%。	
備考		

科目名	米国の歴史と文化 I	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。
授業計画	(1) 『白鯨』(1956年版)鑑賞 (2) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (3) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (4) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (5) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (6) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (7) 『パイレーツ・オブ・カリビアンーブラックパールの呪い』鑑賞 (8) ディスカッション (9) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (10) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (11) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (12) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (13) <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> 精読 (14) 『パイレーツ・オブ・カリビアン』との比較 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。
使用教材・参考文献	【教】 <i>Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl</i> (ペンギン)	
成績評価方法と基準	<基準>教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 <方法>筆記試験60%、会話テスト20%、発言20%。	
備考		

科目名	米国の歴史と文化Ⅱ	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を精読、比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。
授業計画	(1) 『パイレーツ・オブ・カリビアン—デッドマンズ・チェスト』鑑賞 (2) 『白鯨』の原文名場面精読 (1) (3) 『白鯨』の原文名場面精読 (2) (4) <i>Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest</i> 精読 (5) <i>Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest</i> 精読 (6) <i>Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest</i> 精読 (7) 『白鯨』 (1998年版) 鑑賞 (8) 前期の『白鯨』の授業についてディスカッション (9) <i>Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest</i> 精読 (10) <i>Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest</i> 精読 (11) <i>Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest</i> 精読 (12) <i>Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest</i> 精読 (13) <i>Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest</i> 精読 (14) 『白鯨』との比較 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。
使用教材・参考文献	【教】 <i>Pirates of the Caribbean Dead Man's Chest</i> (ペンギン)	
成績評価方法と基準	<基準>教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 <方法>筆記試験60%、会話テスト20%、発言20%。	
備考		

科目名	海外語学研修	
担当者	◎酒瀬川 純行 / 入江 公啓 / マーカス・シオボールド / 蒲地 賢一郎	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 6単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	英国の歴史、文化、生活及び関連英語表現に関する事前講義を受講した後、現地での45時間の英語研修、並びに週末研修旅行に参加し、研修に関するレポートを提出する。
	到達目標	コミュニケーション手段としての英語を習得し、国際感覚を涵養する。
授業計画	(1) 事前研修 (英国の概要) (2) " (英国の歴史と文化) (3) " (英国の歴史と文化) (4) " (日常会話表現) (5) 語学研修と週末旅行 (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) レポート作成 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおく。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておく。
	事後学習	習った単語、表現法を整理しマスターする。
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料。 【参】 小池滋監修. 『読んで旅する世界の歴史と文化 イギリス』新潮社 【参】 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008年	
成績評価方法と基準	<基準> 英国の文化を理解し、コミュニケーション手段としての英語が使えるようになる。 <方法> 事前研修10%、現地での研修80%、レポート10%	
備考		

科目名	日本史概説	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	古代から幕末・維新への日本史の流れを史料に基づきながらたどっていく。
	到達目標	自国の歴史について基本的な理解を得、国際社会の中で解説できるようになる。
授業計画	(1) イントロ (2) 古代から中世へ (3) " (4) 戦国時代から近世へ (5) " (6) " (7) 幕末にいたる江戸時代の史話 (8) " (9) " (10) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (11) " (12) " (13) 西南戦争後の殖産興業 (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付資料の精読。
使用教材・参考文献	プリントを配付する。 【参】原口泉『世界危機をチャンスに変えた幕末維新の知恵』PHP新書2009年	
成績評価方法と基準	<基準> 時代の流れ、大要が理解できているかを判断基準とする。 <方法> レポートと受講態度で判断する。	
備考	年表、歴史地図必携。 社会人の聴講、歓迎。	

科目名	外国史概説	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	世界で最初の産業革命を経験し、19世紀にはイギリス帝国として、世界の諸地域に大きな影響を与えたイギリスの歴史を通じて、近現代世界史を概観する。
	到達目標	イギリス帝国の歴史を概観することで、グローバルに歴史を理解できるようになる。帝国の歴史が現代社会に残した影響を踏まえて現代社会を捉えることができるようになる。
授業計画	(1) 「イギリス」とは何か？—4つの地域 (2) 近代イギリスの起点 (1) —宗教改革と二つの革命 (3) 近代イギリスの起点 (2) —帝国の形成 (4) 「イギリス国民」の誕生—連合王国の成立 (5) アメリカの独立と帝国の再編 (6) 産業革命と近代社会 (7) ヴィクトリア期のイギリス社会 (8) イギリス帝国とアジア—アヘン戦争とインド (9) 世紀転換期のイギリス帝国 (1) —アイルランド自治問題 (10) 世紀転換期のイギリス帝国 (2) —ボーア戦争と帝国主義 (11) 第一次世界大戦とイギリス連邦の成立 (12) 第二次世界大戦とイギリス帝国—衰退への序章 (13) 脱植民地化の時代 (14) 帝国からヨーロッパへ—イギリスとEU (15) 帝国支配が残したもの—多文化社会の苦悩と共存への道	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業中に紹介された参考文献を読むこと。時折小テストを実施するので、授業ごとに重要事項の復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】川北稔/木畑洋一編『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣アルマ 2000年 ISBN4641121052、ほか、その都度紹介。	
成績評価方法と基準	レポートによる。近現代イギリス史の基本的な事項が理解できているかを評価基準とする。レポート60%、受講態度40%とし、受講態度には時折実施する小テストの結果を勘案する。	
備考		

科目名	文化史概説 I	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	中国の文化事象のうち、記録とその保存の歴史を取り上げ、図書の形態、蔵書の形式、図書分類法と蔵書目録、図書の収集と散逸の歴史を学びます。また、世界最古の図書目録『漢書芸文志』の編纂経緯を知った後、その内容を概観します。
	到達目標	(1) 記録の素材の変遷とその作り方・使い方を説明できる。 (2) 各時代の蔵書の場所と管理の状況を説明できる。 (3) 図書分類法がどのように変遷してきたか、説明できる。 (4) 劉向の図書整理事業の歴史的意義を説明できる。
授業計画	(1) 記録の素材：殷・周代の甲骨と青銅器 (2) 同上：竹簡と木牘及びその使い方 (3) 同上：紙 蔡倫の製法 和紙の特性 (4) 印刷術と図書の形態：簡冊・卷子本・胡蝶装・包背装・線装本 (5) 同上：金簡の木活字印刷法など (6) 図書の収蔵整理と分類の歴史 1、殷・周代の蔵書所 (7) 同上 2、秦・漢代の蔵書と書厄：焚書坑儒と項羽の暴挙 (8) 同上 3、劉向父子の図書整理事業：『別録』と『七略』の編纂 (9) 同上 4、班固と『漢書芸文志』 (10) 『漢書芸文志』の概略：総序、類序、収録されている図書の内容 (11) 漢代以後の蔵書と分類法の変遷：魏晉南北朝期の蔵書と書厄 (12) 同上 (13) 『日本国見在書目録』とは？ (13) 宋代以後の蔵書と目録 (15) 総まとめ	
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。 【参】倉石武四郎『目録学』 汲古書院 1979年	
成績評価方法と基準	授業中の小テスト：50点 レポート：50点 欠席1回につき3点減点。ただし、出席率が全授業回数数の3分の2に達しない場合には、失格となります。	
備考		

科目名	文化史概説Ⅱ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	近現代イギリス史、イギリス帝国史を、家族やジェンダー、スポーツ、教育制度、食事など様々な文化的側面から外観する。
	到達目標	イギリスを事例に、近代社会が形成されていく過程を知ること で、社会の諸制度や異文化を深く理解できるようになるとともに、現代社会や自文化を客観的に捉える力をつける。
授業計画	(1) 文化史とは何か (2) イギリス文化とは (3) 宗教とイギリス社会 (4) われら失いし世界—近代以前のイギリス家族 (5) ジェントルマンであること—ヴィクトリア期の価値規範 (6) 貧困とチャリティ (7) 紅茶と砂糖—食文化から見るイギリス (8) 「余暇」の成立—旅行と博覧会 (9) ジェンダーから見るイギリス近代 (10) 学校教育と子ども (11) 「白人の責務」？—ミッシヨナリの帝国 (12) 近代スポーツの誕生 (13) 「帝国経験」と文化 (14) 「イギリスらしさ」の創造—田園都市と環境保護 (15) 「内なる他者」と多文化のイギリス	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業中に紹介された参考文献を読むこと。時折小テストを実施するので、授業ごとに重要事項の復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを使用する。 【参】井野瀬久美恵編『イギリス文化史入門』昭和堂 1994年 ISBN 4812294193、ほか、その都度紹介する。	
成績評価方法と基準	レポートによる。近代イギリス社会、文化の特質や授業で紹介する議論の内容が理解できているかを評価基準とする。レポート60%、受講態度40%とし、受講態度には時折実施する小テストの結果を勘案する。	
備考		

科目名	社会史概説Ⅰ	
担当者	鮫島 俊秀 / SAMESHIMA, Toshihide	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	我々の生きている現代は人類の様々な営みの上に築かれたものである。毎回切り口となるテーマを変えて、生命の誕生から現代までの人類の軌跡を時の流れにとらわれずに辿る。
	到達目標	過去から現在までの人類の軌跡を知ることにより、将来良き市民として、社会及び人類の未来に貢献できるに足る歴史的思考力及び判断力を養う。
授業計画	(1) ガイダンス、人類と社会の誕生 (2) 「事実」と「真実」について① (3) 「事実」と「真実」について② (4) 現代(いま)を通して世の中を観る (5) 日本人はどこから来たか (6) 文字・言葉・恋の「うた」 (7) 宗教を通して世の中を観る (8) 芸能を通して世の中を観る (9) 戦国時代を題材に二つ (10) 日本の「はじっこ」から観た幕末 (11) 人物(ひと)から観た幕末と明治 (12) 朝鮮半島の話 (13) 「事実」と「真実」について③ (14) 「事実」と「真実」について④ (15) あるスポーツの誕生と伝播	
自学自習	事前学習	日々発刊される新聞を読む事を勧める
	事後学習	講義を聴き、興味がわいた事項について各人のやり方で知識を深めることが望ましい
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義時に配布するプリントを用いる 【参】参考文献は特に指定しない。	
成績評価方法と基準	<基準> 単なる知識の暗記ではなく、歴史的思考力及び歴史的判断力がそれぞれのレベルで身についたと認められる者は合格とする。 <方法> テスト60%、受講態度20%、毎講義ごとのミニレポート15%	
備考		

科目名	社会史概説Ⅱ	
担当者	田村 省三 / TAMURA, Shozo	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	南九州を長年統治してきた島津氏の歴史をたどることにより、南九州の歴史・文化を学ぶ。中世から近世に至るまでひとつのまとまった地域を統治し続けた大名家は稀であり、それだけに南九州は内政面・対外面・文化面のいずれにおいても他と異なった特色を持っている。また、南九州の地理的な環境もこれを促進した。日本史のみならず、世界史の視点からも概説する。
	到達目標	南九州の歴史・文化を学び、中世から近代までの通史やその特色を理解する。
授業計画	(1) 序論・海洋史観とみなみ九州 (2) 島津氏の発祥と薩摩入り (3) 南北朝と島津氏 (4) 総州家・奥州家の対立と冬の時代 (5) 薩摩の文化興隆－薩南学派－ (6) 南九州の統一 (7) 豊臣秀吉と島津氏－文禄検地の意味－ (8) 島津義久と義弘－関が原合戦をとおして－ (9) 島津氏と海外交渉史 (10) 近世大名としての島津氏 (11) 大名家の文化と規式 (12) 徳川家と島津家の関係 (13) 島津重豪の開化政策 (14) 島津斉彬の近代化事業 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・日本史の流れを前もって学習しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教科書を読み返して理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】 田村省三「尚古集成館－島津氏800年の収蔵－」尚古集成館 平成18年 【参】 川勝平太「文明の海洋史観」中公叢書 1997年 ISBN4120027155 ほか	
成績評価方法と基準	<基準> 南九州の歴史・文化の概要が理解できたものは合格とします。 <方法> 受講態度と終了試験（レポート）によります。（受講態度40%、終了試験60%）	
備考		

科目名	思想史概説	
担当者	新名 隆志 / NIINA, Takashi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	現代の具体的な社会問題を倫理的観点から考察することにより、自由、平等、責任といった倫理的な価値思想の伝統を学ぶ。またそのような価値思想を再検討・再構成することにより、社会問題に対する新しい見方を開く。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会問題に対する倫理的アプローチを学ぶ。 ・自由、平等、責任などの倫理的価値思想の伝統を学ぶ。 ・価値思想や社会問題について自ら検討する力を身につける。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義のガイダンス (2) 平等と差別1 (3) 平等と差別2 (4) 平等と差別3 (5) 事実と価値1 (6) 事実と価値2 (7) 自由をめぐる諸問題1 (8) 自由をめぐる諸問題2 (9) 自由をめぐる諸問題3 (10) 感情の倫理学1 (11) 感情の倫理学2 (12) 責任をめぐる諸問題1 (13) 責任をめぐる諸問題2 (14) 責任をめぐる諸問題3 (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	講義中に指示する通りに前もって教科書を読んでおくこと。
	事後学習	講義内容に関係する教科書の部分や参考書を読み、自分で考察を深めること。
使用教材・参考文献	<p>【教】新名隆志・林大悟編『エシックス・センス——倫理学の目を開け』ナカニシヤ出版 2013年（出版予定）</p> <p>【参】講義中に適宜紹介する。</p>	
成績評価方法と基準	テストあるいはレポート70%、受講態度30%。 詳しくは講義中に説明する。	
備考		

科目名	日本史特論	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	東アジア諸国との関連を重視しながら南九州と薩摩藩の歴史を講義する。
	到達目標	近世・近代の諸論文の論点を理解できるようになる。
授業計画	(1) はじめに (2) 史料に見る幕末・維新の薩摩藩と日本 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) おわりに	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付資料の精読。
使用教材・参考文献	【教】プリントを配付する。 【参】原口泉ほか『鹿児島県の歴史』山川出版社 1999年	
成績評価方法と基準	講義および拙著の内容（論点）が理解された場合を合格とする。レポートおよび受講態度で判断する。	
備考	年表や歴史地図持参。 社会人の聴講、歓迎。	

科目名	歴史学特講Ⅰ	
担当者	田村 省三 / TAMURA, Shozo	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	近代日本は、どのようにして始まったのか。近代とはどのような時代であったのか。現在数多くの研究者が多角的にこのテーマに取り組んでいる。一方、幕末の薩摩藩ではいち早く西欧の科学技術を受容し、製鉄・造船・紡績を中心とする「集成館事業」を推進し、日本の近代化のさきがけとなった。本講では「集成館事業」とその歴史的・文化的な背景や意味について学び、今日にのこされた近代化遺産についても学習する。
	到達目標	「集成館事業」の歴史的・文化的背景や内容、その意味を学び、日本の近代化に果たした役割を理解する。
授業計画	(1) 序論・世界と薩摩 (2) 植民地主義とアジア (3) 薩摩藩の蘭学受容 (4) 島津重豪と天保の財政改革 (5) 島津斉彬の近代化政策 (6) 鋳砲事業と砲台の建設 (7) 「昇平丸」と蒸気船「雲行丸」の建造 (8) 写真・ガラス・紡績事業 (9) 木村嘉平と近代活字 (10) 集成館事業を支えた人々ー蘭学者の系譜ー (11) 島津斉彬の死と薩英戦争 (12) 薩摩藩英国留学生とその後 (13) 薩摩の医学ー高木兼寛を中心としてー (14) 集成館と西南戦争 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・日本の近代史の流れを前もって学習しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教科書を読み返して理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】松尾千歳「島津斉彬の集成館事業」尚古集成館 平成15年 【参】尚古集成館編「島津斉彬の挑戦」尚古集成館 平成15年ほか	
成績評価方法と基準	<基準> 「集成館事業」の概要と日本の近代史上の意義を理解したものは合格とします。 <方法> 受講態度と終了試験（レポート）によります。（受講態度40%、終了試験60%）	
備考		

科目名	歴史学特講Ⅲ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	イギリスを題材に、移民や外国人といった「周縁」から国家や国民、市民権といった問題を歴史的に検討する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な事象について、専門的な知識に基づいて考えることができるようになる。 ・国境を越えたグローバルな観点から歴史をとらえることができるようになる。 ・近代という時代が現代社会に残した問題について理解し、考えることができるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「日本人であること」とは？ (2) 移民大陸、ヨーロッパ (3) 近代国家と国民一国籍法と市民権 (4) 「イギリス人」とは誰のこと？ (5) イギリスという国の在り方—連合王国と帝国 (6) イギリス国籍法の特徴 (7) 19世紀までの「他者」—帰化法と外国人の処遇 (8) 自治領と1914年イギリス国籍法 (9) 第二次世界大戦とイギリス帝国 (10) 1948年国籍法と戦後のイギリス (11) ウィンドラッシュ号来航の衝撃—戦後移民の始まり (12) 1962年移民法の成立 (13) ‘Keep Britain White!’—さらなる規制へ (14) 共存への道—多文化主義と人種問題 (15) 「イギリスらしさ」の行方 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布するプリント、史料を読んで復習をしておくこと。紹介された参考文献を読んでおくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】 使用しない。授業中にプリントを配布する。</p> <p>【参】 授業中に適宜紹介をする。</p>	
成績評価方法と基準	レポート60%、受講態度40%で評価する。レポートについては、授業内容を踏まえて、自らの意見を論理的に述べているかを評価基準とする。受講態度については、授業中に時折課す論述の出来を評価に勘案する。	
備考		

科目名	歴史学特講Ⅳ	
担当者	藤内 哲也 / TONAI, Tetsuya	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	華麗なルネサンスを生み出した中世イタリアの都市世界を対象に、政治や経済、日常生活や信仰、祝祭や芸術といった多様な観点から、その時代の社会や文化のかたちを考察する。
	到達目標	中世イタリア都市社会の諸相を理解する。また、特定の時代や社会に関する考察を通じて、歴史学的な考え方を習得するとともに、現代社会の諸問題についての視座を得ることができる。
授業計画	(1) イタリアの都市社会をみる視角 (2) 中世ヨーロッパの成立と発展 (3) イタリア都市社会の成立と発展 (4) 都市の環境と景観 (5) 支配のかたち (6) 商業の発展と商業技術 (7) 都市の国際性 (8) 大学の発展 (9) 家族・女性・子ども (10) 衣・食・住 (11) 信仰のかたち (12) 人びとのきずなと祭り (13) 芸術活動とパトロネイジ (14) 都市社会の変容 (15) まとめと展望	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の内容を整理し、わからない用語等は確認しておくこと。 ・授業中に紹介された参考文献を読み、理解を深めておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は指定せず、授業中に配布するプリントを用いる。 【参】齊藤寛海・山辺規子・藤内哲也編『イタリア都市社会史入門』昭和堂、2008年、ISBN：9784812208205。その他は授業中に紹介する。	
成績評価方法と基準	試験100%。中世イタリア都市史の基本事項を理解していること、また授業の主要なテーマについて、自分のことばで説明できることが合格の基準となる。	
備考		

科目名	歴史学特講V	
担当者	三浦 壮 / MIRA, So	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	1941年から1990年までの現代史について、主として経済の側面に焦点を当て講義する。
	到達目標	現代日本経済の構造について、歴史的背景をおさえながら理解すること。
授業計画	(1) 日本現代史・イントロダクション (2) 戦時経済1 (3) 戦時経済2 (4) 占領・復興期の日本経済 1 (5) 占領・復興期の日本経済 2 (6) 占領・復興期の日本経済 3 (7) 高度成長1 (8) 高度成長2 (9) 高度成長3 (10) 石油危機と高度成長の終焉1 (11) 石油危機と高度成長の終焉2 (12) 繁栄の1980年代1 (13) 繁栄の1980年代2 (14) バブル経済とその崩壊1 (15) バブル経済とその崩壊2	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・時々、小レポートを課す
使用教材・参考文献	【教】 使用しない。レジユメを用意する。 【参】 橋本寿朗他『現代日本経済』（有斐閣，2011年）〔図書館蔵〕	
成績評価方法と基準	試験80点+小レポート20点，合計100点で評価する	
備考		

科目名	法制史	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	西洋法制史を扱う。特に古代ローマ法の歴史的発展について説明する。
	到達目標	(1) 西洋法制史の概略に関する基礎的知識を習得する。 (2) 古代ローマ法の特徴について、基本的な事項を理解する。
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 法制史とはなにか (3) 西洋法のながれ① (古代～中世) (4) 西洋法のながれ② (中世～近代) (5) 西洋法のながれ③ (近代～現代) (6) 大陸法とコモン・ロー① (7) 大陸法とコモン・ロー② (8) 古代ローマ法① (古代ローマの法観念) (9) 古代ローマ法② (十二表法) (10) 古代ローマ法③ (法務官法) - (11) 古代ローマ法④ (市民法と万民法) (12) 古代ローマ法⑤ (法学者達の活動) (13) 古代ローマ法⑥ (ユースティニアヌスによる法典編纂事業) (14) 中世における《ローマ法の再発見》 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします (目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する)。 詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】・【参】 講義時間中に指示・紹介する。	
成績評価方法と基準	レポートによって評価する。レポートに講義の内容が的確に反映され表現されているかどうかを評価の基準とする。なお、講義の最後に「学習報告 (この講義を通じて学んだこと)」を提出する。	
備考	世界史 (西洋史) の基礎知識を必要とする。関連する専門科目としては、法思想史、法哲学、政治史、外国史概説などがある。	

科目名	政治史	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	この講義では、第二次世界大戦後の政治史を概観します。まず米国とソ連の冷戦について概説し、その後、冷戦下のアジアについて確認していきます。
	到達目標	講義では、米ソの冷戦や、朝鮮戦争、ベトナム戦争などの経緯や背景を説明していきます。戦後政治史の全体をつかみ、日本との関係を考え、これからの国際政治を理解するための素地を作ることが、この講義の目的です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 冷戦とは何か (3) 米ソ冷戦① (冷戦体制の確立) (4) 米ソ冷戦② (ベルリン危機) (5) 米ソ冷戦③ (キューバ危機とデタント) (6) 米ソ冷戦④ (核軍縮の動き) (7) 米ソ冷戦⑤ (キッシンジャー外交) (8) 米ソ冷戦⑥ (冷戦の終結とソ連崩壊) (9) アジアの冷戦① (冷戦下のアジア) (10) アジアの冷戦② (中華人民共和国の成立) (11) アジアの冷戦③ (朝鮮戦争) (12) アジアの冷戦④ (ベトナム戦争) (13) その他の地域紛争 (14) 冷戦後の世界 (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2004年 【参】 佐々木卓也『戦後アメリカ外交史』有斐閣、2002年 五百旗頭真編『戦後日本外交史』有斐閣、1999年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

科目名	地理学概論 I	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	①地理学の基礎理論である立地論と②現代的問題への地理学的アプローチの二つのテーマについて、具体的な事例を交えながら解説します。
	到達目標	①立地論の考え方を理解し、②地理学的問題を理解することで、社会に対する地理学的視点を身につけることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 新しい地理学 (3) 農業立地論 (1) —チューネンの「孤立国」 (4) 農業立地論 (2) —農業立地論の応用 (5) 工業立地論 (1) —ウェーバーの工業立地論 (6) 工業立地論 (2) —工業立地の変化 (7) 商業立地論 (1) —クリスターラーの中心地理論 (8) 商業立地論 (2) —定期市の立地論 (9) 立地論のまとめ (10) 多様な理論 (11) 人口地理学 (12) 農業地理学 (13) 工業地理学 (14) 歴史地理学 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】坂本英夫・浜谷正人編著『最近の地理学』大明堂、1985年。	
成績評価方法と基準	<基準>立地論を説明できることと地理的問題を説明できることを基準とします。 <方法>試験80%，受講態度20%で評価します。	
備考		

科目名	地理学概論Ⅱ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	都市の内部構造について既存の研究と具体的な事例の両面からお話します。近代から現代の都市がどのように形成されるのかをとらえるための考え方についてお話します。
	到達目標	都市形成の理論を理解することで、都市の形態と社会の変化の関係について考えることができるようになることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 都市の内部構造 (3) 社会地区分析 (4) 因子生態分析 (5) 居住分化の理論—トレード・オフ (6) 居住分あの理論—バージェスとホイット (7) 居住分化の理論—D. ハーヴェイ1 (8) 居住分化の理論—D. ハーヴェイ2 (9) 都市形成の力学 (10) マルクス主義地理学と都市1 (11) マルクス主義地理学と都市2 (12) 人文主義地理学と都市 (13) インナーシティ問題 (14) ジェントリフィケーション (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】P. ノックス・S. ピンチ『新版 都市社会地理学』古今書院, 2005年。	
成績評価方法と基準	<基準>都市形成の理論と用語を説明できることを基準とします。 <方法>試験80%, 受講態度20%で評価します。	
備考		

科目名	地誌学Ⅰ（日本）	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて ①基礎知識, ②地域調査の手法, ③具体的事例の三つのステップで解説します。
	到達目標	地誌学の基礎を理解し, 地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土1 (4) 地域あるいは風土2 (5) 地域調査法—統計 (6) 地域調査法—多変量解析1 (7) 地域調査法—多変量解析2 (8) 地域調査法—空中写真 (9) 地域調査法—主題図作成1 (10) 地域調査法—主題図作成2 (11) 地域を見る—日本と九州 (12) 地域を見る—福岡県太宰府市の事例1 (13) 地域を見る—福岡県太宰府市の事例2 (14) 地域を見る—福岡県太宰府市の事例2 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみる。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院, 1986年。	
成績評価方法と基準	<基準>地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。 <方法>試験50%, 授業内課題30%, 受講態度20%で評価します。	
備考	授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。	

科目名	都市と自然環境	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化学科・歴史地理コース / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	この講義は都市の成立，発達，都市生活と自然環境の関係についてお話しします。都市の立地や都市システムから都市の歴史，地域性，環境変化と災害などについて解説します。
	到達目標	①都市の歴史や地域性を学ぶことで，その自然的特徴との関係を論述できることと，②都市の環境変化と都市生活についての関係について論述できることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 都市とは (3) 都市の立地 (4) 都市システム (5) 九州の都市システム (6) 都市の成立—古代・中世の都市 (7) 都市の成立—近世城下町 (8) 近代化と都市 (1) (9) 近代化と都市 (2) (10) 近代化と都市 (3) (11) 自然条件と都市 (12) 都市と災害 (1) (13) 都市と災害 (2) (14) 都市と災害 (3) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみる。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】参考文献は授業中に適宜紹介します。	
成績評価方法と基準	<基準>都市の立地と発達について自然環境をふまえて説明できることと都市の環境変化の持つ問題点を理解していることを基準とします。 <方法>試験80%，受講態度20%で評価します。	
備考		

科目名	考古学概説	
担当者	竹中 正巳 / TAKENAKA, Masami	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員科目 / 選択 (法定科目名「考古学」)	
科目概要	授業内容	考古学の学問的な特徴、研究方法について述べた後、人類誕生から近代までを時代ごとに考古学の面から解説する。実際の発掘調査の事例や古人骨から復元した当時の人々の顔かたちや体つき、生業、社会、文化、習慣なども紹介していく。
	到達目標	過去に暮らした人々が残した遺構・遺物から人々の生活、文化、社会を学び、考古学の概要を広く理解する。
授業計画	(1) 考古学の特徴 (2) 考古学の研究方法 (3) 人類誕生から旧石器時代まで (4) 人類誕生から旧石器時代まで (5) 縄文時代 (6) 縄文時代 (7) 弥生時代 (8) 弥生時代 (9) 古墳時代 (10) 古墳時代 (11) 歴史時代 (12) 歴史時代 (13) 古人骨研究に基づく日本人の成り立ち (14) 発掘調査の実際 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「参考文献・参考図書」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・「参考文献・参考図書」を再度読むこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。 【参】適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準>考古学の概略が理解できたものを合格とする。 <評価>レポートで評価する。	
備考		

科目名	民俗学概説	
担当者	森田 清美 / MORITA, Kiyomi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員科目 / 選択 (法定科目名「民俗学」)	
科目概要	授業内容	歴史の表舞台に登場してこなかった人びとの民間伝承を比較して、それをダイナミックに分析することにより日本人の心意、生活文化の変容を明らかにする。そのうえで、老人や幼児への虐待・いじめ、老人への詐欺、少子化、若者の就職難などの諸問題を解決していくことを目指す。
	到達目標	日本人の伝統文化・心意を理解し、自覚する。その上で、現代社会の国内、国外の諸問題解決への対処・対応の仕方を知り、実践する意欲を身につける。次の世代へ受け継がれる応用民俗学を確立していく。
授業計画	(1) 民俗学とは何か (現代社会における民俗学の視点) (2) 環境民俗学 (家と村・町における民俗学・境界の民俗学も含む) (3) 人びとの生業 (農業・漁業・諸職、建築儀礼など・・日本人の心の出所を探す) (4) 年中の行事 (正月・盆・彼岸・講・入学式・学園祭など) (5) 誕生・成人式・結婚・厄年などの問題 (人生儀礼Ⅰ) (6) 生と死の意味を考える。(人生儀礼Ⅱ) (7) 呪術者である修験者と日本宗教 (民間信仰・民俗宗教Ⅰ) (8) 弾圧下でも信仰の火を消さなかった浄土真宗系の「隠れ念仏」 (民俗宗教Ⅱ) (9) シャーマニズムと結びついた「隠れ念仏」 (民俗宗教Ⅲ) (10) 民俗芸能の保存 (太鼓踊・棒踊・神楽など伝統芸能の意味を探る) (11) 昔話と伝説・ことわざの現代的意味 (12) 妖怪と幽霊が現代でも登場する意味 (派生的昔話としての怪談) (13) 過疎の民俗・都市の民俗 (現代社会と民俗Ⅰ) (14) 優しさや癒しの意味 (現代社会の民俗Ⅱ) (15) 総まとめ (現代民俗学の行方と社会への貢献)	
自学自習	事前学習	毎回の授業を受けるにあたって、事前に予習しておくべき事項・「使用教材」・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味の分からない用語は、民俗学事典などで事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要、および次回まで復習すべき事項 3回おきに、小レポートを課す。 授業の初めに、前回学んだことに対する質問を課す。
使用教材・参考文献	【教】 授業ごとにプリント (小冊子) を次回の分まで配布する。 【参】 ・福田アジオ・宮田登『日本民俗学概論』吉川弘文館 ・森田清美『隠れ念仏と救い』鉾脈社	
成績評価方法と基準	平常点 (授業態度) ・レポート・期末試験	
備考	希望により民俗学巡検 (民俗芸能・民俗行事見学・民俗調査) を積極的に実施。	

科目名	歴史学演習 I	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	鹿児島（薩摩藩）に関する史料を読み、鹿児島及び日本の歴史の理解を深める。『鹿児島県史料 旧記雑録』や古文書等を輪読する。
	到達目標	基本史料を読み、史料の読解力を養うと共に、テーマにそくして、発表できる能力を身につけることを目指す。
授業計画	(1) はじめに (2) 近世前期史料 (3) " (4) " (5) " (6) 近世中期史料 (7) " (8) " (9) " (10) 幕末維新から近代史料 (11) " (12) " (13) " (14) " (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付資料の精読。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。プリントを配布。 【参】演習でその都度紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 演習への取組、口頭発表、レポート作成等による。 <方法> 発表、レポート等を総合的に判断する。	
備考	年表・歴史地図必携。 社会人、歓迎。	

科目名	歴史学演習Ⅱ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	ニクソン米大統領の補佐官として、1972年の米中和解への道を準備したヘンリー・キッシンジャーの回顧録を題材に、現代史における米中関係を検討する。
	到達目標	自ら調べ、レジュメを作成し、報告し、議論する力をつける。文献を客観的に読んで理解し、検討する力を身につける。
授業計画	(1) 演習とは？—授業の方針、報告の仕方など (2) 報告と討論 (3) 報告と討論 (4) 報告と討論 (5) 報告と討論 (6) 報告と討論 (7) 報告と討論 (8) 報告と討論 (9) 報告と討論 (10) 報告と討論 (11) 報告と討論 (12) 報告と討論 (13) 報告と討論 (14) 報告と討論 (15) 報告と討論	
自学自習	事前学習	・配布されたテキストを読み、わからない語句は調べておくこと。報告の準備をすること。
	事後学習	演習時に理解できなかった点、わからなかった点、教員から指示された点について調べること。
使用教材・参考文献	【参】塚越敏彦他訳『キッシンジャー回顧録 中国』（上）（岩波書店、2012年）、ISBN978-4-00-02387408 【参】授業でその都度紹介する。	
成績評価方法と基準	授業中の報告の出来、討論への参加などの受講態度60%、期末に提出するレポート40%。	
備考	基礎的な英語力を持ち、英語文献の講読を希望する受講生については、別途英書講読を行う。詳細は初回授業で説明する。	

科目名	歴史学演習Ⅲ	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	日本史研究の基本となる古文書や古記録等の基礎史料を読み、日本や郷土の理解を深める。
	到達目標	基礎史料を読むことで、歴史の理解や楽しさを知ると共に、各自が研究テーマを設定し、卒業論文作成への第一歩とする。
授業計画	(1) はじめに (2) 『忠義公史料』などの輪読 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) おわりに	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付資料の精読。
使用教材・参考文献	【教】教科書は使用しない。プリントを配布。 【参】原口泉『龍馬を越えた男 小松帯刀』PHP文庫 2010年	
成績評価方法と基準	<基準> 演習への取組、口頭発表、レポート作成等による。 <方法> 発表、レポート等を総合的に判断する。	
備考	年表・歴史地図必携。 社会人、歓迎。	

科目名	歴史学演習Ⅳ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	卒業研究の準備作業として、各人が自らのテーマを見つけ、参考となる文献を読み、内容を紹介し、討論する。
	到達目標	課題を見つけ、自ら調べ、報告ができるようになる。論文を書くために必要な基本的な手続きを理解する。
授業計画	(1) ガイダンス—論文とは？ (2) テーマ設定と報告 (3) 報告と討論 (4) 報告と討論 (5) 報告と討論 (6) 報告と討論 (7) 報告と討論 (8) 報告と討論 (9) 報告と討論 (10) 報告と討論 (11) 報告と討論 (12) 報告と討論 (13) 報告と討論 (14) 報告と討論 (15) 報告と討論	
自学自習	事前学習	・報告に向け、参考文献や史料を読んで、レジュメを作成する。
	事後学習	・授業中の討論などで指摘された疑問点について調べ、紹介された文献があれば目を通しておく。
使用教材・参考文献	【教】使用しない。 【参】各人の研究テーマに応じ、自ら探すこと。教員が紹介することもある。	
成績評価方法と基準	授業中の報告の出来、討論への参加などの受講態度60%、期末に提出するレポート40%。	
備考	基礎的な英語力を持ち、英語文献を読むことを希望する受講生については、別途英書講読を行う。詳細は初回授業で説明する。	

科目名	歴史学演習 V	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	『薩藩史談集』を読む。また近代実証主義史学の創始者重野安繹の業績・文章から課題を見つけ出し、紹介発表する。薩摩の漢学と昌平坂学問所、薩英戦争後の談判交渉、最初の歴史教科書『国史眼』、国学・漢学の争いと水本成美、荒尾精の日清貿易研究所、その他について担当教員の指導を受けつつ調べて発表する。
	到達目標	明治維新前後の歴史に関する文献資料を探し出し、通読してレジュメを作成し、発表することを通して、研究の手順・論文執筆の作法を会得する。
授業計画	(1) ガイダンス 『薩藩史談集』を読んで課題を探す (2) 同上 (3) 同上 (4) 同上 (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同上 (9) 同上 (10) 薩摩の漢学と昌平坂学問所 薩南学派と伊敷の桂庵公園の石碑 (11) 薩英戦争後の談判交渉 佐土原藩の傑物野瀬直陳 (12) 最初の歴史教科書『国史眼』 明治の国史編纂計画 (13) 国学・漢学の争いと水本成美 明治の教育行政と神仏分離 (14) 加治木のひと藤崎秀のスパイ活動 荒尾精の日清貿易研究所 (15) 同上 総括	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に課題として指摘されたことについて調べる。
使用教材・参考文献	【教】『薩藩史談集』と『成斎文集』は、適宜コピーして配布する。 【参】その他の参考資料は、演習中に紹介する。	
成績評価方法と基準	課題に関する参考文献探索の精度、読み込みの程度、レジュメのまとめ方、問題点把握の精粗(60点)、他の発表者の報告に対する意見発表即ち授業貢献度(40点)。未発表者は不合格。欠席1回につき3点減点。6回欠席すれば失格。	
備考	受講者が上記のテーマ以外の歴史事象に強い関心を持ち、調査して発表したい場合には、担当教員の承認を得て改め、発表することができる。	

科目名	歴史学演習VI	
担当者	谷口 明夫 / TANIGUCHI, Akio	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	正史『三国志』魏武帝紀を読む。正史の曹操一代記と裴松之の注を詳細に読むことを通して、後漢から三国時代初期までの制度・地理・人物等に対する理解を深める。また、『漢書』・『後漢書』の『地理志』・『百官志』や歴代の地理書等の検索を通して中国史の基礎的研究方法を学ぶ。
	到達目標	・演習を担当することにより、①人物や地点についての資料を正史または地理書等から探し出し、②正史『三国志』がどのような歴史書か、説明し、③曹操の人となり、事績を簡明に述べ、④後漢末の大事件と人物の概略を説明できるようになる。
授業計画	(1) 演習の方法 『三国志』の作者陳寿と裴松之の注について説明 (2) 曹操の出自 輪読 発表 質疑・討論 (3) 年少時の逸話 同上 (4) 黄巾の乱 同上 (5) 以下演習担当者の準備の程度による。 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同上 (9) 同上 (10) 同上 (11) 同上 (12) 同上 (13) 同上 (14) 同上 (15) 同上 総括	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中課題として残ったものについて調べる。
使用教材・参考文献	【教】プリント配布 【参】陳寿『三国志』 中華書局 1973年（評点本二十四史） 今鷹真・井波律子訳『三国志』 筑摩書房 1977年	
成績評価方法と基準	基準：演習を担当する前に、担当教員の指導を受けて指示通りのレジュメを作り発表したものを合格とします。発表しない者とレジュメが不十分な者は不合格とします。 方法：発表60%、受講態度40%	
備考		

科目名	野外環境演習	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本演習は野外に赴き、自然環境を体感することを目的としています。受講者は論文を読み、課題を設定し、事前調査を行った上で巡見当日に現地で発表と調査を行い、それをまとめます。
	到達目標	①野外巡見で精力的に生き生きと活動できること、②文献調査を行いまとめることができるようになること、③現地調査を行い、口頭発表できるようになることを目標とします。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 受講者による論文紹介① (3) 受講者による論文紹介② (4) 事前調査① (5) 事前調査② (6) 事前調査③ (7) 調査用資料作成 (8) 巡見① (9) 巡見② (10) 巡見③ (11) 巡見④ (12) 巡見⑤ (13) 受講者による口頭発表① (14) 受講者による口頭発表② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な作業、調査を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】参考文献は授業中に適宜紹介します。	
成績評価方法と基準	<基準>内容よりも受講生のやる気と成長度合いを重視して評価します。 <方法>論文発表20%, 事前調査20%, 巡見参加20%, 口頭発表40%を目安とします。	
備考	授業の進展に応じて内容を修正しながら進めていきます。	

科目名	地誌学演習 I	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本演習は地域調査の実践を通じて地域を理解する能力を向上する事を目的とします。そのため受講者は論文を読み、課題を設定し、事前調査を行った上で巡見当日に現地で発表と調査を行い、それをまとめます。
	到達目標	①野外巡見で精力的に生き生きと活動できること、②文献調査を行いまとめることができるようになること、③現地調査を行い、口頭発表できるようになることを目標とします。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 受講者による論文紹介① (3) 受講者による論文紹介② (4) 事前調査① (5) 事前調査② (6) 事前調査③ (7) 調査用資料作成 (8) 巡見① (9) 巡見② (10) 巡見③ (11) 巡見④ (12) 巡見⑤ (13) 受講者による口頭発表① (14) 受講者による口頭発表② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・必要な作業、調査を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】参考文献は授業中に適宜紹介します。	
成績評価方法と基準	<基準>内容よりも受講生のやる気と成長度合いを重視して評価します。 <方法>論文発表20%, 事前調査20%, 巡見参加20%, 口頭発表40%を目安とします。	
備考	授業の進展に応じて内容を修正しながら進めていきます。	

科目名	民俗学演習	
担当者	町 泰樹 / MACHI, Taiki	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	現代社会における生きた民俗学調査・研究の方法を、身近な民俗や参考文献の講読を通して学ぶ。それをもとに、民俗芸能・行事・調査を積極的に実施し、必ずしも歴史の表舞台に登場してこなかったような生活文化の変容過程を明らかにする。
	到達目標	民俗学調査・研究の視点と方法を、授業と実践を通して学ぶ。先人達の慣習や価値観をもとに、幅広い視点から現代社会の諸問題を解決しようとする方法と実践力を身に付ける。
授業計画	(1) オリエンテーションと授業（民俗学研究の視点） (2) 十五夜をめぐる民俗 (3) 先祖を迎える（お盆の民俗） (4) 生業と信仰の民俗（タノカンサアについて） (5) 「アホ・バカ分布」と「蝸牛考」 (6) 妖怪とは何か？ (7) 日本人の下半身の行方（性をめぐる民俗） (8) 人生儀礼の民俗 (9) ライフヒストリーの民俗（「忘れられた日本人」を読もう） (10) 民俗調査の心得（調査被害を考える） (11) 民俗学入門（民俗学の実践を考える） (12) 民俗はどのように展示されるのか？ 博物館（黎明館）見学 (13) 民俗行事の巡検実施Ⅰ・流鏑馬（日置市） (14) 民俗行事の巡検実施Ⅱ・メンドン（指宿市） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」や「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は民俗事典等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・定期的に小レポートを課す。 ・授業の初めに、前回学んだことに対する質問を課す。
使用教材・参考文献	【教材】授業ごとにプリントを次回の分まで配布する。 【参考文献】八木透・政岡伸洋（編著）『図解雑学こんなに面白い民俗学』ナツメ社、2004年（ISBN：978-4-8163-3678-2）、等。他の文献も授業中に紹介する。	
成績評価方法と基準	平常点（特別な理由の無い欠席は減点とする）・巡検調査の参加態度・レポート	
備考	民俗行事の日程によって、授業内容の入れ替えがあります。	

科目名	法学入門	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	初めて法学を学ぶ人のために、最も基本となる事項を扱う。
	到達目標	次の3点を主な目標とする。 ① 法学で用いられる基本的な用語を正確に理解する ② 法学に特有な《ものの見方・考え方》を知る ③ 法学の学び方について知り、自分なりのやり方で日々実行できるようにする
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 法学の学習方法① (3) 法学の学習方法② (4) 法と社会生活② (5) 法と社会生活② (6) 法の歴史 (7) 法体系の基礎① (8) 法体系の基礎② (9) 法解釈の基礎 (10) 法制度論の基礎 (11) 法と法学の諸分野① (12) 法と法学の諸分野② (13) 条文・判例の読み方の基礎① (14) 条文・判例の読み方の基礎② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】①『2013年版 U-CANの行政書士 はじめてレッスン [第3版]』（自由国民社、2012年）ISBN-13: 978-4426604301 ②『法学検定試験問題集（ベーシックコース）』（2013年度版） ※①②のいずれも、後期開講の「公法入門」と共通 【参】そのほかのものは、講義時間中に指示・紹介する。	
成績評価方法と基準	提出物及び試験による。法学検定試験（ベーシックコース）の「法学入門」程度の内容理解を、成績評価の基準とする。	
備考	勉強で一番大事なことは、「やる気」です。何事にも意欲的に取り組んでください。	

科目名	公法入門（憲法・行政法）	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	憲法及び行政法の基礎的事項を扱う。
	到達目標	憲法及び行政法について、より詳しい専門的な内容を学ぶための予備知識を得ることを目標とする。
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 法の分類（公法と私法） (3) 憲法の基礎知識 (4) 統治機構総論 (5) 基本権総論 (6) 基本権各論その1 (7) 基本権各論その2 (8) 憲法のまとめ (9) 行政法総論 (10) 行政組織法 (11) 行政作用法 (12) 行政手続法 (13) 行政不服審査と行政訴訟 (14) 国家賠償法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】①『2013年版 U-CANの行政書士 はじめてレッスン [第3版]』（自由国民社、2012年）ISBN-13: 978-4426604301 ②『法学検定試験問題集（ベーシックコース）』（2013年度版） ※前期開講の「法学入門」と共通 【参】そのほかのものは、講義時間中に指示・紹介する。	
成績評価方法と基準	提出物及び試験による。憲法では、法学検定試験（ベーシックコース）の「憲法」程度の内容理解を成績評価の基準とする。行政法では、主な行政救済制度についての基礎知識を修得しているかどうかを成績評価の基準とする。	
備考	(1) この講義は、「法学入門」の内容を理解していることが前提です。 (2) 何よりも「やる気」をもって取り組んでください。	

科目名	民法法入門 I	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
科目概要	授業内容	私達の生活の様々な場面と密接な関係をもつ民法のうち、実体法である民法の総則編と物権編の基礎を、事例を挙げつつ初学者のためにわかりやすく説明する。
	到達目標	民法の基本的内容を理解し初歩的な法的思考力を習得すること、専門科目の履修への準備となることを目標とする。
授業計画	(1) 民法とは (2) 権利と義務・権利の主体・物 (3) 法律行為（無効と取消） (4) 法律行為（意思表示総説） (5) 法律行為（意思表示瑕疵）① (6) 法律行為（意思表示瑕疵）② (7) 法律行為（権利能力・意思能力・行為能力） (8) 代理 (9) 時効 (10) 物権（物権の意義と種類） (11) 物権（所有権の取得）① (12) 物権（所有権の取得）② (13) 物権（物権的請求権） (14) 担保物権 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	テキスト及び配布資料を必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】野村豊彦著『民法法入門 第5版』2009年 有斐閣アルマ ISBN 9784641123212 配布資料 【参】潮見佳男著『入門民法（全）』2010年 有斐閣 ISBN 9784641134997 その他は講義の中で適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	学期末試験（80%）と授業態度等（20%）により評価する。基準については、第1回講義で説明する。	
備考	六法を持参すること（ポケット六法で可）。	

科目名	民事法入門Ⅱ	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	私達の生活の様々な場面と密接な関係をもつ民事法のうち、実体法である民法の債権編と親族・相続編の基礎を、事例を挙げつつ初学者のためにわかりやすく説明する。
	到達目標	民事法の基本的内容を理解し初歩的な法的思考力を習得すること、専門科目の履修への準備となることを目標とする。
授業計画	(1) 契約とは (2) 契約（契約の成立、契約の効果） (3) 契約（双務契約における2つの債務の関係）① (4) 契約（双務契約における2つの債務の関係）② (5) 契約（契約の履行、契約の不履行） (6) 契約（売買）① (7) 契約（売買）② (8) 契約（賃貸借） (9) 債務の弁済 (10) 債権回収手段（責任財産の保全、債権譲渡）① (11) 債権回収手段（責任財産の保全、債権譲渡）② (12) 不法行為・事務管理・不当利得 (13) 家族・親子・扶養 (14) 相続 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・テキスト及び配布資料を必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】野村豊彦著『民事法入門 第5版』有斐閣アルマ 2009年 ISBN 9784641123212 配布資料 【参】潮見佳男著『入門民法（全）』有斐閣 2010年 ISBN 9784641134997 その他は講義の中で適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	学期末試験（80%）と授業態度等（20%）により評価する。 基準については、第1回講義で説明する。	
備考	民事法入門Ⅰを履修していることが望ましい。 六法を持参すること（ポケット六法で可）。	

科目名	刑事法入門	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	刑事事件とは具体的にどのようなものなのか。過去の有名な事件を取り上げて解説をする。なお、極めて最近の事件を取り上げることもある。
	到達目標	刑事事件が、我々の生活の身近なところに存在しているということを知ることによって、なぜ刑事法を勉強しなければならないのかを理解することができる。同時に学問としての刑事法学の面白さを知ることができる。
授業計画	(1) 刑事法とは何か (2) 栃木実父殺人事件 (3) 大阪二児置き去り事件 (4) 布川事件 (5) 足利事件 (6) 飯塚事件 (7) 名張毒ぶどう酒事件 (8) 袴田事件 (9) 和歌山砒素カレー事件 (10) 舞鶴女子殺害事件 (11) 尼崎連続死体遺棄事件 (12) 東京埼玉連続女児殺傷事件 (13) 山口県光市母子殺害事件 (14) 神戸児童殺傷事件 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	ニュースや新聞などに注目する。
	事後学習	授業で取り上げた内容を身近なものとして常に意識する。
使用教材・参考文献	【教】特に指定はしない。講義前に毎回プリントを配布する。 【参】ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	定期試験の結果で判定する。出席は採らない。	
備考	質問などがあれば、いつでも受け付ける。授業後、学校外、メールなどによる質問の受け付けも常時行う。	

科目名	裁判法入門（司法制度基礎）	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	裁判手続を身近に感じる機会が多くなった今日の情報化社会の中で、わが国の司法制度の仕組み及びそれを支える法律家の実態等について、実務例を紹介しながら概説します。
	到達目標	各種裁判手続の概要を理解し、裁判実務が具体的にどのように行われているのかイメージを掴めるようになる。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 民事法の実現と民事手続(1-21) (3) 刑事法の実現と刑事手続(21-44) (4) 司法権と違憲審査権(44-59) (5) 裁判所制度(61-95) (6) 法律家の役割(97-148) (7) 裁判の仕組み（民事裁判）(149-181) (8) 裁判の仕組み（家事裁判）(182-185) (9) 裁判の仕組み（行政裁判）(186-205) (10) 裁判の仕組み（刑事裁判）(205-238) (11) 裁判の仕組み（憲法裁判）(239-250) (12) 裁判をめぐる現代的課題（裁判を受ける権利）(251-262) (13) 裁判をめぐる現代的課題（国民の司法参加）(262-277) (14) 裁判をめぐる現代的課題（国際化と裁判、司法制度改革）(278-301) (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前に読んでおいてください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	<p>【教】市川＝酒巻＝山本『現代の裁判 第5版』有斐閣アルマ 2010年 ISBN:978-4-641-12363-2</p> <p>【参】小島武司『ブリッジブック裁判法〔第2版〕』信山社 2010年</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>〈方法〉小レポートの結果(30%)、期末試験の結果（70%）を総合評価します。</p>	
備考	六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。	

科目名	法学特殊講義Ⅰ	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	公法入門あるいは民事法入門等の入門講座において習得した基礎的な知識及び法的思考能力をより高めていくため、演習書を利用した問題演習を行い、基礎的な知識の定着が図れるように講義する。
	到達目標	公法及び民事法に関わる基本的な部分について学び、法的思考能力を養い、法的な問題について自ら考え、一定の結論が導き出せるようになることを目標とする。
授業計画	(1) 基礎法学 (法体系の基礎) (2) 基礎法学 (法解釈の基礎) (3) 基礎法学 (法制度論の基礎) (4) 憲法総論 (5) 人権総論 (6) 人権各論 (1) (7) 人権各論 (2) (8) 統治機構 (1) (9) 統治機構 (2) (10) 行政法総論 (11) 情報公開法 (12) 個人情報保護法 (13) 行政手続法 (1) (14) 行政手続法 (2) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義時間に作成したノートと教科書を照し合せながら復習を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】『2013年版 U-CANの行政書士 はじめてレッスン』（自由国民社、2012年）ISBN 978-4-426-60430-1 『法学検定試験問題集ベーシック』（2013年度版） 【参】講義時に適宜紹介します。	
成績評価方法と基準	受講態度 20%、終了試験 80%により評価する。	
備考	法学特殊講義Ⅰ・Ⅱは継続して受講することが望ましい。	

科目名	法学特殊講義Ⅱ	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	公法入門あるいは民事法入門等の入門講座において習得した基礎的な知識及び法的思考能力をより高めていくため、演習書を利用した問題演習を行い、基礎的な知識の定着が図れるように講義する。
	到達目標	公法及び民事法に関わる基本的な部分について学び、法的思考能力を養い、法的な問題について自ら考え、一定の結論が導き出せるようになることを目標とする。
授業計画	(1)行政救済法 (1) (2)行政救済法 (2) (3)行政救済法 (3) (4)国家賠償法 (1) (5)国家賠償法 (2) (6)国家賠償法 (3) (7)民法総則 (1) (8)民法総則 (2) (9)物権 (1) (10)物権 (2) (11)担保物権 (12)債権総論 (13)債権各論 (14)親族・相続 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義時間に作成したノートと教科書を照し合せながら復習を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】『2013年版 U-CANの行政書士 はじめてレッスン』（自由国民社、2012年）ISBN 978-4-426-60430-1 『法学検定試験問題集ベーシック』（2013年度版） 【参】講義時に適宜紹介します。	
成績評価方法と基準	受講態度 20%、終了試験 80%により評価する。	
備考	法学特殊講義Ⅰ・Ⅱは継続して受講することが望ましい。	

科目名	リーガルリサーチ	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	インターネットを使った情報収集は、日常的なものになっている。けれども、情報はネットだけで得られるとは限らないし、ネットで得た情報の「質」には十分に注意を払う必要がある。本講義では、デジタル、アナログを問わず、法律分野で必要な情報検索(リーガルリサーチ)の様々な手法について解説する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書、雑誌、新聞といった印刷資料の基礎的事項について理解を深め、それらの資料を検索できるようになる。 ・ データベース、ネットで公開されるデジタル資料の基礎的事項について理解を深め、その活用ができるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義についての紹介、コンピュータの基本操作のおさらい (2) 情報検索の基礎知識 (3) 情報検索の対象となる資料についての基礎知識 (4) 情報検索の対象となる資料についての基礎知識 (5) 情報検索の方法と手順 (6) 法令の基礎知識 (7) 法令資料と情報源 (8) 法令の探し方 (9) 判例の基礎知識 (10) 判例資料と情報源 (11) 判例の探し方 (12) 文献の基礎知識 (13) 文献の探し方 (14) 情報のまとめ方／引用の方法 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の課題を必ずやること。
使用教材・参考文献	<p>【教】 いちかわまりこ他、編著『リーガルリサーチ』日本評論社</p> <p>【参】 その他ハンドアウト、文献の紹介も適宜行なう。</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 「与えられた課題の題意に沿った情報の収集とまとめができていないか」を合否判断の基準とする。</p> <p><方法> 受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。</p>	
備考		

科目名	外国文献講読 I	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	この授業では、英語文献の基礎的な読解力を養うことを目標とする。基本的な文法事項の確認を行いながら、少しずつ読み進める。
	到達目標	辞書や文法書を用いながら、英語文献の講読ができるようになる。
授業計画	(1) 外国文献を学ぶためのオリエンテーション (2) 人権 (3) 規範 (4) 国内法 (5) 国際法 (6) 倫理 (7) 健康権 (8) 社会的決定 (9) 生命倫理 (10) 正義 (11) 幸福 (12) 共感 (13) 利他主義 (14) 正当性 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習し確認しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】人権等に関する英文プリントを配布する。	
成績評価方法と基準	<基準>辞書や文法書を用いながら英語文献の講読が達成できたものは合格とする。 <方法>平常点(40%)、ノート(60%)	
備考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方などの説明)を行うので、必ず出席する。 辞書・文法書・ノートを事前に準備する。ルーズリーフは不可。	

科目名	法律学基礎演習 I	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soushi	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	株式会社の作り方（定款作成から登記まで）を、実践的に学ぶ。数人でグループになってもらい、実際に株式会社を作る手続きを全て実践する（但し、実際に出資したり登記したりする訳ではないのでお金の心配は不要）。
	到達目標	会社法の設立分野の知識習得のみならず、株式会社の設立手続きを実践的に学ぶことで、書類作成の能力等も養う。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) どのような株式会社を作るか話し合う (3) 講義・定款作成 (4) 講義・定款作成 (5) 定款作成 (6) 定款作成 (7) 講義・出資の履行 (8) 出資の履行 (9) 株式引受人の募集・割り当て (10) 設立時役員等の選任 (11) 創立総会 (12) 設立過程の調査 (13) 設立登記 (14) 設立登記 (15) 全体講評	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に指摘を受けた部分については完全に修正した上で、次回の授業に臨む。
使用教材・参考文献	【教】 必要な教材はその都度配布する。 【参】 必要に応じて指示をする。	
成績評価方法と基準	出席状況、受講態度、定款等の内容を総合的に考慮して評価する。	
備考	会社法 I II を履修することが望ましい。	

科目名	法律学基礎演習 I	
担当者	関口晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	この演習はグループで行います。最初に議題となる資料を参照し、その内容についてグループで話し合い、一定の結論を出した後に、グループごとに発表してもらいます。
	到達目標	この演習は、様々な問題に対する自分の意見をグループ内に伝え、グループで意見をまとめることによって、各自が自分の考えを持ち、グループでの協調性を持つことを目的とする。
授業計画	(1) 演習内容説明、グループ分け (2) 資料映像視聴① (3) 資料映像に関する内容についてグループ討論 (4) グループの意見をまとめて発表 (5) 資料配布、内容説明② (6) 資料に関する内容についてグループ討論 (7) グループの意見をまとめて発表 (8) 資料配布、内容説明③ (9) 資料に関する内容についてグループ討論 (10) グループの意見をまとめて発表 (11) 資料映像視聴④-1 (12) 資料映像視聴④-2 (13) 資料映像に関する内容についてグループ討論 (14) グループの意見をまとめて発表 (15) それぞれのテーマに関する総括	
自学自習	事前学習	事前にテーマを決めるので、議題についての基本的な情報を収集し、理解しておくこと。
	事後学習	講義で得た知識を復習し、自分の意見を明確にするため、テーマごとにレポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 議題ごとに配布する資料	
成績評価方法と基準	レポート (30%)、受講態度 (50%)、発表 (20%) を総合的に判断する。	
備考		

科目名	法律学基礎演習 I	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	まず、法的な基礎知識を習得し、その上で、実際の裁判の実態に関して理解を深めるのが、この授業の目的です。
	到達目標	民事裁判の実態が理解できる。 判決書の全文が読める。
授業計画	(1) 裁判に関する基礎知識 (2) 国内法の法源 (3) 本案に関する事実の概要 (1) (4) 本案に関する事実の概要 (2) (5) 本案に関する事実の概要 (3) (6) 調停に関する管轄権問題 (1) (7) 調停に関する管轄権問題 (2) (8) 裁判に関する管轄権問題 (1) (9) 裁判に関する管轄権問題 (2) (10) 31チャンネルの原状回復義務問題 (1) (11) 31チャンネルの原状回復義務問題 (2) (12) 31チャンネルの原状回復義務問題 (3) (13) 共同受信設備の維持管理義務問題 (1) (14) 共同受信設備の維持管理義務問題 (2) (15) 総まとめ (本件訴訟から得た教訓)	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 中野進『2割司法 (完結版)』近代文芸社 2004年 4-7733-7123-4	
成績評価方法と基準	【方法】 テスト (80%)、レポートや出席点など (20%) 【基準】 出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	法律学基礎演習 I	
担当者	長谷川史明 HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	<p>① 15点以上の文献（書籍若しくは雑誌論文）を読み、読書ノートを用意して、記録をつける。</p> <p>② 各自が興味のある日本の現行法律を一つ取り上げ、当該法律の目的、内容、立法過程、実際の運用などを調査・研究し、口頭発表を行い、レポートにまとめる。</p>
	到達目標	<p>1. 法律学の文献がこれまでより容易に読めるようになる（学習に必要な文章読解力を向上させる）。到達目標は受講者ごとに設定する。</p> <p>2. 特定の法律について調査する方法を習得し、詳細な知見を得る。</p>
授業計画	<p>(1) この授業の内容説明</p> <p>(2) 文献輪読その1</p> <p>(3) 文献輪読その2</p> <p>(4) 文献輪読その3</p> <p>(5) 文献輪読その4</p> <p>(6) 文献輪読その5</p> <p>(7) 文献輪読その6</p> <p>(8) 文献輪読その7</p> <p>(9) 文献輪読その8</p> <p>(10) 法律研究口頭発表その1</p> <p>(11) 法律研究口頭発表その2</p> <p>(12) 法律研究口頭発表その3</p> <p>(13) 法律研究口頭発表その4</p> <p>(14) 法律研究口頭発表その5</p> <p>(15) 総まとめ</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<p>※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします。</p> <p>詳細は授業時間に説明します。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】 授業時間に説明する</p> <p>【参】 授業時間に説明する</p>	
成績評価方法と基準	読書ノートの提出（50%）、法律研究の口頭発表及びレポート（合計50%）によって評価する。	
備考	法律学基礎演習Ⅱ（後期開講）も同一内容で行います。前期にこの科目の単位を修得した場合は、後期には別の担当者の「法律学基礎演習Ⅱ」を履修してください。	

科目名	法律学基礎演習 I	
担当者	原 清一	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	政治学や現代政治に関するテキストを輪読します。演習ですので参加者の積極的な取り組みが期待されます。
	到達目標	前日までに全員でテキストを読み、報告担当者はレジュメを作成して概要を報告します。報告の後、司会担当の進行により、疑問点や感想を参加者全員で議論し、論点を明らかにしていきます。政治学や行政学の基本的な知識や理論を身に付け、現代政治の特徴や問題点を考えられるようになるのが、この演習の目的です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 報告と討論 (3) 同上 (4) 同上 (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同上 (9) 同上 (10) 同上 (11) 同上 (12) 同上 (13) 同上 (14) 同上 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	報告者は、レジュメなどを準備してください。それ以外の参加者は、テキストの該当箇所を読んでください。
	事後学習	テキストや配布されたレジュメ等を読み返して、議論の内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】初回に指示します。 【参】同上	
成績評価方法と基準	報告や討論の内容により評価します。なお単位取得には毎回の出席が必要です。	
備考	本年度、法学部で開講される唯一の政治学の演習です。政治学に関心がある学生の参加をお待ちしています	

科目名	法律学基礎演習Ⅱ	
担当者	河野総史/KAWANO, Soushi	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	株式会社の作り方（定款作成から登記まで）を、実践的に学ぶ。数人でグループになってもらい、実際に株式会社を作る手続きを全て実践する（但し、実際に出資したり登記したりする訳ではないのでお金の心配は不要）。
	到達目標	会社法の設立分野の知識習得のみならず、株式会社の設立手続きを実践的に学ぶことで、書類作成の能力等も養う。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) どのような株式会社を作るか話し合う (3) 講義・定款作成 (4) 講義・定款作成 (5) 定款作成 (6) 定款作成 (7) 講義・出資の履行 (8) 出資の履行 (9) 株式引受人の募集・割り当て (10) 設立時役員等の選任 (11) 創立総会 (12) 設立過程の調査 (13) 設立登記 (14) 設立登記 (15) 全体講評	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に指摘を受けた部分については完全に修正した上で、次の授業に臨む。
使用教材・参考文献	【教】 必要な教材はその都度配布する。 【参】 必要に応じて指示をする。	
成績評価方法と基準	出席状況、受講態度、定款等の内容を総合的に考慮して評価する。	
備考	会社法ⅠⅡを履修することが望ましい。	

科目名	法律学基礎演習Ⅱ	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	まず、法的な基礎知識を習得し、その上で、実際の裁判の実態に関して理解を深めるのが、この授業の目的です。
	到達目標	民事裁判の実態が理解できる。 判決書の全文が読める。
授業計画	(1) 裁判に関する基礎知識 (2) 国内法の法源 (3) 本案に関する事実の概要 (1) (4) 本案に関する事実の概要 (2) (5) 本案に関する事実の概要 (3) (6) 調停に関する管轄権問題 (1) (7) 調停に関する管轄権問題 (2) (8) 裁判に関する管轄権問題 (1) (9) 裁判に関する管轄権問題 (2) (10) 31チャンネルの原状回復義務問題 (1) (11) 31チャンネルの原状回復義務問題 (2) (12) 31チャンネルの原状回復義務問題 (3) (13) 共同受信設備の維持管理義務問題 (1) (14) 共同受信設備の維持管理義務問題 (2) (15) 総まとめ (本件訴訟から得た教訓)	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 中野進『2割司法 (完結版)』近代文芸社 2004年 4-7733-7123-4	
成績評価方法と基準	【方法】 テスト (80%)、レポートや出席点など (20%) 【基準】 出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	法律学基礎演習Ⅱ	
担当者	長谷川史明 HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	<p>① 15点以上の文献（書籍若しくは雑誌論文）を読み、読書ノートを用意して、記録をつける。</p> <p>② 各自が興味のある日本の現行法律を一つ取り上げ、当該法律の目的、内容、立法過程、実際の運用などを調査・研究し、口頭発表を行い、レポートにまとめる。</p>
	到達目標	<p>1. 法律学の文献がこれまでより容易に読めるようになる（学習に必要な文章読解力を向上させる）。到達目標は受講者ごとに設定する。</p> <p>2. 特定の法律について調査する方法を習得し、詳細な知見を得る。</p>
授業計画	<p>(1) この授業の内容説明</p> <p>(2) 文献輪読その1</p> <p>(3) 文献輪読その2</p> <p>(4) 文献輪読その3</p> <p>(5) 文献輪読その4</p> <p>(6) 文献輪読その5</p> <p>(7) 文献輪読その6</p> <p>(8) 文献輪読その7</p> <p>(9) 文献輪読その8</p> <p>(10) 法律研究口頭発表その1</p> <p>(11) 法律研究口頭発表その2</p> <p>(12) 法律研究口頭発表その3</p> <p>(13) 法律研究口頭発表その4</p> <p>(14) 法律研究口頭発表その5</p> <p>(15) 総まとめ</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<p>※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします。</p> <p>詳細は授業時間に説明します。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】 授業時間に説明する</p> <p>【参】 授業時間に説明する</p>	
成績評価方法と基準	読書ノートの提出（50%）、法律研究の口頭発表及びレポート（合計50%）によって評価する。	
備考	前期開講の法律学基礎演習Ⅰ（長谷川史明担当）と同一の内容です。前期に法律学基礎演習Ⅰ（長谷川史明担当）の単位を修得した場合は、後期は別の担当者の法律学基礎演習Ⅱを履修してください。	

科目名	法律学基礎演習Ⅱ	
担当者	原 清一	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	政治学や現代政治に関するテキストを輪読します。演習ですので参加者の積極的な取り組みが期待されます。
	到達目標	前日までに全員でテキストを読み、報告担当者はレジュメを作成して概要を報告します。報告の後、司会担当の進行により、疑問点や感想を参加者全員で議論し、論点を明らかにしていきます。政治学や行政学の基本的な知識や理論を身に付け、現代政治の特徴や問題点を考えられるようになるのが、この演習の目的です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 報告と討論 (3) 同上 (4) 同上 (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同上 (9) 同上 (10) 同上 (11) 同上 (12) 同上 (13) 同上 (14) 同上 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	報告者は、レジュメなどを準備してください。それ以外の参加者は、テキストの該当箇所を読んでください。
	事後学習	テキストや配布されたレジュメ等を読み返して、議論の内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】初回に指示します。 【参】同上	
成績評価方法と基準	報告や討論の内容により評価します。なお単位取得には毎回の出席が必要です。	
備考	本年度、法学部で開講される唯一の政治学の演習です。政治学に関心がある学生の参加をお待ちしています	

科目名	法律学基礎演習Ⅱ	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	基本的には、グループごとによる研究発表と全体での質疑応答で進めていきます。研究テーマは、教員が示す一定の範囲から、学生自らが関心のあるものを選択してもらいます。その選択したテーマをもとに、条文・制度の基本事項の確認や、争点となった論点についての判例の見解・学説・自説等を、グループで作成したレジュメをもとに発表してもらいます。
	到達目標	講義などで習得した知識をベースに、民法のより深い理解を身につけるとともに、基礎的な、リサーチ能力、プレゼン能力、及びディベート能力を身につけることを目標とします。
授業計画	(1) オリエンテーション(グループ分け、研究テーマの指示、順番決定等) (2) 研究発表と質疑応答 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 講評	
自学自習	事前学習	各自積極的に議論に参加できるよう予習は欠かさずに行うこと。
	事後学習	ゼミで学んだことは必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【参】 必要に応じて適宜紹介いたします。	
成績評価方法と基準	報告内容、議論への参加度、出席などを総合評価します。	
備考		

科目名	専門演習 I A	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	ヘーゲル法哲学の講読を通じて、近代市民社会の有する諸問題について考察する。
	到達目標	私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることを理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 抽象的法権利 (3) 所有権 (4) 財産 (5) 占有取得 (6) 契約 (7) 不法越権 (8) 詐欺 (9) 強制 (10) 犯罪 (11) 道德態 (12) 意図 (13) 責任 (14) 幸福 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】ヘーゲル『法哲学』	
成績評価方法と基準	<基準>ヘーゲル法哲学の講読を通じて、私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることに対する理解が達成されたものは合格とする。 <方法>発表内容60%、受講態度40%。	
備考		

科目名	専門演習 I A	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	全員が取り組む共通素材として商法・会社法があるものの、各自の進路（就職・資格・公務員試験・進学等）に応じて課題を決定する。
	到達目標	ゼミ生それぞれが、文献調査・レポート作成・討論等を通じて、リーガルマインドとコミュニケーション能力を養うことを目的とする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の進路に応じた研究発表 (3) 各自の進路に応じた研究発表 (4) 共通テーマによる討論 (5) 各自の進路に応じた研究発表 (6) 各自の進路に応じた研究発表 (7) 共通テーマによる討論 (8) 各自の進路に応じた研究発表 (9) 各自の進路に応じた研究発表 (10) 共通テーマによる討論 (11) 各自の進路に応じた研究発表 (12) 各自の進路に応じた研究発表 (13) 共通テーマによる討論 (14) 各自の進路に応じた研究発表 (15) 前期講評	
自学自習	事前学習	発表者かどうかとは無関係に、毎回全員に宿題を出すのでそれに取り組む。
	事後学習	発表・討論で得た知識を各自の個人課題に還元する。
使用教材・参考文献	【教】江頭憲治郎ほか編「会社法判例百選（第2版）」有斐閣2011年 【参】伊藤・大杉・齊藤・田中・松井「事例で考える会社法 法学教室ライブラリィ」有斐閣	
成績評価方法と基準	個人課題への取り組み50%、討論への参加態度50%で評価する。	
備考	裁判傍聴等を行う場合もあるので、そのつもりでいて下さい。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	企業に採用され企業人として過ごす人生を通して、法律はどのように我々に関わっているのかを、事業主と労働者の関係を通して雇用の入り口から出口まで理解する。
	到達目標	ビジネスの現場で社会人として要求される必要最低限備えておかなければならないものは何かを自ら研究し実践できるようにする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 参考文献講読 (3) 参考文献講読 (4) 参考文献講読 (5) 参考文献講読 (6) 参考文献講読 (7) 参考文献講読 (8) 参考文献講読 (9) 参考文献講読 (10) 参考文献講読 (11) グループ発表 (質疑応答) (12) グループ発表 (質疑応答) (13) グループ発表 (質疑応答) (14) グループ発表 (質疑応答) (15) グループ発表 (質疑応答)	
自学自習	事前学習	・日経新聞を読んで意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・適宜、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】別途、指示する。 【参】別途、指示する。	
成績評価方法と基準	受講態度40% 発表60% 総合的に評価する。	
備考		

科目名	専門演習 I A	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	社会学の考え方に触れ、それを身につけるため、理論に偏った文献の講読を行うことで、社会を把握する論点を身につける。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の論点について一定程度の知識を身につけられる。 ・社会の諸事象に対して、自分の視点で問題意識を持つことができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 前期の進め方の説明 (2) 前期講読文献の決定 (3) 文献報告 (1) (4) 文献報告 (2) (5) 文献報告 (3) (6) 文献報告 (4) (7) 文献報告 (5) (8) 文献報告 (6) (9) 文献報告 (7) (10) 文献報告 (8) (11) 文献報告 (9) (12) 文献報告 (10) (13) 文献報告 (11) (14) 文献報告 (12) (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	自分の報告、他者の報告を問わず、新たに知り得たことを、自分の問題意識を研ぎ澄ますために、使えるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】【参】授業中で指示する。	
成績評価方法と基準	報告内容、質問内容、レポート内容を勘案し、現代社会の論点について一定程度の知識が身につけており、自分の視点で問題意識を持つことができたこと認められた場合に合格点とする。報告、質問などの参加姿勢50%、レポート50%	
備考	主体的に参加していない態度が見受けられると判断した時点で、履修を取り消すことがある。報告者以外の参加者は、司会者役、質問する義務を負うこと。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	まず、生涯学習とキャリア教育の理論・事例・方法・情報などを知るために、テキストを読み、社会分析も行う。担当者が分担部分についてまとめ、報告し、論題を提起する。それをもとに全体で議論する。次に、体験や実践、外部との交流の機会を設け、様々な局面でプレゼンテーションを行う。そして、それらを生涯学習・キャリア教育の観点から振り返る。
	到達目標	①生涯学習・キャリア教育に関わる問題や論点について報告し議論する中で、自分の言葉で自分の意見を筋道立てて述べる「論理的思考力」と「発信力」を向上させる。 ②ゼミ生同士が自己開示を楽しみつつ交流することで、社会生活で必須の「コミュニケーション力」を高める。 ③職場・地域・家庭生活について生涯学習の観点から意味づけし、体験をもとに就業観・人生観・地域観を醸成する。 ④就業力と生涯開発力を磨く。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自のキャリアデザインをもとに、アクションプランを練る。 (3) " (4) テキストと社会分析をもとに報告し、議論する。 (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) 体験・実践および外部との交流を行う。 (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだ内容について、常に自己にひきつけて考察し、書きとめていくこと。
使用教材・参考文献	【教】 香川正弘ほか編 『よくわかる生涯学習』 ミネルヴァ書房 2008年 ワークシート等のプリント 【参】 渡辺峻編著 『大学生のためのキャリア開発入門』 中央経済社 2008年	
成績評価方法と基準	出席・参加態度 (70%)、プレゼンテーション (30%) によって総合的に評価する。	
備考	懇親会やゼミ旅行など課外での活動も予定しているので、積極的な参加と、人との出会いを大事にして楽しむ姿勢を求める。また、ゼミ生の希望に沿って、様々な実践や交流の場を設けたいので、率先して提案してほしい。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	刑法総論、刑法各論で勉強したことを基礎に、模擬裁判の作成を行う。模擬裁判は、シナリオの作成から実演まで行う。
	到達目標	模擬裁判を通して、教科書の上での勉強だけではなく、「生きた刑法」を学ぶ。模擬裁判は、裁判に関わる全ての人の役割を身をもって体験することができるので、限りなく実践に近い形で刑法を学ぶことができる。
授業計画	(1) 実際に模擬裁判を見てみよう。(過去の模擬裁判映像) (2) 模擬裁判へ向けての計画を立てる。～役割分担を決める～ (3) 裁判傍聴 ～実際に裁判を見てみよう～ (4) シナリオ作成① ～模擬裁判のテーマを決める～ (5) シナリオ作成② ～そのテーマに沿った過去の事件を調べる～ (6) シナリオ作成③ // (7) シナリオ作成④ // (8) シナリオ作成⑤ // (9) シナリオ作成⑥ ～具体的なシナリオの作成に着手～ (10) シナリオ作成⑦ // (11) シナリオ作成⑧ // (12) シナリオ作成⑨ // (13) シナリオ作成⑩ // (14) シナリオ作成⑪ // (15) シナリオ作成⑫ //	
自学自習	事前学習	・常に刑事事件のニュースなどに注目する。
	事後学習	・作成したシナリオを理解すること。
使用教材・参考文献	ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	出席と演習への取り組みの姿勢で判定する。	
備考	各人の協調性・チームワークを大切にしよう。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	家族法の分野の中から各自テーマを選択し、発表する。そして、発表者の内容を基にして生ずる疑問点や意見を話し合うことで互いの理解を深める。
	到達目標	民法の中でも家族法を中心とした基礎的知識を認識し、多くの論点の中から問題意識を持つことが前提条件となる。その後、各自がその問題について調べ、まとめ、発表するという一連の作業を経ることで、総合的な家族法の知識を持つことを目標とする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 家族法に関する文献の講読 (3) 家族法に関する文献の講読 (4) 家族法に関する文献の講読 (5) 家族法に関する文献の講読 (6) 家族法に関する文献の講読 (7) グループ分け、内容選別 (8) 担当内容に関する打ち合わせ (9) グループ発表（質疑応答） (10) グループ発表（質疑応答） (11) グループ発表（質疑応答） (12) グループ発表（質疑応答） (13) グループ発表（質疑応答） (14) グループ発表（質疑応答） (15) まとめ	
自学自習	事前学習	次週の発表内容の基礎知識を学習しておくこと。
	事後学習	発表者の内容について各自復習すること。
使用教材・参考文献	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
成績評価方法と基準	発表内容（50%）、平常点（50%）を総合的に判定する。	
備考	出席状況を重視して成績評価を行う。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	演習参加者それぞれが、民法の判例の中から関心のあるテーマを選び、その争点について研究発表して、発表者以外の演習参加者とともに議論する。
	到達目標	関心のある民法上の争点について調査・研究することにより、資料探索能力・研究能力を養うとともに、活発な議論を通じてディベート能力を高める。
授業計画	<p>第1回目の演習で、民法判例百選に掲載されている判例の中から、それぞれが最も関心のあるテーマを選び、研究発表の順番を決めて、第2回目の演習から、決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ゼミの説明と発表順の決定 (2) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (3) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (4) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (5) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (6) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (7) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (8) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (9) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (10) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (11) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (12) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (13) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (14) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (15) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、あらかじめレジュメを作成して配布すること。 ・発表者以外の演習参加者も発表者のテーマについて調べ、積極的に議論に参加して意見を述べられるようにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをもとに議論した内容を整理しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】星野英一ほか編『民法判例百選 I（第5版）』有斐閣2006年、星野英一ほか編『民法判例百選 II（第5版）』有斐閣2006年、水野紀子ほか編『家族法判例百選（第7版）』有斐閣2008年</p>	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>研究発表50%、ディベート50%で判定する。 <評価基準>事案の争点を把握し、他の演習参加者と議論をすることができれば合格とする。</p>	
備考	<p>夏休みにはゼミ旅行、春休みにはゼミ合宿を、それぞれ2泊3日で行い、新ゼミ生歓迎会、卒業生送別会なども行う。</p>	

科目名	専門演習 I A	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	<p>行政法の判例の中から受講者自らが関心のあるテーマを選び、発表者がレジュメを作成し、研究発表してもらい、疑問点や意見について他の受講者及び教員とともに議論する。</p> <p>また問題演習等を行い、行政法の講義で習得した知識の定着を図る。</p> <p>これだけに限らず、受講者の希望に応じた対応をとりたいと思う。</p>
	到達目標	<p>行政法判例を通じて、行政法 I の講義で習得した知識の理解を深めるとともに、プレゼン能力、ディベート能力及び法的思考能力を養うことを目標とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 行政の範囲と主体 (3) 行政法と民事法の関係 (4) 行政法上の権利の性質 (5) 行政組織上の関係 (6) 法の一般原則・一般制度 (7) 行政保有情報 (8) 行政立法・通達・計画等 (9) 行政行為の成立・発効 (10) 行政行為の意義・種類 (11) 行政行為の効力 (12) 行政行為における裁量 (13) 行政行為の瑕疵 (14) 行政行為の取消し・撤回 (15) 行政行為の附款 	
自学自習	事前学習	<p>発表者は、前もってレジュメを作成しておくこと。</p> <p>発表者以外の受講者は、発表者の選んだ判例を前もって読み込んでおくこと。</p>
	事後学習	<p>教科書と発表者が作成したレジュメに基づいて、復習を行い、理解を深めておくこと。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選 I 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11511-8</p> <p>【参】 池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3</p>	
成績評価方法と基準	研究発表の内容、議論への参加態度等を総合して評価する。	
備考		

科目名	専門演習 I A	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	この演習では、代表的な憲法判例（最高裁判所の判決または決定）の理解を深めることを目標とする。 あわせて、口頭発表、議論の仕方、レポートの書き方などのスキルを向上させたい。
	到達目標	代表的な憲法判例の概要を理解することを目標とする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 参考文献紹介 (3) 判例の研究【その1】（取り上げる判例のあらまし） (4) 判例の研究【その1】（事実の概要） (5) 判例の研究【その1】（当該裁判の審級） (6) 判例の研究【その1】（当事者の主張） (7) 判例の研究【その1】（裁判所の判断・その1） (8) 判例の研究【その1】（裁判所の判断・その2） (9) 判例の研究【その1】（主な判例評釈及び判例研究について・その1） (10) 判例の研究【その1】（主な判例評釈及び判例研究について・その2） (11) 判例の研究【その1】（当該裁判の意義） (12) 判例の研究【その1】（まとめ） (13) 総合討論① (14) 総合討論② (15) 総合討論③	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】【参】 授業時間に説明する。	
成績評価方法と基準	授業時間に説明する。	
備考		

科目名	専門演習 I A	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	ゼミ参加者は、判例及び教科書等を前もって読んだうえで、参加し、授業では、報告担当者が、各自が選んだテーマについて、主要な判例の事実・判旨、学説および各自の研究について、レジュメを基に報告します。その後、そのテーマおよび報告について、全員で、質問し、議論します。
	到達目標	労働法の判例や学説を深く理解している、以前よりもより高度な論理的思考力・コミュニケーション能力を有している。
授業計画	(1) 授業の進め方 (2) 募集・採用 (3) 解雇 (4) 労働契約の終了 (5) 労働契約の期間 (6) 就業規則、労働契約の変更 (7) 平等原則 (8) 労働契約の基本原則 (9) 賃金 (10) 労働時間 (11) 休憩・休日・時間外労働 (12) 休暇・休業・退職 (13) 配転・出向・人事考課 (14) 人格と自由の侵害 (15) 企業秩序と懲戒	
自学自習	事前学習	・判例及び教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レポートを作成すること。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価 3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>労働法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>報告（20点）＋参加状況（質問・議論等）（60点）＋レポート（20点）で評価します。	
備考	「雇用法務（企業組織法務Ⅲ）」「社会法Ⅰ」「社会法Ⅱ」の未履修者は、これらの科目について履修してください。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	<p>本年平成25年度は、M. サンドル著（鬼澤忍訳）『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』（早川ノンフィクション文庫、2011年）を用いて、倫理的、法的問題に取り組みます。各自担当箇所を報告してもらいます。</p> <p>対象者としては、民間への就職希望者だけでなく、大学院進学、法科大学進学、公務員試験、各種資格試験、企業、等あらゆる分野にわたって、夢をもって努力する元気な人を歓迎します。</p>
	到達目標	<p>前期専門演習 I A では、社会人として恥ずかしくないマナーと必須の能力を身に付けることを目標とします。具体的には、各自今まで学び身につけた学問を基礎に、他説からの批判がなされるという緊張感の中で、事前に考えてきた自説を言葉に表現し、相手を納得させることができる能力を身につけること（端的に言えば、ディベートに耐え、法的思考力を身につけること）を目標とします。</p>
授業計画	<p>(1) オリエンテーション（研究発表の日程調整、自己紹介など）</p> <p>(2) 各自報告&議論</p> <p>(3) //</p> <p>(4) //</p> <p>(5) //</p> <p>(6) //</p> <p>(7) //</p> <p>(8) //</p> <p>(9) //</p> <p>(10) //</p> <p>(11) //</p> <p>(12) //</p> <p>(13) //</p> <p>(14) //</p> <p>(15) //</p>	
自学自習	事前学習	<p>授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解してください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。</p>
	事後学習	<p>授業に集中すれば復習はあまりいりませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】・【参】 M. サンドル著（鬼澤忍訳）『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』（早川ノンフィクション文庫、2011年）。</p>	
成績評価方法と基準	<p>報告・発言内容等をもとに総合的に評価いたします。</p>	
備考	<p>専門演習 I B（平手）を引き続き必ず履修すること。</p>	

科目名	専門演習 I A	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法律 / 必修 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	研究発表と全体での質疑応答で進めていくが、ゼミ生の意見も取り入れつつ、臨機応変に様々な方法を試していきたいと思う。発表テーマは、教員の示す一定の範囲からゼミ生自らが関心のあるものを選択し、条文・制度趣旨等の基本事項の確認や論点等に関する判例の見解・学説・自説等を、発表担当者の作成したレジュメをもとに発表してもらう。
	到達目標	講義などで習得した知識をベースに、民法のより深い理解が身につくとともに、リサーチ能力、プレゼン能力、およびディベート能力が身につくことを目標とする。
授業計画	(1) オリエンテーション(グループ分け、研究テーマの指示、順番決定等) (2) ゼミ生の研究発表と質疑応答 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 前期講評	
自学自習	事前学習	各自積極的に議論に参加できるよう予習は欠かさずに行うこと。
	事後学習	ゼミで学んだことは必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【参】 奥田昌道ほか編『判例講義 民法 I 総則・物権 (補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 9784946406911 奥田昌道ほか編『判例講義 民法 II 債権(補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 4946406921 内田貴著『民法 I ～III』東京大学出版会、近江幸治著『民法講義 I ～IV』成文堂	
成績評価方法と基準	研究報告内容、議論への参加度、授業態度等を総合評価する。	
備考	親睦会などのイベント行事は、ゼミ長が中心となってゼミ生の総意により企画運営を行ってください。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	ヘーゲル法哲学の講読を通じて、近代市民社会の有する諸問題について考察する。
	到達目標	私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることを理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 善 (3) 良心 (4) 習俗規範 (5) 家族 (6) 婚姻 (7) 家族の資産 (8) 子供の教育 (9) 家族の解体 (10) 市民社会 (11) 諸欲求の体系 (12) 司法 (13) 監督官庁 (14) 国家 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】ヘーゲル『法哲学』	
成績評価方法と基準	<基準>ヘーゲル法哲学の講読を通じて、私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることに対する理解が達成されたものは合格とする。 <方法>発表内容60%、受講態度40%。	
備考		

科目名	専門演習 I B	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	全員が取り組む共通素材として商法・会社法があるものの、各自の進路（就職・資格・公務員試験・進学等）に応じて課題を決定する。
	到達目標	ゼミ生それぞれが、文献調査・レポート作成・討論等を通じて、リーガルマインドとコミュニケーション能力を養うことを目的とする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の進路に応じた研究発表 (3) 各自の進路に応じた研究発表 (4) 共通テーマによる討論 (5) 各自の進路に応じた研究発表 (6) 各自の進路に応じた研究発表 (7) 共通テーマによる討論 (8) 各自の進路に応じた研究発表 (9) 各自の進路に応じた研究発表 (10) 共通テーマによる討論 (11) 各自の進路に応じた研究発表 (12) 各自の進路に応じた研究発表 (13) 共通テーマによる討論 (14) 各自の進路に応じた研究発表 (15) 後期講評	
自学自習	事前学習	発表者かどうかとは無関係に、毎回全員に宿題を出すのでそれに取り組む。
	事後学習	発表・討論で得た知識を各自の個人課題に還元する。
使用教材・参考文献	【教】江頭憲治郎ほか編「会社法判例百選（第2版）」有斐閣2011年 【参】伊藤・大杉・齊藤・田中・松井「事例で考える会社法 法学教室ライブラリィ」有斐閣	
成績評価方法と基準	個人課題への取り組み50%、討論への参加態度50%で評価する。	
備考	裁判傍聴等を行う場合もあるので、そのつもりでいて下さい。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	企業に採用され企業人として過ごす人生を通して、法律はどのように我々に関わっているのかを、事業主と労働者の関係を通して雇用の入り口から出口まで理解する。
	到達目標	ビジネスの現場で社会人として要求される必要最低限備えておかなければならないものは何かを自ら研究し実践できるようにする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 発表 (質疑応答) (3) 発表 (質疑応答) (4) 発表 (質疑応答) (5) 発表 (質疑応答) (6) 発表 (質疑応答) (7) 発表 (質疑応答) (8) 発表 (質疑応答) (9) 発表 (質疑応答) (10) 発表 (質疑応答) (11) 発表 (質疑応答) (12) 労働紛争討議 (13) 労働紛争討議 (14) 労働紛争討議 (15) 労働紛争討議	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・適宜、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】別途指示する。 【参】別途指示する。	
成績評価方法と基準	受講態度40% 発表60% 総合的に評価する。	
備考		

科目名	専門演習 I B	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	各自で問題意識を持ちテーマ設定を行い、独自の視点で現代社会についての事象を分析・解釈した結果を報告することで、社会に対して「問題を持つこと」を意識づける。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の論点について一定程度の知識を身につけられる。 ・社会に対して独自の視点で問題意識を持ち、資料にあたり、図式化することで、人にテーマ内容を伝達することができる。
授業計画	(1) 後期の進め方の設定 (2) 問題意識を持つとは (3) テーマ設定 (4) テーマ設定 (5) テーマ設定 (6) テーマ報告 (1) (7) テーマ報告 (2) (8) テーマ報告 (3) (9) テーマ報告 (4) (10) テーマ報告 (5) (11) テーマ報告 (6) (12) テーマ報告 (7) (13) テーマ報告 (8) (14) テーマ報告 (9) (15) テーマ報告 (10)	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	自分の報告、他者の報告を問わず、新たに知り得たことを、自分の問題意識を研ぎ澄ますために、使えるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】【参】授業中で指示する。	
成績評価方法と基準	報告内容、質問内容、レポート内容を勘案し、現代社会の論点について一定程度の知識が身につけており、自分の視点で問題意識を持つことができたこと認められた場合に合格点とする。報告、質問などの参加姿勢50%、レポート50%	
備考	主体的に参加していない態度が見受けられると判断した時点で、履修を取り消すことがある。報告者以外の参加者は、司会者役、質問する義務を負うこと。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	キャリア開発理論をもとにした検査や個人ワーク、グループワークを行う。また、引き続き体験や実践、外部との交流の機会を設ける。そして、それらを生涯学習・キャリア教育の観点から振り返り、プレゼンテーションを行う。さらに、4年次のゼミで研究する自分のテーマを考える。
	到達目標	①キャリア開発に関するワークをもとに、意見や情報をシェアし、議論する中で、自分の言葉で自分の意見を筋道立てて述べる「論理的思考力」と「発信力」を向上させる。 ②ゼミ生同士が自己開示を楽しみつつ交流することで、社会生活で必須の「コミュニケーション力」を高める。 ③職場・地域・家庭生活について生涯学習の観点から意味づけし、体験をもとに就業観・人生観・地域観を醸成する。 ④就業力と生涯開発力を磨き、具体的な自分の進路選択にも備える。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) キャリア開発に関するワーク等をもとに、議論する。 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) 自己分析と業界研究を進め、各自のアクションプランを検証する。 (13) " (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだ内容について、常に自己にひきつけて考察し、書きとめていくこと。
使用教材・参考文献	【教】香川正弘ほか編 『よくわかる生涯学習』 ミネルヴァ書房 2008年 【参】渡辺峻編著『大学生のためのキャリア開発入門』 中央経済社 2008年	
成績評価方法と基準	出席態度 (60%)、プレゼンテーション (20%)、レポート (20%) によって総合的に評価する。	
備考	懇親会やゼミ旅行など課外での活動も予定しているので、積極的な参加と、人との出会いを大事にして楽しむ姿勢を求める。また、ゼミ生の希望に沿って、様々な実践や交流の場を設けたいので、率先して提案してほしい。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	刑法総論、刑法各論で勉強したことを基礎に、模擬裁判の作成を行う。模擬裁判は、シナリオの作成から実演まで行う。
	到達目標	模擬裁判を通して、教科書の上での勉強だけではなく、「生きた刑法」を学ぶ。模擬裁判は、裁判に関わる全ての人の役割を身をもって体験することができるので、限りなく実践に近い形で刑法を学ぶことができる。
授業計画	(1) 模擬裁判の配役を決める (2) 演技練習① ～全体読み合わせ～ (3) 演技練習② ～配役ごとの個別練習～ (4) 演技練習③ 〃 (5) 演技練習④ ～全体練習～ (6) 演技練習⑤ 〃 (7) 演技練習⑥ ～本番直前リハーサル～ (8) ～～模擬裁判本番～～ (9) 反省点の検討 (10) 来年の模擬裁判に向けての準備 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 〃	
自学自習	事前学習	・常に刑事事件のニュースなどに注目する。
	事後学習	・作成したシナリオを理解すること。
使用教材・参考文献	ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	出席と演習への取り組みの姿勢で判定する。	
備考	各人の協調性・チームワークを大切にしよう。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	前期に発表した内容を深め、同内容の渉外的場面でどのような問題が起こるかを調べる。
	到達目標	各自がその問題について調べ、まとめ、発表するという一連の作業を経ることで、総合的な家族法の知識を持ち、そして、国際結婚など渉外的要素を持つ問題が増加していることから、国際私法の観点からも同問題を考えることを目標とする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 内容選別 (各自) (3) 担当内容に関する質疑応答 (4) 発表 (質疑応答) (5) 発表 (質疑応答) (6) 発表 (質疑応答) (7) 発表 (質疑応答) (8) 発表 (質疑応答) (9) 発表 (質疑応答) (10) 発表 (質疑応答) (11) 発表 (質疑応答) (12) 発表 (質疑応答) (13) 発表 (質疑応答) (14) まとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	次週の発表者の内容の基礎知識を学習しておくこと。
	事後学習	発表者の内容について各自復習すること
使用教材・参考文献	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
成績評価方法と基準	発表内容 (50%)、平常点 (50%) を総合的に判定する。	
備考	出席状況を重視して成績評価を行う。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	演習参加者それぞれが、民法の判例の中から関心のあるテーマを選び、その争点について研究発表して、発表者以外の演習参加者ととともに議論する。
	到達目標	関心のある民法上の争点について調査・研究することにより、資料探索能力・研究能力を養うとともに、活発な議論を通じてディベート能力を高める。
授業計画	<p>前期の専門演習 I Aで決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論していく。</p> <p>(1) 発表順の確認と後期の諸注意事項</p> <p>(2) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(3) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(4) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(5) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(6) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(7) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(8) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(9) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(10) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(11) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(12) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(13) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(14) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(15) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、あらかじめレジュメを作成して配布すること。 ・発表者以外の演習参加者も発表者のテーマについて調べ、積極的に議論に参加して意見を述べられるようにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをもとに議論した内容を整理しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】星野英一ほか編『民法判例百選 I（第5版）』有斐閣2006年、星野英一ほか編『民法判例百選 II（第5版）』有斐閣2006年、水野紀子ほか編『家族法判例百選（第7版）』有斐閣2008年</p>	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>研究発表50%、ディベート50%で判定する。</p> <p><評価基準>事案の争点を把握し、他の演習参加者と議論をすることができれば合格とする。</p>	
備考	<p>夏休みにはゼミ旅行、春休みにはゼミ合宿を、それぞれ2泊3日で行い、新ゼミ生歓迎会、卒業生送別会なども行う。</p>	

科目名	専門演習 I B	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	行政法の判例の中から受講者自らが関心のあるテーマを選び、発表者がレジュメを作成し、研究発表してもらい、疑問点や意見について他の受講者及び教員とともに議論する。 また問題演習等を行い、行政法の講義で習得した知識の定着を図る。 これだけに限らず、受講者の希望に応じた対応をとりたいと思う。
	到達目標	行政法判例を通じて、行政法 I の講義で習得した知識の理解を深めるとともに、プレゼン能力、ディベート能力及び法的思考能力を養うことを目標とする。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 行政上の契約 (3) 行政指導 (4) 行政調査 (5) 行政上の義務の履行確保 (6) 合議体の議事 (7) 事前手続と理由提示 (8) 行政過程における私人の行為 (9) 一事不再理 (10) 問題演習 (11) 問題演習 (12) 問題演習 (13) 問題演習 (14) 問題演習 (15) 問題演習	
自学自習	事前学習	発表者は、前もってレジュメを作成しておくこと。 発表者以外の受講者は、発表者の選んだ判例を前もって読み込んでおくこと。
	事後学習	教科書と発表者が作成したレジュメに基づいて、復習を行い、理解を深めておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選 I 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11511-8 【参】 池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3	
成績評価方法と基準	研究発表の内容、議論への参加態度等を総合して評価する。	
備考		

科目名	専門演習 I B	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	この演習では、代表的な憲法判例（最高裁判所の判決または決定）の理解を深めることを目標とする。 あわせて、口頭発表、議論の仕方、レポートの書き方などのスキルを向上させたい。
	到達目標	代表的な憲法判例の概要を理解することを目標とする。
授業計画	(1) 判例の研究 【その 2】（取り上げる判例のあらまし） (2) 判例の研究 【その 2】（事実の概要） (3) 判例の研究 【その 2】（当該裁判の審級） (4) 判例の研究 【その 2】（主な判例評釈及び判例研究について・その 1） (5) 判例の研究 【その 2】（主な判例評釈及び判例研究について・その 2） (6) 判例の研究 【その 2】（当該裁判の意義） (7) 判例の研究 【その 2】（まとめ） (8) 総合討論① (9) 総合討論② (10) 総合討論③ (11) 判例の研究 【その 1】 【その 2】 の総まとめ① (12) 判例の研究 【その 1】 【その 2】 の総まとめ② (13) 判例の研究 【その 1】 【その 2】 の総まとめ③ (14) 演習 I A・B の総まとめ① (15) 演習 I A・B の総まとめ①	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】【参】 授業時間に説明する。	
成績評価方法と基準	授業時間に説明する。	
備考		

科目名	専門演習 I B	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	ゼミ参加者は、判例及び教科書等を前もって読んだうえで、参加し、授業では、報告担当者が、各自が選んだテーマについて、主要な判例の事実・判旨、学説および各自の研究について、レジュメを基に報告します。その後、そのテーマおよび報告について、全員で、質問し、議論します。
	到達目標	労働法の判例や学説を深く理解している、以前よりもより高度な論理的思考力・コミュニケーション能力を有している。
授業計画	(1) 年少者・女性 (2) 安全衛生 (3) 災害補償 (4) 労災保険 (5) 再就職と引退 (6) 非典型雇用・外国人雇用 (7) 労働者、使用者 (8) 労働組合 (9) 団体交渉 (10) 労働協約 (11) 争議行為 (12) 不当労働行為 (13) 労働紛争の解決手段 (14) 労働法の適用 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・判例及び教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レポートを作成すること。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価 3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>労働法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>報告（20点）＋参加状況（質問・議論等）（60点）＋レポート（20点）で評価します。	
備考	「雇用法務（企業組織法務Ⅲ）」「社会法Ⅰ」「社会法Ⅱ」の科目の未履修者は、これらの科目について履修してください。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	専門演習 I A (平手) の続きです。専門演習 I A と同じく、M. サンデル著 (鬼澤忍訳) 『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』 (早川ノンフィクション文庫、2011 年) を用いて、倫理的、法的問題に取り組みます。1 月にはゼミ論文の提出を義務付けます。
	到達目標	専門演習 I A において身につけた「ディベートに耐え、法的思考力を身につけること」に加えて、さらに、それぞれの進路希望に応じて、各自の目標を達成できることを目指します。また、4 年次演習のゼミ論文のテーマを決定します。
授業計画	(1) オリエンテーション (研究発表の日程調整、自己紹介など) (2) 各自報告&議論 (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15) //	
自学自習	事前学習	授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解しててください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。
	事後学習	授業に集中すれば復習はあまりいりませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。
使用教材・参考文献	【教】・【参】 M. サンデル著 (鬼澤忍訳) 『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』 (早川ノンフィクション文庫、2011年)。	
成績評価方法と基準	報告・発言内容、そして、ゼミ論の構想等をもとに総合的に評価いたします。	
備考	専門演習 I A (平手) を受講した方は、引き続き必ず本講座を履修すること。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	研究発表と全体での質疑応答で進めていくが、ゼミ生の意見も取り入れつつ、臨機応変に様々な方法を試していきたいと思う。発表テーマは、教員の示す一定の範囲からゼミ生自らが関心のあるものを選択し、条文・制度趣旨等の基本事項の確認や論点等に関する判例の見解・学説・自説等を、発表担当者の作成したレジュメをもとに発表してもらう。
	到達目標	講義などで習得した知識をベースに、民法のより深い理解が身につくとともに、リサーチ能力、プレゼン能力、およびディベート能力が身につくことを目標とする。
授業計画	(1) ゼミ生の研究発表と質疑応答 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 後期講評	
自学自習	事前学習	各自積極的に議論に参加できるよう予習は欠かさずに行うこと。
	事後学習	ゼミで学んだことは必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【参】 奥田昌道ほか編『判例講義 民法 I 総則・物権 (補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 9784946406911 奥田昌道ほか編『判例講義 民法 II 債権 (補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 4946406921 内田貴著『民法 I ~ III』東京大学出版会、近江幸治著『民法講義 I ~ IV』成文堂	
成績評価方法と基準	研究報告内容、議論への参加度、授業態度等を総合評価する。	
備考	親睦会などのイベント行事は、ゼミ長が中心となってゼミ生の総意により企画運営を行ってください。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ヘーゲル法哲学の講読を通じて、近代市民社会の有する諸問題について考察する。
	到達目標	私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることを理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 抽象的法権利 (3) 所有権 (4) 財産 (5) 占有取得 (6) 契約 (7) 不法越権 (8) 詐欺 (9) 強制 (10) 犯罪 (11) 道德態 (12) 意図 (13) 責任 (14) 幸福 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】ヘーゲル『法哲学』	
成績評価方法と基準	<基準>ヘーゲル法哲学の講読を通じて、私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることに対する理解が達成されたものは合格とする。 <方法>発表内容60%、受講態度40%。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	各自の進路（就職・公務員試験等）に応じて、毎回の課題を決定する。
	到達目標	リーガルマインドとコミュニケーション能力を養うことを目的とするが、ゼミ生それぞれが、各自の目的とする進路に進むことが究極の目標である。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (3) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (4) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (5) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (6) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (7) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (8) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (9) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (10) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (11) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (12) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (13) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (14) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (15) 前期講評	
自学自習	事前学習	発表者かどうかとは無関係に、毎回全員に宿題を出すのでそれに取り組む。
	事後学習	発表・討論で得た知識を各自の個人課題に還元する。
使用教材・参考文献	【教】江頭憲治郎ほか編「会社法判例百選（第2版）」有斐閣2011年 【参】伊藤・大杉・齊藤・田中・松井「事例で考える会社法 法学教室ライブラリィ」有斐閣	
成績評価方法と基準	研究発表・討論への参加態度で評価する。	
備考	裁判傍聴等を行う場合もあるので、そのつもりでいて下さい。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	企業に採用され企業人として過ごす人生を通して、法律はどのように我々に関わっているのかを、事業主と労働者の関係を通して雇用の入り口から出口まで理解する。
	到達目標	ビジネスの現場で社会人として要求される必要最低限備えておかなければならないものは何かを自ら研究し実践できるようにする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 参考文献講読 (3) 参考文献講読 (4) 参考文献講読 (5) 参考文献講読 (6) 参考文献講読 (7) 参考文献講読 (8) 参考文献講読 (9) 参考文献講読 (10) 参考文献講読 (11) グループ発表 (質疑応答) (12) グループ発表 (質疑応答) (13) グループ発表 (質疑応答) (14) グループ発表 (質疑応答) (15) グループ発表 (質疑応答)	
自学自習	事前学習	・日経新聞を読んで意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	適宜、レポート、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】別途、指示する。 【参】別途、指示する。	
成績評価方法と基準	受講態度40% 発表60% 総合的に評価する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	自らの問題意識に基づいてテーマを設定して、自ら設定した視点に基づいた報告を行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の論点について一定程度の知識を身につけられる。 ・社会に対して独自の視点で問題意識を持ち、資料にあたり、図式化することで、人に調査結果を伝達することができる。
授業計画	(1) 前期の進め方 (2) } (3) } (4) } (5) } (6) } (7) } (8) } (9) } 各自のテーマに沿った報告 (10) } (11) } (12) } (13) } (14) } (15) }	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	自分の報告、他者の報告を問わず、新たに知り得たことを、自分の問題意識を研ぎ澄ますために、使えるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】【参】授業中で指示する。	
成績評価方法と基準	報告内容、質問内容、レポート内容を勘案し、現代社会の論点について一定程度の知識が身につけており、自分の視点で問題意識を持つことができたこと認められた場合に合格点とする。報告、質問などの参加姿勢50%、レポート50%	
備考	主体的に参加していない態度が見受けられると判断した時点で、履修を取り消すことがある。報告者以外の参加者は、司会者役、質問する義務を負うこと。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	生涯学習とキャリア教育の理論・事例・方法・情報などを知ったうえで、グループと各自の研究テーマを設定する。そして、調べたことや意見をまとめて報告し、それをもとに全体で議論する。また、一連の学習を踏まえて、ゼミ・レポートにまとめる準備をする。
	到達目標	①グループや各自の研究テーマをもとにプレゼンテーションを行い、自分の言葉で自分の意見を筋道立てて述べる「論理的思考力」と「発信力」を向上させる。 ②資料・情報を集め、調べ、分析するなどの作業が確実にできるようになる。 ③ゼミ生同士が自己開示を楽しみつつ交流することで、社会生活で必須の「コミュニケーション力」を高める。 ④ゼミ活動の集大成としてゼミ・レポートをまとめる準備をする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 基礎知識の確認と研究テーマの設定 (3) " (4) " (5) 役割分担と資料・情報収集 (6) " (7) " (8) " (9) 報告の準備 (10) " (11) " (12) 報告・議論 (13) " (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだ内容を自己にひきつけて考察し、書きとめていくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリントを配布する。 【参】香川正弘ほか編 『よくわかる生涯学習』 ミネルヴァ書房 2008年ほか、適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	出席態度(60%)、ゼミ・レポートの進捗状況(20%)、プレゼンテーション(20%)によって総合的に評価する。	
備考	・必要に応じて、キャリア教育の観点から就職活動等を支援する。 ・懇親会やゼミ旅行など課外での活動も予定しているので、積極的な参加と、人との出会いを大事にして楽しむ姿勢を求める。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	刑法総論、刑法各論で勉強したことを基礎に、模擬裁判の作成を行う。模擬裁判は、シナリオの作成から実演まで行う。
	到達目標	模擬裁判を通して、教科書の上での勉強だけではなく、「生きた刑法」を学ぶ。模擬裁判は、裁判に関わる全ての人の役割を身をもって体験することができるので、限りなく実践に近い形で刑法を学ぶことができる。
授業計画	(1) 実際に模擬裁判を見てみよう。(過去の模擬裁判映像) (2) 模擬裁判へ向けての計画を立てる。～役割分担を決める～ (3) 裁判傍聴 ～実際に裁判を見てみよう～ (4) シナリオ作成① ～模擬裁判のテーマを決める～ (5) シナリオ作成② ～そのテーマに沿った過去の事件を調べる～ (6) シナリオ作成③ // (7) シナリオ作成④ // (8) シナリオ作成⑤ // (9) シナリオ作成⑥ ～具体的なシナリオの作成に着手～ (10) シナリオ作成⑦ // (11) シナリオ作成⑧ // (12) シナリオ作成⑨ // (13) シナリオ作成⑩ // (14) シナリオ作成⑪ // (15) シナリオ作成⑫ //	
自学自習	事前学習	・常に刑事事件のニュースなどに注目する。
	事後学習	・作成したシナリオを理解すること。
使用教材・参考文献	ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	出席と演習への取り組みの姿勢で判定する。	
備考	各人の協調性・チームワークを大切にしよう。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	民法の基礎知識を認識し、多くの民法の論点の中から、主に家族法分野の問題意識を持つことから始まり、その後に、各自がその問題について調べ、まとめ、発表することを内容とする。
	到達目標	調べ、まとめ、発表するという一連の作業を経て、各自が家族法の中に得意分野を持ち、発表者の発表を聞き、疑問点や意見を話し合うことで総合的な理解力を高めることを目標とする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 家族法に関する文献の講読 (3) 家族法に関する文献の講読 (4) 家族法に関する文献の講読 (5) 家族法に関する文献の講読 (6) 家族法に関する文献の講読 (7) グループ分け、内容選別 (8) 担当内容に関する打ち合わせ (9) グループ発表 (質疑応答) (10) グループ発表 (質疑応答) (11) グループ発表 (質疑応答) (12) グループ発表 (質疑応答) (13) グループ発表 (質疑応答) (14) グループ発表 (質疑応答) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	次週の発表者の内容の基礎知識を学習しておくこと。
	事後学習	発表者の内容について各自復習すること
使用教材・参考文献	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
成績評価方法と基準	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
備考	出席状況を重視して成績評価を行う。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	演習参加者それぞれが、民法の判例の中から関心のあるテーマを選び、その争点について研究発表して、発表者以外の演習参加者ととともに議論する。
	到達目標	関心のある民法上の争点について調査・研究することにより、資料探索能力・研究能力を養うとともに、活発な議論を通じてディベート能力を高める。
授業計画	<p>第1回目の演習で、民法判例百選に掲載されている判例の中から、それぞれが最も関心のあるテーマを選び、研究発表の順番を決めて、第2回目の演習から、決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ゼミの説明と発表順の決定 (2) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (3) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (4) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (5) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (6) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (7) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (8) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (9) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (10) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (11) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (12) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (13) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (14) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (15) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、あらかじめレジュメを作成して配布すること。 ・発表者以外の演習参加者も発表者のテーマについて調べ、積極的に議論に参加して意見を述べられるようにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをもとに議論した内容を整理しておくこと。 ・発表した内容について後期末には論文を作成すること。
使用教材・参考文献	【教】星野英一ほか編『民法判例百選Ⅰ（第5版）』有斐閣2006年、星野英一ほか編『民法判例百選Ⅱ（第5版）』有斐閣2006年、水野紀子ほか編『家族法判例百選（第7版）』有斐閣2008年	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>研究発表50%、ディベート50%で判定する。</p> <p><評価基準>事案の争点を把握し、他の演習参加者と議論をすることができれば合格とする。</p>	
備考	夏休みにはゼミ旅行、春休みにはゼミ合宿を、それぞれ2泊3日で行い、新ゼミ生歓迎会、卒業生送別会なども行う。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	<p>行政法の判例の中から受講者自らが関心のあるテーマを選び、発表者がレジюмеを作成し、研究発表してもらい、疑問点や意見について他の受講者及び教員とともに議論する。</p> <p>また問題演習等を行い、行政法の講義で習得した知識の定着を図る。</p> <p>これだけに限らず、受講者の希望に応じた対応をとりたいと思う。</p>
	到達目標	<p>行政法判例を通じて、行政法Ⅰの講義で習得した知識の理解を深めるとともに、プレゼン能力、ディベート能力及び法的思考能力を養うことを目標とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 行政上の不服申立て (1) (3) 行政上の不服申立て (2) (4) 裁判所の権限 (5) 行政訴訟と民事訴訟 (6) 抗告訴訟の対象 (1) (7) 抗告訴訟の対象 (2) (8) 原告適格 (1) (9) 原告適格 (2) (10) 訴えの利益 (11) 出訴期間 (12) 行政不服審査との関係 (13) 審理 (14) 執行停止 (15) 判決 	
自学自習	事前学習	<p>発表者は、前もってレジюмеを作成しておくこと。</p> <p>発表者以外の受講者は、発表者の選んだ判例を前もって読み込んでおくこと。</p>
	事後学習	<p>教科書と発表者が作成したレジюмеに基づいて、復習を行い、理解を深めておくこと。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅱ 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11512-5</p> <p>【参】 池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3</p>	
成績評価方法と基準	研究発表の内容、議論への参加態度等を総合して評価する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	専門演習Ⅰに引き続き、憲法判例の研究を行う。
	到達目標	各自の研究テーマに基づき、ゼミ論文を作成する。 分量は、1万字（400字詰原稿用紙25枚）程度。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) ゼミ論文テーマ設定 (3) 判例及び判例評釈等の文献の調査・収集・読解及びゼミナールでの発表 (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15) //	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】【参】 授業時間に説明する。	
成績評価方法と基準	ゼミ論文の内容で評価する。評価基準は授業中に説明する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ゼミ参加者は、判例及び教科書等を前もって読んだうえで、参加し、授業では、報告担当者が、各自が選んだテーマについて、主要な判例の事実・判旨、学説および各自の研究について、レジュメを基に報告します。その後、そのテーマおよび報告について、全員で、質問し、議論します。
	到達目標	労働法の判例や学説を深く理解している、以前よりもより高度な論理的思考力・コミュニケーション能力を有している。
授業計画	(1) 授業の進め方 (2) 募集・採用 (3) 解雇 (4) 労働契約の終了 (5) 労働契約の期間 (6) 就業規則、労働契約の変更 (7) 平等原則 (8) 労働契約の基本原則 (9) 賃金 (10) 労働時間 (11) 休憩・休日・時間外労働 (12) 休暇・休業・休職 (13) 配転・出向・人事考課 (14) 人格と自由の侵害 (15) 企業秩序と懲戒	
自学自習	事前学習	・判例及び教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レポートを作成すること。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価 3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>労働法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>報告（20点）＋参加状況（質問・議論等）（60点）＋レポート（20点）で評価します。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	本年平成25年度は、3年次の専門演習にて各自が決定したテーマ（マイケル・サンデルの正義論，法と経済学に基づく不法行為論など）の研究を深めます。
	到達目標	最終的には、各自の研究テーマの問題意識、先行研究の状況、自らの見解を、ゼミ論文の構想として報告できるようになること。
授業計画	(1) オリエンテーション（研究発表の日程調整、自己紹介など） (2) 各自報告&議論 (3) 同上 (4) 同上 (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同上 (9) 同上 (10) 同上 (11) 同上 (12) 同上 (13) 同上 (14) 同上 (15) 同上	
自学自習	事前学習	授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解しててください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。
	事後学習	授業に集中すれば復習はあまりいりませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。
使用教材・参考文献	【教】各自の研究テーマに応じて、適宜指示をする。	
成績評価方法と基準	報告・発言内容、そして、ゼミ論の構想等をもとに総合的に評価いたします。	
備考	専門演習ⅡB（平手）を引き続き必ず履修すること。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	判例研究発表と全体での質疑応答で進めていくが、ゼミ生の意見も取り入れつつ、臨機応変に様々な方法を試していきたいと思う。判例は、教員の示す一定の範囲からゼミ生自らが関心のあるものを選択し、条文・制度趣旨等の基本事項の確認や、争点となった論点等についての判例の見解・学説・自説等を、発表担当者の作成したレジュメをもとに発表してもらう。
	到達目標	講義などで習得した知識をベースに、民法のより深い理解が身につくとともに、リサーチ能力、プレゼン能力、およびディベート能力が身につくことを目標とする。
授業計画	(1) オリエンテーション(グループ分け、研究テーマの指示、順番決定等) (2) ゼミ生の研究発表と質疑応答 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 前期講評	
自学自習	事前学習	各自積極的に議論に参加できるよう予習は欠かさずに行うこと。
	事後学習	ゼミで学んだことは必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】奥田昌道ほか編『判例講義 民法Ⅰ 総則・物権(補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 9784946406911 奥田昌道ほか編『判例講義 民法Ⅱ 債権(補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 4946406921 【参】内田貴著『民法Ⅰ～Ⅲ』東京大学出版会、近江幸治著『民法講義Ⅰ～Ⅳ』成文堂 潮見佳男ほか編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』有斐閣 2009年、 潮見佳男ほか編『民法判例百選Ⅱ 債権』有斐閣 2009年	
成績評価方法と基準	研究報告内容、議論への参加度、授業態度等を総合評価する。	
備考	親睦会などのイベント行事は、ゼミ長が中心となってゼミ生の総意により企画運営を行ってください。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	民事訴訟手続全般、非訟事件手続、行政処分に対する不服申立手続等に関する重要な論点について、関連判例や学説の検討を行います。なお、本演習は、原則として、参加者の各自が設定した問題提起や判例研究などを報告してもらい、その報告をもとに質疑応答、討論を行う予定です。
	到達目標	知識の習得に留まるのではなく、議論を通じて論理的思考能力を高めることを目標とします。
授業計画	(1) ガイダンス（報告担当者・報告順序・報告内容の検討など） (2) 担当者による報告と演習参加者による討論 (3) 担当者による報告と演習参加者による討論 (4) 担当者による報告と演習参加者による討論 (5) 担当者による報告と演習参加者による討論 (6) 担当者による報告と演習参加者による討論 (7) 担当者による報告と演習参加者による討論 (8) 担当者による報告と演習参加者による討論 (9) 担当者による報告と演習参加者による討論 (10) 担当者による報告と演習参加者による討論 (11) 担当者による報告と演習参加者による討論 (12) 担当者による報告と演習参加者による討論 (13) 担当者による報告と演習参加者による討論 (14) 担当者による報告と演習参加者による討論 (15) 担当者による報告と演習参加者による討論	
自学自習	事前学習	報告者以外の演習参加者であっても、報告予定の分野や箇所について予習をしておいてください。
	事後学習	演習中に議論された問題点等をノートなどに整理し、毎回の演習内容を復習すること。
使用教材・参考文献	教科書等は特に指定しませんが、必要に応じて発表するテーマに関連した参考文献をアドバイスします。	
成績評価方法と基準	〈基準〉 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 〈方法〉 報告内容、議論への参加度、受講態度などを総合評価します。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ヘーゲル法哲学の講読を通じて、近代市民社会の有する諸問題について考察する。
	到達目標	私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることを理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 善 (3) 良心 (4) 習俗規範 (5) 家族 (6) 婚姻 (7) 家族の資産 (8) 子供の教育 (9) 家族の解体 (10) 市民社会 (11) 諸欲求の体系 (12) 司法 (13) 監督官庁 (14) 国家 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】ヘーゲル『法哲学』	
成績評価方法と基準	<基準>ヘーゲル法哲学の講読を通じて、私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることに対する理解が達成されたものは合格とする。 <方法>発表内容60%、受講態度40%。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	各自の進路（就職・公務員試験等）に応じて、毎回の課題を決定する。
	到達目標	リーガルマインドとコミュニケーション能力を養うことを目的とするが、ゼミ生それぞれが、各自の目的とする進路に進むことが究極の目標である。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (3) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (4) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (5) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (6) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (7) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (8) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (9) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (10) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (11) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (12) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (13) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (14) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (15) 後期講評	
自学自習	事前学習	発表者かどうかとは無関係に、毎回全員に宿題を出すのでそれに取り組む。
	事後学習	発表・討論で得た知識を各自の個人課題に還元する。
使用教材・参考文献	【教】江頭憲治郎ほか編「会社法判例百選（第2版）」有斐閣2011年 【参】伊藤・大杉・齊藤・田中・松井「事例で考える会社法 法学教室ライブラリィ」有斐閣	
成績評価方法と基準	研究発表・討論への参加態度で評価する。	
備考	裁判傍聴等を行う場合もあるので、そのつもりでいて下さい。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	企業に採用され企業人として過ごす人生を通して、法律はどのように我々に関わっているのかを、事業主と労働者の関係を通して雇用の入り口から出口まで理解する。
	到達目標	ビジネスの現場で社会人として要求される必要最低限備えておかなければならないものは何かを自ら研究し実践できるようにする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 発表 (質疑応答) (3) 発表 (質疑応答) (4) 発表 (質疑応答) (5) 発表 (質疑応答) (6) 発表 (質疑応答) (7) 発表 (質疑応答) (8) 発表 (質疑応答) (9) 発表 (質疑応答) (10) 発表 (質疑応答) (11) 発表 (質疑応答) (12) 労働紛争討議 (13) 労働紛争討議 (14) 労働紛争討議 (15) 労働紛争討議	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	適宜、レポート、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】別途指示する。 【参】別途指示する。	
成績評価方法と基準	受講態度40% 発表60% 総合的に評価する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ゼミの集大成として、自らのテーマを文章（16000字程度）で表現するために必要な指導を行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の論点について一定程度の知識を身につけられる。 ・社会に対して独自の視点で問題意識を持ち、資料にあたり、図式化することで、人に調査結果を伝達することができる。
授業計画	(1) 後期の進め方 (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15)	各自のテーマに沿った報告
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	自分の報告、他者の報告を問わず、新たに知り得たことを、自分の問題意識を研ぎ澄ますために、使えるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】【参】授業中で指示する。	
成績評価方法と基準	報告内容、質問内容、レポート内容を勘案し、現代社会の論点について一定程度の知識が身につけており、自分の視点で問題意識を持つことができたことと認められた場合に合格点とする。報告、質問などの参加姿勢50%、レポート50%	
備考	主体的に参加していない態度が見受けられると判断した時点で、履修を取り消すことがある。報告者以外の参加者は、司会者役、質問する義務を負うこと。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	各自の研究テーマに沿って、前期の議論をさらに深め、ゼミ・レポートを作成し、冊子にまとめる。
	到達目標	①各自の研究テーマをもとに、自分の言葉で自分の意見を筋道立てて述べる「論理的思考力」と「発信力」を向上させる。 ②資料・情報を集め、調べ、分析するなどの作業が確実にできるようになる。 ③ゼミ生同士が自己開示を楽しみつつ交流することで、社会生活で必須の「コミュニケーション力」を高める。 ④ゼミ活動の集大成としてゼミ・レポートをまとめる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の研究テーマの確認 (3) 〃 (4) 〃 (5) 資料・情報・先行研究の収集と分析 (6) 〃 (7) 〃 (8) 構成 (9) 〃 (10) 概要報告と議論 (11) 〃 (12) 〃 (13) 編集等 (14) 〃 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだ内容を自己にひきつけて考察し、書きとめていくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリントを配布する。 【参】香川正弘ほか編 『よくわかる生涯学習』 ミネルヴァ書房 2008年ほか、適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	出席態度(60%)、ゼミ・レポート(40%)によって総合的に評価する。	
備考	・必要に応じて、キャリア教育の観点から就職活動等を支援する。 ・懇親会やゼミ旅行など課外での活動も予定しているので、積極的な参加と、人との出会いを大事にして楽しむ姿勢を求める。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	刑法総論、刑法各論で勉強したことを基礎に、模擬裁判の作成を行う。模擬裁判は、シナリオの作成から実演まで行う。
	到達目標	模擬裁判を通して、教科書の上での勉強だけではなく、「生きた刑法」を学ぶ。模擬裁判は、裁判に関わる全ての人の役割を身をもって体験することができるので、限りなく実践に近い形で刑法を学ぶことができる。
授業計画	(1) 模擬裁判の配役を決める (2) 演技練習① ～全体読み合わせ～ (3) 演技練習② ～配役ごとの個別練習～ (4) 演技練習③ " (5) 演技練習④ ～全体練習～ (6) 演技練習⑤ " (7) 演技練習⑥ ～本番直前リハーサル～ (8) ～～模擬裁判本番～～ (9) 反省点の検討 (10) 来年の模擬裁判に向けての準備 (11) " (12) " (13) " (14) " (15) "	
自学自習	事前学習	・常に刑事事件のニュースなどに注目する。
	事後学習	・作成したシナリオを理解すること。
使用教材・参考文献	ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	出席と演習への取り組みの姿勢で判定する。	
備考	4年生も3年生も常に合同で演習を行うので、各人の協調性・チームワークを大切にしよう。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	民法の基礎知識を認識し、家族法分野の問題意識を持ち、その後、その問題の涉外性について調べ、まとめ、発表することを内容とする。
	到達目標	調べ、まとめ、発表するという一連の作業を経て、国際家族法の中に得意分野を持ち、発表者の発表を聞き、疑問点や意見を話し合うことで総合的な理解力を高めることを目標とする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 内容選別（各自） (3) 担当内容に関する質疑応答 (4) 発表（質疑応答） (5) 発表（質疑応答） (6) 発表（質疑応答） (7) 発表（質疑応答） (8) 発表（質疑応答） (9) 発表（質疑応答） (10) 発表（質疑応答） (11) 発表（質疑応答） (12) 発表（質疑応答） (13) 発表（質疑応答） (14) まとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	次週の発表者の内容の基礎知識を学習しておくこと。
	事後学習	発表者の内容について各自復習すること
使用教材・参考文献	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
成績評価方法と基準	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
備考	出席状況を重視して成績評価を行う。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	演習参加者それぞれが、民法の判例の中から関心のあるテーマを選び、その争点について研究発表して、発表者以外の演習参加者ととともに議論する。
	到達目標	関心のある民法上の争点について調査・研究することにより、資料探索能力・研究能力を養うとともに、活発な議論を通じてディベート能力を高める。
授業計画	<p>前期の専門演習ⅡAで決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論していく。</p> <p>(1) 発表順の確認と後期の諸注意事項</p> <p>(2) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(3) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(4) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(5) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(6) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(7) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(8) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(9) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(10) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(11) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(12) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(13) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(14) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(15) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、あらかじめレジュメを作成して配布すること。 ・発表者以外の演習参加者も発表者のテーマについて調べ、積極的に議論に参加して意見を述べられるようにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをもとに議論した内容を整理しておくこと。 ・発表した内容について論文を作成すること。
使用教材・参考文献	【教】星野英一ほか編『民法判例百選Ⅰ（第5版）』有斐閣2006年、星野英一ほか編『民法判例百選Ⅱ（第5版）』有斐閣2006年、水野紀子ほか編『家族法判例百選（第7版）』有斐閣2008年	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>研究発表50%、ディベート50%で判定する。</p> <p><評価基準>事案の争点を把握し、他の演習参加者と議論をすることができ、論文を提出すれば合格とする。</p>	
備考	夏休みにはゼミ旅行、春休みにはゼミ合宿を、それぞれ2泊3日で行い、新ゼミ生歓迎会、卒業生送別会なども行う。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	行政法の判例の中から受講者自らが関心のあるテーマを選び、発表者がレジュメを作成し、研究発表してもらい、疑問点や意見について他の受講者及び教員とともに議論する。 また問題演習等を行い、行政法の講義で習得した知識の定着を図る。 これだけに限らず、受講者の希望に応じた対応をとりたいと思う。
	到達目標	行政法判例を通じて、行政法Ⅰの講義で習得した知識の理解を深めるとともに、プレゼン能力、ディベート能力及び法的思考能力を養うことを目標とする。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 取消・無効確認訴訟以外の抗告訴訟・当事者訴訟 (3) 民衆訴訟・機関訴訟 (4) 行政訴訟の訴額 (5) 公権力の行使に係る国家賠償責任 (1) (6) 公権力の行使に係る国家賠償責任 (2) (7) 公の営造物に係る国家賠償責任 (1) (8) 公の営造物に係る国家賠償責任 (2) (9) 費用負担者の責任 (10) 民法その他の法律の適用 (11) 行政上の損失補償 (12) 国家補償と社会保障 (13) 問題演習 (14) 問題演習 (15) 問題演習	
自学自習	事前学習	発表者は、前もってレジュメを作成しておくこと。 発表者以外の受講者は、発表者の選んだ判例を前もって読み込んでおくこと。
	事後学習	教科書と発表者が作成したレジュメに基づいて、復習を行い、理解を深めておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅱ 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11512-5 【参】 池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3	
成績評価方法と基準	研究発表の内容、議論への参加態度等を総合して評価する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律・法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	専門演習Ⅰに引き続き、憲法判例の研究を行う。
	到達目標	各自の研究テーマに基づき、ゼミ論文を作成する。 分量は、1万字（400字詰原稿用紙25枚）程度。
授業計画	(1) 後期のオリエンテーション (2) ゼミ論文概要発表・討論 (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) ゼミ論文発表 (12) // (13) // (14) // (15) //	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】【参】 授業時間に説明する。	
成績評価方法と基準	ゼミ論文の内容で評価する。評価基準は授業中に説明する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ゼミ参加者は、判例及び教科書等を前もって読んだうえで、参加し、授業では、報告担当者が、各自が選んだテーマについて、主要な判例の事実・判旨、学説および各自の研究について、レジュメを基に報告します。その後、そのテーマおよび報告について、全員で、質問し、議論します。
	到達目標	労働法の判例や学説を深く理解している、以前よりもより高度な論理的思考力・コミュニケーション能力を有している。
授業計画	(1) 年少者・女性 (2) 安全衛生 (3) 災害補償 (4) 労災保険 (5) 再就職と引退 (6) 非典型雇用・外国人雇用 (7) 労働者、使用者 (8) 労働組合 (9) 団体交渉 (10) 労働協約 (11) 争議行為 (12) 不当労働行為 (13) 労働紛争の解決手段 (14) 労働法の適用 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・判例及び教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レポートを作成すること。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価 3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>労働法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>報告（20点）＋参加状況（質問・議論等）（60点）＋レポート（20点）で評価します。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	専門演習ⅡA（平手）の続きです。専門演習ⅡAと同じく、各自が決定したテーマ（マイケル・サンデルの正義論，法と経済学に基づく不法行為論など）の研究を深め、1月にはゼミ論文の提出を義務付けます。
	到達目標	最終的には、各自の研究テーマの問題意識、先行研究の状況、自らの見解を、ゼミ論文として公表できるようになること。
授業計画	(1) オリエンテーション（研究発表の日程調整、自己紹介など） (2) 各自報告&議論 (3) 同上 (4) 同上 (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同上 (9) 同上 (10) 同上 (11) 同上 (12) 同上 (13) 同上 (14) 同上 (15) 同上	
自学自習	事前学習	授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解しててください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。
	事後学習	授業に集中すれば復習はあまりいりませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。
使用教材・参考文献	【教】各自の研究テーマに応じて、適宜指示をする。	
成績評価方法と基準	報告・発言内容、そして、ゼミ論等をもとに総合的に評価いたします。	
備考	専門演習ⅡA（平手）を受講した方は、引き続き必ず本講座を履修すること。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	判例研究発表と全体での質疑応答で進めていくが、ゼミ生の意見も取り入れつつ、臨機応変に様々な方法を試していきたいと思う。判例は、教員の示す一定の範囲からゼミ生自らが関心のあるものを選択し、条文・制度趣旨等の基本事項の確認や、争点となった論点等についての判例の見解・学説・自説等を、発表担当者の作成したレジュメをもとに発表してもらう。
	到達目標	講義などで習得した知識をベースに、民法のより深い理解が身につくとともに、リサーチ能力、プレゼン能力、およびディベート能力が身につくことを目標とする。
授業計画	(1) ゼミ生の研究発表と質疑応答 (2) " " (3) " " (4) " " (5) " " (6) " " (7) " " (8) " " (9) " " (10) " " (11) " " (12) " " (13) " " (14) " " (15) 後期講評	
自学自習	事前学習	各自積極的に議論に参加できるよう予習は欠かさずに行うこと。
	事後学習	ゼミで学んだことは必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】奥田昌道ほか編『判例講義 民法Ⅰ 総則・物権（補訂版）』悠々社 2007年 ISBN 9784946406911 奥田昌道ほか編『判例講義 民法Ⅱ 債権（補訂版）』悠々社 2007年 ISBN 4946406921 【参】内田貴著『民法Ⅰ～Ⅲ』東京大学出版会、近江幸治著『民法講義Ⅰ～Ⅳ』成文堂 潮見佳男ほか編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』有斐閣 2009年、 潮見佳男ほか編『民法判例百選Ⅱ 債権』有斐閣 2009年	
成績評価方法と基準	研究報告内容、議論への参加度、授業態度等を総合評価する。	
備考	親睦会などのイベント行事は、ゼミ長が中心となってゼミ生の総意により企画運営を行ってください。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	民事訴訟手続全般、非訟事件手続、行政処分に対する不服申立手続等に関する重要な論点について、関連判例や学説の検討を行います。なお、本演習は、原則として、参加者の各自が設定した問題提起や判例研究などを報告してもらい、その報告をもとに質疑応答、討論を行う予定です。
	到達目標	知識の習得に留まるのではなく、議論を通じて論理的思考能力を高めることを目標とします。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス（報告担当者・報告順序・報告内容の検討など） (2) 担当者による報告と演習参加者による討論 (3) 担当者による報告と演習参加者による討論 (4) 担当者による報告と演習参加者による討論 (5) 担当者による報告と演習参加者による討論 (6) 担当者による報告と演習参加者による討論 (7) 担当者による報告と演習参加者による討論 (8) 担当者による報告と演習参加者による討論 (9) 担当者による報告と演習参加者による討論 (10) 担当者による報告と演習参加者による討論 (11) 担当者による報告と演習参加者による討論 (12) 担当者による報告と演習参加者による討論 (13) 担当者による報告と演習参加者による討論 (14) 担当者による報告と演習参加者による討論 (15) 担当者による報告と演習参加者による討論 	
自学自習	事前学習	報告者以外の演習参加者であっても、報告予定の分野や箇所について予習をしておいてください。
	事後学習	演習中に議論された問題点等をノートなどに整理し、毎回の演習内容を復習すること。
使用教材・参考文献	教科書等は特に指定しませんが、必要に応じて発表するテーマに関連した参考文献をアドバイスします。	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>〈方法〉報告内容、議論への参加度、受講態度などを総合評価します。</p>	
備考		

科目名	憲法 I	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	憲法 I・II では、憲法の原理的理解と日本国憲法の総合的理解を連動させながら、憲法について多角的にアプローチする。憲法 I では、西洋立憲主義の形成過程及び日本国憲法制定に至る歴史的経緯を概観し、憲法 (constitution) の原義及び立憲的国家統治体制の本質について考察する。
	到達目標	① constitutionの規範的次元と事實的次元について理解する ② 西洋立憲主義及び法の支配の考え方について理解する ③ 日本における憲法のあゆみについて理解を深め、今後の在り方を考察する
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 規範と事実 (法を扱う視点) (3) 「法」の意義 (人為的ルール、絶対的掟、自生的慣習法) (4) 西洋立憲主義と法の支配 (5) constitutionについて (6) 近代憲法の成立 (7) 日本における近代憲法の受容 (大日本帝国憲法の意義) (8) 日本国憲法の制定過程 (9) マッカーサー草案 (10) 日本国憲法の制定過程 (まとめ) (11) 憲法学習について (12) 日本の統治機構の在り方について (13) 日本における国民の基本権の在り方について (14) 憲法と国家・国民 (これからの日本と世界を考えるために) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします (目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する)。 詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】西 修『図説 日本国憲法の誕生 (ふくろうの本/日本の歴史)』 (河出書房新社、2012年) ISBN-13:978-4309761886 【参】そのほかのものは、講義時間中に指示・紹介する。	
成績評価方法と基準	試験、講義時間中に行う小テスト、提出物等を総合的に勘案して評価する。講義で説明した内容を、適切にまとめて表現できるかどうかを評価の基準とする。評価方法及び評価基準の詳細は、講義において説明する。	
備考	憲法研究は、現行日本国憲法の解釈論及びその実際の運用に関する調査研究にとどまるものではありません。この講義は、憲法について各自の視野を広げてもらうことを主なねらいとします。「問題意識」をもって受講してください。	

科目名	憲法Ⅱ	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	憲法Ⅰ・Ⅱでは、憲法の原理的理解と日本国憲法の総合的理解を連動させながら、憲法について多角的にアプローチする。憲法Ⅱでは、日本国憲法の総合的理解を目標とするが、とりわけ主要な憲法判例に関する知識の修得を重視する。
	到達目標	日本国憲法の内容を、主要な憲法判例を通じて理解することを目標とする（主要な憲法判例についての基礎知識を得る）。 なお、法学検定試験（スタンダードコース）の「憲法」レベルを目標とする。
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 日本国憲法の構成 (3) 日本国憲法に関する重要項目（主なテーマ） (4) 憲法判例の学習について (5) 基本権総論（基本権制約の一般理論） (6) 基本権総論（包括的基本権と法の下での平等） (7) 精神的自由権① (8) 精神的自由権② (9) 経済活動の自由 (10) 身体の自由 (11) 国会・内閣 (12) 司法①（司法権の範囲と限界） (13) 司法②（違憲審査） (14) 財政・地方自治 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします。詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】『重要判例セレクトワークス ―公務員試験によく出る憲法・行政法・民法の基本判例 200（受験ジャーナル別冊）』（実務教育出版、2009年） 【参】参考書その他は、講義時間中に説明する。	
成績評価方法と基準	試験、講義時間中に行う小テスト、提出物等を総合的に勘案して評価する。主要な憲法判例について要点を理解しているかどうかを評価の基準とする。評価方法及び評価基準の詳細は、講義において説明する。	
備考	大学における憲法研究は、日本国憲法の条文を覚えることではありません。判例（特に最高裁判所の判例）を通じて法の機能を理解するという学習方法に慣れてください。	

科目名	行政法 I	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
科目概要	授業内容	公益の実現を目的として行政が行う諸活動がどのような過程を経て行われ、なぜそれが法律によるコントロールを受けなければならないのかをわかりやすく講義する。
	到達目標	行政法の基本的構造について学び、行政法の基本的概念について理解する。 行政書士試験の過去問についても取り上げ、国家試験の合格に必要な知識の取得を目標とする。
授業計画	(1) 行政とは何か (2) 法律による行政の原理 (3) 行政主体 (4) 行政機関 (5) 行政行為 (1) (6) 行政行為 (2) (7) 行政行為 (3) (8) 行政立法・行政計画 (9) 行政指導 (10) 行政上の義務履行確保 (1) (11) 行政上の義務履行確保 (2) (12) 行政調査 (13) 行政手続 (14) 情報公開・個人情報保護 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメと教科書を照し合せながら復習を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3 【参】宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選 I 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11511-8	
成績評価方法と基準	受講態度 20%、小テスト 20%、終了試験 60%により評価する。	
備考		

科目名	行政法Ⅱ	
担当者	橋本 直樹 /HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	行政機関の違法・不当な行政活動によって侵害された国民の権利救済制度について、行政救済法の理解に必須となる判例等を解説し、できる限り具体的な事例を挙げながらわかりやすく講義する。
	到達目標	行政救済法について学び、国民の権利救済制度について理解する。 行政書士試験の過去問についても取り上げ、国家試験の合格に必要な知識の取得を目標とする。
授業計画	(1)行政救済法の概要 (2)行政上の不服申立て (1) (3)行政上の不服申立て (2) (4)行政事件訴訟法の概要 (5)取消訴訟 (1) 処分性 (6)取消訴訟 (2) 原告適格・訴えの利益 (7)取消訴訟 (3) 審理手続・訴訟の終了 (8)無効等確認訴訟・不作為の違法確認訴訟 (9)義務付け訴訟・差止訴訟 (10)当事者訴訟 (11)民衆訴訟・機関訴訟 (12)国家賠償法 (1) (13)国家賠償法 (2) (14)損失補償 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメと教科書を照し合せながら復習を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3 【参】宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅱ 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11512-5	
成績評価方法と基準	受講態度 20%、小テスト 20%、終了試験 60%により評価する。	
備考		

科目名	地方自治法	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	私たちの日常生活に密接な関係を持つ地方公共団体の組織及び運営がどのように行われているのか、そして国と地方公共団体との間の関係がどうなっているのかといった地方自治法の基礎的な部分をわかりやすく解説する。
	到達目標	地方自治法の基本構造について学び、わが国の地方自治制度の現状と課題について理解する。
授業計画	(1) 地方自治の概要 (2) 地方自治法序論 (3) 地方公共団体の意義・種類 (4) 地方公共団体の事務 (5) 地方公共団体の権能 (6) 条例と規則 (7) 議会 (1) (8) 議会 (2) (9) 執行機関 (1) (10) 執行機関 (2) (11) 住民の権利義務 (1) (12) 住民の権利義務 (2) (13) 国と地方公共団体との関係 (1) (14) 国と地方公共団体との関係 (2) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメと教科書を照し合せながら復習を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】初回の講義時間に説明する。 【参】必要に応じて紹介する。	
成績評価方法と基準	受講態度 20%、小テスト 20%、終了試験 80%により評価する。	
備考		

科目名	税法	
担当者	徳留 利幸 / Tokudome, Toshiyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	実務家の視点から見た、税法の趣旨・概要・手続き等を体系的に学習する。
	到達目標	「いわゆる国税三法である、所得税・法人税・相続税の基本を体系的に理解する」 「身近な税である、消費税についてその基本と課税方法を理解する」 「税全般について、その関連性を体系的に理解する」
授業計画	(1) 税法の基礎・税の種類・体系 (2) 所得税法：所得の種類と担税力 (3) 所得税法：所得控除と税額計算 (4) 法人税法：概要 (5) 法人税法：企業会計と法人所得 (6) 法人税法：損金と益金 (7) 相続税法：基本概要 (8) 相続税法：財産評価と課税方法 (9) 相続税法：相続時精算課税制度 (10) 消費税法：基本と概要 (11) 消費税法：簡易課税と本則課税 (12) 所得税法と法人税法 (13) 主な地方税法の基本と課税方法 (14) 税法改正とこれからの税制 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容の復習を行う。 ・実社会における税制の体系を理解する。
使用教材・参考文献	【教】講義中に配布する資料を用いる。	
成績評価方法と基準	〈基準〉税法の体系的な理解が達成できた者を合格とし、税法の基礎理解が習得出来なかったものを不合格とする。 〈方法〉出席とテストにより判定し、配分は受講態度50% 試験50%	
備考		

科目名	民法総則 I	
担当者	関口晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	民法総則は、民法の各分野に共通する原則を定めている。その内容は抽象的なものが多いことから、難解だとされているが、毎回の講義内容に関する判例等の具体的例を参照しながら進めていく。
	到達目標	民法総則は、民法全般に共通する原則であるため、しっかりと内容を理解し、各種国家資格の問題などを使い、実際の試験問題が解けるようになることを目的とする。
授業計画	(1) 民法の沿革と構成 (2) 総則の概要、権利能力 (3) 行為能力と制限行為能力（総説）① (4) 行為能力と制限行為能力（制限行為能力者）② (5) 行為能力と制限行為能力（まとめ）③ (6) 法人① (7) 法人② (8) 物（動産と不動産） (9) 法律行為（総説）① (10) 法律行為（強行規定および公序良俗）② (11) 法律行為（まとめ）③ (12) 意思表示（総説）① (13) 意思表示（瑕疵ある意思表示）② (14) 意思表示（まとめ）③ (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義の最後にやった問題は、復習としてもう一度やること。前半終了時にレポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】我妻榮・有泉亨・川井健『民法1 総則・物権第三版』勁草書房2009年 【参】民法判例百選①総則・物権[第6版] および 配布資料	
成績評価方法と基準	レポート（30%）、期末試験（50%）、平常点（20%）を総合的に判定する。	
備考	六法（ポケットで可）を持参すること。	

科目名	民法総則Ⅱ	
担当者	関口晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	民法総則は、民法の各分野に共通する原則を定めている。その内容は抽象的なものが多いことから、難解だとされているが、毎回の講義内容に関する判例等の具体的例を参照しながら進めていく。また、前半に民法総則Ⅰの内容を復習し全体の理解を確認する。
	到達目標	民法総則は、民法全般に共通する原則であるため、しっかりと内容を理解し、各種国家資格の問題などを使い、実際の試験問題が解けるようになることを目的とする。
授業計画	(1) 総則の概要 (2) 行為能力と制限行為能力 (3) 法人および物 (4) 法律行為 (5) 意思表示（総説）① (6) 意思表示（瑕疵ある意思表示）② (7) 意思表示（まとめ）③ (8) 代理（総説）① (9) 代理（無権代理）② (10) 代理（まとめ）③ (11) 無効および取消し、条件および期限 (12) 時効（取得時効）① (13) 時効（消滅時効）② (14) 時効（まとめ）③ (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義の最後にやった問題は、復習としてもう一度やること。前半終了時にレポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】我妻榮・有泉亨・川井健『民法1総則・物権第三版』勁草書房2009年 【参】民法判例百選①総則・物権[第6版] および 配布資料	
成績評価方法と基準	レポート（30%）、期末試験（50%）、平常点（20%）を総合的に判定する。	
備考	六法（ポケットで可）を持参すること。	

科目名	物権法Ⅰ（総論）	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、民法第2編物権（175条～398条の22）のうち、第1章総則から第6章地役権（175条～294条）までを説明する。民法総則Ⅰ・Ⅱを履修していることを前提に講義を行う。
	到達目標	物権の内容と性質を理解した上で、物権変動（物権の得喪変更）に関する法制度を理解し、安全に取引するための基礎知識を定着させる。具体的には、司法書士試験、行政書士試験、公務員採用試験などに必要な基礎的な知識を獲得する。
授業計画	(1) 物権の意義と性質 (2) 所有権(1)－所有権の内容、所有権の取得 (3) 所有権(2)－共有関係、物権的請求権 (4) 用益物権（地上権、永小作権、地役権、入会権） (5) 占有権(1)－占有権の取得 (6) 占有権(2)－即時取得 (7) 占有権(3)－占有訴権 (8) 不動産物権変動(1)－登記を対抗要件とする物権変動 (9) 不動産物権変動(2)－登記しなければ対抗できない第三者 (10) 不動産物権変動(3)－登記がなくても対抗できる第三者 (11) 不動産物権変動(4)－登記請求権 (12) 不動産物権変動(5)－中間省略登記 (13) 動産物権変動(1)－ (14) 動産物権変動(2)－ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ノートを整理し、講義で示した事例を再検討しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】我妻栄ほか『民法Ⅰ（第3版）』勁草書房2008年 【参】内田貴『民法Ⅰ（第4版）』東京大学出版会2008年	
成績評価方法と基準	<評価方法>試験結果80%、受講態度20%で判定する。 <評価基準>受講態度に問題がない場合は、行政書士試験と同程度の試験問題で50%以上の正解を合格とする。	
備考	履修条件：民法総則Ⅰ・Ⅱを履修していること。	

科目名	物権法Ⅱ（担保物権）	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、民法第2編物権（175条～398条の22）のうち、第7章留置権から第10章抵当権（295条～398条の22）を説明する。民法総則Ⅰ・Ⅱ、物権法Ⅰを履修していることを前提に講義を行う。債権法総論Ⅰ・Ⅱも履修していることがのぞましい。
	到達目標	担保物権は債権を保全するための物権であるから、被担保債権との関連に留意しながら、各担保物権の違いを正しく理解し、債権担保に関する基礎知識を定着させる。具体的には、司法書士試験、行政書士試験、公務員採用試験などに必要な知識の獲得を到達目標とする。
授業計画	(1) 総説－物的担保の意義 (2) 留置権(1)－留置権の意義および性質 (3) 留置権(2)－留置権の成立要件および効力 (4) 先取特権(1)－先取特権の種類 (5) 先取特権(2)－先取特権の順位 (6) 質権(1)－質権の意義および性質 (7) 質権(2)－質権の目的物・対抗要件・実行 (8) 抵当権(1)－抵当権の意義および性質 (9) 抵当権(2)－抵当権の効力が及ぶ範囲 (10) 抵当権(3)－抵当権の実行① (11) 抵当権(4)－抵当権の実行② (12) 抵当権(5)－抵当権の処分および消滅 (13) 根抵当権 (14) 非典型担保物権－仮登記担保、譲渡担保、所有権留保など (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ノートを整理し、講義で示した事例を再検討しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】我妻栄ほか『民法Ⅰ（第3版）』勁草書房2008年 【参】内田貴『民法Ⅲ（第3版）』東京大学出版会2005年	
成績評価方法と基準	<評価方法>試験結果80%、受講態度20%で判定する。 <評価基準>受講態度に問題がない場合は、行政書士試験と同程度の試験問題で50%以上の正解を合格とする。	
備考	履修条件：民法総則Ⅰ・Ⅱ、物権法Ⅰを履修していること。	

科目名	債権法総論 I	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、民法第3編債権の第1章総則（399条～520条）のうち、第1節債権の目的および第2節債権の効力（399条～426条）を説明する。民法総則 I・II を履修していることを前提に講義を行う。
	到達目標	物権と債権の違いを理解し、債権各論の契約法や不法行為法が正しく理解できるよう、債権に関する基礎知識を定着させる。具体的には、司法書士試験、行政書士試験、公務員採用試験などに必要な知識を獲得する。
授業計画	(1) 債権の意義と性質 (2) 債権の目的・種類(1)－特定物債権 (3) 債権の目的・種類(2)－種類債権 (4) 債権の目的・種類(3)－金銭債権 (5) 債権の効力(1)－債務不履行の種類① (6) 債権の効力(2)－債務不履行の種類② (7) 債権の効力(3)－損害賠償請求① (8) 債権の効力(4)－損害賠償請求② (9) 債権の効力(5)－債務の履行の強制① (10) 債権の効力(6)－債務の履行の強制② (11) 責任財産の保全(1)－債権者代位権① (12) 責任財産の保全(2)－債権者代位権② (13) 責任財産の保全(3)－詐害行為取消権① (14) 責任財産の保全(4)－詐害行為取消権② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ノートを整理し、講義で示した事例を再検討しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】我妻栄ほか『民法Ⅱ（第2版）』勁草書房2005年 【参】内田貴『民法Ⅲ（第3版）』東京大学出版会2005年	
成績評価方法と基準	<評価方法>試験結果80%、受講態度20%で判定する。 <評価基準>受講態度に問題がない場合は、行政書士試験と同程度の試験問題で50%以上の正解を合格とする。	
備考	履修条件：民法総則 I・II を履修していること。	

科目名	債権法総論Ⅱ	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、民法第3編債権の第1章総則（399条～520条）のうち、第3節多数当事者の債権及び債務、第4節債権の譲渡、第5節債権の消滅（427条～520条）を説明する。民法総則Ⅰ・Ⅱ、債権総論Ⅰを履修していることを前提に講義を行う。
	到達目標	物権と債権の違いを理解し、債権各論の契約法や不法行為法が正しく理解できるよう、債権に関する基礎知識を定着させる。具体的には、司法書士試験、行政書士試験、公務員採用試験などに必要な知識を獲得する。
授業計画	(1) 多数当事者の債権関係(1)－分割債権・債務関係 (2) 多数当事者の債権関係(2)－不可分債権・債務関係 (3) 多数当事者の債権関係(3)－連帯債務① (4) 多数当事者の債権関係(4)－連帯債務② (5) 多数当事者の債権関係(5)－保証債務① (6) 多数当事者の債権関係(6)－保証債務② (7) 債権の譲渡(1)－債権の譲渡性 (8) 債権の譲渡(2)－債権譲渡の対抗要件① (9) 債権の譲渡(3)－債権譲渡の対抗要件② (10) 債務引受・契約上の地位の譲渡 (11) 債権の消滅(1)－債務の履行と弁済 (12) 債権の消滅(2)－弁済による代位 (13) 債権の消滅(3)－相殺 (14) 債権の消滅(4)－更改・免除・混同 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ノートを整理し、講義で示した事例を再検討しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】我妻栄ほか『民法Ⅱ（第2版）』勁草書房2005年 【参】内田貴『民法Ⅲ（第3版）』東京大学出版会2005年	
成績評価方法と基準	<評価方法>試験結果80%、受講態度20%で判定する。 <評価基準>受講態度に問題がない場合は、行政書士試験と同程度の試験問題で50%以上の正解を合格とする。	
備考	履修条件：民法総則Ⅰ・Ⅱ、債権総論Ⅰを履修していること。	

科目名	債権法各論 I	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は債権各論の内容である契約の総論から 13 種の典型契約の内容を中心に進め、各種契約制度を知るものである。内容としては賃貸借契約、雇用契約や贈与契約など多岐にわたっているが、多重債務者などの問題も本講義の範疇に入る。
	到達目標	本講義は、契約の基本的内容を理解することに重点を置き、また各種資格試験の出題に対応した知識を身に付けることを目標とする。
授業計画	(1) 契約の意義 (2) 契約の成立 (3) 同時履行の抗弁権と危険負担 (4) 契約の解除 (5) 売買契約① (6) 売買契約② (7) 贈与・買戻し・交換 (8) 消費貸借・使用貸借 (9) 賃貸借① (10) 賃貸借② (11) 雇用 (12) 請負・委任 (13) 寄託・組合 (14) 終身定期金・和解 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義の最後にやった問題は、復習としてもう一度やること。前半終了時にレポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】我妻榮・有泉亨・川井健『民法2 債権法 第二版』勁草書房 2005年 配布資料	
成績評価方法と基準	レポート (30%)、期末試験 (50%)、平常点 (20%) を総合的に判定する。	
備考	六法 (ポケットで可) を持参すること。	

科目名	債権法各論Ⅱ	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は債権各論の事務管理及び不当利得の内容をふまえて不法行為法を中心に進めていく。主に、多岐にわたる不法行為制度を知ることが目的とし、医療過誤などもこの範疇に含まれることになる。
	到達目標	本講義は、契約の基本的内容を理解することに重点を置き、また各種資格試験の出題に対応した知識を身に付けることを目標とする。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 不法行為とは (2) 債権各論Ⅰ（契約）復習 (3) 事務管理 (4) 不当利得 (5) 不法行為の意義 (6) 不法行為の成立要件① (7) 不法行為の成立要件② (8) 不法行為の効果① (9) 不法行為の効果② (10) 特殊の不法行為とは (11) 使用者責任・土地工作物等の占有者および所有者の責任 (12) 共同不法行為 (13) 公害・製造物責任（無過失責任） (14) 医療過誤 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義の最後にやった問題は、復習としてもう一度やること。前半終了時にレポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】我妻榮・有泉亨・川井健『民法2 債権法 第二版』勁草書房 2005年 配布資料	
成績評価方法と基準	レポート（30%）、期末試験（50%）平常点（20%）を総合的に判定する。	
備考	六法（ポケットで可）を持参すること。	

科目名	家族法 I (親族)	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は家族法の中の親族法の内容に従って進める。親族法は、わが国の家族制度を知るものである。内容としては婚姻や離婚、親子関係だけでなく、近年問題である代理母や人工生殖子の親子関係などもこの範疇に入る。
	到達目標	本講義は、親族法の基本的内容を確実に理解することに重点を置き、さらに各種資格試験の出題に対応した知識を身に付けることを目標とする。
授業計画	(1) 家族制度の変遷と未来 (2) 婚姻の成立 (実質的成立要件) (3) 婚姻の成立 (形式的成立要件) (4) 婚姻の無効と取消し (5) 夫婦財産制 (6) 離婚 (協議離婚) (7) 離婚 (裁判離婚) (8) 内縁、婚約 (9) 親子関係 (実親子関係) (10) 親子関係 (養子縁組) (11) 特別養子縁組 (12) 親権 (13) 後見 (14) 扶養 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義の最後にやった問題は、復習としてもう一度やること。前半終了時にレポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】我妻榮=有泉亨=遠藤浩=川井健『民法 3 親族法・相続法』(第 2 版) 勁草書房 2008 年、および、配布資料	
成績評価方法と基準	レポート (30%)、期末試験 (50%)、平常点 (20%) を総合的に判定する。	
備考	六法 (ポケットで可) を持参すること。	

科目名	家族法Ⅱ（相続）	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は家族法の中の相続法の内容に従って進めていく。相続法は、わが国の相続制度を知るものである。内容としては相続分配の方法や遺言による財産の移転などであるが、遺言による身分関係の設定なども範疇に入る。
	到達目標	本講義は、相続法の基本的内容を確実に理解することに重点を置き、また各種資格試験の出題に対応した知識を身に付けることを目標とする。
授業計画	(1) 相続の開始 (2) 相続人 (3) 相続の効力 (4) 法定相続分 (5) 指定相続分（特別受益・寄与分） (6) 遺産分割 (7) 相続の承認・限定承認 (8) 相続放棄 (9) 財産分離・相続人の不存在 (10) 遺言の方式（普通方式） (11) 遺言の方式（特別方式） (12) 遺言の効力 (13) 遺言の執行 (14) 遺留分 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義の最後にやった問題は、復習としてもう一度やること。前半終了時にレポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】我妻榮＝有泉亨＝遠藤浩＝川井健『民法3 親族法・相続法』（第2版）勁草書房 2008年、および、配布資料	
成績評価方法と基準	レポート（30%）期末試験（50%）平常点（20%）を総合的に判定する。	
備考	六法（ポケットで可）を持参すること。	

科目名	不動産取引法 I	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	不動産取引の大多数は宅地建物取引業者が関与してなされており、宅地建物取引業者には宅地建物取引業法が適用されて、特別な法規制が設けられている。そこで、一般にはあまりなじみのない宅地建物取引業法をわかりやすく解説する。
	到達目標	宅地建物取引主任者試験の問題を70%程度解けることを目標とする。
授業計画	(1) 宅地建物取引業の定義 (2) 宅地建物取引業免許 (3) 免許の基準と欠格要件 (4) 宅地建物取引主任者制度 (5) 取引主任者登録と登録簿 (6) 一般規制No. 1媒介契約 (7) 一般規制No. 2重要事項説明 (8) 一般規制No. 3契約書面の交付 (9) 自ら売主の8種制限① (10) 自ら売主の8種制限② (11) 自ら売主の8種制限③ (12) 報酬 (13) 標識の掲示・その他の制限 (14) 監督処分・罰則 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布プリントを必ず復習すること
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	学期末試験（80%）と授業態度等（20%）により評価する。 基準については第1回講義で説明する。	
備考		

科目名	不動産取引法Ⅱ	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	不動産は高額であり、生活や事業活動の基盤となるものであるため、その取引には一般の物品取引と異なる法制度が設けられている。そこで、不動産取引の広告規制・不動産課税制度等の諸制度を取り上げ、その法律上の問題点を説明する。
	到達目標	宅地建物取引主任者試験の問題を70%程度解けることを目標とする。
授業計画	(1) 税とは (2) 不動産取得税 (3) 固定資産税 (4) 譲渡所得税 (5) 印紙税 (6) 登録免許税 (7) 贈与税 (8) 営業保証金制度 (9) 保証協会制度 (10) 広告に関する規制 (11) 住宅金融支援機構法 (12) 不動産売買① (13) 不動産売買② (14) 抵当権 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	プリントを必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	学期末試験（80%）と授業態度等（20%）により評価する。 基準については第1回講義で説明する。	
備考		

科目名	登記法Ⅰ	
担当者	中菌 博史 / NAKAZONO, Hiroshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本講義では、不動産登記法に基づき、不動産登記制度全般について説明する。物権法Ⅰ及び物権法Ⅱ（担保物権）を履修している事を前提に講義を行う。
	到達目標	不動産登記法の存在意義・役割を理解したうえで、不動産登記記録から権利変動を読み取る力を養う事を目標とする。 司法書士試験合格に必要な知識の修得を到達目標とする。
授業計画	(1) 不動産登記制度の意義 (2) 登記所及び登記官 (3) 登記手続の総則 (4) 表示に関する登記 (1) 一土地の表示に関する登記 (5) 表示に関する登記 (2) 一建物の表示に関する登記 (6) 権利に関する登記 (1) 一通則 (7) 権利に関する登記 (2) 一所有権に関する登記 (8) 権利に関する登記 (3) 一用益権に関する登記 (9) 権利に関する登記 (4) 一担保権等に関する登記① (10) 権利に関する登記 (5) 一担保権等に関する登記② (11) 権利に関する登記 (6) 一仮登記 (12) 権利に関する登記 (7) 一仮処分に関する登記 (13) 権利に関する登記 (8) 一官庁または公署が関与する登記 (14) 登記事項の証明 (15) 総まとめ（筆界特定を含む）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに前回までの小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】竹下貴浩『デュープロセス』早稲田経営出版 2009年	
成績評価方法と基準	<評価方法>試験結果のみで判定する。 <評価基準>受講態度に問題がない場合は、司法書士試験と同程度の試験問題で50%以上の正解を合格とする。	
備考	履修条件：物権法Ⅰ及び物権法Ⅱ（担保物権）を履修している事。	

科目名	登記法Ⅱ	
担当者	中菌 博史 / NAKAZONO, Hiroshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本講義では、商業登記法に基づき商業登記制度全般について説明する。商法総論・総則、会社法Ⅰ（企業組織法務Ⅰ）、会社法Ⅱ（企業組織法務Ⅱ）を履修している事を前提に講義を行う。
	到達目標	商業登記法の存在意義・役割を理解した上で、商業登記簿から権利関係を読み取る力を養う事を目標とする。 司法書士試験合格に必要な知識の修得を到達目標とする。
授業計画	(1) 商業登記制度の意義 (2) 商業登記簿 (3) 登記手続の通則 (4) 商号の登記、未成年者及び後見人の登記、支配人の登記 (5) 株式会社の登記 (1) 一設立の登記① (6) 株式会社の登記 (2) 一設立の登記② (7) 株式会社の登記 (3) 一本店移転の登記変更の登記 (8) 株式会社の登記 (4) 一役員・商号・目的変更の登記 (9) 株式会社の登記 (5) 一募集株式発行等による変更の登記 (10) 株式会社の登記 (6) 一解散・組織変更の登記 (11) 株式会社の登記 (7) 一合併・分割の登記 (12) 合名会社・合資会社の登記 (13) 合同会社・外国会社の登記 (14) 登記の更正及び抹消（審査請求含む） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに前回までの小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】竹下貴浩『デュープロセス』早稲田経営出版 2009年 【参】長瀬二三男『私法概論』一橋出版 2006年	
成績評価方法と基準	<評価方法>試験結果のみで判定する。 <評価基準>受講態度に問題がない場合は、司法書士試験と同程度の試験問題で50%以上の正解を合格とする。	
備考	履行条件：商法総論・総則、会社法Ⅰ（企業組織法務Ⅰ）、会社法Ⅱ（企業組織法務Ⅱ）を履修している事。	

科目名	消費者法	
担当者	飯田 泰雄 / IIDA, Yasuo	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	現代社会における消費者問題の実態を明らかにするとともに、消費者の権利実現に向けての法的諸方策について概説する。
	到達目標	消費者の権利を中心とする消費者法を把握し、民法や商法、独禁法や行政法などのいろいろな法律がそれと如何にかかわっているかについて理解する。
授業計画	(1) 消費者問題の歴史 (2) 市場経済と消費者 (3) 消費者の特質と消費者の権利 (4) 消費者契約の適正化 (5) 消費者と公正自由な競争 (6) 特定商取引法 (7) 商品の安全性の確保 (8) 製造物責任 (9) 商品の適正な表示の確保 (10) 消費者信用 ① サラ金 (11) 消費者信用 ② クレジット (12) 金融商品取引法 (13) 消費者運動と消費者団体 (14) 消費者行政 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義で触れられた裁判例などについても原文にあたっておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 杉浦市郎編「新・消費者法これだけは」(法律文化社) 2,730 円、2010 年、ISBN978-4-589-03023-8 【参】 正田彬「消費者の権利 新版」(岩波新書) 756 円、2010 年、ISBN978-4-00-431232-1	
成績評価方法と基準	期末試験 (50 点) 平常点 (50 点)	
備考	民法の契約法と不法行為法を履修していることが望ましい。	

科目名	会社法Ⅰ	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、会社法（株式、機関等）についての基礎知識を習得することを目的とする。株式会社についての講義が中心であるが、株式会社と比較する形で持分会社も取り扱う。
	到達目標	各種国家試験や、法科大学院入試に向け必要十分な知識を習得することを目標とする。
授業計画	(1) 講義ガイダンス (2) 会社法総論 (3) 会社の種類 (4) 株式①（株式の種類等） (5) 株式②（株式の譲渡および譲渡制限等） (6) 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等） (7) 株式④（株式併合・分割・無償割当て等） (8) 機関総論 (9) 機関①（株主總會等） (10) 機関②（取締役・取締役会等） (11) 機関③（監査役・会計参与・会計監査人） (12) 機関④（委員会設置会社） (13) 役員等の義務と責任① (14) 役員等の義務と責任② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】伊藤・大杉・田中・松井「LEGAL QUEST会社法」第2版（有斐閣） 【参】講義中に紹介する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	・期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。	
備考	会社法Ⅱと連続性があるので、会社法Ⅱも履修することを原則とする。	

科目名	会社法Ⅱ	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、会社法（設立、資金調達、計算、組織再編等）についての基礎知識を習得することを目的とする。株式会社についての講義が中心であるが、株式会社と比較する形で持分会社も取り扱う
	到達目標	各種国家試験や、法科大学院入試に向け必要十分な知識を習得することを目標とする。
授業計画	(1) 講義ガイダンス (2) 設立①（設立手続等） (3) 設立②（設立に関する責任等） (4) 資金調達①（募集株式の発行等） (5) 資金調達②（募集株式の発行等） (6) 資金調達③（新株予約権） (7) 資金調達④（社債） (8) 計算 (9) 組織再編①（総論） (10) 組織再編②（事業譲渡） (11) 組織再編③（合併） (12) 組織再編④（会社分割） (13) 組織再編⑤（株式交換・株式移転） (14) 組織変更 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】伊藤・大杉・田中・松井「LEGAL QUEST会社法」第2版（有斐閣） 【参】講義中に紹介する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	・期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。	
備考	会社法Ⅰと連続性があるので、会社法Ⅰも履修することを原則とする。	

科目名	商法総則・商行為法	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、商法総則・商行為についての基礎知識を身に付けることを目的とする。民法との違いを意識しながら学習に取り組んで欲しい。
	到達目標	各種国家試験や、法科大学院入試に向け必要十分な知識を習得することを目標とする。
授業計画	(1) 講義ガイダンス (2) 商法の意義と適用範囲 (3) 商業登記 (4) 商号 (5) 営業譲渡・事業の譲渡 (6) 商業帳簿 (7) 商業使用人・代理商 (8) 商行為・商人の行為に関する規定① (9) 商行為・商人の行為に関する規定② (10) 商事売買・有価証券 (11) 仲立と取次 (12) 運送営業と倉庫営業 (13) 場屋営業 (14) 匿名組合・交互計算 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】 弥永真生「リーガルマインド商法総則・商行為法」第2版（有斐閣） 【参】 講義中に紹介する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	・ 期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・ 小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・ 別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。	
備考		

科目名	手形小切手法	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	手形法および小切手法の基礎知識を習得することを目的とする。手形小切手法は、商法の中でも最も理論的争いのある分野と言える。本講義では、通説及び判例を中心に理解を深める。
	到達目標	各種国家試験や、法科大学院入試に向け必要十分な知識を習得することを目標とする。
授業計画	(1) 講義ガイダンス (2) 約束手形の意義・原因関係と手形関係 (3) 手形の有効要件① (4) 手形の有効要件② (5) 他人による手形行為 (6) 無権代理と偽造 (7) 裏書① (8) 裏書② (9) 手形抗弁① (10) 手形抗弁② (11) 手形の支払・遡求・時効・利息償還請求権 (12) 手形保証・除権決定 (13) 白地手形① (14) 白地手形② (15) 為替手形・小切手・手形訴訟・小切手訴訟・総まとめ	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】 弥永真生「リーガルマインド手形法・小切手法」第2版補訂2版(有斐閣) 【参】 講義中に指示する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	・ 期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・ 小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・ 別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。	
備考		

科目名	保険法	
担当者	細見 佳子 / HOSOMI, Yoshiko	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、生命保険や火災保険等、社会生活を送るうえで必要な保険法について、初学者にも分かりやすく説明します。特に、2008（平成20）年に制定された「保険法」のポイントを確認していきます。保険については、ファイナンシャル・プランナー、社会保険労務士等の資格試験でも出題されます。これらの資格試験に必要な基礎理論についても解説していきます。
	到達目標	保険法の基礎知識を習得する。 資格試験で求められる、保険の基礎知識を習得する。
授業計画	(1) 講義ガイダンス 保険とはなにか (2) 保険法の基礎知識 (1) 保険のしくみ・保険と経済生活 (3) 保険法の基礎知識 (2) 保険の基本用語・種類 (4) 保険法の基礎知識 (3) 保険法改正と新保険法 (5) 損害保険 (1) (6) 損害保険 (2) (7) 損害保険 (3) (8) 損害保険 (4) (9) 損害保険 (5) (10) 生命保険 (1) (11) 生命保険 (2) (12) 生命保険 (3) (13) 傷害疾病保険 (1) (14) 傷害疾病保険 (2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の区切りで、理解確認のための小テストを実施します。
使用教材・参考文献	【教】 ・竹瀝修『(日経文庫 1 1 9 8) 保険法入門』2009年、日本経済新聞出版社 [ISBN978-4-532-11198-4] . ・萩本修『これ一冊でわかる！新しい保険法』2008年、きんざい [ISBN978-4-322-11377-8]. 【参】初回の講義で、詳しい文献リストを配布します。また、講義時間中に適宜紹介していきます。	
成績評価方法と基準	〈方法〉受講態度（授業態度・出席態度・小テスト等）50%、試験50% 〈基準〉保険・保険法に関する基礎知識が習得できたものは合格とします。	
備考	六法（ポケットで可）を持参してください。	

科目名	金融商品取引法	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	金融商品取引法を学ぶことで、投資判断における情報開示の重要性を理解することを目的とする。
	到達目標	金融商品取引法に規定された開示制度、不公正取引の規制等を学ぶことで、新聞やニュースで報道される現代社会の出来事（村上ファンド事件やオリンパス事件）についての理解を深める。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義ガイダンス (2) 金融商品取引法の全体像 (3) 有価証券の取引方法 (4) 企業内容の開示規制① (5) 企業内容の開示規制② (6) 企業内容の開示規制③ (7) 金融商品取引業者の規制 (8) 企業支配に関する開示制度 (9) 投資信託および集団投資スキーム (10) 不公正な取引の規制① (11) 不公正な取引の規制② (12) 不公正な取引の規制③ (13) 罰則と課徴金 (14) デリバティブ取引 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】 近藤・志谷・石田・釜田「基礎から学べる金融商品取引法」(弘文堂) 【参】 講義中に紹介する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・ 小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・ 別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。 	
備考		

科目名	民事訴訟法 I	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	民事訴訟手続（判決手続）は、私法によって規律される生活関係において紛争が生じた場合に、国家機関が強制的に解決するために対立する利害関係人を関与させて行う法的手続です。本講義では、その基本的事項を学習し、手続の流れをイメージできるようにわかりやすく解説していきます。
	到達目標	判決手続についての基本的事項を学び、民事訴訟手続の全体像を把握する。
授業計画	(1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 裁判とは(5-24) (3) 裁判の費用・裁判にあたる人たち・紛争処理の方策(25-54) (4) 民事裁判における憲法・民法・訴訟法(55-71) (5) 訴訟と非訟(71-76) (6) 訴えとその類型(77-93) (7) 訴えの変更・訴訟物(100-108) (8) 裁判権・管轄権・移送等(109-126) (9) 当事者の確定・当事者能力(127-134) (10) 当事者適格・複数当事者・訴訟参加・訴訟承継(134-178) (11) 訴訟の審理過程(179-186) (12) 訴え提起の方式・手続と効果(187-194) (13) 口頭弁論(194-209) (14) 争点及び証拠の整理・当事者の欠席(209-216) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前にお読みください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	【教】中野貞一郎『民事裁判入門〔第3版補訂版〕』有斐閣 2012年 ISBN:978-4-641-13623-6 【参】裁判所職員総合研修所監修『民事訴訟法講義案（再訂補訂版）』司法協会 2011年 【参】中野＝松浦＝鈴木『新民事訴訟法講義〔第2版補訂2版〕』有斐閣 2009年 ISBN:978-4-641-09378-2	
成績評価方法と基準	〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 〈方法〉小レポートの結果(30%)、期末試験の結果(70%)を総合評価します。	
備考	六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。	

科目名	民事訴訟法Ⅱ	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	民事訴訟法Ⅰを受講していることを前提に、判決手続における基本原則、証拠法、上訴・再審等についての講義を行います。
	到達目標	民事訴訟法Ⅰの講義内容を踏まえ、審理過程における重要な論点についての学説判例の立場を理解することで、手続のイメージがより具体的に掴めるようになります。
授業計画	(1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 裁判所と当事者の役割分担 (3) 基本原則（処分権主義）（217-227） (4) 基本原則（弁論主義①）（228-236） (5) 基本原則（弁論主義②）（237-240） (6) 事実認定（自由心証主義）と証明（241-249） (7) 証拠（249-264） (8) 証明責任（264-272） (9) 証明責任の分配（272-282） (10) 判決の成立と効力（283-308） (11) 上訴と再審①（311-327） (12) 上訴と再審②（327-332） (13) 少額訴訟と督促手続（333-342） (14) 家事紛争と裁判（343-377） (15) まとめ	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前に読んでください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	【教】中野貞一郎『民事裁判入門〔第3版補訂版〕』有斐閣 2012年 ISBN:978-4-641-13623-6 【参】裁判所職員総合研修所監修『民事訴訟法講義案（再訂補訂版）』司法協会 2011年 【参】中野＝松浦＝鈴木『新民事訴訟法講義〔第2版補訂2版〕』有斐閣 2009年 ISBN:978-4-641-09378-2	
成績評価方法と基準	〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 〈方法〉小レポートの結果(30%)、期末試験の結果（70%）を総合評価します。	
備考	六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。	

科目名	民事執行法 I	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	民事執行は債務者が任意に債務を履行しない場合の国家権力による強制的実現の手続です。民事執行法 I では、執行手続の基本構造について、不動産競売手続等を例にわかりやすく講義します。民事執行法 II では、それ以外の各執行手続及び民事保全手続の概略について講義しますので、セットで受講するようにしてください。
	到達目標	民事執行手続の全体像を把握し、基本的事項についての知識を習得する。
授業計画	(1) ガイダンス (授業の進め方、成績の評価基準など) (2) 民事執行の世界(9-26) (3) 強制執行の組立て①(27-43) (4) 強制執行の組立て②(43-68) (5) 担保執行の組立て(69-78) (6) 不動産執行の構成(79-83) (7) 不動産競売の開始・差押えの効力(83-90) (8) 売却条件(91-98) (9) 売却の準備(98-108) (10) 売却の実施(108-118) (11) 二重差押・配当要求(118-123) (12) 配当(123-134) (13) 引渡命令(134-141) (14) 強制管理と担保不動産収益執行(143-148) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ (授業計画に示した頁数) を事前に読んでおいてください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	【教】 中野貞一郎『民事執行・保全入門』(有斐閣、2010年) ISBN:978-4-641-13535-2 【参】 裁判所職員総合研修所監修『民事執行実務講義案 (改訂版)』(司法協会、2005年)	
成績評価方法と基準	〈基準〉 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 〈方法〉 小レポートの結果(30%)、期末試験の結果(70%)を総合評価します。	
備考	六法 (コンパクト六法可) を毎回持参してください。 履修条件: 物権法 II、債権法総論 II を履修していること	

科目名	民事執行法Ⅱ	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	民事執行は債務者が任意に債務を履行しない場合の国家権力による強制的実現の手続です。民事執行法Ⅰでは、執行手続の基本構造について、不動産競売手続等を例にわかりやすく講義します。民事執行法Ⅱでは、それ以外の各執行手続及び民事保全手続の概略について講義しますので、セットで受講するようにしてください。
	到達目標	金銭債権執行手続、執行救済及び民事保全手続の基本的事項を理解する。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 債権執行の特質(149-150) (3) 金銭債権の差押え・換価・配当(151-186) (4) 少額訴訟債権執行・電子記録債権に関する執行(187-191) (5) 動産執行・各種財産権執行(193-205) (6) 扶養義務等に係る金銭執行についての強制執行・形式競売・財産開示(205-213) (7) 「渡せ」「せよ」「するな」の強制執行(215-240) (8) 執行救済総論(241-244) (9) 執行抗告・執行異議(245-251) (10) 請求異議の訴え・執行分付与をめぐる救済(251-264) (11) 救済手段の選択と第三者異議の訴え(264-280) (12) 民事保全の組立て(281-302) (13) 仮差押え(303-314) (14) 係争物仮処分・仮地位仮処分(315-342) (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前に読んでおいてください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	<p>【教】 中野貞一郎『民事執行・保全入門』（有斐閣、2010年）ISBN:978-4-641-13535-2</p> <p>【参】 裁判所職員総合研修所監修『民事執行実務講義案（改訂版）』（司法協会、2005年）</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>〈方法〉 小レポートの結果(30%)、期末試験の結果（70%）を総合評価します。</p>	
備考	<p>六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。</p> <p>履修条件：物権法Ⅱ、債権法総論Ⅱを履修していること</p>	

科目名	倒産処理法	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	倒産処理は、債務者が経済的に破綻した場合に、債務者の財産から複数の債権者に対する割合的な弁済を主たる目的とする活動であり、それらを規律する倒産法の概要と、その中で精算型手続と言われる破産手続についての概略を説明します。
	到達目標	倒産処理法制の全体像を把握し、精算型である破産手続についての基本的事項とその手続の流れについて理解する。
授業計画	(1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 倒産処理制度の概要(1-28) (3) 破産手続の意義・概要(50-52) (4) 破産手続の開始(52-63) (5) 破産手続の機関(63-71) (6) 破産財団と債権者(71-79) (7) 破産財団をめぐる契約・権利関係(79-107) (8) 破産手続の進行(107-114) (9) 配当(114-119) (10) 消費者の破産手続(119-126) (11) 自由財産・免責手続(126-136) (12) 民事再生手続(137-188) (13) 消費者の民事再生(188-214) (14) 会社更生手続(215-241) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前に読んでおいてください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	【教】 山本和彦『倒産処理法入門 第4版』有斐閣 2012年 ISBN:978-4-641-13632-8 【参】 加藤哲夫『破産法〔第6版〕』有斐閣 2012年 ISBN:978-4-335-31363-9	
成績評価方法と基準	〈基準〉 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 〈方法〉 小レポートの結果(30%)、期末試験の結果(70%)を総合評価します。	
備考	六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。	

科目名	刑法総論 I	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	刑法総論における構成要件該当性、修正形式について学ぶ。授業では、その項目に関する具体例を用意するので、それについて全員で検討をしながら進めていく。
	到達目標	新聞やニュースを読んだときに、その事件にどのような論点が存在するのかを分析することができるようになる。それによって、その犯罪の原因は何か、何が問題なのかがわかるようになる。
授業計画	(1) 刑法総論とは何か (2) 構成要件該当性 (3) 法人と犯罪 (4) 作為犯と不作为犯 (5) 故意 (6) 過失 (7) 因果関係 (8) 事実の錯誤 (9) 未遂・不能犯 (10) 共犯 (11) 共同正犯 (12) 間接正犯 (13) 教唆犯 (14) 幫助犯 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	ニュースや新聞などに注目する。
	事後学習	授業で取り上げた内容を身近なものとして常に意識する。
使用教材・参考文献	【教】 船山泰範『刑法学講和 総論』(2010年成文堂)。 さらに、講義前に毎回プリントを配布する。 【参】 ポケット六法(有斐閣)、デイリー六法(三省堂)など。	
成績評価方法と基準	定期試験の結果で判定する。	
備考	質問などがあれば、いつでも受け付ける。授業後、学校外、メールなどによる質問の受け付けも常時行う。	

科目名	刑法総論Ⅱ	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	刑法総論における違法性、有責性について学ぶ。授業では、その項目に関する具体例を用意するので、それについて全員で検討をしながら進めていく。
	到達目標	新聞やニュースを読んだときに、その事件にどのような論点が存在するのかを分析することができるようになる。それによって、その犯罪の原因は何か、何が問題なのかがわかるようになる。
授業計画	(1) 違法性とは何か (2) 正当防衛 (3) 緊急避難 (4) 正当行為 (5) 自救行為 (6) 誤想防衛、過剰防衛 (7) 誤想避難、過剰非難 (8) 責任とは何か (9) 責任能力論 (10) 違法性の意識と違法性の認識の可能性 (11) 期待可能性 (12) 罪数論 (13) 包括一罪、科刑上一罪 (14) 併合罪 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	ニュースや新聞などに注目する。
	事後学習	授業で取り上げた内容を身近なものとして常に意識する。
使用教材・参考文献	【教】 船山泰範『刑法学講和 総論』(2010年成文堂)。 さらに、講義前に毎回プリントを配布する。 【参】 ポケット六法(有斐閣)、デイリー六法(三省堂)など。	
成績評価方法と基準	定期試験の結果で判定する。	
備考	質問などがあれば、いつでも受け付ける。授業後、学校外、メールなどによる質問の受け付けも常時行う。	

科目名	刑法各論 I	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	刑法各則における個人的法益に関する罪について学ぶ。授業では、その項目に関する具体例を用意するので、それについて全員で検討をしながら進めていく。
	到達目標	新聞やニュースを読んだときに、その事件が何罪に該当するのかが分析することができるようになる。それによって、その犯罪の予防や対策へとつなげていくことができるようになる。
授業計画	(1) 刑法各論とは何か (2) 殺人罪 (3) 同意殺人罪、自殺関与罪 (4) 暴行罪、傷害罪、傷害致死罪 (5) 同時傷害の特例 (6) 過失致死傷罪 (7) 自動車運転過失致死傷罪と危険運転致死傷罪 (8) 逮捕監禁罪 (9) 住居侵入罪 (10) 窃盗罪・強盗罪 (11) 詐欺罪・恐喝罪 (12) 横領罪、業務上横領罪 (13) 背任罪、特別背任罪 (14) 毀棄罪 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	ニュースや新聞などに注目する。
	事後学習	授業で取り上げた内容を身近なものとして常に意識する。
使用教材・参考文献	【教】 齊藤信宰『刑法講義 各論 (新版)』(2007 年成文堂)。 さらに、講義前に毎回プリントを配布する。 【参】 ポケット六法 (有斐閣)、デイリー六法 (三省堂) など。	
成績評価方法と基準	定期試験の結果で判定する。	
備考	質問などがあれば、いつでも受け付ける。授業後、学校外、メールなどによる質問の受け付けも常時行う。	

科目名	刑法各論Ⅱ	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	刑法各則における社会的法益に関する罪について学ぶ。授業では、その項目に関する具体例を用意するので、それについて全員で検討をしながら進めていく。
	到達目標	新聞やニュースを読んだときに、その事件が何罪に該当するのかが分析することができるようになる。それによって、その犯罪の予防や対策へとつなげていくことができるようになる。
授業計画	(1) 放火罪 (2) 強制わいせつ罪・強姦罪 (3) 通貨偽造罪 (4) 偽造通貨知情行使罪と詐欺罪 (5) 文書偽造罪 (6) 公務執行妨害罪 (7) 公務員職権乱用罪 (8) 談合罪 (9) 証拠隠滅罪 (10) 犯人蔵匿罪 (11) 偽証罪 (12) 賄賂の罪 (13) 賭博罪 (14) 内乱罪 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	ニュースや新聞などに注目する。
	事後学習	授業で取り上げた内容を身近なものとして常に意識する。
使用教材・参考文献	【教】 齊藤信宰『刑法講義 各論（新版）』（2007年成文堂）。さらに、講義前に毎回プリントを配布する。 【参】 ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	定期試験の結果で判定する。	
備考	質問などがあれば、いつでも受け付ける。授業後、学校外、メールなどによる質問の受け付けも常時行う。	

科目名	刑事訴訟法 I	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	刑事手続の流れや基本原則について学ぶ。刑事訴訟法 I では特に捜査段階について解説をする。
	到達目標	我々一般人は基本的に警察によって「捜査をされる側」である。刑事手続における基本原則を学ぶことによって、不当な捜査活動から身を守るためには何が必要なのかを知ることができる。
授業計画	(1) 刑事訴訟法の意義とは何か (2) 職務質問 (3) 所持品検査 (4) 検問 (5) 任意同行 (6) 取調べの意義、限界 (7) 被疑者の写真撮影 (8) 現行犯逮捕 (9) 別件逮捕 (10) 令状主義 (11) 逮捕に伴う捜索・差押え (12) 逮捕に伴う捜索・差押えの限界 (13) 被疑者の接見交通権 (14) 捜査の終結～公判段階へ～ (15) まとめ	
自学自習	事前学習	ニュースや新聞などに注目する。
	事後学習	授業で取り上げた内容を身近なものとして常に意識する。
使用教材・参考文献	【教】加藤康榮『刑事訴訟法（第2版）』（2012年法学書院）。さらに、講義前に毎回プリントを配布する。 【参】ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	定期試験の結果で判定する。	
備考	質問などがあれば、いつでも受け付ける。授業後、学校外、メールなどによる質問の受け付けも常時行う。	

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	刑事手続の流れや基本原則について学ぶ。刑事訴訟法Ⅱでは特に公判段階と証拠法について解説をする。
	到達目標	捜査段階の場合と同様である。刑事手続における基本原則を学ぶことによって、不当な訴えによる裁判から身を守らなければならない。そのための知識を身に付ける。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 公判段階 (2) 起訴便宜主義 (3) 起訴状一本主義 (4) 公判前整理手続 (5) 訴因と公訴事実の同一性 (6) 訴因の変更 (7) 訴訟能力 (8) 厳格な証明と自由な証明 (9) 違法収集証拠排除法則 (10) 自白法則 (11) 伝聞法則 (12) DNA 鑑定 (13) 上訴 (14) 再審 (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	ニュースや新聞などに注目する。
	事後学習	授業で取り上げた内容を身近なものとして常に意識する。
使用教材・参考文献	<p>【教】加藤康榮『刑事訴訟法（第2版）』（2012年法学書院）。さらに、講義前に毎回プリントを配布する。</p> <p>【参】ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。</p>	
成績評価方法と基準	定期試験の結果で判定する。	
備考	質問などがあれば、いつでも受け付ける。授業後、学校外、メールなどによる質問の受け付けも常時行う。	

科目名	刑事政策	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	現在の日本では、犯罪の予防がどのように行われているのか。刑事政策の現状と課題を考える。
	到達目標	刑事政策の現状と課題を知ることによって、自分の身を守るだけでなく、家族やそれを取り巻く社会全体を守るためには、何をすべきかを理解することができる。
授業計画	(1) 刑事政策とは何か (2) 刑罰の目的は何か (3) 死刑存廃論 (4) 刑事施設の現状と課題～施設内処遇の限界～ (5) 社会内処遇の現状と課題 (6) 施設内処遇と社会内処遇の連携 (7) 社会的排除・包摂と刑事政策 (8) 少年非行の処遇 (9) 精神障害と犯罪 (10) アルコールと犯罪との関係 (11) 性犯罪の予防と対策 (12) 高齢者による犯罪の予防と対策 (13) 外国人による犯罪の予防と対策 (14) 刑事政策における国家の役割と社会の役割 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	ニュースや新聞などに注目する。
	事後学習	授業で取り上げた内容を身近なものとして常に意識する。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義前に毎回プリントを配布する。 【参】犯罪白書。ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	定期試験の結果で判定する。	
備考	質問などがあれば、いつでも受け付ける。授業後、学校外、メールなどによる質問の受け付けも常時行う。	

科目名	社会法Ⅰ	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	個別的労働関係法（労働基準法等）について裁判例を紹介しつつ講義します。
	到達目標	個別的労働関係法（労働基準法等）の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 労働条件の明示、労働契約の期間 (2) 解雇予告、退職時の証明 (3) 就業規則 (4) 賃金 (5) 労働時間 (6) 変形労働時間制、フレックスタイム制 (7) 裁量労働制、適用除外 (8) 休憩、休日・時間外労働 (9) 年次有給休暇 (10) 年少者、女性（妊産婦等） (11) 安全及び衛生 1 (12) 安全及び衛生 2 (13) 懲戒 (14) 平等原則、労働憲章 (15) 監督機関、労働法規範の構造	
自学自習	事前学習	・教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・小テスト及び期末試験の準備のために復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価 3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>個別的労働関係法（労働基準法等）の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>小テスト（10点×5回）＋期末試験（50点）で評価します。	
備考	この科目は、「現代社会と法」「法学入門」若しくは「法学概論」程度の知識を前提として講義します。 雇用労務（企業組織労務Ⅲ）では個別的労働関係法（労働契約法等）、社会法Ⅰでは個別的労働関係法（労働基準法等）、社会法Ⅱでは個別的労働関係法（労働保険法等）及び集团的労働関係法（労働組合法等）を扱います。	

科目名	社会法Ⅱ	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	個別的労働関係法(労働保険法等)及び集团的労働関係法(労働組合法等)について裁判例を紹介しつつ講義します。
	到達目標	個別的労働関係法(労働保険法等)及び集团的労働関係法(労働組合法等)の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 労働法の特徴等、適用関係 (2) 災害補償、労災保険1 (3) 労災保険2 (4) 雇用保険1 (5) 雇用保険2 (6) 高齢者・障害者雇用、企業年金 (7) 労働者、使用者 (8) 労働組合 (9) 団体交渉 (10) 労働協約 (11) 争議行為 (12) 不当労働行為1 (13) 不当労働行為2 (14) 労働紛争の解決手段1 (15) 労働紛争の解決手段2	
自学自習	事前学習	・教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・小テスト及び期末試験の準備のために復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界(第10版)』有斐閣 2013年 予価 3360円(税込)	
成績評価方法と基準	<基準>個別的労働関係法(労働保険法等)および集团的労働関係法(労働組合法等)の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>小テスト(10点×5回)＋期末試験(50点)で評価します。	
備考	この科目は、「現代社会と法」「法学入門」若しくは「法学概論」程度の知識を前提として講義します。 雇用労務(企業組織労務Ⅲ)では個別的労働関係法(労働契約法等)、社会法Ⅰでは個別的労働関係法(労働基準法等)、社会法Ⅱでは個別的労働関係法(労働保険法等)及び集团的労働関係法(労働組合法等)を扱います。	

科目名	国際法 I	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
科目概要	授業内容	21世紀の国際社会が緊密になればなるほど、国際社会の法である国際法の重要性は増大するでしょう。国際法の重要性に少しでも気付いて下さい。
	到達目標	現代においては、国内社会の他に国際社会も存在することが理解できる。アフリカに対する理解が深まる。
授業計画	(1) 国際法の基礎知識 (2) 国連憲章 (3) アンゴラ問題の経緯 (4) アンゴラ内戦と軍事援助 (5) アンゴラにおける1992年の総選挙と自決権 (6) アンゴラ問題とビルマ問題との比較 (7) アンゴラ問題とナミビア問題との関係 (8) アンゴラ問題への南アフリカの軍事介入 (9) 国家資格要件 (10) 民主的な国家から成る民主的なアフリカ国際社会 (11) アフリカ連合 (AU) の発足 (12) アフリカ連合 (AU) の組織 (13) アフリカ諸国の民主化と経済開発 (14) アフリカにおける自決権の過去の役割と今後の役割 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 中野進『アフリカと自決権(普及版)』信山社 2005年 4-434-05802-9	
成績評価方法と基準	<方法>テスト (80%)、レポートなど (20%) <基準>出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	国際法Ⅱ	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	21世紀の国際社会が緊密になればなるほど、国際社会の法である国際法の重要性は増大するでしょう。国際法の重要性に少しでも気付いて下さい。
	到達目標	死刑廃止論に内在する矛盾点に気付くことができる。 死刑問題は『総合的な生命倫理問題』であるということを理解できる。
授業計画	(1) 国際法の基礎知識 (2) 生命権を規定している条約の内容と問題点 (3) 死刑廃止を規定している条約の内容と問題点 (4) 死刑存置を規定している条約の内容と問題点 (5) 死刑制度に関する各国の見解（死刑廃止論） (6) 死刑制度に関する各国の見解（死刑存置論） (7) 死刑制度に関する各国の見解（その他） (8) 死刑廃止論に対する疑問（誤判説） (9) 死刑廃止論に対する疑問（生命尊厳説） (10) 死刑廃止論に対する疑問（死刑残虐説） (11) 死刑廃止論に対する疑問（国際的潮流説） (12) 死刑廃止論に対する疑問（治安良好説） (13) 死刑廃止論に対する疑問（抑止無力説） (14) 死刑廃止論に対する疑問（捕虜説） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】中野進『国際法上の死刑存置論(普及版)』信山社 2002年 4-7972-3942-5	
成績評価方法と基準	<方法>テスト（80%）、レポートなど（20%） <基準>出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	国際法Ⅲ	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	21世紀の国際社会が緊密になればなるほど、国際社会の法である国際法の重要性は増大するでしょう。国際法の重要性に少しでも気付いて下さい。
	到達目標	現代においては、国内社会の他に国際社会も存在することが理解できる。国際問題に対する理解が深まる。
授業計画	(1) 国際法の基礎知識 (2) 国連憲章 (3) 植民地人民の自決権 (4) 国民の自決権 (5) 植民地支配の違法性 (1) (6) " (2) (7) 国家資格要件 (8) 国家承認 (9) 政府承認 (10) 政府代表権問題 (11) 非植民地化過程における自決権の役割 (12) 国内社会民主化過程における自決権の役割 (13) 国際社会民主化過程における自決権の役割 (14) 国連と自決権 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 中野進『国際法上の自決権[増訂新版](普及版)』信山社 2006年 443407735X	
成績評価方法と基準	【方法】 テスト (80%)、レポートなど (20%) 【基準】 出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	国際法Ⅳ	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	21世紀の国際社会が緊密になればなるほど、国際社会の法である国際法の重要性は増大するでしょう。国際法の重要性に少しでも気付いて下さい。
	到達目標	国内外の人権問題の理解が容易になる。特に、アジアにおける人権問題に対する理解が深まる。
授業計画	(1) 国際法の基礎知識 (2) 国連憲章 (3) 人権に関する基礎知識 (4) 中国民主化問題 (1) (5) " (2) (6) 台湾問題 (7) チベット問題 (8) 北朝鮮民主化問題 (9) ビルマ (ミャンマー) 問題 (10) 東チモール問題 (11) 西パプア (西イリアン) 問題 (1) (12) " (2) (13) インドネシア民主化問題 (14) ベトナム民主化問題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 中野進『アジアと自決権』信山社 2008年 4-434-12141-8	
成績評価方法と基準	【方法】 テスト (80%)、レポートなど (20%) 【基準】 出席しない者は不合格とする。	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。	

科目名	国際私法	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	近年の国際化は、渉外的私法関係（国際結婚など）問題を増加させているが、このような問題をいかなる国の法で解決するかを内外の法から選択して、渉外的私法生活の安全を確保する国際私法について学習する。
	到達目標	本講義においては、国際私法総論の基本的知識を習得することによって、渉外的事案（国際家族法を中心に）において準拠法がどのように決まるのかを理解することを目標とする。
授業計画	(1) 国際私法とは (2) 属人法について (3) 連結点とは (4) 性質決定の方法とその問題点 (5) 外国法の適用 (6) 外国法の内容の不明 (7) 反致とは (8) 不統一法国、人的不統一法国について (9) 先決問題 (10) 国際私法における公序 (11) 渉外的婚姻における準拠法の決定 (12) 渉外的離婚における準拠法の決定 (13) 渉外的親子関係において生じる問題 (14) 国籍法について (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	前半終了時にレポートを課す。
使用教材・参考文献	配布資料、および、講義において必要な文献を紹介する。	
成績評価方法と基準	レポート（30%）最終試験（50%）平常点（20%）により総合的に評価する。	
備考		

科目名	法哲学	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	この授業では、ヘーゲル『法哲学』を用いて、法とは何か、権力とは何か、国家とは何かなどの法哲学的諸問題を取り上げる。
	到達目標	ヘーゲルの西洋近代思想について学び、その法哲学について理解する。
授業計画	(1) 法哲学を学ぶためのオリエンテーション (2) 抽象的法権利 (3) 所有権 (4) 道徳的主体 (5) 習俗規範 (6) 個人と国家 (7) 国家学 (8) 自由 (9) 意思 (10) 精神 (11) 法権利 (12) ホッブス (13) スピノザ (14) ロック (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】ヘーゲル『法権利の哲学』未知谷 1991年	
成績評価方法と基準	<基準>ヘーゲルの法哲学が理解できたものは合格とする。 <方法>テスト (30%)、平常点(30%)、レポート(40%)	
備考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方などの説明)を行うので、必ず出席する。 教科書・ノートを事前に準備する。ルーズリーフは不可。	

科目名	法制史	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	西洋法制史を扱う。特に古代ローマ法の歴史的発展について説明する。
	到達目標	(1) 西洋法制史の概略に関する基礎的知識を習得する。 (2) 古代ローマ法の特質について、基本的な事項を理解する。
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 法制史とはなにか (3) 西洋法のながれ① (古代～中世) (4) 西洋法のながれ② (中世～近代) (5) 西洋法のながれ③ (近代～現代) (6) 大陸法とコモン・ロー① (7) 大陸法とコモン・ロー② (8) 古代ローマ法① (古代ローマの法観念) (9) 古代ローマ法② (十二表法) (10) 古代ローマ法③ (法務官法) – (11) 古代ローマ法④ (市民法と万民法) (12) 古代ローマ法⑤ (法学者達の活動) (13) 古代ローマ法⑥ (ユースティニアヌスによる法典編纂事業) (14) 中世における《ローマ法の再発見》 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】・【参】 講義時間中に指示・紹介する。	
成績評価方法と基準	レポートによって評価する。レポートに講義の内容が的確に反映され表現されているかどうかを評価の基準とする。なお、講義の最後に「学習報告（この講義を通じて学んだこと）」を提出する。	
備考	世界史（西洋史）の基礎知識を必要とする。関連する専門科目としては、法思想史、法哲学、政治史、外国史概説などがある。	

科目名	法社会学	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	法社会学は、「法」とそれが作動している「社会」の相互作用を、法的紛争の当事者や法による審判者ではなく第三者の目で観察する科学である。本講義は法社会学の入門科目である。受講生は、法社会学の見方・考え方を学ぶと共に、法律科目で学ぶ「裁判と判例」が社会の紛争処理過程のごく一部に過ぎないことを知り、それでも大学で「法」を学ぶことの意味を問い直すことになる。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法社会学における法の概念を理解できる。 ・民事司法過程/刑事司法過程/行政過程における法と社会の相互作用を理解できる。 ・具体例を通して、法をつくり法を活かす感覚を理解できる。 ・適切な資料・データの探索と分析・整理、及び文章化ができる。
授業計画	(1) インTRODクシヨンー法社会学とは/授業の進め方 (2) 法社会学における法の概念 (テキスト第1章) (3) 法専門職その1 (テキスト第2章第1節) (4) 法専門職その2 (テキスト第2章第3・4節) (5) 民事司法過程その1 (テキスト第3章第1・2節) (6) 民事司法過程その2 (テキスト第3章第3節) (7) 民事司法過程その3 (テキスト第3章第5節) (8) 刑事司法過程その1 (テキスト第4章第1・2節) (9) 刑事司法過程その2 (テキスト第4章第4節) (10) 刑事司法過程その3 (テキスト第4章第5節) (11) 行政過程その1 (テキスト第5章第1・2節) (12) 行政過程その2 (テキスト第5章第3・4節) (13) 日本の法と社会その1 (テキスト第6章第1節) (14) 日本の法と社会その2 (テキスト第6章第2節) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	教科書・参考文献の指定部分を、必ず事前に読んでおくこと。
	事後学習	不定期に授業冒頭で復習小クイズを行うので、復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】村山眞維・濱野亮『法社会学第2版』有斐閣, 2012年 ISBN 9784641124769 【参】宮澤節生他『ブリッジブック法システム入門ー法社会的アプローチ[第2版]』信山社, 2011. ISBN 9784797223347 浜田寿美男『自白の心理学』岩波新書, 2001. 浜井浩一『2円で刑務所、5億で執行猶予』光文社新書, 2009.	
成績評価方法と基準	<方法>単位レポート80% (添削を受け、再提出する) / 課題遂行20% <基準>科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。	
備考	講義だけでなく、資料探索と整理等の課題を組んでいる。	

科目名	政治理論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	個人の自由と社会全体の利益とをどう折り合いつけるかは、政治学が考え続けてきた最も大きな論点の一つです。個人の権利や自由が、社会を破壊しないか。逆に社会や公共を強調することが、個人の自由を押しつぶすことにならないか——。もちろんこの講義で今すぐ解答を示すことはできませんが、まずはこれまでの思想家たちの議論を整理することで、問題の所在を明らかにし、考えるきっかけを提供したいと思います。
	到達目標	ロックやスミスから、ニューリベラリズムやハイエクまで、自由をめぐる政治思想や理論の系譜を把握し、概要を把握するのが、この講義の目的です。講義内容の性格上、やや難解な部分も含まれますが、できるだけ分かりやすい説明を心がけますので、学生の皆さんも、毎回の出席や丁寧なノート作成など、積極的な取り組みを心がけてください。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 夜警国家から福祉国家へ (3) ロックの政治理論 (4) スミスの思想 (5) ベンサムの功利主義① (6) ベンサムの功利主義② (7) J・S・ミルの思想① (8) J・S・ミルの思想② (9) 社会有機体説 (10) ニューリベラリズムとフェビアン協会① (11) ニューリベラリズムとフェビアン協会② (12) ハイエクの批判① (13) ハイエクの批判② (14) パーリンの自由論 (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】川崎修、杉田敦編『現代政治理論』有斐閣、2006年 【参】岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年 佐々木毅、鷲見誠一、杉田敦編『西洋政治思想史』北樹出版、1995年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

科目名	政治学概論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	近代の政治思想から現代政治学までを概観します。近代や現代の思想家や政治学者たちが、政治をどう捉え、どう論じてきたのかを学び、今日の政治を考えていく上での糸口をつかんでください。
	到達目標	政治学には様々な研究分野がありますが、講義ではまず社会契約論など近代の政治思想を概観し、続いて米国政治学を中心に説明していきます。それぞれの内容を把握し、幅広い政治学の見取り図が描けるようになることが、この講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 近代の政治思想① (マキャベリ『君主論』) (3) 近代の政治思想② (ボダンの主権論) (4) 近代の政治思想③ (ホッブス『リバイアサン』) (5) 近代の政治思想④ (ロックとルソー) (6) 近代の政治思想⑤ (権力分立論ほか) (7) 現代の政治学① (米国政治学の系譜) (8) 現代の政治学② (メリアム、ラズウェルほか) (9) 現代の政治学③ (ベントレーほか) (10) 現代の政治学④ (政治システム論) (11) 現代の政治学⑤ (ラズウェルのエリート論ほか) (12) 現代の政治学⑥ (パワー・エリート論ほか) (13) 現代の政治学⑦ (権力関係説) (14) 現代の政治学⑧ (多元主義とその批判) (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年 【参】 堀江湛、岡沢憲英編『現代政治学 (第2版)』法学書院、2002年 岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

科目名	政治史	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	この講義では、第二次世界大戦後の政治史を概観します。まず米国とソ連の冷戦について概説し、その後、冷戦下のアジアについて確認していきます。
	到達目標	講義では、米ソの冷戦や、朝鮮戦争、ベトナム戦争などの経緯や背景を説明していきます。戦後政治史の全体をつかみ、日本との関係を考え、これからの国際政治を理解するための素地を作ることが、この講義の目的です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 冷戦とは何か (3) 米ソ冷戦① (冷戦体制の確立) (4) 米ソ冷戦② (ベルリン危機) (5) 米ソ冷戦③ (キューバ危機とデタント) (6) 米ソ冷戦④ (核軍縮の動き) (7) 米ソ冷戦⑤ (キッシンジャー外交) (8) 米ソ冷戦⑥ (冷戦の終結とソ連崩壊) (9) アジアの冷戦① (冷戦下のアジア) (10) アジアの冷戦② (中華人民共和国の成立) (11) アジアの冷戦③ (朝鮮戦争) (12) アジアの冷戦④ (ベトナム戦争) (13) その他の地域紛争 (14) 冷戦後の世界 (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2004年 【参】 佐々木卓也『戦後アメリカ外交史』有斐閣、2002年 五百旗頭真編『戦後日本外交史』有斐閣、1999年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

科目名	行政学	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	「行政」といっても、日常生活を送るうえでは、あまり身近に感じないかもしれません。実際、皆さんが役所に行くのは、引越しをした時やパスポートを取る時ぐらいでしょうか。しかし私たちの生活は様々な行政活動によって支えられていますし、私たちもまた税金を払うことなどを通じて行政活動を支えています。この講義では、関係がないようで実は身近な行政について考えていきます。
	到達目標	主に米国の行政学を中心に概説していきます。政治と行政の關係に悩み、行政の効率を追求することの是非を論じた米国の行政学者たちの議論を学び、日本の行政を考えるヒントを得ることが、この講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 行政学前史 (3) 米国行政学の系譜 (4) 猟官制 (5) 政治行政二分論 (6) 政治行政融合論 (7) 科学的管理法 (8) ギューリックの組織論 (9) 人間關係論 (10) 現代組織論 (11) 機械的能率觀 (12) 社会的能率觀 (13) 官僚制① (14) 官僚制② (15) 結論 (試験について)	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年 【参】村上弘、佐藤満編著『よくわかる行政学』ミネルヴァ書房、2009年 西尾勝『行政学 (新版)』有斐閣、2001年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

科目名	自治体政策論	
担当者	有馬 純春 / ARIMA, Sumiharu	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	住みやすい地域づくりの手法の一つである政策法務について、議員、職員、市民の立場からの学びを講義する。
	到達目標	議員、職員、市民の立場からの政策法務を学ぶことにより、地域づくりの主体としての認識が得られる。
授業計画	(1) はじめに (2) 法と法環境 (3) 地方分権改革と政策法務(1) (4) 地方分権改革と政策法務(2) (5) 行政職員のための政策法務(1) (6) 行政職員のための政策法務(2) (7) 議員のための政策法務(1) (8) 議員のための政策法務(2) (9) 市民のための政策法務(1) (10) 市民のための政策法務(2) (11) 政策法務実習(1) (12) 政策法務実習(2) (13) 法務のいろいろ (14) 政策法務の支援組織 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・次回テーマについて、インターネットなどで調べておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・プリントをファイルする際に、ポイントや専門用語の学び直しを行うこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配付するプリントを用いる。 【参】牧瀬 稔『条例で学ぶ政策づくり入門』東京法令出版 2009年 田口一博『一番やさしい自治体政策法務の本』学陽書房 2005年	
成績評価方法と基準	受講態度20%、終了試験80%（自治体の政策立案の意義と手法についての認識を基準とする。）	
備考		

科目名	現代自治体論	
担当者	有馬 純春 / ARIMA, Sumiharu	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	地域の暮らしを支える自治体を取り巻く「大状況」（財政危機、市町村合併、道州制など）について講義する。
	到達目標	「大状況」の動きとこれからの地域やこの国のあり方について学ぶことにより、地域の主体としての認識が得られる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) はじめに (2) 変化する行政環境(1) (3) 変化する行政環境(2) (4) 地方分権 (5) 政策官庁としての自治体 (6) 自治体の政策活動 (7) 地方議会(1) (8) 地方議会(2) (9) 公務員制度(1) (10) 公務員制度(2) (11) 財政危機 (12) 市町村合併(1) (13) 市町村合併(2) (14) 道州制 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメなどをファイルする際に、ポイントや専門用語の学び直しを行うこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】 佐々木信夫『自治体をどう変えるか』 筑摩書房 2006年</p> <p>【参】 岩崎芳太郎『地方を殺すのは誰か』 PHP研究所 2009年</p> <p>古賀茂明 『日本中枢の崩壊』 講談社 2011年</p>	
成績評価方法と基準	受講態度20%、終了試験80%（自治体を取り巻く状況及びそれへの対応についての主要な認識を基準とする。）	
備考		

科目名	国際関係論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	現代の社会は、国際関係の変動と無関係ではありえません。そこで、この講義では国際関係をめぐる様々な理論を紹介し、複雑な国際関係を理解していく糸口を探ります。
	到達目標	国際関係の理論は、大きく現実主義と理想主義（制度主義）とに区分することができます。このほか、構造主義などと呼ばれる理論や、一国の対外政策の決定過程を分析する理論などもあります。講義ではこうした国際関係理論の系譜を確認し、それぞれの理論が示す論点について考えていきます。各理論の概要や特徴をつかんで、複雑な国際関係を構造的に把握し、考えられるようになるのが、この講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 国家について①（国際政治のアクター） (3) 国家について②（主権国家ほか） (4) ナショナリズムとエスニシティ① (5) ナショナリズムとエスニシティ② (6) 国際政治理論の系譜 (7) 現実主義①（勢力均衡論） (8) 現実主義②（覇権安定論、覇権循環論ほか） (9) 制度主義①（新機能主義、相互作用主義） (10) 制度主義②（相互依存論、レジーム論ほか） (11) 構造主義①（従属論、構造的暴力論） (12) 構造主義②（世界システム論ほか） (13) ミクロ理論①（政策決定論） (14) ミクロ理論②（リンケージ・ポリティクス論ほか） (15) 結論（試験について）	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2004年 【参】 石井貫太郎『現代国際政治理論』ミネルヴァ書房、2002年 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

科目名	経済学	
担当者	永里 紘二 / NAGASATO, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	経済理論で現実の経済現象を分析します。
	到達目標	経済学的なロジックに基づいて冷静に事態を分析し推論する力を養います。
授業計画	<p>家計の経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 資源の希少性と欲望の無限大と経済的誘因 (2) 効率的選択 (3) 取引とお金 (4) 労働 (5) 税金 <p>企業の経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> (6) 起業家 (7) 企業 (8) 均衡価格——市場価格、消費者の気持ち、売り手の気持ち (9) 賃金 <p>金融の経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> (10) 家計、企業と銀行 (11) 金利 <p>政府の経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> (12) 財政政策 (13) 市場の失敗 <p>貿易の経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> (14) 比較生産費説 (15) 外国為替相場 	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】池上彰『池上彰のやさしい経済学』日本経済新聞出版社	
成績評価方法と基準	中間試験40点、期末試験60点とします。	
備考		

科目名	財政学	
担当者	朴 源 / PARK, Won	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	財政学は、「公共部門の経済活動」を対象とする経済学の一分野である。「公共部門」とは、国、地方公共団体、およびそれらの関連部門を指す。これら公共部門の「経済活動」は、国防、治安など、市場取引になじまない「公共財」を供給し、そのための資金を租税や公債で調達することを主な内容としている。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公共部門と民間部門の経済活動の違いを理解する。 2) 政府支出の現状と問題点を理解する 3) 政府収入の現状と問題点を理解する。 4) 所得税の確定申告ができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 現代資本主義と財政 (2) 公共部門の範囲と規模 (3) 予算の理論と日本の予算制度 (4) 政府支出の現状と課題 (5) 政府収入の現状と課題 (6) 租税の意義と特質 (7) 課税要件と租税の分類 (8) 租税の経済効果 (9) 所得課税の理論と現実 (10) 資産課税の理論と現実 (11) 消費課税の理論と現実 (12) 企業課税の理論と現実 (13) 社会保障の現状と課題 (14) 分権化と自治体財政 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎回、小テストを行うので、必ず復習すること。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。講義中で配布するプリントを用いる。</p> <p>【参】講義中に適宜指定する。</p>	
成績評価方法と基準	小テスト (25点)・レポート (25点) 中間テスト (25点)・期末試験 (25点)	
備考		

科目名	経済政策	
担当者	永里紘二 / NAGASATO, Kouji	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	経済政策の必要性，経済政策論の内容について講義する。 国家公務員中級試験合格のための講義、演習を実施する。
	到達目標	私たちが生活している社会の中で，何故経済政策が必要なのか，どのような経済政策論が論議されているのかの知見を得る。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) はじめに (2) 経済政策の思想と歴史 (3) 発展と成長の経済政策 (4) 安定のための経済政策 (5) 々 (6) 資源配分と公共政策 (7) 中間試験 (8) 公正のための分配政策 (9) 産業構造と産業政策 (10) 国際間の経済政策 (11) 々 (12) 経済体制と経済改革 (13) 々 (14) 現代の政策課題 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】丸尾直美・鈴木守著『経済政策』法学書院 『公務員合格ゼミ』桐原書店	
成績評価方法と基準	中間試験40点、期末試験60点とします。	
備考		

科目名	金融論 I	
担当者	永里 紘二 / NAGASATO, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	金融の仕組み、金融機関の役割、金融市場の働きなどをわかりやすく解説します。
	到達目標	身近な経済現象を金融の知識でもって分析できる力を養います。
授業計画	(1) 金融とは何か (2) 々 (3) 銀行の仕組みと役割 (4) 々 (5) 銀行以外の金融機関 (6) 々 (7) 中央銀行の役割と機能 (8) 々 (9) 企業金融の基礎知識 (10) 々 (11) 金融市場と市場価格 (12) 々 (13) 国際金融の基礎知識 (14) 々 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】塚崎公義-山澤光太郎著『やさしい金融』東洋経済新報社	
成績評価方法と基準	中間試験40点、期末試験60点とします。	
備考		

科目名	金融論Ⅱ	
担当者	永里 紘二 / NAGASATO, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	金融論Ⅰで学んだ知識をもとに、わが国の金融が実際にどうなっているのかを見てみる。
	到達目標	日本経済新聞などを賑わせている最新の動きやキーポイントになる専門用語に興味を抱きかつ理解できるようにします。
授業計画	わが国の金融の姿 (1) ニクソン・ショックとプラザ合意 (2) バブルの時代 (3) 不良債権問題と金融危機 (4) 小泉構造改革 (5) 公的金融の改革 (6) 戦後の為替レートの推移 (7) 戦後の株価の推移 わが国の金融の現状 (8) 銀行業界の概要 (9) メインバンク制 (10) 家計の金融資産 (11) 財政赤字 (12) 国際収支の現状 (13) サブプライム問題から発生した金融危機 知っておきたい金融知識 (14) 基本的な関連用語 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】 やさしい金融 塚崎公義、山澤光太郎 発行所 東洋経済	
成績評価方法と基準	中間試験40点、期末試験60点とします。	
備考		

科目名	社会保障論	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、医療保険法について判例を紹介しつつ講義します。
	到達目標	公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、医療保険法の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 公的扶助法1 (2) 公的扶助法2 (3) 公的扶助法3 (4) 社会福祉法1 (児童福祉法) (5) 社会福祉法2 (児童福祉法) (6) 社会福祉法3 (障害者福祉法) (7) 社会福祉法4 (高齢者福祉法)、介護保険法1 (8) 介護保険法2 (9) 社会福祉法5 (10) 社会福祉法6 (11) 医療保険法1 (12) 医療保険法2 (13) 医療保険法3 (14) 医療保険法4 (15) 医療保険法5	
自学自習	事前学習	・教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・小テスト及び期末試験の準備のために復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】加藤智章・菊池馨実・倉田聡・前田雅子『社会保障法（第5版）』有斐閣 2013年 予価2520円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、医療保険法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>小テスト（10点×5回）＋期末試験（50点）で評価します。	
備考	後期開講の「社会政策」では、年金保険法、労災保険法、雇用保険法、社会手当法を講義します。	

科目名	社会政策	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	年金保険法、労災保険法、雇用保険法、社会手当法について判例を紹介しつつ講義します。
	到達目標	年金保険法、労災保険法、雇用保険法、社会手当法の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 年金保険法1 (2) 年金保険法2 (3) 年金保険法3 (4) 年金保険法4 (5) 年金保険法5 (6) 労災保険法1 (7) 労災保険法2 (8) 労災保険法3 (9) 労災保険法4 (10) 労災保険法5 (11) 労災保険法6 (12) 雇用保険法1 (13) 雇用保険法2 (14) 社会手当法1 (15) 社会手当法2	
自学自習	事前学習	・教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・小テスト及び期末試験の準備のために復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】加藤智章・菊池馨実・倉田聡・前田雅子『社会保障法（第5版）』有斐閣 2013年 予価2520円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>年金保険法、労災保険法、雇用保険法、社会手当法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>小テスト（10点×5回）＋期末試験（50点）で評価します。	
備考	前期開講の「社会保障論」では、公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、医療保険法を講義します。	

科目名	経営学	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、経営学および経営実践に関する基礎的知識（経営学検定試験初級レベル、公務員試験レベル）の修得を目的とします。具体的には、経営学の重要テーマ（経営理論、企業論、経営組織、経営管理、経営戦略、経営課題など）について基本的な理論を学習します。マネジメントに興味がある方、経営学検定試験に合格したい方、公務員試験で経営学が必要な方は是非受講してください。
	到達目標	ビジネスにおける経営能力の初歩を身につけ、経営学検定試験初級に合格する程度の実力をつけること。なお、昨年度（平成24年度）は、10名の受講者中8名が合格しております。
授業計画	(1) ガイダンス、企業論①（企業と経営） (2) 企業論②（会社の諸形態と所有と経営の分離） (3) 企業論③（コーポレート・ガバナンス） (4) 企業論④（日本的経営） (5) 経営学の歴史①（テイラー、フォード、ホーソン実験） (6) 経営学の歴史②（近代組織論、その他） (7) 経営組織論①（経営組織の歴史） (8) 経営組織論②（経営組織の諸形態） (9) 経営管理論（動機付け理論、リーダーシップ論、経営計画、統制） (10) 経営戦略論①（基礎概念、経営戦略の歴史、全社戦略、機能別戦略） (11) 経営戦略論②（人事戦略） (12) 経営戦略論③（生産戦略） (13) 経営戦略論④（マーケティング戦略） (14) 経営課題①（M&Aと買収防衛策、経営のグローバル化） (15) 経営課題②（情報化、企業の社会的責任、環境経営）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	経営学検定試験・公務員試験の過去問を配布するので、復習として、指定された箇所を必ず理解・暗記してきてください。
使用教材・参考文献	【教】経営能力開発センター編『経営学検定試験公式テキスト① 経営学の基本』（中央経済社、2009年）。	
成績評価方法と基準	経営学検定試験の結果、そして、平常点を加味し、総合的に評価いたします。	
備考	①経営学検定試験の受験（受験料4500円の予定）は、単位認定に当たって必須です。 ②教科書は必ず携帯して講義に参加しましょう。 ③遅刻・欠席・私語等、講義にあたってのマナー違反は厳しく対処します。 ④時間外の補講が、必ず行われます。必ず出席すること。	

科目名	会計学	
担当者	林 高宏 / HAYASHI, Takahiro	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	超巨大企業でも、近所の八百屋さんでも、会計に関しては同じルールが適用されます。また、それは日本だけではなく、海外でも同じです。授業では、帳簿の流れを理解し、そこから得られる決算書（損益計算書・貸借対照表）を理解し、その応用（キャッシュフロー計算書から会社の未来像を予測・財務分析）まで学び、具体的な改善策を立案できるよう学習していきます。
	到達目標	会計学の基本を学び、会社を設立した時、起業した時、どんな帳簿をつけないといけないか、また、経営データをどう分析し、今後の実務に役立てればいいのかについて学習します。
計画	(1) 会計学入門1 簿記一順の流れについて学習します (2) 会計学入門2 「仕分け」の基礎につき学習します (3) 会計学入門3 「勘定科目」にはどんなものがあるかを学びます (4) 会計学入門4 「総勘定元帳」の作成方法を学びます (5) 会計学入門5 「試算表」の意味を理解し、実際に作成します (6) 損益計算書1 試算表からの作成方法を学びます (7) 損益計算書2 損益計算書の見方について学びます (8) 貸借対照表1 試算表からの作成方法を学びます (9) 貸借対照表2 貸借対照表の見方について学びます (10) 会社の経営状態の見方を学びます (11) キャッシュフロー計算書1 作成方法を学びます (12) キャッシュフロー計算書2 見方について学びます (13) 会社の経営状態の未来像を予測します (14) 財務分析 今後の会社の経営状態を改善する方法を学びます (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要、および次回までに復習するべき事項 ・区切りのいいところで小テストを行う ・授業の初めに、過去問から小テストを行う
使用教材・参考文献	「ビジネス会計検定試験公式テキスト3級」大阪商工会議所編 中央経済社	
績評価方法と基準	修了試験（60点）、出席（40点）	
備考	出席点は減点方式。5回までは2点、それ以上の欠席は3点マイナスします。	

科目名	法学入門	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	初めて法学を学ぶ人のために、最も基本となる事項を扱う。
	到達目標	次の3点を主な目標とする。 ① 法学で用いられる基本的な用語を正確に理解する ② 法学に特有な《ものの見方・考え方》を知る ③ 法学の学び方について知り、自分なりのやり方で日々実行できるようにする
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 法学の学習方法① (3) 法学の学習方法② (4) 法と社会生活② (5) 法と社会生活② (6) 法の歴史 (7) 法体系の基礎① (8) 法体系の基礎② (9) 法解釈の基礎 (10) 法制度論の基礎 (11) 法と法学の諸分野① (12) 法と法学の諸分野② (13) 条文・判例の読み方の基礎① (14) 条文・判例の読み方の基礎② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】 ①『2013年版 U-CANの行政書士 はじめてレッスン [第3版]』 （自由国民社、2012年）ISBN-13: 978-4426604301 ②『法学検定試験問題集（ベーシックコース）』（2013年度版） ※①②のいずれも、後期開講の「公法入門」と共通 【参】 そのほかのものは、講義時間中に指示・紹介する。	
成績評価方法と基準	提出物及び試験による。法学検定試験（ベーシックコース）の「法学入門」程度の内容理解を、成績評価の基準とする。	
備考	勉強で一番大事なことは、「やる気」です。何事にも意欲的に取り組んでください。	

科目名	公法入門（憲法・行政法）	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	憲法及び行政法の基礎的事項を扱う。
	到達目標	憲法及び行政法について、より詳しい専門的な内容を学ぶための予備知識を得ることを目標とする。
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 法の分類（公法と私法） (3) 憲法の基礎知識 (4) 統治機構総論 (5) 基本権総論 (6) 基本権各論その1 (7) 基本権各論その2 (8) 憲法のまとめ (9) 行政法総論 (10) 行政組織法 (11) 行政作用法 (12) 行政手続法 (13) 行政不服審査と行政訴訟 (14) 国家賠償法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】①『2013年版 U-CANの行政書士 はじめてレッスン [第3版]』（自由国民社、2012年）ISBN-13: 978-4426604301 ②『法学検定試験問題集（ベーシックコース）』（2013年度版） ※前期開講の「法学入門」と共通 【参】そのほかのものは、講義時間中に指示・紹介する。	
成績評価方法と基準	提出物及び試験による。憲法では、法学検定試験（ベーシックコース）の「憲法」程度の内容理解を成績評価の基準とする。行政法では、主な行政救済制度についての基礎知識を修得しているかどうかを成績評価の基準とする。	
備考	(1) この講義は、「法学入門」の内容を理解していることが前提です。 (2) 何よりも「やる気」をもって取り組んでください。	

科目名	民法法入門 I	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	私達の生活の様々な場面と密接な関係をもつ民法のうち、実体法である民法の総則編と物権編の基礎を、事例を挙げつつ初学者のためにわかりやすく説明する。
	到達目標	民法の基本的内容を理解し初歩的な法的思考力を習得すること、専門科目の履修への準備となることを目標とする。
授業計画	(1) 民法とは (2) 権利と義務・権利の主体・物 (3) 法律行為（無効と取消） (4) 法律行為（意思表示総説） (5) 法律行為（意思表示瑕疵）① (6) 法律行為（意思表示瑕疵）② (7) 法律行為（権利能力・意思能力・行為能力） (8) 代理 (9) 時効 (10) 物権（物権の意義と種類） (11) 物権（所有権の取得）① (12) 物権（所有権の取得）② (13) 物権（物権的請求権） (14) 担保物権 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	テキスト及び配布資料を必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】野村豊彦著『民法法入門 第5版』2009年 有斐閣アルマ ISBN 9784641123212 配布資料 【参】潮見佳男著『入門民法（全）』2010年 有斐閣 ISBN 9784641134997 その他は講義の中で適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	学期末試験（80%）と授業態度等（20%）により評価する。 基準については、第1回講義で説明する。	
備考	六法を持参すること（ポケット六法で可）。	

科目名	民事法入門Ⅱ	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	私達の生活の様々な場面と密接な関係をもつ民事法のうち、実体法である民法の債権編と親族・相続編の基礎を、事例を挙げつつ初学者のためにわかりやすく説明する。
	到達目標	民事法の基本的内容を理解し初歩的な法的思考力を習得すること、専門科目の履修への準備となることを目標とする。
授業計画	(1) 契約とは (2) 契約（契約の成立、契約の効果） (3) 契約（双務契約における2つの債務の関係）① (4) 契約（双務契約における2つの債務の関係）② (5) 契約（契約の履行、契約の不履行） (6) 契約（売買）① (7) 契約（売買）② (8) 契約（賃貸借） (9) 債務の弁済 (10) 債権回収手段（責任財産の保全、債権譲渡）① (11) 債権回収手段（責任財産の保全、債権譲渡）② (12) 不法行為・事務管理・不当利得 (13) 家族・親子・扶養 (14) 相続 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・テキスト及び配布資料を必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】野村豊彦著『民事法入門 第5版』有斐閣アルマ 2009年 ISBN 9784641123212 配布資料 【参】潮見佳男著『入門民法（全）』有斐閣 2010年 ISBN 9784641134997 その他は講義の中で適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	学期末試験（80%）と授業態度等（20%）により評価する。 基準については、第1回講義で説明する。	
備考	民事法入門Ⅰを履修していることが望ましい。 六法を持参すること（ポケット六法で可）。	

科目名	刑事法入門	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	刑事事件とは具体的にどのようなものなのか。過去の有名な事件を取り上げて解説をする。なお、極めて最近の事件を取り上げることもある。
	到達目標	刑事事件が、我々の生活の身近なところに存在しているということを知ることによって、なぜ刑事法を勉強しなければならないのかを理解することができる。同時に学問としての刑事法学の面白さを知ることができる。
授業計画	(1) 刑事法とは何か (2) 栃木実父殺人事件 (3) 大阪二児置き去り事件 (4) 布川事件 (5) 足利事件 (6) 飯塚事件 (7) 名張毒ぶどう酒事件 (8) 袴田事件 (9) 和歌山砒素カレー事件 (10) 舞鶴女子殺害事件 (11) 尼崎連続死体遺棄事件 (12) 東京埼玉連続女子殺傷事件 (13) 山口県光市母子殺害事件 (14) 神戸児童殺傷事件 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	ニュースや新聞などに注目する。
	事後学習	授業で取り上げた内容を身近なものとして常に意識する。
使用教材・参考文献	【教】特に指定はしない。講義前に毎回プリントを配布する。 【参】ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	定期試験の結果で判定する。出席は採らない。	
備考	質問などがあれば、いつでも受け付ける。授業後、学校外、メールなどによる質問の受け付けも常時行う。	

科目名	裁判法入門（司法制度基礎）	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	裁判手続を身近に感じる機会が多くなった今日の情報化社会の中で、わが国の司法制度の仕組み及びそれを支える法律家の実態等について、実務例を紹介しながら概説します。
	到達目標	各種裁判手続の概要を理解し、裁判実務が具体的にどのように行われているのかイメージを掴めるようになる。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 民法の実現と民事手続(1-21) (3) 刑法の実現と刑事手続(21-44) (4) 司法権と違憲審査権(44-59) (5) 裁判所制度(61-95) (6) 法律家の役割(97-148) (7) 裁判の仕組み（民事裁判）（149-181） (8) 裁判の仕組み（家事裁判）（182-185） (9) 裁判の仕組み（行政裁判）（186-205） (10) 裁判の仕組み（刑事裁判）（205-238） (11) 裁判の仕組み（憲法裁判）（239-250） (12) 裁判をめぐる現代的課題（裁判を受ける権利）（251-262） (13) 裁判をめぐる現代的課題（国民の司法参加）（262-277） (14) 裁判をめぐる現代的課題（国際化と裁判、司法制度改革）（278-301） (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前にお読みください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	<p>【教】市川＝酒巻＝山本『現代の裁判 第5版』有斐閣アルマ 2010年 ISBN:978-4-641-12363-2</p> <p>【参】小島武司『ブリッジブック裁判法〔第2版〕』信山社 2010年</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>〈方法〉小レポートの結果(30%)、期末試験の結果（70%）を総合評価します。</p>	
備考	六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。	

科目名	法学特殊講義Ⅰ	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	公法入門あるいは民事法入門等の入門講座において習得した基礎的な知識及び法的思考能力をより高めていくため、演習書を利用した問題演習を行い、基礎的な知識の定着が図れるように講義する。
	到達目標	公法及び民事法に関わる基本的な部分について学び、法的思考能力を養い、法的な問題について自ら考え、一定の結論が導き出せるようになることを目標とする。
授業計画	(1) 基礎法学 (法体系の基礎) (2) 基礎法学 (法解釈の基礎) (3) 基礎法学 (法制度論の基礎) (4) 憲法総論 (5) 人権総論 (6) 人権各論 (1) (7) 人権各論 (2) (8) 統治機構 (1) (9) 統治機構 (2) (10) 行政法総論 (11) 情報公開法 (12) 個人情報保護法 (13) 行政手続法 (1) (14) 行政手続法 (2) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義時間に作成したノートと教科書を照し合せながら復習を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】『2013年版 U-CANの行政書士 はじめてレッスン』（自由国民社、2012年）ISBN 978-4-426-60430-1 『法学検定試験問題集ベーシック』（2013年度版） 【参】講義時に適宜紹介します。	
成績評価方法と基準	受講態度 20%、終了試験 80%により評価する。	
備考	法学特殊講義Ⅰ・Ⅱは継続して受講することが望ましい。	

科目名	法学特殊講義Ⅱ	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	公法入門あるいは民事法入門等の入門講座において習得した基礎的な知識及び法的思考能力をより高めていくため、演習書を利用した問題演習を行い、基礎的な知識の定着が図れるように講義する。
	到達目標	公法及び民事法に関わる基本的な部分について学び、法的思考能力を養い、法的な問題について自ら考え、一定の結論が導き出せるようになることを目標とする。
授業計画	(1)行政救済法 (1) (2)行政救済法 (2) (3)行政救済法 (3) (4)国家賠償法 (1) (5)国家賠償法 (2) (6)国家賠償法 (3) (7)民法総則 (1) (8)民法総則 (2) (9)物権 (1) (10)物権 (2) (11)担保物権 (12)債権総論 (13)債権各論 (14)親族・相続 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義時間に作成したノートと教科書を照し合せながら復習を行うこと。
使用教材・参考文献	【教】『2013年版 U-CANの行政書士 はじめてレッスン』（自由国民社、2012年）ISBN 978-4-426-60430-1 『法学検定試験問題集ベーシック』（2013年度版） 【参】講義時に適宜紹介します。	
成績評価方法と基準	受講態度 20%、終了試験 80%により評価する。	
備考	法学特殊講義Ⅰ・Ⅱは継続して受講することが望ましい。	

科目名	リーガルリサーチ	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	インターネットを使った情報収集は、日常的なものになっている。けれども、情報はネットだけで得られるとは限らないし、ネットで得た情報の「質」には十分に注意を払う必要がある。本講義では、デジタル、アナログを問わず、法律分野で必要な情報検索(リーガルリサーチ)の様々な手法について解説する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書、雑誌、新聞といった印刷資料の基礎的事項について理解を深め、それらの資料を検索できるようになる。 ・ データベース、ネットで公開されるデジタル資料の基礎的事項について理解を深め、その活用ができるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義についての紹介、コンピュータの基本操作のおさらい (2) 情報検索の基礎知識 (3) 情報検索の対象となる資料についての基礎知識 (4) 情報検索の対象となる資料についての基礎知識 (5) 情報検索の方法と手順 (6) 法令の基礎知識 (7) 法令資料と情報源 (8) 法令の探し方 (9) 判例の基礎知識 (10) 判例資料と情報源 (11) 判例の探し方 (12) 文献の基礎知識 (13) 文献の探し方 (14) 情報のまとめ方／引用の方法 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の課題を必ずやること。
使用教材・参考文献	<p>【教】 いちかわまりこ他、編著『リーガルリサーチ』日本評論社</p> <p>【参】 その他ハンドアウト、文献の紹介も適宜行なう。</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 「与えられた課題の題意に沿った情報の収集とまとめができているか」を合否判断の基準とする。</p> <p><方法> 受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。</p>	
備考		

科目名	法ビジネス基礎演習 I	
担当者	◎近藤 諭 / KONDO, Satoru 小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	社会や地域の一員として様々な関係の中で生活を組み立てるための基礎的な知識や視点を、自ら調べ報告するといった作業を通じて身につける。実際の企業人の講義も実施する。
	到達目標	企業の実態把握を通して、自分の将来の目標を確かな姿に描けるようになり、企業人、地域人として地域社会へ貢献できる人材となる。
授業計画	(1) 授業の進め方とガイダンス (2) 現代社会とグローバリゼーション① (3) 現代社会とグローバリゼーション② (4) 現代社会とグローバリゼーション③ (5) 鹿児島県の地域経済① (6) 鹿児島県の地域経済② (7) 鹿児島県の地域経済③ (8) 鹿児島県の地域経済④ (9) ビジネスマナー講座 (10) インターンシップ先マッチング希望調査 (11) インターンシップ先研究① (12) インターンシップ先研究② (13) インターンシップ先マッチング (14) 経歴書・お礼状の作成 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	新聞を読んでおくこと。
	事後学習	講義中に指示する。
使用教材・参考文献	【教】 講義中に指示する。 【参】 講義中に指示する。	
成績評価方法と基準	受講態度40%、理解度テスト30%、レポート提出30%	
備考	インターンシップは「法ビジネス基礎演習Ⅱ」で夏季休暇中に実施する。	

科目名	法ビジネス基礎演習Ⅱ	
担当者	◎小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi 近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	インターンシップを夏季休暇中に集中（5日程度）実施する。 インターンシップ修了報告会を後期に実施する。
	到達目標	企業の実態把握を通して、自分の将来の目標を確かな姿に描けるようになり、企業人、地域人として地域社会へ貢献できる人材となる。
授業計画	(1) インターンシップ夏季集中5日間程度 (2) // (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) 修了報告会① 後期に実施 (13) 修了報告会② 後期に実施 (14) 修了報告会③ 後期に実施 (15) 修了報告会まとめ 後期に実施	
自学自習	事前学習	新聞を読んでおくこと
	事後学習	講義中に指示する。
使用教材・ 参考文献	【教】講義中に指示する。 【参】講義中に指示する。	
成績評価方法 と基準	インターンシップ参加60% 修了報告会30% レポート10%	
備考	「法ビジネス基礎演習Ⅰ」を受講していない学生は履修できない。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	ヘーゲル法哲学の講読を通じて、近代市民社会の有する諸問題について考察する。
	到達目標	私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることを理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 抽象的法権利 (3) 所有権 (4) 財産 (5) 占有取得 (6) 契約 (7) 不法越権 (8) 詐欺 (9) 強制 (10) 犯罪 (11) 道徳態 (12) 意図 (13) 責任 (14) 幸福 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】ヘーゲル『法哲学』	
成績評価方法と基準	<基準>ヘーゲル法哲学の講読を通じて、私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることに対する理解が達成されたものは合格とする。 <方法>発表内容60%、受講態度40%。	
備考		

科目名	専門演習 I A	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	全員が取り組む共通素材として商法・会社法があるものの、各自の進路（就職・資格・公務員試験・進学等）に応じて課題を決定する。
	到達目標	ゼミ生それぞれが、文献調査・レポート作成・討論等を通じて、リーガルマインドとコミュニケーション能力を養うことを目的とする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の進路に応じた研究発表 (3) 各自の進路に応じた研究発表 (4) 共通テーマによる討論 (5) 各自の進路に応じた研究発表 (6) 各自の進路に応じた研究発表 (7) 共通テーマによる討論 (8) 各自の進路に応じた研究発表 (9) 各自の進路に応じた研究発表 (10) 共通テーマによる討論 (11) 各自の進路に応じた研究発表 (12) 各自の進路に応じた研究発表 (13) 共通テーマによる討論 (14) 各自の進路に応じた研究発表 (15) 前期講評	
自学自習	事前学習	発表者かどうかとは無関係に、毎回全員に宿題を出すのでそれに取り組む。
	事後学習	発表・討論で得た知識を各自の個人課題に還元する。
使用教材・参考文献	【教】江頭憲治郎ほか編「会社法判例百選（第2版）」有斐閣2011年 【参】伊藤・大杉・齊藤・田中・松井「事例で考える会社法 法学教室ライブラリィ」有斐閣	
成績評価方法と基準	個人課題への取り組み50%、討論への参加態度50%で評価する。	
備考	裁判傍聴等を行う場合もあるので、そのつもりでいて下さい。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	企業に採用され企業人として過ごす人生を通して、法律はどのように我々に関わっているのかを、事業主と労働者の関係を通して雇用の入り口から出口まで理解する。
	到達目標	ビジネスの現場で社会人として要求される必要最低限備えておかなければならないものは何かを自ら研究し実践できるようにする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 参考文献講読 (3) 参考文献講読 (4) 参考文献講読 (5) 参考文献講読 (6) 参考文献講読 (7) 参考文献講読 (8) 参考文献講読 (9) 参考文献講読 (10) 参考文献講読 (11) グループ発表 (質疑応答) (12) グループ発表 (質疑応答) (13) グループ発表 (質疑応答) (14) グループ発表 (質疑応答) (15) グループ発表 (質疑応答)	
自学自習	事前学習	・日経新聞を読んで意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・適宜、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】別途、指示する。 【参】別途、指示する。	
成績評価方法と基準	受講態度40% 発表60% 総合的に評価する。	
備考		

科目名	専門演習 I A	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	社会学の考え方に触れ、それを身につけるため、理論に偏った文献の講読を行うことで、社会を把握する論点を身につける。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会の論点について一定程度の知識を身につけられる。 ・ 社会の諸事象に対して、自分の視点で問題意識を持つことができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 前期の進め方の説明 (2) 前期講読文献の決定 (3) 文献報告 (1) (4) 文献報告 (2) (5) 文献報告 (3) (6) 文献報告 (4) (7) 文献報告 (5) (8) 文献報告 (6) (9) 文献報告 (7) (10) 文献報告 (8) (11) 文献報告 (9) (12) 文献報告 (10) (13) 文献報告 (11) (14) 文献報告 (12) (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	自分の報告、他者の報告を問わず、新たに知り得たことを、自分の問題意識を研ぎ澄ますために、使えるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】【参】 授業中で指示する。	
成績評価方法と基準	報告内容、質問内容、レポート内容を勘案し、現代社会の論点について一定程度の知識が身につけており、自分の視点で問題意識を持つことができたこと認められた場合に合格点とする。報告、質問などの参加姿勢50%、レポート50%	
備考	主体的に参加していない態度が見受けられると判断した時点で、履修を取り消すことがある。報告者以外の参加者は、司会者役、質問する義務を負うこと。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	まず、生涯学習とキャリア教育の理論・事例・方法・情報などを知るために、テキストを読み、社会分析も行う。担当者が分担部分についてまとめ、報告し、論題を提起する。それをもとに全体で議論する。次に、体験や実践、外部との交流の機会を設け、様々な局面でプレゼンテーションを行う。そして、それらを生涯学習・キャリア教育の観点から振り返る。
	到達目標	①生涯学習・キャリア教育に関わる問題や論点について報告し議論する中で、自分の言葉で自分の意見を筋道率てて述べる「論理的思考力」と「発信力」を向上させる。 ②ゼミ生同士が自己開示を楽しみつつ交流することで、社会生活で必須の「コミュニケーション力」を高める。 ③職場・地域・家庭生活について生涯学習の観点から意味づけし、体験をもとに就業観・人生観・地域観を醸成する。 ④就業力と生涯開発力を磨く。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自のキャリアデザインをもとに、アクションプランを練る。 (3) " (4) テキストと社会分析をもとに報告し、議論する。 (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) 体験・実践および外部との交流を行う。 (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだ内容について、常に自己にひきつけて考察し、書きとめていくこと。
使用教材・参考文献	【教】 香川正弘ほか編 『よくわかる生涯学習』 ミネルヴァ書房 2008年 ワークシート等のプリント 【参】 渡辺峻編著 『大学生のためのキャリア開発入門』 中央経済社 2008年	
成績評価方法と基準	出席・参加態度 (70%)、プレゼンテーション (30%) によって総合的に評価する。	
備考	懇親会やゼミ旅行など課外での活動も予定しているので、積極的な参加と、人との出会いを大事にして楽しむ姿勢を求める。また、ゼミ生の希望に沿って、様々な実践や交流の場を設けたいので、率先して提案してほしい。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	刑法総論、刑法各論で勉強したことを基礎に、模擬裁判の作成を行う。模擬裁判は、シナリオの作成から実演まで行う。
	到達目標	模擬裁判を通して、教科書の上での勉強だけではなく、「生きた刑法」を学ぶ。模擬裁判は、裁判に関わる全ての人の役割を身をもって体験することができるので、限りなく実践に近い形で刑法を学ぶことができる。
授業計画	(1) 実際に模擬裁判を見てみよう。(過去の模擬裁判映像) (2) 模擬裁判へ向けての計画を立てる。～役割分担を決める～ (3) 裁判傍聴 ～実際に裁判を見てみよう～ (4) シナリオ作成① ～模擬裁判のテーマを決める～ (5) シナリオ作成② ～そのテーマに沿った過去の事件を調べる～ (6) シナリオ作成③ // (7) シナリオ作成④ // (8) シナリオ作成⑤ // (9) シナリオ作成⑥ ～具体的なシナリオの作成に着手～ (10) シナリオ作成⑦ // (11) シナリオ作成⑧ // (12) シナリオ作成⑨ // (13) シナリオ作成⑩ // (14) シナリオ作成⑪ // (15) シナリオ作成⑫ //	
自学自習	事前学習	・常に刑事事件のニュースなどに注目する。
	事後学習	・作成したシナリオを理解すること。
使用教材・参考文献	ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	出席と演習への取り組みの姿勢で判定する。	
備考	4年生も3年生も常に合同で演習を行うので、各人の協調性・チームワークを大切にしよう。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	家族法の分野の中から各自テーマを選択し、発表する。そして、発表者の内容を基にして生ずる疑問点や意見を話し合うことで互いの理解を深める。
	到達目標	民法の中でも家族法を中心とした基礎的知識を認識し、多くの論点の中から問題意識を持つことが前提条件となる。その後、各自がその問題について調べ、まとめ、発表するという一連の作業を経ることで、総合的な家族法の知識を持つことを目標とする。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 演習進行説明 (2) 家族法に関する文献の講読 (3) 家族法に関する文献の講読 (4) 家族法に関する文献の講読 (5) 家族法に関する文献の講読 (6) 家族法に関する文献の講読 (7) グループ分け、内容選別 (8) 担当内容に関する打ち合わせ (9) グループ発表 (質疑応答) (10) グループ発表 (質疑応答) (11) グループ発表 (質疑応答) (12) グループ発表 (質疑応答) (13) グループ発表 (質疑応答) (14) グループ発表 (質疑応答) (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	次週の発表内容の基礎知識を学習しておくこと。
	事後学習	発表者の内容について各自復習すること。
使用教材・参考文献	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
成績評価方法と基準	発表内容 (50%)、平常点 (50%) を総合的に判定する。	
備考	出席状況を重視して成績評価を行う。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	演習参加者それぞれが、民法の判例の中から関心のあるテーマを選び、その争点について研究発表して、発表者以外の演習参加者とともに議論する。
	到達目標	関心のある民法上の争点について調査・研究することにより、資料探索能力・研究能力を養うとともに、活発な議論を通じてディベート能力を高める。
授業計画	<p>第1回目の演習で、民法判例百選に掲載されている判例の中から、それぞれが最も関心のあるテーマを選び、研究発表の順番を決めて、第2回目の演習から、決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ゼミの説明と発表順の決定 (2) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (3) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (4) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (5) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (6) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (7) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (8) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (9) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (10) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (11) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (12) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (13) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (14) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (15) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、あらかじめレジュメを作成して配布すること。 ・発表者以外の演習参加者も発表者のテーマについて調べ、積極的に議論に参加して意見を述べられるようにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをもとに議論した内容を整理しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】星野英一ほか編『民法判例百選 I（第5版）』有斐閣2006年、星野英一ほか編『民法判例百選 II（第5版）』有斐閣2006年、水野紀子ほか編『家族法判例百選（第7版）』有斐閣2008年	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>研究発表50%、ディベート50%で判定する。</p> <p><評価基準>事案の争点を把握し、他の演習参加者と議論をすることができれば合格とする。</p>	
備考	夏休みにはゼミ旅行、春休みにはゼミ合宿を、それぞれ2泊3日で行い、新ゼミ生歓迎会、卒業生送別会なども行う。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	<p>行政法の判例の中から受講者自らが関心のあるテーマを選び、発表者がレジュメを作成し、研究発表してもらい、疑問点や意見について他の受講者及び教員とともに議論する。</p> <p>また問題演習等を行い、行政法の講義で習得した知識の定着を図る。</p> <p>これだけに限らず、受講者の希望に応じた対応をとりたいと思う。</p>
	到達目標	<p>行政法判例を通じて、行政法 I の講義で習得した知識の理解を深めるとともに、プレゼン能力、ディベート能力及び法的思考能力を養うことを目標とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 行政の範囲と主体 (3) 行政法と民事法の関係 (4) 行政法上の権利の性質 (5) 行政組織上の関係 (6) 法の一般原則・一般制度 (7) 行政保有情報 (8) 行政立法・通達・計画等 (9) 行政行為の成立・発効 (10) 行政行為の意義・種類 (11) 行政行為の効力 (12) 行政行為における裁量 (13) 行政行為の瑕疵 (14) 行政行為の取消し・撤回 (15) 行政行為の附款 	
自学自習	事前学習	<p>発表者は、前もってレジュメを作成しておくこと。</p> <p>発表者以外の受講者は、発表者の選んだ判例を前もって読み込んでおくこと。</p>
	事後学習	<p>教科書と発表者が作成したレジュメに基づいて、復習を行い、理解を深めておくこと。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選 I 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11511-8</p> <p>【参】 池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3</p>	
成績評価方法と基準	研究発表の内容、議論への参加態度等を総合して評価する。	
備考		

科目名	専門演習 I A	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	この演習では、代表的な憲法判例（最高裁判所の判決または決定）の理解を深めることを目標とする。 あわせて、口頭発表、議論の仕方、レポートの書き方などのスキルを向上させたい。
	到達目標	代表的な憲法判例の概要を理解することを目標とする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 参考文献紹介 (3) 判例の研究【その1】（取り上げる判例のあらまし） (4) 判例の研究【その1】（事実の概要） (5) 判例の研究【その1】（当該裁判の審級） (6) 判例の研究【その1】（当事者の主張） (7) 判例の研究【その1】（裁判所の判断・その1） (8) 判例の研究【その1】（裁判所の判断・その2） (9) 判例の研究【その1】（主な判例評釈及び判例研究について・その1） (10) 判例の研究【その1】（主な判例評釈及び判例研究について・その2） (11) 判例の研究【その1】（当該裁判の意義） (12) 判例の研究【その1】（まとめ） (13) 総合討論① (14) 総合討論② (15) 総合討論③	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】【参】 授業時間に説明する。	
成績評価方法と基準	授業時間に説明する。	
備考		

科目名	専門演習 I A	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	ゼミ参加者は、判例及び教科書等を前もって読んだうえで、参加し、授業では、報告担当者が、各自が選んだテーマについて、主要な判例の事実・判旨、学説および各自の研究について、レジュメを基に報告します。その後、そのテーマおよび報告について、全員で、質問し、議論します。
	到達目標	労働法の判例や学説を深く理解している、以前よりもより高度な論理的思考力・コミュニケーション能力を有している。
授業計画	(1) 授業の進め方 (2) 募集・採用 (3) 解雇 (4) 労働契約の終了 (5) 労働契約の期間 (6) 就業規則、労働契約の変更 (7) 平等原則 (8) 労働契約の基本原則 (9) 賃金 (10) 労働時間 (11) 休憩・休日・時間外労働 (12) 休暇・休業・休職 (13) 配転・出向・人事考課 (14) 人格と自由の侵害 (15) 企業秩序と懲戒	
自学自習	事前学習	・判例及び教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レポートを作成すること。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価 3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>労働法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>報告（20点）＋参加状況（質問・議論等）（60点）＋レポート（20点）で評価します。	
備考	「雇用法務（企業組織法務Ⅲ）」「社会法Ⅰ」「社会法Ⅱ」の未履修者は、これらの科目について履修してください。	

科目名	専門演習 I A	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	<p>本年平成25年度は、M. サンデル著（鬼澤忍訳）『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』（早川ノンフィクション文庫、2011年）を用いて、倫理的、法的問題に取り組みます。各自担当箇所を報告してもらいます。</p> <p>対象者としては、民間への就職希望者だけでなく、大学院進学、法科大学進学、公務員試験、各種資格試験、企業、等あらゆる分野にわたって、夢をもって努力する元気な人を歓迎します。</p>
	到達目標	<p>前期専門演習 I A では、社会人として恥ずかしくないマナーと必須の能力を身に付けることを目標とします。具体的には、各自今まで学び身につけた学問を基礎に、他説からの批判がなされるという緊張感の中で、事前に考えてきた自説を言葉に表現し、相手を納得させることができる能力を身につけること（端的に言えば、ディベートに耐え、法的思考力を身につけること）を目標とします。</p>
授業計画	<p>(1) オリエンテーション（研究発表の日程調整、自己紹介など）</p> <p>(2) 各自報告&議論</p> <p>(3) //</p> <p>(4) //</p> <p>(5) //</p> <p>(6) //</p> <p>(7) //</p> <p>(8) //</p> <p>(9) //</p> <p>(10) //</p> <p>(11) //</p> <p>(12) //</p> <p>(13) //</p> <p>(14) //</p> <p>(15) //</p>	
自学自習	事前学習	<p>授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解してください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。</p>
	事後学習	<p>授業に集中すれば復習はあまりいりませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】・【参】 M. サンデル著（鬼澤忍訳）『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』（早川ノンフィクション文庫、2011年）。</p>	
成績評価方法と基準	<p>報告・発言内容等をもとに総合的に評価いたします。</p>	
備考	<p>専門演習 I B（平手）を引き続き必ず履修すること。</p>	

科目名	専門演習 I A	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	研究発表と全体での質疑応答を進めていくが、ゼミ生の意見も取り入れつつ、臨機応変に様々な方法を試していきたいと思う。発表テーマは、教員の示す一定の範囲からゼミ生自らが関心のあるものを選択し、条文・制度趣旨等の基本事項の確認や論点等に関する判例の見解・学説・自説等を、発表担当者の作成したレジュメをもとに発表してもらう。
	到達目標	講義などで習得した知識をベースに、民法のより深い理解が身につくとともに、リサーチ能力、プレゼン能力、およびディベート能力が身につくことを目標とする。
授業計画	(1) オリエンテーション(グループ分け、研究テーマの指示、順番決定等) (2) ゼミ生の研究発表と質疑応答 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 前期講評	
自学自習	事前学習	各自積極的に議論に参加できるよう予習は欠かさずに行うこと。
	事後学習	ゼミで学んだことは必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【参】 奥田昌道ほか編『判例講義 民法 I 総則・物権 (補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 9784946406911 奥田昌道ほか編『判例講義 民法 II 債権(補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 4946406921 内田貴著『民法 I ～III』東京大学出版会、近江幸治著『民法講義 I ～IV』成文堂	
成績評価方法と基準	研究報告内容、議論への参加度、授業態度等を総合評価する。	
備考	親睦会などのイベント行事は、ゼミ長が中心となってゼミ生の総意により企画運営を行ってください。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	ヘーゲル法哲学の講読を通じて、近代市民社会の有する諸問題について考察する。
	到達目標	私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることを理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 善 (3) 良心 (4) 習俗規範 (5) 家族 (6) 婚姻 (7) 家族の資産 (8) 子供の教育 (9) 家族の解体 (10) 市民社会 (11) 諸欲求の体系 (12) 司法 (13) 監督官庁 (14) 国家 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】ヘーゲル『法哲学』	
成績評価方法と基準	<基準>ヘーゲル法哲学の講読を通じて、私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることに対する理解が達成されたものは合格とする。 <方法>発表内容60%、受講態度40%。	
備考		

科目名	専門演習 I B	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	全員が取り組む共通素材として商法・会社法があるものの、各自の進路（就職・資格・公務員試験・進学等）に応じて課題を決定する。
	到達目標	ゼミ生それぞれが、文献調査・レポート作成・討論等を通じて、リーガルマインドとコミュニケーション能力を養うことを目的とする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の進路に応じた研究発表 (3) 各自の進路に応じた研究発表 (4) 共通テーマによる討論 (5) 各自の進路に応じた研究発表 (6) 各自の進路に応じた研究発表 (7) 共通テーマによる討論 (8) 各自の進路に応じた研究発表 (9) 各自の進路に応じた研究発表 (10) 共通テーマによる討論 (11) 各自の進路に応じた研究発表 (12) 各自の進路に応じた研究発表 (13) 共通テーマによる討論 (14) 各自の進路に応じた研究発表 (15) 後期講評	
自学自習	事前学習	発表者かどうかとは無関係に、毎回全員に宿題を出すのでそれに取り組む。
	事後学習	発表・討論で得た知識を各自の個人課題に還元する。
使用教材・参考文献	【教】江頭憲治郎ほか編「会社法判例百選（第2版）」有斐閣2011年 【参】伊藤・大杉・齊藤・田中・松井「事例で考える会社法 法学教室ライブラリィ」有斐閣	
成績評価方法と基準	個人課題への取り組み50%、討論への参加態度50%で評価する。	
備考	裁判傍聴等を行う場合もあるので、そのつもりでいて下さい。	

科目名	専門演習 I B (雇用と労働)	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	企業に採用され企業人として過ごす人生を通して、法律はどのように我々に関わっているのかを、事業主と労働者の関係を通して雇用の入り口から出口まで理解する。
	到達目標	ビジネスの現場で社会人として要求される必要最低限備えておかなければならないものは何かを自ら研究し実践できるようにする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 発表 (質疑応答) (3) 発表 (質疑応答) (4) 発表 (質疑応答) (5) 発表 (質疑応答) (6) 発表 (質疑応答) (7) 発表 (質疑応答) (8) 発表 (質疑応答) (9) 発表 (質疑応答) (10) 発表 (質疑応答) (11) 発表 (質疑応答) (12) 労働紛争討議 (13) 労働紛争討議 (14) 労働紛争討議 (15) 労働紛争討議	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・適宜、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】別途指示する。 【参】別途指示する。	
成績評価方法と基準	受講態度40% 発表60% 総合的に評価する。	
備考		

科目名	専門演習 I B	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	各自で問題意識を持ちテーマ設定を行い、独自の視点で現代社会についての事象を分析・解釈した結果を報告することで、社会に対して「問題を持つこと」を意識づける。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の論点について一定程度の知識を身につけられる。 ・社会に対して独自の視点で問題意識を持ち、資料にあたり、図式化することで、人にテーマ内容を伝達することができる。
授業計画	(1) 後期の進め方の設定 (2) 問題意識を持つとは (3) テーマ設定 (4) テーマ設定 (5) テーマ設定 (6) テーマ報告 (1) (7) テーマ報告 (2) (8) テーマ報告 (3) (9) テーマ報告 (4) (10) テーマ報告 (5) (11) テーマ報告 (6) (12) テーマ報告 (7) (13) テーマ報告 (8) (14) テーマ報告 (9) (15) テーマ報告 (10)	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	自分の報告、他者の報告を問わず、新たに知り得たことを、自分の問題意識を研ぎ澄ますために、使えるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】【参】授業中で指示する。	
成績評価方法と基準	報告内容、質問内容、レポート内容を勘案し、現代社会の論点について一定程度の知識が身につけており、自分の視点で問題意識を持つことができたことと認められた場合に合格点とする。報告、質問などの参加姿勢50%、レポート50%	
備考	主体的に参加していない態度が見受けられると判断した時点で、履修を取り消すことがある。報告者以外の参加者は、司会者役、質問する義務を負うこと。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	キャリア開発理論をもとにした検査や個人ワーク、グループワークを行う。また、引き続き体験や実践、外部との交流の機会を設ける。そして、それらを生涯学習・キャリア教育の観点から振り返り、プレゼンテーションを行う。さらに、4年次のゼミで研究する自分のテーマを考える。
	到達目標	①キャリア開発に関するワークをもとに、意見や情報をシェアし、議論する中で、自分の言葉で自分の意見を筋道立てて述べる「論理的思考力」と「発信力」を向上させる。 ②ゼミ生同士が自己開示を楽しみつつ交流することで、社会生活で必須の「コミュニケーション力」を高める。 ③職場・地域・家庭生活について生涯学習の観点から意味づけし、体験をもとに就業観・人生観・地域観を醸成する。 ④就業力と生涯開発力を磨き、具体的な自分の進路選択にも備える。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) キャリア開発に関するワーク等をもとに、議論する。 (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) 自己分析と業界研究を進め、各自のアクションプランを検証する。 (13) // (14) // (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだ内容について、常に自己にひきつけて考察し、書きとめていくこと。
使用教材・参考文献	【教】香川正弘ほか編 『よくわかる生涯学習』 ミネルヴァ書房 2008年 【参】渡辺峻編著『大学生のためのキャリア開発入門』 中央経済社 2008年	
成績評価方法と基準	出席態度 (60%)、プレゼンテーション (20%)、レポート (20%) によって総合的に評価する。	
備考	懇親会やゼミ旅行など課外での活動も予定しているので、積極的な参加と、人との出会いを大事にして楽しむ姿勢を求める。また、ゼミ生の希望に沿って、様々な実践や交流の場を設けたいので、率先して提案してほしい。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	刑法総論、刑法各論で勉強したことを基礎に、模擬裁判の作成を行う。模擬裁判は、シナリオの作成から実演まで行う。
	到達目標	模擬裁判を通して、教科書の上での勉強だけではなく、「生きた刑法」を学ぶ。模擬裁判は、裁判に関わる全ての人の役割を身をもって体験することができるので、限りなく実践に近い形で刑法を学ぶことができる。
授業計画	(1) 模擬裁判の配役を決める (2) 演技練習① ～全体読み合わせ～ (3) 演技練習② ～配役ごとの個別練習～ (4) 演技練習③ 〃 (5) 演技練習④ ～全体練習～ (6) 演技練習⑤ 〃 (7) 演技練習⑥ ～本番直前リハーサル～ (8) ～～模擬裁判本番～～ (9) 反省点の検討 (10) 来年の模擬裁判に向けての準備 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 〃	
自学自習	事前学習	・常に刑事事件のニュースなどに注目する。
	事後学習	・作成したシナリオを理解すること。
使用教材・参考文献	ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	出席と演習への取り組みの姿勢で判定する。	
備考	4年生も3年生も常に合同で演習を行うので、各人の協調性・チームワークを大切にしよう。	

科目名	専門演習 I B (民法 (家族法)・国際私法)	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	前期に発表した内容を深め、同内容の渉外的場面でどのような問題が起こるかを調べる。
	到達目標	各自がその問題について調べ、まとめ、発表するという一連の作業を経ることで、総合的な家族法の知識を持ち、そして、国際結婚など渉外的要素を持つ問題が増加していることから、国際私法の観点からも同問題を考えることを目標とする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 内容選別 (各自) (3) 担当内容に関する質疑応答 (4) 発表 (質疑応答) (5) 発表 (質疑応答) (6) 発表 (質疑応答) (7) 発表 (質疑応答) (8) 発表 (質疑応答) (9) 発表 (質疑応答) (10) 発表 (質疑応答) (11) 発表 (質疑応答) (12) 発表 (質疑応答) (13) 発表 (質疑応答) (14) まとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	次週の発表者の内容の基礎知識を学習しておくこと。
	事後学習	発表者の内容について各自復習すること
使用教材・参考文献	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
成績評価方法と基準	発表内容 (50%)、平常点 (50%) を総合的に判定する。	
備考	出席状況を重視して成績評価を行う。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	演習参加者それぞれが、民法の判例の中から関心のあるテーマを選び、その争点について研究発表して、発表者以外の演習参加者ととともに議論する。
	到達目標	関心のある民法上の争点について調査・研究することにより、資料探索能力・研究能力を養うとともに、活発な議論を通じてディベート能力を高める。
授業計画	<p>前期の専門演習 I Aで決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論していく。</p> <p>(1) 発表順の確認と後期の諸注意事項</p> <p>(2) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(3) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(4) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(5) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(6) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(7) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(8) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(9) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(10) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(11) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(12) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(13) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(14) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p> <p>(15) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 発表者は、あらかじめレジュメを作成して配布すること。 発表者以外の演習参加者も発表者のテーマについて調べ、積極的に議論に参加して意見を述べられるようにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ノートをもとに議論した内容を整理しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】星野英一ほか編『民法判例百選 I（第5版）』有斐閣2006年、星野英一ほか編『民法判例百選 II（第5版）』有斐閣2006年、水野紀子ほか編『家族法判例百選（第7版）』有斐閣2008年</p>	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>研究発表50%、ディベート50%で判定する。</p> <p><評価基準>事案の争点を把握し、他の演習参加者と議論をすることができれば合格とする。</p>	
備考	夏休みにはゼミ旅行、春休みにはゼミ合宿を、それぞれ2泊3日で行い、新ゼミ生歓迎会、卒業生送別会なども行う。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	<p>行政法の判例の中から受講者自らが関心のあるテーマを選び、発表者がレジюмеを作成し、研究発表してもらい、疑問点や意見について他の受講者及び教員とともに議論する。</p> <p>また問題演習等を行い、行政法の講義で習得した知識の定着を図る。</p> <p>これだけに限らず、受講者の希望に応じた対応をとりたいと思う。</p>
	到達目標	<p>行政法判例を通じて、行政法 I の講義で習得した知識の理解を深めるとともに、プレゼン能力、ディベート能力及び法的思考能力を養うことを目標とする。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 行政上の契約 (3) 行政指導 (4) 行政調査 (5) 行政上の義務の履行確保 (6) 合議体の議事 (7) 事前手続と理由提示 (8) 行政過程における私人の行為 (9) 一事不再理 (10) 問題演習 (11) 問題演習 (12) 問題演習 (13) 問題演習 (14) 問題演習 (15) 問題演習 	
自学自習	事前学習	<p>発表者は、前もってレジюмеを作成しておくこと。</p> <p>発表者以外の受講者は、発表者の選んだ判例を前もって読み込んでおくこと。</p>
	事後学習	<p>教科書と発表者が作成したレジюмеに基づいて、復習を行い、理解を深めておくこと。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選 I 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11511-8</p> <p>【参】 池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3</p>	
成績評価方法と基準	<p>研究発表の内容、議論への参加態度等を総合して評価する。</p>	
備考		

科目名	専門演習 I B	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	この演習では、代表的な憲法判例（最高裁判所の判決または決定）の理解を深めることを目標とする。 あわせて、口頭発表、議論の仕方、レポートの書き方などのスキルを向上させたい。
	到達目標	代表的な憲法判例の概要を理解することを目標とする。
授業計画	(1) 判例の研究【その2】（取り上げる判例のあらまし） (2) 判例の研究【その2】（事実の概要） (3) 判例の研究【その2】（当該裁判の審級） (4) 判例の研究【その2】（主な判例評釈及び判例研究について・その1） (5) 判例の研究【その2】（主な判例評釈及び判例研究について・その2） (6) 判例の研究【その2】（当該裁判の意義） (7) 判例の研究【その2】（まとめ） (8) 総合討論① (9) 総合討論② (10) 総合討論③ (11) 判例の研究【その1】【その2】の総まとめ① (12) 判例の研究【その1】【その2】の総まとめ② (13) 判例の研究【その1】【その2】の総まとめ③ (14) 演習 I A・B の総まとめ① (15) 演習 I A・B の総まとめ①	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】【参】 授業時間に説明する。	
成績評価方法と基準	授業時間に説明する。	
備考		

科目名	専門演習 I B	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	ゼミ参加者は、判例及び教科書等を前もって読んだうえで、参加し、授業では、報告担当者が、各自が選んだテーマについて、主要な判例の事実・判旨、学説および各自の研究について、レジュメを基に報告します。その後、そのテーマおよび報告について、全員で、質問し、議論します。
	到達目標	労働法の判例や学説を深く理解している、以前よりもより高度な論理的思考力・コミュニケーション能力を有している。
授業計画	(1) 年少者・女性 (2) 安全衛生 (3) 災害補償 (4) 労災保険 (5) 再就職と引退 (6) 非典型雇用・外国人雇用 (7) 労働者、使用者 (8) 労働組合 (9) 団体交渉 (10) 労働協約 (11) 争議行為 (12) 不当労働行為 (13) 労働紛争の解決手段 (14) 労働法の適用 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・判例及び教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レポートを作成すること。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価 3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>労働法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>報告（20点）＋参加状況（質問・議論等）（60点）＋レポート（20点）で評価します。	
備考	「雇用法務（企業組織法務Ⅲ）」「社会法Ⅰ」「社会法Ⅱ」の科目の未履修者は、これらの科目について履修してください。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	専門演習 I A (平手) の続きです。専門演習 I A と同じく、M. サンデル著 (鬼澤忍訳) 『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』 (早川ノンフィクション文庫、2011 年) を用いて、倫理的、法的問題に取り組みます。1 月にはゼミ論文の提出を義務付けます。
	到達目標	専門演習 I A において身につけた「ディベートに耐え、法的思考力を身につけること」に加えて、さらに、それぞれの進路希望に応じて、各自の目標を達成できることを目指します。また、4 年次演習のゼミ論文のテーマを決定します。
授業計画	(1) オリエンテーション (研究発表の日程調整、自己紹介など) (2) 各自報告&議論 (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15) //	
自学自習	事前学習	授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解してください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。
	事後学習	授業に集中すれば復習はあまりありませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。
使用教材・参考文献	【教】・【参】 M. サンデル著 (鬼澤忍訳) 『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学—』 (早川ノンフィクション文庫、2011年)。	
成績評価方法と基準	報告・発言内容、そして、ゼミ論の構想等をもとに総合的に評価いたします。	
備考	専門演習 I A (平手) を受講した方は、引き続き必ず本講座を履修すること。	

科目名	専門演習 I B	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	研究発表と全体での質疑応答で進めていくが、ゼミ生の意見も取り入れつつ、臨機応変に様々な方法を試していきたいと思う。発表テーマは、教員の示す一定の範囲からゼミ生自らが関心のあるものを選択し、条文・制度趣旨等の基本事項の確認や論点等に関する判例の見解・学説・自説等を、発表担当者の作成したレジュメをもとに発表してもらう。
	到達目標	講義などで習得した知識をベースに、民法のより深い理解が身につくとともに、リサーチ能力、プレゼン能力、およびディベート能力が身につくことを目標とする。
授業計画	(1) ゼミ生の研究発表と質疑応答 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 後期講評	
自学自習	事前学習	各自積極的に議論に参加できるよう予習は欠かさずに行うこと。
	事後学習	ゼミで学んだことは必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【参】 奥田昌道ほか編『判例講義 民法 I 総則・物権 (補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 9784946406911 奥田昌道ほか編『判例講義 民法 II 債権 (補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 4946406921 内田貴著『民法 I ～ III』東京大学出版会、近江幸治著『民法講義 I ～ IV』成文堂	
成績評価方法と基準	研究報告内容、議論への参加度、授業態度等を総合評価する。	
備考	親睦会などのイベント行事は、ゼミ長が中心となってゼミ生の総意により企画運営を行ってください。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ヘーゲル法哲学の講読を通じて、近代市民社会の有する諸問題について考察する。
	到達目標	私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることを理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 抽象的法権利 (3) 所有権 (4) 財産 (5) 占有取得 (6) 契約 (7) 不法越権 (8) 詐欺 (9) 強制 (10) 犯罪 (11) 道徳態 (12) 意図 (13) 責任 (14) 幸福 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】ヘーゲル『法哲学』	
成績評価方法と基準	<基準>ヘーゲル法哲学の講読を通じて、私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることに対する理解が達成されたものは合格とする。 <方法>発表内容60%、受講態度40%。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	各自の進路（就職・公務員試験等）に応じて、毎回の課題を決定する。
	到達目標	リーガルマインドとコミュニケーション能力を養うことを目的とするが、ゼミ生それぞれが、各自の目的とする進路に進むことが究極の目標である。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (3) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (4) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (5) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (6) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (7) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (8) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (9) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (10) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (11) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (12) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (13) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (14) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (15) 前期講評	
自学自習	事前学習	発表者かどうかとは無関係に、毎回全員に宿題を出すのでそれに取り組む。
	事後学習	発表・討論で得た知識を各自の個人課題に還元する。
使用教材・参考文献	【教】江頭憲治郎ほか編「会社法判例百選（第2版）」有斐閣2011年 【参】伊藤・大杉・齊藤・田中・松井「事例で考える会社法 法学教室ライブラリィ」有斐閣	
成績評価方法と基準	研究発表・討論への参加態度で評価する。	
備考	裁判傍聴等を行う場合もあるので、そのつもりでいて下さい。	

科目名	専門演習ⅡA (雇用と労働)	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	企業に採用され企業人として過ごす人生を通して、法律はどのように我々に関わっているのかを、事業主と労働者の関係を通して雇用の入り口から出口まで理解する。
	到達目標	ビジネスの現場で社会人として要求される必要最低限備えておかなければならないものは何かを自ら研究し実践できるようにする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 参考文献講読 (3) 参考文献講読 (4) 参考文献講読 (5) 参考文献講読 (6) 参考文献講読 (7) 参考文献講読 (8) 参考文献講読 (9) 参考文献講読 (10) 参考文献講読 (11) グループ発表 (質疑応答) (12) グループ発表 (質疑応答) (13) グループ発表 (質疑応答) (14) グループ発表 (質疑応答) (15) グループ発表 (質疑応答)	
自学自習	事前学習	・日経新聞を読んで意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	適宜、レポート、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】別途、指示する。 【参】別途、指示する。	
成績評価方法と基準	受講態度40% 発表60% 総合的に評価する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	自らの問題意識に基づいてテーマを設定して、自ら設定した視点に基づいた報告を行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の論点について一定程度の知識を身につけられる。 ・社会に対して独自の視点で問題意識を持ち、資料にあたり、図式化することで、人に調査結果を伝達することができる。
授業計画	(1) 前期の進め方 (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15)	各自のテーマに沿った報告
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	自分の報告、他者の報告を問わず、新たに知り得たことを、自分の問題意識を研ぎ澄ますために、使えるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】【参】授業中で指示する。	
成績評価方法と基準	報告内容、質問内容、レポート内容を勘案し、現代社会の論点について一定程度の知識が身につけており、自分の視点で問題意識を持つことができたこと認められた場合に合格点とする。報告、質問などの参加姿勢50%、レポート50%	
備考	主体的に参加していない態度が見受けられると判断した時点で、履修を取り消すことがある。報告者以外の参加者は、司会者役、質問する義務を負うこと。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	生涯学習とキャリア教育の理論・事例・方法・情報などを知ったうえで、グループと各自の研究テーマを設定する。そして、調べたことや意見をまとめて報告し、それをもとに全体で議論する。また、一連の学習を踏まえて、ゼミ・レポートにまとめる準備をする。
	到達目標	①グループや各自の研究テーマをもとにプレゼンテーションを行い、自分の言葉で自分の意見を筋道立てて述べる「論理的思考力」と「発信力」を向上させる。 ②資料・情報を集め、調べ、分析するなどの作業が確実にできるようになる。 ③ゼミ生同士が自己開示を楽しみつつ交流することで、社会生活で必須の「コミュニケーション力」を高める。 ④ゼミ活動の集大成としてゼミ・レポートをまとめる準備をする。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 基礎知識の確認と研究テーマの設定 (3) " (4) " (5) 役割分担と資料・情報収集 (6) " (7) " (8) " (9) 報告の準備 (10) " (11) " (12) 報告・議論 (13) " (14) " (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだ内容を自己にひきつけて考察し、書きとめていくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリントを配布する。 【参】香川正弘ほか編 『よくわかる生涯学習』 ミネルヴァ書房 2008年ほか、適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	出席態度(60%)、ゼミ・レポートの進捗状況(20%)、プレゼンテーション(20%)によって総合的に評価する。	
備考	・必要に応じて、キャリア教育の観点から就職活動等を支援する。 ・懇親会やゼミ旅行など課外での活動も予定しているので、積極的な参加と、人との出会いを大事にして楽しむ姿勢を求める。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	刑法総論、刑法各論で勉強したことを基礎に、模擬裁判の作成を行う。模擬裁判は、シナリオの作成から実演まで行う。
	到達目標	模擬裁判を通して、教科書の上での勉強だけではなく、「生きた刑法」を学ぶ。模擬裁判は、裁判に関わる全ての人の役割を身をもって体験することができるので、限りなく実践に近い形で刑法を学ぶことができる。
授業計画	(1) 実際に模擬裁判を見てみよう。(過去の模擬裁判映像) (2) 模擬裁判へ向けての計画を立てる。～役割分担を決める～ (3) 裁判傍聴 ～実際に裁判を見てみよう～ (4) シナリオ作成① ～模擬裁判のテーマを決める～ (5) シナリオ作成② ～そのテーマに沿った過去の事件を調べる～ (6) シナリオ作成③ // (7) シナリオ作成④ // (8) シナリオ作成⑤ // (9) シナリオ作成⑥ ～具体的なシナリオの作成に着手～ (10) シナリオ作成⑦ // (11) シナリオ作成⑧ // (12) シナリオ作成⑨ // (13) シナリオ作成⑩ // (14) シナリオ作成⑪ // (15) シナリオ作成⑫ //	
自学自習	事前学習	・常に刑事事件のニュースなどに注目する。
	事後学習	・作成したシナリオを理解すること。
使用教材・参考文献	ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	出席と演習への取り組みの姿勢で判定する。	
備考	4年生も3年生も常に合同で演習を行うので、各人の協調性・チームワークを大切にしよう。	

科目名	専門演習ⅡA（民法（家族法）・国際私法）	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	民法の基礎知識を認識し、多くの民法の論点の中から、主に家族法分野の問題意識を持つことから始まり、その後、各自がその問題について調べ、まとめ、発表することを内容とする。
	到達目標	調べ、まとめ、発表するという一連の作業を経て、各自が家族法の中に得意分野を持ち、発表者の発表を聞き、疑問点や意見を話し合うことで総合的な理解力を高めることを目標とする。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 演習進行説明 (2) 家族法に関する文献の講読 (3) 家族法に関する文献の講読 (4) 家族法に関する文献の講読 (5) 家族法に関する文献の講読 (6) 家族法に関する文献の講読 (7) グループ分け、内容選別 (8) 担当内容に関する打ち合わせ (9) グループ発表（質疑応答） (10) グループ発表（質疑応答） (11) グループ発表（質疑応答） (12) グループ発表（質疑応答） (13) グループ発表（質疑応答） (14) グループ発表（質疑応答） (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	次週の発表者の内容の基礎知識を学習しておくこと。
	事後学習	発表者の内容について各自復習すること
使用教材・参考文献	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
成績評価方法と基準	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
備考	出席状況を重視して成績評価を行う。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	演習参加者それぞれが、民法の判例の中から関心のあるテーマを選び、その争点について研究発表して、発表者以外の演習参加者ととともに議論する。
	到達目標	関心のある民法上の争点について調査・研究することにより、資料探索能力・研究能力を養うとともに、活発な議論を通じてディベート能力を高める。
授業計画	<p>第1回目の演習で、民法判例百選に掲載されている判例の中から、それぞれが最も関心のあるテーマを選び、研究発表の順番を決めて、第2回目の演習から、決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ゼミの説明と発表順の決定 (2) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (3) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (4) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (5) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (6) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (7) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (8) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (9) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (10) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (11) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (12) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (13) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (14) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 (15) 決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、あらかじめレジュメを作成して配布すること。 ・発表者以外の演習参加者も発表者のテーマについて調べ、積極的に議論に参加して意見を述べられるようにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをもとに議論した内容を整理しておくこと。 ・発表した内容について後期末には論文を作成すること。
使用教材・参考文献	【教】星野英一ほか編『民法判例百選Ⅰ（第5版）』有斐閣2006年、星野英一ほか編『民法判例百選Ⅱ（第5版）』有斐閣2006年、水野紀子ほか編『家族法判例百選（第7版）』有斐閣2008年	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>研究発表50%、ディベート50%で判定する。</p> <p><評価基準>事案の争点を把握し、他の演習参加者と議論をすることができれば合格とする。</p>	
備考	夏休みにはゼミ旅行、春休みにはゼミ合宿を、それぞれ2泊3日で行い、新ゼミ生歓迎会、卒業生送別会なども行う。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	<p>行政法の判例の中から受講者自らが関心のあるテーマを選び、発表者がレジュメを作成し、研究発表してもらい、疑問点や意見について他の受講者及び教員とともに議論する。</p> <p>また問題演習等を行い、行政法の講義で習得した知識の定着を図る。</p> <p>これだけに限らず、受講者の希望に応じた対応をとりたいと思う。</p>
	到達目標	<p>行政法判例を通じて、行政法Ⅰの講義で習得した知識の理解を深めるとともに、プレゼン能力、ディベート能力及び法的思考能力を養うことを目標とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 行政上の不服申立て (1) (3) 行政上の不服申立て (2) (4) 裁判所の権限 (5) 行政訴訟と民事訴訟 (6) 抗告訴訟の対象 (1) (7) 抗告訴訟の対象 (2) (8) 原告適格 (1) (9) 原告適格 (2) (10) 訴えの利益 (11) 出訴期間 (12) 行政不服審査との関係 (13) 審理 (14) 執行停止 (15) 判決 	
自学自習	事前学習	<p>発表者は、前もってレジュメを作成しておくこと。</p> <p>発表者以外の受講者は、発表者の選んだ判例を前もって読み込んでおくこと。</p>
	事後学習	<p>教科書と発表者が作成したレジュメに基づいて、復習を行い、理解を深めておくこと。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅱ 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11512-5</p> <p>【参】 池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3</p>	
成績評価方法と基準	研究発表の内容、議論への参加態度等を総合して評価する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	専門演習Ⅰに引き続き、憲法判例の研究を行う。
	到達目標	各自の研究テーマに基づき、ゼミ論文を作成する。 分量は、1万字（400字詰原稿用紙25枚）程度。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) ゼミ論文テーマ設定 (3) 判例及び判例評釈等の文献の調査・収集・読解及びゼミナールでの発表 (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) // (12) // (13) // (14) // (15) //	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】【参】 授業時間に説明する。	
成績評価方法と基準	ゼミ論文の内容で評価する。評価基準は授業中に説明する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ゼミ参加者は、判例及び教科書等を前もって読んだうえで、参加し、授業では、報告担当者が、各自が選んだテーマについて、主要な判例の事実・判旨、学説および各自の研究について、レジュメを基に報告します。その後、そのテーマおよび報告について、全員で、質問し、議論します。
	到達目標	労働法の判例や学説を深く理解している、以前よりもより高度な論理的思考力・コミュニケーション能力を有している。
授業計画	(1) 授業の進め方 (2) 募集・採用 (3) 解雇 (4) 労働契約の終了 (5) 労働契約の期間 (6) 就業規則、労働契約の変更 (7) 平等原則 (8) 労働契約の基本原則 (9) 賃金 (10) 労働時間 (11) 休憩・休日・時間外労働 (12) 休暇・休業・休職 (13) 配転・出向・人事考課 (14) 人格と自由の侵害 (15) 企業秩序と懲戒	
自学自習	事前学習	・判例及び教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レポートを作成すること。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価 3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>労働法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>報告（20点）＋参加状況（質問・議論等）（60点）＋レポート（20点）で評価します。	
備考		

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	本年平成25年度は、3年次の専門演習にて各自が決定したテーマ（マイケル・サンデルの正義論，法と経済学に基づく不法行為論など）の研究を深めます。
	到達目標	最終的には、各自の研究テーマの問題意識、先行研究の状況、自らの見解を、ゼミ論文の構想として報告できるようになること。
授業計画	(1) オリエンテーション（研究発表の日程調整、自己紹介など） (2) 各自報告&議論 (3) 同上 (4) 同上 (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同上 (9) 同上 (10) 同上 (11) 同上 (12) 同上 (13) 同上 (14) 同上 (15) 同上	
自学自習	事前学習	授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解しててください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。
	事後学習	授業に集中すれば復習はあまりいりませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。
使用教材・参考文献	【教】各自の研究テーマに応じて、適宜指示をする。	
成績評価方法と基準	報告・発言内容、そして、ゼミ論の構想等をもとに総合的に評価いたします。	
備考	専門演習ⅡB（平手）を引き続き必ず履修すること。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	判例研究発表と全体での質疑応答で進めていくが、ゼミ生の意見も取り入れつつ、臨機応変に様々な方法を試していきたいと思う。判例は、教員の示す一定の範囲からゼミ生自らが関心のあるものを選択し、条文・制度趣旨等の基本事項の確認や、争点となった論点等についての判例の見解・学説・自説等を、発表担当者の作成したレジュメをもとに発表してもらう。
	到達目標	講義などで習得した知識をベースに、民法のより深い理解が身につくとともに、リサーチ能力、プレゼン能力、およびディベート能力が身につくことを目標とする。
授業計画	(1) オリエンテーション(グループ分け、研究テーマの指示、順番決定等) (2) ゼミ生の研究発表と質疑応答 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 前期講評	
自学自習	事前学習	各自積極的に議論に参加できるよう予習は欠かさずに行うこと。
	事後学習	ゼミで学んだことは必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】奥田昌道ほか編『判例講義 民法Ⅰ 総則・物権(補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 9784946406911 奥田昌道ほか編『判例講義 民法Ⅱ 債権(補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 4946406921 【参】内田貴著『民法Ⅰ～Ⅲ』東京大学出版会、近江幸治著『民法講義Ⅰ～Ⅳ』成文堂 潮見佳男ほか編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』有斐閣 2009年、 潮見佳男ほか編『民法判例百選Ⅱ 債権』有斐閣 2009年	
成績評価方法と基準	研究報告内容、議論への参加度、授業態度等を総合評価する。	
備考	親睦会などのイベント行事は、ゼミ長が中心となってゼミ生の総意により企画運営を行ってください。	

科目名	専門演習ⅡA	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	民事訴訟手続全般、非訟事件手続、行政処分に対する不服申立手続等に関する重要な論点について、関連判例や学説の検討を行います。なお、本演習は、原則として、参加者の各自が設定した問題提起や判例研究などを報告してもらい、その報告をもとに質疑応答、討論を行う予定です。
	到達目標	知識の習得に留まるのではなく、議論を通じて論理的思考能力を高めることを目標とします。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス（報告担当者・報告順序・報告内容の検討など） (2) 担当者による報告と演習参加者による討論 (3) 担当者による報告と演習参加者による討論 (4) 担当者による報告と演習参加者による討論 (5) 担当者による報告と演習参加者による討論 (6) 担当者による報告と演習参加者による討論 (7) 担当者による報告と演習参加者による討論 (8) 担当者による報告と演習参加者による討論 (9) 担当者による報告と演習参加者による討論 (10) 担当者による報告と演習参加者による討論 (11) 担当者による報告と演習参加者による討論 (12) 担当者による報告と演習参加者による討論 (13) 担当者による報告と演習参加者による討論 (14) 担当者による報告と演習参加者による討論 (15) 担当者による報告と演習参加者による討論 	
自学自習	事前学習	報告者以外の演習参加者であっても、報告予定の分野や箇所について予習をしておいてください。
	事後学習	演習中に議論された問題点等をノートなどに整理し、毎回の演習内容を復習すること。
使用教材・参考文献	教科書等は特に指定しませんが、必要に応じて発表するテーマに関連した参考文献をアドバイスします。	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>〈方法〉 報告内容、議論への参加度、受講態度などを総合評価します。</p>	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ヘーゲル法哲学の講読を通じて、近代市民社会の有する諸問題について考察する。
	到達目標	私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることを理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 善 (3) 良心 (4) 習俗規範 (5) 家族 (6) 婚姻 (7) 家族の資産 (8) 子供の教育 (9) 家族の解体 (10) 市民社会 (11) 諸欲求の体系 (12) 司法 (13) 監督官庁 (14) 国家 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】ヘーゲル『法哲学』	
成績評価方法と基準	<基準>ヘーゲル法哲学の講読を通じて、私たちが生きる現代社会が近代哲学によって支えられていることに対する理解が達成されたものは合格とする。 <方法>発表内容60%、受講態度40%。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	各自の進路（就職・公務員試験等）に応じて、毎回の課題を決定する。
	到達目標	リーガルマインドとコミュニケーション能力を養うことを目的とするが、ゼミ生それぞれが、各自の目的とする進路に進むことが究極の目標である。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (3) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (4) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (5) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (6) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (7) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (8) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (9) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (10) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (11) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (12) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (13) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (14) 各自の進路に応じた研究発表・討論 (15) 後期講評	
自学自習	事前学習	発表者かどうかとは無関係に、毎回全員に宿題を出すのでそれに取り組む。
	事後学習	発表・討論で得た知識を各自の個人課題に還元する。
使用教材・参考文献	【教】江頭憲治郎ほか編「会社法判例百選（第2版）」有斐閣2011年 【参】伊藤・大杉・齊藤・田中・松井「事例で考える会社法 法学教室ライブラリィ」有斐閣	
成績評価方法と基準	研究発表・討論への参加態度で評価する。	
備考	裁判傍聴等を行う場合もあるので、そのつもりでいて下さい。	

科目名	専門演習ⅡB (雇用と労働)	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	企業に採用され企業人として過ごす人生を通して、法律はどのように我々に関わっているのかを、事業主と労働者の関係を通して雇用の入り口から出口まで理解する。
	到達目標	ビジネスの現場で社会人として要求される必要最低限備えておかなければならないものは何かを自ら研究し実践できるようにする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 発表 (質疑応答) (3) 発表 (質疑応答) (4) 発表 (質疑応答) (5) 発表 (質疑応答) (6) 発表 (質疑応答) (7) 発表 (質疑応答) (8) 発表 (質疑応答) (9) 発表 (質疑応答) (10) 発表 (質疑応答) (11) 発表 (質疑応答) (12) 労働紛争討議 (13) 労働紛争討議 (14) 労働紛争討議 (15) 労働紛争討議	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	適宜、レポート、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】 別途指示する。 【参】 別途指示する。	
成績評価方法と基準	受講態度40% 発表60% 総合的に評価する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ゼミの集大成として、自らのテーマを文章（16000字程度）で表現するために必要な指導を行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の論点について一定程度の知識を身につけられる。 ・社会に対して独自の視点で問題意識を持ち、資料にあたり、図式化することで、人に調査結果を伝達することができる。
授業計画	(1) 後期の進め方 (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15)	各自のテーマに沿った報告
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	自分の報告、他者の報告を問わず、新たに知り得たことを、自分の問題意識を研ぎ澄ますために、使えるようにしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】【参】授業中で指示する。	
成績評価方法と基準	報告内容、質問内容、レポート内容を勘案し、現代社会の論点について一定程度の知識が身につけており、自分の視点で問題意識を持つことができたこと認められた場合に合格点とする。報告、質問などの参加姿勢50%、レポート50%	
備考	主体的に参加していない態度が見受けられると判断した時点で、履修を取り消すことがある。報告者以外の参加者は、司会者役、質問する義務を負うこと。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	各自の研究テーマに沿って、前期の議論をさらに深め、ゼミ・レポートを作成し、冊子にまとめる。
	到達目標	①各自の研究テーマをもとに、自分の言葉で自分の意見を筋道立てて述べる「論理的思考力」と「発信力」を向上させる。 ②資料・情報を集め、調べ、分析するなどの作業が確実にできるようになる。 ③ゼミ生同士が自己開示を楽しみつつ交流することで、社会生活で必須の「コミュニケーション力」を高める。 ④ゼミ活動の集大成としてゼミ・レポートをまとめる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 各自の研究テーマの確認 (3) 〃 (4) 〃 (5) 資料・情報・先行研究の収集と分析 (6) 〃 (7) 〃 (8) 構成 (9) 〃 (10) 概要報告と議論 (11) 〃 (12) 〃 (13) 編集等 (14) 〃 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだ内容を自己にひきつけて考察し、書きとめていくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリントを配布する。 【参】香川正弘ほか編 『よくわかる生涯学習』 ミネルヴァ書房 2008年ほか、適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	出席態度(60%)、ゼミ・レポート(40%)によって総合的に評価する。	
備考	・必要に応じて、キャリア教育の観点から就職活動等を支援する。 ・懇親会やゼミ旅行など課外での活動も予定しているので、積極的な参加と、人との出会いを大事にして楽しむ姿勢を求める。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	杉山 和之 / SUGIYAMA, Kazuyuki	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	刑法総論、刑法各論で勉強したことを基礎に、模擬裁判の作成を行う。模擬裁判は、シナリオの作成から実演まで行う。
	到達目標	模擬裁判を通して、教科書の上での勉強だけではなく、「生きた刑法」を学ぶ。模擬裁判は、裁判に関わる全ての人の役割を身をもって体験することができるので、限りなく実践に近い形で刑法を学ぶことができる。
授業計画	(1) 模擬裁判の配役を決める (2) 演技練習① ～全体読み合わせ～ (3) 演技練習② ～配役ごとの個別練習～ (4) 演技練習③ " (5) 演技練習④ ～全体練習～ (6) 演技練習⑤ " (7) 演技練習⑥ ～本番直前リハーサル～ (8) ～～模擬裁判本番～～ (9) 反省点の検討 (10) 来年の模擬裁判に向けての準備 (11) " (12) " (13) " (14) " (15) "	
自学自習	事前学習	・常に刑事事件のニュースなどに注目する。
	事後学習	・作成したシナリオを理解すること。
使用教材・参考文献	ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）など。	
成績評価方法と基準	出席と演習への取り組みの姿勢で判定する。	
備考	各人の協調性・チームワークを大切にしよう。	

科目名	専門演習ⅡB（民法（家族法）・国際私法）	
担当者	関口 晃治 / SEKIGUCHI, Koji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	民法の基礎知識を認識し、家族法分野の問題意識を持ち、その後、その問題の涉外性について調べ、まとめ、発表することを内容とする。
	到達目標	調べ、まとめ、発表するという一連の作業を経て、国際家族法の中に得意分野を持ち、発表者の発表を聞き、疑問点や意見を話し合うことで総合的な理解力を高めることを目標とする。
授業計画	(1) 演習進行説明 (2) 内容選別（各自） (3) 担当内容に関する質疑応答 (4) 発表（質疑応答） (5) 発表（質疑応答） (6) 発表（質疑応答） (7) 発表（質疑応答） (8) 発表（質疑応答） (9) 発表（質疑応答） (10) 発表（質疑応答） (11) 発表（質疑応答） (12) 発表（質疑応答） (13) 発表（質疑応答） (14) まとめ (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	次週の発表者の内容の基礎知識を学習しておくこと。
	事後学習	発表者の内容について各自復習すること
使用教材・参考文献	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
成績評価方法と基準	演習の中で指定するもの、および、配布資料	
備考	出席状況を重視して成績評価を行う。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	演習参加者それぞれが、民法の判例の中から関心のあるテーマを選び、その争点について研究発表して、発表者以外の演習参加者ととともに議論する。
	到達目標	関心のある民法上の争点について調査・研究することにより、資料探索能力・研究能力を養うとともに、活発な議論を通じてディベート能力を高める。
授業計画	<p>前期の専門演習ⅡAで決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 発表順の確認と後期の諸注意事項 (2) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (3) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (4) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (5) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (6) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (7) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (8) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (9) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (10) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (11) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (12) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (13) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (14) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (15) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、あらかじめレジュメを作成して配布すること。 ・発表者以外の演習参加者も発表者のテーマについて調べ、積極的に議論に参加して意見を述べられるようにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをもとに議論した内容を整理しておくこと。 ・発表した内容について論文を作成すること。
使用教材・参考文献	<p>【教】星野英一ほか編『民法判例百選Ⅰ（第5版）』有斐閣2006年、星野英一ほか編『民法判例百選Ⅱ（第5版）』有斐閣2006年、水野紀子ほか編『家族法判例百選（第7版）』有斐閣2008年</p>	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>研究発表50%、ディベート50%で判定する。 <評価基準>事案の争点を把握し、他の演習参加者と議論をすることができ、論文を提出すれば合格とする。</p>	
備考	<p>夏休みにはゼミ旅行、春休みにはゼミ合宿を、それぞれ2泊3日で行い、新ゼミ生歓迎会、卒業生送別会なども行う。</p>	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	橋本 直樹 / HASHIMOTO, Naoki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	<p>行政法の判例の中から受講者自らが関心のあるテーマを選び、発表者がレジュメを作成し、研究発表してもらい、疑問点や意見について他の受講者及び教員とともに議論する。</p> <p>また問題演習等を行い、行政法の講義で習得した知識の定着を図る。</p> <p>これだけに限らず、受講者の希望に応じた対応をとりたいと思う。</p>
	到達目標	<p>行政法判例を通じて、行政法Ⅰの講義で習得した知識の理解を深めるとともに、プレゼン能力、ディベート能力及び法的思考能力を養うことを目標とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 取消・無効確認訴訟以外の抗告訴訟・当事者訴訟 (3) 民衆訴訟・機関訴訟 (4) 行政訴訟の訴額 (5) 公権力の行使に係る国家賠償責任 (1) (6) 公権力の行使に係る国家賠償責任 (2) (7) 公の営造物に係る国家賠償責任 (1) (8) 公の営造物に係る国家賠償責任 (2) (9) 費用負担者の責任 (10) 民法その他の法律の適用 (11) 行政上の損失補償 (12) 国家補償と社会保障 (13) 問題演習 (14) 問題演習 (15) 問題演習 	
自学自習	事前学習	<p>発表者は、前もってレジュメを作成しておくこと。</p> <p>発表者以外の受講者は、発表者の選んだ判例を前もって読み込んでおくこと。</p>
	事後学習	<p>教科書と発表者が作成したレジュメに基づいて、復習を行い、理解を深めておくこと。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅱ 第6版』有斐閣 2012年 ISBN978-4-641-11512-5</p> <p>【参】 池村正道編『行政法』弘文堂 2012年 ISBN978-4-335-00196-3</p>	
成績評価方法と基準	研究発表の内容、議論への参加態度等を総合して評価する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB（憲法）	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	専門演習Ⅰに引き続き、憲法判例の研究を行う。
	到達目標	各自の研究テーマに基づき、ゼミ論文を作成する。 分量は、1万字（400字詰原稿用紙25枚）程度。
授業計画	(1) 後期のオリエンテーション (2) ゼミ論文概要発表・討論 (3) // (4) // (5) // (6) // (7) // (8) // (9) // (10) // (11) ゼミ論文発表 (12) // (13) // (14) // (15) //	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の授業につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。 詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】【参】 授業時間に説明する。	
成績評価方法と基準	ゼミ論文の内容で評価する。評価基準は授業中に説明する。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	ゼミ参加者は、判例及び教科書等を前もって読んだうえで、参加し、授業では、報告担当者が、各自が選んだテーマについて、主要な判例の事実・判旨、学説および各自の研究について、レジュメを基に報告します。その後、そのテーマおよび報告について、全員で、質問し、議論します。
	到達目標	労働法の判例や学説を深く理解している、以前よりもより高度な論理的思考力・コミュニケーション能力を有している。
授業計画	(1) 年少者・女性 (2) 安全衛生 (3) 災害補償 (4) 労災保険 (5) 再就職と引退 (6) 非典型雇用・外国人雇用 (7) 労働者、使用者 (8) 労働組合 (9) 団体交渉 (10) 労働協約 (11) 争議行為 (12) 不当労働行為 (13) 労働紛争の解決手段 (14) 労働法の適用 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・判例及び教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・レポートを作成すること。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価 3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>労働法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>報告（20点）＋参加状況（質問・議論等）（60点）＋レポート（20点）で評価します。	
備考		

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	専門演習ⅡA（平手）の続きです。専門演習ⅡAと同じく、各自が決定したテーマ（マイケル・サンデルの正義論，法と経済学に基づく不法行為論など）の研究を深め、1月にはゼミ論文の提出を義務付けます。
	到達目標	最終的には、各自の研究テーマの問題意識、先行研究の状況、自らの見解を、ゼミ論文として公表できるようになること。
授業計画	(1) オリエンテーション（研究発表の日程調整、自己紹介など） (2) 各自報告&議論 (3) 同上 (4) 同上 (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同上 (9) 同上 (10) 同上 (11) 同上 (12) 同上 (13) 同上 (14) 同上 (15) 同上	
自学自習	事前学習	授業前の準備学習は、とても大切です。参考文献は最低読んで理解しててください。学習時間の目安としては、多ければ多いほど良いのは当然ですが、標準的な学生で、最低毎週4・5時間程度の予習を求めます。
	事後学習	授業に集中すれば復習はあまりいりませんが、各自ゼミにおいて興味をもった分野の研鑽に努めることを求めます。
使用教材・参考文献	【教】各自の研究テーマに応じて、適宜指示をする。	
成績評価方法と基準	報告・発言内容、そして、ゼミ論等をもとに総合的に評価いたします。	
備考	専門演習ⅡA（平手）を受講した方は、引き続き必ず本講座を履修すること。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	判例研究発表と全体での質疑応答で進めていくが、ゼミ生の意見も取り入れつつ、臨機応変に様々な方法を試していきたいと思う。判例は、教員の示す一定の範囲からゼミ生自らが関心のあるものを選択し、条文・制度趣旨等の基本事項の確認や、争点となった論点等についての判例の見解・学説・自説等を、発表担当者の作成したレジュメをもとに発表してもらう。
	到達目標	講義などで習得した知識をベースに、民法のより深い理解が身につくとともに、リサーチ能力、プレゼン能力、およびディベート能力が身につくことを目標とする。
授業計画	(1) ゼミ生の研究発表と質疑応答 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 後期講評	
自学自習	事前学習	各自積極的に議論に参加できるよう予習は欠かさずに行うこと。
	事後学習	ゼミで学んだことは必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】奥田昌道ほか編『判例講義 民法Ⅰ 総則・物権(補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 9784946406911 奥田昌道ほか編『判例講義 民法Ⅱ 債権(補訂版)』悠々社 2007年 ISBN 4946406921 【参】内田貴著『民法Ⅰ～Ⅲ』東京大学出版会、近江幸治著『民法講義Ⅰ～Ⅳ』成文堂 潮見佳男ほか編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』有斐閣 2009年、 潮見佳男ほか編『民法判例百選Ⅱ 債権』有斐閣 2009年	
成績評価方法と基準	研究報告内容、議論への参加度、授業態度等を総合評価する。	
備考	親睦会などのイベント行事は、ゼミ長が中心となってゼミ生の総意により企画運営を行ってください。	

科目名	専門演習ⅡB	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	民事訴訟手続全般、非訟事件手続、行政処分に対する不服申立手続等に関する重要な論点について、関連判例や学説の検討を行います。なお、本演習は、原則として、参加者の各自が設定した問題提起や判例研究などを報告してもらい、その報告をもとに質疑応答、討論を行う予定です。
	到達目標	知識の習得に留まるのではなく、議論を通じて論理的思考能力を高めることを目標とします。
授業計画	(1) ガイダンス（報告担当者・報告順序・報告内容の検討など） (2) 担当者による報告と演習参加者による討論 (3) 担当者による報告と演習参加者による討論 (4) 担当者による報告と演習参加者による討論 (5) 担当者による報告と演習参加者による討論 (6) 担当者による報告と演習参加者による討論 (7) 担当者による報告と演習参加者による討論 (8) 担当者による報告と演習参加者による討論 (9) 担当者による報告と演習参加者による討論 (10) 担当者による報告と演習参加者による討論 (11) 担当者による報告と演習参加者による討論 (12) 担当者による報告と演習参加者による討論 (13) 担当者による報告と演習参加者による討論 (14) 担当者による報告と演習参加者による討論 (15) 担当者による報告と演習参加者による討論	
自学自習	事前学習	報告者以外の演習参加者であっても、報告予定の分野や箇所について予習をしておいてください。
	事後学習	演習中に議論された問題点等をノートなどに整理し、毎回の演習内容を復習すること。
使用教材・参考文献	教科書等は特に指定しませんが、必要に応じて発表するテーマに関連した参考文献をアドバイスします。	
成績評価方法と基準	〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 〈方法〉報告内容、議論への参加度、受講態度などを総合評価します。	
備考		

科目名	ビジネス倫理	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	この授業では、ビジネスにおける倫理問題を広く取り扱う。DVD等の機器を適宜使用する予定である。
	到達目標	本講義を通じてビジネスと倫理の関係を理解する。
授業計画	(1) ビジネス倫理を学ぶためのオリエンテーション (2) 企業の社会的責任 (3) ビジネスと社会的責任 (4) ビジネスの正しさ (5) ビジネスにおけるモラル=エージェント (6) 法と倫理と企業 (7) ビジネス=エシックス (8) コンプライアンス (9) コーポレート=ガバナンス (10) 関係性と正しさ (11) 協働と協働体 (12) 法人論 (13) 市場社会における法と倫理 (14) 市場の論理と倫理 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】森末伸行『ビジネスの法哲学』昭和堂 2006年	
成績評価方法と基準	<基準>ビジネスと倫理の関係が理解できたものは合格とする。 <方法>小テスト (20%)、受講態度 (30%)、レポート (50%)	
備考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方などの説明)を行うので、必ず出席する。 教科書・ノートを事前に準備する。ルーズリーフは不可。	

科目名	企業法務総論	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	企業経営は、設立から商取引活動、整理・解散に至るまで法律により規制されています。つまり企業経営と法律は車の両輪の関係にあります。企業の設立、商取引、解散までの企業法務全般の基礎知識を習得することを目的として講義します。
	到達目標	企業と法律の関わりについて、基礎的な理解を得ることが出来る。ビジネス・キャリア検定「企業法務3級」合格レベルに達する。
授業計画	(1) 講義の進め方 ビジネス・キャリア制度の目的 (2) 法令用語・法令解釈の基礎 (3) 企業活動とコンプライアンス (4) 企業の種類 (5) 企業の設立・商業登記 (6) 企業の役員・定款 (7) 企業統合 合併 譲渡 分割 (8) 株式会社の機関 (9) 取締役・監査役の責任 (10) 労働法の基礎 (11) 社会保険の基礎 (12) 正社員と非正社員 (13) 職場のハラスメント (14) 内部告発 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	適宜、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】中央職業能力開発協会 編 「企業法務3級」 2007年 社会保険研究所	
成績評価方法と基準	<基準>ビジネス・キャリア検定試験「企業法務3級」程度の理解が出来る。 <方法> テスト70% 出席態度30%	
備考	講義では「六法全書」を使用する。各自六法全書を揃えて受講すること。別講義「企業法務各論」も受講することが望ましい。	

科目名	企業法務各論	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	企業経営は、設立から商取引活動、整理・解散に至るまで法律により規制されています。つまり企業経営と法律は車の両輪の関係にあります。企業の設立、商取引、解散までの企業法務全般の基礎知識を習得することを目的として講義します。
	到達目標	企業と法律の関わりについて、基礎的な理解を得ることを目標とします。ビジネス・キャリア検定「企業法務3級」合格レベルに達する。
授業計画	(1) 講義の進め方 (2) 契約書の基本 (3) 売買契約・不動産取引契約 (4) 金銭消費貸借契約 (5) 登記事項の読み方・信用調査 (6) 手形・小切手 (7) 物的担保と人的担保 (8) 独占禁止法 (9) 消費者保護法 (10) 個人情報保護法 (11) 知的財産 その1 (12) 知的財産 その2 (13) 公正証書・内容証明 (14) 和解・示談・民事訴訟 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	適宜、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】中央職業能力開発協会 編 「企業法務3級」 2007年 社会保険研究所 【参】別途、指示する。	
成績評価方法と基準	<基準>ビジネス・キャリア検定試験「企業法務3級」程度の理解が出来る。 <方法> テスト70% 出席態度30%	
備考	講義では「六法全書」を使用するので、各自六法全書を揃えて受講すること。 別講義「企業法務総論」も受講することが望ましい。	

科目名	企業組織法務	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、会社組織に関する知識を理解することを目的とする。株式会社を中心に講義するが、必要に応じて持分会社等にも触れる。
	到達目標	会社組織に関する知識を習得し、ビジネスキャリア検定試験に合格するに必要な十分な知識を身に付けることを目標とする。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義ガイダンス (2) 企業の種類 (3) 設立① (4) 設立② (5) 株式① (6) 株式② (7) 株式③ (8) 機関総論 (9) 株主総会 (10) 取締役・取締役会 (11) 監査役・監査役会・会計参与・会計監査人 (12) 委員会設置会社 (13) 役員等の責任 (14) 組織再編① (15) 組織再編②・総まとめ 	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	<p>【教】 特に指定しない。毎回レジュメを配布する。</p> <p>【参】 伊藤・大杉・田中・松井「LEGAL QUEST会社法」第2版（有斐閣）</p>	
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・ 小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 	
備考	六法は必ず持参すること。	

科目名	雇用法務	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	個別的労働関係法（労働契約法等）について裁判例を紹介しつつ講義します。
	到達目標	個別的労働関係法（労働契約法等）の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 募集・採用 (2) 解雇 (3) 辞職・合意解約、退職金、競業禁止 (4) 就業規則・労働協約による労働条件の変更 (5) 変更解約告知、合併・事業譲渡・会社分割 (6) 配転・出向、人事考課 (7) 個人情報、プライバシー、職務発明 (8) 労働契約上の権利義務（安全配慮義務等） (9) 使用者責任 (10) 有期労働、パートタイム労働 (11) 派遣労働 (12) 男女雇用平等、ハラスメント (13) 内部告発、公益通報 (14) 労働組合、団体交渉、労働協約 (15) 不当労働行為	
自学自習	事前学習	・教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・小テスト及び期末試験の準備のために復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】中窪裕也・野田進『労働法の世界（第10版）』有斐閣 2013年 予価3360円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準> 個別的労働関係法（労働契約法等）の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法> 小テスト（10点×5回）＋期末試験（50点）で評価します。	
備考	この科目は、「現代社会と法」「法学入門」若しくは「法学概論」程度の知識を前提として講義します。 この科目は、中央職業能力開発協会編『企業法務3級（ビジネス・キャリア検定試験標準テキスト）』社会保険研究所 2007年 ISBN 4789495004の「第4章雇用に関する法務」および関連する過去問の解説を含みます。企業法務3級受験予定者は受講してください。 雇用法務（企業組織法務Ⅲ）では個別的労働関係法（労働契約法等）、社会法Ⅰでは個別的労働関係法（労働基準法等）、社会法Ⅱでは個別的労働関係法（労働保険法等）及び集团的労働関係法（労働組合法等）を扱います。	

科目名	契約管理法務	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	契約書の基本構成、基本ルールおよび必要な法律知識を解説し、典型契約の作成の方法を紹介する。
	到達目標	企業法務の基本といえる日本語の基本的な契約書の作成と審査ができる知識を身につけ、実際に契約書が作れるようになることを目標とする。
授業計画	(1) 契約とは (2) 民法上の責任の種類 (3) 契約書基本構成とルール (4) 契約解除、危険負担、担保責任 (5) 売買契約① (6) 売買契約② (7) 賃貸借契約① (8) 賃貸借契約② (9) 金銭消費貸借契約① (10) 金銭消費貸借契約② (11) 請負契約 (12) 委任契約と委任状 (13) 印紙税法、国際取引契約 (14) 契約書作成 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	テキスト及びプリントを必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】中央職業能力開発協会編『ビジネス・キャリア検定試験標準テキスト 企業法務 3級』社会保険研究所 2007年 ISBN9784789495004 配布資料 【参】講義の中で適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	学期末試験（80%）と授業態度等（20%）により評価する。 基準については第1回講義で説明する。	
備考	六法を持参すること（ポケット六法で可）。	

科目名	債権管理法務	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	債権者にとって債務者が返済を怠った場合にいかに債権を回収するかは重要なテーマであり、究極には裁判所を利用して強制的に債権回収を図ることができます。その具体的方策としての民事執行手続、民事保全手続について、その基本的事項についてわかりやすく解説します。
	到達目標	民事執行法における債権回収の方法について、基本的事項を理解する。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (授業の進め方、成績の評価基準など) (2) 強制執行の組立て (27-68) (3) 担保執行の組立て (69-78) (4) 不動産執行の構成 (79-83) (5) 不動産競売の開始・差押えの効力 (83-90) (6) 売却条件 (91-98) (7) 売却の準備 (98-108) (8) 売却の実施 (108-118) (9) 二重差押・配当要求 (118-123) (10) 配当 (123-134) (11) 不動産の収益からの債権回収 (143-148) (12) 金銭債権に対する強制執行 (149-192) (13) 執行救済 (241-280) (14) 民事保全の組立て・仮差押え・係争物仮処分・仮地位仮処分 (281-342) (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ (授業計画に示した頁数) を事前に読んでおいてください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	<p>【教】 中野貞一郎『民事執行・保全入門』有斐閣 2010年 ISBN:978-4-641-13535-2</p> <p>【参】 裁判所職員総合研修所監修『民事執行実務講義案 (改訂版)』司法協会 2005年</p> <p>【参】 権田修一『債権回収 基本のき [第3版]』商事法務 2011年 ISBN978-4-7857-1924-1</p> <p>【参】 森田 修『債権回収法講義 [第2版]』有斐閣 2011年 ISBN:978-4-641-13600-7</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>〈方法〉 小レポートの結果 (30%)、期末試験の結果 (70%) を総合評価します。</p>	
備考	<p>六法 (コンパクト六法可) を毎回持参してください。</p> <p>履修条件: 物権法Ⅱ、債権法総論Ⅱを履修していること</p>	

科目名	紛争処理法務	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	取引社会において紛争が生じた場合に、それを解決する手段である民事訴訟（判決手続）や支払督促手続等の基本的事項を学習し、手続の流れをイメージできるようにわかりやすく解説していきます。
	到達目標	判決手続を中心とした民事紛争処理手続の概略について理解する。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 裁判の世界(5-54) (3) 民事裁判における憲法・民法・訴訟法(55-71) (4) 訴訟と非訟（71-76） (5) 訴えと請求(77-108) (6) 審理・裁判をする裁判所（109-126） (7) 訴える人、訴えられる人(127-178) (8) 訴訟審理の進め方（179-216） (9) 民事訴訟法の基本原則(217-240) (10) 事実認定と証拠（241-267） (11) 証明責任（268-282） (12) 判決（283-310） (13) 上訴と再審（311-332） (14) 少額訴訟と督促手続（333-342） (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前にお読みください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前にお調べしておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	<p>【教】中野貞一郎『民事裁判入門〔第3版補訂版〕』有斐閣 2012年 ISBN:978-4-641-13623-6</p> <p>【参】裁判所職員総合研修所監修『民事訴訟法講義案（再訂補訂版）』司法協会 2011年</p> <p>【参】中野＝松浦＝鈴木『新民事訴訟法講義〔第2版補訂2版〕』有斐閣 2009年 ISBN:978-4-641-09378-2</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>〈方法〉小レポートの結果(30%)、期末試験の結果（70%）を総合評価します。</p>	
備考	六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。	

科目名	会社法Ⅰ	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、会社法（株式、機関等）についての基礎知識を習得することを目的とする。株式会社についての講義が中心であるが、株式会社と比較する形で持分会社も取り扱う。
	到達目標	各種国家試験や、法科大学院入試に向け必要十分な知識を習得することを目標とする。
授業計画	(1) 講義ガイダンス (2) 会社法総論 (3) 会社の種類 (4) 株式①（株式の種類等） (5) 株式②（株式の譲渡および譲渡制限等） (6) 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等） (7) 株式④（株式併合・分割・無償割当て等） (8) 機関総論 (9) 機関①（株主総会等） (10) 機関②（取締役・取締役会等） (11) 機関③（監査役・会計参与・会計監査人） (12) 機関④（委員会設置会社） (13) 役員等の義務と責任① (14) 役員等の義務と責任② (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】伊藤・大杉・田中・松井「LEGAL QUEST会社法」第2版（有斐閣） 【参】講義中に紹介する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	・期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。	
備考	会社法Ⅱと連続性があるので、会社法Ⅱも履修することを原則とする。	

科目名	会社法Ⅱ	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、会社法（設立、資金調達、計算、組織再編等）についての基礎知識を習得することを目的とする。株式会社についての講義が中心であるが、株式会社と比較する形で持分会社も取り扱う
	到達目標	各種国家試験や、法科大学院入試に向け必要十分な知識を習得することを目標とする。
授業計画	(1) 講義ガイダンス (2) 設立①（設立手続等） (3) 設立②（設立に関する責任等） (4) 資金調達①（募集株式の発行等） (5) 資金調達②（募集株式の発行等） (6) 資金調達③（新株予約権） (7) 資金調達④（社債） (8) 計算 (9) 組織再編①（総論） (10) 組織再編②（事業譲渡） (11) 組織再編③（合併） (12) 組織再編④（会社分割） (13) 組織再編⑤（株式交換・株式移転） (14) 組織変更 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】伊藤・大杉・田中・松井「LEGAL QUEST会社法」第2版（有斐閣） 【参】講義中に紹介する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	・期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。	
備考	会社法Ⅰと連続性があるので、会社法Ⅰも履修することを原則とする。	

科目名	商法総則・商行為法	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、商法総則・商行為についての基礎知識を身に付けることを目的とする。民法との違いを意識しながら学習に取り組んで欲しい。
	到達目標	各種国家試験や、法科大学院入試に向け必要十分な知識を習得することを目標とする。
授業計画	(1) 講義ガイダンス (2) 商法の意義と適用範囲 (3) 商業登記 (4) 商号 (5) 営業譲渡・事業の譲渡 (6) 商業帳簿 (7) 商業使用人・代理商 (8) 商行為・商人の行為に関する規定① (9) 商行為・商人の行為に関する規定② (10) 商事売買・有価証券 (11) 仲立と取次 (12) 運送営業と倉庫営業 (13) 場屋営業 (14) 匿名組合・交互計算 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】 弥永真生「リーガルマインド商法総則・商行為法」第2版（有斐閣） 【参】 講義中に紹介する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	・ 期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・ 小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・ 別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。	
備考		

科目名	手形小切手法	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	手形法および小切手法の基礎知識を習得することを目的とする。手形小切手法は、商法の中でも最も理論的争いのある分野と言える。本講義では、通説及び判例を中心に理解を深める。
	到達目標	各種国家試験や、法科大学院入試に向け必要十分な知識を習得することを目標とする。
授業計画	(1) 講義ガイダンス (2) 約束手形の意義・原因関係と手形関係 (3) 手形の有効要件① (4) 手形の有効要件② (5) 他人による手形行為 (6) 無権代理と偽造 (7) 裏書① (8) 裏書② (9) 手形抗弁① (10) 手形抗弁② (11) 手形の支払・遡求・時効・利息償還請求権 (12) 手形保証・除権決定 (13) 白地手形① (14) 白地手形② (15) 為替手形・小切手・手形訴訟・小切手訴訟・総まとめ	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】 弥永真生「リーガルマインド手形法・小切手法」第2版補訂2版(有斐閣) 【参】 講義中に指示する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	・ 期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・ 小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・ 別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。	
備考		

科目名	保険法	
担当者	細見 佳子 / HOSOMI, Yoshiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義では、生命保険や火災保険等、社会生活を送るうえで必要な保険法について、初学者にも分かりやすく説明します。特に、2008（平成20）年に制定された「保険法」のポイントを確認していきます。保険については、ファイナンシャル・プランナー、社会保険労務士等の資格試験でも出題されます。これらの資格試験に必要な基礎理論についても解説していきます。
	到達目標	保険法の基礎知識を習得する。 資格試験で求められる、保険の基礎知識を習得する。
授業計画	(1) 講義ガイダンス 保険とはなにか (2) 保険法の基礎知識 (1) 保険のしくみ・保険と経済生活 (3) 保険法の基礎知識 (2) 保険の基本用語・種類 (4) 保険法の基礎知識 (3) 保険法改正と新保険法 (5) 損害保険 (1) (6) 損害保険 (2) (7) 損害保険 (3) (8) 損害保険 (4) (9) 損害保険 (5) (10) 生命保険 (1) (11) 生命保険 (2) (12) 生命保険 (3) (13) 傷害疾病保険 (1) (14) 傷害疾病保険 (2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の区切りで、理解確認のための小テストを実施します。
使用教材・参考文献	【教】 ・竹瀨修『(日経文庫 1 1 9 8) 保険法入門』2009年，日本経済新聞出版社 [ISBN978-4-532-11198-4] . ・萩本修『これ一冊でわかる！新しい保険法』2008年，きんざい [ISBN978-4-322-11377-8]. 【参】初回の講義で、詳しい文献リストを配布します。また、講義時間中に適宜紹介していきます。	
成績評価方法と基準	〈方法〉受講態度（授業態度・出席態度・小テスト等）50%、試験50% 〈基準〉保険・保険法に関する基礎知識が習得できたものは合格とします。	
備考	六法（ポケットで可）を持参してください。	

科目名	金融商品取引法	
担当者	河野 総史 / KAWANO, Soshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	金融商品取引法を学ぶことで、投資判断における情報開示の重要性を理解することを目的とする。
	到達目標	金融商品取引法に規定された開示制度、不公正取引の規制等を学ぶことで、新聞やニュースで報道される現代社会の出来事（村上ファンド事件やオリンパス事件）についての理解を深める。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義ガイダンス (2) 金融商品取引法の全体像 (3) 有価証券の取引方法 (4) 企業内容の開示規制① (5) 企業内容の開示規制② (6) 企業内容の開示規制③ (7) 金融商品取引業者の規制 (8) 企業支配に関する開示制度 (9) 投資信託および集団投資スキーム (10) 不公正な取引の規制① (11) 不公正な取引の規制② (12) 不公正な取引の規制③ (13) 罰則と課徴金 (14) デリバティブ取引 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	特に指示があった場合以外は、予習は不要。
	事後学習	授業の復習をしっかりと行い、次回の小テストに備えること。
使用教材・参考文献	【教】 近藤・志谷・石田・釜田「基礎から学べる金融商品取引法」(弘文堂) 【参】 講義中に紹介する。六法は必ず持参すること。	
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末テスト80%、小テスト20%とし、全体で60%以上を合格とする。 ・ 小テストは3講目以降、前回の講義内容から出題する。 ・ 別途、任意でレポートを提出してもらい、20点を上限として加点する。 	
備考		

科目名	倒産処理法	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	倒産処理は、債務者が経済的に破綻した場合に、債務者の財産から複数の債権者に対する割合的な弁済を主たる目的とする活動であり、それらを規律する倒産法の概要と、その中で精算型手続と言われる破産手続についての概略を説明します。
	到達目標	倒産処理法制の全体像を把握し、精算型である破産手続についての基本的事項とその手続の流れについて理解する。
授業計画	(1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 倒産処理制度の概要(1-28) (3) 破産手続の意義・概要(50-52) (4) 破産手続の開始(52-63) (5) 破産手続の機関(63-71) (6) 破産財団と債権者(71-79) (7) 破産財団をめぐる契約・権利関係(79-107) (8) 破産手続の進行(107-114) (9) 配当(114-119) (10) 消費者の破産手続(119-126) (11) 自由財産・免責手続(126-136) (12) 民事再生手続(137-188) (13) 消費者の民事再生(188-214) (14) 会社更生手続(215-241) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前にお読みください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	【教】 山本和彦『倒産処理法入門 第4版』有斐閣 2012年 ISBN:978-4-641-13632-8 【参】 加藤哲夫『破産法〔第6版〕』有斐閣 2012年 ISBN:978-4-335-31363-9	
成績評価方法と基準	〈基準〉 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 〈方法〉 小レポートの結果(30%)、期末試験の結果(70%)を総合評価します。	
備考	六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。	

科目名	税法	
担当者	徳留 利幸 / Tokudome, Toshiyuki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	実務家の視点から見た、税法の趣旨・概要・手続き等を体系的に学習する。
	到達目標	「いわゆる国税三法である、所得税・法人税・相続税の基本を体系的に理解する」 「身近な税である、消費税についてその基本と課税方法を理解する」 「税全般について、その関連性を体系的に理解する」
授業計画	(1) 税法の基礎・税の種類・体系 (2) 所得税法：所得の種類と担税力 (3) 所得税法：所得控除と税額計算 (4) 法人税法：概要 (5) 法人税法：企業会計と法人所得 (6) 法人税法：損金と益金 (7) 相続税法：基本概要 (8) 相続税法：財産評価と課税方法 (9) 相続税法：相続時精算課税制度 (10) 消費税法：基本と概要 (11) 消費税法：簡易課税と本則課税 (12) 所得税法と法人税法 (13) 主な地方税法の基本と課税方法 (14) 税法改正とこれからの税制 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容の復習を行う。 ・実社会における税制の体系を理解する。
使用教材・参考文献	【教】講義中に配布する資料を用いる。	
成績評価方法と基準	〈基準〉税法の体系的な理解が達成できた者を合格とし、税法の基礎理解が習得出来なかったものを不合格とする。 〈方法〉出席とテストにより判定し、配分は受講態度50% 試験50%	
備考		

科目名	消費者法	
担当者	飯田 泰雄 / IIDA, Yasuo	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 4年次	
科目概要	授業内容	現代社会における消費者問題の実態を明らかにするとともに、消費者の権利実現に向けての法的諸方策について概説する。
	到達目標	消費者の権利を中心とする消費者法を把握し、民法や商法、独禁法や行政法などのいろいろな法律がそれと如何にかかわっているかについて理解する。
授業計画	(1) 消費者問題の歴史 (2) 市場経済と消費者 (3) 消費者の特質と消費者の権利 (4) 消費者契約の適正化 (5) 消費者と公正自由な競争 (6) 特定商取引法 (7) 商品の安全性の確保 (8) 製造物責任 (9) 商品の適正な表示の確保 (10) 消費者信用 ① サラ金 (11) 消費者信用 ② クレジット (12) 金融商品取引法 (13) 消費者運動と消費者団体 (14) 消費者行政 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義で触れられた裁判例などについても原文にあたっておくこと。
使用教材・参考文献	【教】杉浦市郎編「新・消費者法これだけは」(法律文化社) 2,730円、2010年、ISBN978-4-589-03023-8 【参】正田彬「消費者の権利 新版」(岩波新書) 756円、2010年、ISBN978-4-00-431232-1	
成績評価方法と基準	期末試験 (50点) 平常点 (50点)	
備考	民法の契約法と不法行為法を履修していることが望ましい。	

科目名	不動産取引法Ⅰ	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	不動産取引の大多数は宅地建物取引業者が関与してなされており、宅地建物取引業者には宅地建物取引業法が適用されて、特別な法規制が設けられている。そこで、一般にはあまりなじみのない宅地建物取引業法をわかりやすく解説する。
	到達目標	宅地建物取引主任者試験の問題を70%程度解けることを目標とする。
授業計画	(1) 宅地建物取引業の定義 (2) 宅地建物取引業免許 (3) 免許の基準と欠格要件 (4) 宅地建物取引主任者制度 (5) 取引主任者登録と登録簿 (6) 一般規制No.1媒介契約 (7) 一般規制No.2重要事項説明 (8) 一般規制No.3契約書面の交付 (9) 自ら売主の8種制限① (10) 自ら売主の8種制限② (11) 自ら売主の8種制限③ (12) 報酬 (13) 標識の掲示・その他の制限 (14) 監督処分・罰則 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布プリントを必ず復習すること
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	学期末試験（80%）と授業態度等（20%）により評価する。 基準については第1回講義で説明する。	
備考		

科目名	不動産取引法Ⅱ	
担当者	牧野 高志 / MAKINO, Takashi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	不動産は高額であり、生活や事業活動の基盤となるものであるため、その取引には一般の物品取引と異なる法制度が設けられている。そこで、不動産取引の広告規制・不動産課税制度等の諸制度を取り上げ、その法律上の問題点を説明する。
	到達目標	宅地建物取引主任者試験の問題を70%程度解けることを目標とする。
授業計画	(1) 税とは (2) 不動産取得税 (3) 固定資産税 (4) 譲渡所得税 (5) 印紙税 (6) 登録免許税 (7) 贈与税 (8) 営業保証金制度 (9) 保証協会制度 (10) 広告に関する規制 (11) 住宅金融支援機構法 (12) 不動産売買① (13) 不動産売買② (14) 抵当権 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	プリントを必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	学期末試験（80%）と授業態度等（20%）により評価する。 基準については第1回講義で説明する。	
備考		

科目名	登記法Ⅰ	
担当者	中菌 博史 / NAKAZONO, Hiroshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本講義では、不動産登記法に基づき、不動産登記制度全般について説明する。物権法Ⅰ及び物権法Ⅱ（担保物権）を履修している事を前提に講義を行う。
	到達目標	不動産登記法の存在意義・役割を理解したうえで、不動産登記記録から権利変動を読み取る力を養う事を目標とする。 司法書士試験合格に必要な知識の修得を到達目標とする。
授業計画	(1) 不動産登記制度の意義 (2) 登記所及び登記官 (3) 登記手続の総則 (4) 表示に関する登記 (1) 一土地の表示に関する登記 (5) 表示に関する登記 (2) 一建物の表示に関する登記 (6) 権利に関する登記 (1) 一通則 (7) 権利に関する登記 (2) 一所有権に関する登記 (8) 権利に関する登記 (3) 一用益権に関する登記 (9) 権利に関する登記 (4) 一担保権等に関する登記① (10) 権利に関する登記 (5) 一担保権等に関する登記② (11) 権利に関する登記 (6) 一仮登記 (12) 権利に関する登記 (7) 一仮処分に関する登記 (13) 権利に関する登記 (8) 一官庁または公署が関与する登記 (14) 登記事項の証明 (15) 総まとめ（筆界特定を含む）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに前回までの小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】竹下貴浩『デュープロセス』早稲田経営出版 2009年	
成績評価方法と基準	<評価方法>試験結果のみで判定する。 <評価基準>受講態度に問題がない場合は、司法書士試験と同程度の試験問題で50%以上の正解を合格とする。	
備考	履修条件：物権法Ⅰ及び物権法Ⅱ（担保物権）を履修している事。	

科目名	登記法Ⅱ	
担当者	中菌 博史 / NAKAZONO, Hiroshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本講義では、商業登記法に基づき商業登記制度全般について説明する。商法総論・総則、会社法Ⅰ（企業組織法務Ⅰ）、会社法Ⅱ（企業組織法務Ⅱ）を履修している事を前提に講義を行う。
	到達目標	商業登記法の存在意義・役割を理解した上で、商業登記簿から権利関係を読取る力を養う事を目標とする。 司法書士試験合格に必要な知識の修得を到達目標とする。
授業計画	(1) 商業登記制度の意義 (2) 商業登記簿 (3) 登記手続の通則 (4) 商号の登記、未成年者及び後見人の登記、支配人の登記 (5) 株式会社の登記 (1) 一設立の登記① (6) 株式会社の登記 (2) 一設立の登記② (7) 株式会社の登記 (3) 一本店移転の登記変更の登記 (8) 株式会社の登記 (4) 一役員・商号・目的変更の登記 (9) 株式会社の登記 (5) 一募集株式発行等による変更の登記 (10) 株式会社の登記 (6) 一解散・組織変更の登記 (11) 株式会社の登記 (7) 一合併・分割の登記 (12) 合名会社・合資会社の登記 (13) 合同会社・外国会社の登記 (14) 登記の更正及び抹消（審査請求含む） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに前回までの小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】竹下貴浩『デュープロセス』早稲田経営出版 2009年 【参】長瀬二三男『私法概論』一橋出版 2006年	
成績評価方法と基準	<評価方法>試験結果のみで判定する。 <評価基準>受講態度に問題がない場合は、司法書士試験と同程度の試験問題で50%以上の正解を合格とする。	
備考	履行条件：商法総論・総則、会社法Ⅰ（企業組織法務Ⅰ）、会社法Ⅱ（企業組織法務Ⅱ）を履修している事。	

科目名	ビジネスの歴史	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	マネジメントは、人類の誕生とともに存在しましたが、学として認識されたのは、僅かここ 100 年のことです。「産業化の時代」から「マネジメントの時代」へと移った 20 世紀。かかる 20 世紀に登場した経営理論と経営実践が、どのように発展してきたかをたどり、偉大な経営思想家、実業家の人生や時代背景、そして、彼らが創造した組織の輪郭を改めて見つめなおすことで、明日への展望を示すことを目標とします。
	到達目標	マネジメントの歴史をたどることによって、マネジメントの本質を理解し、マネジメントの発想を生かすことができるようになること。
授業計画	(1) ガイダンス：産業からマネジメントへ (2) 1901～1910：ストップウォッチ・サイエンス —科学的管理法の「登場」— (3) 1911～1920：モダン・タイムス —フォードの大量生産— (4) 1921～1930：組織の発見 —スローンの経営モデル— (5) 1931～1940：人間の発見 —ホーソン実験— (6) 1941～1950：戦時中の教訓 —品質管理と日本の再生— (7) 1951～1960：夢の生活 —マーケティングと人間関係学派— (8) 1961～1970：戦略の理解 —ドラッカー、チャンドラー、アンゾフ— (9) 1971～1980：組織的な麻痺 —ヨーロッパ型の企業経営— (10) 1981～1990：エクセレントな冒険 —日本的経営— (11) 1991～2000：新しいパワーバランス —GE、トヨタ、デュー— (12) 2001～2010：マネジメントの現状 (13) 自然法と経営学 —トマス主義におけるマネジメント— (14) ヨハネス・メスナーの『エグゼクティブ』について (15) まとめと試験	
自学自習	事前学習	事前に教科書を読み、疑問点を明らかにして講義に望むとよい。
	事後学習	講義において興味を持った人物・理論のその人生・背景を各自調べ、自己研鑽に努めるとよい。
使用教材・参考文献	【教】 嶋口充輝監訳『マネジメントの世紀 1901～2000』 (東洋経済新報社、2000年)。	
成績評価方法と基準	期末試験の結果、そして、平常点を加味し、総合的に評価いたします。	
備考	①教科書は必ず携帯して講義に参加しましょう。 ②遅刻・欠席、私語等、講義にあたってのマナー違反は厳しく対処します。	

科目名	経営学	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、経営学および経営実践に関する基礎的知識（経営学検定試験初級レベル、公務員試験レベル）の修得を目的とします。具体的には、経営学の重要テーマ（経営理論、企業論、経営組織、経営管理、経営戦略、経営課題など）について基本的な理論を学習します。マネジメントに興味がある方、経営学検定試験に合格したい方、公務員試験で経営学が必要な方は是非受講してください。
	到達目標	ビジネスにおける経営能力の初歩を身につけ、経営学検定試験初級に合格する程度の実力をつけること。なお、昨年度（平成24年度）は、10名の受講者中8名が合格しております。
授業計画	(1) ガイダンス、企業論①（企業と経営） (2) 企業論②（会社の諸形態と所有と経営の分離） (3) 企業論③（コーポレート・ガバナンス） (4) 企業論④（日本的経営） (5) 経営学の歴史①（テイラー、フォード、ホーソン実験） (6) 経営学の歴史②（近代組織論、その他） (7) 経営組織論①（経営組織の歴史） (8) 経営組織論②（経営組織の諸形態） (9) 経営管理論（動機付け理論、リーダーシップ論、経営計画、統制） (10) 経営戦略論①（基礎概念、経営戦略の歴史、全社戦略、機能別戦略） (11) 経営戦略論②（人事戦略） (12) 経営戦略論③（生産戦略） (13) 経営戦略論④（マーケティング戦略） (14) 経営課題①（M&Aと買収防衛策、経営のグローバル化） (15) 経営課題②（情報化、企業の社会的責任、環境経営）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	経営学検定試験・公務員試験の過去問を配布するので、復習として、指定された箇所を必ず理解・暗記してきてください。
使用教材・参考文献	【教】経営能力開発センター編『経営学検定試験公式テキスト① 経営学の基本』（中央経済社、2009年）。	
成績評価方法と基準	経営学検定試験の結果、そして、平常点を加味し、総合的に評価いたします。	
備考	①経営学検定試験の受験（受験料 4500 円の予定）は、単位認定に当たって必須です。 ②教科書は必ず携帯して講義に参加しましょう。 ③遅刻・欠席、私語等、講義にあたってのマナー違反は厳しく対処します。 ④時間外の補講が、必ず行われます。必ず出席すること。	

科目名	財務管理論	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、財務管理に関する基礎的知識の習得を目的とします。具体的には、財務管理の重要テーマ（現金・預金等取引、資金繰り表、キャッシュ・フロー、利回り、現在価値計算など）について基本的な理論を学習します。マネジメントに興味がある方社会人としてのスキルを身につけたい方は是非受講してください。
	到達目標	ビジネスにおける財務管理の基礎知識を身につけること。
授業計画	(1) ガイダンス、現金取引 (2) 預金の種類と処理方法 (3) 手形・小切手取引 (4) 信用取引 (5) 資金繰りの概要 (6) 資金繰り表の仕組みと作成方法 (7) キャッシュ・フローの概念 (8) キャッシュ・フローの予測 (9) 利回りの概念 (10) 利回りの種類と計算 (11) 現在価値計算の概念 (12) 投資計算の概念 (13) 演習① (14) 演習② (15) まとめと試験	
自学自習	事前学習	・事前学習の箇所を指定するので、A4一枚のレポートにまとめてくること。 ・意味の分からない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・毎回講義終了後再度教科書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】 講義の都度指定する。 【参】 林總著『ドロッカーと会計の話をしよう』（中経出版，2010年）	
成績評価方法と基準	毎回のレポートの出来栄え、プレゼンの内容、質疑応答の内容、等を総合的に評価いたします。	
備考	①ビジネス・キャリア検定試験財務管理3級を受験するのが望ましい。 ②教科書は必ず携帯して講義に参加しましょう。 ③遅刻・欠席、私語等、講義にあたってのマナー違反は厳しく対処します。	

科目名	経営戦略論	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、P.F. ドラッカー著（上田惇生編訳）『マネジメント——基本と原則——』（ダイヤモンド社、2001年）の読解を通じて、経営戦略に関する基礎的知識を修得することを目的とします。具体的には、マネジメントの使命、方法、戦略について学習します。マネジメントに興味がある方、社会人としてのスキルを身に付けたい方は是非受講してください。
	到達目標	マネジメントの基本枠組を理解し、現実の経営戦略を理解することができるようになること。
授業計画	(1) ガイダンス、「序 新たな挑戦」及び「1 マネジメントの役割」を読む (2) 「第1章 企業の成果」を読む① (3) 「第1章 企業の成果」を読む② (4) 「第2章 公的機関の成果」を読む (5) 「第3章 仕事と人間」を読む (6) 「第4章 社会的責任」を読む (7) 「20 マネジメントの必要性」及び「第5章 マネジャー」を読む① (8) 「第5章 マネジャー」を読む② (9) 「第6章 マネジメントの技能」を読む (10) 「第7章 マネジメントの組織」を読む① (11) 「第7章 マネジメントの組織」を読む② (12) 「36 ドイツ銀行物語」及び「第8章 トップマネジメント」を読む (13) 「第9章 マネジメントの戦略」を読む① (14) 「第9章 マネジメントの戦略」を読む② (15) 「付録 マネジメントのパラダイムが変わった」を読む	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書における事前学習の箇所を指定するので、A4一枚のレポートにまとめてくること。 意味のわからない用語、箇所を明らかにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 毎回講義終了後再度教科書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】P.F. ドラッカー著（上田惇生編訳）『マネジメント——基本と原則——』（ダイヤモンド社、2001年）。	
成績評価方法と基準	毎回のレポートの出来栄え、プレゼンの内容、質疑応答の内容、等を総合的に評価いたします。	
備考	①ビジネス・キャリア検定経営戦略3級を受験するのが望ましい。 ②教科書は必ず携帯して講義に参加しましょう。 ③遅刻・欠席、私語等、講義にあたってのマナー違反は厳しく対処します。	

科目名	経営情報システム論	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、経営情報システムに関する基礎的知識の習得を目的とします。具体的には、経営情報システムの重要テーマについて基本的な理論を学習します。マネジメントに興味がある方、社会人としてのスキルを身につけたい方は是非受講してください。
	到達目標	ビジネスにおける経営情報システムの基礎知識を身につけること。
授業計画	(1) ガイダンス、コンピュータシステムの基礎、データ処理の基礎 (2) ネットワークの基礎、情報通信の基礎 (3) ITの最新動向、業務分析の基礎 (4) 要件定義の基礎、システム化計画の基礎 (5) ヒューマン・インターフェースの作成、要件定義の基礎 (6) システム化計画の基礎、データベース・ファイル設計 (7) システム開発の支援ツール、システムの運用 (8) 保守管理、キャパシティ・障害管理 (9) 資源管理、セキュリティ管理 (10) 社内アプリケーションの活用、業務別アプリケーションの活用 (11) 情報について、情報ビジネス活用 (12) マルチメディアの基礎、ネットワークの活用 (13) ビジネスツールの活用 (14) 演習 (15) まとめと試験	
自学自習	事前学習	・事前学習の箇所を指定するので、A4一枚のレポートにまとめてくこと。 ・意味の分からない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・毎回講義終了後再度教科書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】講義の都度指定する。	
成績評価方法と基準	毎回のレポートの出来栄え、プレゼンの内容、質疑応答の内容、等を総合的に評価いたします。	
備考	①ビジネス・キャリア検定試験経営情報システム3級を受験するのが望ましい。 ②教科書は必ず携帯して講義に参加しましょう。 ②遅刻・欠席、私語等、講義にあたってのマナー違反は厳しく対処します。	

科目名	マーケティング論	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、P.F. ドラッカー著（上田惇生編訳）『イノベーターの条件 —— 社会の絆をいかに創造するか——』（ダイヤモンド社、2000年）の読解を通じて、マーケティング社会に関する基礎的知識を修得することを目的とします。具体的には、転換期にある社会の意味、「断絶の時代」、社会の基本原則、問われる知識と教育といった項目について学習します。マネジメントに興味がある方、社会人としてのスキルを身に付けたい方は是非受講してください。
	到達目標	マーケティングがなされる社会の本質を理解すること。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 社会と経済市場主義 (3) 20世紀の変化の本質 (4) 多元主義社会における組織の原理、起業家社会の到来とNPO (5) 断絶後の経済 (6) 理性崇拜の問題 (7) 改革原理としての正当保守主義と社会問題 (8) 利害による連合、国民国家から大国家へ (9) 高齢者が政治を動かす (10) 知識の政治学 (11) 学校が変わる (12) 分析から知覚へ (13) ドラッカーのキルケゴール論 (14) 調整日 (15) 調整日	
自学自習	事前学習	・教科書における事前学習の箇所を指定するので、A4一枚のレポートにまとめてくること。 ・意味のわからない用語、箇所を明らかにしておくこと。
	事後学習	・毎回講義終了後再度教科書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】 P.F. ドラッカー著（上田惇生編訳）『イノベーターの条件 —— 社会の絆をいかに創造するか——』（ダイヤモンド社、2000年）。	
成績評価方法と基準	毎回のレポートの出来栄え、プレゼンの内容、質疑応答の内容、等を総合的に評価いたします。	
備考	①ビジネス・キャリア検定マーケティング3級を受験することが望ましい。 ②教科書は必ず携帯して講義に参加しましょう。 ③遅刻・欠席、私語等、講義にあたってのマナー違反は厳しく対処します。	

科目名	流通システム論	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、流通システムに関する基礎的知識の習得を目的とします。具体的には、流通システムの重要テーマについて基本的な理論を学習します。マネジメントに興味がある方、社会人としてのスキルを身につけたい方は是非受講してください。
	到達目標	ビジネスにおける流通システムの基礎知識を身につけること。
授業計画	(1) ガイダンス、包装 (2) ユニットロードシステム (3) 荷役・MH (4) 保管 (5) 荷役機器及び保管機器 (6) 物流センターシステムの基礎知識 (7) 輸送 (8) 輸配送システム (9) 国際輸送 (10) 約款と物流保険 (11) 関連法規 (12) 関連 JIS (13) 過去問演習① (14) 過去問演習② (15) まとめと試験	
自学自習	事前学習	・事前学習の箇所を指定するので、A4一枚のレポートにまとめてくること。 ・意味の分からない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・毎回講義終了後再度教科書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】講義の都度指定する。	
成績評価方法と基準	毎回のレポートの出来栄え、プレゼンの内容、質疑応答の内容、等を総合的に評価いたします。	
備考	①ビジネス・キャリア検定試験ロジスティクス・オペレーション3級を受験することが望ましい。 ②教科書は必ず携帯して講義に参加しましょう。 ③遅刻・欠席、私語等、講義にあたってのマナー違反は厳しく対処します。	

科目名	生産管理論	
担当者	平手 賢治 / HIRATE, Kenji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講義は、モノづくりのマネジメントの観点から、生産管理に関する基礎的知識の習得を目的とします。マネジメントに興味がある方、社会人としてのスキルを身につけたい方は是非受講してください。
	到達目標	モノづくりのマネジメントの概略がわかるようになり、ビジネスにおける生産管理の基礎知識を身につけること。
授業計画	(1) ガイダンス、モノづくりのマネジメントの重要性 (2) 仕事と道具 (3) 古代の技術革命に学ぶべき教訓 (4) IT革命は産業革命になれるか (5) 知識労働の生産性 (6) ベンチャーのマネジメント (7) 製造の理論 (8) 技術をマネジメントする (9) 方法論としての企業家精神 (10) イノベーションのための組織と戦略 (11) 既存の企業におけるイノベーション (12) イノベーションの機会はどこにあるか (13) 分析から知覚へ (14) 知識の意味を問う (15) ポスト資本主義社会の到来	
自学自習	事前学習	・事前学習の箇所を指定するので、A4一枚のレポートにまとめてくること。 ・意味の分からない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・毎回講義終了後再度教科書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】P.F. ドラッカー著（上田惇生訳）『テクノロジストの条件——ものづくりが文明をつくる——』（ダイヤモンド社、2005年）。	
成績評価方法と基準	毎回のレポートの出来栄え、プレゼンの内容、質疑応答の内容、等を総合的に評価いたします。	
備考	①ビジネス・キャリア検定生産管理オペレーション3級を受験することがのぞましい。 ②教科書は必ず携帯して講義に参加しましょう。 ③遅刻・欠席、私語等、講義にあたってのマナー違反は厳しく対処します。	

科目名	会計学	
担当者	林 高宏 / HAYASHI, Takahiro	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	超巨大企業でも、近所の八百屋さんでも、会計に関しては同じルールが適用されます。また、それは日本だけではなく、海外でも同じです。授業では、帳簿の流れを理解し、そこから得られる決算書（損益計算書・貸借対照表）を理解し、その応用（キャッシュフロー計算書から会社の未来像を予測・財務分析）まで学び、具体的な改善策を立案できるよう学習していきます。
	到達目標	会計学の基本を学び、会社を設立した時、起業した時、どんな帳簿をつけないといけないか、また、経営データをどう分析し、今後の実務に役立てればいいのかについて学習します。
計画	(1) 会計学入門1 簿記一順の流れについて学習します (2) 会計学入門2 「仕分け」の基礎につき学習します (3) 会計学入門3 「勘定科目」にはどんなものがあるかを学びます (4) 会計学入門4 「総勘定元帳」の作成方法を学びます (5) 会計学入門5 「試算表」の意味を理解し、実際に作成します (6) 損益計算書1 試算表からの作成方法を学びます (7) 損益計算書2 損益計算書の見方について学びます (8) 貸借対照表1 試算表からの作成方法を学びます (9) 貸借対照表2 貸借対照表の見方について学びます (10) 会社の経営状態の見方を学びます (11) キャッシュフロー計算書1 作成方法を学びます (12) キャッシュフロー計算書2 見方について学びます (13) 会社の経営状態の未来像を予測します (14) 財務分析 今後の会社の経営状態を改善する方法を学びます (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要、および次回までに復習するべき事項 ・区切りのいいところで小テストを行う ・授業の初めに、過去問から小テストを行う
使用教材・参考文献	「ビジネス会計検定試験公式テキスト3級」大阪商工会議所編 中央経済社	
績評価方法と基準	修了試験（60点）、出席（40点）	
備考	出席点は減点方式。5回までは2点、それ以上の欠席は3点マイナスします。	

科目名	簿記	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	企業の成績表である「財務諸表」は簿記技術にもとづいて作成されている。簿記の基本である「仕訳」から「試算表の作成」「貸借対照表・損益計算書の作成」まで学ぶ。
	到達目標	日商簿記検定「商業簿記3級」レベルに到達できるようになる。
授業計画	(1) 講義の進め方 企業会計と簿記 (2) 簿記の基本 基礎概念 (3) 取引 勘定科目 (4) 仕訳 その1 (5) 仕訳 その2 (6) 仕訳 その3 (7) 仕訳 その4 (8) 仕訳 その5 (9) 仕訳 その6 (10) 試算表作成 その1 (11) 試算表作成 その2 (12) 決算書作成 その1 (13) 決算書作成 その2 (14) 総まとめ その1 (15) 総まとめ その2	
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・簿記は技術（スキル）です。つまり「習うより慣れよ」です。毎回の講義の復習が重要になる。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しません。配布のプリントを使用する。 【参】適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	テスト80%（理解度テスト20%、試験60%）、受講態度20% 「商業簿記3級」程度が達成されたものは合格とする。	
備考	各回の講義は連続しているので、欠席するとついていけなくなります。	

科目名	国際ビジネス論	
担当者	大重 康雄 / OOSHIGE, Yasuo	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	我が国では少子高齢化のため国内市場が縮小しつつあり、海外市場へ活路を求めるグローバル化が地場企業においても、極めて重要な経営戦略となりつつある。本講では前半、国際ビジネスに必要な外国為替等基礎理論・貿易理論・国際マーケティングの基礎を学び、後半で地場企業の国際化の現状を考える。
	到達目標	国際ビジネスに必要な基礎理論及び実践的なグローバル戦略を習得し、グローバルな視点で企業経営を考えることができることを目指す。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 国際化のなかの日本 (2) 外国為替取引と為替レート (3) 国際収支構造とマクロ経済 (4) 国際貿易の理論と WTO 体制 (5) 輸入取引と決済 (6) 輸出取引と決済 (7) WTO を補完する FTA/EPA の進展 (8) EU に見る地域統合の歴史と現状 (9) 東アジアへの企業進出（対外直接投資）の現状 (10) 国際標準化と知財管理 (11) 国際マーケティング戦略と企業経営 (12) グローバル人的資源管理 (13) 地場企業国際化の状況・ワークショップテーマ選定 (14) 国際ビジネス論ワークショップ（意見発表・討論） (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	・講義計画に沿って、前もってテーマが含まれる時事を調べておくこと。（講義中に各自の意見を求める。）
	事後学習	・第6回・第12回終了時にテーマを指定し小レポートを課す
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。</p> <p>【参】伊藤元重「ゼミナール国際経済入門」2005年 日本経済新聞社 日本経済新聞社「グローバル・マーケティング入門」2009年、日本経済新聞社 小川紘一「国際標準化と事業戦略」2009年、白桃書房 丹下博文「企業経営のグローバル化研究」2007年、中央経済社</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 下記評価方法で基礎理論理解及び実践的考察が認められたものは合格とする。</p> <p><方法> ①受講態度 10% ②小レポート 30% ③最終試験 60%</p>	
備考		

科目名	金融論 I	
担当者	永里 紘二 / NAGASATO, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	金融の仕組み、金融機関の役割、金融市場の働きなどをわかりやすく解説します。
	到達目標	身近な経済現象を金融の知識でもって分析できる力を養います。
授業計画	(1) 金融とは何か (2) 々 (3) 銀行の仕組みと役割 (4) 々 (5) 銀行以外の金融機関 (6) 々 (7) 中央銀行の役割と機能 (8) 々 (9) 企業金融の基礎知識 (10) 々 (11) 金融市場と市場価格 (12) 々 (13) 国際金融の基礎知識 (14) 々 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】塚崎公義-山澤光太郎著『やさしい金融』東洋経済新報社	
成績評価方法と基準	中間試験40点、期末試験60点とします。	
備考		

科目名	金融論Ⅱ	
担当者	永里 紘二 / NAGASATO, Koji	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	金融論Ⅰで学んだ知識をもとに、わが国の金融が実際にどうなっているのかを見てみる。
	到達目標	日本経済新聞などを賑わせている最新の動きやキーポイントになる専門用語に興味を抱きかつ理解できるようにします。
授業計画	わが国の金融の姿 (1) ニクソン・ショックとプラザ合意 (2) バブルの時代 (3) 不良債権問題と金融危機 (4) 小泉構造改革 (5) 公的金融の改革 (6) 戦後の為替レートの推移 (7) 戦後の株価の推移 わが国の金融の現状 (8) 銀行業界の概要 (9) メインバンク制 (10) 家計の金融資産 (11) 財政赤字 (12) 国際収支の現状 (13) サブプライム問題から発生した金融危機 知っておきたい金融知識 (14) 基本的な関連用語 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】やさしい金融 塚崎公義、山澤光太郎 発行所 東洋経済	
成績評価方法と基準	中間試験40点、期末試験60点とします。	
備考		

科目名	ファイナンシャルプランニングⅠ	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	ライフステージの各段階で必ず必要とされる社会保険・年金・金融・経済・税金等の、ビジネス界ですぐに役立つ基礎的な知識を学ぶ。
	到達目標	別講義の、「ファイナンシャルプランニングⅡ」と併せて受講することでF P技能士3級資格試験の合格レベルに達するようになる。
授業計画	(1) 講義の進め方 F P技能士とは (2) FPと関連法規・ライフプランニングとは (3) 社会保険制度 (4) 公的年金制度 (5) 私的年金制度 (6) ライフプランと資金計画 (7) 生命保険 (8) 損害保険 (9) リスク管理 (10) 金融マーケット (11) 債券 (12) 株式 (13) 外貨建商品 (14) セーフティネット (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	適宜、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】 きんざい編 「F P技能士3級」2011年 きんざい 【参】 別途、指示する。	
成績評価方法と基準	テスト70%、受講態度30%	
備考	別講義「ファイナンシャルプランニングⅡ」も受講することが望ましい。	

科目名	ファイナンシャルプランニングⅡ	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	ライフステージの各段階で必ず必要とされる社会保険・年金・金融・経済・税金等の、ビジネス界ですぐに役立つ基礎的な知識を学ぶ。
	到達目標	別講義の、「ファイナンシャルプランニングⅠ」と併せて受講することでFP技能士3級資格試験の合格レベルに達するようになる。
授業計画	(1) わが国の税制 (2) 所得税の仕組み その1 (3) 所得税の仕組み その2 (4) 所得税の仕組み その3 (5) 所得税の仕組み その4 (6) 所得税の仕組み その5 (7) 不動産の見方と取引 (8) 不動産の有効活用 (9) 不動産と税金 (10) 相続 (11) 相続税 (12) 贈与と税金 (13) 財産の評価 (14) 事業承継 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	適宜、理解度テストを実施する。
使用教材・参考文献	【教】 きんざい編 「FP技能士3級」2011年 きんざい 【参】 別途、指示する。	
成績評価方法と基準	テスト70%、受講態度30%	
備考	別講義「ファイナンシャルプランニングⅠ」も受講することが望ましい。	

科目名	ビジネス実務	
担当者	有馬 恵子 / ARIMA, Keiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	社会人として身につけておくべき基本的な知識や技術を学ぶ。実社会に通用する実践力を養うため、秘書検定等のビジネス実務系検定の対策やグループワークによる演習を行う。
	到達目標	実社会や職場で人間関係を円滑に進める方策を身につける。ビジネス社会に対応できる実務能力を身につけ、社会の即戦力となることを目標とする。
授業計画	(1) ビジネス環境の変化とビジネス実務 (2) 社会人に求められる資質、能力 (3) 社会人としての基本心得（第一印象について） (4) ビジネスコミュニケーションの基本（敬語など） (5) 接遇①電話応対・来客応対の基本 (6) 接遇②事例研究 その1 (7) 接遇③事例研究 その2 (8) 文書実務①作成の基礎知識 (9) 文書実務②受発信・取扱い・保管 (10) 技能（会議と会合・スケジューリング） (11) 一般知識（企業・経営・労務・財務…秘書検定2級程度） (12) 職務知識（役割・業務、仕事の進め方） (13) 慶弔のマナー (14) 国際ビジネスマナー (15) 総合演習	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で学んだことを日常生活の中で常に意識すること。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に随時プリントを配布する 【参】近喰晴子他著『新生活教養』2008年 建帛社 ISBN978-4-7679-1443-5	
成績評価方法と基準	評価 受講態度50% 演習テスト30% 課題レポート20% 基準 ビジネス実務関係資格（ビジネス能力検定、秘書検定等）2級程度の理解を合格基準とする	
備考		

科目名	共生社会形成論	
担当者	江坂 正己 / ESAKA, Masaki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ [共生社会] が提起される背景を概観し、共生の諸相を一覧する。 ・ <子ども・子育て支援><子ども・若者育成支援>という次世代育成にかかわる [異世代共生] の諸課題を考察する。 ・ <男女共同参画>にかかわる [男女共生] の諸課題を考察する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ <共生>、<絆>、<共同>などが課題となる現代的状況を理解する。 ・ 子育てや若者育成、男女共同参画の課題や支援の必要性を理解する。 ・ 支援を通じた社会関係が共生社会の内実を形成している点を理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) はじめに (2) なぜ今、[共生社会] か (3) 共生の諸相・断面—<持続可能な社会>の観点と関連させて (4) 次世代育成の課題①—諸問題の概観 (5) 次世代育成の課題②—少子化社会対策基本法、少子化社会対策大綱 (6) 次世代育成の課題③—次世代育成支援対策推進法 (7) 次世代育成の課題④—少子化社会対策から子育て支援へ (8) 次世代育成の課題⑤—青少年育成大綱 (9) 次世代育成の課題⑥—子ども・若者育成支援推進法 (10) 男女共同参画の課題①—諸問題の概観 (11) 男女共同参画の課題②—男女共同参画社会基本法 (12) 男女共同参画の課題③—育児参加におけるパートナーシップ (13) 男女共同参画の課題④—ワーク・ライフ・バランス (14) とともに生きることはともに学び新しい関係を築くこと (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	・ 授業で取り上げる関連法や大綱類を確認しておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の授業の終了時に、小コメントの提出を課す。 ・ 配布プリントをファイルし、授業内容の再整理に努めること。
使用教材・参考文献	<p>【教】 特定の教科書は使用しない。</p> <p>【参】 内閣府『子ども・子育て白書』各年度版、同『子ども・若者白書』各年度版、同『男女共同参画白書』各年度版、文部科学省『文部科学白書』各年度版、その他、適宜、紹介する。</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 到達目標に沿い総合的に評価し可否を判定する。</p> <p><方法> 修了レポート(試験) 70% 小コメント15% 受講態度15%</p>	
備考		

科目名	総合地域論 I	
担当者	◎平手 賢治 / 有馬 純春 / 宮島 孝男、他	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	過疎、教育、福祉、医療、貧困、環境などの地域における現状と課題を紹介するとともに、それらの解決策について考察する。
	到達目標	地域の現状と課題について理解・認識し、その解決策について自らの意見をまとめる力を身に付けている。
授業計画	(1) はじめに (2) 地域のブランド化戦略 (3) 食のブランド化戦略・地域農業の現状と課題 (4) 過疎・中山間地域の振興 (5) 地方自治の活性化と課題 (6) 地域経済の現状と課題 (7) 地域医療の現状と課題 (8) 地域の教育問題 (9) 地域の人権問題 (10) 地域における報道機関の役割と課題 (11) 地域の貧困問題 (12) 地域の少子・高齢化問題 (13) 地域の環境問題 (14) 地域の中小企業問題 (15) 地域における行政の役割と課題	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】宮島孝男『どげんする？ 鹿児島』南方新社 2012年 ISBN 4861242312 他	
成績評価方法と基準	<基準>地域の現状と課題を認識し、その解決策について自らの意見をまとめることができた場合に合格とする。 <方法>レポート3回で評価する。ただし、出席が全受講時数の3分の2に満たない者には単位を付与しない（履修規程12条）。	
備考		

科目名	生涯開発論	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員・司書・社会教育主事資格科目 / 必修 (法定科目名「生涯学習概論」)	
科目概要	授業内容	現代はあらゆる活動が知識や情報が直接的な基盤となる知識社会であるといわれている。そうした時代に生きる私たちは、学校などでの一時期の学習だけでなく、生涯にわたる学習が不可欠となっている。そうした視点から、今日に生きるための学習のあり方をともに考える。
	到達目標	現代における教育・学習の意味を理解する。 生涯にわたる教育・学習の仕組みとその意味を知る。 自らの生涯学習のイメージをつかむ。
授業計画	(1) 「学び」の意味と生涯学習 (2) 生涯学習の歴史 (3) 学校と生涯学習 (4) 地方自治体と生涯学習・社会教育 (5) 生涯学習・社会教育と法 (6) 生涯学習・社会教育施設 (7) 生涯学習・社会教育の内容と方法 (8) 生涯学習・社会教育実践の諸相—NPO・ボランティア活動 (9) " —まちづくりと生涯学習 (10) " —女性の生活の変化と生涯学習 (11) " —子育て・青少年教育と生涯学習 (12) " —高齢者と生涯学習 (13) " —情報化と生涯学習 (14) " —グローバル化と生涯学習 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】 適宜プリントを配布する。 【参】 田中雅文ほか『テキスト生涯学習』学文社 2008年／『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012年／『月刊社会教育』国土社	
成績評価方法と基準	＜基準＞現代における生涯学習の意味を理解し、社会における生涯学習のあり方と自らの生涯学習の見通しをたてることができる。 ＜方法＞授業中に課す小レポート30点、期末試験70点	
備考		

科目名	社会心理学 I	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会の中で生起する個々人の行動について研究する学問である。本講義では社会心理学の主たる研究領域について概観し、その学問的意義について解説する。
	到達目標	社会心理学で扱われる様々な研究領域・各種研究トピックについて学び、学問的特色を理解する。 さらにこれらを通じて、社会心理学の基本的知識を習得する。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション 社会心理学とは何か (2) 社会心理学の研究方法及びその研究対象 (3) 社会的行動の基礎—個人レベルで捉えた社会行動 …①内的要因 (4) // …②社会的動機, 社会的促進・社会的手抜き (5) // …③他者理解, 自己開示 (6) 相互作用と集団過程—小集団レベルでの相互作用過程 …①態度変容 (7) // …②対人魅力 (8) // …③攻撃行動 (9) // …④援助行動 (10) // …⑤非言語的コミュニケーション (11) 社会と個人の相互作用—マクロレベルでの社会行動 …①群衆行動 (12) // …②集団とは何か (13) // …③マスコミと世論 (14) // …④流言と情報伝達プロセス (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・社会心理学の基本的概念や用語について、関連する資料や書籍に目を通し、理解しておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は関連する資料等でよく調べ補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	社会心理学全般に渡る基礎的知識とその理解を得ていることを合格の目安とする。そのため講義への出席や受講態度を重視する。筆記試験もしくはレポートを課す。[授業への取り組み 50% / 筆記試験 (レポート) 50%]	
備考	講義中、数回の研究調査・実験への参加依頼を行う可能性がある。これらを拒否することによる成績評価上の不利益はない。	

科目名	社会心理学Ⅱ	
担当者	神菌 紀幸 / KAMIZONO, Yoshiyuki	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	社会心理学とは、人間の社会的行動に関する心理学的法則を明らかにしようとする学問である。本講義は、社会心理学Ⅰを踏まえ、社会心理学の各研究領域での基本的事項についてさらに専門的に解説する。
	到達目標	社会心理学の基本的事項を学び、理解することで、人の社会的行動に対する社会心理学的視座を得る。 社会心理学における基本的事項やキーワードについて、学問的背景についての理解を深めながら、論述できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション/イントロダクション：社会心理学の特色 (2) 社会心理学の主たる研究方法と研究対象 (3) 自己（セルフ） 自己概念、自己評価、複雑性と適応 (4) 自己呈示 対人コミュニケーション、動機づけ (5) 対人葛藤 葛藤解決の方略 (6) ジェンダー 性役割の社会化 (7) 態度変容 社会的態度、認知的一貫性、説得的コミュニケーション (8) 対人認知 印象形成、対人記憶、プロセスモデル、個人差 (9) 社会的認知 感情と社会的認知、ステレオタイプの認知 (10) 社会的推論 帰属理論、推論のエラーとバイアス (11) 社会的公正 (12) 対人魅力 関係の成立と維持と崩壊 (13) グループ・ダイナミクス 他者存在の影響、社会的ジレンマ (14) 文化と人間 個人主義と集団主義、異文化適応 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・社会心理学の基本的概念や用語について、関連する資料や書籍に目を通し、理解しておくこと。
	事後学習	・必要な事柄は関連する資料等で各自調べ、補っておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。 【参】授業中に適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	社会心理学的観点から種々の社会的行動について、論述できることを合格の目安とする。筆記試験もしくはレポートを課す。 [授業への取り組み 50% / 筆記試験（レポート）50%]	
備考	講義中、数回の研究調査・実験への参加依頼を行う可能性がある。これらを拒否することによる成績評価上の不利益はない。	

科目名	産業組織心理学Ⅰ	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講では、産業組織心理学の基礎理論、特にモチベーション、リーダーシップ、職場のコミュニケーションに関する理論について解説する。あわせて、組織やチームの一員として効果的に振る舞うための留意点について、体験学習を通して考察する。
	到達目標	組織の一員として円滑な人間関係を築き、業績を向上させることに関わる心理プロセス、行動の特色について理解する。このことを通じ、将来、社会人として仕事に取り組むための心構えや自信をつちかう。
授業計画	(1) 産業組織心理学の特色と歴史 (2) ワーク・モチベーション① (欲求とモチベーション) (3) ワーク・モチベーション② (報酬とモチベーション) (4) ワーク・モチベーション③ (目標設定とモチベーション) (5) 目標設定トレーニング (6) リーダーシップ① (リーダー行動の特色) (7) リーダーシップ② (状況に応じたリーダー行動) (8) リーダーシップ③ (リーダーに対する部下の働きかけ) (9) リーダーシップ・トレーニング (10) 職場のコミュニケーション① (報告・連絡・相談) (11) 職場のコミュニケーション② (会議の技術) (12) チームワーク (13) 葛藤解決トレーニング (14) ケースワーク① (15) ケースワーク②	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくと理解の助けになります。
	事後学習	適宜「おすすめの本」を紹介しますので読んでください。
使用教材・参考文献	【参】 山口裕幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717	
成績評価方法と基準	本講で解説した産業組織心理学の基礎理論の理解を評価する。(出席態度45%, 試験55%)	
備考		

科目名	産業組織心理学Ⅱ	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本講では、産業組織心理学の基礎理論、特に若年者の就業行動、組織における人事、安全衛生、また、消費者の心理に関する理論について解説する。あわせて、本講で解説された理論を体験的に理解するための実習に取り組む。
	到達目標	個人が能動的にキャリアを発達させ、職場に適応することに関わる心理プロセス、行動の特色、そして、組織に顧客として関わる消費者の心理について理解する。このことを通じ、将来、社会人として仕事に取り組むための心構えや自信をつちかう。
授業計画	(1) 組織を取り巻く問題と産業組織心理学の関わり (2) 組織に入るとのこと① (採用選考のプロセス) (3) 組織に入るとのこと② (就活生の意識と行動) (4) 人事評価 (上司から見た部下・部下から見た上司) (5) 仕事と学習 (自分の価値を高めるために) (6) セルフコーチング (ディベート実習) (7) 職場の安全衛生① (職場における反社会的行動) (8) 職場の安全衛生② (職場における事故防止) (9) 職場の安全衛生③ (職場におけるストレスの特色) (10) 職場の安全衛生④ (職場におけるストレスへの対処) (11) 消費者の心理① (購買意思決定) (12) 消費者の心理② (ブランド選択) (13) 消費者の心理③ (広告の技法) (14) 消費者の心理④ (広告の作成過程) (15) 広告作成実習 (CMシナリオ作成)	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくと理解の助けになります。
	事後学習	適宜「おすすめの本」を紹介しますので読んでください。
使用教材・参考文献	【参】 山口裕幸・金井篤子編 『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN9784623048717	
成績評価方法と基準	本講で解説した産業組織心理学の基礎理論の理解を評価する。(出席態度45%, 試験55%)	
備考		

科目名	健康心理学（メンタルヘルス）	
担当者	白井 祐浩 / SHIRAI, Masahiro	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	心が健康に及ぼす影響について、多面的に紹介をする。また、映画やビデオを通して、心の健康についての理解を深める。
	到達目標	心が健康に及ぼす影響について理解を深める。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) ストレス① (3) ストレス② (4) うつ病① (5) うつ病② (6) 発達障害① (7) 発達障害② (8) 神経症① (9) 神経症② (10) 人格障害① (11) 人格障害② (12) 精神疾患と偏見 (13) べてるの家 (14) 精神医学と心理療法 (15) 困った時の相談機関	
自学自習	事前学習	好奇心を持って参加してください。
	事後学習	講義で話したことについて、自分なりに考えてみてください。
使用教材・参考文献	【教】・【参】 適宜資料を紹介します。	
成績評価方法と基準	<基準>心と健康の関係について理解できた者は合格とし、理解できていない者は不合格とします。 <方法>試験100%	
備考	内容については、受講者の反応や進み具合によって適宜変更する可能性があります。	

科目名	経済学	
担当者	永里 紘二 / NAGASATO, Koji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	経済理論で現実の経済現象を分析します。
	到達目標	経済学的なロジックに基づいて冷静に事態を分析し推論する力を養います。
授業計画	<p>家計の経済学</p> <p>(1) 資源の希少性と欲望の無限大と経済的誘因</p> <p>(2) 効率的選択</p> <p>(3) 取引とお金</p> <p>(4) 労働</p> <p>(5) 税金</p> <p>企業の経済学</p> <p>(6) 起業家</p> <p>(7) 企業</p> <p>(8) 均衡価格——市場価格、消費者の気持ち、売り手の気持ち</p> <p>(9) 賃金</p> <p>金融の経済学</p> <p>(10) 家計、企業と銀行</p> <p>(11) 金利</p> <p>政府の経済学</p> <p>(12) 財政政策</p> <p>(13) 市場の失敗</p> <p>貿易の経済学</p> <p>(14) 比較生産費説</p> <p>(15) 外国為替相場</p>	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】池上彰『池上彰のやさしい経済学』日本経済新聞出版社	
成績評価方法と基準	中間試験40点、期末試験60点とします。	
備考		

科目名	財政学	
担当者	朴 源 / PARK, Won	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	財政学は、「公共部門の経済活動」を対象とする経済学の一分野である。「公共部門」とは、国、地方公共団体、およびそれらの関連部門を指す。これら公共部門の「経済活動」は、国防、治安など、市場取引になじまない「公共財」を供給し、そのための資金を租税や公債で調達することを主な内容としている。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公共部門と民間部門の経済活動の違いを理解する。 2) 政府支出の現状と問題点を理解する 3) 政府収入の現状と問題点を理解する。 4) 所得税の確定申告ができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 現代資本主義と財政 (2) 公共部門の範囲と規模 (3) 予算の理論と日本の予算制度 (4) 政府支出の現状と課題 (5) 政府収入の現状と課題 (6) 租税の意義と特質 (7) 課税要件と租税の分類 (8) 租税の経済効果 (9) 所得課税の理論と現実 (10) 資産課税の理論と現実 (11) 消費課税の理論と現実 (12) 企業課税の理論と現実 (13) 社会保障の現状と課題 (14) 分権化と自治体財政 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎回、小テストを行うので、必ず復習すること。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。講義中で配布するプリントを用いる。</p> <p>【参】講義中に適宜指定する。</p>	
成績評価方法と基準	小テスト (25点)・レポート (25点) 中間テスト (25点)・期末試験 (25点)	
備考		

科目名	社会政策	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	年金保険法、労災保険法、雇用保険法、社会手当法について判例を紹介しつつ講義します。
	到達目標	年金保険法、労災保険法、雇用保険法、社会手当法の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 年金保険法1 (2) 年金保険法2 (3) 年金保険法3 (4) 年金保険法4 (5) 年金保険法5 (6) 労災保険法1 (7) 労災保険法2 (8) 労災保険法3 (9) 労災保険法4 (10) 労災保険法5 (11) 労災保険法6 (12) 雇用保険法1 (13) 雇用保険法2 (14) 社会手当法1 (15) 社会手当法2	
自学自習	事前学習	・教科書を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・小テスト及び期末試験の準備のために復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】加藤智章・菊池馨実・倉田聡・前田雅子『社会保障法（第5版）』有斐閣 2013年 予価2520円（税込）	
成績評価方法と基準	<基準>年金保険法、労災保険法、雇用保険法、社会手当法の基本的事項を理解している場合に合格とします。 <方法>小テスト（10点×5回）＋期末試験（50点）で評価します。	
備考	前期開講の「社会保障論」では、公的扶助法、社会福祉法、介護保険法、医療保険法を講義します。	

科目名	経済政策	
担当者	永里紘二 / NAGASATO, Kouji	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	経済政策の必要性，経済政策論の内容について講義する。 国家公務員中級試験合格のための講義、演習を実施する。
	到達目標	私たちが生活している社会の中で，何故経済政策が必要なのか，どのような経済政策論が論議されているのかの知見を得る。
授業計画	(1) はじめに (2) 経済政策の思想と歴史 (3) 発展と成長の経済政策 (4) 安定のための経済政策 (5) 々 (6) 資源配分と公共政策 (7) 中間試験 (8) 公正のための分配政策 (9) 産業構造と産業政策 (10) 国際間の経済政策 (11) 々 (12) 経済体制と経済改革 (13) 々 (14) 現代の政策課題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】丸尾直美・鈴木守著『経済政策』法学書院 『公務員合格ゼミ』桐原書店	
成績評価方法と基準	中間試験40点、期末試験60点とします。	
備考		

科目名	社会調査法Ⅰ	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	複雑な社会現象を捉えるための手段として様々な分野で重要性を増している社会調査についての <u>基本的事項</u> を学ぶ。専門的なくつかの社会調査科目を学ぶための、第一歩目の科目である。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の有効性と限界、社会調査に求められる「科学性」を理解できる。 ・身近な社会調査である国勢調査・世論調査について基本的事項を確実に理解し、説明できる。 ・基本型である統計的調査・記述的調査について説明できる。 ・調査者に求められる倫理について、確実に理解できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会調査とは何か、社会調査の真の目的・関心は何か (2) 社会調査の歴史—人口統計と社会問題の調査・調査技術の高度化・多様化 (3) 社会調査の実例①—国勢調査・官庁統計 (4) インターネットで「政府統計の総合窓口」を覗いてみる (5) 統計データを加工すると、何が見える？ (6) 社会調査の実例②—世論調査 (7) 社会調査の実例③—マーケティング・リサーチ (8) 社会調査の種類①その1—量的調査・統計的調査 (9) 社会調査の種類①その2—統計的調査の具体的調査方法 (10) 社会調査の種類②その1—質的調査・記述的調査 (11) 社会調査の種類②その2—質的調査の実例 (12) 社会調査の種類②その3—質的調査で分かること・分からないこと (13) 量的調査と質的調査の比較—技法としての有効性と限界を認識する (14) 社会調査と調査者の倫理 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	教科書の指示部分を読んでおくこと。
	事後学習	不定期に授業内容の復習小クイズをするので、確実に復習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】大谷信介他 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 ミネルヴァ書房、2004年。社会調査法Ⅱでも使用する教科書である。</p> <p>【参】宮内泰介 『自分で調べる技術—市民のための調査入門』 岩波書店、2004年</p> <p>谷岡一郎 『「社会調査」のウソ』 文春新書、2000年</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法>レポート等の課題遂行15%・定期筆記試験85%</p> <p><基準>科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。</p>	
備考	社会調査教育の基礎的科目であり、「社会調査士資格」取得のための必修科目の1つでもある。	

科目名	社会調査法Ⅱ	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	安易な調査が多いが、社会調査の正しい知識と技法を習得しておかないと、有効有益な調査にすることは困難である。「社会調査法Ⅰ」の発展科目として、量的調査の方法による調査の設計と企画、問題意識を調査票の形に仕上げるまでの原理と技法を学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全数調査・標本調査それぞれの意義と目的を説明できる。 ・「誤差」ということを理解し、標本誤差の原理を確実に理解できる。 ・誤差の計算ができ、計算結果の意味を説明できる。 ・調査問題から調査票作成までの過程を調査の理論にそって理解し、調査票を作成できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 量的調査における「してはいけない調査」「失敗した調査」 (2) 調査目的と調査方法の決定 (3) 母集団と標本 (4) 全数調査と標本調査 (5) サンプリングの考え方とその方法 (6) 誤差—非標本誤差と標本誤差 (7) 標本誤差の原理と計算 (8) 必要な標本数の考え方と計算 (9) 様々な調査技法のどれを採用するか (10) 仮説検証型調査における調査問題の設定から調査項目へのプロセス (11) 概念の操作化・仮説構成、変数の指標化、尺度 (12) 質問文・回答選択肢の作り方とチェックポイント (13) 質問文・回答選択肢を作ってみる (14) 調査票の構成 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	教科書の指示部分を読んでおくこと。
	事後学習	復習を兼ねて、毎回、次回提出の課題を提示する。
使用教材・参考文献	<p>【教】大谷信介他『社会調査へのアプローチ—論理と方法 (第2版)』ミネルヴァ書房、2004年。社会調査法Ⅰでも使用する教科書である。</p> <p>【参】原純輔・海野道郎『社会調査演習第2版』東京大学出版会、2004年 社会調査士資格認定機構編『社会と調査』第1号、有斐閣、2008年</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法>課題の提出20%・定期筆記試験80%</p> <p><基準>科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。</p>	
備考	<p>「社会調査士資格」取得のための必修科目でもある。</p> <p>受講者は、前期科目「社会調査法Ⅰ」を受講済み(単位習得は問わない)であること。</p>	

科目名	社会調査統計	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	<p>社会調査を実施する能力を養成するための、官庁統計や社会統計として取り上げられることの多い基本的な項目・変数の学習、フィールドワーク論文が読めるための基本的知識の習得を目標にする。</p> <p>単純集計、度数分布、代表値、クロス集計といった記述統計データに関する結果の算出や数値の解釈を学習する。さらに、媒介関係や擬似相関、因果関係と相関関係といった、仮説検証手段で陥りやすい誤りについて習熟する。定量的変数の分析方法については、用いられることの多いt検定や分散分析、相関係数、重回帰分析の使用法ならびに使用上の注意点などをコンピュータを用いて実践的に習得する。</p> <p>単に頭で統計解析の手法を理解するだけでなく、データを用いて、「何を知りたいのか」ということを念頭に置きデータのタイプによってどのような分析方法が有効なのかを自ら選択し活用できるように繰り返し実践させる。また、統計のみに頼らない社会的現実の理解の方法として、観察法やインタビュー記録を参照して、質的なデータ分析の方法も学ぶ。統計解析パッケージにはSPSSを使用する。</p>
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・SPSS統計パッケージを利用して、自分で定量的データの分析ができる。 ・社会調査のための変数設定や加工、分析結果の読解ができる。
授業計画	<p>(1) 授業の目的：社会調査についての、各種報告書を用いた概要説明</p> <p>(2) 社会調査で扱うデータの種類(1)変数の性質質的(名義)変数と量的(数的)変数</p> <p>(3) 社会調査で扱うデータの種類(2)フェイスシートの構成(性別・年齢・居住形態、就業形態など)</p> <p>(4) 社会調査で用いられるデータ集計 データの数量化(度数分布、代表値(平均、中央値、標準偏差の意味))</p> <p>(5) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(1)クロス集計とカイ2乗分析 残差の見方</p> <p>(6) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(2)多重クロス集計とエラボレーション(1)</p> <p>(7) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(3)多重クロス集計とエラボレーション(2) コレスポネンス分析</p> <p>(8) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(1)T検定と分散分析</p> <p>(9) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(2)相関係数</p> <p>(10) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(3)回帰分析、重回帰分析 1</p> <p>(11) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(4)回帰分析、重回帰分析 2</p> <p>(12) 社会調査のレファレンスとされる統計の種類 国勢調査、人口動態統計、学校基本調査、労働力調査、就業構造基本調査などの「指定統計」の種類と内容の理解</p> <p>(13) 47都道府県の姿を知ろう 国勢調査データを用いて、これまで習った手法で日本のデモグラフィックな動向の加工・分析を行う。</p> <p>(14) 47都道府県の姿を知ろう 統計から見える産業・就業構造の国勢調査データを用いて、これまで習った統計手法で加工・分析を行う。</p> <p>(15) 統計に頼らないリアリティ フィールドワーク論文の読み方 ドキュメント分析の方法</p>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「参考文献」を前もって読んでよくと理解しやすくなります。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・Moodleの課題を遂行すること。また、SPSSの操作は授業時間外にコンピュータ室で練習しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】特に使用しない。授業中でハンドアウトを配布する。</p> <p>【参】内藤統也(監修)、秋川卓也(著)『文系のための SPSS 超入門』プレアデス出版 4-7687-0863-3 岸 学(著)『SPSS によるやさしい統計学』オーム社 4-274-06620-7</p>	
成績評価方法と基準	<p>授業で扱った変数の種類に応じた分析や検定方法を選択して、SPSSの出力結果が意味するところを解釈できると認められれば合格とします。</p> <p>試験70%、受講態度20%、演習中に出される課題遂行10%</p>	
備考	<p>コンピュータ教室を使用するため、受講者が30名を超えると、5時間目にクラス増設することもある。</p>	

科目名	社会調査実習	
担当者	河原 晶子 / KWAWHARA, Akiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	実習を通して、調査の企画から報告書の作成までの「社会調査の全過程」をひととおり体験的に学習する。2013年度は、JR鹿児島中央駅そばの商店街「一番街」をフィールドにして、「再開発ビル建設計画が進行する中での地権者や店舗業者の再開発への期待と不安」をテーマに、受講生グループで調査する予定である。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調査という課題に即した実行力・計画力が身に付く。 ・「調査論の原理を現実条件や実践に応用」の考え方ができる。 ・「説得力」を意識したデータの分析と表現ができる。 ・社会的な事柄への問題関心を高め、問題関心を集中させた調査報告書が書ける。 ・グループでの調査活動に主体的に参加し、それを通して、人間関係形成力やコミュニケーション力が身に付く。
授業計画	<p><前期セメスター></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーションによる調査テーマと実習の進め方の確認 (2) 調査問題についての学習（講義と演習によるグループ研究） (3) // (4) // (5) 現地観察 (6) 調査設計（仮説の検討・調査対象と調査方法の検討） (7) 調査項目の検討 (8) 質問文・回答選択肢の検討と決定 (9) // (10) インタビューとインタビュー・ノート作成の練習 (11) ワーディングのチェック・調査票の検討・実査の準備作業 (12) 実査1 (13) 実査2 (14) 実査3 (15) インタビューの集約と総括 	<p><夏季集中期></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 実査後の処理1（回収調査票の点検・エディティング） (2) 実査後の処理2（ナンバリング他） (3) データ入力作業と度数分布表の作成 (4) データクリーニング・ロジックチェック (5) 調査結果の分析1（基本項目によるクロス集計とエラボレーション） (6) 調査結果の分析2（カイ二乗検定） (7) 調査結果の分析3（データによる仮説検証） (8) 調査結果の分析4（他に必要な分析手法の検討） (9) 分析結果の意味と見方1 (10) 分析結果の意味と見方2 (11) 分析結果の図表による表現と見せ方 (12) インタビュー情報の活用と記述の仕方 (13) 問題関心に焦点を当てた分析と報告書の作成1 (14) 分析・報告書の作成2 (15) 仮説検証となるような記述方法の学習
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	時間中でできなかった分析や報告書作成のための知識収集を怠らないこと。
使用教材・参考文献	【教】 大谷信介他 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 ミネルヴァ書房、2004年。また、必要に応じて、プリントを配布する。	
成績評価方法と基準	評価方法：実習への主体的な参加状況20%・最終の調査報告レポート80% 評価基準：問題関心の明晰性、分析とデータによる説得、その表現を含む「調査報告」としての最低水準に達していないものは不合格とする。	
備考	「社会調査士」資格取得のための必修科目である。	

科目名	教職概論	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目は、学校教育を担う教職の意義、教員養成の変遷、教育法規の種類と名称、教師の職務内容、教育実習の意義と心得、現代教育における教職の課題等について学び、学校教育において求められる教師の資質について考える。
	到達目標	(1) 教職の意義について学び、教職への意欲を高める。 (2) 教師としての職責や職務内容について理解を深める。 (3) 教育実習の意義と心得を学び、教師に求められる資質や能力を身につける。
授業計画	(1) I 教職の意義 (2) (3) II 教職観と教員養成の変遷 (4) (5) (6) III 教職と諸教育法規関連 (7) (8) (9) IV 教師の職務内容 (10) (11) (12) (13) (14) V 教育実習の意義と心得 (15) VI 現代教育における教職の課題	教育の理念と目的 教職の特殊性 戦前の教員養成の変遷 戦後の教員養成の変遷 現代における理想的教師像 教育制度の原理 教育基本法の解釈 教育法規の種類と名称 教師の身分と服務 学校組織体制と職務 教師の職務内容の特質① 教師の職務内容の特質② 教師の職務内容の特質③
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・参考文献や配布する資料を活用して、理解を深めること。 ・常に自己の教職への意欲と適性について省察すること。
使用教材・参考文献	【教】 森秀夫著『教職の意義と職務』学芸図書 2009年 ISBN 9784761604189 【参】 唐沢勇編著『実践に活かす教育基礎論・教職論』学事出版 2008年 ISBN 4761908831 佐藤 晴雄 著 『教職概論』 学陽書房 2011年 ISBN 9784313611375	
成績評価方法と基準	〈基準〉 教師の役割・職責・職務内容について基礎的知識を理解し、教職（教育実習を含む）に応用できる実践的知識と態度の習得を合格の基準とする。 〈方法〉 最終試験（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）により総合的に判断する。	
備考	・教員免許取得者を主とする。	

科目名	教育課程論	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目は、学校教育において教育課程の編成が、児童・生徒の人的成長へ大きく関与していることを理解し、現代の様々な教育の諸問題に対処しうる教育課程の在り方について考えていきます。
	到達目標	(1) 学校教育における教育課程の意義と編成について理解する。 (2) 教育課程の諸類型に基づいて、教育課程の編成について論じることができる。 (3) 教育課程の編成に基づいて、授業計画について実践的側面から論じることができる。
授業計画	(1) I. 教育課程（カリキュラム）の意義と編成 (2) II. 教育課程の諸類型 1) 教科型の教育課程 (3) " 2) 経験型の教育課程 (4) III. 教育課程と学習指導 1) 教育課程と『学習指導要領』との関わり (5) " 2) 教育課程と学習指導の原理 (6) " 3) 教育課程と学習指導の類型① (7) " 教育課程と学習指導の類型② (8) " 教育課程と学習指導の類型③ (9) " 教育課程と学習指導の類型④ (10) IV. 教育課程と授業計画～「学習指導案」との関わりにおいて～ " 1) 授業計画と目標（目標論）との関わり (11) " 2) 授業計画と評価（評価論）との関わり (12) " 3) 授業計画と「学習指導案」との関わり (13) V. 教育課程の動向と今後の課題 " 1) 諸外国の教育課程の動向 (14) " 2) 日本と諸外国における教育課程の比較 (15) VI. 現代日本の教育課程の動向と今後の課題	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や参考文献に目を通し授業への理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】・多田俊文編著 『教育の方法と技術』 学芸図書 2009年 ISBN 9784761604134 【参】・山口満・唐澤勇編著 『実践に活かす教育課程論・教育方法論』 学事出版 2009年 ISBN 9784761916879 ・文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ISBN 9784827814613 ・文部科学省 『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009年 ISBN 9784827814781	
成績評価方法と基準	<基準> 教育課程の基礎的知識について習得し、学校教育における教育課程の編成について根拠をもって論じることができることを合格の基準とします。 <方法> 最終試験（60％）、小レポート（20％）、受講態度（20％）を目安に評価します。	
備考	・教員免許取得者（中学校・高等学校）は必修。	

科目名	国語科教育法Ⅰ	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	国語の指導法について学ぶ。『学習指導要領』の内容を理解し、国語表現、文学の読解、説明的文章の読解、評論の読解の指導について学ぶ。
	到達目標	学習指導要領に基づき、国語教育の内容、教材研究の方法、指導法、評価の方法を理解する。あわせて教材の分析能力を高め、学習指導案作成の方法を身につける。
授業計画	(1) 中学校・高等学校教育における国語科教育の位置づけ (2) 国語科教育の内容と方法1 (3) 国語科教育の内容と方法2 (4) 国語科の教材づくりと教材研究1 (5) 国語科の教材づくりと教材研究2 (6) 国語科の教材づくりと教材研究3 (7) 実践演習1 学習指導案の作成と検討 (8) 実践演習2 学習指導案の作成と検討 (9) 実践演習3 学習指導案の作成と検討 (10) 実践演習4 学習指導案の作成と検討 (11) 実践演習5 学習指導案の作成と検討 (12) 実践演習6 学習指導案の作成と検討 (13) 実践演習7 学習指導案の作成と検討 (14) 実践演習8 学習指導案の作成と検討 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中にわからない点があれば質問に来ること。
使用教材・参考文献	【教】柴田義松他編著『あたらしい国語科指導法 三訂版』学文社2010年 【教】文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社2008年 【教】同『高等学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社2010年 【教】教育実習を考える会編『学習指導案作成教本国語科』蒼丘書林2012年	
成績評価方法と基準	〈基準〉『指導要領』をしっかりと理解し、教材研究の方法と指導方法の基礎的な理論について理解できている。教材研究をすることができ、学習指導案を作成することができる。 〈方法〉演習発表40%、レポート40%、受講態度20% ただし、それぞれ合格点を満たしていること。	
備考	国語科教育法Ⅲ・Ⅳを履修していることが望ましい。	

科目名	国語科教育法Ⅱ	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義・演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	国語の指導法について学ぶ。実際に中学校・高等学校で使用されている教科書をもとにしながら、演習形式で国語科教育の方法を学ぶ。
	到達目標	『学習指導要領』に基づいた国語教育を実践し、授業を行える教材研究の力を身につける。その上で学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を展開することができる。
授業計画	(1) 教材研究の方法 学習指導案の作成の方法1 (2) 教材研究の方法 学習指導案の作成の方法2 (3) 演習1 教材研究・学習指導案の作成 (中学校・文学作品) (4) 演習2 模擬授業と質疑応答 (中学校・文学作品) (5) 演習3 教材研究・学習指導案の作成 (中学校・説明的文章) (6) 演習4 模擬授業と質疑応答 (中学校・説明的文章) (7) 演習5 教材研究・学習指導案の作成 (中学校・表現的教材) (8) 演習6 模擬授業と質疑応答 (中学校・表現的教材) (9) 演習7 教材研究・学習指導案の作成 (高等学校・文学作品) (10) 演習8 模擬授業と質疑応答 (高等学校・文学作品) (11) 演習9 教材研究・学習指導案の作成 (高等学校・評論文1) (12) 演習10 模擬授業と質疑応答 (高等学校・評論文1) (13) 演習11 教材研究・学習指導案の作成 (高等学校・評論文2) (14) 演習12 模擬授業と質疑応答 (高等学校・評論文2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中にわからない点があれば質問に来ること。
使用教材・参考文献	【教】『中学校国語3』(学校図書) 2013年 ISBN978-4-7625-5218-2 【教】『精選現代文改訂版』(筑摩書房) 2013年 ISBN978-4-480-90039-5	
成績評価方法と基準	〈基準〉中学校・高等学校国語科教科書の教材をしっかりと研究することができ、学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業ができる。 〈方法〉演習発表70%、受講態度30% ただし、それぞれ合格点を満たしていること。	
備考	国語科教育法Ⅰを履修している者のみが受講できる。	

科目名	国語科教育法Ⅲ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	中・高等学校の国語に於ける漢文と評論文の指導法を学ぶ。
	到達目標	漢文と評論文のそれぞれについて、基本知識と教材研究の方法、授業における説明能力を習得する。
授業計画	(1) オリエンテーションと演習スケジュールの決定 (2) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 1 (3) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 2 (4) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 3 (5) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 4 (6) 教材研究演習（漢文） 1 (7) 教材研究演習（漢文） 2 (8) 教材研究演習（漢文） 3 (9) 評論文研究の基礎 1 (10) 評論文研究の基礎 2 (11) 評論文研究の基礎 3 (12) 教材研究演習（評論文） 1 (13) 教材研究演習（評論文） 2 (14) 教材研究演習（評論文） 3 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 ・指定された練習問題を解くこと。
	事後学習	・授業内容の復習。 ・練習問題で間違えた部分の再学習。
使用教材・参考文献	【教】プリントを配布する。 【参】『書き込み式20日間完成 漢文の句形〔高校初級・中級用〕』日栄社 その他適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 中・高等学校国語科の漢文と評論の教材研究の方法と、それに基づく説明能力を習得すること。 <方法> 演習発表40%、レポート30%、受講態度30% ただし、それぞれ合格点を満たしていること。	
備考		

科目名	国語科教育法Ⅳ	
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	中・高等学校の国語に於ける現代文（文学作品）と古文の指導法を学ぶ。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学習指導要領を理解する。 2) 教材分析ができるようになる。 3) 教材としての文学作品の扱い方を知る。 4) 古文の文法・語彙など指導者としての知識を身につける。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 講義（谷川俊太郎「二十億光年の孤独」） (3) 講義（魯迅「故郷」） (4) // (5) 演習 ①（ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」） (6) 演習 ②（太宰治「走れメロス」） (7) 演習 ③（芥川龍之介「羅生門」） (8) 講義（古文の基礎知識） (9) 講義（文語文法） (10) 講義（「かぐや姫」） (11) // (12) 演習 ①（土佐日記「門出」） (13) 演習 ②（宇治拾遺物語「絵仏師良秀」） (14) 演習 ③（沙石集「児の知恵」） (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の作品を前もって読んでおく。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておく。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・作品に関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。
使用教材・参考文献	<p>【教】プリントを配布する。</p> <p>【参】「中学校学習指導要領解説・国語編」「高等学校学習指導要領解説・国語編」（文部科学省）</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉教材を作者、大意・主題、構成と構成図、解釈と解説の各観点から分析し、資料としてまとめることができれば合格とする。</p> <p>〈方法〉演習（60点）、レポート（30点）、受講態度（10点）</p>	
備考	国語科教育法Ⅲを併せて履修することが望ましい。	

科目名	英語科教育法Ⅰ	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本科目では、英語の指導法について学習する。英語教育の歴史、学習指導要領、教授法、教員の役割・要件、言語習得理論、学習者論などの理論的な側面を学ぶとともに、四技能の指導法について学習する。
	到達目標	英語教育に関する理論的な側面を理解する。
授業計画	(1) 授業概要説明、英語科教育法の履修にあたって (2) 英語教育と英語教育学 (3) 英語の国際化と日本の英語教育 (4) 学習指導要領 (5) 学習者 (6) 英語教員 (7) 小学校における外国語（英語）活動 (8) 英語教授法 (9) 第二言語習得と英語教育 (10) コミュニケーション能力の育成 (11) リスニング (12) スピーキング (13) マイクロ・ティーチング(1) (14) マイクロ・ティーチング(2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課題を出すので、次の時間までに提出すること。
使用教材・参考文献	【教】望月昭彦 編著 『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店 2010年 978-4-469-24558-5 【参】教育職員免許法、同施行規則、学習指導要領	
成績評価方法と基準	<基準>英語教育に関する理論的な側面を理解した者は合格とする。なお、特別な理由のない限り、欠席、遅刻は認めない。 <方法>期末試験50%、課題ほか50%	
備考	「英語科教育法Ⅱ」を履修する前に履修すること。原則として2年次以下の学生の履修は認めない。	

科目名	英語科教育法Ⅱ	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義・演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	本科目では、英語の指導法について学習する。「英語科教育法Ⅰ」で学んだ知識を基にして、主に実践的な側面を学ぶ。また、模擬授業も行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の指導法の実践的な側面を理解する。 ・基本的な英語の指導ができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業概要説明 (2) リーディング (3) ライティング (4) ティーム・ティーチング (5) 測定と評価 (6) E ラーニングと CALL 教室 (7) 教科書と教材研究 (8) 文法の学習と指導 (9) 語彙と辞書検索指導 (10) 授業運営 (11) 模擬授業(1) (12) 模擬授業(2) (13) 模擬授業(3) (14) 模擬授業(4) (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課題を出すので、次の時間までに提出すること。
使用教材・参考文献	<p>【教】望月昭彦 編著 『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店 2010年 978-4-469-24558-5</p> <p>【参】教育職員免許法、同施行規則、学習指導要領</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準>英語の指導法の実践的な側面を理解し、基本的な指導ができた者は合格。なお、特別な理由のない限り、欠席、遅刻は認めない。</p> <p><方法>期末試験50%、課題ほか50%</p>	
備考	「英語科教育法Ⅰ」を履修した後に履修すること。原則として2年次以下の学生の履修は認めない。	

目名	英語科教育法Ⅲ	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	英語の指導法について学ぶ。特に教育機器の利用について、様々な機器を実際に利用しながら、その効果的な指導方法について学ぶ。
	到達目標	英語の教育機器を利用した指導法について学び、それぞれの特徴を理解する。 英語の教育機器の効果的な利用法を理解し、利用できるようになる。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) 教育機器の利用 (3) 教育の情報化 (4) ワープロの利用 (5) コーパスの利用 (6) 音声メディアの利用(1) (7) 音声メディアの利用(2) (8) 映像メディアの利用 (9) LL教室の利用 (10) マルチメディアの利用 (11) パソコンの利用 (12) インターネットの利用 (13) 携帯機器の利用 (14) メディアの特徴と利用方法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業後に課題を出すので、次の時間までに済ませておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】教育職員免許法、同施行規則、学習指導要領	
成績評価方法と基準	<基準>英語の教育機器の特徴を理解し、効果的な利用ができるようになった者は合格とする。 <方法>出席30%、課題ほか70%	
備考		

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目は、中学校社会科・高等学校地理歴史科の指導法、特に地理的分野の指導法について学習する。
	到達目標	中学校社会科・高等学校地理歴史科の意義や課題、教育の歴史を学習することを通して、教科構造及び社会科の内容構造や学習方法に関する多様な理論を考察しながら、地理的分野の学習指導案・評価案の作成や模擬授業を行うことができる。
授業計画	(1) 社会科・地理歴史科の意義と課題 (2) 社会科・地理歴史科教育論・実践の歴史 (3) 学習指導要領(社会科・地理歴史科)の教科構造 (4) 社会科・地理歴史科教育の内容編成論 (5) 地理的分野の内容構成 (6) 地理的分野の学習指導計画 (7) 地理教育の諸問題・論争点 (8) 地理的分野の学習指導案づくり① (9) 地理的分野の学習指導案づくり② (10) 高校地理の授業づくりと方法 (11) 高校地理の学習指導案の作成 (12) 模擬授業① (13) 模擬授業② (14) 評価問題の考察 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義で学んだことをさらに深め広げるために、常に課題意識を持ち、最新の情報収集に努めること。
使用教材・参考文献	【教】社会認識教育学会編『中学校社会科教育』学術図書出版社 ISBN 9784780601787 【参】中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版 ISBN 9784536590051 高等学校学習指導要領解説『地理歴史編』教育出版 ISBN 9784316300221	
成績評価方法と基準	〈基準〉「中学校社会科・高等学校地理歴史科の意義や歴史、教科構造、内容構成や学習方法に関する多様な理論を理解し、より質の高い学習指導案作成や模擬授業に活用できていれば」合格とする。 〈方法〉レポート(40%)、模擬授業(30%)、出席課題(30%)により総合的に判断する。	
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。「社会科・地理歴史科教育法Ⅱ」の履修前に必ず本科目を履修すること。	

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目は、中学校社会科・高等学校地理歴史科の指導法、特に歴史的分野の指導法について学習する。
	到達目標	中学校社会科・高等学校地理歴史科の意義や課題、教育の歴史を学習することを通して、教科構造及び社会科の内容構造や学習方法に関する多様な理論を考察しながら、歴史的分野の学習指導案・評価案の作成や模擬授業を行することができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会科・地理歴史科の現状と課題 (2) 学習指導要領（社会科・地理歴史科）の教科構造 (3) 社会科の内容と構造 (4) 地理歴史科教育の内容と構造 (5) 歴史的分野の内容構成 (6) 歴史的分野の学習指導計画 (7) 歴史教育の諸問題・論争点 (8) 歴史的分野の学習指導案づくり① (9) 歴史的分野の学習指導案づくり② (10) 高校世界史の授業づくりと方法 (11) 高校世界史の学習指導案の作成 (12) 模擬授業① (13) 模擬授業② (14) 評価問題の考察 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだことをさらに深め広げるために、常に課題意識を持ち、最新の情報収集に努めること。
使用教材・参考文献	<p>【教】社会認識教育学会編『中学校社会科教育』学術図書出版社 ISBN 9784780601787</p> <p>【参】中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版 ISBN 9784536590051 高等学校学習指導要領解説『地理歴史編』教育出版 ISBN 9784316300221</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉「中学校社会科・高等学校地理歴史科の意義や歴史、教科構造、内容構成や学習方法に関する多様な理論を理解し、より質の高い学習指導案作成や模擬授業に活用できていれば」合格とする。</p> <p>〈方法〉レポート（40％）、模擬授業（30％）、出席課題（30％）により総合的に判断する。</p>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。「社会科・地理歴史科教育法Ⅱ」の履修前に必ず本科目を履修すること。 	

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目は、中学校社会科・高等学校公民科の指導法について学習する。特に公民的分野と公民科（現代社会、倫理、政治・経済）における社会科・公民科の目標、指導内容、指導計画、指導方法について学習する。
	到達目標	(1) 学習指導要領に基づき、社会科・公民科の目標、指導内容、評価について学習し、多面的な教材研究や指導方法の実際について考察することができる。 (2) 学習指導要領に基づき、社会科・公民科の指導内容と指導法について理解を深める。 (3) 社会科・公民科の教材分析や授業計画に基づき、学習指導案の立案・作成や実践的指導力を身につける。
授業計画	(1) I 社会科・公民科教育の教育的意義 ①社会科教育の成立と教育的意義 (2) ②社会科教育の変遷と公民科教育 (3) II 中学校「公民的分野」の目標と指導内容 ①学習指導要領の解釈 (4) ②学習指導要領の解釈 (5) III 高等学校「公民科」の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (6) ①「現代社会」の目標と指導内容 (7) ②「倫理」の目標と指導内容 (8) ③「政治・経済」の目標と指導内容 (9) IV 指導法・授業研究①公民科の指導法と教材研究（中学校） (10) ②公民科の指導法と教材研究（中学校） (11) ③公民科の指導法と教材研究（高等学校） (12) ④公民科の指導法と教材研究（高等学校） (13) V 授業実践演習 ①公民科の学習指導案の検討・発表（班別課題） (14) ②公民科の学習指導案の検討・発表（班別課題） (15) ③公民科の学習指導案の検討・発表（班別課題）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・使用教材や参考文献に基づき、さらに理解を深めること。 ・新聞記事等を活用して社会科教育について省察すること。
使用教材・参考文献	【教】中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版 平成20年 ISBN 9784536590051 高等学校学習指導要領解説『公民編』教育出版 平成22年ISBN 9784316300238 【参】日本公民教育学会編著『テキストブック中学校・高等学校公民教育』第一学習社 2004年 ISBN 9784804075099 白井嘉一 柴田義松 編著『社会・地歴・公民科教育法』学文社 2009年ISBN 4762019577	
成績評価方法と基準	〈基準〉社会科・公民科の目標・内容・授業構成について理解することにより、実践的指導力の基礎を習得し、学習指導案を立案・計画することができることを合格の基準とします。 〈方法〉学習指導案作成（50%）、小レポート（30%）、受講態度（20%）を目安に総合的に評価します。	
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。「社会科・公民科教育法Ⅱ」の履修前に必ず本科目を履修すること。	

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	本科目は、中学校社会科・高等学校公民科の指導法について学習する。特に公民的分野と公民科（現代社会、倫理、政治・経済）における社会科・公民科の目標、指導内容、指導計画、指導方法について学習する。
	到達目標	(1) 学習指導要領に基づき、社会科・公民科の基本的な性格や指導目標・指導内容を理解し、多面的な教材研究や指導方法の実際について考察することができる。 (2) 学習指導要領に基づき、社会科・公民科の実践的授業展開を構想し、学習指導案を立案・作成することができる。 (3) 社会科・公民科の教材分析や学習指導案に基づいて模擬授業を行うことができる。
授業計画	(1) I 実践事例の検討 ①中学校社会科「公民的分野」 (2) ②高等学校公民科「現代社会」 (3) ③高等学校公民科「倫理」 (4) ④高等学校公民科「政治・経済」 (5) II 中学校社会科「公民的分野」の教材研究と模擬授業① (6) 教材研究と模擬授業② (7) 評価問題の考察 (8) III 高等学校公民科「現代社会」の教材研究と模擬授業① (9) 教材研究と模擬授業② (10) 評価問題の考察 (11) IV 高等学校公民科「倫理」の教材研究と模擬授業① (12) 教材研究と模擬授業②、評価問題の考察 (13) V 高等学校公民科「政治・経済」の教材研究と模擬授業① (14) 教材研究と模擬授業② (15) 評価問題の考察	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・使用教材や参考文献に基づき、さらに理解を深めること。 ・新聞記事等を活用して社会科教育について省察すること。
使用教材・参考文献	【教】伊東光晴ほか監修『高校現代社会 新訂版』実教出版 2007年 ISBN 9784407201123 斉藤 齊 監修 『中学社会 公民』教育出版 ISBN 4316200828 日本公民教育学会編著『テキストブック中学校・高等学校公民教育』第一学習社 2004年 ISBN 9784804075099 【参】白井嘉一 柴田義松 編著『社会・地歴・公民科教育法』学文社 2009年ISBN 4762019577	
成績評価方法と基準	〈基準〉社会科・公民科の基本的性格をふまえ、実際の授業場面に即した教材研究や指導方法、学習指導案の作成、模擬授業を行うことができることを合格の基準とする。 〈方法〉学習指導案作成・レポート（40%）、模擬授業発表（40%）、受講態度（20%）により総合的に判断する。	
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。「社会科・公民科教育法Ⅰ」の履修した後に本科目を履修すること。	

科目名	道徳教育の指導法																															
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko																															
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次																															
	読替科目：平成24年度以前入学生「道徳教育の研究」																															
科目概要	授業内容	本科目は、道徳の本質的意味を理解することにより、学校教育における道徳教育の意義と課題を検討し、「命のつながり」や「命の尊さ」を基盤とした学校教育における道徳教育の実践的展開について考えていきます。																														
	到達目標	(1) 学校教育における道徳教育の意義と目的について理解する。 (2) 道徳観の諸理論を習得することにより、道徳教育の実践的展開について考察することができる。 (3) 道徳教育の実践的展開となる「道徳科学習指導案」を構想・計画することができる。																														
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>(1) I. 道徳教育の理論的基礎</td> <td>1) 道徳教育の意義と目的</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>2) 道徳観の諸類型</td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>3) 道徳性の発達</td> </tr> <tr> <td>(4) II. 道徳教育の実践的展開</td> <td>1) 学校教育における道徳教育の位置と変遷</td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>2) 『道徳科学習指導要領』 - 「目標論」</td> </tr> <tr> <td>(6)</td> <td>3) " " - 「内容論」</td> </tr> <tr> <td>(7)</td> <td>4) " " - 「方法論」</td> </tr> <tr> <td>(8)</td> <td>5) " " - 「評価論」</td> </tr> <tr> <td>(9)</td> <td>6) 「道徳科学習指導案」の検討・作成①</td> </tr> <tr> <td>(10)</td> <td>7) " " の検討・作成②</td> </tr> <tr> <td>(11)</td> <td>8) " " の検討・作成③</td> </tr> <tr> <td>(12)</td> <td>9) 道徳科授業の実践演習①</td> </tr> <tr> <td>(13)</td> <td>10) " " 実践演習②</td> </tr> <tr> <td>(14)</td> <td>11) " " 実践演習③</td> </tr> <tr> <td>(15) III. 現代教育における道徳教育の展望と課題</td> <td></td> </tr> </table>		(1) I. 道徳教育の理論的基礎	1) 道徳教育の意義と目的	(2)	2) 道徳観の諸類型	(3)	3) 道徳性の発達	(4) II. 道徳教育の実践的展開	1) 学校教育における道徳教育の位置と変遷	(5)	2) 『道徳科学習指導要領』 - 「目標論」	(6)	3) " " - 「内容論」	(7)	4) " " - 「方法論」	(8)	5) " " - 「評価論」	(9)	6) 「道徳科学習指導案」の検討・作成①	(10)	7) " " の検討・作成②	(11)	8) " " の検討・作成③	(12)	9) 道徳科授業の実践演習①	(13)	10) " " 実践演習②	(14)	11) " " 実践演習③	(15) III. 現代教育における道徳教育の展望と課題	
(1) I. 道徳教育の理論的基礎	1) 道徳教育の意義と目的																															
(2)	2) 道徳観の諸類型																															
(3)	3) 道徳性の発達																															
(4) II. 道徳教育の実践的展開	1) 学校教育における道徳教育の位置と変遷																															
(5)	2) 『道徳科学習指導要領』 - 「目標論」																															
(6)	3) " " - 「内容論」																															
(7)	4) " " - 「方法論」																															
(8)	5) " " - 「評価論」																															
(9)	6) 「道徳科学習指導案」の検討・作成①																															
(10)	7) " " の検討・作成②																															
(11)	8) " " の検討・作成③																															
(12)	9) 道徳科授業の実践演習①																															
(13)	10) " " 実践演習②																															
(14)	11) " " 実践演習③																															
(15) III. 現代教育における道徳教育の展望と課題																																
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。																														
	事後学習	・配布資料や参考文献に目を通し授業への理解を深めること。 ・倫理観やモラルに関する新聞記事等に目を通し、道徳指導への在り方について考察すること。																														
使用教材・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・【教】・文部科学省 『中学校学習指導要領解説―道徳編一』 日本文教出版 2008年 ISBN 9784536590044 ・文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ISBN 9784827814613 ・【参】・文部科学省『生徒指導提要』教育図書 2010年 ISBN 9784877302740 ・教師養成研究会編著 『道徳教育の研究』 学芸図書 2009年 ISBN 4761603461 ・村井実・遠藤克弥編著『道徳教育を学ぶ』 川島書店 2005年 ISBN 4761006048 																															
成績評価方法と基準	<p><基準> 学校教育における道徳教育の基礎的知識を習得し、学校教育における「道徳科学習指導案」を構想し計画することができることを合格の基準とします。</p> <p><方法> 最終レポート (30%)、道徳科学習指導案作成 (50%)、受講態度 (20%) を目安に評価します。</p>																															
備考	・中学校教諭免許取得者は必修。																															

科目名	教科外活動論	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	本科目は、学校教育における教科外活動（特別活動）の基本的性格とその教育的意義を理解することにより、教育実践上の教科外活動における児童生徒理解や指導の在り方について学習する。
	到達目標	(1) 学校教育における教科外活動（特別活動）の教育的意義と特質を理解する。 (2) 教科外活動（特別活動）における教科内容と実践的指導方法について習得する。
授業計画	(1) I 教科外活動の意義と目的 (2) II 教科外活動の内容 (3) III 教育外活動の変遷① (4) 教育外活動の変遷② (5) IV 教育外活動の指導原理① (6) 教育外活動の指導原理② (7) 教育外活動の指導原理③ (8) V 教育外活動の指導内容① (9) 教育外活動の指導内容② (10) 教育外活動の指導内容③ (11) VI 教育外活動と生徒指導 (12) 学級活動・ホームルーム活動の内容と指導 (13) 生徒会活動の内容と指導 (14) クラブ活動・課外活動・部活動の内容と指導 (15) VII 教育外活動の評価、展望と課題	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や参考文献を元に授業への理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】江川 孜成編著『特別活動の理論と方法』学芸図書 2009年 ISBN 9874761604127 【参】日本特別活動学会編著『キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版 2000年 ISBN 4491016305 国分康孝編著『続構成的グループ・エンカウンター』信誠書房 2000年 ISBN 441440164X	
成績評価方法と基準	〈基準〉学校教育における教科外活動(特別活動)の意義と特質について理解し、教科外活動の実践的指導方法について考察できることを合格の基準とします。 〈方法〉最終レポート(50%)、小レポート(30%)、受講態度(20%)により総合的に判断する。	
備考	・教員免許取得者を主とする。	

科目名	専門資料論	
担当者	永窪 一宏 / NAGAKUBO, Kazuhiro	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 1単位 / 1年次	
	司書資格科目 / 必修 (ただし平成23年度以前の入学生のみ)	
科目概要	授業内容	図書館資料の中でも、各専門分野の関連資料は学術研究の基本となるものである。本講座では、専門資料の書誌・メタデータの意義や、情報検索の方式について基礎的理解を深めるとともに、人文科学・社会科学・自然科学(科学技術)各分野の資料の特性とそれぞれの書誌の解題を行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・従来型の冊子体の書誌のほか、電子媒体によるメタデータについて学び、その活用について知識・理解を深める。 ・情報検索の基礎を学び、検索語を理解し、論理演算等ができるようになる。 ・各学問分野について学習し、それぞれの一次・二次資料の特性を理解し、資料へのアクセスができるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 専門資料の概要と情報アクセス (2) 書誌・メタデータ活用の基礎 (3) 情報検索の基礎 (情報検索とデータベース) (4) 情報検索の基礎 (情報検索の基本機能) (5) 人文科学資料の特性と情報アクセス (6) 社会科学資料の特性と情報アクセス (7) 科学技術資料の特性と情報アクセス (8) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」を前もって配布するので読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。プリント(ハンドアウト)を用いる。</p> <p>【参】中森強編著『新訂専門資料論』(新現代図書館学講座9)東京書籍 2004年 ISBN4-487-71493-1</p> <p>【参】戸田光昭編『改訂専門資料論』(新図書館学シリーズ8)樹村房 ISBN4-88367-075-9</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉テスト 85%、受講態度 15%</p> <p>〈基準〉書誌・メタデータ、情報検索、各学問分野の資料の特性が理解できていれば合格とする。</p>	
備考	司書資格取得者は、平成23年度入学生以前の学生のみ必修。	

科目名	図書館概論	
担当者	永窪 一宏 / NAGAKUBO, Kazuhiro	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	社会における人の営みは、情報によって生活行動が決定されると言われ、適正な情報の入手能力が常に求められる。とくに生涯学習の時代である現代においては情報提供機関としての図書館の存在はきわめて大きい。本講座は図書館学の各論につなぐものとして、図書館に関する基本事項を取り上げて概説する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の基盤としての図書館の重要性を理解する。 ・図書館学のスタートの科目であることを十分認識し、図書館学の他の科目にも滞りなく対応できるようになる。 ・図書館の種類、機能、課題、関係法規等を学習することで、将来、図書館員として活動できるようになる。
授業計画	(1) 図書館学の形成と図書館職員の養成 (2) 図書館の意義と役割 (3) 図書館の施設と設備（施設・図書館配置計画等） (4) 図書館の施設と設備（建築計画書・最近の技術等） (5) 図書館の種類、その機能と課題（国立図書館） (6) 図書館の種類、その機能と課題（公共図書館） (7) 図書館の種類、その機能と課題（学校図書館） (8) 図書館の種類、その機能と課題（大学・専門・その他図書館） (9) 図書館行政（図書館行政と図書館政策） (10) 図書館行政（主な関連法規・基準） (11) 図書館の自由と図書館員の倫理綱領 (12) 図書と図書館の歴史 (13) 図書館相互協力とネットワーク、およびボランティア活動 (14) 図書館関係団体とその活動 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」を前もって配布するので読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。プリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】植松貞夫ほか編『改訂図書館概論』（新図書館学シリーズ1）樹村房 2005年 ISBN4-88367-081-3 【参】北嶋武彦編著『新訂図書館概論』（新現代図書館学講座2）東京書籍 2005年 ISBN4-487-71492-3	
成績評価方法と基準	〈方法〉テスト 85%、受講態度 15% 〈基準〉図書館の果たす役割、及び図書館に関する基本事項が十分理解できていれば合格とする。	
備考		

科目名	図書館制度・経営論	
担当者	永窪 一宏 / NAGAKUBO, Kazuhiro	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修 (平成23年度以前の入学生は「図書館経営論」へ読替)	
科目概要	授業内容	図書館制度は、図書館法をはじめとして、当該地方自治体の条例・規則等によって成り立つものである。また、近年は図書館の委託など新しい経営の動きがみられる。本講座では非営利組織にして、かつ教育機関としての責務を負う図書館の望ましい経営や管理のあり方について考察する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館経営の基本的理念および、図書館に関する法律や図書館政策等を学ぶことによって、図書館制度や図書館経営の考え方に理解を深め、予算、広報、サービス計画等の図書館業務に携わることのできる基本が身に付いている。 ・図書館に対する評価のあり方や評価の基準を学ぶことによって、サービス改善に向けての適切な方策が立てられる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 公共図書館設置の法的根拠 (図書館法) (2) 他館種設置の法的根拠 I (学校図書館法、国立国会図書館法) (3) 他館種設置の法的根拠 II (大学設置基準、身体障害者福祉法) (4) 図書館サービス関連法規 I (子どもの読書活動推進法等) (5) 図書館サービス関連法規 II (著作権法、個人情報保護法等) (6) 図書館政策 I (国) (7) 図書館政策 II (地方公共団体) (8) 図書館経営の意義 (9) 図書館の組織と職員 I (組織構成、館長の役割、人事管理) (10) 図書館の組織と職員 II (図書館協議会、ボランティアとの連携等) (11) 図書館におけるマーケティング (12) 図書館のサービス計画と予算の確保 (13) 図書館業務・サービスの調査と評価 (14) 図書館の施設・整備 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」を前もって配布するので読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。プリント (ハンドアウト) を用いる。</p> <p>【参】竹内紀吉編著『図書館経営論』 (新現代図書館学講座 3) 東京書籍 2005年 ISBN4-487-71473-7</p> <p>【参】高山正也ほか編『改訂図書館経営論』 (新図書館学シリーズ 2) 樹村房 2005年 ISBN4-88367-073-2</p> <p>【参】宮沢厚雄著『図書館経営論 (改訂版)』 (図書館情報学の基礎 2) 勉誠出版 2006年 ISBN4-585-00185-9</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉テスト 85%、受講態度 15%</p> <p>〈基準〉図書館制度が図書館に関する諸法規に基づくことを理解し、図書館独自の経営理念や図書館評価の考え方、その他図書館経営に関する基本事項が理解できていれば合格とする。</p>	
備考		

科目名	図書館サービス概論	
担当者	永窪 一宏 / NAGAKUBO, Kazuhiro	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書資格科目 / 必修 (平成23年度以前の入学生は「図書館サービス論」へ読替)	
科目概要	授業内容	図書館の機能・役割を再確認し、利用者と直接関わる図書館サービスの意義・内容について基本事項を体系的に幅広く理解する。図書館サービスの業務については、図書館職員のあるべき姿と関連させながら理解し、考察する態度を養う。また、最近の図書館の急激な進化・発展について具体的な活動の事例をあげながら学習する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保存中心から貸出し中心へと図書館界が変遷しつつある現状をふまえ、図書館職員としての研修意欲やサービス精神の重要性が理解できている。 ・図書館ネットワークや図書館コンソーシアムなど、最近の図書館界の動向に適切に対応できる心構えができている。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 図書館サービスの意義と目的 (2) 図書館サービスの要素 (3) 図書館サービスの分類 (4) 図書館サービスの類型と概要 (5) 閲覧・貸出し・情報サービス、その他のサービス (6) 公共図書館におけるサービスの構造 (7) 公共図書館サービスと図書館政策・図書館行政 (8) 館種別図書館サービスと図書館協力 (9) 利用者層の分析と各集団別サービス (10) 図書館活動普及・促進サービス (11) 図書館サービスと著作権 (12) 図書館サービスの測定と評価 (13) デジタル化技術の進展と図書館サービスの再構築 (14) 図書館サービスの再検討と進化 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」を前もって配布するので読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。プリント（ハンドアウト）を用いる。</p> <p>【参】高山正也ほか共著『改訂図書館サービス論』（新図書館学シリーズ） 樹村房 2008年 ISBN978-4-88367-082-6</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉テスト 85%、受講態度 15%</p> <p>〈基準〉図書館活動で最も重要な図書館サービスについて、その意義やそれを支える理念を理解し、また関連する多くの基本事項や今日の図書館界の趨勢および直面する課題を把握できていたら合格とする。</p>	
備考		

科目名	情報サービス論	
担当者	永窪 一宏 / NAGAKUBO, Kazuhiro	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修 (平成23年度以前の入学生は「情報サービス概説」へ読替)	
科目概要	授業内容	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。また、これらのサービスについて、その理論といろいろな態様について学び、かつ、その実態について理解を深める。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館に寄せられる質問等の現状を把握し、図書館職員としての情報サービス、とくにレファレンスサービスの基本的事項が確実に理解できている。 ・参考図書 of 構築、質問の受け方、文献探索、回答提供の要領などレファレンス業務のスキルアップに取り組んでいる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 情報サービスとは何か (2) 情報サービスの歴史 (3) 情報サービスと図書館 (4) 情報サービスを構成するさまざまなサービス (5) 情報検索と情報検索システム (6) 組織と情報サービス (7) 情報サービスと情報資源 (8) 情報サービスの収集と運用 (9) レファレンスプロセス (10) 利用者の情報検索活動と情報要求の構造 (11) レファレンス質問の受理と回答 (12) 各種情報源の特徴と利用法 (13) レファレンスの記録と統計 (14) レファレンス情報源の解題 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」を前もって配布するので読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。プリント（ハンドアウト）を用いる。</p> <p>【参】 渋谷嘉彦ほか共著『改定情報サービス概説』（新図書館学シリーズ4）樹村房 2008年 ISBN978-4-88367-076-5</p> <p>【参】 田村俊作編著『情報サービス概説』（新図書館学講座5）東京書籍 2003年 ISBN4-487-71475-3</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉テスト85%、受講態度15%</p> <p>〈基準〉情報サービスに関する基本事項、レファレンスサービスの手順や情報源についての理解ができていれば合格とする。</p>	
備考		

科目名	レファレンスサービス演習	
担当者	永窪 一宏 / NAGAKUBO, Kazuhiro	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	「情報サービス概説」で学んだ内容に基づき、関係する技能について学習する。演習内容は、情報源の利用、レファレンス質問の回答処理を中心に行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス質問に対して、レファレンスブックによる回答の仕方の基本を体得する。 図書館司書として最低限必要なレファレンス業務の実践的能力を高めていく。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> レファレンスサービスとレファレンスプロセス レファレンスサービス演習の目的と注意事項 プロセスの確認とレポートの作成 演習の具体例（レファレンス質問） レファレンスツールとメディア 事実解説型レファレンスツール 案内指示型レファレンスツール 質問のタイプと情報源（ことば・文字・事象・事柄・データ） 質問のタイプと情報源（歴史・時・場所・地理・地名） 質問のタイプと情報源（人物・団体・企業） 質問のタイプと情報源（図書・出版・新聞・雑誌） レファレンスツールの評価 インフォメーションファイルの作成と維持管理 案内指示型レファレンスツールの作成 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 「使用教材」を前もって配布するので読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、演習課題について報告書を提出させる。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。プリント（ハンドアウト）を用いる。</p> <p>【参】木本幸子ほか編『改訂レファレンスサービス演習』（新図書館学シリーズ5）樹村房 2008年 ISBN978-4-88367-077-2</p> <p>【参】大串夏身編著『レファレンスサービス演習』（JLA 図書館学情報学テキストシリーズ5）日本図書館協会 2006年 ISBN4-8204-9722-7</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉演習課題 85%、演習態度 15%</p> <p>〈基準〉レファレンス質問に対して、適切な手順、および情報源により、妥当な回答ができれば合格とする。</p>	
備考	「情報サービス論」を履修していることが望ましい。	

科目名	情報検索演習	
担当者	瀬戸 博幸 / SETO, Hiroyuki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	コンピュータを使って具体的なデータにより検索に必要な演算とはどのようなものか理解させる。また、Web上で図書館がどのようなサービスを提供しているか調べる。その後、CDに入ったデータベースにより情報検索の演習を行う。
	到達目標	インターネット上で図書館がどのようなサービスを展開しているか理解し、機械検索を行う場合、検索者が注意しなければならないのはどのような点か理解できるようになる。
授業計画	(1) コンピュータとデータについて (2) データベースとはどのようなものか (3) OPACとはどのようなものか (4) Webcatとはどのようなものか (5) 国立国会図書館について (6) インターネット上の仮想図書館について (7) CDに入ったデータベース検索環境の設定 (8) 人物略歴情報の検索 (9) 雑誌記事情報の検索 (10) 図書内容情報の検索 (11) 新聞記事原報の検索 (12) 総合演習その1 (13) 総合演習その2 (14) 総合演習その3 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義時間に検索しきれなかった問題にあたっておくこと
使用教材・参考文献	【教】CD-ROMで学ぶ 情報検索の演習 新訂3版 (日外アソシエーツ) ISBN978-4-8169-2118-6	
成績評価方法と基準	<基準> コンピュータを操作し、具体的な検索ができない場合は不合格とします。 <方法> 11回まで講義内容について小レポートを課し、12回以降は総合演習問題について最終レポートを課します。(小レポート50%、最終レポート50%)	
備考		

科目名	図書館情報資源概論	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修 (平成 23 年度以前の入学生は「図書館資料論」へ読替)	
科目概要	授業内容	資料と情報サービスを提供する機関である図書館にとって図書館資料は運営に不可欠な要素のひとつである。そこで、図書館で扱われる図書館資料にはどのようなものがあるのか解説をする。
	到達目標	多様化するメディアの現状を踏まえながら、図書館資料の種類とその特質を捉え、資料の選択・収集・提供・保管について理解をしたか。
授業計画	(1) 情報とメディア (2) 資料・メディアの定義 (3) 情報メディアの歴史 (4) 図書館資料の種類と特性・1 (印刷資料) (5) 図書館資料の種類と特性・2 (視聴覚資料) (6) 図書館資料の種類と特性・3 (電子資料) (7) 図書館資料の種類と特性・4 (郷土資料・行政資料) (8) 蔵書構成 (9) 資料の選択・収集・除籍・1 (10) 資料の選択・収集・除籍・2 (11) 資料の保存 (12) 資料の出版と流通 (13) 学術情報の生産と流通 (14) 図書館資料と図書館の自由 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	【教】使用しない。プリントを配布する。	
成績評価方法と基準	課題への取り組み (20%)、期末試験 (80%) により評価を行う。図書館で扱われる資料の扱いについて理解した者を合格とする。	
備考	「図書館概論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

科目名	情報資源組織論	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修 (平成 23 年度以前の入学生は「資料組織概説」へ読替)	
科目概要	授業内容	図書館にある資料は、情報への適切かつ効率的なアクセスを可能にするために組織化されている。この講義では、組織化業務に必要な知識について解説をする。
	到達目標	図書館における組織化に必要な技術である目録・分類等について取りあげるなかで、目録システムや主題別の組織化の仕組みについて理解する。
授業計画	(1) 図書館の機能と資料組織 (2) 資料組織業務 (3) 書誌コントロール (4) 書誌情報の作成・流通・管理 (5) コンピュータによる目録作成の実際 (6) 目録法の基礎 (7) 記述目録法の基礎 (8) 記述の単位と順序 (9) 記述目録作成の実際(1) (10) 記述目録作成の実際(2) (11) 主題目録法 (12) 分類の基礎 (13) 主題目録作成の実際(1) (14) 主題目録作成の実際(2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	【教】柴田正美著『情報資源組織論』日本図書館協会 2012年 ISBN 978-4-8204-1202-1	
成績評価方法と基準	課題への取り組み(20%)と期末に実施する筆記試験(80%)により評価を行う。テキストに記載されている資料の組織化に関する理解ができており、「情報資源組織演習」の受講に支障がない者を合格とする。	
備考	「図書館概論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

科目名	情報資源組織演習 I	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1 単位 / 2 年次	
	司書資格科目 / 必修 (平成 23 年度以前の入学生は「I」と「II」を修得して「資料組織演習」へ読替)	
科目概要	授業内容	「情報資源組織論」から得た知識に基づき、さらに解説を加え、例題に取り組みながらの作業を通じて、記述目録法 (目録作成作業) の実践的能力を身につける。
	到達目標	以下の事柄ができること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 『日本目録規則』にもとづく目録の記述および入力 ・ 標目の付与および排列
授業計画	(1) 記述目録法と主題目録法 (2) 単行資料の記述・1 (3) 単行資料の記述・2 (4) 単行資料の記述・3 (5) その他の資料の記述・1 (6) その他の資料の記述・2 (7) 継続資料の記述・1 (8) 継続資料の記述・2 (9) 標目および排列の実際 (10) 集中化・共同化による書誌データ作成の実際・1 (11) 集中化・共同化による書誌データ作成の実際・2 (12) 書誌データ管理・検索システムの構築 (13) ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際・1 (14) ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際・2 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	【教】吉田憲一編著『資料組織演習』日本図書館協会 2007年 ISBN978-4-8204-0624-2 (※テキスト変更の可能性あり)	
成績評価方法と基準	講義中に出される課題の提出 (30%)、期末に実施する筆記試験 (70%) により評価を行う。資料組織の基礎能力が身につけている者wを合格とする。	
備考	「情報資源組織論」を修得した者が受講すること。	

科目名	情報資源組織演習Ⅱ	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 演習 / 1単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修 (平成23年度以前の入学生は「Ⅰ」と「Ⅱ」を修得して「資料組織演習」へ読替)	
科目概要	授業内容	「情報資源組織論」から得た知識に基づき、さらに解説を加え、例題に取り組みながらの作業を通じて、主題目録法(分類・件名の付与)の実践的能力を身につける。
	到達目標	以下の事柄ができること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題分析 ・ 『日本十進分類法』を活用した分類の付与、『基本件名標目表』を活用した件名の付与
授業計画	(1) 記述目録法と主題目録法 (2) 主題分析の理論 (3) 主題分析の実際・1 (4) 主題分析の実際・2 (5) 件名付与の理論 (6) 件名付与の実際・1 (7) 件名付与の実際・2 (8) 分類付与の理論 (9) 分類付与の実際・1 (10) 分類付与の実際・2 (11) 分類付与の実際・3 (12) 分類付与の実際・4 (13) 分類付与の実際・5 (14) 請求記号 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	【教】吉田憲一編著『資料組織演習』日本図書館協会 2007年 ISBN978-4-8204-0624-2 (※テキスト変更の可能性あり)	
成績評価方法と基準	講義中に出される課題の提出(30%)、期末に実施する筆記試験(70%)により評価を行う。資料組織の基礎能力が身につけている者を合格とする。	
備考	「情報資源組織論」を修得した者が受講すること。	

科目名	児童サービス論	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館における児童サービスは乳幼児から青少年まで幅広い年齢を対象として行われるサービスである。そのなかで扱われる資料やサービスについて解説をする。
	到達目標	児童サービスにおいて扱われる多種多様な資料やサービスの種類と方法、サービス対象者の特徴を理解したか。また、子どもに対する読書教育の意義や児童サービス担当職員の役割について理解したか。
授業計画	(1) 児童サービスの意義 (2) 児童サービスの歴史 (3) 児童の発達と読書興味 (4) 児童資料の種類・1 (5) 児童資料の種類・2 (6) 児童資料の選択と組織化 (7) 児童サービスの運営・1 (8) 児童サービスの運営・2 (9) 読み聞かせの実際 (10) ストーリーテリングの実際 (11) ブックトークの実際 (12) ヤングアダルトサービス (13) 学校図書館における図書館サービス (14) 児童サービスの現状と今後の展望 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	【教】使用しない。プリントを配布する。	
成績評価方法と基準	課題への取り組み (25%)、最終レポート (75%) により評価を行う。児童サービスにおける知識を身につけた者を合格とする。	
備考	「図書館概論」および「図書館サービス概論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

科目名	図書・図書館史	
担当者	永窪 一宏 / NAGAKUBO, Kazuhiro	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 1単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 選択 (平成23年度以前の入学生は「図書及び図書館史」へ読替)	
科目概要	授業内容	図書の印刷・普及・流通や、図書館の形態・運営・利用状況など、図書や図書館の出現から今日まで、その進歩・発展の経過について知識・理解を深める。そのなかで、とくに注目すべき図書の刊行や図書館の出現については、その時代背景や、刊行・出現の必然性・意義などを総合的に考察する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋の図書及び図書館史を学習することで、現代の欧米文化の底流や人々の思考形態の特徴・傾向を把握する。 ・ 日本の図書及び図書館史を学習することで、日本の図書館は、明治以降、特に西洋をモデルに発展してきたことを理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 世界の図書及び図書館 (古代) (2) 世界の図書及び図書館 (中世) (3) 世界の図書及び図書館 (近世) (4) 世界の図書及び図書館 (近代・現代) (5) 日本の図書及び図書館 (古代・中世) (6) 日本の図書及び図書館 (近世) (7) 日本の図書及び図書館 (近代・現代) (8) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材」を前もって配布するので読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。プリント (ハンドアウト) を用いる。</p> <p>【参】寺田光孝編『図書及び図書館史』(新図書館学シリーズ12) 樹村房 2006年 ISBN4-88367-013-9</p> <p>【参】北嶋武彦編著『図書及び図書館史』(新現代図書館学講座13) 東京書籍 2003年 ISBN4-487-71483-4</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉テスト85%、受講態度15%</p> <p>〈基準〉図書及び図書館の歴史の流れが、時代背景とともに確実に把握できていれば合格とする。</p>	
備考		

科目名	図書館情報資源特論	
担当者	永窪 一宏 / NAGAKUBO, Kazuhiro	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 1単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 選択 (平成23年度以前の入学生は「図書館特論」へ読替)	
科目概要	授業内容	図書館活動においては、古くて新しい課題や今日的課題も少なくない。その一つに古典資料をめぐる問題がある。古典資料は重要な図書館資料であるが、その特殊性ゆえに、取り扱いに習熟した図書館員等は少ない。また図書館学の各論でも体系的な項目として取り上げられていない。従って、古典資料について理解を深め、その整理や保存、コンピュータによる資料検索等は緊急に取り組むべき課題として本講座を設定した。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典資料の特徴を理解することで、現代資料との違いを確し、その保存等に留意する態度を身につける。 ・ 古典資料を所蔵している図書館・研究機関を調べることで、その資料の検索等ができるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 古典資料概説 (2) 古典資料を所蔵する図書館等 (3) 古典資料の収集 (4) 古典資料の整理 (5) 古典資料の保存・補修 (6) 古典資料の利用 (7) 古典資料とコンピュータ (8) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材」を前もって配布するので読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。プリント（ハンドアウト）を用いる。</p> <p>【参】北嶋武彦ほか編著『図書館特論』（新現代図書館学講座17）東京書籍 1998年 ISBN487-71487-7</p> <p>【参】橋口侯之介『和本入門』平凡社 2005年 ISBN4-582-83292-x</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉テスト 85%、受講態度 15%</p> <p>〈基準〉古典資料と現代資料との取り扱いの違いを理解し、古典資料の検索等の基本が理解できていれば合格とする。</p>	
備考		

科目名	学校経営と学校図書館	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	「読書センター」「学習センター」「情報センター」として学校図書館に求められるものは何か、また学校図書館に携わる司書教諭に求められる資質と、学校経営の中の学校図書館の位置付けについて学ぶ。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館の歴史を学ぶ 2. 学校の組織における学校図書館を学ぶ 3. 学校図書館活動について学ぶ 4. 学校図書館の課題と改善について学ぶ
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校教育と学校図書館 (2) 戦前から終戦直後の学校図書館 (3) 県立図書館が学校図書館に与えた影響 (4) 学校図書館の目的と図書館経営 (5) 学校図書館経営の計画と立案 (6) 学校経営と学校図書館（小学校） (7) 学校経営と学校図書館（中学校） (8) 学校経営と学校図書館（高校） (9) 学校図書館の施設・設備 (10) 生徒図書委員会活動と教師 (11) 学校図書館とPTAの連携 (12) 学校図書館とネットワーク (13) 学校図書館の評価と改善 (14) 学校図書館活動の課題 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	事前に配布されたプリントを前もって読んでくる
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習等の機会を活用して学校図書館の経営（運営）について学ぶ。 ・小・中・高校の学校図書館の経営の特色を学ぶ。
使用教材・参考文献	【参】塩見昇「学校教育と学校図書館」教育史料出版会 2005 ISBN4876524580	
成績評価方法と基準	到達目標の60%以上の達成 テスト70% レポート30%	
備考		

科目名	学校図書館メディアの構成	
担当者	永窪 一宏 / NAGAKUBO, Kazuhiro	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	学校図書館が読書センター・学習メディアセンター・情報センターとして多様なメディアを有する場であることを認識し、その資料構築について学ぶとともに、学校図書館メディアの役割、必要とされるメディアの種類・特質、組織化について理解する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館メディアの種類・役割や、資料構築のあり方について理解を深める。 ・メディアに関心を持ち、その1点1点についての目録作成や分類作業などが規則どおりにできるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校図書館メディアの意義 (2) メディアの種類と特性 (3) メディアの選択と構築 (4) メディアの組織化 (5) 目録の意義・種類・役割と目録規則 (6) 目録の作成（記述） (7) 目録の作成（標目） (8) 目録の作成（排列） (9) 分類法 (10) 分類作業 (11) 件名法 (12) 件名作業 (13) メディアの配置 (14) ファイリング・システム (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」を前もって配布するので読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。プリント（ハンドアウト）を用いる。</p> <p>【参】小田光弘編集『学校図書館メディアの構成』（司書教諭テキストシリーズ02）樹村房 2007年 ISBN978-4-88367-091-8</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉テスト 85%、受講態度 15%</p> <p>〈基準〉学校図書館メディアの概要を理解し、基礎的な目録作成や分類作業ができれば合格とする。</p>	
備考		

科目名	学習指導と学校図書館	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	学校図書館法の“教育課程の展開に寄与する”学校図書館とは何か。学校図書館に求められる教科の学習指導がどのように展開してきたか小中高校の実践事例を基に理解を深める。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導と学校図書館の利用について理解する。 ・学校図書館と情報サービスメディア活用能力を理解する。 ・教科支援と教師との連携について理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校教育と学校図書館 (2) 学校図書館の利用指導 (3) 鹿児島県の学校図書館の変遷1 (4) 鹿児島県の学校図書館の変遷2 (5) 学習指導と学校図書館（小学校） (6) 学習指導と学校図書館（中学校） (7) 学習指導と学校図書館（高校） (8) 学校図書館と教師への支援 (9) 学校図書館と図書館情報教育 (10) 学校図書館と情報 (11) レファレンス・サービス (12) レファレンス・サービス (13) 教育的観点と知る権利としての学校図書館 (14) 学習指導と学校図書館の抱える課題 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	事前に配布されたプリントは前もって読んでくること
	事後学習	学校図書館が取り組んでいる学習指導について実践例から現状を学び、これからの学習指導についても考察する。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。</p> <p>【参】堀川照代「学習指導と学校図書館」NHK出版 2011年 ISBN4595312250</p>	
成績評価方法と基準	到達目標の60%以上の達成 テスト70% レポート30%	
備考		

科目名	読書と豊かな人間性	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	人類の知的遺産である“本”を読む楽しみ“読書”について考える。21世紀にはいり、読書は紙媒体による読書から電子図書等へと多様化している。そのような状況の中で、学校図書館では豊かな人間性を培うためにどのような取り組みがなされているのか小・中・高校のさまざまな実践例を基に「読書の取り組み」を学ぶ。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と読書の歴史について学ぶ 2. 学校で行われている読書指導について学ぶ 3. 多様化する読書形態を学ぶ 4. 読書資料の種類と活用について学ぶ
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 読書の歴史（過去から現在までの読書観の変遷） (2) 図書館の歴史（学校図書館にたどり着くまで） (3) 小学校の読書指導（実践例から現状を知る） (4) 中学校の読書指導（実践例から現状を知る） (5) 高校の読書指導（実践例から現状を知る） (6) 学校における読書指導の考察（ (7) 新聞、雑誌等の 図書以外による読書資料について (8) 学校図書館とマンガ (9) 情報化社会と読書（電子図書等による読書形態の変化） (10) 読書の手がかり～読書の愉しさを知る“手法”を学ぶ1 (11) 読書の手がかり～愉しさを知る“手法”を学ぶ2 (12) 読書の手がかり～読書手法の考察 (13) 生徒図書委員会・教職員・保護者の連携(実践例から現状を学ぶ) (14) 家庭・地域のネットワーク化（鹿児島県の特色ある読書活動を学ぶ） (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	配付された「プリント資料」は前もって読んでくること
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の豊かな人間性を培うために学校が取り組んでいる読書指導の事例を学ぶ。 ・さまざまな読書手法を学び、効果的な読書指導や教科学習への活用を考える。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。	
成績評価方法と基準	テスト 70% レポート 30%, 到達目標の 60%以上の達成	
備考		

科目名	情報メディアの活用	
担当者	瀬戸 博幸 / SETO, Hiroyuki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	情報メディアについて、ビデオなどで具体的な例を紹介し、その意義を考察する
	到達目標	情報メディアについて、その意義を理解することで、図書館が情報メディアをどのように活用すべきか考えられるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 情報ってなんだろう (2) 日本でラジオ放送がどのように誕生したか (3) インターネットを活用しラジオについて歴史年表をつくろう (4) テレビの誕生 (5) ラジオの歴史年表に重ねてみよう (6) 地上デジタル放送とは (7) 近未来のテレビ放送 (8) 映像の記録メディア (9) 南極からのハイビジョン生中継 (10) 月からのハイビジョン映像 (11) これからの情報メディアについて考えてみよう (12) 考察その1 (13) 考察その2 (14) 考察その3 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	・情報メディアに関心を持ち各種メディアを観察しておくこと
	事後学習	・講義内容を自身の問題ととらえ考察すること
使用教材・参考文献	【参】「情報メディアの意義と活用」 (樹村房) 大串夏身編著	
成績評価方法と基準	<p><基準> 情報とメディアについて理解ができてない場合は不合格とする</p> <p><方法> 11回まで講義内容について小レポートを課し、12回以降は最終レポートを課します。(小レポート50%、最終レポート50%)</p>	
備考		

科目名	博物館概論	
担当者	徳永 和喜/ TOKUNAGA, Kazunobu	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員科目 / 必修 (平成23年度以前の入学生は「博物館学Ⅰ」へ読替)	
科目概要	授業内容	博物館とは何か。博物館の目的と機能、博物館に関する法規、学芸員の職務などを通して基礎的知識と課題を理解し、高度情報化社会に対応する新しい博物館のあり方を考える。
	到達目標	博物館の歴史や役割の変化を学び、博物館が学校教育・生涯学習に果たす役割を理解する。さらに、博物館が現代社会に果たす多様な役割と目的を認識する。
授業計画	(1) 博物館の基本属性 (館種、設置者、法区分) と特性 (所在地、展示資料) (2) 博物館の起源と歴史、関係法規 (3) 博物館の組織と運営 (4) 博物館の展示 (展示意図、展示場所、展示期間) (5) 博物館の目的 (博物館法、各種博物館とその特質) (6) 博物館の機能 (資料収集、保存展示、調査・研究、教育普及) (7) 学芸員の職務1 (収集・保管・調査・研究) (8) 学芸員の職務2 (常設展示事業と体験学習) (9) 学芸員の職務3 (特別展の実際－企画構想から展示会開催迄) (10) 学芸員の職務4 (特別展図録作成) (11) 博物館と学校教育・地域社会・生涯学習 (12) 博物館相互等の連携 (大学、研究機関、博物館－資料、研究、派遣) (13) 博物館の現状と課題 (コンプライアンス、危機管理、情報の保護・管理) (14) 博物館の収蔵資料情報 (資料台帳、データベース化) (15) 補足とまとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要：必要に応じて小テストを実施
使用教材・参考文献	【教】 適宜プリント配布。 【参】 『新しい博物館学』 芙蓉書房出版、『博物館概論』 放送大学教材。	
成績評価方法と基準	〈基準〉 博物館の意義や役割が理解できた者を合格とする。 〈方法〉 試験80%、授業準備・授業態度20%。	
備考		

科目名	博物館経営論	
担当者	塩満 郁夫 / SHIOMITSU, Ikuo	
科目情報	特別講座科目 / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員資格科目（平成23年度以前入学生「博物館情報・メディア論」と併せて修得すること。	
科目概要	授業内容	この授業では博物館の経営について取り上げる。博物館における経営と組織、施設・設備、利用者サービス、連携活動、経営の実際などについて解説する。
	到達目標	博物館における経営と組織、施設・設備、経営の実際、利用者サービスなどについて学び、学芸員としてふさわしい博物館の経営に関する知識の習得を目的とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 博物館経営の意義 (2) 博物館経営の方法 (3) 博物館経営とマーケティング (4) 博物館経営とその評価 (5) 博物館の行財政制度 (6) 博物館の運営組織 (7) 博物館施設と設備 (8) 博物館の管理体制 (9) 博物館と情報提供サービス (10) 博物館における学習支援 (11) 博物館と物販・飲食サービス (12) 博物館における連携活動 (13) 博物館経営の実際 (14) 博物館経営の問題点と展望 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「参考文献」等を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・数回小レポートを課す。
使用教材・参考文献	<p>【教】教科書は使用しない。講義中に配布するプリントを用いる。</p> <p>【参】全国大学博物館学講座協議会西日本部会『新しい博物館』芙蓉書房</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 博物館経営論に関する知識の概略が理解できたものを合格とする。</p> <p><評価> 受講態度20%、小レポート20%、修了試験60%</p>	
備考		

科目名	博物館資料論	
担当者	山下 廣幸 / YAMASHITA, Hiroyuki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員科目 / 必修 (平成23年度以前の入学生は「博物館学Ⅱ」へ読替)	
科目概要	授業内容	博物館資料の意義、資料収集の理念と方法及び資料化の手順等について学び、あわせて薩摩の美術・工芸資料を通して博物館資料の本質を理解する。
	到達目標	博物館の大きな使命の一つが資料を収集し、保管し、それらを未来へ伝達することであるが、収集した「モノ」を「博物館資料」に資料化する手順を理解し、収集した資料を展示に活用できるようにする。また、地元薩摩の美術・工芸資料についての基礎的な知識を習得することができる。
授業計画	(1) 博物館の仕事 (オリエンテーション) (2) 博物館における資料の意義 (3) 資料収集の理念と方法 (4) 資料化の手順 (5) 資料の分類・整理 (6) 資料の保存 (7) 資料の取扱いと輸送 (8) 資料の活用と展示 (9) 二次資料 (レプリカ) の製作と活用 (10) 博物館における調査・研究 (11) 薩摩の美術・工芸資料 薩摩焼① (12) " 薩摩焼② (13) " 薩摩刀① (14) " 薩摩刀② (15) " 薩摩画壇	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	毎回授業終了後、授業内容の理解度をみるためにショートレポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。 【参】全国大学博物館学講座協議会西日本支部編『新しい博物館学』、芙蓉書房出版、2008年 ISBN 978-4-8295-0416-1	
成績評価方法と基準	博物館資料の意義とその資料化の手順及び活用について理解できたら合格とします。 毎回授業後のショートレポート (30点) と終了試験 (70点) で評価します。	
備考		

科目名	博物館実習 I	
担当者	徳永 和喜 / TOKUNAGA, Kazunobu	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 実習 / 1単位 / 3年次	
	学芸員科目 / 必修	
科目概要	授業内容	博物館学芸員として修得すべき知識を実践的に体験することを目的とし、博物館実習以前に基礎的知識と実践能力を獲得すると共に、学芸員間に必要な協調と連携能力を身に付ける。
	到達目標	博物館の実務に必要な基礎知識や技術を修得し、即戦力を身に付ける。学芸員の業務全体を理解し、実践的・体験的に学ぶ。
授業計画	(1) 博物館実習の目的 (2) 展示環境の基礎知識 (3) 歴史資料を読む1－花押の歴史 (4) 歴史資料を読む2－古文書の書札礼（文書用語・様式の規則） (5) 資料の取扱い1－軸装・卷子（講義・実習） (6) 資料の取扱い2－拓本の取り方（実習） (7) 資料の取扱い3－文書、文書箱紐の結び方（実習） (8) 資料の取扱い4－漆工芸品・陶磁器 (9) 浮世絵・仏像の見方 (10) 仏像・陶磁器の見方 (11) 歴史資料の解読1－仮名文字を読む (12) 歴史資料の解読2－近世文書を読む (13) 見学実習 (14) 見学実習 (15) 補足と総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要：必要に応じて小テストを実施。
使用教材・参考文献	【教】 適宜プリント配布。 【参】 『博物館実習マニュアル』 芙蓉書房出版、『博物館実習』 樹林房	
成績評価方法と基準	〈基準〉 博物館の基礎的知識および技術を理解できた者を合格とする。 〈方法〉 講義・実習や博物館見学ノート評価80%、授業準備と態度20%	
備考		